昭和九年五月十五日印刷
昭和九年五月二十日發行
昭和十二年三月五日再版

國譯一切經 般若部 三

編輯兼發行者 岩野眞雄
東京市芝區芝公園地七號地十番

印刷者 長尾文雄
東京市芝區芝浦二丁目三番地

印刷所 日進舍
東京市芝區芝浦二丁目三番地

發行所 大東出版社
東京市芝區芝公園地七號地十番
振替東京一九四七一番
電話芝三九四四番

製本所 兩角製本所

二静慮に入り、第二静慮より起ちて不定心に住し、不定心より初静慮に入り、初静慮より起ちて不定心に住す。善現、是れを菩薩摩訶薩の集散三摩地と爲す。若し菩薩摩訶薩集散三摩地の中に安住せば一切法の平等實性を得ん。是の菩薩摩訶薩は是の如き静慮の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲さん。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住して静慮波羅蜜多を引攝すと爲すと。

て第二靜慮に入り、第二靜慮より起ちて初靜慮に入る。善現、是れを菩薩摩訶薩の師子頻申三摩地と爲す。善現當に知るべし。是の菩薩摩訶薩は師子頻申三摩地に於て善く成熟し已て復た能く菩薩摩訶薩の集散三摩地に入る。[三五]云何が名づけて菩薩摩訶薩の集散三摩地と爲すと。善現、若し菩薩摩訶薩欲惡不善の法を離れ有尋有伺離に喜樂を生じ初靜慮に入り具足して住し、初靜慮より起ちて第二靜慮に入り具足して住し、第二靜慮より起ちて第三靜慮に入り具足して住し、第三靜慮より起ちて第四靜慮に入り具足して住し、第四靜慮より起ちて空無邊處定に入り具足して住し、空無邊處定より起ちて識無邊處定に入り具足して住し、識無邊處定より起ちて無所有處定に入り具足して住し、無所有處定より起ちて非想非非想處定に入り具足して住し、非想非非想處定より起ちて滅想受定に入り具足して住し、滅想受定より起ちて初靜慮に入り、初靜慮より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて第二靜慮に入り、第二靜慮より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて第三靜慮に入り、第三靜慮より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて第四靜慮に入り、第四靜慮より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて空無邊處定に入り、空無邊處定より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて識無邊處定に入り、識無邊處定より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて無所有處定に入り、無所有處定より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて非想非非想處定に入り、非想非非想處定より起ちて滅想受定に入り、滅想受定より起ちて不定心に住し、不定心より滅想受定に入り、滅想受定より起ちて不定心に住し、不定心より非想非非想處定に入り、非想非非想處定より起ちて不定心に住し、不定心より無所有處定に入り、無所有處定より起ちて不定心に住し、不定心より識無邊處定に入り、識無邊處定より起ちて不定心に住し、不定心より空無邊處定に入り、空無邊處定より起ちて不定心に住し、不定心より第四靜慮に入り、第四靜慮より起ちて不定心に住し、不定心より第三靜慮に入り、第三靜慮より起ちて不定心に住し、不定心より第

【三五】集散三摩地を明す。

樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し苦ならず樂ならず捨念淸淨にして第四靜慮に入り具足して住する是れ第四次第定なり。一切の色想を超え有對想を超え種種想を思惟せず無邊空空無邊處定に入り具足して住する是れ第五次第定なり。一切の空無邊處を超え無邊識識無邊處定に入り具足して住する是れ第六次第定なり。一切の識無邊處定を超え無少所有無所有處定に入り具足して住する是れ第七次第定なり。一切の無所有處定を超え非想非非想處定に入り具足して住する是れ第八次第定なり。一切の非想非非想處定を超え滅想受定に入り具足して住する是れ第九次第定なり。是の菩薩摩訶薩は八解脫九次第定に於て善く成熟し已て復た能く菩薩摩訶薩の師子頻申三摩地に入る。是の如き九次第定に於て若しは順若しは逆に入出自在なり。善現當に知るべし、是の菩薩摩訶薩を名づけて菩薩摩訶薩の師子頻申三摩地と爲す。善現、若し菩薩摩訶薩欲惡不善の法を離れ有尋有伺離に喜樂を生じ初靜慮に入り具足して住し、尋伺寂靜にして內等淨心一趣性に住し無尋無伺定に喜樂を生じ第二靜慮に入り具足して住し、喜を離れ捨に住し念正知を具し身を領くるに樂を受け聖者中に於て能く說き能く捨し念樂住を具し第三靜慮に入り具足して住し、樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し苦ならず樂ならず、捨念淸淨にして第四靜慮に入り具足して住し、一切の色想を超え有對想を滅し種種想を思惟せず無邊空空無邊處定に入り具足して住し、一切の空無邊處定を超え無邊識識無邊處定に入り具足して住し、一切の識無邊處定を超え無少所有無所有處定に入り具足して住し、一切の無所有處定を超え非想非非想處定に入り具足して住し、一切の非想非非想處定を超え滅想受定に入り具足して住し、復た滅想受定より起ちて還て非想非非想處定に入り、非想非非想處定より起ちて無所有處定に入り、無所有處定より起ちて識無邊處定に入り、識無邊處定より起ちて空無邊處定に入り、空無邊處定より起ちて第四靜慮に入り、第四靜慮より起ちて第三靜慮に入り、第三靜慮より起ち

【二四】師子頻申三摩地を明す。師子の奮躍して自在なるが如く、智慧力の故に諸法に自在を得るなり。

摩訶薩は復た是の如き精進の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を以て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝すと爲すと。[一八]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住せば佛の三摩地を除き餘所の有ゆる諸の三摩地若しは聲聞の三摩地若しは獨覺の三摩地若しは菩薩の三摩地に於て皆能く自在隨意に入出す。是の菩薩摩訶薩は自在三摩地中に安住し[一九]八解脫に於て皆能く自在[二〇]順逆に入出す。云何が八と爲す。謂ゆる色有りて諸色を觀ずる是れ初解脫なり。內に色想無く外諸色を觀ずる是れ第二解脫なり。[二一]淨勝解身に證を作す是れ第三解脫なり。一切の色想を超えて有對想を滅し種種想を思惟せず無邊空空無邊處定に入り具足して住する是れ第四解脫なり。一切の空無邊處定を超え無邊識識無邊處定に入り具足して住する是れ第五解脫なり。一切の識無邊處定を超え無少所有無所有處定に入り具足して住する是れ第六解脫なり。一切の無所有處定を超え非想非非想處定に入り具足して住する是れ第七解脫なり。一切の非想非非想處定を超え[二二]滅想受定に入り具足して住する是れ第八解脫なり。是の菩薩摩訶薩は能く是の如き八解脫の中に於て若しは順若しは逆に入出自在なり。復た能く彼の[二三]九次第定に於て自在隨意に順逆に入出す。云何が九と爲す。謂ゆる欲惡不善の法を離れ有尋有伺離に喜樂を生じ初靜慮に入り具足して住する是れ初次第定なり。尋伺寂靜にして內等淨心一趣性に住し無尋無伺定に喜樂を生じ第二靜慮に入り具足して住する是れ第二次第定なり。喜を離れ捨に住し念正知を具し身を領くるに樂を受け聖者中に於て能く說き能く捨し念樂住を具し第三靜慮に入り具足して住する是れ第三次第定なり。

[一八] 般若に安住……靜慮を引攝。

[一九] 八解脫。八背捨なり、無漏智を起して三界の惑を斷じ、羅漢果を悟る八種の禪定なり。

[二〇] 順逆に入出す。一背捨を出でて二背捨に入り乃至滅受想定に入るは順、滅受想定を出でて非有想非無想定に入り初背捨に至るは逆なり。順逆出入するは定自在なり。

[二一] 淨勝解身に證を作す。內外情淨の色解脫を身に成就するなり。

[二二] 滅想受定。心心所都滅の定境なり。

[二三] 九次第定。智慧深き者の間雜なく次第を追うて修する九種の禪定なり。

若しは受殺者有ること無し。是の如き一切の性相皆空なり。中に於て妄想分別すべからずと。是の菩薩摩訶薩は初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て假使ひ一切有情の類皆來て毀謗訶責凌辱し、諸の刀杖瓦石塊等を以て害を加へ捶打割截斫刺し乃至身の諸の支節を分解するも菩薩爾の時心變異無く但だ是の念を作すのみ、甚だ恠しむ可き哉、諸の法性中には却て毀謗訶責凌辱加害等の事無し而かも諸の有情は妄想分別して爲れ實に有りと謂ひ種種の煩惱惡業を發起して現在當來に諸の苦惱を受くと。是の菩薩摩訶薩は復た是の如き安忍の善根を持て諸の有情と平等に共に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝すと爲すと。(一七)具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住せば勇猛精進して諸の有情の爲に正法を宣說して身心倦むこと無し。是の菩薩摩訶薩は四神足方便善巧に住し身心精進して常に懈息無く能く一世界或は十世界或は百世界或は千世界或は百千世界或は百千俱胝那庾多世界の諸の有情の所に往きて正法を宣說し(d)方便教導して布施波羅蜜多に住せしめ方便教導して淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に住せしめ、(d)內空(一)乃至無性自性空。(d)眞如(二)乃至不思議界。(d)苦聖諦(三)乃至道聖諦。(d)四靜慮(四)乃至四無色定。(d)八解脫(五)乃至十遍處。(d)四念住(六)乃至八聖道支。(d)空解脫門(七)乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力(八)乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智(九)乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果(一〇)乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。上に說く所の如き種種の功德に安住せしむと雖も而かも其れをして有爲或は無爲界に住著せしめず。是の菩薩

【一七】般若に安住……精進…引攝。

(d)「方便教導令住布施波羅蜜多方便教導令住淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の文中「六度」のある所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(d)にて略し以下諸法のみ略出す。

し、歡喜して欲邪行を離るる者を讃歎し、自ら虛誑語を離れ亦た他に虛誑語を離るるを勸め無倒に虛誑語を離るるを稱揚し、歡喜して虛誑語を離るる者も讃歎し、自ら麁惡語を離れ亦た他に麁惡語を離るるを勸め無倒に麁惡語を離るる法を稱揚し、歡喜して麁惡語を離るる者を讃歎し、自ら離間語を離れ亦た他に離間語を離るるを勸め無倒に離間語を離るる法を稱揚し、歡喜して離間語を離るる者を讃歎し、自ら雜穢語を離れ亦た他に雜穢語を離るるを勸め無倒に雜穢語を離るる法を稱揚し、歡喜して雜穢語を離るる者を讃歎し、自ら貪欲を離れ亦た他に貪欲を離るるを勸め無倒に貪欲を離るる法を稱揚し、歡喜して貪欲を離るる者を讃歎し、自ら瞋恚を離れ亦た他に瞋恚を離るるを勸め無倒に瞋恚を離るる法を稱揚し、歡喜して瞋恚を離るる者を讃歎し、自ら邪見を離れ亦た他に邪見を離るるを勸め無倒に邪見を離るる法を稱揚し、歡喜して邪見を離るる者を讃歎す。是の菩薩摩訶薩は此の淨戒所生の善根を持て欲界色無色界を求めず聲聞及び獨覺地を求めず、但だ是の如き淨戒の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲すのみ。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す、謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝すと爲すと。[一五] 具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住せば[一六]隨順忍を起さん。此の忍を得已て常に是の念を作す。一切法中一法も若しは起若しは盡、若しは生若しは滅、若しは老若しは病、若しは能罵者若しは受罵者、若しは能謗者、若しは受謗者、若しは能割者、若しは受割者、若しは能截者若しは受截者、若しは能刺者若しは受刺者、若しは能破者若しは受破者、若しは能縛者、若しは受縛者、若しは能打者、若しは受打者、若しは能惱者若しは受惱者、若しは能殺者

【一五】般若に安住……安忍を引攝。
【一六】隨順忍。柔順忍なり。法空を觀じて法愛尚存するを云ひ、これに二種あり、衆生不可得なるを衆生忍といひ、法不可得なるを法忍と云ふ。

く甚深般若波羅蜜多に安住し諸の有情に於ける所有る布施の若しは食若しは飲若しは乘若しは衣若しは諸の香華臥具舍宅燈燭床座若しは諸し金銀末尼眞珠末羅羯多螺貝璧玉珊瑚石藏辛青金剛吠瑠璃等の種種の珍寶若しは諸の醫藥塗香末香財産資具、諸の是の如き等を皆觀じて空と爲し、若しは能施若しは所施若しは施福是の如き一切も亦た觀じて空と爲す。是の時菩薩慳心著心畢竟起らず。所以は何ん、是の菩薩摩薩訶は深般若波羅蜜多を行し初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで是の如き分別一切起らざること諸の如來應正等覺の未だ甞て暫くも慳心著心を起さざるが如く、是の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、深般若波羅蜜多を行ずるに[一三]慳心著心皆永く起らず。善現當に知るべし、甚深般若波羅蜜多は是れ諸の菩薩摩訶薩の師能く菩薩摩訶薩衆をして一切の妄想分別を起らざらしむ。諸の菩薩摩訶薩の是の如き甚深般若波羅蜜多に安住して行ずる所の布施は皆染著無し。復た是の如き布施の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲さん。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝すと爲すと。[一四]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住せば聲聞獨覺等の心を起さず。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は諸の聲聞獨覺等の地を觀ずるに皆得可からず、聲聞獨覺等に廻向する心及び彼の身語も亦に得可からざればなり、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住し初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て自ら斷生命を離れ亦た他に斷生命を離るるを勸め無倒に斷生命を離るる法を稱揚し、歡喜して斷生命を離るる者を讃歎し、自ら不與取を離れ亦た他に不與取を離るるを勸め無倒に不與取を離るる法を稱揚し、歡喜して不與取を離るる者を讃歎し、自ら欲邪行を離れ亦た他に欲邪行を離るるを勸め無倒に欲邪行を離るる法を稱揚

【一三】慳心著心皆永く起らず。諸佛は惑習斷盡すれば貪著なく、菩薩は般若力を以ての故に制して慳著を起らざらしむるなり。

【一四】般若に安住……淨戒を引攝。

に空にして所有無しと。具壽善現卽ち佛に白して言さく、波何が菩薩摩訶薩は一切法を觀ずるに空にして所有無きやと。[三]佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住して內空性を觀ずるに內空性得可からず、外空性を觀ずるに外空性得可からず、內外空性を觀ずるに內外空性得可からず、空空性を觀ずるに空空性得可からず、大空性を觀ずるに大空性得可からず、勝義空性を觀ずるに勝義空性得可からず、有爲空性を觀ずるに有爲空性得可からず、無爲空性を觀ずるに無爲空性得可からず、畢竟空性を觀ずるに畢竟空性得可からず、無際空性を觀ずるに無際空性得可からず、散空性を觀ずるに散空性得可からず、無變異空性を觀ずるに無變異空性得可からず、本性空性を觀ずるに本性空性得可からず、自相空性を觀ずるに自相空性得可からず、共相空性を觀ずるに共相空性得可からず、一切法空性を觀ずるに一切法空性得可からず、不可得空性を觀ずるに不可得空性得可からず、無性空性を觀ずるに無性空性得可からず、自性空性を觀ずるに自性空性得可からず、無性自性空性を觀ずるに無性自性空性得可からず。是の菩薩摩訶薩は是の如き諸の空觀中に安住して(c)色の若しは空若しは不空を得ず受想行識の若しは空若しは不空を得ず。(c)眼處乃[は]至意處。(c)色處乃[に]至法處。(c)眼界乃[ほ]至意界。(c)色界乃[へ]至法界。(c)眼識界乃[と]至意識界。(c)眼觸乃[ち]至意觸。(c)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃[り]至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃[ぬ]至識界。(c)無明乃[る]至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃[を]至般若波羅蜜多。(c)內空乃[わ]至無性自性空。(c)眞如乃[か]至不思議界。(c)苦聖諦乃[よ]至道聖諦。(c)四靜慮乃[た]至四無色定。(c)八解脫乃[れ]至十遍處。(c)四念住乃[そ]至八聖道支。(c)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃[ね]至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃[な]至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃[ら]至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

有爲界の若しは空若しは不空を得ず無爲界の若は空若しは不空を得ず。是の菩薩摩訶薩は是の如

【三】佛一切法皆空不可得を說く。

(c)「不得色若空若不空不得受想行識若空若不空」右も(b)の場合の如くして以下略す。

一〇　具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何んが菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住せば(b)色を觀ずるに得可からず受想行識を觀ずるに得可からず。(b)眼處乃(い)至意處。(b)色處乃(ろ)至法處。(b)眼界乃(は)至意界。(b)色界乃(に)至法界。(b)眼識界乃(ほ)至意識界。(b)眼觸乃(へ)至意觸。(b)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃(と)至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃(ち)至識界。(b)無明乃(り)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(ぬ)至般若波羅蜜多。(b)内空乃(る)至無性自性空。(b)眞如乃(を)至不思議界。(b)苦聖諦乃(わ)至道聖諦。(b)四靜慮乃(か)至四無色定。(b)八解脱乃(よ)至十遍處。(b)四念住乃(た)至八聖道支。(b)空解脱門乃(れ)至無願解脱門。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(そ)至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(つ)至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃(ね)至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。有爲界を觀ずるに得可からず無爲界を觀ずるに得可からず。是の如く菩薩一切法を觀ずるに得可からざるが故に無作なり。無作なるが故に無生なり。無生なるが故に無滅なり。無滅なるが故に畢竟清淨常住にして無變なり。所以は何ん、一切法は如來出世し若しは出世せざるも法性に安住し法界に安住し法住に安住し法定に安住するを以て生無く滅無く恒に變易無ければなり。是の菩薩摩訶薩は心常に亂るる無く恒時に一切智智相應の作意に安住して如實に一切の法性都て所有無しと觀察す。復た是の如き妙慧の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲さん。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝すと爲すと。

一一　爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に安住せば一切法を觀ずる

【一〇】靜慮に安住……般若を引攝。(b)「觀色不可得觀受想行識不可得」右の内「色乃至識」の五蘊のある所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【一一】般若に他の五波羅蜜を引攝することを明す。

を隨念し、或は復た一月十月百月千月多く百千月の諸の宿住の事を隨念し、或は復た一年十年百年千年多く百千年の諸の宿住の事を隨念し、或は復た一劫十劫百劫千劫多く百千劫乃至無量無數百千倶胝那庾多劫の諸の宿住の事を隨念し、或は復た前際の所有る諸の宿住の事を隨念し、是の如き處時に是の如き名、是の如き姓、是の如き種類、是の如き食、是の如き久住、是の如き壽限、是の如き長壽、是の如き受樂、是の如き受苦有り、彼處より沒して此の間に來生し、此の間より沒して彼處に往生し、是の如き狀貌、是の如き言說の若しは略若しは廣若しは自若しは他諸の宿住の事皆隨念して知り、殊勝の[九]天眼智通を引發し明了清淨にして人天に過ぐる眼もて能く如實に十方世界の有情無情の種種の色像を見る、所謂普ねく諸の有情類の死時生時妙色麁色善趣惡趣若しは勝若しは劣諸の是の如き等の種種の色像を見る。此れに因て復た諸の有情類の業の力用に隨て生の差別を受くるを知る、是の如き有情は身惡行を成就し語惡行を成就し意惡行を成就し賢聖を毀謗する邪見の因緣により身壞命終して當に惡趣に墮し或は地獄に生じ或は傍生に生じ或は鬼界に生じ或は邊地下賤悖惡の有情類中に生じて諸の苦惱を受くべしと。是の如き有情は身妙行を成就し語妙行を成就し意妙行を成就し賢聖を稱讃する正見の因緣により身壞命終して當に善趣に昇り或は天上に生じ或は人中に生じて諸の快樂を受くべしと。是の如き有情の種種の業類により果の差別を受くるを皆如實に知る。菩薩は此の五妙神通に住して一佛國より一佛國に往き諸佛世尊に親近し供養して諸佛の甚深の法義を請問し無量微妙の善根を種植ゑ有情を成熟し佛土を嚴淨し種種の諸の菩薩行を勸修し、此の善根を持て聲聞獨覺等の地を求めず諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝すと爲すと。

【九】天眼智通。五神通の一、衆生の生死苦樂の相及び一切世間の種々の形色を見るに障礙なき神通力なり。

靜慮に入り具足して住し、樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し苦ならず樂ならず捨念清淨にして第四靜慮に入り具足して住す。菩薩は是の如く靜慮を修する時諸の靜慮及び靜慮支に於て皆相を取らず殊勝の[四]神境智通を發起して能く無邊の大神變事を作す。所謂十方世界を震動し、一を變じて多と爲し多を變じて一と爲し或は隱れ或は顯れ迅無速礙にして山崖牆壁も直に過ぐること空の如く陵虛を往來すること猶ほ飛鳥の如く地中に出沒すること水に出沒するが如く、水上に經行すること地を經行するが如く、身煙焰を出すこと高原の燎(や)くが如く、體、衆流を注ぐこと銷雪の嶺の如く、日月の神德の威勢も當り難く手を以て光明を捫摩(もんま)して隱蔽し乃至淨居して身を轉ずること自在なり。斯の如き神變其の數無邊にして殊勝の[五]天耳智通を發起して明了清淨なり、人天に過ぐる耳は能く如實に十方世界の情非情類の種種の音聲を聞かん、所謂遍ねく諸の地獄の聲傍生の聲鬼界の聲人の聲天の聲聲聞の聲獨覺の聲菩薩の聲諸佛の聲生死を訶毀する聲涅槃を讃歎する聲、有爲を棄背する聲菩提に趣向する聲、有漏を厭惡する聲、無漏を欣樂する聲、三寶を稱揚する聲、邪道を制伏する聲、論議決擇の聲、經典を諷誦する聲、斷惡の法を勸むる聲、善法を修せしむる聲、苦難を拔濟する聲を聞き、是の如き等聲の若しは大若しは小悉く聞きて礙り無く、能く如實に十方世界の他の有情類の[六]心心所法を知らん。所謂遍ねく他の有情類の若しは有貪心若しは離貪心若しは有瞋心若しは離瞋心若しは有癡心若しは離癡心若しは有愛心若しは離愛心若しは有取心若しは離取心若しは聚心若しは散心若しは小心若しは大心若しは擧心若しは下心若しは寂靜心若しは不寂靜心若しは[七]掉心若しは不掉心若しは定心若しは不定心若しは解脫心若しは不解脫心若しは有漏心若しは無漏心若しは修心若しは不修心若しは有上心若しは無上心を知り、是の如き等の心を皆如實に知り、殊勝の[八]宿住智通を發起して如實に十方世界の無量の有情の諸の宿住の事を念知せん。所謂若しは自若しは他の一心十心百心千心多く百千心の頃(あひだ)の諸の宿住の事を隨念し、或は復た一日十日百日千日多く百千日の諸の宿住の事

【四】神境智通。五神通の一、自由自在に境界を變現する不可思議なる神通力なり。

【五】天耳智通。五神通の一、色界諸天の有する耳根にして一切の音聲を聞き得る神通力なり。

【六】心心所法を知る。自由に他人の心中に思ふことを知る神通力、卽ち他心道の神力を云ふ。

【七】掉心。棹擧心なり。大煩惱地法の一にて、精神を浮き擧らせ靜止せざらしむる心作用なり。

【八】宿住智通。五神通の一、自他の過去世のことを明かに知る神通力なり。

初分相引攝品第六十之二

[一]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して安忍を修學せば色を觀ずること[二]聚沫の如く受を觀ずること浮泡の如く、想を觀ずること陽焔の如く行を觀ずること芭蕉の如く識を觀ずること幻事の如し。是の觀を作す時は五取蘊に於て不堅固想常に現在前し、復た是の念を作す、諸法は皆空にして我我所無し、色は是れ誰れの色ぞ、受は是れ誰れの受ぞ、想は是れ誰れの想ぞ、行は是れ誰れの行ぞ、識は是れ誰れの識ぞと。是の如く觀ずる時復た是の念を作す、諸法は皆空にして我我所を離る、誰れか能く割截し、誰れか割截を受け、誰れか能く毀罵し、誰れか毀罵を受け、誰れか復た中に於て瞋恨を發起せんと。菩薩は是の如く靜慮に依止し審諦に觀察して能く安忍を具す、復た是の如き安忍の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す、謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝すと爲すと。

[三]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住せば種種の勇猛精進を發起す。謂ゆる菩薩摩訶薩は欲惡不善の法を離れ有尋有伺離に喜樂を生じ初靜慮に入り具足して住し尋伺寂靜にして內等淨心一趣性に住し無尋無伺定に喜樂を生じ第二靜慮に入り具足して住し、喜を離れ捨に住し念正知を具し身を領くるに樂を受け聖者中に於て能く說き能く捨し念樂住を具し第三

【一】靜慮に安住……安忍を引攝。

【二】聚沫の如く等、五蘊いづれも不堅固なるを喩ふるなり。

【三】靜慮に安住……精進を引攝。

て住し、諸色の中に於て厭麁想を起し作意空無邊處定に入り具足して住し、諸識の中に於て寂靜想を起し作意識無邊處定に入り具足して住し、無所有の中に於て寂靜想を起し作意無所有處定に入り具足して住し、非有想非無想の中に於て寂靜想を起し作意非想非非想處定に入り具足して住し、滅想受定に於て止息想を起し作意滅想受定に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は是の如く說く所の靜慮波羅蜜多に安住し無亂心を以て諸の有情に於て財法の施を行じ、常に自ら財法の施を行じ亦た常に他に財法の施を行ずるを勸め、常に無倒に財法の施を行ずる法を稱揚し、常に歡喜して財法の施を行ずる者を讃歎す。是の菩薩摩訶薩は此の善根を持て聲聞獨覺等の地を求めず、但だ是の如き布施の善根を持て諸の有情と正等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲すのみ。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず、善現、是れを菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝すと爲すと。[四二] 具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して淨戒を受持して常に貪俱心・瞋俱行心・癡俱行心を發起せず、常に害俱行心・慳俱行心・嫉俱行心を發起せず、常に樂ふて毀淨戒俱行の心を發起せず、但だ常に一切智智相應の作意を發起し、復た是の如き功德善根を持て聲聞獨覺等の地を求めず諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れが廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝すと爲すと。

【四二】靜慮に安住……淨戒を引攝。

羅尼門、一切三摩地門。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。(a)預流果乃至阿羅漢果及び獨覺菩提。(a)色乃至識。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。若し菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住せば是の菩薩摩訶薩は能く有色無色法に於て名を見ず事を見ず、性を見ず相を見ず能く有見無見法・有對無對法・有漏無漏法・有爲無爲法に於ても亦た名を見ず事を見ず性を見ず相を見ず。是の如き菩薩摩訶薩は一切法に於て若しは名若しは事若しは性若しは相都て見る所無く、諸法の中に於て想念を起さず執著する所無く、說の如く能く作し、復た是の如き妙慧の善根を以て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝すと爲すと。

[四〇]爾の時、[四一]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は靜慮波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく。善現。若し菩薩摩訶薩靜慮波羅蜜多に安住して諸の有情に於て財法の施を行ずるに是の菩薩摩訶薩は欲惡不善の法を離れ有尋有伺離に喜樂を生じ、初靜慮に入り具足して住し、尋伺寂靜にして內等淨心一趣性に住し無尋無伺定に喜樂を生じ、第二靜慮に入り具足して住し、喜を離れ捨に住し念正知を具し身を領くるに樂を受け聖者中に於て能く說き能く捨し念樂住を具し第三靜慮に入り具足して住し、樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒して苦ならず樂ならず捨念清淨にして第四靜慮に入り具足して住し、諸の有情に於て與樂想を起し作意慈無量に入り具足して住し、諸の有情に於て拔苦想を起し作意悲無量に入り具足して住し、諸の有情に於て慶喜想を起し作意喜無量に入り具足して住し、諸の有情に於て離苦樂平等想を起し作意捨無量に入り具足し

【四〇】靜慮に五波羅蜜を引攝するを明す。
【四一】靜慮に安住……布施を引攝。

諸の有情に於て拔苦想を起し作意悲無量に入り具足して住し、諸の有情に於て慶喜想を起し作意喜無量に入り具足して住し、諸の有情に於て離苦樂平等想を起し作意捨無量に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は諸色の中に於て厭麁想を起し作意空無邊處定に入り具足して住し、諸識の中に於て寂靜想を起し作意識無邊處定に入り具足して住し、無所有の中に於て寂靜想を起し作意無所有處定に入り具足して住し、非有想非無想の中に於て寂靜想を起し作意非想非非想處定に入り具足して住し滅想受定に於て止息想を起し作意滅想受定に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は是の如き靜慮無量無色滅定を修すと雖も而かも彼の[三七]異熟果を攝取せず。但だ有情の化を受く可きに應じ利樂を作す處に隨て而かも中に於て生ずるのみ。既に生ぜば彼れ[三八]四攝事を用て之を攝取し方便安立して布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に於て精勤修學せしむ。是の菩薩摩訶薩は諸の靜慮に依りて勝神通を起し一佛國より一佛國に至りて諸佛世尊に親近し供養し甚深の諸法の性相を請問し、精勤して殊勝の善根を引發す。是の菩薩摩訶薩は是の如き種種の善根を合集して諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向して三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝すと爲すと。[三九]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は精進波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、(a)若し菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住せば是の菩薩摩訶薩は能く布施波羅蜜多に於て名を見ず事を見ず性を見ず相を見ず、能く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に於ても亦た名を見ず事を見ず性を見ず相を見ず。(a)四念住(を)乃至八聖道支。(a)內空(わ)乃至無性自性空。(a)眞如(か)乃至不思議界。(a)苦聖諦(よ)乃至道聖諦。(a)四靜慮(た)乃至四無色定。(a)八解脫(れ)乃至十遍處。(a)空解脫門(そ)乃至無願解脫門、(つ)五眼六神通。(a)佛の十力(ね)乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智(な)乃至一切相智。(a)一切陀

【三七】異熟果。異熟とは因と果とその性を異にして成熟するをいふ。善因善果、惡因惡果に非ずして善若くは惡の業因が諸種の所緣に依りて非善非惡の無記性の結果を得ることあり、此の果を異熟果と云ふ。

【三八】四攝事。四攝法なり。菩薩が衆生救濟に際して先づ衆生を攝招する四種の行法、即ち布施攝、愛悟攝、利行攝、同事攝なり。

【三九】精進に安住……般若を引攝。(a)「若菩薩摩訶薩安住精進波羅蜜多是菩薩摩訶薩能於布施波羅蜜多不見名不見事不見性不見相能於淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多亦不見名不見事不見性不見相」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度のある所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり依に之を符號(a)にて略し以下只だ諸法を略出するのみとす。

心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝すと爲すと。[三五]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は精進波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住せば初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て人非人等競ひ來りて惱觸し或は復た支節を斫刺し斷割して隨意に持ち去るも菩薩爾の時是の念を作さず、誰れか我れを斫刺し誰れか我れを斷割し誰れか復た持ち去るやと。但だ是の念を作すのみ、我れ今廣大の善利を獲得せり、彼の諸の有情は我れを益せんが爲の故に來りて我が身分支節を斷割せり。然かも我れ本諸の有情の爲の故に而かも此の身を受く。彼れ來りて自ら已れの所有を取りて而かも我が事を成ずと。菩薩は是の如く審諦に諸法の實相を思惟して安忍を修す。此の安忍の殊勝の善根を持て聲聞獨覺等の地を求めず但だ是の如き安忍の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲すのみ。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝すと爲すと。

[三六]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は精進波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住して諸定を修習せば是の菩薩摩訶薩は欲惡不善法を離れ有尋有伺離に喜樂を生じ、初靜慮に入り具足して住す。尋伺寂靜にして內等淨心一趣性に住し無尋無伺定に喜樂を生じ、第二靜慮に入り具足して住す、喜を離れ捨に住し念正知を具し身を領くるに樂を受け、聖者中に於て能く說き能く捨し念樂住を具し第三靜慮に入り具足して住す。樂を斷じ苦を斷じ先の喜憂沒し苦ならず樂ならず捨念淸淨にして第四靜慮に入り具足して住す。是の菩薩摩訶薩は諸の有情に於て與樂想を起し作意慈無量に入り具足して住し、

【三五】精進に安住……安忍を引攝。

【三六】精進に安住……靜慮を引攝。

に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れが廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝すと爲すと。[三三]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩は精進波羅蜜多に安住せば初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで自ら[三四]害生命を離れ亦た他に害生命を離るるを勸め、無倒に害生命を離るる法を稱揚し歡喜して害生命を離るる者を讃歎し、自ら不與取を離れ亦た他に不與取を離るるを勸め無倒に不與取を離るる法を稱揚し、歡喜して不與取を離るる者を讃歎し、自ら欲邪行を離れ亦た他に欲邪行を離るるを勸め無倒に欲邪行を離るる法を稱揚し、歡喜して欲邪行を離るる者を讃歎し、自ら虛誑語を離れ、亦た他に虛誑語を離るるを勸め、無倒に虛誑語を離るる法を稱揚し、歡喜して虛誑語を離るる者を讃歎し、自ら麁惡語を離れ亦た他に麁惡語を離るるを勸め無倒に麁惡語を離るる法を稱揚し、歡喜して麁惡語を離るる者を讃歎し、自ら離間語を離れ亦た他に離間語を離るるを勸め無倒に離間語を離るる法を稱揚し歡喜して離間語を離るる者を讃歎し、自ら雜穢語を離れ亦た他に雜穢語を離るるを勸め無倒に雜穢語を離るる者を稱揚し、歡喜して雜穢語を離るる者を讃歎し、自ら貪欲を離れ亦た他に貪欲を離るるを勸め無倒に貪欲を離るる法を稱揚し、歡喜して貪欲を離るる者を讃歎し、自ら瞋恚を離れ亦た他をして瞋恚を離るるを勸め無倒に瞋恚を離るる法を稱揚し、歡喜して瞋恚を離るる者を讃歎し、自ら邪見を離れ亦た他に邪見を離るるを勸め無倒に邪見を離るる法を稱揚し、歡喜して邪見を離るる者を讃歎す。是の菩薩摩訶薩は此の淨戒波羅蜜多を持て欲界を求めず色界を求めず無色界を求めず聲聞地を求めず獨覺地を求めず、但だ是の如き淨戒の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲すのみ。是の如く大菩提に廻向する時三

【三三】精進に安住……淨戒を引攝。

【三四】害生命を離れ等。「害生命を離れ」以下「邪見を離るゝ者を讃歎す」までを所謂四十種善道となす。

し安樂す。復た是の如き妙慧の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する者有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝すと爲す。是の如き引攝は取に非ず捨に非ざるなりと。

〔三二〕爾の時〔三三〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は精進波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩精進波羅蜜多に安住せば身心精進して常に懈息無く諸の善法を求めて曾て厭倦無く恒に是の念を作す、我れ必ず應に求むる所の無上正等菩提を得べし、得ざるべからずと。是の菩薩摩訶薩は常に求めて一切有情を利樂し恒に是の念を作す、若し一有情一踰繕那の外、或は十踰繕那の外、或は百踰繕那の外、或は千踰繕那の外、或は百千踰繕那の外、或は一俱胝踰繕那の外、或は十俱胝踰繕那の外、或は百俱胝踰繕那の外、或は千俱胝踰繕那の外、或は百千俱胝踰繕那の外、或は一那庾多踰繕那の外、或は十那庾多踰繕那の外、或は百那庾多踰繕那の外、或は千那庾多踰繕那の外、或は百千那庾多踰繕那の外、或は一世界の外、或は十世界の外、或は百世界の外、或は千世界の外、或は百千世界の外、或は一俱胝世界の外、或は十俱胝世界の外、或は百俱胝世界の外、或は千俱胝世界の外、或は百千胝世界の外、或は一那庾多世界の外、或は十那庾多世界の外、或は百那庾多世界の外、或は千那庾多世界の外、或は百千那多世界の外、或は百千俱胝庾多世界の外に在らんも度す可き者に應じて我れ必ず當に往きて方便し敎化して若し菩薩乘の補特伽羅ならば無上正等菩提に住せしめ、若し聲聞乘の補特伽羅ならば預流一來不還阿羅漢果に住せしめ、若し獨覺乘の補特伽羅ならば其れをして獨覺菩提に安住せしめ、若し餘の有情ならば其れをして十善業道に安住せしめ、是の如く皆法施財施を以て之を充足し方便して引攝すべし。復た是の如き布施の善根を持て聲聞獨覺等の地を求めず、唯だ一切有情と平等に共

〔三二〕次に精進に他の五波羅蜜を引攝するを明す。
〔三三〕精進に安住……布施を引攝。

者に應じ我れ必ず當に往きて方便教化し其れをして或は一學處或は二或は三乃至具戒を受持せしむべし、況んや教へて或は預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を得せしめんをや。或は諸佛の無上正等菩提に安住せしむるすら尙ほ懈惓無し、況んや無量無邊の有情に教へて皆世出世間の利益安樂を獲得せしめんをや。復た是の如き精進の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向すること有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝すと爲すと。[二八]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は安忍波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住せば心を攝して亂るる無く欲惡不善の法を離れ[二九]有尋有伺雜に喜樂を生じ初靜慮に入り具足して住す。是の如く或は第二第三第四靜慮に入り具足して住し、或は空無邊處定に入り具足して住し、或は識無邊處無所有處非想非非想處定に入り具足して住し、或は滅定に入り具足して住し、是の諸定中生ずる所に隨て心心所法を起し及び引く所の善一切合集して諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず、諸の靜慮及び靜慮支に於て倶に所得無し。善現、是れを菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝すと爲すと。[三〇]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は安忍波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を修行せば菩薩爾の時遠離行相を以て或は寂靜行相を以て或は無盡行相を以て或は永滅行相を以て一切法を觀ずと雖も而かも法性に於て能く[三一]證を作さず乃至能く妙菩提の座に坐して無上正等菩提を證得し、此の座より起ちて正法輪を轉じ諸の有情類を利益

【二八】　安忍に安住……靜慮を引攝。

【二九】　有尋有伺雜に喜樂を生じ。欲界を離れ色界に生ずるに依りて調柔の定樂を得るを云ふ。

【三〇】　安忍に安住……般若を引攝。

【三〇】　證を作さず。空寂滅に安住して解脫をなさざるなり。

遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝すと爲すと。[二六]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は安忍波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住せば初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て乃至自命を救ふ因緣の爲に諸の有情に於て終に命を斷じ支節を損害せず、亦た常に彼れに於て不與取を離れ欲邪行を離れ虛誑語を離れ麁惡語を離れ離間語を離れ雜穢語を離れ貪欲を離れ瞋恚を離れ邪見を離る。菩薩是の如く淨戒を修する時聲聞獨覺等の地を求めず此の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時三心を遠離す。謂ゆる誰れか廻向し何を用て廻向し何處に廻向するやと。是の如き三心皆永く起らず。善現、是れを菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝すと爲すと。[二七]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は安忍波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住せば勇猛を發起し精進を增上して恒に是の念を作す、若し一有情一踰繕那の外、或は十踰繕那の外、或は百踰繕那の外、或は千踰繕那の外、或は百千踰繕那の外、或は一俱胝踰繕那の外、或は十俱胝踰繕那の外、或は百俱胝踰繕那の外、或は千俱胝踰繕那の外、或は百千俱胝踰繕那の外、或は一那庾多踰繕那の外、或は十那庾多踰繕那の外、或は百那庾多踰繕那の外、或は千那庾多踰繕那の外、或は百千那庾多踰繕那の外、或は百千俱胝那庾多踰繕那の外、或は一世界の外、或は十世界の外、或は百世界の外、或は千世界の外、或は百千世界の外、或は一俱胝世界の外、或は十俱胝世界の外、或は百俱胝世界の外、或は千俱胝世界の外、或は百千俱胝世界の外、或は一那庾多世界の外、或は十那庾多世界の外、或は千那庾多世界の外、或は百千那庾多世界の外、或は百千俱胝那庾多世界の外に在らんも度す可き

【二六】安忍に安住……淨戒を引攝。

【二七】安忍に安住……精進を引攝。

せば法の若しは善若しは不善若しは無記有るを見ず、法の若しは有漏若しは無漏有るを見ず、法の若しは墮世間若しは出世間有るを見ず、法の若しは有爲若し無爲有るを見ず、法の若しは墮有數若しは墮無數有るを見ず、法の若しは墮有相若しは墮無相有るを見ず亦た法の若しは有若しは無を見ず、唯だ諸法は眞如法界を離れずして轉ずと觀ずるのみ。此の般若波羅蜜多方便善巧に由りて聲聞獨覺等の地に墮ちず專ら無上正等菩提を求む。善現、是れを菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝すと爲すと。[二一]爾の時[二二]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は安忍波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩安忍波羅蜜多に安住せば初發心より乃至妙菩提の座に安坐するまで其の中間に於て設ひ種種の有情有り非理にして毀罵し輕蔑し凌辱し乃至分分に支節を斷割せんも菩薩爾の時都て瞋忿無く但だ是の念を作すのみ、此の諸の有情は深く憐愍す可し、煩惱の毒に身心を擾亂せられて自在を得ず、依無く護無く貧苦に逼らる。我れ當に彼れに、意に隨て、須つ所を施すべし、中に於て悋惜する所有るべからずと。恒に是の念を作して、一切有情の食を須つには食を施し飮を須つには飮を施し、乘を須つには乘を施し衣を須つには衣を施し、香華を須つには香華を施し臥具を須つには臥具を施し、舍宅を須つには舍宅を施し、燈燭を須つには燈燭を施し金を須つには金を施し銀を須つには銀を施し、末尼を須つには末尼を施し眞珠を須つには眞珠を施し、吠瑠璃を須つには吠瑠璃を施し[二三]末羅羯多を須つには末羅羯多を施し、螺貝を須つには螺貝を施し璧玉を須つには璧玉を施し、珊瑚を須つには珊瑚を施し石藏を須つには石藏を施し、金剛を須つには金剛を施し、[二四]帝青を須つには帝青を施し餘の寶を須つには餘の寶を施し、醫藥を須つには醫藥を施し財穀を須つには財穀を施し、資具を須つには資具を施し其の須つ所に隨ひて悉く皆施與し、復た是の如き布施の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有りて、無所得を以て方便と爲す。是の如く大菩提に廻向する時[二五]三心を

【二一】次に安忍に他の五波羅蜜を引攝するを明す。

【二二】安忍に安住……布施を引攝。

【二三】末羅羯多(Mārakata)。綠色寶と譯す。

【二四】帝青。寶珠の名。

【二五】三心。無人、無法、無廻向處なり。

りて聲聞獨覺等の地を求めず。善現、是れを菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住して布施波羅蜜多を引攝すと爲すと。[一四]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は淨戒波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住し設ひ諸の有情競ひ來つて菩薩の[一五]支節を分解し各取りて持ち去らんに菩薩彼れに於て一念瞋恨の心を生ぜず、但だ是の念を作すのみ、我れ今廣大の善利を獲得せり、謂ゆる諸の有情我が支節を斷じ隨意に持ち去れり。我れ彼れに因るが故に安忍波羅蜜多を具足せり。今我が[一六]此の身は不淨危脆なり、此れを捨つるに由るが故に如來清淨堅固金剛の身を獲得せりと。善現、是れを菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝すと爲すと。[一七]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は淨戒波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住し[一八]身心精進して常に懈息無く大慈の鎧を擐て是の念言を作さく、一切の有情は畏る可き暴惡出で難き生死の大海に沈淪せり、我れ當に拔きて安隱甘露涅槃界の中に置くべしと。善現、是れを菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝すと爲すと。[一九]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は淨戒波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住して初靜慮に入り或は第二第三第四靜慮に入り或は空無邊處に入り或は識無邊處無所有處非想非非想處に入り或は滅定に入ると雖も而かも聲聞獨覺等の地に墮ちず亦た實際を證せず本願力の任持する所に由るが故に、是の念言を作さく、諸の有情類は畏る可き暴惡出で難き生死の大海に沒在せり、我れ今清淨の靜慮波羅蜜多に遊履し方便して拔濟し常樂涅槃界の中に安置せんと。善現、是れを菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝すと爲すと。[二〇]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は淨戒波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩淨戒波羅蜜多に安住

【一四】淨戒に安住……安忍を引攝。

【一五】支節を分解し。肉體を割截するなり。

【一六】此の身。有我不淨の物的內圍なり。

【一七】淨戒に安住……精進を引攝。

【一八】身心精進し。身精進とは財物努力を供して厭はざるを云ひ、心精進は慳貪等の惡心に妨げられざるを云ふなり。

【一九】淨戒に安住……靜慮を引攝。

【二〇】淨戒に安住……般若を引攝。

蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩無攝受慳悋の心を以て布施を修する時是の布施を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向すること有らば菩薩爾の時心散亂無く終に諸の妙欲境を廻求せず亦た有色有及び無色有を欲するを廻求せず亦た聲聞獨覺所住の地を廻求せず但だ有情と平等に共に無上正等菩提を廻求する有るのみ。是の如きの心流注して散ぜざるなり。善現、是れを菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住して靜慮波羅蜜多を引攝すと爲すと。[八]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩無攝受無慳悋の心を以て布施を修する時是の布施を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有らば菩薩爾の時諸の受者施者施物を觀すること皆[九]幻事の如く此の施諸の有情に於て益有り損有るを見ず勝義空の故に。善現、是れを菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住して般若波羅蜜多を引攝すと爲すと。[一〇]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は[一一]浄戒波羅蜜多に安住して布施婆羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩浄戒波羅蜜多に安住して[一二]身律儀を具し語律儀を具し意律儀を具して諸の福業を造らん。律儀を具して福業を造るに由るが故に[一三]斷生命を離れ不與取を離れ欲邪行を離れ虛誑語を離れ麁惡語を離れ離間語を離れ雜穢語を離れ貪欲を離れ瞋恚を離れ邪見を離る。菩薩是の如く浄戒波羅蜜多に安住して聲聞獨覺等の地を離れず唯だ無上正等菩提のみを求めば、是の如き菩薩は浄戒波羅蜜多に安住し廣く惠施を行じ、諸の有情に隨て食を須つには食を與へ飲を須つには飲を與へ乘を須つには乘を與へ衣を須つには衣を與へ香を須つには香を與へ鬘を須つには鬘を與へ瓔珞を須つには瓔珞を與へ塗香を須つには塗香を與へ臥具を須つには臥具を與へ房舍を須つには房舍を與へ燈燭を須つには燈燭を與へ珍財を須つには珍財を與へ盜具を須つには盜具を與へ諸の須つ所に隨て悉く皆施無し、復た是の如き布施の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有

【八】 布施に安住……般若を引攝。

【九】 幻事の如く。布施も有爲なれば虛誑不堅固にして幻事の如しとなすなり。

【一〇】 次に浄戒に他の五波羅蜜を引攝するを說く。

【一一】 浄戒に安住……布施を引攝。

【一二】 身律儀等。三業の律儀戒なり、身に歡喜奉行し殺盜邪なく、口にうそ、惡る口、二枚舌、きたない語なく、心に貪瞋邪見なきなり。

【一三】 斷生命を離れ等。斷生命乃至邪見を離るとは菩薩の二種持戒の一たる十善道戒なり。他の一つは二乘を取らざるを云ふなり。

初分相引攝品第六十之一

[一]爾の[二]時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩無攝受無慳悋の心を以て布施を修する時是の布施を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向すること有らば諸の有情に於て[三]慈身業に住し慈語業に住し慈意業に住す。善現、是れを菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住して淨戒波羅蜜多を引攝すと爲すと。[四]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩無攝受無慳悋の心を以て布施を修する時是の布施を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有らば設ひ受者の非理なる有りて毀罵し加害し凌辱するも菩薩彼れに於て變異瞋毒害心を起さず唯だ[五]怜愍慈悲の心を生ずるのみ。善現、是れを菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住して安忍波羅蜜多を引攝すと爲すと。[六]具壽善現復た佛に白して言さく　世尊、云何が菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩無攝受無慳悋の心を以て布施を修する時是の布施を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向すること有らば設ひ受者の非理なる有りて毀罵し加害し凌辱するも爾の時菩薩便ち是の念を作す。諸の是の如き類業を造作する有らば還て自ら是の如き類果を感得せん。我れ今彼の所作を計して自業を廢修すべからずと。復た是の念を作す、我れ應に彼れ及び餘の有情に於て倍す更らに捨心施心を増長して顧惜する所無かるべしと。是の念を作し已て身心の精進を發起し増上して惠捨息まず。善現、是れを菩薩摩訶薩布施波羅蜜多に安住して精進波羅蜜多を引攝すと爲す。[七]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は布施波羅

【一】菩薩一波羅蜜を行ずれば五波羅蜜を引攝することを明す。最初に布施に他の五波羅蜜を引攝するを説く。
【二】布施に安住……淨戒を引攝。
【三】慈。善の利益衆生業を云ふ。
【四】布施に安住……安忍を引攝。
【五】怜愍。異本憐愍に作る、同じ。
【六】布施に安住……精進を引攝。
【七】布施の安住……靜慮を引攝。

薩摩訶薩能く正しく甚深般若波羅蜜多を修行せば便ち能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を具足し修滿するやと。[九]佛、善現に告げたまはく、(c)若し菩薩摩訶薩無倒に甚深般若波羅蜜多を修行する時は一切智智の心を以て布施を修するなり。復た是の如き布施の功德を持て一切有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有り。善現、是れを菩薩摩訶薩能く正しく甚深般若波羅蜜多を修行して便ち能く布施波羅蜜多を具足し修滿すと爲す。

(c)淨戒波羅蜜多。(c)安忍波羅蜜多。(c)精進波羅蜜多。(c)靜慮波羅蜜多。(c)般若波羅蜜多。

是の如く善現、諸の菩薩摩訶薩能く正しく甚深般若波羅蜜多を修行せば便ち能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を具足し修滿す。

【九】 信慧平等具足するが故に六度を具するを明す。

(c)「若菩薩摩訶薩無倒修行甚深般若波羅蜜多時以一切智智心而修布施復持如是布施功德……………便能具足修滿布施波羅蜜多」

右の文中「布施」及び「布施波羅蜜多」とある所に夫々六度を入るれば他は皆同文なり故に之を符號(c)にて略し以下その六度のみ出す。

門。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

[七]善現當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩は一切法に於て都て無所得を而かも方便と爲して應に是の如き甚深般若波羅蜜多を行ずべし。善現、若し時として菩薩摩訶薩一切法に於て無所得を以て方便と爲し是の如き甚深般若波羅蜜多を修行せば是の時惡魔大憂惱を生ずること毒箭に中れるが如し。譬へば人有りて新に父母を喪ひ深く痛切を生ずるが如し。惡魔爾の時諸の菩薩摩訶薩の一切法に於て無所得を以て方便と爲し是の如き甚深般若波羅蜜多を修行せるを見大憂惱を生ずること毒箭に中れるが如きことも亦復た是の如しと。爾の時具壽善現、佛に白して言さく世尊、一惡魔のみ諸の菩薩摩訶薩の一切法に於て無所得を以て方便と爲し深般若波羅蜜多を行ずるを見て大愁惱を生ずること毒箭に中れるが如しと爲すや、遍ねく三千大千世界の一切の惡魔も諸の菩薩摩訶薩の一切法に於て無所得を以て方便と爲し深般若波羅蜜多を行ずるを見ば大愁惱を生ずること毒箭に中れるが如しと爲すやと。佛言はく、善現、遍ねく三千大千世界に滿てる一切の惡魔も諸の菩薩摩訶薩の一切法に於て無所得を以て方便と爲し深般若波羅蜜多を行ずるを見ば大愁惱を生ずること毒箭に中れるが如く各其の座に於て自ら安んずること能はず。善現當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩は應に常に甚深般若波羅蜜多最勝の行住に安住すべし。若し菩薩摩訶薩常に能く甚深般若波羅蜜多最勝の行住に安住せば世間の天人阿素洛等其の短を伺求するも能く便りを得ること無し。亦復た憂惱を生ぜしむること能はず。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば當に勤めて甚深般若波羅蜜多最勝の行住に安住すべし。

[八]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩能く正しく甚深般若波羅蜜多最勝の行住に安住せば則ち能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修滿す。若し菩薩摩訶薩能く正しく甚深般若波羅蜜多を修行せば便ち能く一切の波羅蜜多を具足し修滿すと。爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩

し以下その諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」の三は「雖行」又は「所行」とある所を「雖住」又は「所住」とし「四靜慮」より「無上正等菩提」までは「雖修」「所修」とするものとず。

【七】菩薩無所得の般若を行ずる時惡魔大憂惱を生ずるを明す。

【八】甚深般若を行ずる菩薩能く六波羅蜜多を具足修滿するを明す。

ぜんと欲せば應當に是の如く緣起を觀察して般若波羅蜜多を行ずべしと。善現當に知るべし。(a)若し時として菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ぜば是の時菩薩摩訶薩は色の若しは常若しは無常若しは樂若しは苦若しは我若しは無我若しは淨若しは不淨若しは寂靜若しは不寂靜若しは遠離若しは不遠離を見ず亦た受想行識の若しは常若しは無常若しは樂若しは苦若しは我若しは無我若しは淨若しは不淨若しは寂靜若しは不寂靜若しは遠離若しは不遠離を見ず(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、(b)若し時として菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ぜば是の時菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を行ずと雖も而かも所行の般若波羅蜜多有るを見ず亦復た法の能く所行の般若波羅蜜多を見る有るを見ず、若し時として菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ぜば是の時菩薩摩訶薩靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を行ずと雖も而かも所行の靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多有るを見ず亦復た法の能く所行の靜慮乃至布施波羅蜜多を見る有るを見ず。

(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。一切陀羅尼門・一切三摩地

(a)「若時菩薩摩訶薩佛深般若波羅蜜多是時菩薩摩訶薩不見色若常……亦不見受想行識……若遠離若不遠離」

右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す。

(b)「若時菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多是時菩薩摩訶薩雖行般若波羅蜜多而不見所行般若波羅蜜多亦不見有法能見所行般若波羅蜜多……雖行靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多……亦復不見有法能見所行靜慮乃至布施波羅蜜多」

右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」のある所に全部次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略

の如く善現、菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を引くべし。善現當に知るべし。諸の菩薩摩訶薩は是の如く三十二緣起を觀察して[二]二邊を遠離す。是れ諸菩薩[三]不共の妙觀なりと。善現當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩は菩提座に處して如實に十二緣起を觀察すること猶ほ虛空の盡くす可からざるが如くなるが故に速に能く一切智智を證得すと善現當に知るべし。若し菩薩摩訶薩虛空の無盡なるが如き行相を以て、深般若波羅蜜多を行じ如實に十二緣起を觀察せば聲聞及び獨覺地に墮ちずして當に無上正等菩提に住すべし。善現、諸の菩薩乘に住する補特伽羅有りて若し無上正等菩提に於て退轉する者有らば皆悉く般若波羅蜜多を引發する善巧の作意に依らず、彼れ云何が菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行して能く虛空の無盡なるが如き行相を以て如實に十二緣起を觀察し般若波羅蜜多を引發するかを了せざるに由るなり。善現當に知るべし、諸の菩薩乘に安住する者有りて若し無上正等菩提に於て退轉する有らば皆般若波羅蜜多を引發す善巧方便を遠離するに由ると。善現當に知るべし、若し菩薩摩訶薩の能く無上正等菩提に於て退轉せざる者は皆甚深般若波羅蜜多を引發する善巧方便に依る。是の菩薩摩訶薩は是の如き善巧方便に依りて般若波羅蜜多を修行し、虛空の無盡なるが如き行相を以て如實に十二緣起を觀察して般若波羅蜜多を引發するに由る。是の菩薩摩訶薩は是の如き善巧方便に依りて般若波羅蜜多を修行し虛空無盡なるが如き行相を以て如實に甚深般若波羅蜜多を觀察するに由る。此れに由りて甚深般若波羅蜜多を引發するなりと。

　復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く緣起法を觀察する時[四]法の因無くして生ずる有るを見ず、法の因無くして滅する有るを見ず、[五]法の常住にして滅せざる有るを見ず、[六]法の有我有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者使作者起者使起者受者使受者知者使知者見者使見者有るを見ず、法の若しは常若しは無常若しは樂若しは苦若しは我若しは無我若しは淨若しは不淨若しは寂靜若しは不寂靜若しは遠離若しは不遠離有るを見ず。善現當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行

【二】二邊。中道を離れて一方に偏くを邊といふ。斷常の二見を云ふ。斷見は心身斷滅して續生せずと固執する邊見の一分、卽ち無見。常見は心身三世に常住して間斷なしと固執する邊見の一分、卽ち有見なり。

【三】不共の妙觀。離邊處中、無盡の妙觀は全く二乘と共通せざるを云ふ。

【四】法の因等。一法の決定自在なるをいふなり。

【五】法の常住等。邪因論にして常因微塵世性等を說くことを云ふ。

【六】法の有我等。緣生不自在なれば、我有情命等の自在獨立主一なるものなしとなり。

卷の第三百四十八

初分無盡品第五十九之二

(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

[一]復た次に善現、菩薩摩訶薩は無明を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は行を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は識を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は名色を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は六處を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は觸を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は受を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は愛を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は取を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は有を觀ずること虛空無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は生を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。菩薩摩訶薩は老死愁歎苦憂惱を觀ずること虛空の無盡なるが如くなるが故に應に般若波羅蜜多を引くべし。是

(d)　前卷と同意。

【一】以下無明など十二因緣法の無盡觀を明す。

初分無盡品第五十九之一

[一]爾の時具壽善現竊に是の念を作さく、諸佛の無上正等菩提は最も爲れ甚深なり。是の如き般若波羅蜜多も亦た最も甚深なり。我れ當に佛に問ふべしと。是の念を作し已て佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は無盡なりと爲すや不やと。佛言はく、是の如し。甚深般若波羅蜜多は實に爲れ無盡なること猶ほ虛空の盡くす可からざるが如くなるが故にと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を引くべきやと。佛、善現に告げたまはく、(c)當に知るべし、色無盡なるが故に菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を引くべく受想行識無盡なるが故に菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を引くべしと。

(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(に)至諸受。(c)耳界乃(ほ)至諸受。(c)鼻界乃(へ)至諸受。(c)舌界乃(と)至諸受。(c)身界乃(ち)至諸受。(c)意界乃(り)至諸受。(c)地界乃(ぬ)至識界。(c)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(c)内空乃(わ)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(c)四靜慮乃(た)至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。一切智乃(な)至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(d)善現當に知るべし色虛空無盡なるが故に菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を引くべく受想行識虛空無盡なるが故に菩薩摩訶薩は應に般若波羅蜜多を引くべしと。

(d)眼處乃(ろ)至意處。(d)色處乃(は)至法處。(d)眼界乃(に)至諸受。(d)耳界乃(ほ)至諸受。(d)鼻界乃(へ)至諸受。(d)舌界乃(と)至諸受。(d)身界乃(ち)至諸受。(d)意界乃(り)至諸受。(d)地界乃(ぬ)至識界。(d)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。

【一】般若諸法の無盡甚深を說く。

(c)「善現」の二字を「當知色無盡故菩薩摩訶薩應引般若波羅蜜多受想行識無盡故菩薩摩訶薩應引般若波羅蜜多」の上に加へ右の文中「五蘊」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(c)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(d)「善現當知色虛空無盡故菩薩摩訶薩應引般若波羅蜜多受想行識虛空無盡故菩薩摩訶薩應引般若波羅蜜多」右も(c)の場合の如くして以下略出す。

所の地に安住すべし。復た次に慶喜、甚深般若波羅蜜多は是れ能く一切相一切字一切陀羅尼門に悟入す。諸の菩薩摩訶薩は此の一切陀羅尼門に於て皆應に修學すべし。若し菩薩摩訶薩是の如き陀羅尼門を受持せば速に能く一切の辯才諸の無礙解を證得す。是の故に慶喜、我れ是の如き甚深般若波羅蜜多は乃ち是れ過去未來現在一切の如來應正等覺の無盡の法藏なりと說く。慶喜、我れ今分明に汝に告ぐ、若し此の甚深般若波羅蜜多に於て受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟する有らば則ち爲れ一切の過去未來現在の諸佛の無上正等菩提を受持するなり。慶喜、我れ甚深般若波羅蜜多は是れ能く菩提道に遊趣する者の[一八]堅固足にして亦た是れ一切の無上佛法の大陀羅尼なりと說く。汝等若し能く是の如き甚深般若波羅蜜多陀羅尼を受持せば則ち爲れ一切の佛法を總持するなりと。

【一八】堅固足。般若を得れば能く菩提道を行ずるを喩說せるなり。

は亦た盡くる有ること無し。未來の如來應正等覺も皆般若波羅蜜多を學して無上正等菩提を證得し諸の有情の爲に宣說開示したまふも而かも此の般若波羅蜜多は亦た盡くる有ること無し。現在十方無量無數無邊世界の一切の如來應正等覺も皆般若波羅蜜多を學して無上正等菩提を證得し諸の有情の爲に宣說開示したまふも而かも此の般若波羅蜜多は亦た盡くる有ること無し。何を以ての故に、甚深般若波羅蜜多は譬へば虛空の盡くす可からざるが如くなるが故なり。諸の甚深般若波羅蜜多を盡くさんと欲すること有るは則ち爲れ虛空の邊際を盡くさんと欲するなり。(b)慶喜當に知るべし、般若波羅蜜多は盡くす可からざるが故に已に盡きず今盡きず當に盡きざるべく、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た盡くす可からざるが故に已に盡きず今盡きず當に盡きざるべしと。

(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。所以は何ん、此れ等の諸法は生無く滅無く亦た住異無し、云何が盡くる有りと施設し得可けんと。

爾の時世尊、[一六]廣長舌を出して遍ねく面輪を覆ひ還て舌相を攝め慶喜に告げて言はく、意に於て云何、是の如き舌相の出す所の語言虛妄有りや不やと。慶喜、佛に白して言さく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、慶喜に告げたまはく、汝今より後應に[一七]四衆の爲に廣く是の如き甚深般若波羅蜜多を說き分別開示し施設安立し其れをして解し易からしむべし。慶喜當に知るべし、是の如き般若波羅蜜多甚深の經中には廣く一切の菩提分法及び諸の法相を說く。是の故に一切の聲聞乘を求むる補特伽羅、獨覺乘を求むる補特伽羅、無上乘を求むる補特伽羅は皆應に此の甚深般若波羅蜜多所說の法門に於て常に勤め修學して厭捨を懷くこと勿るべし。若し能く是の如くせば速に當に自ら求むる

(b)「慶喜當知般若波羅蜜多不可盡故已不盡今不盡當不盡靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多亦不可盡已不盡今不盡當不盡」右の文中「六度」のある所に夾下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【一六】廣長舌等。佛三十二相の一、誠實の表示となす。

【一七】四衆。四部衆、四部弟子、四輩とも云ひ、佛弟子の四種を云ふ。卽ち比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷の稱なり。

訶薩の一切波羅蜜多速に圓滿することを得んと欲する者は當に般若波羅蜜多を學すべし。所以は何ん、是の如く學する者は諸學の中に於て最爲り、勝爲り、長爲り、尊爲り、妙爲り、微妙爲り、上爲り、無上爲り一切世間を利益し安樂し依護無き者には爲に依護と作り、諸佛世尊は開許し稱讃したまへばなりと。慶喜當に知るべし、諸佛菩薩は此の學の中に住し能く右手を以て擧て三千大千世界を取り或は他方に擲げ或は本處に置くも其の中の有情は知らず覺らず。何を以ての故に、甚深般波羅蜜多の功德威力は思議し難きが故なりと。慶喜當に知るべし、過去未來現去の諸佛及び諸の菩薩摩訶薩衆は此の般若波羅蜜多を學して去來今及び無爲法に於て悉く皆無礙の智見を獲得すと。是の故に慶喜、我れ此の甚深般若波羅蜜多を學するは諸學の中に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上爲りと說く。慶喜當に知るべし、諸の甚深般若波羅蜜多の量邊際を取らんと欲すること有らん者は愚癡者の虛空の量及び邊際を取らんと欲するが如し。何を以ての故に、甚深般若波羅蜜多の功德は無量無邊際なるが故なり。慶喜當に知るべし、我れ終に甚深般若波羅蜜多は名身等の如く量邊際有りと說かず。何を以ての故に、一切の[一三]名身句身文身は是れ有量の法なるも甚深般若波羅蜜多は有量の法に非ず、諸の名身句身文身能く般若波羅蜜多を量るに非ず亦た般若波羅蜜多は是れ彼の量る所に非ざればなりと。

[一四]爾の時具壽慶喜、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に甚深般若波羅蜜多は爲れ無量なりと說きたまふやと。佛、慶善に告げたまはく、甚深般若波羅蜜多は性無盡なるが故に爲れ無量なりと說き、甚深般若波羅蜜多は[一五]性遠離の故に爲れ無量なりと說き、甚深般若波羅蜜多は性寂靜なるが故に爲れ無量なりと說き、甚深般若波羅蜜多は如實際なるが故に爲れ無量なりと說き、甚深般若波羅蜜多は如虛空の故に爲れ無量なりと說く。慶喜當に知るべし、過去の如來應正等覺は皆般若波羅蜜多を學して無上正等菩提を證得し諸の有情の爲に宣說開示したまへるも而かも此の般若波羅蜜多

【一三】名身等。般若無盡なるに言語、章句、卷數有量なるものは實に相應せず、その不相應を以て假りに表現し付囑せるものに過ぎず。

【一四】般若の無量無有盡を明す。

【一五】性遠離。自ら遠離なれば本來生なく集なく盡滅なきなり。

爾の時世尊、四衆に圍繞せられて般若波羅蜜多を讃說し慶喜に付囑し受持せしめ已つて復た一切の天龍藥叉健達縛阿素洛揭路茶緊捺落莫呼洛伽人非人等の大衆會の前に於て神通力を現じ衆をして皆、不動如來應正等覺の聲聞菩薩に前後圍繞せられ海會衆の爲に妙法を宣說せるを見及び彼の土の衆相莊嚴せるを見せしめたまふ。其の聲聞僧は皆阿羅漢にして[七]諸漏已に盡きて復た煩惱無く眞自在を得、[八]心善く解脫し[九]慧善く解脫し調慧馬の如く亦た大龍の如く已に所作を作し已に所辦を辦じ諸の重擔を棄て己利を逮得し諸の[一〇]有結を盡くし[一一]正知もて解脫し心自在にして[一二]第一究竟に至れり。彼の諸の菩薩摩訶薩衆は一切皆衆の望み識る所にして、陀羅尼及び無礙辯を得て無量殊勝の功德を成就せり。佛神力を攝めたまへば是の大衆に於て忽ちに復た不動如來應正等覺聲聞菩薩及び海會の衆并びに彼の佛土の衆相莊嚴せるを見ず。彼の不動佛菩薩聲聞國土莊嚴衆會等の事は皆此處の眼根の所行に非ず。所以は何ん、佛神力を攝めたまへば彼の遠境に於て見緣無きが故なりと。

爾の時佛、具壽慶喜に告げたまはく、不動如來應正等覺の國土の衆會を汝復た見るや不やと。慶喜白して言さく、我れ復た見ず、彼の事は此の眼の所行に非ざるが故にと。佛、慶喜に告げたまはく、彼の佛土の衆會等の事の此の土の眼の所行の境界に非ざるが如く、一切法も亦た是の如し、皆眼根の所行の境に非ず。法は法を行ぜず、法は法を見ず、法は法を知らず。慶喜當に知るべし、一切法は行ずる者無く見る者無く知る者く動無く作無し。所以は何ん、一切法は皆作用無く能取所取の性遠離せるを以ての故に、一切法は思議す可からず能所の思議性遠離せるを以ての故に、一切法は幻事等の如く衆緣の和合相似の有たるを以ての故に、一切法は作受者無く妄現し有るに似て堅實無きを以ての故なりと。慶喜當に知るべし、若し菩薩摩訶薩の是の如く知り是の如く見是の如く行ずる者は是れ般若波羅蜜多を行じ亦た此の諸法の相に執著せざるなりと。慶喜當に知るべし、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ般若波羅蜜多を學するなりと。慶喜當に知るべし、若し菩薩摩

【六】佛比喩を以て般若行を說示し給ふ。
【七】諸漏。缺點、煩惱を生ずる基。
【八】心善解脫。知意の全生的自由を得るを云ふ。
【九】慧善解脫。知的研究の自由を得、研究に精進するなり。
【一〇】有結。有は生死の果報、結はこの果報を招くべき煩惱にて三毒の煩惱を云ふ。
【一一】正知。正は聖に同じ、如理智正しく眞諦を照らして虛妄の分別を離るゝを云ふ。
【一二】第一究竟。佛陀の覺りを云ふ。佛敎の理想とする究竟は佛陀なればかくいふなり。

至道聖諦。(a)四靜慮乃[た]至四無色定。(a)八解脫乃[れ]至十遍處。(a)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃[ね]至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)一切智乃[な]至一切相智。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)無上正等菩提。

是の菩薩摩訶薩は自ら無生法忍を修し亦た他をして無生法忍を修せしめ是の因緣に由りて善根增長す。若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩は自ら佛土を嚴淨し亦た他をして佛土を嚴淨せしめ、自ら有情を成熟し亦た他をして有情を成熟せしめ、是の因緣に由りて善根增長す。若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩は自ら無上の法輪を轉じ亦た他をして無上の法輪を轉ぜしめ、是の因緣に由りて善根增長す。若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩は自ら無量微妙の相好を以て其の身を莊嚴し亦た他をして無量微妙の相好を以て其の身を莊嚴せしめ是の因緣に由りて善根增長す。若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩は自ら順逆に十二緣起を觀じ亦た他をして順逆に十二緣起を觀ぜしめ是の因緣に由りて善根增長す。若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩は自ら一切法無我無有情無命者無生者無養者無士夫無補特伽羅無意生無儒童無作者無受者無知者無見者なりと觀じ亦た他をして一切法無我乃至無見者なりと觀ぜしめ是の因緣に由りて善根增長す。若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無し。是の菩薩摩訶薩は自ら一切法の幻の如く夢の如く像の如く響の如く光影の如く陽焰の如く變化事の如く[五]尋香城の如く皆有るに似たりと雖も而かも實性無しと觀じ、亦た他をして一切法は幻の如く乃至尋香城の如く皆有るに似たりと雖も而かも實相無しと觀ぜしめ、是の因緣に由りて善根增長す。若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無しと。

【五】尋香城。乾闥婆城(Gandharvanagaram)の譯。實體無くして空中に現出する城廓にて、蜃氣樓のこと。

た食の頃を置き但だ須臾を經るも、復た須臾を置き但だ俄爾を經るも、復た俄爾を置き但だ瞬息の頃に、是の聲聞の人能く菩薩の爲に般若波羅蜜多相應の法を宣說せば獲る所の福聚は甚だ前よりも多し。何を以ての故に、此の聲聞人の獲る所の福聚は一切の聞聲獨覺の諸の善根に超過するが故なりと。復た次に慶喜、若し菩薩摩訶薩聲聞乘の補特伽羅の爲に種種の聲聞乘の法を宣說し、假使ひ三千大千世界の諸の有情類、此の法に由るが故に一切阿羅漢果を證得し皆種種殊勝の功德を具せんに、汝が意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に如りて獲る所の福聚寧し多しと爲すや不やと。慶喜白して言さく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝、是の菩薩摩訶薩の獲る所の福聚は無量無邊なりと。佛、慶喜に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩、聲聞乘の補特伽羅或は獨覺乘の補特伽羅、或は無上乘の補特伽羅の爲に般若波羅蜜多相應の法を宣說し一日夜を經て獲る所の福聚は甚だ前よりも多し。慶喜當に知るべし、一日夜を置き但だ一日を經るも、復た一日を置き但だ半日を經るも、復た半日を置き但だ一時を經るも、復た一時を置き但だ食の頃を經るも、復た食の頃を置き但だ須臾を經るも、復た須臾を置き但だ俄爾を經るも、復た俄爾を置き但だ瞬息の頃にも、是の菩薩摩訶薩能く三乘の補特伽羅の爲に般若波羅蜜多相應の法を宣說せば獲る所の福聚は甚だ前よりも多く無量無邊なり。何を以ての故に、甚深般若波羅蜜多相應の法施は一切の聲聞獨覺相應の法施及び彼の二乘の諸の善根に超過するが故なり。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は自ら無上正等菩提を求め亦た大乘相應の法を以て示現敎導讃勵慶喜し諸の有情を化して無上正等菩提に於て不退轉を得せしむればなり。慶喜當に知るべし、(a)是の菩薩摩訶薩は自ら布施波羅蜜多を修し亦た他をして布施波羅蜜多を修せしめ、自ら淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修し亦た他をして淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修せしめ、是の因緣に由りて善根增長すと、若し無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無し。(a)四念住乃至八聖道支。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃

(a)「是菩薩摩訶薩自修布施波羅蜜多……………亦敎他修淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多由是因緣善根增長若於無上正等菩提有退轉者無有是處」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法を略出するのみとす但し「內空眞如苦聖諦」の三は「自修他修」の所を「自住地住」と爲すものとす。

まはん所も皆是れ此の六波羅蜜多無盡法藏の流出する所なればなり。慶喜當に知るべし、過去の如來應正等覺も亦た此の六波羅蜜多無盡法藏に依りて精勤修學して已に無上正等菩提を證し、未來の如來應正等覺も亦た此の六波羅蜜多無盡法藏に依りて精勤修學して當に無上正等菩提を證すべく、現在の所有る東西南北四維上下の諸の世界の中の一切の如來應正等覺の現に說法したまへる者も亦た此の六波羅蜜多無盡法藏に依りて精勤修學して現に無上正等菩提を證せりと。慶喜當に知るべし、過去の如來應正等覺の諸の弟子衆は皆此の六波羅蜜多無盡法藏に依りて精勤修學して無餘依妙涅槃界に於て已に般涅槃し、未來の如來應正等覺の諸の弟子衆も皆此の六波羅蜜多無盡法藏に依りて精勤修學して無餘依妙涅槃界に於て當に般涅槃すべく、現在の所有る東西南北四維上下の諸の世界の中の一切の如來應正等覺の諸の弟子衆も皆此の六波羅蜜多無盡法藏に依りて精勤修學して無餘依妙涅槃界に於て今般涅槃せりと。[三]復た次に慶喜、假使ひ汝諸の聲聞乘の補特伽羅の爲に聲聞法を說き、此の法に由るが故に三千大千世界の有情一切皆阿羅漢果を得るも猶ほ未だ我が爲に弟子の事を作さず、汝若し能く菩薩乘に住する補特伽羅の爲に一句の甚深般若波羅蜜多相應の法を宣說せば則ち我が爲に弟子の事を作すと名づく。我れ此の事に於て深く隨喜を生ず。汝が三千大千世界の有情を敎化して一切皆阿羅漢果を得せしむるに勝らんと。復た次に慶喜、假使ひ三千大千世界の諸の有情類他の敎力に由りて前に非ず後に非ず皆人身を得て倶時に阿羅漢果を證得せんに、是の諸の阿羅漢の所有る殊勝の[四]施性福業事・戒性福業事・修性福業事は、汝が意に於て云何、彼の福業事は寧ろ多しと爲すや不やと。慶喜白して言さく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛、慶喜に告げたまはく、若し聲聞の弟子有り能く菩薩摩訶薩の爲に般若波羅蜜多相應の法を宣說し一日夜を經て獲る所の福聚は甚だ彼れより多し。慶喜當に知るべし、一日夜を置き但だ一日を經るも、復た一日を置き但だ半日を經るも、復た半日を置き但だ一時を經るも、復た一時を置き但だ食の頃を經るも、復

【三】般若大乘の自度二乘法に優るを說き、付囑する所以を明す。

【四】施性福業事等。布施、持戒、禪定の功德を云ふなり。

大衆に對し汝に付囑す。慶喜、我れ今實言もて汝に告げん、諸の淨信有りて佛を捨てざらんと欲し法を捨てざらんと欲し僧を捨てざらんと欲し亦た過去未來現在の諸佛所證の無上正等菩提を捨てざらんと欲せば定めて是の如き般若波羅蜜多甚深の經典を捨つべからずと。慶喜、此れは是れ我れ等諸佛、諸の弟子を教誡教授する法なり。若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多甚深の經典に於て愛樂聽聞し受持讀誦し理の如く思惟し無量門を以て廣く他の爲に說き分別開示し施設安立し其れをして解し易からしめば是の善男子善女人等は速に無上正等菩提を證し能く一切智智に近づき圓滿す。何を以ての故に、一切の如來應正等覺の得たまへる所の無上正等菩提は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に依りて生ずるを得るが故なり。慶喜當に知るべし、過去の如來應正等覺も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に依りて無上正等菩提を出生し、未來の如來應正等覺も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多に依りて無上正等菩提を出生し、現在の所有る東西南北四維上下の諸の世界の中の一切の如來應正等覺の現に說法したまへる者も亦た是の如き甚深般若波羅蜜多より無上正等菩提を出生したまふと。是の故に慶喜、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を得んと欲せば當に勤め精進して般若波羅蜜多を修學すべし。何を以ての故に、是の如き般若波羅蜜多は是れ諸の菩薩摩訶薩の母にして諸の菩薩摩訶薩を生ずるが故なり。慶喜當に知るべし、若し菩薩摩訶薩勤めて六種波羅蜜多を學せば皆當に速に所求の無上正等菩提を證すと。[二]是の故に慶喜、我れ此の六波羅蜜多甚深の經典を以て諸の大衆に對し更らに汝に付囑す。當に正しく受持して忘失せしむること勿るへし。何を以ての故に、是の如き六種波羅蜜多甚深の經典は是れ諸の如來應正等覺の無盡の法藏にして一切の佛法此れより生ずるが故なり。慶喜當に知るべし、現在の所有る東西南北四維上下諸の世界の中の一切の如來應正等覺の現に說法したまふ所は皆是れ此の六波羅蜜多無盡法藏の流出する所、過去の如來應正等覺の曾て說法したまひし所は皆是れ此の六波羅蜜多無盡法藏の流出する所、未來の如來應正等覺の當に說法した

【二】佛更に六波羅蜜多を付囑し給ふ。

慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多甚深の經典に於て受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟し廣く他の爲に說き分別開示し其れをして了し易からしめば則ち爲れ過去未來現在の諸佛の所證の無上正等菩提を受持するなりと。慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多甚深の經典に於て受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟し廣く他の爲に說き分別開示し其れをして了し易からしめば則ち爲れ過去未來現在の諸佛の所證の無上正等菩提を攝受すと。慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等、現に我が欲する所に於て種種上妙の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明を以て供養恭敬尊重讚歎して懈怠無き者は當に般若波羅蜜多甚深の經典に於て受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟し廣く他の爲に說き分別開示し其れをして解し易からしめ、或は復た書寫し衆寶もて莊嚴し恒に種種上妙の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明を以て供養恭敬尊重讚歎し懈怠を得ること無かるべしと。慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等甚深般若波羅蜜多を供養恭敬尊重讚歎せば則ち爲れ我れを供養恭敬尊重讚歎するなり、亦た爲れ現在十方世界の一切の如來應正等覺の現に說法したまへる者及び過去未來の諸佛を供養恭敬尊重讚歎するなりと。慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等般若波羅蜜多甚深の經典を說くを聞きて深心に信受し恭敬し愛樂せば則ち爲れ過去未來現在の諸佛を信受し恭敬し愛樂するなりと。慶喜、汝若し愛樂して我れに於て捨てずんば我れに於ても亦た當に愛樂して般若波羅蜜多甚深の經典を捨てず下一句に至るまで忘失せしむること勿るべし。[一]慶喜、我れ是の如き般若波羅蜜多甚深の經典の付囑の因緣を說くこと無量なる有りと雖も、要を以て之を言はば、我れ既に是れ汝等の大師なるが如く甚深般若波羅蜜多も當に知るべし亦た是れ汝等の大師なりと。汝我れを敬重す亦た當に甚深般若波羅蜜多を敬重すべし。是の故に慶喜、我れ無量の善巧方便を以て汝に般若波羅蜜多甚深の經典を付す。汝當に受持して忘失せしむること勿るべし。慶喜、我れ今此の般若波羅蜜多甚深の經典を以て諸の天人阿素洛等無量の

【一】佛般若付囑の因緣を略說す。般若を以て衆生の大師となす。

於て善く解し無礙に布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、[わ]內空乃至無性自性空に安住し、[か]眞如乃至不思議界に安住し、[よ]苦聖諦乃至道聖諦に安住し、[そ]四念住乃至八聖道支を修行し、[た]四靜慮乃至四無色定を修行し、[れ]八解脫乃至十遍處を修行し、[つ]空解脫門乃至無願解脫門を修行し、五眼・六神通を修行し、[ね]佛の十力乃至十八佛不共法を修行し、無忘失法・恒住捨性を修行し、一切陀羅尼門・一切三摩地門を修行し、[な]一切智乃至一切相智を修行し圓滿することを得せしめて是の菩薩摩訶薩無上正等菩提を得ずして而かも聲聞獨覺地に住するとせば是の處有ること無し。是の故に菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば應に是の如き甚深般若波羅蜜多に於て善く解し無礙に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し乃至一切智道相智一切相智を修行し圓滿することを得せしむべし。[一七]是の故に慶喜、我れ般若波羅蜜多甚深の經典を以て汝に付囑す、應に正しく受持し讀誦通利して忘失せしむること勿るべし。慶喜當に知るべし、此の般若波羅蜜多甚深の經典を除き諸餘の我が說く所の法を受持し設ひ忘失すること有らんも其の罪猶ほ小なり。若し般若波羅蜜多甚深の經典に於て善く受持せず下一句に至るまで忘失すること有らば其の罪甚だ大なり。慶喜當に知るべし、若し般若波羅蜜多甚深の經典に於て下一句に至るまで能善く受持して忘失せずんば福を獲ること無量なり。若し此れに於て善く受持せざること有り下一句に至るまで是れ忘失すること有らば獲る所の重罪は前の福の量に同じ。故に慶喜、我れ般若波羅蜜多甚深の經典を以て慇懃に汝に付す。當に正しく受持し讀誦通利し理の如く思惟し廣く他の爲に說き分別開示し受持者をして究竟して文義意趣を解了せしむべし。

卷の第三百四十七

初分囑累品第五十八之二

(わ) 六度の場合の如く分說すべきを今本文の如く略す以下亦た同じ。

【一七】 佛般若甚深の經典を以て慇懃に阿難に付囑す。

を說きたまふを聞き、聞き已て愛樂し受持讀誦し、究竟通利し理の如く思惟して廣く他の爲に說きしが故に今生に於て能く是の事を辦ずと。慶喜當に知るべし、彼の善男子善女人等は曾て過去無量の佛所に於て多く善根を種ゑたるが故に今生に於て能く是の事を辦ずと。彼の善男子善女人等は應に是の念を作すべし、我れ先に聲聞獨覺より是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞かず、定めて如來應正等覺より是の如き甚深般若波羅蜜多を說きたまふを聞けり。我れ先に聲聞獨覺に於て諸の善根を種ゑず。定めて如來應正等覺に於て諸の善根を種ゑたり。是の因緣に由りて今此の甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て愛樂受持し讀誦通利し理の如く思惟し廣く他の爲に說きて能く厭倦無しと。慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て愛樂聽聞し受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟し義に於て法に於て深意趣に於て隨順して修行せば是の善男子善女人等は則ち僞れ現に我れ等如來應正等覺を見るなりと。慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞き深心に信受し毀たず謗らず沮壞す可からずんば是の善男子善女人等は已に曾て無量の諸佛を供養し諸の佛所に於て多く善根を種ゑ亦た無量の善友に攝受せらると。慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等能く(一六)如來應正等覺の勝福田に於て種うる所の諸の善根は定めて當に或は聲聞果或は獨覺果或は如來果を得べしと雖も而かも無上正等菩提を證し要らず是の如き甚深般若波羅蜜多に於て善く辦し、無礙に布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、內空(わ)乃至無性自性空に安住し、眞如(か)乃至不思議界に安住し、苦聖諦(よ)乃至道聖諦に安住し、四念住(そ)乃至八聖道支を修行し、四靜慮(た)乃至四無色定を修行し、八解脫(れ)乃至十遍處を修行し、空解脫門(つ)乃至無願解脫門を修行し、五眼・六神通を修行し、佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を修行し、無忘失法・恒住捨性を修行し、一切陀羅尼門・一切三摩地門を修行し、一切智(な)乃至一切相智を修行し、圓滿することを得せしむと。慶喜當に知るべし、若し菩薩摩訶薩能く是の如き甚深般若波羅蜜多に

【一六】如來の福田供養は少なくも三乘道果を證するは法華等に說くも般若を要することを說示するなり。

(わ)六度の場合の如く分說すべきを今本文の如く略す以下亦た然り。

爾の時世尊、諸の苾芻の心行淸白なるを知らしめて卽便ち微妙したまふに佛の常法の如く微笑の時に於て種種の色光口中より出づ。所謂靑黃赤白紅縹等の光なり。遍ねく三千大千佛の世界を照らし還て佛身を遶り三匝を經已て頂上より入る。具壽[一二]慶喜卽ち坐より起ち佛を禮し合掌して白して言さく、世尊、何の因何の緣ありて此の微笑を現じたまふや。諸佛の笑を現じたまふは因緣無きに非じ。唯だ願はくは如來哀愍して爲に說きたまへと。佛、慶喜に告げたまはく、此の勝願を發せる六千の苾芻は未來世に[一三]星喩劫の中に於て當に無上正等菩提を得ん。皆同じく一號にして散花[一四]如來應正等覺明行圓滿善逝世間解無上丈夫調御士天人師佛薄伽梵と名づく。彼の諸の如來應正等覺の苾芻の弟子佛土壽量皆悉く齊等にして同じく千歲を受けん。是の諸の如來應正等覺は初生に出家し及び成佛し已て所在の處に隨て若しは晝若しは夜常に五色微妙の香華を雨らさん。是の因緣を以ての故に我れ微笑す。慶喜當に知るべし。若し菩薩摩訶薩、最勝住に安住することを得んと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべしと。慶喜當に知るべし、若し菩薩摩訶薩、如來住に安住することを得んと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべしと。[一五]慶喜當に知るべし、若し善男子善女人等精勤して甚深般若波羅蜜多を修學せば是の善男子善女人等は先世に或は人間より沒し已て還て此の處に生じ、或は覩史多天上より沒し、來りて人間に生ずと。彼れ先世に於て或は人中或は復た天上に在りて廣く甚深般若波羅蜜多を聞くことを得るに由りて能く今生に於て精勤して甚深般若波羅蜜多を修學すと。慶喜當に知るべし、如來の現に精勤して甚深般若波羅蜜多を修學して顧る所無き者を見たまはゞ彼の人は決定して是れ大菩薩なりと。

復た次に慶喜、若し善男子善女人等、能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て愛樂聽聞し受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟し菩薩乘の諸の善男子善女人等の爲に宣說開示し敎誡敎授せば當に知るべし、彼の人は是れ大菩薩にして曾て過去に於て親(まのあた)り如來應正等覺より是の如き甚深般若波羅蜜多

【一一】佛、現瑞微笑放光を明す。

【一二】慶喜。阿難陀(Ānanda)の譯名。或は歡喜、無染などとも譯さる。

【一三】星喩劫。現在賢劫に次ぐ未來諸佛出現の時を云ふ。

【一四】如來等。佛の十號なり。實相のまゝに來現する故に如來と云ふ。無限完全なる正覺を應正等覺と云ふ。七覺八正道具足して慧德具足するを明行圓滿と云ふ。善逝渡島の如く淸く去るを云ふ。

【一五】佛般若行者の功德を讚歎す。

三十二相八十隨好を觀ずるすら尙ほ得可からず況んや此の相好身を具する者有らんをや。

[五]何を以ての故に、憍尸迦、具壽善現は一切法に於て遠離住寂靜住無所得住空住無相住無願住に往すればなり。憍尸迦、具壽善現は一切法に於て是の如き等の無量勝住に住す。憍尸迦、善現の住する所を諸の菩薩摩訶薩衆の住する所の般若波羅蜜多最勝の行住に比ぶるに百分の一にも及ばず千分の一にも及ばず百千分の一にも及ばず[六]俱胝分の一にも及ばず百俱胝分の一にも及ばず千俱胝分の一にも及ばず百千俱胝分の一にも及ばず那庾多分の一にも及ばず百那庾多分の一にも及ばず千那庾多分の一にも及ばず百千那庾多分の一にも及ばず百千俱胝那庾多分の一にも及ばず數分計分算分喩分乃至[七]鄔波尼殺曇分の亦た一にも及ばず。何を以ての故に、憍尸迦、如來を除き、是の諸の菩薩摩訶薩衆の住する所の般若波羅蜜多最勝の行住に住するは諸の聲聞獨覺等の住に於て最爲り勝爲り長爲り尊爲り妙爲り微妙爲り上爲り無上爲ればなり。是を以ての故に、憍尸迦、若し菩薩摩訶薩一切有情の上に住せんと欲せば當に般若波羅蜜多最勝の行住に住すべし。何を以ての故に、憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多最勝の行住に安住し諸の聲聞獨覺等の地を超えて菩薩の正性離生に證入し、速に能く一切の佛法を圓滿して諸の煩惱の相續する[八]習氣を斷じ疾く無上正等菩提を證して如來應正等覺と名づくることを得、一切智智を成就し圓滿すればなりと。

[九]爾の時無量無數の三十三天有り歡喜踊躍し各天上微妙の香華を取りて如來及び苾芻衆に散じ奉る。時に衆內の六千の苾芻座より起ちて偏へに右の肩を覆ひ右膝を地に著け佛に向ひ合掌するに佛の神力の故に各掌中に於ける微妙の香華自然に盈滿す。是の諸の苾芻歡喜踊躍して未曾有なることを得、各此の華を以て如來應正等覺に散じ奉る。既に佛に散じ已て俱に願を發して言はく、我れ等斯の勝善根力を用て願はくは常に甚深般若波羅蜜多[一〇]最勝行住の聲聞獨覺の住する能はざる所に安住し、速に無上正等菩提に趣きて諸の聲聞及び獨覺地に超えんことをと。

【五】佛般若波羅蜜多最勝の行住を極說し給ふ。

【六】俱胝(Koti)。印度に於ける數量の名にて、一千萬のこと。

【七】鄔波尼殺曇(Upanisad)。近少、微細、因などゝ譯さる、極少の數量の名なり。

【八】習氣。煩惱の體を正使と云ふに對して煩惱が慣習的氣分として殘るのを習氣といふ。

【九】諸比丘般若の最勝行を行ぜんことを發願し、佛その宿緣と授記を說く。

【一〇】最勝行住。深般若處を云ふ。二乘の及ばざる絕對なるが故に。

する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に四靜慮乃至四無色定を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや四靜慮乃至四無色定を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に八解脫乃至十遍處を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや八解脫乃至十遍處を修する者有らんをや。具壽善現は內空乃至無性自性空を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや內空乃至無性自性空を證する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に眞如乃至不思議界を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや眞如乃至不思議界を證する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に苦聖諦乃至道聖諦を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや苦聖諦乃至道聖諦を證する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に空解脫門乃至無願解脫門を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや空解脫門乃至無願解脫門を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に五眼・六神通を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや五眼・六神通を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に一切陀羅尼門・一切三摩地門を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや一切陀羅尼門・一切三摩地門を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に佛の十力乃至十八佛不共法を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや佛の十力乃至十八佛不共法を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に無忘失法・恒住捨性を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや無忘失法・恒住捨性を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に一切智乃至一切相智を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや一切智乃至一切相智を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に一切の菩薩摩訶薩行を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや一切の菩薩摩訶薩行を修する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に諸佛の無上正等菩提を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや諸佛の無上正等菩提を證する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に諸の如來を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや法輪を轉ずる者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に生滅無き法を觀ずるすら尚ほ得可からず況んや無生滅を證する者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に

初分囑累品第五十八之一

〔二〕爾の時天帝釋、佛に白して言さく、世尊、我が是の如く說き是の如く讃じ是の如く記するは如來應正等覺の〔三〕法語律語に順じ法に於て法に隨ひ無倒に記すと爲すや不やと。佛言はく、憍尸迦、汝是の如く說き是の如く讃じ是の如く記するは誠に如來應正等覺の法語律語に順じ法に於て法に隨ひ顚倒の記無きなりと。時に天帝釋復た佛に白して言さく、希有なり世尊、大德善現の諸の所說有るは皆空無相無願に依らざる無し。大德善現の諸の所說有るは皆〔四〕四念處(そ)乃至八聖道支に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆四靜慮(そ)乃至四無色定に依らざる無し。大德善現の諸の所說有るは皆八解脫(そ)乃至十遍處に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆布施(そ)乃至般若波羅蜜多に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆內空(そ)乃至無性自性空に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆眞如(そ)乃至不思議界に依らざる無し。大德善現の諸の所說有るは皆苦集滅道(そ)聖諦に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆五眼・六神通に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆一切陀羅尼門・一切三摩地門に依らざる無し。大德善現の諸の所說有るは皆佛の十力(そ)乃至十八佛不共法に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆無忘失法・恒住捨性に依らざる無し。大德善現の諸の所說有るは皆一切智(そ)乃至一切相智に依らざる無し。大德善現の諸の所說有るは皆一切の菩薩摩訶薩行に依らさる無し。大德善現の諸の所說有るは皆諸佛の無上正等菩提に依らさる無しと。爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、具壽善現は空に安住するが故に布施波羅蜜多を觀ずるすら尙ほ得可からず況んや布施波羅蜜多を行ずる者有らんをや、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を觀ずるすら尙ほ得可からず況んや淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずる者有らんをや。具壽善現は空に安住するが故に四念住(そ)乃至八聖道支を觀ずるすら尙ほ得可からず況んや四念住(そ)乃至八聖道支を修

【一】囑累。弘通護持を付囑遺命することなり。

【二】天帝釋先に讃說する所の正しきやを問ひ、佛これを印可し、善現の深空を示し更に行般若菩薩の優れるを示敎す。

【三】法語律語、經と律とに說く所。

【四】四念處等。四念處乃至無上正等菩提も空無相無願に依らざる無しとなすなり。

(そ)六度の場合の如く分說すべきを今略を簡びて本文の如く略す以下も亦然り。

難く、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ諸法皆不可得なるを知ると雖も而かも無上正等菩提を求むるは甚だ爲れ難事なり。何を以ての故に、世尊、決定して眞如に安住して諸の菩薩摩訶薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し諸の有情の爲に正法事を說くべきこと有ること無きも諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて一切法都て無所有なりと觀じ、深法性に於て心沈沒せず怖かず驚かず疑無く滯無し、是の如き等の事甚だ爲れ希有なればなりと。爾の時具壽善現、天帝釋に語て言はく、憍尸迦、汝の所說の如き、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて一切法都て無所有なりと觀じ深法性に於て心沈沒せず怖かず驚かず疑無く滯無し、是の如き等の事甚だ希有なりとは、憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずるに一切法皆空ならざる無しと觀ず、謂ゆる一切の有色法空、無色法も亦た空なりと觀じ、一切の有見法空、無見法も亦た空なりと觀じ、一切の有對法空、無對法も亦た空なりと觀じ、一切の有漏法空、無漏法も亦た空なりと觀じ、一切の有爲法空、無爲法も亦た空なりと觀じ、一切の世間法空、出世間法も亦た空なりと觀じ、一切の寂靜法空、不寂靜法も亦た空なりと觀じ、一切の遠離法空、不遠離法も亦た空なりと觀じ、一切の過去法空、未來現在法も亦た空なりと觀じ、一切の善法空、不善無記法も亦た空なりと觀じ、一切の欲界法空、色無色界法も亦た空なりと觀じ、一切の學法空、無學非學非無學法も亦た空なりと觀じ、一切の見所斷法空、修所斷非所斷法も亦た空なりと觀じ、一切の有法空、無法非有非無法も亦た空なりと觀ず。憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて是の如き等の一切法空なりと觀じ、諸法空中都て所有無し。誰れか沈み誰れか沒し誰れか怖き誰れか驚き誰れか疑ひ誰れか滯らん。是の故に憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ深法性に於て心沈沒せず怖かず驚かず疑無く滯無く未だ爲れ希有ならずと。時に天帝釋、善現に白して言さく、尊者の所說は一切空に依る、是の故に所言常に[一六]罣礙無し。譬へば[一七]箭を以て仰いで虛空を射るに若しは近若しは遠倶に罣礙無きが如く尊者の所說も亦復た是の如しと。

【一六】罣礙。罣は網、礙は障りにて煩惱妄想を云ふ。

【一七】箭。善現の智慧に喩ふ。矢勢盡きて墮つるも空は盡くるに非ず、說法因緣辨了するのみ、智塞き法盡くるに非ざるなり。

に安住し疾く無上正等菩提を證すべきやと。佛言はく、善現、佛の所化の眞如に安住して諸の菩薩摩訶薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し、諸の有情の爲に正法を宣說すべきが如く、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如く眞如に安住して諸の菩薩摩訶薩行を修し、速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證すべしと。具壽善現復た佛に白して言さく、如來も所化も都て所有無く法の眞如を離れては又た得可からず。誰れか眞如に住して菩薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し諸の有情の爲に正法を宣說すべきぞ。世尊、眞如すら尙ほ得可からず、何に況んや眞如に安住して菩薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し諸の有情の爲に正法を宣說すべき有るを得んや。此れ若し實有なりとせば是の處有ること無しと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、如來も所化も都て所有無く、法の眞如を離れて又た得可からず。誰れか眞如に住して菩薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し諸の有情の爲に正法を宣說すべけん。善現、眞如すら尙ほ得可からず、何に況んや眞如に安住して菩薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し諸の有情の爲に正法を宣說すべき有るを得んや。此れ若し實有なりとせば是の處有ること無し。所以は何ん、善現、如來は世に出づるも若しは世に出でざるも諸法は[一四]法爾として眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界を離れされればなり。善現、決定して眞如に安住して菩薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し諸の有情の爲に正法を宣說すべき者有ること無し。何を以ての故に、善現、諸法の眞如は生無く滅無く亦た住異の少分も得可き無ければなり。善現、若し法生無く滅無く亦た住異の少分も得可き無くんば誰れか其の中に於て安住して諸の菩薩摩訶薩行を修し速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證し諸の有情の爲に正法を宣說すべきことを得可けん。此れ若し實有なりとせば是の處有ること無しと。

[一五]爾の時天帝釋、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は微妙甚深にして極めて信解し

【一四】法爾。自爾、法然、天然又は自然と言ふに同じ、法の持前として自らかくあるを云ふ。

【一五】般若の信解し難く無上菩提を求むるの難事なるを明す。

一切法皆寂靜性に於て深く信解を生ずるも、亦た未だ無生法忍を證得せず、一切法皆遠離性に於て深く信解を生ずるも、亦た未だ無生法忍を證得せず、一切法無所有性に於て深く信解を生ずるも、亦た未だ無生法忍を證得せず、一切法不自在性に於て深く信解を生ずるも、亦た未だ無生法忍を證得せず、不堅實性に於て深く信解を生ずるも、亦た未だ無生法忍を證得せず、善現、是の如き等の菩薩摩訶薩は諸の如來應正等覺の正法を說きたまふに因みて大衆の前に於て自然に歡喜して名字種姓及び諸の功德を稱揚し讃歎することを蒙るなり。善現、若し菩薩摩訶薩諸の如來應正等覺正法を說きたまふ因みて大衆の前に於て自然に歡喜して名字種姓及び諸の功德を稱揚し讃歎することを蒙らば是の菩薩摩訶薩は聲聞及び獨覺地に超過して定めて無上正等菩提を證せん。善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行じて諸の如來應正等覺の正法を說きたまふに因みて大衆の前に於て自然に歡喜して名字種姓及び諸の功德を稱揚し讃歎することを蒙らば是の菩薩摩訶薩は定めて當に不退轉地に安住すべく、是の地に住し已て必ず當に一切智智を證得すべし。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて心疑惑無く亦た迷悶せず但だ是の念をのみ作さん、佛の說きたまふ所の甚深般若波羅蜜多の如きは其の理必然にして顚倒有ること無しと。是の菩薩摩訶薩に般若波羅蜜多に於て深く淨信を生ずるに由り漸次に當に不動佛の所及び諸の菩薩摩訶薩の所に於て廣く般若波羅蜜多を聞き其の義趣に於て深く信解を生じ、既に信解し已て當に不退轉地に住することを得べし。是の地に住し已て定めて當に一切智智を證得すべし。善現、若し菩薩摩訶薩但だ是の如き甚深般若波羅蜜多を聞きて誹謗を生ぜざるのみすら尙ほ多く殊勝の善根を獲得す、況んや能く信解し受持讀誦し眞如の理に依りて繫念思惟し眞如に安住し精勤して修學せんをや。是の諸の菩薩は速に當に不退轉地に安住して疾く無上正等菩提を證すべしと。[13] 時に具壽善現佛に白して言さく、世尊、諸法の實性皆不可得ならば云何が菩薩摩訶薩は眞如に安住し精勤修學して速に當に不退轉地

【一三】 無所得にして不退轉地に安住する義を明す。

世界の現在の諸佛、正法を說く時大衆の前に於て自然に歡喜して是の菩薩摩訶薩の名字種姓及び諸の功德を稱揚し讚歎することを爲さん、所謂甚深般若波羅蜜多の殊勝功德を修行すと。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は能く難事を爲して佛種を斷たず一切有情を利益し安樂ならしむればなりと。

一〇爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等の菩薩摩訶薩、諸の如來應正等覺の正法を說きたまふに因みて大衆の前に於て自然に歡喜して名字種姓及び諸の功德を稱揚し讚歎せらるることを蒙るや、退轉位と爲すや不退轉と爲すやと。佛、善現に告げたまはく、菩薩摩訶薩有りて不退轉位に住し深般若波羅蜜多を行ぜば諸の如來應正等覺正法を說きたまふに因みて大衆の前に於て自然に歡喜し名字種姓及び諸の功德を稱揚し讚歎することを蒙るなり。復た菩薩摩訶薩有りて未だ二記を受けずと雖も而かも般若波羅蜜多を行ぜば亦た如來應正等覺正法を說きたまふに因みて大衆の前に於て自然に勸喜して名字種姓及び諸の功德を稱揚し讚歎することを蒙るなりと。具壽善現復た佛に白して言さく、此れを說く所の者は是れ何れの菩薩なりやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩有りて不動佛の菩薩爲りし時の所行に隨て學し已に不退轉位に安住することを得たる是の菩薩摩訶薩は諸の如來應正等覺の正法を說きたまふに因みて大衆の前に於て自然に歡喜して名字種姓及び諸の功德を稱揚し讚歎することを蒙るなり。復た菩薩摩訶薩有り寶幢菩薩尸棄菩薩摩訶薩等の所行に隨て學する是の菩薩摩訶薩は未だ記を受けずと雖も而かも般若波羅蜜多を行ぜば亦た如來應正等覺正法を說きたまふに因みて大衆の前に於て自然に歡喜して名字種姓及び議の功德を稱揚し讚歎することを蒙るなり。復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて深般若波羅蜜多を行ぜば一切法の無生性の中に於て深く信解を生じ而かも未だ三無生法忍を證得せず、深般若波羅蜜多に於て深く信解を生ずるも、亦た未だ無生法忍を證得せず、一切法畢竟空性に於て深く信解を生ずるも、亦た未だ無生法忍を證得せず、

【一〇】諸佛に稱揚讚歎せらるゝ若薩を明す。

【二】記を受く。或は受莂とも云ひ、佛より當來必當作佛の記別を受くるを云ふ。

【三】無生法忍。不生不滅の眞如法性を忍知して決定安住するを云ひ、七、八、九地の菩薩の悟の名なり。

す。何等をか二と爲す。一には[五]所言の如く皆悉く能く作すなり、二には諸佛の常に護念する所と爲るなり。[六]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多を行ぜば諸の天子等常に來りて禮敬し親近供養し請問勸發して言はん、善男子、汝疾く所求の無上正等菩提を證せんと欲せば當に勤めて空無相無願に住すべし。何を以ての故に、善男子、若し勤めて空無相無願に住せば依怙無き者には當に依怙と作るべく歸依無き者には當に歸依と作るべく救護無き者には當に救護と作るべく投趣無き者には當に投趣と作るべく洲渚無き者には當に洲渚と作るべく、室宅無き者には當に室宅と作るべく闇瞑なる者の爲には當に光明と作るべく盲瞽なる者の爲には當に眼目と作るべし。何を以ての故に、善男子、是の如く空無相無願に住するを卽ち甚深般若波羅蜜多に安住すと爲せばなり。若し能く甚深般若波羅蜜多に安住せば則ち能く疾く所求の無上正等菩提を證するなり。

[七]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多に住せば則ち十方無量無數無邊世界の現在の諸佛、大衆の中に處して自然に歡喜し、是の菩薩摩訶薩の名字種姓及び諸の功德を稱揚し讃歎することを爲さん、所謂甚深般若波羅蜜多殊勝の功德に安住すと。善現當に知るべし、我れ今衆の爲に甚深般若波羅蜜多を宣說し大衆の前に於て自然に歡喜して[八]寶幢菩薩[九]尸棄菩薩摩訶薩等、及び現在不動佛の所に住して梵行を淨修し深般若波羅蜜多に住せる諸の菩薩摩訶薩の名字種姓及び諸の功德の所謂甚深般若波羅蜜多殊勝の功德に安住せるを稱揚し讃歎するが如く、現在東方無量無數無邊世界一切の如來應正等覺、衆の爲に甚深般若波羅蜜多を宣說し彼れに於て亦た諸の菩薩摩訶薩有りて梵行を淨修し般若波羅蜜多を離れず、彼の諸の如來應正等覺、各衆の前に於て自然に歡喜して彼の菩薩摩訶薩の名字種姓及び諸の功德を稱揚し讃歎す、所謂甚深般若波羅蜜多殊勝の功德を離れずと。南西北方四維上下も亦復た是の如し。善現當に知るべし。菩薩摩訶薩有りて初發心より般若波羅蜜多を修行し漸次に大菩提道を圓滿し乃至一切智智を證得せば亦た十方無量無數無邊

【五】所言の如く皆悉く能く作す。言行實なり。妄語人は諸天輕賤し守護せざるなり。
【六】二道を雙修し言行實なれば諸天來集禮敬安慰するを說く。
【七】菩薩甚深般若に住せば十方諸佛念じて稱揚するを明す。
【八】寶幢。菩提心を以て萬行を統率し四魔の軍衆を降伏する標幟なり。
【九】尸棄(Śikhin)。火又は持髻と譯す。過去七佛の第二佛。

を行ぜば但だ常に諸の天帝釋大梵天王諸の世界主の禮敬する所と爲るのみに非ず、是の菩薩摩訶薩は亦た此れを過ぎて極光淨天若しは遍淨天若しは廣果天若しは淨居天及び餘の天衆の常に禮敬する所と爲る。善現、是の菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多を行ぜば亦た十方無量無數無邊世界の一切の如來應正等覺の常に護念する所と爲る。(a)善現、是の菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多を行ぜば則ち般若波羅蜜多をして速に圓滿することを得せしめ亦た靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多をして速に圓滿することを得せしむ。

(a)內空乃[こ]至無性自性空。(a)眞如乃[さ]至不思議界。(a)苦聖諦乃[る]至道聖諦。(a)四靜慮乃[た]至四無色定。(a)八解脫乃[れ]至十遍處。(a)四念住乃[そ]至八聖道支。(a)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(a)極喜地乃[く]至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃[ね]至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃[な]至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。(a)一切智智。

[三]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多を行ぜば常に諸佛の護念する所と爲り速に能く一切の功德を圓滿す。是の菩薩摩訶薩は當に知るべし佛の行ずべき所の處を行じて速に無上正等菩提を證すと。善現當に知るべし是の菩薩摩訶薩は其の心堅固にして假使ひ十方殑伽沙等の世界の有情皆變じて魔と爲り、是の一一の魔各復た是の如き數魔を化作し、是の諸の惡魔皆無量無邊の神力有るも、是の如き諸の魔是の菩薩摩訶薩に留難して甚深般若波羅蜜多を行ずること能はさらしめ亦た所求の無上正等菩提を證せさらしむること能はず。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩二法を成就せば一切の惡魔沮壞して甚深般若波羅蜜多を行ずること能はさらしめ亦た所求の無上正等菩提を證せさらしむること能はず。何等をか二と爲す。一には[四]諸法皆畢竟空なりと觀じ二には一切の有情を棄捨せさるなり。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩二法を成就せば一切の惡魔沮壞して甚深般若波羅蜜多を行ずること能はさらしめ亦た所求の無上正等菩提を證せさらしむること能は

(a)「善現是菩薩摩訶薩能如是行甚深般若波羅蜜多則令般若波羅蜜多速得圓滿亦令靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多速得圓滿」右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【三】般若を行ずる菩薩能く諸佛に護念され、惡魔の壞する能はざる因緣を明す。

【四】諸法畢竟空等。諸法畢竟空なりと觀ずるは慧眼に依る空觀、一切の有情を棄捨せずとは法眼に依る慈悲、これを悲空二道と稱す。

卷の第三百四十六

初分堅等讃品第五十七之五

[一]爾の時佛、具壽善現に告げて言はく、善現、何の因緣の故に諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多に於て心沈沒せざるやと。[二]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、一切法皆非有なるを以ての故に諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多に於て心沈沒せざるなり。世尊、一切法皆遠離なるを以ての故に諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多に於て心沈沒せざるなり。世尊、一切法皆寂靜なるを以ての故に諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多に於て心沈沒せざるなり。世尊、一切法無所有なるを以ての故に諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多に於て心沈沒せざるなり。世尊、一切法無生滅なるを以ての故に諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多に於て心沈沒せざるなり。世尊、是の如き等の種種の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多に於て心沈沒せざるなり。何を以ての故に、世尊、諸の菩薩摩訶薩は一切法に於て若しは能沈沒若しは所沈沒若しは沈沒時若しは沈沒處若しは沈沒者此れに由りて沈沒する皆得可からざればなり。一切法得可からざるを以ての故に、世尊、若し菩薩摩訶薩是の事を說くを聞くも心沈沒せず驚かず怖かず亦た憂悔せざるなり。當に知るべし是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずと。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩一切法を觀ずるに皆得可からず施設す可からざればなり。是れ能沈沒、是れ所沈沒、是れ沈沒時、是れ沈沒處、是れ沈沒者、此れに由りて沈沒すと。是の因緣に由りて諸の菩薩摩訶薩は是の如きの事を聞くも心沈沒せず驚かず怖かず亦た憂悔せざるなり。

世尊、若し菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多を行ぜば諸の天帝釋大梵天王諸の世界の主の常に禮敬する所なりと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩能く是の如く甚深般若波羅蜜多

【一】般若を行じて心沈沒せざる者は、佛の如く敬禮せらるゝことを明す。
【二】善現般若に於て心沈沒せざる所以を說く。

離なるが故に一切の菩薩摩訶薩行離、受想行識離なるが故に一切の菩薩摩訶薩行離なり。諸の天子、色離なるが故に諸佛の無上正等菩提離、受想行識離なるが故に諸佛の無上正等菩提離なり。色離なるが故に一切智智離、受想行識離なるが故に一切智智離なり。

(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界（四念乃至八聖道支まで）

巻の第三百四十四

初分堅等讃品第五十七之三

(b)地界乃至識界（空無相無願解脫門より）(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。

巻の第三百四十五

初分堅等讃品第五十七之四

(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。(b)一切智智。

諸の王子、若し菩薩摩訶薩諸法の遠離せさる無きを説くを聞きて心沈沒せず驚かず怖かず亦た憂悔せずんば當に知るべし是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずるなりと。

(b) 前巻と同意。

(b) 前巻と同意。

(b)復た次に諸の天子、色離なるが故に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多離、受想行識離なるが故に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多離なり。諸の天子、色離なるが故に內空外空內外空空空大空勝義空有爲空無爲空畢竟空無際空散空無變異空本性空自相空共相空一切法空不可得空無性空自性空無性自性空離、受想行識離なるが故に內空乃至無性自性空離なり。諸の天子色離なるが故に眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界離、受想行識離なるが故に眞如乃至不思議界離なり。諸の天子、色離なるが故に苦集滅道聖諦離、受想行識離なるが故に苦集滅道聖諦離なり。諸の天子、色離なるが故に四靜慮四無量四無色定離、受想行識離なるが故に四靜慮四無量四無色定離なり。諸の天子、色離なるが故に八解脫八勝處九次第定十遍處離、受想行識離なるが故に八解脫八勝處九次第定十遍處離なりと。諸の天子、色離なるが故に四念住四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支離、受想行識離なるが故に四念住乃至八聖道支離なり。諸の天子、色離なるが故に空無相無願解脫門離、受想行識離なるが故に空無相無願解脫門離なり。諸の天子、色離なるが故に極喜地離垢地發光地焰慧地極難勝地現前地遠行地不動地善慧地法雲地離、受想行識離なるが故に極喜地乃至法雲地離なり。諸の天子、色離なるが故に五眼六神通離、受想行識離なるが故に五眼六神通離なり、諸の天子、色離なるが故に佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法離、受想行識離なるが故に佛の十力乃至十八佛不共法離なり、諸の天子、色離なるが故に無忘失法恒住捨性離、受想行識離なるが故に無忘失法恒住捨性離なり。諸の天子、色離なるが故に一切智道相智一切相智離、受想行識離なるが故に一切智道相智一切相智離なり。諸の天子、色離なるが故に一切陀羅尼門一切三摩地門離、受想行識離なるが故に一切陀羅尼門一切三摩地門離なり。諸の天子、色離なるが故に預流一來不還阿羅漢果離、受想行識離なるが故に預流一來不還阿羅漢果離なり。諸の天子、色離なるが故に獨覺菩提離、受想行識離なるが故に獨覺菩提離なり。諸の天子、色

(b)「復次諸天子色離故布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多離受想行識離故布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多離…………諸天子色離故一切智智離受想行識離故一切智智離」右の文中「色乃至識」のある所に皆次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す但し諸法中布施波羅蜜多以後一切智智に至るまでの間にて同法の重複する場合は後より來る同じ法を省くものとす例へば「布施波羅蜜多離なるが故に內空乃至無性自性空離なり」とするが如く「布施波羅蜜多離なるが故に布施波羅蜜多離」等とせざるが如し以下皆然り。

伏利樂の事も當に知るべし亦た離なりと。有情空なるが故に此の調伏利樂の事も當に知るべし亦た空なりと。有情不堅實なるが故に此の調伏利樂の事も當に知るべし亦た不堅實なりと。有情無所有なるが故に此の調伏利樂の事も當に知るべし亦た無所有なりと。天子當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩も亦た無所有なりと。所以は何ん、諸の天子、有情離なるが故に當に知るべし菩薩摩訶薩も亦た離なりと。有情空なるが故に當に知るべし菩薩摩訶薩も亦た空なりと。有情不堅實なるが故に當に知るべし菩薩摩訶薩も亦た不堅實なりと。有情無所有なるが故に當に知るべし菩薩摩訶薩も亦た無所有なりと。諸の天子、若し菩薩摩訶薩是の如きの事を聞きて心沈沒せず驚かず怖かず亦た憂悔せずんば當に知るべし是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずるなりと。

卷の第三百四十三

初分堅等讃品第五十七之二

[一]何を以ての故に、(a)諸の天子、色離なるが故に有情離、受想行識離なるが故に有情離なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提、諸の天子、一切智智離なるが故に有情離なり。

【一】諸法離を明す。(a)「諸天子色離故有情離受想行識離故有情離」右の文中「色乃至識」のある所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(a)にて略し次下その諸法のみ略出す。

爾の時無量の欲色界の天子有り咸く是の念を作さく、若し善男子善女人等能く無上正等覺の心を發して深般若波羅蜜多に說く所の義の如く行せば實際平等法性を證せず聲聞及び獨覺地に墮ちず。是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて甚だ爲れ希有にして能く難事を爲す、應當に敬禮すべしと。具壽善現、諸の天子の心の所念を知り便ち之に告げて言はく、是の菩薩摩訶薩の實際平等法性を證せず聲聞及び獨覺地に墮ちざるは未だ甚だ希有ならず難しと爲すに足らず。若し菩薩摩訶薩一切法及び諸の有情皆不可得なりと知りて無上正等覺の心を發し功德の鎧を擐、無量無數無邊百千の有情を度せんが爲に無餘涅槃を究竟することを得せしめば是の菩薩摩訶薩は乃ち甚だ希有にして能く難事を爲すなり、[四]天子當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は有情都て所有無しと知ると雖も而かも無上正等覺の心を發して功德の鎧を擐、諸の有情類を調伏せんと欲すと爲すは虛空を調伏せんと欲すと爲す有るが如し。所以は何ん、諸の天子、虛空離なるが故に當に知るべし一切有情も亦た離なりと。虛空空なるが故に當に知るべし一切有情も亦れ空なりと。虛空不堅實なるが故に當に知るべし一切有情も亦た不堅實なりと。虛空無所有なるが故に當に知るべし一切有情も亦た無所有なりと。是を以ての故に諸の天子、是の菩薩摩訶薩は甚だ爲れ希有にして能く難事を爲す。天子當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩大悲の鎧を擐一切の有情を調伏せんと欲すと爲し、而かも諸の有情都て無所有なるは鎧を擐て虛空と戰ふ有るが如しと。天子當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩大悲の鎧を擐て一切の有情を利樂せんと欲すを爲すも而かも諸の有情及び大悲の鎧は倶に得可からず。所以は何ん、諸の天子、有情は離なるが故なり。此の大悲の鎧も當に知るべし亦た離なりと。有情空なるが故に此の一悲の鎧も當に知るべし亦た空なりと。有情不堅實なるが故に此の大悲の鎧も當に知るべし亦た不堅實なりと。有情無所有なるが故に此の大悲の鎧も當に知るべし亦た無所有なりと。天子當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩、調伏利樂諸の有情事も亦た得可からずと。所以は何ん、有情離なるが故に此の調

【四】有情得べからずして有情を度すること虛空を度するが如し。

初分堅等讚品第五十七之一

時に舍利子、善現に問ふて言はく、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時堅實法を行ずと爲すや無堅實法を行ずと爲す耶と。善現答へて言はく、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時無堅實法を行ずと爲し、堅實法を行ずと爲さず。何を以ての故に、(g)舍利子、般若波羅蜜多は無堅實なるが故に靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た無堅實なるが故なり。(g)內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)四念住乃至八聖道支。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)極喜地乃至法雲地。(g)五眼・六神通。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)無忘失法・恒住捨性。(g)一切智乃至一切相智。(g)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(g)一切の菩薩摩訶薩行、諸佛の無上正等菩提。

舍利子、一切智智は無堅實なるが故なり。

所以は何ん、(a)舍利子、菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時般若波羅蜜多に於て尙ほ無堅實の得可きをすら見ず、況んや堅實の得可き有らんを見んや。靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多に於ても亦た尙ほ無堅實の得可きをすら見ず、況んや堅實の得可き有らんと見んや。

(h)圓空乃至無性自性空。(h)眞如乃至不思議界。(h)苦聖諦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定。(h)八解脫乃至十遍處。(h)四念住乃至八聖道支。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)極喜地乃至法雲地。(h)五眼・六神通。(h)佛の十力乃至十八佛不共法。(h)無忘失法・恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。(h)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(h)一切の菩薩摩訶薩行、佛の無上正等菩提。

舍利子、菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時一切智智に於てすら尙ほ無堅實の得可きを見ず、況んや堅實の得可き有らんと見んやと。

【一】堅實不堅實等の不可得甚深を明し、後に十方諸佛の讚歎を明す故に名づく。

【二】堅無堅實不可得にして等法なり。衆生不可得にして能く衆生を度するは菩薩の難行たるを明す。

【三】堅實法等。堅實法は決定不變にして取著すべきものあるを云ひ、無堅實法は虛誑妄語なり。

(g)「舍利子般若波羅蜜多無堅實故靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多亦無堅實故」右の六度の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(g)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(h)「舍利子菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多時於般若波羅蜜多……於靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多亦尙不見無堅實可得況見有堅實可得」右の文中「六度」の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(h)にて略し以下その諸法のみ略出す。

正等覺は分別無く分別斷ずるに由るが故に有りと施設す可く、現在十方の諸佛世界の一切の如來應正等覺の現に說法したまふ者も亦た分別無く分別斷ずるが故に有りと施設すべし。舍利子、此の因緣に由りて一切法皆分別無きを知る。無分別眞如法界法性實際を以て定量と爲すが故に。舍利子、菩薩摩訶薩は應に是の如き無分別相の甚深般若波羅蜜多を行ずべし。若し是の如き無分別相の甚深般若波羅蜜多を行ぜば便ち能く無分別相の所求の無上正等菩提を證得すと。

一切陀羅尼門・一切三摩地門。(e)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行・諸佛の無上正等菩提。

善現、有爲界も亦た分別無く無爲界も亦た分別無しと爲す耶と。善現答へて言はく、(f)舍利子、色も亦た分別無く受想行識も亦た分別無し。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)極喜地乃至法雲地。(f)五眼・六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法・恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(f)預流果乃至阿羅漢果獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行・諸佛の無上正等菩提。舍利子、有爲界も亦た分別無く無爲界も亦た分別無しと。

舍利子言はく、善現、若し一切法皆分別無くんば云何が而かも地獄傍生鬼界人天の五趣の差別有り云何が復た預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩諸佛位を修する有りて異るやと。善現言はく、舍利子、有情は顚倒煩惱の因緣もて種種の身語意業を造作し此れに由りて[五]欲の根本業異熟果と爲るを感得す。此れに依りて地獄傍生鬼界人天の五趣差別を施設す。云何が預流等の諸位を修する有りて異るやと言へるは、舍利子、分別無きが故に預流及び預流果を修する有り、分別無きが故に一來及び一來果を修する有り、分別無きが故に不還及び不還果を修する有り、分別無きが故に阿羅漢及び阿羅漢果を修する有り、分別無きが故に獨覺及び獨覺菩提を修する有り、分別無きが故に菩薩摩訶薩及び菩薩摩訶薩道を修する有り、分別無きが故に如來應正等覺及び佛の無上正等菩提を修する有り。舍利子、過去の如來應正等覺は分別無く分別斷ずるに由るが故に有りと施設す可く、未來の如來應

(f)「舍利子色亦無分別受想行識亦無分別」右も(e)の場合の如くして以下略す。

【五】欲の根本業異熟果。貪欲を根本とせる惡業果を云ふ。

如く深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如く是の念を作さず、我れ聲聞及び獨覺地に遠ざかり我れ無上正等菩提に近づくと。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は分別無きが故なり。世尊、如來等所作有らんと欲し化者を化作して彼の事を作さしめ而かも所化の者是の念を作さざるが如し、我れ能く是の如き事業を造作すと。所以は何ん、諸の所化の者分別無きが故なり。甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し、爲す所有るが故に勤めて修習し、旣に修習し已て能く所作の事業を成辦すと雖も而かも所作に於て都て分別無し。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は分別無きが故なり。世尊、譬へば工匠或は彼の弟子所爲有るが故に諸の機關、或は女或は男若しは象馬等を造る。此の諸の機關作す所有りと雖も而かも彼の事に於て都て分別無し。所以は何ん、諸の機關の事分別無きが故なり。甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し、所爲有るが故に而かも之を成立す、旣に成立し已て能く種種の事業を成辦すと雖も而かも所作に於て都て分別無し。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は一切法に於て分別無きが故なりと。

[四]爾の時具壽舍利子、具壽善現に問うて言はく、善現、但だ般若波羅蜜多のみ分別無しと爲すや、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た分別無き耶と。善現答へて言はく、舍利子、但だ般若波羅蜜多のみ分別無きに非ず靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た分別無しと。時に舍利子復た善現に問うて言はく、(e)善現、色も亦た分別無く受想行識も亦た分別無しと爲すや。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)極喜地乃至法雲地。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法・恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)

【四】一切法無分別にして迷悟あるを說く。

(e)「善現爲色亦無分別受想行識亦無分別耶」右の文中「色乃至識」の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す。

我れ無上正等菩提に近づくと。[二]世尊、譬へば虛空の是の念を作さざるが如し、我れ此の法を去ること若しは遠く若しは近しと。所以は何ん、虛空は動無く亦た差別無く分別無きが故なり。深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩も亦復是の如し、是の念を作さず、我れ聲聞及び獨覺地に遠ざかり我れ無上正等菩提に近づくと。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は分別無きが故なり。世尊、譬へば幻士の是の念を作さざるが如し、幻に似たる所の法我れを去ること僞れ遠く幻具幻師我れを去ること僞れ近く聚集せる徒衆亦たは近く亦は遠しと。所以は何ん、幻作する所の士は分別無きが故なり。深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如く是の念を作さず、我れ聲聞及び獨覺地に遠ざかり我れ無上正等菩提に近づくと。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は分別無きが故なり。世尊、譬へば影像の是の念を作さざるが如し、我れ彼れ現ずるに因りて我れを去ること僞れ近く、[三]因せざる所の法は我れを去ること僞れ遠しと。所以は何ん、現ずる所の影像は分別無きが故なり。深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如く是の念を作さず、我れ聲聞及び獨覺地を遠ざかり我れ無上正等菩提に近づくと。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は分別無きが故なり。世尊、深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩は愛無く憎無し。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多及び一切法は愛憎の自性不可得なるが故なり。世尊、諸の如來應正等覺の愛無く憎無きが如く深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如く愛無く憎無し。所以は何ん、諸佛菩薩は一切法に於て分別無きが故なり。世尊、諸の如來應正等覺の是の念、我れ聲聞及び獨覺地に遠ざかり我れ無上正等菩提に近づくと、作さざるが如く深般若波羅蜜多を行ずる 諸の菩薩摩訶薩も 亦復た是の如く是の念を作さず、我れ聲聞及び獨覺地に遠ざかり我れ無上正等菩提に近づくと。所以は何ん、諸佛菩薩は分別無きが故なり。世尊、諸の如來應正等覺の變化する所の者の是の念、我れ聲聞及び獨覺地に遠ざかり我れ無上正等菩提に近づく。所以は何ん、變化する所の者分別無きが故なりと、作さざるが

【二】種々の比喩を以て般若の無分別を說く。

【三】因せざる所の法、現出せざる影像を云ふ。

切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。(d)一切智智。

是の故に善現、菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多に依らずんば能く無上正等菩提を證するに非ず。離法能く離法を證するに非ずと雖も而かも無上正等菩提を證するは甚深般若波羅蜜多に依止せざるに非ず。是の故に菩薩摩訶薩衆無上正等菩提を得んと欲せば應に勤めて甚深般若波羅蜜多を修學すべしと。

【二】菩薩の行ずる畢竟離法の甚深なるを明す。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩の行ずる所の法義は極めて爲れ甚深なりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸の菩薩摩訶薩の行ずる所の法義は極めて爲れ甚深なり。善現當に知るべし、諸の菩薩は能く難事を爲す、是の如き甚深の法義を行ずと雖も而かも聲聞獨覺地法に於て能く證を作さずと。爾の時善現白して言さく、世尊、我れ佛の所說の義を解する如くんば諸の菩薩摩訶薩の所作は難からず。所以は何ん、諸の菩薩摩訶薩の證する所の法義は都て不可得なり、能證の般若波羅蜜多も亦た不可得なり、證法證者證處證時も亦た不可得なり。世尊、諸の菩薩摩訶薩は一切法既に不可得なりと觀ぜば何の法義有りて所證と爲す可けん、何の般若波羅蜜多有りて能證と爲す可けん、復た何等有りて而かも證法證者證處證時を施設す可ん、既に爾れば云何が此れに由りて無上正等菩提を證得すと執す可けん。無上菩提すら尚ほ證す可けからず況んや聲聞獨覺地法を證せんをや。世尊、是れを菩薩の無所得行と名づく。若し菩薩摩訶薩能く是の如き無所得行を行ぜば一切法に於て闇障無きことを得、世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き語を聞きて心沈沒せず驚かず怖かず亦た憂悔せずんば是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。世尊、是の菩薩摩訶薩是の如く行ずる時衆相を見ず、我が行を見ず、行ぜざるを見ず、般若波羅蜜多は是れ我が行ずる所なりと見ず、無上正等菩提は是れ我が所證なりと見ず、亦復た證處時等を見ず。世尊、是の菩薩摩訶薩は甚深般若波羅蜜多を行ずる時是の念を作さず、我れ聲聞及び獨覺地に遠さかり、

(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)一切智智。

(b)善現、般若波羅蜜多は畢竟離、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た畢竟離なるを以ての故に、菩薩摩訶薩は無上正等菩提を得可し。

(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。(b)一切智智。

復た次に(c)善現、若し般若波羅蜜多畢竟離に非ずんば般若波羅蜜多に非るべく、若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多畢竟離に非ずんば靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多に非さるべし。

(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門。(c)一切三摩地門。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。(c)一切智智。

(d)善現、般若波羅蜜多畢竟離なるを以ての故に名づけて般若波羅蜜多と爲し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多畢竟離なるを以ての故に名づけて靜慮靜進安忍淨戒布施波羅蜜多と爲す。

(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一

(b)「善現以般若波羅蜜多畢竟離靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多亦畢竟離故菩薩摩訶薩可得無上正等菩提」右も(a)の場合の如くして以下略す。

(c)「善現若般若波羅蜜多非畢竟離應非般若波羅蜜多若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多非畢竟離應非靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右も(b)の場合に準じて以下略す。

(d)「善現以般若波羅蜜多畢竟離故名爲般若波羅蜜多以靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多畢竟離故名爲靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右も(c)の場合に準じて以下略す。

離する法を見ず。何等の法か是れ有なり是れ無なりと說かん、一切法畢竟離なるを以ての故に。若し一切法畢竟離なれば此の法は是れ有なり此の法は是れ無なりと施設す可からず。若し法の有無を施設す可からずんば則ち能く無上正等菩提を證すと說く可からず。無所有の法は能く菩提を證するに非ざるが故に。所以は何ん、一切法は皆所有の性無く不可得無染無淨なるを以てなり。何を以ての故に、(d)世尊、般若波羅蜜多は畢竟離の故に、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た畢竟離の故なり。(d)內空乃[わ]至無性自性空。(d)眞如乃[か]至不思議界。(d)苦聖諦乃[る]至道聖諦。(d)四靜慮乃[た]至四無色定。(d)八解脫乃[れ]至十遍處。(d)四念住乃[そ]至八聖道支。(d)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(d)極喜地乃[く]至法雲地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃[ね]至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃[な]至一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

世尊、一切智智も亦た畢竟離の故なり。世尊、若し法畢竟離なれば是の法は修すべからず亦た壞すべからず亦た引くべからず。甚深般若波羅蜜多は畢竟離の故に能引すべからず。世尊、甚深般若波羅蜜多既に畢竟離なれば云何が菩薩摩訶薩は甚深般若波羅蜜多に依りて無上正等菩提を證得すと說く可けん。世尊、諸佛の無上正等菩提も亦た畢竟離なれば云何が離法能く離法を證せんや。是の故に般若波羅蜜多は應に無上正等菩提を證得すと說く可からずと。

卷の第三百四十二

初分願喩品第五十六之二

佛言はく、善現、善哉善哉、是の如し是の如し、汝が所說の如し。(a)善現、般若波羅蜜多は畢竟離、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多も亦た畢竟離なり。(a)內空乃[わ]至無性自性空。(a)眞如乃[か]至不思議界。(a)苦聖諦乃[る]至道聖諦。(a)四靜慮乃[た]至四無色定。(a)八解脫乃[れ]至十遍處。(a)四念住乃[そ]至八聖道支。

(d)「世尊般若波羅蜜多畢竟離故靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多亦畢竟離故」右は(c)の場合の如くして以下略す。

(a)「善現般若波羅蜜多畢竟離靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多畢竟離」右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す。

尸迦、諸の善男子善女人等は初發心の菩薩摩訶薩の功德善根に於て應に隨喜を生じて無上正等菩提に廻向すべし。廻向の時に於ては心に即し心を離るゝに執著すべからず。亦た心に即して修行し心を離れて修行するに執著すべからず。諸の善男子善女人等久發心の菩薩摩訶薩の功德善根に於て應に隨喜を生じて無上正等菩提に廻向すべし。廻向の時に於ては心に即し心を離るゝに執著すべからず亦た心に即して修行し心を離れて修行するに執著すべからず。諸の善男子善女人等不退轉の菩薩摩訶薩の功德善根に於て應に隨喜を生じて無上正等菩提に廻向すべし。廻向の時に於ては心に即し心を離るゝに執著すべからず亦た心に即して修行し心を離れて修行するに執著すべからず。諸の善男子善女人等一生所繫の菩薩摩訶薩の功德善根に於て應に隨喜を生じて無上正等菩提に廻向すべし。廻向の時に於ては心に即し心を離るゝに執著すべからず亦た心に即して修行し心を離れて修行するに執著すべからず。若し能く是の如く執著する所無くして隨喜し廻向せば疾く無上正等菩提を證し諸の天人阿素洛等を度し生死を脫して涅槃の樂を得せしめんと。

[九]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は幻の如き心を以て能く無上正等菩提を證するやと。佛言はく、善現、意に於て云何、汝菩薩摩訶薩等の幻の如き心を見るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、我れ幻を見ず亦た幻の如き心有るを見ずと。佛言はく、善現、意に於て云何、若し幻無く幻の如き心無きに處して汝是の心の能く無上正等菩提を證する有るを見るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、我れ都て幻無く幻の如き心無きに處する有りて、更らに是の心、能く無上正等菩提を證する有るを見ずと。佛言はく、善現、心に於て云何、若し幻を離れ幻の如き心を離るゝに處して汝是の法の能く無上正等菩提を證する有るを見るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝、我れ都て幻を離れ幻の如き心を離るゝに處する有りて更らに是の法の能く無上正等菩提を證する有るを見ず。[一〇]世尊、我れ都て心に

【九】如幻心能く無上菩提を證するを明す。

【一〇】一切法畢竟離なりと說く。

當に知るべし皆是れ魔の眷屬なりと。世尊、若し諸の有情、諸の菩薩の功德善根に於て隨喜せずんば當に知るべし皆魔の天界より沒して是の間に來生せるなりと。所以は何ん、若しは諸の菩薩摩訶薩衆無上正等菩提を求趣し、若しは發心して彼の功德に於て深く隨喜する有らば能く一切の魔軍宮殿眷屬を破壞して無上正等菩提に廻向すと僞せばなり。世尊、若し諸の有情深心に佛法僧寶を愛敬せば諸の菩薩の功德善根に於て應に隨喜を生ずべし、既に隨喜し已らば無上正等菩提に廻向して[八]一二多想を生ずべからず、若し能く是の如く速に無上正等菩提を證せば有情を度脫して魔の眷屬を破すと。

爾の時佛、天帝釋の告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。憍尸迦、若し善男子善女人等、諸の菩薩の功德善根に於て深く隨喜を生じ無上正等菩提に廻向せば是の善男子善女人等は速に無上正等菩提を證し、速に能く諸の菩薩行を圓滿し、速に能く一切の如來應正等覺を供養し、常に善友に遇ひて恒に般若波羅蜜多甚深の經典を聞かん。是の善男子善女人等は是の如き功德善根を成就して所生の處に隨ひて常に一切世間天人阿素洛等に供養恭敬尊重讚歎せられ、惡色を見ず惡聲を聞かず惡香を嗅かず惡味を嘗めず惡觸を覺らず常に理の如くならざる法を思念せず。終に諸佛世尊を遠離せず、一佛土より一佛土に至り諸佛の諸の善根を種うるに親近して有情を成熟し佛土を嚴淨せん。何を以ての故に、憍尸迦、是の善男子善女人等は能く無量無數無邊の最初發心の菩薩摩訶薩の功德善根に於て深く隨喜を生じて無上正等菩提に廻向し、能く無量無數無邊の已に初地乃至十地に住せる菩薩摩訶薩の功德善根に於て深く隨喜を生じて無上正等菩提に廻向し、能く無量無數無邊の一生所繫の菩薩摩訶薩の功德善根に於て深く隨喜を生じて無上正等菩提に廻向すればなり。此の因緣に由りて是の善男子善女人等の善根增進して速に無上正等菩提に近づき無上大菩提を證得し已て能く無量無數無邊の諸の有情類を度し、無餘依般涅槃界に於て般涅槃す。是を以ての故に、憍

【八】一二多想を生ず可からず。諸法定想を見ざれば一に非ず、隨喜心廻向心を分別せざれば二多想を生ず可からずとなす。

せしめんと。是の願を作し已て卽ち佛に白して言さく、世尊、若し菩薩乘の諸の善男子善女人等已に無上正等覺の心を發さば我れ終に一念異意を生じ其れをして一菩提心を退轉せしめず、我れ亦た一念異意を生じ諸の菩薩摩訶薩衆をして無上正等菩提を厭離し退きて聲聞或は獨覺地に住せしめず。世尊、若し諸の菩薩摩訶薩衆已に無上正等菩提の心に於て樂欲を生ぜば我れ彼の心倍復た增進して速に無上正等菩提を證せんことを願ふ。願はくは彼の菩薩摩訶薩衆生死中の種種の苦を見已て世間の天人阿素洛等を利樂せんと欲するが爲に種種堅固の大願を發起せんことを。我れ既に自ら生死の大海を度れり亦た當に精勤して未度者を度すべし。我れ既に自ら生死の繫縛を解けり、亦た當に精勤して未解者を解かしむべし。我れ種種生死の怖畏に於て既に自ら安隱なり、亦た當に精勤して未安者を安んずべし。我れ既に自ら究竟涅槃を證せり、亦た當に精勤して未證者をして皆同じく證得せしむべしと。世尊、若し善男子善女人等初發心の菩薩の功德に於て隨喜心を起さば幾所の福を得るや、久發心の菩薩の功德に於て隨喜心を起さば幾所の福を得るや、不退轉地の菩薩の功德に於て隨喜心を起さば幾所の福を得るや、[四]一生所繫の菩薩の功德に於て隨喜心を起さば幾所の福を得るやと。[五]爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、四大洲界の斤兩は知る可きも是の隨喜の福は稱量す可からず。復た次に憍尸迦、小千世界の斤兩は知る可きも是の隨喜の福は稱量す可からず。復た次に憍尸迦、中千世界の斤兩は知る可きも是の隨喜の福は稱量す可からず。復た次に憍尸迦、我が此の三千大千世界の斤兩は知る可きも是の隨喜の福は稱量す可からず、復た次に憍尸迦、假使ひ三千大千世界合して一海と爲らんに、若し復た能く一毛髮を取り折りて百分と爲す有り、一分端を取りて彼の海水に沾して[六]渧數を知る可きも是の隨喜の福は數へ知る可からず。何を以ての故に、憍尸迦、是の善男子善女人等の隨喜する所の福は無邊際なるが故なりと。時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、若し諸の有情諸の菩薩の功德善根に於て隨喜せずんば當に知るべし皆是れ魔の魅著する所なりと。世尊、若し諸の有情、諸の菩薩の功德善根に於て隨喜せずんば

【四】一生所繫。一生補處に同じ。一生を經れば佛位を補ふべき等覺の位階に在ること。
【五】比喩を以て隨喜の福德の無量無邊際なるを明す。
【六】渧數。滴數に同じ。

初分願喩品第五十六之一[一]

[二]時に天帝釋是の念言を作さく、(c)若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を修行し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修行するすら尙ほ一切有情の上に超ゆ、況んや無上正等菩提を得んをや。
(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)菩薩摩訶薩行。(c)無上正等菩提。

若し諸の有情一切智智の名字を說くを聞きて心に信解を生ずるすら尙ほ人中の善利を獲得し及び世間最勝の壽命を得と爲す、況んや無上正等覺の心を發し、或は常に是の如き般若波羅蜜多甚深の經典を聽聞せんをや。若し諸の有情能く無上正等覺の心を發して般若波羅蜜多甚深の經典を聽聞せば諸餘の有情皆應に獲る所の功德を願樂すべし、世間の天人阿素洛等及ぶ能はざるが故にと。爾の時世尊、天帝釋の心の所念を知ろしめし卽便ち告げて言はく、憍尸迦、是の如し是の如し、汝が所念の如しと。

[三]時に天帝釋深心に歡喜し卽ち天上微妙の香華を取りて如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆に散じ奉り、既に散華し已て是の願を作して言はく、若し菩薩乘の諸の善男子善女人等無上正等菩提を求趣せば我が所生の善根功德を以て彼の所求の無上佛法をして速に圓滿することを得せしめ、彼の所求の一切智智をして速に圓滿することを得せしめ、彼の所求の自然人法をして速に圓滿することを得せしめ、彼の所求の[三]眞無漏法をして速に圓滿することを得せしめ、彼れをして一切欲する所の法を聞かしめて皆速に圓滿し、若し聲聞獨覺乘を求むる者も亦た所願をして疾く滿足することを得

【一】願喩。帝釋大願を發し、後種々の譬喩を以て般若を說くを云ふ。
【二】發心菩薩の勝德を隨喜することを明す。
(c)「若菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多修行靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多尙超一切有情之上況得無上正等菩提」
右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」の所に夫下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(c)にて略し以下之の諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」の三は「修行」の代りに「安住」の語を以てするものとす。
【二】天帝釋利他の大願を發す。
【三】眞無漏法。二乘の無漏法に對して佛菩薩の無漏法を眞無漏法と云ふ。

の如く學する時は則ち一切世間の天人阿素洛等の眞實の[二三]福田と爲る。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は諸の世間の[二四]沙門梵志聲聞獨覺の福田の上に超え速に能く一切智智を證得す。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は所生の處に隨て般若波羅蜜多を捨てす般若波羅蜜多を離れす常に般若波羅蜜多を行ぜん。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を修學せば當に知るべし已に一切智智に於て不退轉を得聲聞及び獨覺地を遠離して無上正等菩提に隣近すり。

[二五]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩甚深般若波羅蜜多を行ずる時是の如き念を作さん、[二六]此れは是れ般若波羅蜜多、此れは是れ修時、此れは是れ修處、我れ能く此の甚深般若波羅蜜多を修す、我れ是の如き甚深般若波羅蜜多に由りて是の如き捨つべき所の法を捨離して必す當に一切智智を證得すべしと。若し是の念を作さば般若波羅蜜多を行ずるに非す亦た般若波羅蜜多に於て甚深般若波羅蜜多を解了すること能はす、是の念を作さす、此れは是れ般若波羅蜜多、此れは是れ修時、此れは是れ修處、此れは是れ修者此れは是れ般若波羅蜜多の遠離すべき所の煩惱障法、此れは是れ般若波羅蜜多所證の無上正等菩提なりと。若し菩薩摩訶薩甚深般若波羅蜜多を行ずる時是の如き念を作さん此れは般若波羅蜜多に非す、此れは修時に非す、此れは修處に非す、此れは修者に非す、般若波羅蜜多に由るに非すとせば能く離るる所有り及び得る所有り。所以は何ん、一切法は皆眞如法界實際に住して差別無きを以ての故なり。若し是の如く行ぜば是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。

【二三】福田。功德を成就する基。
【二四】沙門梵志 śrāmaṇa brahmaṇa 精勤安息者、淸淨行人の意なり。
【二五】佛般若を行ずる時自ら行ずる等の執念を離るべしと敎示し給ふ。
【二六】五相分別の執着なり。

善男子善女人等菩薩乘に住し能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て聽聞し受持し讀誦し書寫し思惟し修習せば獲る所の福聚は甚だ前よりも多く無量無數なり。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は大義利を具し能く菩薩摩訶薩衆をして速に無上正等菩提を引きて前に得たる所の諸の善根に勝らしむるが故なり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩一切有情の[一九]上首に居らんと欲せば當に是の如き甚深般若波羅蜜多を學すべし。若し菩薩摩訶薩普ねく一切有情を饒益して救護無き者には爲に救護を作り、歸依無き者には爲に歸依と作り、投趣無き者には爲に投趣を作り、眼目無き者には爲に眼目と作り、光明無き者には爲に光明と作り、道路を失へる者には示すに道路を以てし、未だ涅槃せざる者には涅槃を得せしめんと欲せば當に是の如き甚深般若波羅蜜多を學すべし。若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を得んと欲し、諸佛所行の境界を行ぜんと欲し、[二〇]佛の遊戲する所の處に遊戲せんと欲し、諸佛の[二一]大獅子吼を作さんと欲し、諸佛の無上の法鼓を擊たんと欲し、諸佛の無上の法鐘を扣かんと欲し、諸佛の無上の法螺を吹かんと欲し、諸佛の無上の法座に昇らんと欲し、諸佛の無上の法義を說かんと欲し、一切有情の疑網を決せんと欲し、諸佛の[二二]甘露の法界に入らんと欲し、諸佛の微妙の喜樂を受けんと欲せば當に是の如き甚深般若波羅蜜多を學すべし。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を修學せば一切の功德善根有りて而かも得ること能はざる無しと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を修學せば豈に亦た能く聲聞獨覺の功德善根をも得るやと。佛言はく、善現、聲聞獨覺の功德善根は此の諸の菩薩摩訶薩衆も亦た皆能く得、但だ其の中に於て住する無く著する無し。勝智見を以て正しく觀察し已て彼の位に超過し菩薩の正性離生に趣入するが故に。此の菩薩摩訶薩衆は一切の功德善根有りて而かも得ること能はざる無し。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は則ち一切智智に隣近し疾く無上正等菩提を證すと爲す。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是

【一九】上首。第一位。

【二〇】遊戲。自在なるなり。

【二一】大師子吼。大說法なり。

【二二】甘露の法界。不滅の眞生界即ち涅槃界。

不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃(三)至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)預流果(二)乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多善巧方便を行じて都て法の是れ得可き者を見ず、無所得なるが故に執取色等の法相應の心を起さざるなり。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く甚深般若波羅蜜多善巧方便を修學せば能く一切波羅蜜多を攝し能く一切波羅蜜多を集め能く一切波羅蜜多を導くなり。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多中には一切の波羅蜜多を含容するが故なり。善現、譬へば一六薩迦耶見の普ねく能く一七六十二見を攝受するが如し、甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如く一切の波羅蜜多を含容す。善現譬へば諸の殞沒者の命根滅するが故に諸根隨て滅するが如く、甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し、一切の所學の波羅蜜多悉く皆隨從す、若し般若波羅蜜多無くんば亦た一切の般若波羅蜜多無し。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩、一切波羅蜜多の究竟の彼岸に到らんと欲せば應に勤めて甚深般若波羅蜜多を修學すべし。善現當に知るべし、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を修學せば諸の有情に於て最も上首と爲ると。何を以ての故に、善現、是の菩薩は已に能く無上處を修學せるが故なり。

一八復た次に善現、意に於て云何、此の三千大千世界に於ける諸の有情類寧ろ多しと爲すや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝。贍部洲の中の諸の有情類すら尙ほ多くして無數なり。何に況んや三千大千世界の諸の有情類をやと。佛言はく、善現、假使ひ三千大千世界の諸の有情類前に非ず後に非ず皆人身を得、人身を得已て前に非ず後に非ず皆無上正等菩提を證せんに、善男子善女人等有りて菩薩乘に住し其の形壽を盡くすまで能く上妙の衣服飮食臥具湯藥及び餘の資具を以て此の諸の如來應正等覺を供養恭敬尊重讃歎せば是の善男子善女人は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、善現、若し

【一六】薩迦耶見(Sat-kāyadar=śana)。有身見と譯す、五見中の身見なり。五蘊假和合の體を執著して眞實我有りと思ひ自分の身體として我我所の見を起すを云ふ。

【一七】六十二見。外道に於て五蘊中、一蘊毎に四種見を起して二十あり、三世を經て六十となる。この六十見は斷常二見を根本義とする故根本二見を合して六十二見と稱するなり。長阿含梵網經並に大毘婆沙などには本劫本見四十四見、末劫末劫十八見を六十二見とす。

【一八】希有最勝なる眞の般若行を說く。

する時佛の十力四無所畏四無礙解大意大悲大喜大捨十八佛不共法等無量無數無邊の佛法に於て皆清淨を得、聲聞及び獨覺地に墮ちず、諸の有情の心行差別に於て皆能く通達し彼岸の善巧方便を至極して諸の有情をして一切法の本性清淨なることを證せしむ。善現當に知るべし、[一四]譬へば大地は少處の金銀珍寶を出生し多處の砂石瓦礫を出生するが如し。諸の有情類も亦復た是の如し、少分能く甚深般若波羅蜜多を學するも多く聲聞獨覺地法を學すと。善現當に知るべし、譬へば人趣は少分能く轉輪王業を修するも多分諸の小王業を受行するが如く諸の有情類も亦復た是の如し、少分能く一切智智道を修するも多分聲聞獨覺道を受行すと。善現當に知るべし、無上正等菩提を求趣する諸の菩薩衆は少しく無上正等菩提を得るも多く聲聞及び獨覺地に墮すと。善現當に知るべし、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等若し甚深般若波羅蜜多善巧方便を遠離せずんば定めて能く不退轉地に趣入し、若し甚深般若波羅蜜多善巧方便を遠離する有らば定めて無上正等菩提に於て當に退轉有るべしと。是の故に菩薩摩訶薩衆、菩薩の不退轉地を得んと欲せば、菩薩の不退轉數に入らんと欲せば當に勤めて甚深般若波羅蜜多善巧方便を修學すべし。

[一五]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く甚深般若波羅蜜多善巧方便を修學せば終に慳貪破戒瞋忿懈怠散亂惡慧相應の心を發起せず、終に貪欲瞋恚愚癡憍慢相應の心を發起せず、終に諸餘の過失相應の心を發起せず、(b)終に執取色相相應の心を發起せず亦た執取受想行識相相應の心を發起せず。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(む)至意界。(b)色界乃(う)至法界。(b)眼識界乃(ゐ)至意識界。(b)眼觸乃(の)至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃(く)至識界。(b)無明乃(を)至老死。(b)布施波羅蜜多乃(と)至般若波羅蜜多。(b)内空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)極喜地乃(く)至法雲地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛

【一四】佛譬喩を以て般若及び無上菩提の難學難得を說く。

【一五】般若不可得の故に諸法に於て心取相を生ぜざるを明す。

(b)「修不發起執取色相相應之心亦不發起執取受想行識相相應之心」右の文中「色乃至識」の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

を離れ麁惡語を離れ離間語を離れ雜穢語を離れ亦た貪欲瞋恚邪見を離れん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は生生の處[10]邪法を以て自ら活命せず終に虛妄の邪法を攝受せず亦た[11]破戒惡見謗法の有情を攝受せざらん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は終に少慧に耽樂する長壽天處に生ぜざらん。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は善巧方便の勢力を成就し此の善巧方便力に由るが故に能く數靜慮無量及び無色定に入ると雖も而かも彼の勢力に隨て生を受けず、甚深般若波羅蜜多に攝受せらるるが故に。是の如き善巧方便を成就し諸定中に於て常に入出自在を獲得すと雖も而かも彼の諸定の勢力に隨ひて長壽天に生じて菩薩摩訶薩行を修するを廢せず。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨及び十八佛不共法等無量無數無邊の佛法皆清淨なるを得、決定して一切の聲聞及び獨覺地に墮ちずと。[12]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切法の本性淸淨ならば云何が菩薩摩訶薩は諸法の中に於て復た淸淨を得るやと。佛、善現に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸法は本來自性淸淨なり。是の菩薩摩訶薩は一切法の本性淨中に於て精勤して甚深般若波羅蜜多を修學して如實に無沒無滯に通達し一切の煩惱染著を遠離するが故に菩薩復た淸淨を得と說く。復た次に善現、一切法は本性淸淨なりと雖も而かも諸の[13]異生は知見覺せざるなり。是の菩薩摩訶薩は彼れをして知見覺せしめんと欲するが爲の故に布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、內空乃至[わ]無性自性空に安住し、眞如乃至[か]不思議界に安住し、苦聖諦乃至[よ]道聖諦に安住し、四靜慮乃至[た]四無色定を修行し、八解脫乃至[れ]十遍處を修行し、四念住乃至[そ]八聖道支を修行し、空解脫門乃至[つ]無願解脫門を修行し、極喜地乃至[ね]法雲地を修行し、五眼・六神通を修行し、佛の十力乃至[な]十八佛不共法を修行し、無忘失法・恒住捨性を修行し、一切陀羅尼門・一切三摩地門を修行し、一切智乃至[ら]一切相智を修行す。善現、是の菩薩摩訶薩一切法の本性淸淨に於て是の如く學

【一〇】邪法を以て自ら活命せず。俯仰方維の四邪生活、或は賣卜、賣毒、酤酒、離間便佞の生活を云ふ。

【一一】破戒惡見謗法。破戒は三品戒一切戒等の正信生活を破るを云ひ、又特に十戒二百五十戒等の律儀を犯すを云ふ。惡見は我が身と云ふ邪見を本とし五見六十二見等の見執あるを云ふ。謗法は佛法大小法藏を誹謗し非佛非法非義なりとするを云ふ。

【一二】般若の淸淨通達を得るものを明す。

【一三】異生。凡夫の別名なり。凡夫は六道に輪廻して種種別異の果報を受くるの故に名づく。

（わ）六度の場合の如く分說すべきも今略を簡びて本文の如く略す。

應正等覺の行ずべき所の處を行ぜん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は[二]能護の法に於て倒に隨轉すること無けん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は能く闇を離れて作すべき所の法を行ぜん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ自らの佛土を嚴淨する法を學するなり。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ諸の有情を成熟する法を學するなり。若し菩薩摩訶薩、是の如く學する時は便ち能く如實に有情を成熟せん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は則ち能く大慈大悲を發起して一切を哀愍せん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ[三]三轉十二行相の微妙の法輪を學するなり。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ一切有情を度脱して[四]無餘依般涅槃界に置くことを學するなり。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ佛種を斷ぜざる妙行を學するなり。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ諸佛の有情類の爲に[五]甘露門を開くを學するなり。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ無量無數無邊の有情を安立して三乘法に住せしむるを學するなり。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ一切有情に究竟寂滅の眞無爲界を示現するを學するなり。是れ眞に一切智智を修學するなり。是の如く學するは[六]不劣の有情の學する能はざる所なり。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は能く實に一切有情の生死病死を拔濟し勤めて學すべき所の處を修學せしむるなり。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は決定して復た地獄傍生鬼界に墮ちず。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は決定して邊地[七]達絮蔑隷車中に生ぜず。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は決定して旃荼羅の家[八]補羯娑の家及び餘の種種の貧窮卑賤不律儀の家に生ぜず。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は終に聾盲瘖瘂[九]攣躄根支不具背僂癲癇及び餘の種種の穢惡の瘡病ならず。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は生生常に眷屬圓滿するを得形貌端嚴言詞威肅にして衆人愛敬せん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は生生の處、害生命を離れ不與取を離れ欲邪行を離れ虛誑語

【二】能護の法。福德智慧成就して諸佛菩薩諸天人守護するを云ふなり。

【三】三轉十二行。敎、行の二種あり、一は四諦の一々に示勸證の三轉ありて十二の敎法となるもの。二は三轉の一々に眼智明覺の四種の智を生ずるもの。

【四】無餘依般涅槃界。身智共に灰滅する涅槃の世界なり。

【五】甘露門を開く。甘露は不死の無爲涅槃、門は三解脱門、開くとは說くの意なり。

【六】下劣の有情。懈怠放逸にして佛法を樂しまざる者なり。

【七】達絮蔑戾車 Damila Mlecchas 曇蜜羅語機戾車語として邊地語とせらる、發智第八、韓婆沙第九等に例あり。

【八】補羯娑 (Pulkasa)。糞穢を除く賤人なり。

【九】攣躄等。攣はひきづり、躄爲ざり、根支不具は六根四支具足せざる根欠、かたわ、背僂、せむし。

佛言はく、善現、汝が所說の如き、若し菩薩摩訶薩如來盡くるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來離るるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來滅するが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來無生の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來無滅の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來本來寂靜の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來の自性涅槃の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不やとは、[一]善現、汝が意に於て云何、如來眞如は盡滅斷するや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩眞如に於て是の如く學せば是れ一切智智を學するなり。善現當に知るべし、眞如は盡無く滅無く斷無く證を作す可からずと。若し菩薩摩訶薩眞如に於て是の如く學するは是れ一切智智を學するなり。

(a)復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は是れ布施波羅蜜多を學するなり、是れ淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を學するなり。若し菩薩摩訶薩布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を學せば是れ一切智智を學するなり。

(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は一切學に至りて彼岸を圓滿す。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は一切の天魔及び諸の外道皆壞すること能はず。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は疾く菩薩の不退轉地に至らん。若し菩薩摩訶薩是の如く學する時は自らの祖父の一切の如來

【一】如來眞如は無盡、無滅、無斷なり。

(a)「復次善現若菩薩摩訶薩如是學時是學布施波羅蜜多…………若菩薩摩訶薩學布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多是學一切智智」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」のある所に次下の諸法を入るれば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

槃の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不やとは、善現、汝が意に於て云何、色眞如は盡滅斷するや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、汝が意に於て云何、受想行識眞如は盡滅斷するや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩眞如に於て是の如く學するは是れ一切智智を學するなり。善現當に知るべし、眞如は盡無く滅無く斷無く證を作す可からずと。若し菩薩摩訶薩眞如に於て是の如く學するは是れ一切智智を學するなりと。

(c)眼處乃至當處。(c)色意處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。

巻の第三百四十

初分巧便學品第五十五之四

(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)内空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提(c)有情。(c)菩薩。

巻の第三百四十一

初分巧便學品第五十五之五

(c) 前卷と同意。

(b)四念住乃[そ]至八聖道支。(b)空解脫門乃[つ]至無願解脫門。(b)極喜地乃[く]至法雲地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃[ね]至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃[な]至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)預流果乃[ら]至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。(b)有情。(b)菩薩。

世尊、若し菩薩摩訶薩如來盡くるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來離るるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來滅するが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來無生の故に學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來無滅の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來本來寂靜の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩如來の自性涅槃の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不やと。

[一](c)佛言はく、善現、汝が所說の如き、若し菩薩摩訶薩色盡くるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識盡くるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色離るるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。受想行識離るるが故に學するは是れ一切智智を學するや不や。若し菩薩摩訶薩色滅するが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識滅するが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色無生の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識無生の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色無滅の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識無滅の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色本來寂靜の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識本來寂靜の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色の自性涅槃の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識の自性涅

(b)　前卷と同意。

【一】佛善現の質疑を反問教示し給ふ。

(c)「佛言善現如汝所說若菩薩摩訶薩爲色盡故學是學一切智智不爲受想行識盡故學是學一切智……………善現當知眞如無盡無滅無斷不可作證若菩薩摩訶薩於眞如如是學是學一切智智」

右も(b)の場合の如く「色乃至識」のある所に次下の諸法を代入せば皆他は同文なり故に以下その諸法のみ略出す。

法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現復た佛に白して言さく、(b)世尊、若し菩薩摩訶薩色盡くるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識盡くるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色離るるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識離るるが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色滅するが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識滅するが故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色無生の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識無生の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色無滅の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識無滅の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色本來寂靜の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識本來寂靜の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。若し菩薩摩訶薩色の自性涅槃の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や、受想行識の自性涅槃の故に學するは是れ一切智智を學すと爲すや不や。

(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。

卷の第三百三十九

初分巧便學品第五十五之三

(b)「世尊若菩薩摩訶薩爲色盡故學是學一切智智不…………爲受想行識自性涅槃故學是學一切智智不」右も(a)の場合の如くして以下略省す。

【三】盡等。盡、離、滅等は法の本來不生なるが故にかく云ふなり。

十力乃至十八佛不共法を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ無忘失法恒住捨性を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ陀羅尼門三摩地門を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ嚴淨佛土成熟有情を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ一切智乃至一切相智を學すべきが如く我れも亦た學すべしと。復た是の念を作さん、彼の諸の菩薩は我れ等が爲に大菩提道を説く卽ち我が眞伴にして復た是れ我が師なり。若し彼の菩薩摩訶薩雜作意に住して一切智智相應の作意を遠離せば我れ則ち中に於て彼れと同じく學せず。若し彼の菩薩摩訶薩雜作意を離れ、一切智智相應の作意を離れずんば我れ則ち中に於て常に彼と同じく學せんと。阿難當に知るべし。若し諸の菩薩摩訶薩衆能く是の如く學せば菩提資糧速に圓滿することを得ん。若し諸の菩薩摩訶薩衆是の如く學せん時は平等學と名づくと。

二 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は平等性にして而かも諸の菩薩摩訶薩中に於て學するが故に平等學と名づくるやと。佛言はく、善現、內空は是れ菩薩摩訶薩の平等性、外空乃至無性自性空は是れ菩薩摩訶薩の平等性なり。諸の菩薩摩訶薩は中に於て學するが故に平等學と名づけ平等學に由りて疾く無上正等菩提を證す。(a)復た次に善現、色は色の自性空是れ菩薩摩訶薩の平等性、受想行識は受想行識の自性空是れ菩薩摩訶薩の平等性なり。諸の菩薩摩訶薩は中に於て學するが故に平等學と名づけ、平等學に由りて疾く無上正等菩提を證す。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失

【二】菩薩の學すべき平等法を明す。

(a)「復次善現色色自性空是菩薩摩訶薩平等性……受相行識受想行識自性空……由平等學疾證無上正等菩提」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

若し彼の類と論議決擇し、或は當に瞋忿等の心を發起し、或は復た麁惡の言說を生ぜしむべきも然かも諸の菩薩は有情類に於て瞋忿等の心を發起すべからず、亦た麁惡の言說を生ずべからず、設ひ首足の身分を斷截せらるも亦た瞋忿惡言を起すべからず。所以は何ん、應に是の念を作すべければなり、我れ無上正等菩提を求め有情の生死の衆苦を拔かんが爲に究竟到益安樂を得せしむ。云何が彼れに於て復た惡事を起さんと。阿難當に知るべし、若し諸の菩薩有情類に於て瞋恚の心を起し麁惡の語を發さば便ち菩薩の一切智智を障へ亦た無邊殊勝の行法を壞すと是の故に菩薩摩訶薩衆無上正等菩提を證せんと欲せば諸の有情に於て瞋恚すべからず亦た麁惡の言說を起すべからずと。

卷の第三百三十八

初分巧便學品第五十五之二

［一］爾の時阿難、佛に白して言さく、世尊、菩薩と菩薩と云何が共に住するやと。佛、阿難に告げたまはく、菩薩と菩薩と共に住し相視ること當に大師の如くすべし。所以は何ん、諸の菩薩摩訶薩は展轉し相視て應に是の念を作すべし。彼れは是れ我れ等が眞善知識、我が與に伴と爲り共に一船に乘す。我れ等と彼れと學處學時及び所學の法一切異ること無し。彼れの布施乃至般若波羅蜜多を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ內空乃至無性自性空を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ眞如乃至不思議界を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ苦集滅道聖諦を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ四靜慮乃至四無色定を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ八解脫乃至十遍處を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ四念住乃至八聖道支を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ空無相無願解脫門を學すべき如く我れも亦た學すべし。彼れ菩薩の十地を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ五眼六神通を學すべきが如く我れも亦た學すべし。彼れ佛の

【一】菩薩の共住同學に就いて明す。

轉記を得たる諸の菩薩の所に於て損害の心を起して鬪諍し毀辱し輕蔑し誹謗し復た慚愧無く恨を懷きて捨てず法の如く發露して改悔する能はずんば我れ彼の類は其の中間に於て出罪し還て善を補ふ義有ること無く、要らず爾所の劫、生死に流轉して善友に遠離し衆苦に縛せらる。若し大菩提の心を棄捨せずんば要らず爾所の劫に勝行を勤修し然して後乃ち退せし所の功德を補ふと說く。〔二〕若し菩薩摩訶薩未だ無上正等菩提の不退轉記を得ずして無上正等菩提の不退轉記を得たる諸の菩薩の所に於て損害の心を起して鬪諍し毀辱し輕蔑し誹謗するも後に慚愧を生じて心怨結無く速に還て法の如く發露して改悔し是の如き念を作さん、我れ今已に得難き人身を得たり。如何が復た是の如き過惡を起して大善利を失はん、我れ應に一切有情を饒益すべし。如何が中に於て反つて衰損を作さん、我れ應に一切有情を恭敬すること僕の主に事ふるが如くすべし。如何が中に於て反て憍慢毀辱凌蔑を生ぜん我れ應に一切有情の捶打呵罵を忍受すべし。如何が彼れに於て反て暴惡の身語を以て報を加へん、我れ應に一切有情を和解して相敬愛せしむべし。云何が復た惡語言を起勃して彼の乘を諍はん、我れ應に一切有情の長時の履踐を忍受すること猶ほ道路の如く橋梁の如くすべし。云何が彼れに於て反て凌辱を爲して我れ無上正等菩提を求めん、有情の生死の大苦を脫せしめんが爲に究竟安樂の涅槃を得せしめん。云何が復た之に加ふるに苦を以てするを欲せん。我れ應に今より未來際を窮むるまで癡の如く瘂の如く聾の如く盲の如く諸の有情に於て分別する所無く、假使ひ首足の身分を斷截するも彼の有情に於て終に惡を起さず、我れ惡を起して無上正等覺の心を破壞し所求の一切智智を障礙すること勿るべし。阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は我れ中間にも亦た出罪して還て善を補ふ義有り、要らず爾所の劫數を經て生死に流轉するに非ずと說く。惡魔彼れに於て擾亂すること能はず、阿難當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩と聲聞獨覺乘を求むる者と交涉すべからず。設ひ與に交涉するも共住すべからず。設ひ與に共住するも彼れと論議決擇すべからず。所以は何ん、

〔二〕無上菩提を證せんと欲する菩薩は一切有情に於て三毒煩想心などを起す可からざる事を說く。

躍せん。阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時便ち惡魔の擾亂する所と爲ると。若し菩薩摩訶薩と聲聞獨覺乘を求むる者と相毀辱し鬪諍し誹謗せず方便化導して[一八]六乘に趣かしめ或は自乘の善法を勤修せしめば、阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時惡魔の擾亂する所と爲らずと。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩と無上正等菩提を求むる諸の善男子善女人等と更に相毀辱し鬪諍し誹謗せば、爾の時惡魔此の事を見已て是の如き念を作さん、此の二菩薩は俱に無上正等菩提を遠ざかりて俱に地獄傍生鬼界に近づく所以は何ん、更に相毀辱し鬪諍し誹謗するは菩薩道に非ず、但だ是れ地獄傍生鬼界の諸の惡趣道なればなりと。是の念を作し已て歡喜踊躍せん。阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時便ち惡魔の擾亂する所と爲ると。若し菩薩摩訶薩と無上正等菩提を求むる諸の善男子善女人等と相毀辱し鬪諍し誹謗せず更に相敎誨し善法を勤修して疾く一切智智を證得せしめば、阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時惡魔の擾亂する所と爲らずと。阿難當に知るべし、若し菩薩摩訶薩未だ無上正等菩提の不退轉記を得ずして無上正等菩提の不退轉記を得たる諸の菩薩の所に於て損害の心を起して鬪諍し毀辱し輕蔑し誹謗せば是の菩薩摩訶薩は爾所の念饒益せざる心を起すに隨ひ還て[一九]爾所の劫に曾て修せし勝行を退し爾所の時を經て善友を遠離し還て爾所の生死の繫縛を受く、若し大菩提の心を棄捨せずんば還て爾所の劫に勤めて勝行を修し然して後乃ち退せし所の功德を補ふと。時に具壽阿難、佛に白して言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩の起せし所の惡心生死の罪苦は要(かなら)ず流轉して爾所の時を經と爲すや、中間に於て亦出離を得と爲すや。是の菩薩摩訶薩の退せし所の勝行は要ず精勤して爾所の劫を經然して後乃ち補ふと爲すや、中間に於て本に復する義有りと爲すやと。佛、阿難に告げたまはく、我れ菩薩獨覺聲聞の爲に[二〇]出罪し還て善を補ふ法有りと說くと。阿難當に知るべし、若し菩薩摩訶薩未だ無上正等菩提の不退轉記を得ずして無上正等菩提の不退

【一八】六乘。乘は敎法の意なり、佛乘、菩薩乘、聲聞乘、獨覺乘、人乘、天乘を云ふ。

【一九】爾所の劫。それに相當する劫の意。

【二〇】出罪。罪過を出去するなり。

すと。阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時便ち惡魔の擾亂する所と爲ると。若し菩薩摩訶薩、已れ功德善根有るを恃まず餘の菩薩摩訶薩衆を輕ぜず、常に精進して諸の善法を修すと雖も而かも諸の善法相に執著せずんば、阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時惡魔の擾亂する所と爲らずと。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩自ら[一五]名姓の衆に識知せられたるを恃みて諸餘の善を修する菩薩を輕蔑し、恒に已れの德を讃めて他人を毀呰し、實に不退轉の菩薩摩訶薩の諸の行狀相無くして而かも實に有りと謂ひ、諸の煩惱を起し自讃毀他して言はく、汝等菩薩の名姓無し、唯だ我れのみ獨り菩薩の名姓有りと。增上慢に由りて諸餘の菩薩摩訶薩衆を輕蔑毀呰す。爾の時惡魔此の事を見已て便ち是の念を作す。今此の菩薩は我が[一六]國土宮殿をして空からざらしめ、地獄傍生鬼界を增益すと。是の時惡魔其の神力を助け轉じて威勢辯才を增益せしむ。此れに由りて多人其の語を信受し、斯の勸發に由りて彼の惡見に同ず。彼の見に同じ已て彼の邪に隨て學す。彼れに隨ひ學し已て煩惱熾盛にして心顚倒するが故に諸の發起する所の身語意業皆能く愛樂す可からざる衰損苦果を感得す。此の因緣に由りて三惡趣を增し魔の宮殿國土をして充滿せしむ。此れに由りて惡魔歡喜踊躍す、諸の[一七]所作有るは隨意自在なればなり。阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時便ち惡魔の擾亂する所と爲ると。若し菩薩摩訶薩已れの虛妄の姓名有るを恃みて諸餘の善を修する菩薩を輕蔑せず、諸の功德に於て增上慢無く常に自讃せず亦た毀他せず能善く衆魔の事業を覺知せば、阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時惡魔の擾亂する所と爲らずと。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩と聲聞獨覺乘と求むる者と更に相毀辱し鬪諍し誹謗せば爾の時惡魔此の事を見已て是の如き念を作さん、此の善男子は無上正等菩提を遠離して地獄傍生鬼界に親近す。所以は何ん、更に相毀辱し鬪諍し誹謗するは菩提道に非ず、但だ是れ地獄傍生鬼界の諸の惡趣道なればなりと。是の念を作し已て歡喜踊

【一五】名姓等。族姓の高貴、所緣眷族の多きを云ふなり。

【一六】國土宮殿等。般若を輕蔑毀呰する菩薩は惡魔の伴侶となり、三惡趣國土宮殿を充たすなり。

【一七】所作有るは等。所作分別あれば之に緣りて障亂せらるるをいふ。

甚深の經を說くを聞く時是の如き語を作さん、是の如き般若波羅蜜多は極めて爲れ甚深にして見難く覺り難し。若し宣說し聽聞し受持し讀誦し思惟し精勤し修習し書寫し流布せずして能く無上正等菩提を證すとせば必ず是の處無けんと。時に無量の菩薩乘に住する諸の善男子善女人等有りて其の所說を聞きて歡喜踊躍し、皆般若波羅蜜多に於て常に樂ふて聽聞し受持讀誦し極めて通利し理の如く思惟し精進修行し他の爲に演說し書寫し流布して速に無上正等菩提に趣かしむ、阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時惡魔の擾亂する所と爲らずと。

　復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩已の所有る功德善根を恃みて餘の菩薩摩訶薩衆を輕しめ謂ゆる是の言を作さん、我れは能く布施(よ)乃至般若波羅蜜多を修習するも汝等は能はず。我れは能く內空(た)乃至無性自性空に安住するも汝等は能はず。我れは能く眞如(か)乃至不思議界に安住するも汝等は能はず。我れは能く苦集滅道聖諦に安住するも汝等は能はず。我れは能く四靜慮(た)乃至四無色定を修習するも汝等は能はず。我れは能く八解脫(れ)乃至十遍處を修習するも汝等は能はず。我れは能く四念住(そ)乃至八聖道支を修習するも汝等は能はず。我れは能く空無相無願解脫門を修習するも汝等は能はず。我れは能く菩薩の十地を修習するも汝等は能はず。我れは能く佛土を嚴淨し有情を成熟するも汝等は能はず。我れは能く順逆に十二緣起を觀察する汝等は能はず。我れは能く五眼六神通を修習するも汝等は能はず。我れは能く佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を修習するも汝等は能はず。我れは能く[一三]奢摩他毘鉢舍那を修習するも汝等は能はず。我れは能く無忘失法恒住捨性を修習するも汝等は能はず。我れは能く陀羅尼門三摩地門を修習するも汝等は能はず、我れは能く一切智(な)乃至一切相智を修習するも汝等は能はず。我れは能く諸法の自相共相を觀察するも汝等は能はず。我れは能く一切の菩薩摩訶薩行を修習するも汝等は能はず。我れは能く諸佛の無上正等菩提を修習するも汝等は能はずと。爾の時惡魔歡喜し踊躍して言はく、此の菩薩は是れ[一四]我が伴侶なり。生死に輪廻して未だ出期有ら

【一三】奢摩他毘鉢舍那(Samatha Vipaśyana) 諸分別を捨てて實相を觀る、止觀なり。

【一四】我が伴侶。菩薩般若を行ずる他の菩薩衆を毀謗するの故に惡魔これを己が伴侶なりと稱するなり。

證得せん、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時惡魔の擾亂する所と爲らさらん。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離して〔二〕眞妙に非ざる法を攝受し讃歎せば是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時便ち惡魔の擾亂する所と爲らん。若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多に親近し眞妙に非ざる法を攝せず讃ぜずんば是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時惡魔の擾亂する所と爲らさらん。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離し眞妙の法に於て誹謗し毀呰せば爾の時惡魔便ち是の念を作す、今此の菩薩は我が與に伴と爲る、彼れ眞妙の法を謗毀するに由るが故に。便ち無量の菩薩乘に住する諸の善男子善女人等有りて眞妙の法に於て亦た毀謗を生ぜん此の因緣に由りて〔三〕我が願圓滿せりと。是の菩薩乘の諸の善男子善女人等は設ひ勤め精進して諸の善法を修するも而かも聲聞或は獨覺地に墮し亦た他をして墮せしめん、阿難、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時便ち惡魔の擾亂する所と爲らんと。若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多に親近し眞妙の法に於て信受し讃歎し、亦た無量の菩薩乘に住する諸の善男子善女人等をして眞妙の法に於て信受し讃歎せしめば此れに由りて惡魔驚怖し愁惱せん。是の菩薩乘の諸の善男子善女人等は設ひ精勤して諸の善法を修せざるも而かも亦た決定して自他をして聲聞或は獨覺地に退墮せしめず必ず無上正等菩提を證せん。阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時惡魔の擾亂する所と爲らずと。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多甚深の經を說くを聞かん時、是の如き語を作さん、是の如き般若波羅蜜多は極めて爲れ甚深にして見難く覺り難し、何ぞ宜說聽聞し受持し讀誦し思惟し精勤し修習し書寫し流布することを用ひん、我れすら尙ほ其の源底を得ること能はず、況んや餘の淺智をやと。時に無量の菩薩乘に住せる諸の善男子善女人等有り其の所說を聞きて心に驚怖を生じて皆無上正等覺の心を退かん。阿難當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時便ち惡魔の擾亂する所と爲ると。若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多

〔二〕眞妙に非ざる法。無所有不可得ならざる法なり。

〔三〕我が願。惡魔の所願、即ち菩薩乘の善男子善女人等をして眞妙法を毀謗せしめ、二乘に墮せしむるの願なり。

一〇 爾の時具壽阿難、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時皆惡魔の擾亂する所と爲ると爲すや、擾亂すると擾亂せざる者と有りと爲すやと。佛、阿難に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜多を行ずるに非ざる時皆惡魔の擾亂する所と爲るに非ず、然かも擾亂すると擾亂せざる者と有りと。具壽阿難復た佛に白して言さく、世尊、何等の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時便ち惡魔の擾亂する所と爲り、何等の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時惡魔の擾亂する所と爲らざるやと。

佛、阿難に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩、先世に此の甚深般若波羅蜜多を聞きて心に信解せずして便ち誹謗を生ぜば、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時便ち惡魔の擾亂する所と爲らん。若し菩薩摩訶薩先世に此の甚深般若波羅蜜多を聞きて深心に信解して誹謗を生ぜずんば是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時惡魔の擾亂する所と爲らざらん。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩先世に此の甚深般若波羅蜜多を聞きて心に猶豫を生じ實に此の甚深般若波羅蜜多有りと爲し、實に此の甚深般若波羅蜜多無しと爲せば、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時便ち惡魔の擾亂する所と爲らん。若し菩薩摩訶薩先世に此の甚深般若波羅蜜多を聞きて疑惑を生ぜず決定して甚深般若波羅蜜多有りと信ぜば是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時惡魔の擾亂する所と爲らざらん。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩善友を遠離し諸の惡友の攝持する所と爲り是の如き甚深般若波羅蜜多を聞かず、聞かざるに由るが故に解了する能はず、解了せざるが故に修習する能はず、修習せざるが故に如實に是の如き甚深般若波羅蜜多を證得すること能はずんば是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ぜん時便ち惡魔の擾亂する所と爲らん。若し菩薩摩訶薩善友に親近し惡友の擾亂する所と爲らず、是の如き甚深般若波羅蜜多を聞くことを得、聞くことを得るに由るが故に便ち能く解了し、解了するに由るが故に則ち能く修習し、能く修習するが故に、如實に甚深般若波羅蜜多を

【一〇】菩薩般若を行ずる時惡魔の擾亂の有無に就て詳説す。

く甚深般波羅蜜多を修行し諸佛菩薩及び諸の天龍阿素洛等常に護念するが故に世間の[七]所有る大種の相違して起る所の諸病皆侵惱せず、所謂眼病耳病鼻病舌病身病諸支節病身痛心痛頭痛齒痛脇痛腰痛背痛腹痛諸支節痛是の如き所謂る四百四病皆身中に於て永く[八]有る所無し、唯だ重業の轉じて輕受を爲すをば除く。苾芻當に知るべし是の菩薩摩訶薩は說の如く甚深般若波羅蜜多を修行するが故に是の如き等の現世後世の功德無量無邊なることを獲と。

爾の時具壽阿難竊に是の念を作さく、今天帝釋自らの辯方もて是の如き甚深般若波羅蜜多殊勝の功德を讃說すと爲すや是れ如來の威神の力なりと爲すやと。時に天帝釋卽ち阿難の心の所念を知り阿難に白つて言はく、我が讃說する所の甚深般若波羅蜜多殊勝の功德は皆是れ如來威神の力なりと。

[九]爾の時佛、阿難陀に告げて言はく、是の如し是の如し、今天帝釋の深般若波羅蜜多希有の功德を讃むるは當に知るべし皆是れ如來の神力にして自らの辯才に非ずと。何を以ての故に、甚深般若波羅蜜多希有の功德は人天等の能く知る所に非ざるが故なり。阿難當に知るべし、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を習學し、是の如き甚深般若波羅蜜多を思惟し、是の如き般若波羅蜜多を修行せば、時に此の三千大千世界の一切の惡魔皆疑惑を生じ咸く是の念を作す、此の菩薩摩訶薩は實際を證し退きて預流一來不還阿羅漢果獨覺菩提を取ると爲んか、無上正等菩提に趣くと爲んかと。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を離れずんば、時に諸の惡魔大憂苦を生じ身心戰慄して毒箭に中れるが如くなん。復た次に阿難、若し菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜多を行ぜば時に惡魔有りて其の所に來到し種種の怖畏す可き事を化作せん、所謂刀劍惡獸毒蛇猛火熾焔四方に俱に發りて、菩薩の身心をして惶懼せしめ無上大菩提の心を迷失し修行する所に於て心退屈を生じ乃至一念亂意を發起して無上正等菩提を得ることを障へんと欲せんと。

【七】所有る大種。地水火風の大種相違して風病熱病痰病雜病あり、諸分によりて四百四病を算す。

【八】有る所なし。若しあらば重業の障を輕く受くるのみとす。

【九】天帝釋の甚深般若功德の讃說は佛の神力に依ることを說き、更に菩薩の惡魔に擾亂さるゝとされざるとあることを明す。

世四王の四大天王衆を領せる其の所に來到して無養恭敬尊重讃歎し是の如き言を作す、善哉大士、當に勤め精進して諸の菩薩摩訶薩衆の學すべき所の法を學すべし、聲聞及び諸の獨覺の學行すべき所を學すること勿れ。若し是の如く學せば速に當に妙菩提の座に安坐して疾く無上正等菩提を證すべし、先に如來應正等覺、四天王の奉りし所の[六]四鉢を受けたまひしが如く汝も亦た當に受くべし。昔、護世四大天王四鉢を奉上せしが如く我れも亦た當に奉るべしと。苾芻當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ常に菩薩摩訶薩衆の學すべき所を學するが故に我れ等天帝の三十三天衆を領せる其の所に來到して供養恭敬尊重讃歎し是の如き言を作す、善哉大士、當に勤め精進して諸の菩薩摩訶薩衆の學すべき所の法を學すべし、聲聞及び諸の獨覺の學行すべき所を學すること勿れ。若し是の如く學せば速に當に妙菩提の座に安坐して疾く無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度すべしと。(b)苾芻當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ常に菩薩摩訶薩衆の學すべき所を學するが故に蘇夜摩天王の夜摩天衆を領せる其の所に來到し供養恭敬尊重讃歎して是の如き言を作す、善哉大士、當に勤め精進して諸の菩薩摩訶薩衆の學すべき所の法を學すべし、聲聞及び諸の獨覺の學行すべき所を學すること勿れ。若し是の如く學せば速當に妙菩提の座に安坐して疾く無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度すべしと。

(b)珊覩史多天王領覩史多天衆。(b)妙變化天王領樂變化天衆。(b)妙自在天王領他化自在天衆。(b)索訶界主大梵天王領梵衆天梵輔天梵會天衆、(b)極光淨天領光天少光天無量光天衆。(b)遍淨天領淨天少淨天無量淨天衆。(b)廣果天領廣天少廣天無量廣天衆。(b)色究竟天領無繁天無熱天善現天善見天衆。苾芻當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は說の如く甚深般若波羅蜜多を修行するが故に一切の如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆幷びに諸の天龍阿素洛等常に隨て護念す。此の因緣に由りて是の菩薩摩訶薩は世間一切の險難危厄身心の憂苦皆侵害せずと。苾芻當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は說の如

【六】四鉢。佛の成道せる時、四天王來りて各一の青石の鉢を献ず。佛之を受けて重疊し、按へて一鉢となす、依て鉢に四際あり。

(b)「苾芻當知是菩薩摩訶薩行深般若波羅蜜多常學菩薩摩訶薩衆所應學故蘇夜摩天王領夜摩天衆……………若如是學速當安坐妙菩提座疾證無上正等菩提轉妙法輪度無量衆」右の文中「蘇夜摩天王領夜摩天衆」の所に次下の「諸天王天衆」及び所領の天名」を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸天及び所領のみを出す。

五眼・六神通。(a)佛の十力[二]乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智[三]乃至一切相智。(a)陀羅尼門・三摩地門。(a)緣性緣起觀、苾芻當に知るべし、是の善男子善女人等の功德智慧は亦た菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多方便善巧を遠離して佛土を嚴淨し有情を成熟せる者に勝ると。何を以ての故に、是の善男子善女人等は疾く無上正等菩提を證し有情を利樂すること無邊際なるが故なり。苾芻當に知るべし、是の善男子善女人等の功德智慧は亦た菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多方便善巧を遠離して諸の菩薩摩訶薩行を修し及び無上正等菩提を修する者に勝ると。何を以ての故に、是の善男子善女人等は疾く無上正等菩提を證し有情を利樂すること無邊際なるが故なり。苾芻當に知るべし、是の善男子善女人等の功德智慧は亦た菩薩摩訶薩の方便善巧を遠離して般若波羅蜜多を修行する者に勝ると。何を以ての故に、是の善男子善女人等は疾く無上正等菩提を證し有情を利樂すること無邊際なるが故なり。

復た次に苾芻、是の善男子善女人等は當に知るべし卽ち是れ菩薩摩訶薩なりと。苾芻當に知るべし是の菩薩摩訶薩は說の如く甚深般若波羅蜜多を修行するが故に一切世間の天人阿素洛等及び諸の聲聞獨覺菩薩の勝伏する所と爲らずと。苾芻當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は說の如く甚深般若波羅蜜多を修行するが故に能く佛種を紹ぎて斷絕せざらしむと。苾芻當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は說の如く甚深般若波羅蜜多を修行するが故に常に菩薩如來應正等覺の眞勝の善友を遠離せずと。苾芻當に知るべし。是の菩薩摩訶薩は說の如く甚深般若波羅蜜多を修行するが故に久しからずして當に妙菩提の座に坐し魔軍を降伏して無上正等菩提を證得し妙法輪を轉じて有情類の生死の大苦を拔くべしと。苾芻當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は說の如く甚深般若波羅蜜多を修行するが故に常に菩薩摩訶薩衆の學すべき所の法を學して聲聞及び諸の獨覺の學行すべき所を學ばずと。苾芻當に知るべし是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ常に菩薩摩訶薩衆の學すべき所を學するが故に護

敎に依りて修行し正しく他の爲に說き乃至無上正等菩提まで諸餘の心心所を雜へざる者の獲る所の功德は贍部洲の諸の有情類の一切の十善業道及び四靜慮四無量心四無色定の五神通等無量の功德を成就するに勝るやと。天帝釋言はく、是の善男子善女人等、[五]初め一念一切智智相應の心を發す時獲る所の功德は已に說く所の贍部洲の中の諸の有情類の一切の十善業道及び四靜慮四無量心四無色定五神通無量の功德に勝ること多く百千倍なり、何に況んや此の甚深般若波羅蜜多甚深の經典に於て心を攝して亂れず常に樂ふて聽聞し受持讀誦し極めて通利せしめ理の如く思惟し敎に依りて修行し正しく他の爲に說き乃至無上正等菩提まで諸餘の心心所を雜へざる者の獲る所の功德而かも校量す可けんや、苾芻當に知るべし、是の善男子善女人等の功德智慧は但だ彼の贍部洲の中の十善等を成ぜる諸の有情類に勝るのみに非ず亦た一切世間の天人阿素洛等に勝る。何を以ての故に、是の善男子善女人等は疾く無上正等菩提を證し有情を利樂すること無邊際なるが故なり。苾芻當に知るべし、是の善男子善女人等の功德智慧は但だ彼の世間の天人阿素洛等に勝るのみに非ず亦た一切の預流一來不還阿羅漢獨覺に勝る。何を以ての故に、是の善男子善女人等は疾く無上正等菩提を證し有情を利樂すること無邊際なるが故なり。苾芻當に知るべし、是の善男子善女人等の功德智慧は但だ彼の一切の預流一來不還阿羅漢獨覺に勝るのみに非ず亦た菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多方便善巧を遠離して布施淨戒安忍精進靜慮波羅蜜多を修行する者に勝ると。何を以ての故に、是の善男子善女人等は疾く無上正等菩提を證し有情を利樂すること無邊際なるが故なり。(a)苾芻當に知るべし、是の善男子善女人等の功德智慧は亦た菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多方便善巧を遠離して(a)內空(わ)乃至無性自性空に安住せる者に勝ると。何を以ての故に、是の善男子善女人等は疾く無上正等菩提を證し有情を利樂すること無邊際なるが故なり。(a)眞如(か)乃至不思議界。(a)苦聖諦(よ)乃至道聖諦。(a)四靜慮(た)乃至四無色定。(a)八解脫(れ)乃至十遍處。(a)四念住(そ)乃至八聖道支。(a)空解脫門(つ)乃至無願解脫門。(a)極喜地(ね)乃至法雲地。(a)

【五】初め一念等。一切智智相應の心の第一念にてもの意。

(a)「苾芻當知是善男子善女人等功德智慧亦勝菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜多方便善巧安住內空……………無性自性空者何以故是善男子善女人等疾證無上正等菩提利樂有情無邊際故」右の文中「內空乃至無性自性空」の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ出す但し眞如苦聖諦の二以外は「安住」の所に「修行」の二字を代入するものとす。

卷の第三百三十七

初分巧便學品第五十五之一

[一]爾の時天帝釋、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は最極甚深にして見難く覺り難く尋思す可からず尋思の境を超え聰慧微密の智者の證する所なり。一切の分別畢竟離の故に。世尊、若し諸の有情此の般若波羅蜜多甚深の經典に於て常に樂ふて聽聞し受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟し敎に依りて修行し正しく他の爲に說き乃至無上正等菩提まで諸の[二]餘の心心所を雜へざる者は當に知るべし是の如き諸の有情類は必ず微少の善根を成就せずと。爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。憍尸迦、若し諸の有情此の般若波羅蜜多甚深の經典に於て常に樂ふて聽聞し受持讀誦し究竟通利し理の如く思惟し敎に依りて修行し正しく他の爲に說き乃至無上正等菩提まで諸餘の心心所を雜へざる者は當に知るべし是の如き諸の有情類は決定して廣大の善根を成就すと。憍尸迦、假使ひ此の[三]贍部洲中に於ける一切の有情皆悉く[四]十善業道及び四靜慮四無量心四無色定五神通等の無量の功德を成就せんに善男子善女人等有りて此の般若波羅蜜多甚深の經典に於て常に樂ふて聽聞し受持讀誦し究竟通利し利の如く思惟し敎に依りて修行し正しく他の爲に說かば是の善男子善女人等の獲る所の功德は前に說く所の贍部洲の中に於ける諸の有情類の成ずる所の功德に百倍勝ると爲し千倍勝ると爲し百千倍勝ると爲し倶胝倍勝ると爲し百倶胝倍勝ると爲し千倶胝倍勝ると爲し百千倶胝倍勝ると爲し、那庾多倍勝ると爲し百那庾多倍勝ると爲し千那庾多倍勝ると爲し百千那庾多倍勝ると爲し算倍數倍計倍喩倍乃至鄔波尼殺曇倍亦復た勝ると爲すと。

爾の時會中に一苾芻有り天帝釋に謂て言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多甚深の經典に於て心を攝して亂さず常に樂ふて聽聞し受持讀誦し極めて通利せしめ理の如く思惟し

【一】天帝釋般若功德の優越と諸佛の護念あるを說く。

【二】餘の心心所。六度に反する慳貪等、二乘心、無記散亂心などを云ふ。

【三】贍部洲(Jambu)。此大地の總名なり、此地の中央に贍部樹あるに依て名づく。

【四】十善業道等。十善業道等の功德大なれ共實相を離れ虛妄不堅固にて無常盡滅するなり。

生性を以て佛の無上正等菩提不退轉記を得るや不やと。不なり善現と。世尊、諸の菩薩摩訶薩は一切法の性無生性を以て佛の無上正等菩提不退轉記を得るや不やと。不なり善現と。世尊、諸の菩薩摩訶薩は一切法の非生非無生性を以て佛の無上正等菩提不退轉記を得るや不やと。不なり善現と。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は佛の無上正等菩提不退轉記を得るやと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、汝法の佛の無上正等菩提不退轉記を得る有るを見るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊。我れ[三]法の佛の無上正等菩提不退轉記を得るを見ず亦た佛の無上正等菩提に於て能く證する者有るを見ず證處證時及び此れに由りて證する皆得可からざるなりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。善現、若し菩薩摩訶薩一切法に於て得る所無き時是の念を作さず、我れ無上正等菩提に於て當に能く證得すべし、我れ是の法を用て無上正等菩提を證得せん、我れ此の法に由りて是の如き時に於て是の如き處に於て無上正等菩提を證得せんと。所以は何ん、善現、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずるに是の如き等の一切の分別無ければなり。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は無分別なるが故なりと。

【三】法の佛の等。所證の法、能く證する者、證處、證時、由證の五事不可得なりとす。

眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し是の如き諸法皆般若波羅蜜多を行ずる能はずんば云何が菩薩摩訶薩は能く般若波羅蜜多を行ずるや。佛、善現に告げたまはく意に於て云何、汝法の能く般若波羅蜜多を行ずる有るを見るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、汝般若波羅蜜多は是れ菩薩摩訶薩の所行の處と見るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、汝見ざる所の法是の法得可きや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、得可からざる法生滅有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊と。佛、善現に告げたまはく、汝が見る所の如き諸法の實性は卽ち是れ菩薩摩訶薩の無生法忍なり、若し菩薩摩訶薩是の如き無生法忍を成就せば便ち如來應正等覺に無上正等菩提の不退轉記を授與せらる。善現、若し菩薩摩訶薩佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法等の殊勝功德に於て精進修行し常に懈惓無くして無上正等菩提一切智智[一]大乘妙智を證せずとせば是の處有ること無し。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は必ず已に無生法忍乃至無上正等菩提を獲得し所得の法に於て退無く減無ければなり。

[二]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は一切法の無生性を以て佛の無上正等菩提不退轉記を得るや不やと。世尊告げて言はく、不なり善現と。世尊、諸の菩薩摩訶薩は一切法の

【一】 大乘妙智。空緣起實相を滿足するもの、卽ち深般若を成就せる慧見力。
【二】 甚深般若の無分別を明す。

般若波羅蜜多を行ずと爲すや不と。不なり善現と。

(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。

卷の第三百三十六

初分斷分別品第五十四之二

(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

(d)世尊、色の眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界に即するは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、色の眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界を離るゝは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、受想行識の眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界に即するは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、受想行識の眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界を離るゝは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。

(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)

(c)　前卷と同意。

(d)「世尊爲卽色眞如法界法性不虛妄性……世尊爲離受想行識眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界能行般若波羅蜜多不不也善現」右も(c)の場合と同じくして略す。

有るに非ず、能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。世尊告げて言はく、不なり善現と。世尊、深般若波羅蜜多を離るゝは空虚にして不自在性不堅實性有るに非ず法の能く般若波羅蜜多を行ずるを得可き有りと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、深般若波羅蜜多に即するは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、深般若波羅蜜多を離るゝは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、空性に即するは能く空を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、空性を離るゝは能く空を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。(b)世尊、色に即するは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、色を離るゝは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、受想行識に即するは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、受想行識を離るゝは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

(c)世尊、色の空虚非有不自在性不堅實性に即するは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、色の空虚非有不自在性不堅實性を離るゝは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、受想行識の空虚非有不自在性不堅實性に即するは能く般若波羅蜜多を行ずと爲すや不やと。不なり善現と。世尊、受想行識の空虚非有不自在性不堅實性を離るゝは能く

(b)「世尊爲即色能行般若波羅蜜多不……………世尊爲離受想行識能行般若波羅蜜多不不也善現」右の文中「色乃至識」の所に以下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下諸法のみ略出す。

(c)「世尊爲即色空虚非有不自在性不堅實性能行般若波羅蜜多不……………世尊爲離受想行識空虚非有不自在性不堅實性能行般若波羅蜜多不不也善現」右も(b)の場合と同じくして以下略す。

初分斷分別品第五十四之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、一切の作意は皆自性離、一切の作意は皆自性空なり。諸法も亦た爾なり、皆自性離、皆自性空なり。自性離自性空の中に於ては若しは菩薩摩訶薩、若しは般若波羅蜜多、若しは一切智智、若しは諸の作意皆不可得なり。云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多相應の作意を離れず亦復た一切智智相應の作意を離れざるやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩、一切法及び諸の作意皆自性離、皆自性空なるを知らば是の如き離空は聲聞の作に非ず獨覺の作に非ず諸の菩薩摩訶薩の作に非ず諸佛の作に非ず亦た餘の作に非ず、然かも一切法は法住法定法性法界不虛妄性不變異性眞如實際にして法爾として常住なり。是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多相應の作意を離れず亦復た一切智智相應の作意を離れざるなり。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多、一切智智及び諸の作意は皆自性離、自性空なるが故に是の如き離空は增無く減無く能く正しく名不離に通達するが故なりと。時に具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し深般若波羅蜜多も亦た自性離自性本空なれば云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多平等性を修證し已つて無上正等菩提を證得するやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多平等性を修證する時諸佛の法は增有り減有るに非ず、亦た一切法の法住法定法性法界不虛妄性不變異性眞如實際も增有り減有るに非ず。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は一に非ず二に非ず三に非ず四に非ず亦た多に非ざるが故なり。善現、若し菩薩摩訶薩、是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて其の心驚かず怖かず畏れず沈まず沒せず亦た猶豫せずんば當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて已に究竟を得菩薩の不退轉地に安住せるなりと。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、深般若波羅蜜多に卽するは空虛にして不自在性不堅實性

【一】一切の作意自性空不可得なるを明す。

若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多相應の作意に安住せば諸の所說有るは皆般若波羅蜜多を說く。謂ゆる般若波羅蜜多相應の法を說くなり。旣に般若波羅蜜多相應の法を說き已らば復た能く理の如く般若波羅蜜多相應の法を思惟するなり。善現、是の菩薩摩訶薩は常に般若波羅蜜多相應の作意に住し諸餘の作意其の中間に於て現起するを容るゝ無し。善現、是の菩薩摩訶薩は晝夜に精勤して般若波羅蜜多相應の作意に安住し時として暫くも捨つる無し。善現、譬へば人有り先に未だ曾て有らさる末尼珠寶を後時に遇ひ得て深く自ら欣慶し珍玩して厭くこと無かりしに[一〇]欻爾(くつに)として亡遺し大苦惱を生じ常に恆數を懷く、惜い哉、何の日か失へる所の末尼寶珠を還得せんかと。彼の人、末尼寶珠相應の作意に於て時として暫くも捨つる無きが如し。善現、當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、常に應に精勤して般若波羅蜜多相應の作意に安住すべし、若し般若波羅蜜多相應の作意を離れなば則ち一切智智相應の作意を喪失すと爲すと。

【九】欻爾。忽然。

甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、善現、若し善男子善女人等、大衆の中に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說し施設し建立し分別し開示し其れをして了し易からしめ及び正しく一切智智相應の作意に安住せしめば、此の善男子善女人等の是の因緣に由りて獲る所の功德は甚だ彼れよりも多く無量無邊にして稱計す可からず。

(a)南贍部洲東勝身洲。(a)南贍部洲東勝身洲西牛貨洲。(a)四大洲界。(a)小千世界。(a)中千世界。(a)三大千大千世界。

[二]善現當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は此の精勤に由りて勢力を增上して諸の有情の[三]福田の彼岸に到ると。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は法に於て精勤し勢力を增上して一切有情の能く及ぶ者無ければなり。唯だ如來應正等覺をば除く。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ諸の有情の利樂無きを見るが故に大慈心を起し、諸の有情の衰苦有るを見るが故に大慈心を起し、諸の有情の利樂を得るを見るが故に大喜心を起し、諸の有情の性相無きを見るが故に大捨心を起せばなり。善現、是の菩薩摩訶薩は有情に於て平等に大慈大悲大喜大捨を發起すと雖も而かも一切に於て執著する所無し。善現、是の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ぜば大光明を得。謂ゆる布施波羅蜜多の光明を得亦た淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多の光明を得。善現、是の菩薩摩訶薩は未だ一切智智を證得せずと雖も而かも無上正等菩提に於て退轉せざることを得るが故に有情の福田の彼岸に至り、一切衣服飲食床座醫藥諸の資生の具を受くるに堪ふ。善現、是の菩薩摩訶薩は[四]般若波羅蜜多相應の作意に安住するが故に能く畢竟主恩に報施し亦た能く一切智智に親近す。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩、[五]虛しく國王大臣長者居士有情の信施を受けざらんと欲し、有情に[六]眞善の道路を示さんと欲し、有情の爲に淨光明と作らんと欲し、有情を[七]三界の牢獄より脫せしめんと欲し、有情に[八]清淨の法眼を施さんと欲せば應に常に甚深般若波羅蜜多相應の作意に安住すべし。善現、

【二】福田勢力の因緣を明す。
【三】福田の彼岸に到る。預流より佛に至るを云ふ。
【四】般若波羅蜜多相應等。般若心に住して說法して淨福田となり、般若に住せしむるを云ふ。
【五】虛しく國王等。般若を學し施主道心を生ずるを云ふ。
【六】眞善の道路。三乘道なり。
【七】三界の牢獄。物的欲界有、心的色界有、無邊無色の有。總べての個在繫縛。
【八】清淨の法眼。空無礙、自在眞生の淨界。

分別し開示し其れをして了し易からしめ及び正しく一切智智相應の作意に安住せしめば此の善男子善女人等の是の因緣に由りて獲る所の功德は甚だ彼れよりも多く無量無邊にして稱計す可からず。(l)南贍部洲東勝身洲。(e)南贍部洲東勝身洲西牛貨洲。(e)四大洲界。(e)小千世界。(e)中千世界。(e)三千大千世界。

(f)復た次に善現、意に於て云何、假使ひ此の南贍部洲に於ける諸の有情類前に非ず後に非ず皆人身を得るに善男子善女人等有りて方便敎導して皆獨覺菩提に安住せしめ復た是の如き敎導の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に迴向すること有らば是の善男子善女人等は此の因緣に由りて福を得ること多しや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、善現、若し善男子善女人等大衆の中に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說し施設し建立し分別し開示し其れをして了し易からしめ及び正しく一切智智相應の作意に安住せしめば、此の善男子善女人等の是の因緣に由りて獲る所の功德は甚だ彼れよりも多く無量無邊にして稱計す可からず。(f)南贍部洲東勝身洲。(f)南贍部洲東勝身洲西牛貨洲。(f)四大洲界。(f)小千世界。(f)中千世界。(f)三千大千世界。

卷の第三百三十五

初分善學品第五十三之五

(a)[一]復た次に善現、意に於て云何、假使ひ此の南贍部洲に於ける諸の有情類前に非ず後に非ず皆人身を得るに善男子善女人等有りて方便敎導して皆無上覺の心を發起し菩薩摩訶薩を修習し無上正等菩提を證得せしめ、復た是の如き敎導の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に迴向すること有らば是の善男子善女人等は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、

(f)「復次善現於意云何假使於此南贍部洲諸有情類…………此善男子善女人等由是因緣所獲功德甚多於彼無量無邊不可稱計」右も(e)の場合の如くして以下略す。

【一】般若習學の行相を演說す。

(a)「復次善現於意云何假使於此南贍部洲諸有情類…………此善男子善女人等由是因緣所獲功德甚多於彼無量無邊不可稱計」右も前卷(f)の場合の如くして略す。

善現、若し善男子善女人等大衆の中に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說し施設し建立し分別し開示し其れをして了し易からしめ、及び正しく一切智智相應の作意に安住せしめば此の善男子善女人等の是の因緣に由りて獲る所の功德は甚だ彼れよりも多く無量無邊にして稱計す可からず。

(e)南贍部洲東勝身洲。(e)南贍部洲東勝身洲西牛貨洲。(e)四大洲界。(e)小千世界。(e)中千世界。(e)三千大千世界。

(d)復た次に善現、意に於て云何、假使ひ此の南贍部洲に於ける諸の有情類前に非ず後に非ず皆人身を得るに善男子善女人等有りて方便敎導して皆四靜慮四無量四無色定五神通に安住せしめ復た是の如き敎導の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提を迴向すること有らば是の善男子善女人等は此の因緣に由りて福を得ること多しや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、善現、若し善男子善女人等大衆の中に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說し施設し分別し開示し其れをして了し易からしめ、及び正しく一切智智相應の作意に安住せしめば、此の善男子善女人等の是の因緣に由りて獲る所の功德は甚だ彼れよりも多く無量無邊にして稱計す可からず。

(d)南贍部洲東勝身洲。(d)南贍部洲東勝身洲西牛貨洲(d)四大洲界。(d)小千世界。(d)中千世界。(d)三千大千世界。

(e)復た次に善現、意に於て云何、假使ひ此の南贍部洲に於ける諸の有情類前に非ず後に非ず皆人身を得るに善男子善女人等有りて方便敎導して皆四沙門果に安住せしめ、復た是の如き敎導の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に迴向すること有らんに、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多しや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、善現、若し善男子善女人等大衆の中に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說し施設し建立し

(c「復次善現於意云何假使於此南贍部洲諸有情類……………所獲功德甚多於彼無量無邊不可稱計」右も(b)と同じくして略す。

(d)「復次善現於意云何假使於此南贍部洲諸有情類非前非後……………此善男子善女人等由是因緣所獲功德甚多於彼無量無邊不可稱計」右も(c)の場合の如くして略す。

(e)「復次善現於意云何假使於此南贍部洲諸有情類非前非後……………此善男子善女人等由是因緣所獲功德甚多於彼無量無邊不可稱計」右も(d)の場合の如くして以下略す。

【八】四沙門果。沙門の行を修せしものゝ得果、即ち預流果、一來果、不還果、阿羅漢果なり。

天人阿素洛等の降伏する所と爲らずして能く一切世間の天人阿素洛等を伏す。世尊、若し菩薩摩訶薩能く是の如く行ぜば一切の聲聞獨覺の降伏する所と爲らずして能く一切の聲聞獨覺を伏す。何を以ての故に、世尊、是の菩薩摩訶薩は已に無能伏處に安住することを得ればなり、謂ゆる菩薩の離生位なり。世尊、是の菩薩摩訶薩は恒に一切智智の作意に住して屈伏す可からず。世尊、是の菩薩摩訶薩は是の如く行ずる時則ち一切智智に隣近し疾く無上正等菩提を證すと爲すと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。

(b)復た次に善現、意に於て云何、假使ひ此の南贍部洲に於ける諸の有情類皆人身を得、人身を得已て皆無上正等菩提を證するに善男子善女人等有りて其の形壽を盡くすまで諸の世間上妙の供具を以て此の諸の如來應正等覺を供養恭敬尊重讃歎し復た是の如き供養の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向すること有らば、是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現、答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、善現、若し善男子善女人等大衆の中に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說し施設し建立し分別し開示し其れをして了し易からしめ、及び是の如き甚深般若波羅蜜多相應の作意に住せしめば、此の善男子善女人等の此の因緣に由りて護る所の功德は甚だ彼れよりも多く無量無邊にして稱計す可からず。

(b)南贍部洲東[三]勝身洲。(b)南贍部洲東勝身洲西[四]牛貨洲。(b)四大洲界。(b)[五]小千世界。(b)[六]中千世界。(b)[七]三千大千世界。

(c)復た次に善現、意に於て云何、假使ひ此の南贍部に於ける諸の有情類前に非ず後に非ず皆人身を得るに、善男子善女人等有りて方便敎導して皆十善業道に安住せしめ、復た是の如き敎導の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向すること有らば是の善男子善女人等の此の因緣に由りて福を得ること多しや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝と。佛言はく、

(b)「復次善現於意云何假使於此南贍部洲諸有情類皆得人身……由此因緣所獲功德甚多於彼無量無邊不可稱計」右の文中「南贍部洲」の所に次下に出す諸洲諸界を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その洲界名のみ出す

【三】勝身。須彌四洲の東洲の名。

【四】牛貨。須彌四洲の西洲の名。

【五】小千世界。須彌世界一千を總名す。

【六】中千世界。小千世界一千を合す。

【七】三千大千世界。中千世界一千界を總稱す。

は空遠離なるや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝、彼は心に執する所の我及び我所は皆空遠離なりと。佛言はく、善現、意に於て云何、豈に有情は我我所の執に由りて生死に流轉せざるやと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝。諸の有情類は我我所の執に由りて生死に流轉すと。佛言はく、善現、是の如く有情の生死に流轉するは雜染有るに由る。是を以て雜染の得可きを證知す。善現、若し諸の有情、心に我及び我所を執著する無くんば則ち雜染無し。若し雜染無くんば是れ則ち生死に流轉すること無かるべし。流轉生死は既に現じて得可し。此れに由りて應に雜染法有るを知るべし。既に雜染有らば亦た清淨有り。是の故に善現、應に知るべし有情は自性空にして衆相を遠離すと雖も而かも雜染清淨の得可き有りと。

卷の第三百三十四

初分善學品第五十三之四

[一]爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、(a)世尊、諸の菩薩摩訶薩、若し是の如く行ぜば則ち色を行せず亦た受想行識を行ぜず。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)陀羅尼門、三摩地門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恆住捨性。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切智乃至一切相智。何を以ての故に、世尊、是の如き諸法の[二]能行・所行・行時・行處、及び此れに由りて行する皆不可得なるが故なり。世尊、若し菩薩摩訶薩能く是の如く行ぜば一切世間

【一】般若習學行相を續說す。(a)「世尊諸菩薩摩訶薩若如是行則不行色亦不行受想行識」右の文中「色乃至識」の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す。

【二】能行等。行者と所行の法と時と處と行する相との五件。

〔一五〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は何を以て相と爲して菩薩摩訶薩衆に應に勤めて修學すべしと勸むるやと。佛言はく、善現、是の如き般若波羅蜜多は虚空を以て相と爲し、是の如き般若波羅蜜多は無著を以て相と爲し、是の如き般若波羅蜜多は無相を以て相と爲す。何を以ての故に、善現、此の般若波羅蜜多甚深の相の中に於ては諸法の諸相は皆不可得無所有なるが故なりと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、頗し因緣有りて般若波羅蜜多の所有る妙相を說く可くんば諸法も亦た是の如き相有り耶と。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、因緣有るが故に般若波羅蜜多の所有る妙相を說く可くんば諸法も亦た是の如き妙相有り。所以は何ん、善現、是の如き般若波羅蜜多は性空を以て相と爲し諸法も亦た性空を以て相と爲せばなり。是の如き般若波羅蜜多は遠離を以て相と爲し諸法も亦た遠離を以て相と爲せばなり。善現、此の因緣に由りて是の說を作す可し、甚深般若波羅蜜多の所有る妙相は諸法も亦た是の如き妙相有り。一切法は皆自性空にして衆相を離るゝを以ての故なりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し一切法皆自性空にして衆相を遠離せば則ち一切法一切法空にして亦た一切法一切法離る。云何が有情に雜染淸淨有りと施設す可けん。世尊、性空法に染有り淨有るに非ず亦た遠離法に染有り淨有るに非ず。世尊、性空法は能く無上正等菩提を證するに非ず、亦た遠離法は能く無上正等菩提を證するに非ず。世尊、性空中法の得可き有るに非ず、亦た遠離中法の得可き有るに非ず。世尊、性空中菩薩摩訶薩の無上正等菩提を證得する有るに非ず、亦た遠離中菩薩摩訶薩の無上正等菩提を證得する有るに非ず。世尊、云何が我れをして佛の所說の甚深の義趣を解せしめたまふとや。爾の時佛、具壽善現に告げて言はく、善現、意に於て云何、有情は長夜に我我所の心有りて〔一六〕我我所に執するや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝、有情は長夜に我我所の心有りて我我所に執著すと。佛言はく、善現、意に於て云何、彼の心に執する所の我及び我所

【一五】般若波羅蜜相に就て明す。

【一六】我我所。我は自身を云ひ、身外の事物これ我の所有なれば我所となづくるなり。

爲し慧と爲し救と爲し護と爲し室と爲し宅と爲し洲と爲し渚と爲し歸と爲し趣と爲し父と爲し母と爲せばなり。何を以ての故に、善現、過去未來現在の諸佛は皆布施波羅蜜多廣說し乃至不思議界より出生するが故なり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩意樂を增上し無上正等菩提を證し有情を成熟し佛土を嚴淨せんと欲せば當に布施波羅蜜多を學すべく當に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を學すべし。當に四念住(そ)乃至八聖道支を學すべし。當に四靜慮乃至四無色(た)定を學すべし。當に八解脫(れ)乃至十遍處を學すべし。當に極喜地(つ)乃至法雲地を學すべし。當に五眼、六神通を學すべし。當に三摩地門、陀羅尼門を學すべし。當に佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を學すべし。當に無忘失法、恒住捨性を學すべし。當に永く一切の煩惱の習氣を斷ずるを學すべし。當に一切智(な)乃至一切相智を學すべし。當に一切の菩薩摩訶薩行を學すべし。當に諸佛の無上正等菩提を學すべし。當に苦聖諦(ら)乃至道聖諦を學すべし。當に諸の法緣性、諸の緣起支を學すべし。當に內空(む)乃至無性自性空を學すべし。當に眞如(う)乃至不思議界を學すべし。復た四攝事を以て諸の有情を攝すべし。何等をか四と爲す。一には布施、二には愛語、三には利行、四には同事なり。善現、我れ此の義を觀ずるが故に是の說を作す、布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多廣說し乃至不思議界は諸の菩薩摩訶薩衆の與に師と爲り導と爲り明と爲り炬と爲り燈と爲り照と爲り解と爲り覺と爲り智と爲り慧と爲り救と爲り護と爲り室と爲り宅と爲り洲と爲り渚と爲り歸と爲り趣と爲り父と爲り母と爲ると。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩行、【四】他の敎行に隨はざらんと欲し、住、他の敎住に隨はざらんと欲し、一切有情の趣を斷ぜんと欲し、一切有情の願を滿ぜんと欲し、佛土を嚴淨せんと欲し、有情を成熟せんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。何を以ての故に、善現、此の般若波羅蜜多甚深の經の中に於ては菩薩摩訶薩衆の修學すべき所の一切の法相を廣說すればなり。一切の菩薩摩訶薩衆は皆此の中に於て應に勤めて修學すべしと。

(そ)　四念住以下も六度の如く分說すべきも今略を取りて本文の如く說く。

【四】　他の敎行に隨はず等。自らに諸法實相を知らんと欲するなり。

(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)永斷一切煩惱習氣。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)諸の法緣性、諸の緣起支。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。

[三](b)善現、當に知るべし布施波羅蜜多は諸の菩薩摩訶薩衆の與に師と爲り導と爲り明と爲り炬と爲り燈と爲り照と爲り解と爲り覺と爲り智と爲り慧と爲り救と爲り護と爲り室と爲り宅と爲り洲と爲り渚と爲り歸と爲り趣と爲り父と爲り母と爲り、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も亦た菩薩摩訶薩衆の與に師と爲り導と爲り明と爲り炬と爲り燈と爲り照と爲り解と爲り覺と爲り智と爲り慧と爲り救と爲り護と爲り室と爲り宅と爲り洲と爲り渚と爲り歸と爲り趣と爲り父と爲り母と爲ると。(b)四念住乃至八聖道支。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)三摩地門、陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)永斷一切煩惱習氣。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)諸の法緣性、諸の緣起支。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。何を以ての故に、善現、過去の所有る一切の如來應正等覺は皆布施波羅蜜多廣說し乃至不思議界を以て師と爲し導と爲し明と爲し炬と爲し燈と爲し照と爲し解と爲し覺と爲し智と爲し慧と爲し救と爲し護と爲し室と爲し宅と爲し洲と爲し渚と爲し歸と爲し趣と爲し父と爲し母と爲し、未來の所有る一切の如來應正等覺も皆布施波羅蜜多廣說し乃至不思議界を以て師と爲し導と爲し明と爲し炬と爲し燈と爲し照と爲し解と爲し覺と爲し智と爲し慧と爲し救と爲し護と爲し室と爲し宅と爲し洲と爲し渚と爲し歸と爲し趣と爲し父と爲し母と爲し、現在十方無量無數無邊世界の一切の如來應正等覺の一切有情を住持し安隱し微妙の法を宣說し開示する者も皆布施波羅蜜多廣說し乃至不思議界を以て師と爲し導と爲し明と爲し炬と爲し燈と爲し照と爲し解と爲し覺と爲し智と

【三】六波羅蜜などの能く衆生を度するを說く。(b)「善現當知布施波羅蜜多與諸菩薩摩訶薩衆爲師爲導……淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多亦與菩薩摩訶薩衆爲師爲導……爲父爲母」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

て[一]旃荼羅を僞し菩薩摩訶薩衆を穢汚す。菩薩摩訶薩の相に似たりと雖も而かも是れ天上人中の大賊にして天人阿素洛等を誑惑す。其の身沙門の法衣を服すと雖も而かも心常に盜賊の意樂を懷くと。諸の菩薩乘を發趣すること有らん者は是の如き惡人に親近し供養恭敬尊重讃歎すべからず。何を以ての故に、善現、當に知るべし是の人は增上慢を懷き外菩薩に似て內に煩惱多ければなり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩眞實に一切智智を捨てず無上正等菩提を捨てず、深心に一切智智を求證し無上正等菩提を求證し普ねく諸の有情を利樂せんと僞す者は是の如き惡人に親近し供養恭敬尊重讃歎すべからず。善現、諸の菩薩摩訶薩は常に精進して自らの事業を修し生死を厭離し三界に著せざるべし。彼の惡賊旃荼羅人に於て應に常に發心して慈悲喜捨すべく應に是の念を作すべし。我れ彼の惡人の起す所の如き過患を起すべからず、設ひ當に失念して彼の如く暫くも起さば即ち應に覺知して速に除滅せしむべしと。善現、諸の菩薩摩訶薩、無上正等菩提を證せんと欲せば應に善く是の如き魔事を覺知すべく應に勤め精進して彼の菩提の起す所の如き過患を遠離し除滅すべし。

[二]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩意樂を增上し無上正等菩提を證せんと欲せば常に應に眞勝の善友に親近し供養恭敬尊重讃歎すべしと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて諸の菩薩摩訶薩の眞勝の善友と爲すやと。佛言はく、善現、一切の如來應正等覺は是れ菩薩摩訶薩の眞勝の善友なり。一切の菩薩摩訶薩も亦た是れ菩薩摩訶薩の眞勝の善友なり。諸の聲聞及び餘の善士有りて能く菩薩摩訶薩衆の爲に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多相應の法を宣說開示し分別顯了して解し易からしむる者は當に知るべし亦た是れ菩薩摩訶薩の眞勝の善友なりと。(a)善現當に知るべし布施波羅蜜多は是れ菩薩摩訶薩の眞勝の善友、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も亦た是れ菩薩摩訶薩の眞勝の善友なりと。(a)四念住乃至八聖道支(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼、六神通。(a)三摩地門、陀羅尼門。

【一】旃荼羅（Caṇḍāla）。屠者と譯す。四姓の外にあつて屠殺を業とする賤民なり。

【二】眞勝の善友に就いて明す。

(a)「善現當知布施波羅蜜多是菩薩摩訶薩眞勝善友淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多亦是菩薩摩訶薩眞勝善友」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下所出の諸法を代入せば他は同文なり故に之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す。

を經歷して聲聞獨覺の作意を雜へ、聲聞獨覺地法に染著し、彼の法に依止して遠離行を修し復た此の行に於て深く愛著を生ず。善現、彼れ是の如く遠離行を修すと雖も而かも諸の如來心に稱順せず。善現、我が稱讚する所の諸の菩薩摩訶薩の眞の遠離行を是の菩薩摩訶薩は都て成就せず。彼れは眞勝の遠離行の中に於て亦た相似の行相すら有るを見ず。所以は何ん、彼れは是の如き眞の遠離行に於て愛樂を生ぜず但だ聲聞獨覺の空遠離行を修行するを樂ふのみなればなり。善現、是の菩薩摩訶薩の眞勝ならざる遠離行を遠する時、魔空中に來り歡喜讚歎し告げて言はく、大士、善哉善哉、汝能く眞の遠離行を修行す。此の遠離行は一切の如來應正等覺の共に稱讚する所なり。汝此の行に於て精勤し修習せば速に無上正等菩提を證すと。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き聲聞獨覺の遠離行法に執著し最勝と爲すを以て菩薩乘に住せるを輕弄し毀蔑す。憒閙に居し而かも心寂靜にして善法を成調すと雖も諸の苾芻等言はく、彼れ遠離行を修すること能はず身憒閙に居し心寂靜ならずと。善現、是の菩薩摩訶薩は、諸の如來應正等覺の共に稱讚する所の眞の遠離行に住する菩薩摩訶薩を輕弄し毀蔑して、閙憒に居し心寂靜ならず眞の遠離行を修行する能はずと謂ひ、諸の如來應正等覺の稱讚せざる所の眞の諠雜行に住する菩薩摩訶薩は尊重し讚歎して諠雜ならず其の心寂靜にして能く正しく眞の遠離行を修行すと謂はん。善現、是の菩薩摩訶薩は親近し供養恭敬すべきこと〔一〇〕大師の如き者に於て而かも親近し供養恭敬せず反て輕蔑を生じ、遠離すべく承事すべからざること惡友の如き者に於て而かも遠離せず供養恭敬すること大師に事ふるが如し。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を遠離し巧便無きが故に妄りに執著を生ず。所以は何ん、彼れ是の念を作せばなり、我が修行する所は是れ眞の遠離なり。故に非人にも稱讚護念せらる。城邑に居する者は身心擾亂す誰れか當に護念恭敬稱美すべけんと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて心傲慢多く諸餘の菩薩摩訶薩を輕弄し毀蔑し煩惱惡業晝夜に增長すと。善現、當に知るべし是の菩薩摩訶薩は諸の菩薩に於

【一〇】大師。佛のこと。

は速に無上正等菩提を證し有情を利樂し未來際を窮むるまで常に斷盡無し。善現、惡魔の讃むる所の山林空澤曠野阿練若處に隱在し臥具を遠離し獨居宴坐するは諸の菩薩の勝遠離行に非ず。何を以ての故に、善現、彼の遠離行は猶ほ諠雜有ればなり。謂ゆる彼れは或は惡業煩惱を雜へ或は聲聞獨覺の作意を雜へ深般若波羅蜜多に於て精勤し信受し修學すること能はず、一切智智を圓滿すること能はざるなり。善現、菩薩摩訶薩有りて勤めて惡魔の讃むる所の遠離行法を修習すと雖も而かも傲慢不清淨心を起し諸餘の菩薩摩訶薩衆を輕弄し毀蔑す。謂ゆる菩薩摩訶薩衆有りて城邑聚落王都に居すと雖も而かも心清淨にして種種の煩惱惡業を雜へず聲聞獨覺の作意を雜へず、精勤して布施乃至般若波羅蜜多修習し、精勤して內空乃至無性自性空に安住し、精勤して眞如乃至不思議界に安住し、精勤して苦集滅道聖諦に安住し、精勤して四念住乃至八聖道支を修習し、四靜慮四無量四無色定五神通等の世間功德修に於て已に圓滿し、精勤して無相無願解脫門を修習し、精勤して五眼六神通を修習し、精勤して陀羅尼門三摩地門を修習し、精勤して佛の十力乃至十八佛不共法を修習し、精勤して無忘失法恒住捨性を修習し、精勤して一切智乃至一切相智を修習し、佛土を嚴淨し有情を成熟し憒閙[八]に居すと雖も而かも心寂靜にして恒に勤めて勝遠離行を修習す。彼れ是の如き眞淨の菩薩摩訶薩衆に於て心憍慢を生じ輕弄し毀呰し誹謗し凌蔑せば、善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を遠離し巧便無きが故に設ひ曠野の百踰繕那なるに居すも其の中絕えて諸の惡禽獸蛇蝎盜賊無く唯だ神鬼邏刹娑[九]等のみ有りて其の中に遊止し、彼れ是の如き阿練若處に居し一歲を經或は十歲を經或は百歲を經或は千歲を經或は百千歲を經或は俱胝歲を經或は百俱胝歲を經或は千俱胝歲を經或は百千俱胝歲を經或は復た此れ過ぎて遠離行を修すと雖も而かも諸の菩薩摩訶薩の眞の遠離行を了知せざるなり。謂ゆる諸の菩薩摩訶薩衆は憒閙に居すと雖も而かも心寂靜にして種種の煩惱惡業を遠離して無上正等菩提を發趣し聲聞獨覺の作意を遠離するも是の菩薩摩訶薩は曠野に居すと雖も多時

【八】憒閙。みだりさわがしき處にて、俗塵の巷に名づく。

【九】邏刹娑(Rākṣasa)。羅刹とも造る、惡鬼の總名なり。

心を起し諸餘の菩薩摩訶薩衆を輕弄し毀蔑するのみ。當に知るべし此の罪は彼の苾芻の犯す所の四重に過ぐること無量倍數なりと。善現、彼の苾芻の犯す所の四重を置き此の菩薩の罪の（六）五無間に過ぐることも亦た無量倍なり。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は實に殊勝功德を成就せず惡魔の成佛名號を說くを聞きて便ち自ら傲慢し餘の菩薩を輕んずればなり。是の故に此の罪は五無間に過ぐ。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を得んと欲せば應に善く是の如き記說虛名號等微細の魔事を覺知すべし。

（七）復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて山林空澤曠野に隱在し獨居宴坐して遠離行を修せん。時に惡魔有りて其の所に來到し遠離の功德を恭敬讃歎して謂ゆる是の言を作さん、善哉大士、能く是の如き遠離の行を修す。此の遠離行は一切の如來應正等覺の共に稱讃する所なり。天帝釋等の諸天神仙皆共に守護し供養尊重す應に常に此に住し餘處に往くこと勿るべしと。善現、我れは諸の菩薩摩訶薩の阿練若曠野山林に居し宴坐思惟して遠離行を修するを讃歎せざるなりと。爾の時善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は應に何等の餘の遠離行を修すべきや。而かも佛は阿練若曠野山林に居し諸の臥具を離れて思惟宴坐する遠離の功德を讃じたまはず、唯だ願はくは爲に諸の菩薩摩訶薩の勝遠離行を說きたまへと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は若しは山林空澤曠野阿練若處に居すも若しは城邑聚落王都諠雜の處に居すも但だ能く煩惱の惡業を遠離し聲聞獨覺の作意を遠離し勤めて般若波羅蜜多を修し及び諸餘の殊勝の功德を修するのみ。是れを菩薩の眞の遠離行と名づく。善現、此の遠離行は一切の如來應正等覺の共に稱讃する所、此の遠離行は一切の如來應正等覺の共に開許する所なり。善現、此の遠離行は諸の菩薩摩訶薩常に修學すべし、若しは晝若しは夜正思惟し精進して此の遠離法を修行すべし。是れを菩薩遠離行を修すと名づく。善現、此の遠離行は聲聞獨覺の作意を雜へず、一切の煩惱惡業を雜へず、諸の諠雜を離れ畢竟清淨なり。今諸の菩薩

【六】五無間。八大地獄の第八阿鼻地獄を五無間と云ふ、五種の無間あればなり。一に趣果無間。此獄を感ずる罪業は順現業又は順生業にして、造業と受果との間に於て他の生を隔つること無し。二に受苦無間。苦を受くること間斷なし。三に時無間。時に間斷無し。四に命無間。壽命相續して間斷無し。五に形無間。地獄の廣さ八萬由旬、身形亦た八萬由旬ありて些の空處無し。

【七】菩薩の遠離行の眞勝不眞勝を說く。

如き功德名號を得べしと謂ひて其の思願に隨ひ之を記說す。善現、時に此の菩薩は般若波羅蜜多を遠離し巧便無きが故に魔の記說を聞きて是の念言を作す、奇なる哉是の人、我が爲に當に成佛の功德名號を得べしと記說す。我が長夜の思願と相應せり。此れに由るが故に過去の諸佛必ず已に我れに大菩提の記を授けたまへるを知る。我れ無上正等菩提に於て決定して當に得べく復た退轉せず。我れ成佛せん時必定して當に是の如き功德尊貴の名號を得べしと。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き惡魔或は魔の眷屬或は魔に執せられし諸の沙門等の、當來の成佛名號を記說せば是の如く是の如く慢心轉た增さん。我れ未來に於て定めて當に作佛して是の如き功德名號を獲得すべく諸餘の菩薩我れと等しきもの無けんと。善現、我が說く所の如く已に不退轉を得たる菩薩摩訶薩の諸の行狀相を此の菩薩摩訶薩は皆未だ成就せず、但だ魔の成佛虛名を說くを聞きて便ち傲慢を生じ諸餘の菩薩摩訶薩衆を輕弄し毀蔑するのみ。善現、是の菩薩摩訶薩は傲慢を起して諸餘の菩薩摩訶薩を輕弄し毀蔑するに由るが故に無上正等菩提を遠離す。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を遠離し巧便無きが故に、善友を棄つるが故に、常に惡友の攝受する所と爲るが故に、當に聲聞或は獨覺地に墮つべし。[三]善現、是の菩薩摩訶薩は或は此の身還て正念を得て至誠に過を悔い舊慢心を捨て數數親近して眞勝の善友を供養恭敬尊重讃歎する有り、彼れ生死に流轉すること多時なりと雖も而かも後に還て甚深般若波羅蜜多に依り漸次に修學して當に無上正等菩提を證すべし。善現、是の菩薩摩訶薩若し此の身正念を得ず過を悔ゆる能はず慢心を捨てず、親近して眞勝の善友を供養恭敬尊重讃歎するを欲せざる有らば彼れ定めて生死に流轉すること多時なり。後に精進して諸の善業を修すと雖も而かも聲聞或は獨覺地に墮す。善現、譬へば苾芻の聲聞を求むる者[四]四重罪に於て若し一切を犯すに隨て便ち沙門に非ず[五]釋迦子に非ず、彼れは現在に於て定めて預流一來不還阿羅漢果を得ること能はざるが如し。善現、虛名に妄執する菩薩も亦た爾なり。但だ魔の成佛を記する空名を聞きて便ち慢

【三】　現身懺悔すれば無上菩提を得べきも、懺悔せざれば必ず二乘地に墮すべきを說く。

【四】　四重罪。四波羅夷なり、比丘にして四戒を犯す罪なり、一に婬戒(Abrahmacarya)、二に盜戒(Adattādāna)、三に殺人戒(Vadha)、四に大妄語戒(Uttaramanugyadharma)。

【五】　釋迦子(Śākyaputra)。釋迦族のもの。今は釋迦牟尼の弟子と云ふ意。古〻では佛子又は法子と云ふも釋子と云はず、釋子と云ふは外道から佛者を呼ぶに用ふ。新經には往々釋迦子と稱す。

妄りに執著を生ず。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は先に未だ布施乃至般若波羅蜜多を修學せず、先に未だ內空乃至無性自性空に安住せず、先に未だ眞如乃至不思議界に安住せず、先に未だ苦集滅道聖諦に安住せず、先に未だ四念住乃至八聖道支を修學せず、先に未だ四靜慮乃至四無色定を修學せず、先に未だ八解脫乃至十遍處を修學せず、先に未だ空無相無願解脫門を修學せず、先に未だ菩薩の十地を修學せず、先に未だ五眼、六神通を修學せず、先に未だ陀羅尼門三摩地門を修學せず、先に未だ佛の十力乃至十八佛不共法を修學せず、先に未だ無忘失法恒住捨性を修學せず、先に未だ一切智乃至一切相智を修學せず、先に未だ一切の菩薩摩訶薩行を修學せず、先に未だ諸佛の無上正等菩提を修學せず、此の因緣に由りて魔をして便りを得せしむればなり。善現、是の菩薩摩訶薩は蘊魔行相を了知すること能はず、死魔行相を了知すること能はず、天魔行相を了知すること能はず、煩惱魔行相を了知すること能はず、此の因緣に由りて魔をして便りを得せしむればなり。善現、是の菩薩摩訶薩は(a)色を了知せず受想行識を了知せず。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)十地。(a)五眼、六神通。(a)三摩地門、陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切智乃至一切相智。亦た有情諸法の名字の實相を了知せず、此の因緣に由りて魔をして便りを得せしめ、方便して種種の形像を化作し此の菩薩摩訶薩に語て言はく、汝修行する所の願行已に滿す、當に無上正等菩提を證すべし。汝成佛せん時當に是の如き殊勝の功德尊貴の名號を得べしと。善現、彼の惡魔は此の菩薩の長夜に思願せるを知り我れ成佛する時當に是の

【二】蘊魔等。蘊魔乃至煩惱魔を四魔と稱す。蘊魔。色等の五陰の能く種々の苦惱を生ずるもの。この肉身が苦情の種となるもの。死魔、命根を斷つ惡魔、並に過去事、死せる事物に束縛さるゝもの。天魔。他化自在天の魔王の能く人の善事を害するもの。並に身心憍慢なるもの、煩惱魔。貪等の煩惱の能く身心を惱害するもの。

(a)「不了知色不了知受想行識」右の「色乃至識」の所に夾下所出の諸法を代入せば他は同一文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

憍慢を生じ諸餘の菩薩を凌蔑し毀罵す。善現、爾の時惡魔は此の菩薩の其の心暗鈍なるを知り復た之に告げて言はく、汝是の如き功德相狀有り、過去の如來應正等覺は定めて已に汝に大菩提の記を授けたまへり。汝無上正等菩提に於て必ず當に證得して復た退轉せざるべしと。善現、是の時惡魔は擾亂せんが爲の故に或は矯り現じて出家の形像を作し、或は矯り現じて在家の形像を作し、或は矯り現じて父母の形像を作し、或は矯り現じて兄弟の形像を作し、或は矯り現じて姉妹の形像を作し、或は矯り現じて親友の形像を作し、或は矯り現じて梵志の形像を作し、或は矯り現じて師範の形像を作し、或は矯り現じて天龍藥叉人非人等の種種の形像を作し、此の菩薩摩訶薩の所に至りて是の如き言を作す、過去の如來應正等覺は久しく已に汝に大菩提の記を授けたまへり。汝無上正等菩提に於て決定して當に得べく復た退轉せず。何を以ての故に、諸の不退轉位の菩薩摩訶薩の功德相狀を汝皆具有せればなり。應に自ら尊重し猶豫を生ずること勿るべし。善現、我が說く所の如く實に不退轉の菩薩摩訶薩の諸の行狀相を得ば、是の菩薩摩訶薩は增上慢を懷くこと實に皆有るに非ず。善現當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は魔に執持せられ魔の魅する所と爲れるなりと。何を以ての故に、是の菩薩摩訶薩は不退轉を得たる菩薩摩訶薩の諸の行狀相に於て實に皆未だ有らず、但だ惡魔の其の功德を說き及び名字生處生時の少分似たるを說くを實なりと聞くのみにて便ち憍慢を生じ諸餘の菩薩を輕弄し毀罵すればなり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を得んと欲せば應に善く是の如き魔事を覺知すべし。

卷の第三百三十三

初分善學品第五十三之三

[一]復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて魔に執持せられ魔の魅する所と爲らば但だ名字を聞くのみにて

【一】惡魔便りを得る所以を說く。

久しく陀羅尼門、三摩地門を修行せず、未だ菩薩の正性離生に入らず、未だ具に一切の佛法を修行せず菩薩の方便善巧を遠離して諸の惡魔の擾亂する所と爲るやと。佛言はく、善現、惡魔變じて種種の形像を作し此の菩薩摩訶薩の前に至り方便し誑して言はく、咄善男子、汝自ら知るや不や。過去の諸佛は已に曾て汝に大菩提の記を授けたまへり。汝無上正等菩提に於て決定して當に得べく、復た退轉せず。汝が身は某と名づけ、父母は某と名づけ、兄弟は某と名づけ、姉妹は某と名づけ、親友眷屬乃至七世の父母宗親は各名けて某と爲し、汝が身は生じて某の方某の國某の城某の邑某の聚落中に在り、汝は某年某月某日某時[五〇]某宿相王中に在りて生ずと。善現、是の如き惡魔は若し此の菩薩の心行柔軟にして根性遲鈍なるを見ば便ち詐記して言ふ、汝先世に於ても亦た心行柔軟にして根性遲鈍なりきと。是の如き惡魔は若し此の菩薩の心行剛强にして根性猛利なるを見ば便ち詐記して言ふ、汝先世に於ても亦た心行剛强にして根性猛利なりきと。是の如き[五一]惡魔は若し菩薩の[五二]阿練若に居し或は[五三]塚間に居し或は露地に居し或は樹下に居し或は常に乞食し或は一受食、或は一坐食、或は一鉢食、或は[五四]糞掃衣、或は[五五]但三衣、或は常に坐して臥せず、或は舊敷具を好み、或は少欲、或は喜足、或は遠離を樂ひ、或は正念を具し、或は靜定を樂ひ、或は妙慧を具し、或は利養を重ねず、或は名譽を貴ばず、或は廉儉を好みて其の足を塗らず、或は睡眠を減じ、或は掉擧せず、或は少言を好み、或は軟語を樂ふを見ば是の如き惡魔は此の菩薩の種種の行を見已て便ち詐記して言ふ、汝先世に於て已に曾て是の如く阿練若に居し或は塚間に居し廣說し乃至少言軟語なりき。所以は何ん、汝今是の如き種種の[五六]杜多の功德を成就せるは世間共に見ればなり。汝先世に於ても決定して亦た是の如き種種の殊勝の功德有りき。應に自ら慶慰し自ら輕んずるを得ること勿るべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の惡魔の其の先世幷びに當來世に勝功德有るを說き、及び現在自身の親族の名字の差別生處生時を說き兼ねて種種の杜多の功德を讃ずるを聞き、聞き已て歡喜し心に

【五〇】某宿相王中。或る星座に當るを云ふ。

【五一】惡魔十二頭陀行等の因緣を詐說す。

【五二】阿練若（Āranya）。又た阿蘭若に造る、寺院の總名、比丘の住處なり。

【五三】塚間に居し。墳墓の處に住するなり。

【五四】糞掃衣。或は納衣と云ふ、人の遺棄せる糞掃に均しき者を縫納して衣となすもの。

【五五】但三衣。三衣とも云ふ、たゞ僧伽梨、欝多羅、安陀會の三衣を着して他の長衣を用ひざるなり。

【五六】杜多（Dhūta）。或は頭陀ともいひ、衣服、飮食、住處の三種の貪著を抖擻ふ行法を云ふ。

しむ。所以は何ん、善現、惡魔の威力彼の非人に勝ればなり。是の故に非人、魔の教勅を受けて即便ち捨て去れるなり。善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て歡喜踊躍して是の念言を作さく、非人今去れり是れ吾が威力なり。所以は何ん、非人我が發す所の誓願に隨ひて即便ち此の男子女人の別縁無きを放つが故なりと。善現、是の菩薩摩訶薩は惡魔の所作を覺知すること能はず、是れ已が力なりと謂ひて妄りに歡喜を生じ此れを恃みて諸餘の菩薩を輕弄して言はく、我れ已に過去の諸佛より無上正等菩提の不退轉記を受得せり、發す所の誓願皆唐捐ならず、汝等は未だ諸佛の授記を蒙らず。相擧びて誠諦の言を發すべからず、設ひ要ず期する有らんも必ず空にして果無からんと。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の菩薩を輕弄し毀呰するが故に妄りに少能を恃み、諸の功德に於て多種の(四九)増上慢を生長するが故に無上正等菩提を遠離し一切智智を證得すること能はず。善現、是の菩薩摩訶薩は善巧方便力無きが故に、多品の增上慢を生長するが故に、諸の菩薩を輕蔑し毀呰するが故に、勤め精進すと雖も而かも聲聞或は獨覺地に墮つ。善現、是の菩薩摩訶薩は福德薄きが故に作す所の善業は誠諦の言を發すも皆魔事を起す。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の善知識に親近し供養恭敬尊重讃歎すること能はず、不退轉を得る菩薩の行相を請問すること能はず、諸の惡魔軍を諳受すること能はず、作す所の事業斯の魔の縛に由り轉じて復た堅牢なり。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は久しく布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行せず乃至方便善巧を遠離するが故に惡魔の擾亂する所と爲ればなり。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は應に善く種種の魔事を覺知すべしと。

爾の時具壽善現即ち佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は久しく布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行せず、久しく(五〇)內空乃至無性自性空に安住せず、久しく(五一)眞如乃至不思議界に安住せず、久しく苦集滅道聖諦に安住せず、久しく(五二)四念住乃至八聖道支を修行せず、久しく(五三)四靜慮乃至四無色定を修行せず、久しく(五四)八解脫乃至十遍處を修行せず、久しく空無相無願解脫門を修行せず、

【四九】増上慢。増上の法を得たりとて慢心を起すを云ふ。

く證せざる所無く現に一切有情の意樂差別を知見覺したまふ。願はくは我が心の所念及び誠諦の言を照察することを垂れたまへ。若し我れ實に能く菩薩行を修しなば必ず無上正等菩提を得て有情を生死の苦より救拔する者なり。願くは是の男子或は此の女人非人の擾惱する所と爲らざらんことを。彼れ我が語に隨ひて卽ち當に捨て去るべしと。善現、是の菩薩摩訶薩此の語を作す時若し彼の非人爲に去らずんば當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は未だ如來應正等覺曾て無上正等菩提の不退轉記を授くることを蒙らずと。善現、是の菩薩摩訶薩此の語を作す時若し彼の非人卽ち爲に去らば當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は已に如來應正等覺彼れに無上正等菩提の不退轉記を授くることを蒙れりと。善現、若し菩薩摩訶薩是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

　復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて未だ善く布施波羅蜜多を修學せず未だ善く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修學せず、未だ善く內空乃[わ]至無性自性空に安住せず、未だ善く眞如乃[わ]至不思議界に安住せず、未だ善く苦聖諦乃[わ]至道聖諦に安住せず、未だ善く四念住乃[わ]至八聖道支を修學せず、未だ善く八解[わ]脫乃至十遍處を修學せず、未だ善く空解脫門乃[わ]至無願解脫門を修學せず、未だ善く陀羅尼門、三摩地門を修學せず、未だ菩薩の正性離生に入らず、未だ具に一切の佛法を修習せず、菩薩の方便善巧を遠離し、未だ惡魔の惱亂する所を免れず、諸の魔事に於て未だ能く覺了せず、自ら善根の厚薄を度量せずして諸の菩薩を學びて誠諦の言を發せば便ち惡魔の誑惑する所と爲る。善現、是の菩薩摩訶薩は男子有り或は女人有りて現に非人の魅著する所と爲るを見ば卽便ち爾れを輕しめて誠諦の言を發す。若し我れ已に過去の諸佛より無上正等菩提の不退轉記を受得せば、是の男子或は此の女人をして非人の擾惱する所と爲らざらしめん。彼れ我が語に隨ひて速に當に捨て去るべしと。善現、是の菩薩摩訶薩此の語を作し已りしに爾の時惡魔惑亂せらるるが故に卽便ち非人を驅逼して去ら

（わ）六度の場合の如く分說すべきも今略を簡びて本文の如く略す以下同じ。

の不退轉相なりと。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩覺時に火の諸の城邑を燒き或は聚落を燒くを見て便ち[四六]是の念を作さん、我れ夢中に在り或は覺位に在り曾て自ら不退轉地に有りて諸の行狀相を見しに若し我が見し所定めて是れ實有ならば必ず無上大菩提を得る者なり。願はくは此の大火即時に頓に滅し變じて清涼と爲らんことをと。善現、是の菩薩摩訶薩此の誓願を發し誠諦に言ひ已りしに爾の時大火爲に頓に滅せず、然かも一家を燒き越して一家を置きて復た一家を燒き、或は一巷を燒き越して一巷を置きて復た一巷を燒く是の如く展轉して其の火乃ち滅す。善現、是の菩薩摩訶薩は應に自ら決定して已に不退轉地を得たりと了知すべきも然かも燒かるる者は彼の有情壞正法業を造作し增長するに由り、彼れ[四七]此の業に由りて先に惡趣に墮し無量劫中正苦報を受け今生に人趣には彼の餘殃を受く。或は此の業に由りて當に惡趣に墮ち、無量劫を經て正苦報を受け今人趣に在りて先に少殃を現ずべし。善現、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩の不退轉相なりと。

[四八]復た次に善現、前に說く所の種種の因緣に由りて是れ不退轉の菩薩摩訶薩なりと知り、復た諸の行狀相を成就する有らば是れ不退轉の菩薩摩訶薩なりと知るを當に汝が爲に說くべし、汝應に諦聽すべしと。善現答へて言さく、唯然、願はくは說きたまへと。佛、善現に告げたまはく、若し菩薩摩訶薩、男子有り或は女人有りて現に非人の魅著する所と爲れるを見て便ち是の念を作さく、若し諸の如來應正等覺、我が已に淸淨の意樂を得たるを知らしめせば我れに無上正等菩提の不退轉記を授けたまはん。若し我れ久しく淸淨の作意を發して無上正道菩提を求證し聲聞獨覺の意樂を遠離し、聲聞獨覺の作意を以て無上正等菩提を求證せず、若し我れ當來に必ず無上正等菩提を得なば未來際を窮むるまで諸の有情類を利益し安樂せん。若し十方界に現在實に無量の如來應正等覺有して微妙の法を說き有情を利樂したまふ。彼の諸の如來應正等覺は見ざる所無く知らざる所無く解せざる所無

【四六】是の念。夢覺二無ければ夢中能く獄火を滅して不退相ならば城火も滅すべしとなり。

【四七】此の業。壞正法業、即ち般若を破壞する業を云ふ。

【四八】惡魔非人の惱亂する不退轉相の魔事を說く。

圓光一尋周匝照曜し苾芻衆と空中に踊在し大神通を現じて正法要を說き化事を化作し他方無邊の佛土に到らしめて佛事を施作せるを見ば、善現、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩の不退轉相なりと。

[四五] 復た次に善現、若し菩薩摩訶薩夢に狂賊の村城を破壞するを見、或は火起りて聚落を焚燒するを見、或は虎狼師子猛獸毒蛇惡蝎來りて身を害せんと欲するを見、或は怨家其の首を斬らんと欲するを見、或は父母兄弟姉妹妻子親友の命終らんと欲するに臨むを見、或は自身寒熱飢渇及び餘の苦事に逼惱せらるるを見る。是の如き等の怖畏す可き事を見るも驚かず懼れず亦た憂惱せず、夢より覺め已て即ち能く思惟す、三界は虛假にして皆夢見の如し。我れ無上大菩提を證せん時諸の有情の爲に三界は一切虛妄にして皆夢境の如しと宣說せんと。善現、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩の不退轉相なりと。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩乃至夢中に地獄傍生鬼界の諸の有情類有るを見て便ち是の念を作さん、我れ當に精勤して諸の菩薩摩訶薩行を修し速に無上正等菩提に趣くべし。願はくは無上大菩提を得ん時我が佛土の中地獄傍生鬼界の諸の有情類有ること無く乃至諸の惡趣の名有ること無からんことをと。夢より覺め已て亦た是の念を作す、善現、當に知るべし是の菩薩摩訶薩の當に作佛すべき時彼の佛土の中定めて惡趣無し。何を以ての故に、善現、若しは夢若しは覺の諸法は二無く二分無きが故なり。善現、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩の不退轉相なりと。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩夢中に火の地獄等の諸の有情類を燒くを見或は復た城邑聚落を燒くを見て便ち誓願を發す、若し我れ已に不退轉の記を受けなば當に無上正等菩提を得べし、願はくは此の大火即時に頓に滅し變じて淸涼と爲らんことをと。善現、此の菩薩摩訶薩是の願を作し已て夢中に火の即時に滅するを見る者は當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。是の願を作し已て若し火滅せずんば當に知るべしまだ不退轉地を得ずと。善現、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩

[四二] 莫呼路伽(mahoraga)。八部衆の一、大蟒神なり。
[四三] 法隨法行。正法の順位に隨ひ、その趣向する所に向ふを云ふ。
[四四] 和敬行。正法に順じて和合し向上する、孝順に同じ。
[四五] 三界虛假、夢見の如しと說く。

而かも能く此れに於て如實の答を作す。善現、是の菩薩摩訶薩は未だ不退轉を得ずと雖も而かも能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多菩提分法を修習して已に覺慧猛利を成熟することを得[三六]若し聞くも聞かざるも能く如實に答ふること不退轉位の菩薩摩訶薩の如しと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊多く菩薩摩訶薩の無上正等菩提を修行する有り少しく能く如實に答ふること不退轉位の菩薩摩訶薩の如く有るは已に善く地を修治し、未だ善く地を修治せずして安住するが故なりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。何を以ての故に、善現、少しの菩薩摩訶薩有りて是の如き不退轉地の微妙慧の記を受くるを得るのみなればなり。若し是の如き記を受くるを得たる者有らば皆能く此れに於て如實の答を作す。善現、若し能く此れに如實の答を作す者は當に知るべし是の菩薩摩訶薩の善根明利にして世間天人阿素洛等も破壞すること能はずと。

[三七]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩乃至夢中にも亦た[三八]聲聞及び獨覺地を愛樂し稱讃せず、三界法に於ても亦た擧心し愛樂し稱讃せず、常に諸法は夢の如く幻の如く響の如く像の如く光影の如く陽焰の如く變化事の如く尋香城の如しと觀ず。是の如く觀察すと雖も而かも實際を證せずんば善現、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩の不退轉相なりと。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩夢に如來應正等覺の無量衆無量百衆無量千衆無量百千衆無量倶胝衆無量百倶胝衆無量千倶胝衆無量百千倶胝衆無量那庾多衆無量百那庾多衆無量千那庾多衆無量百千那庾多衆の謂ゆる苾芻苾芻尼鄔波索迦鄔波斯迦天龍藥叉[三九]健達縛阿素洛[四〇]揭路茶[四一]緊捺洛[四二]莫呼路伽人非人等有りて恭敬圍遶せられて爲に法を說きたまふを見る。既に法を聞き已て善く義趣を解し、義趣を解し已て精進して[四三]法隨法行及び[四四]和敬行並に隨法行を修行す。善現、當に知るべし是れ菩薩摩訶薩の不退轉相なりと。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩、夢に如來應正等覺三十二大士夫相八十隨好を具して圓滿莊嚴し

【三六】若し聞くも聞かざるも。たゞ聞くのみにて自ら菩提地を具足せざるものと、自ら思惟正念にして無生法忍を得ざるも能く諸法相を求むるものとを云ふ。

【三七】晝日常に空を行ずる者の夢中の相による不退轉相を明す。

【三八】聲聞及び獨覺地等。菩薩は二乘及び世間に取著するの二處を離るゝを云ふ。

【三九】健達縛(Gandharva)。八部衆の一。

【四〇】揭路茶(Garuda)。八部衆の一にて、妙翅鳥と譯す、四天下の大樹に居り龍を取て食となす。

【四一】緊捺洛(Kinnara)。八部衆の一にて歌神と譯す。

無相無願無生無滅無作無爲無性實際を證せず、證せざるに由るが故に預流一來不還阿羅漢果獨覺菩提に墮ちずして勤めて甚深般若波羅蜜多を修習し常に執する所無きやと。善現、是の菩薩摩訶薩此の問ひを得る時若し[三三]是の答を作さん、諸の菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば但だ應に空無相無願無生無滅無作無爲無性實際を思惟すべし及び一切の菩提分法は修學すべからずと。善現、當に知るべし。是の菩薩摩訶薩は未だ如來應正等覺の無上正等菩提に於て不退轉の記を授くることを蒙らずと。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は未だ不退轉位に住する菩薩摩訶薩の[三四]修學する法相を開示し記別し顯了すること能はざればなり。善現、是の菩薩摩訶薩此の問を得し時若し是の答を作さん、諸の菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば應に正しく空無相無願無生無滅無作無爲無性實際を思惟すべし及び餘の一切の菩提分法も亦た應に方便して前に說く所の如く善巧し修學して證を作さざるべしと。善現、當に知るべし是の菩薩摩訶薩は已に如來應正等覺の無上正等菩提に於て不退轉の記を授くることを蒙れりと。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は已に能く不退轉位に住する菩薩摩訶薩の修學する法相を開示し記別し顯了すればなり。善現、若し菩薩摩訶薩未だ不退轉位に住する菩薩摩訶薩の修學する法相を開示し記別し顯了する能はずんば當に知るべし是の菩薩摩訶薩は未だ善く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多菩提分法を修學せず、未だ薄地[三五]に入らず未だ諸の餘の不退轉位に住する菩薩摩訶薩の如く安住不退轉地を開示し記別し顯了せず。善現、若し菩薩摩訶薩已に能く不退轉位に住する菩薩摩訶薩の修學する法相を開示し記別し顯了せば當に知るべし是の菩薩摩訶薩は已に善く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多菩提分法を修學し、已に薄地に入り已に諸の餘の不退轉位に住する菩薩摩訶薩の如く安住不退轉地を開示し記別し顯了するなりと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、頗し未だ不退轉を得ざる菩薩摩訶薩有らば能く是の如く如實の答を作すや不やと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩有りて未だ不退轉を得ずと雖も

【三三】空を念じて一心に習行し、二乘の如きは學知するのみにて觀ぜずとなすなり。

【三四】修學する法相。度生の要を感ずる方便學知の相。

【三五】薄地。薄は逼なり、下地に逼るなり、諸苦に逼迫せらるゝ地位にて、凡夫の境界を云ふ。

有りと執し、或は四靜慮乃至四無色定有りと執し、或は四正事有りと執す。我れ是の如き諸の有情の爲の故に應に無上正等菩提に趣き諸の菩薩摩訶薩行を修して無上大菩提を證得する時諸の有情をして永く是の如き有所得の執を斷ぜしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の念を成就して深般若波羅蜜多を行じて方便善巧に攝受せらるるが故に佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法に於て若し未だ圓滿せざるも實際を證せず。善現、是の菩薩摩訶薩は爾の時無相無願三摩地門に於て修習せざるに非ずと雖も而かも但だ空三摩地門修に於て已に圓滿せり。

[三〇]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行じ諸の有情の惡友力に由りて長夜に無量種相に執著し所謂女相男相色相聲相香相味相觸相法相に執著せるを見ば恒に是の念を作す。我れ是の如き諸の有情類の爲に應に無上正等菩提に趣き、諸の菩薩摩訶薩行を修して無上大菩提を證得する時諸の有情をして永く是の如き諸相の執著無からしむべしと。善現、是の菩薩訶摩薩は此の念を成就し深般若波羅蜜多を行じて方便善巧に攝受せらるるが故に佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法に於て若し未だ圓滿せざるも實際を證せず。善現、是の菩薩訶摩薩は爾の時空無願三摩地門に於て修習せざるに非ずと雖も而かも無相三摩地門修に於て已に圓滿せり。

[三一]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩已に善く布施乃至般若波羅蜜多を修學し已に善く內空乃至無性自性空に安住し已に善く眞如乃至不思議界に安住し已に善く苦集滅道聖諦に安住し已に善く四念住乃至八聖道支を修學し已に善く空無相無願解脫門を修學し已に善く乃至佛の十力乃至十八佛不共法及び餘の無量無邊の佛法を修學せば、善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き功德智慧を成就して若し生死に於て樂想を發起して或は說きて樂と爲し或は三界に於て安住して執著する是の處有ること無し。

善現、若し菩薩摩訶薩已に善く菩提分法を修學せば一切の如來應正等覺及諸の菩薩摩訶薩衆の法を應に試問すべし。若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば云何が[三二]菩提分法を修學して空

も今略を簡びて本文の如く略す。

【三〇】第三に無相三摩地門修に就て明す。

【三一】未得度の菩薩能く深空を行ずる所以を說く。

【三二】菩提分法。四念住、四正勤、四如意足、五根、五力、七覺支、八正道支の總名なり。此の中特に七覺支に名くることあり。三十七科の道行能く菩提に順趣する法なれば菩提分法と名くるなり。

是の菩薩摩訶薩は爾の時一切の菩提分法を成就し乃至無上正等菩提を證得し諸の功德に於て終に衰減せず。善現、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ方便善巧攝受せらるるが故に刹那刹那に白法增益し諸根猛利にして一切の聲聞獨覺を超過す。

〔二六〕復た次に善現、若し菩薩摩訶薩恒に是の念を作さん。諸の有情類は長夜の中に於て其の心常に〔二七〕四倒の倒す所と爲る。謂ゆる常〔二八〕想倒心倒見倒・樂想倒心倒見倒・我想倒心倒見倒・淨想倒心倒見倒なり。我れ是の如き諸の有情の爲の故に應に無上正等菩提に趣き諸の菩薩摩訶薩行を修して無上大菩提を證得する時諸の有情の爲に無倒法を說くべし。謂ゆる生死は無常無樂無我無淨にして唯だ涅槃の寂靜微妙のみ有りて種種の常樂我淨眞實の功德を具足すと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の念を成就し深般若波羅蜜多を行じて方便善巧に攝受せらるるが故に佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法に於て若し未だ圓滿せざるも如來の勝定に勝入せず。善現、是の菩薩摩訶薩は爾の時空無相無願解脫門を習ひ入出自在なりと雖も而かも實際に於て未だ卽ち證を作さず。乃至無上正等菩提まで功德を行ずるに因りて未だ善く圓滿せざるも實際及び餘の功德を證せず。若し無上正等菩提を得ば乃ち證得す可し。善現、是の菩薩摩訶薩は爾の時諸餘の功德修に於て未だ圓滿せずと雖も而かも無願三摩地門修に於て已に圓滿せり。

〔二九〕復た次に善現、若し菩薩摩訶薩恒に是の念を作さん。諸の有情類は長夜の中に於て有所得を行ず。謂ゆる我有りと執し或は有情命者生者養者士夫補特伽羅意生〔二二〕儒童〔二三〕作者〔二四〕受者〔二五〕知者見者有りと執し、或は色有りと執し受想行識有りと執し、或は眼處乃(ろ)至意處有りと執し、或は色處乃(は)至法處有りと執し、或は眼界乃至意界有りと執し、或は色界乃(に)至法界有りと執し、或は眼識界乃(ほ)至意識界有りと執し、或は眼觸乃(へ)至意觸有りと執し、或は眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(と)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受有りて執し、或は地界乃(ち)至識界有りと執し、或は無明乃(り)至老死有りと執し、或は十善業道

【二二】意生想執。幻 Māyā 若くは意 Manas を根本として萬物成立するとするもの。
【二三】儒童想執。儒童 Māṇavaka 婆羅門 Brāhmaṇa の神聖常住を主張する如きもの。
【二四】作者想執。造物者、能作者の實在を主張する如きもの。
【二五】受者想執。能作に對し、主觀の能受者實在を主とするもの。
(そ) 四靜慮等の場合の如く分說すべきも今略を簡びて本文の如く略す以下皆同じ。
【二六】次に三解脫門に就て再說す。最初に無願、衆生の顚倒を見てこれを說破せんとするが故に墮せず。
【二七】四倒。四顚倒なり。常、樂、我、淨の四種顚倒の妄見なり。これに有爲の四倒と無爲の四倒の二種あり、有爲の四倒を斷ずるを二乘とし、有無爲の八倒を斷ずるを菩薩となすなり。
【二八】想倒心倒見倒。想倒は取想分別にして人の常識妄想。心倒は差別存在に因る實在心。見倒は邪見による知的顚倒判斷なり。
【二九】第二に、有所得の執を斷ぜんとするが故に空觀も墮落とならざるを說く。
(ろ) 五蘊の如く分說すべき

情を捨つべからず必ず解脫せしめん。然かも諸の有情不正法を行ず、我れ彼れを度せんが爲に應に數（しばしば）寂靜の空無相無願解脫門を引發すべし。數引發すと雖も而かも證を取らずと。善現、是の菩薩摩訶薩は[一三]善巧方便力を成就せるが故に數三解脫門を現起すと雖も而かも中間に於て實際を證せず乃至未だ一切智智を得ざるも要らず無上正等菩提を得て方に乃ち證を取る。

[一四]復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は甚深處に於て常に樂ふて觀察す、謂ゆる樂ふて內空乃（わ）至無性自性空を觀察し亦た願ふて四念住乃（そ）至八聖道支及び空無相無願解脫門等皆自相空なりと觀察す。善現、是の菩薩摩訶薩は此の觀を作し已て是の如き念を生ず、諸の有情類は惡友力に由りて長夜の中に於て[一五]我想執・[一六]有情想執・[一七]命者想執・[一八]生者想執・[一九]養者想執・[二〇]士夫想執・[二一]補特伽羅想執・[二二]意生想執・[二三]儒童想執・[二四]作者想執・[二五]受者想執・知者想執・見者想執を起し、此の想執に由りて有所得を行じ生死に輪廻して種種の苦を受く。有情の是の如き想執を斷ぜんが爲に應に無上正等菩提に趣き諸の有情の爲に深妙の法を說き想執を斷じて生死の苦を離れしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は爾の時空解脫門を習ふと雖も而かも此れに依りて實際を證せず、無相無願解脫門を習ふと雖も亦た此れに依りて實際を證せず。實際に於て證を取らざるを以ての故に預流一來不還阿羅漢果に墮ちず亦復た獨覺菩提に墮ちず。善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き念に由りて深般若波羅蜜多を行じ善根を成就して實際を證せず。實際に於て未だ即ち證を作さずと雖も而かも四靜慮を退失せず亦た四無量四無色定を退失せず。亦た四念住乃（そ）至八聖道支を退失せず。亦た八解脫乃（れ）至十遍處を退失せず。亦た空解脫門乃（つ）至無願解脫門を退失せず、亦內空乃（わ）至無性自性空を退失せず、亦た眞如乃（か）至不思議界を退失せず。亦た苦聖諦乃（る）至道聖諦を退失せず。亦た布施波羅蜜多乃（よ）至般若波羅蜜多を退失せず。亦た五眼、六神通を退失せず。亦た一切陀羅尼門、一切三摩地門を退失せず。亦た佛の十力乃（ね）至十八佛不共法を退失せず。亦た無忘失法、恒住捨性を退失せず。亦た一切智乃（な）至一切相智を退失せず。善現、

【一三】善巧方便力等。豫め衆生の苦を觀て度せんとするが故に智足らざるも慈悲大なるを以て空涅槃に墮せざるなり。
【一四】衆生の想執を斷ぜんが爲に證せず、善法を增益する觀智と利生と雙運すべきを明す。
【一五】我想執。常一主宰すべき實在の我 Ātman 最上我 Paramātman 吾 Aham ありとし、この有我の爲に愛憎取捨を生ず。
【一六】有情想執。情感意識するもの實在すとするもの。
【一七】命者想執。生命（耆婆 Jīva）ありて生長、生存を司どるとするもの。
【一八】生者想執。衆生を生ずる波闍波提（Prajāpati）生主ありとするもの。
【一九】養者想執。生成發展するは梵天毘紐の養護力によるとするが如きもの。
【二〇】士夫相執。神我 Purusha 即ち士夫を根本とし人格的精神の實在を立つるもの。
【二一】補特伽羅想執。人我 Pudgala の實在を主張するもの。

撥らず亦た空の拘礙する所と爲らざるが如し。善現、當に知るべし諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如しと。空無相無願解脫門に於て數數(しばしば)習近し安住し修行すと雖も而かも證を作さず、證せさるに由るが故に聲聞及び獨覺地に墮ちず佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法一切智智を修し若し未だ圓滿せざれば終に空無相無願の三三摩地に依りて漏盡を證せず。

〔一〕善現、譬へば壯夫の善く射術を閑(なら)ひ己が伎を現はさんと欲し仰ぎて虛空を射、空中の箭をして地に墮ちさらしめんが爲に復た後箭を以て前箭の筈(はず)を射る。是の如く展轉して多時を經、箭箭相承けて墮落せしめず。若し墮ちしめんと欲せば後箭を止む。爾の時諸箭方に頓に墮落するが如し。善現、當に知るべし、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如しと。深般若波羅蜜多を行じ方便善巧に攝受せらるゝが故に乃至無上正等菩提まで善根を行じ未だ皆成熟せざるに因り終に中道にして實際を證せず、若し無上正等菩提を得ば善根を行じ一切成熟するに因り爾の時菩薩方に實際を證し便ち無上正等菩提を得。是の故に善現、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずるに皆應に是の如く審諦に前に說く所の如き諸法の實相を觀察すべしと。

〔二〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は能く難事を爲す。諸法の眞如乃至(ハ)不思議界を學すと雖も、諸法の內空乃至(ロ)無性自性空を學すと雖も、苦集滅道聖諦を學すと雖も、四念住乃至(イ)八聖道支を學すと雖も、空無相無願解脫門を學すと雖も而かも中道に於て聲聞及び獨覺地に墮して無上正等菩提を退失せず。世尊、是の菩薩摩訶薩は甚だ爲れ希有なりと。佛、善現に告げたまはく、諸の菩薩摩訶薩は諸の有情に於て誓ひて捨てさるが故に謂ゆる是の願を作す、若し諸の有情未だ解脫を得ずんば我れ終に起す所の加行を捨てずと。善現、諸の菩薩摩訶薩の願力殊勝にして常に是の念を作す、一切の有情若し未だ解脫せずんば我れ終に捨てずと。是の如き廣大の心を起すに由るが故に其の中道に於て必ず退落せず。善現、諸の菩薩摩訶薩は恒に是の念を作す、我れ一切有

【一】善射人の箭喩。

【二】菩薩の難行は大悲の誓願に依ることを明す。

善提を證せず。四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を習近し四正斷乃至八聖道支に安住し四正斷乃至八聖道支を修行すと雖も而かも預流果を證せず亦た一來不還阿羅漢果を證せず亦復た獨覺菩提を證せず。善現、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて聲聞及び獨覺地に墮せず疾く無上正等菩提を證す。

[二]善現、譬へば[三]壯士の威猛勇健にして形貌端嚴に見る者歡喜し最も淸淨圓滿の眷屬を具し諸の兵法に於て學して究竟に至り善く[三]器仗を持ち[三]安固にして動ぜず[四]六十四能[五]十八明處一切の伎術善巧ならざる無し衆人欽仰して皆悉く敬伏し、善事業の故に功少くして利多し。此れに由りて諸人恭敬供養尊重讃歎す。彼れ爾の時に於て倍增喜躍して自ら慶慰し因緣有るが故に[六]老弱及び諸の眷屬を扶將して他方に發趣し、中路に[七]險難の曠野を經過す。其の間多く[八]惡獸劫賊怨家潛伏し諸の怖畏事有りて眷屬小大驚惶せざる無きも其の人は自ら威猛勇健にして諸の伎術多きを恃み身意泰然として父母幷に諸の眷屬に、幸に憂懼すること勿れ必ず苦無からしめんと安慰す。彼の人是に於て善巧術を以て諸の眷屬を將ひて[九]安隱處に到り既に危險を免れて歡娛受樂す。然かも彼の壯士には曠野の中に於ける惡獸怨賊害を加ふる意無し。所以は何ん、自ら威勇を恃み諸の伎術を具し畏るゝ所無きが故なるが如し。善現、當に知るべし諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如しと。生死苦の諸の有情を愍むが故に無上正等菩提を發趣し普ねく有情を緣じて四無量を起し四無量倶行の心に住し精勤して布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修習して速に圓滿せしむ。是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に於て未だ位を圓滿せず一切智智を修學せんと欲するが爲に漏盡を證せず、空無相無願解脫門に住すと雖も然かも其の勢力に隨ひて轉ぜず亦た彼の障の牽奪する所と爲らず、解脫門に於ても亦た證を作さず、證せざるに由るが故に聲聞及び獨覺地に墮せず必ず無上正等菩提に趣く。

[一〇]善現、堅翅鳥の虛空に飛騰し自在に翺翔して久しく地に墮ちず空に依りて戲ると雖も而かも空に

[二] 安住して證せざるを比喩を以て說く。
[三] 壯士等。壯士は菩薩、器仗は菩薩の五神通等方便力、安固不動は畢竟空に住するをそれ〴〵喩ふなり。
[四] 六十四能。言書等六十四種に通曉すと云ふを常とし六十四能と云ふ。
[五] 十八明處。十八分學處を云ひ、これに通ずることが一般學に通じたものとされる。
[六] 老弱等。老弱、諸の眷屬、父母は度せらるべき衆生に喩ふ。
[七] 險難の曠野。三惡生死を喩ふ。
[八] 惡獸等。惡獸、劫賊、怨家は魔煩惱を喩ふ。
[九] 安隱處。菩薩所行の道を喩ふ。
[一〇] 空中如何が行ずべきかを疑ふを以て堅翅鳥の比喩を說く。

切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)無上正等菩提。我れ今應に一切智智を學すべく預流果を證すべからず。我れ今應に一切智智を證すべく一來不還阿羅漢果を證すべからず。我れ今應に一切智智を學すべく獨覺菩提を證すべからずと。

卷の第三百三十二

初分善學品第五十三之二

[一]善現、是の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずるに應に空三摩地を習近すべく應に空三摩地に安住すべく應に空三摩地を修行すべきも而かも實際に於て證を作すべからず。應に無相無願三摩地を習近すべく應に無相無願三摩地に安住すべく應に無相無願三摩地を修行すべきも而かも實際に於て證を作すべからず。應に四念住を習近すべく應に四念住に安住すべく應に四念住を修行すべきも而かも實際に於て證を作すべからず。應に四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を習近すべく應に四正斷乃至八聖道支に安住すべく應に四正斷乃至八聖道支を修行すべきも而かも實際に於て證を作すべからず。是の如く乃至應に佛の十力を習近すべく應に佛の十力を發趣すべく應に佛の十力を修行すべきも而かも實際に於て證を作すべからず。應に四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法を習近すべく應に四無所畏乃至十八佛不共法を發趣すべく應に四無所畏乃至十八佛不共法を修行すべきも而かも實際に於て證を作すべからず。善現、是の菩薩摩訶薩は空三摩地を習近し空三摩地に安住し空三摩地を修行すと雖も而かも預流果を證せず亦た一來不還阿羅漢果を證せず亦復た獨覺菩提を證せず。無相無願三摩地を習近し無相無願三摩地に安住し無相無願三摩地を修行すと雖も而かも預流果を證せず亦た一來不還阿羅漢果を證せず亦復た獨覺菩提を證せず。四念住を習近し四念住に安住し四念住を修行すと雖も而かも預流果を證せず亦た一來不還阿羅漢果を證せず亦復た獨覺

【一】般若を善學して安住修行するも實際に作證せざることを明す。

證を作さず。所以には何ん、善現、是の菩薩摩訶薩善く諸法の自相皆空なるを學せば法の增す可き無く法の減ず可き無し。故に諸法に於て見ず證せざるなり。何を以ての故に、善現、一切法の勝義諦の中に於ては能證所證證處證時及び此れに由りて證し若しは合若しは離皆不可得不可見なるが故なりと。[三]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛の言ふ所の如くんば諸の菩薩摩訶薩は諸法空に於て證を作すべからず。世尊、云何が諸の菩薩摩訶薩は諸法空に住して證を作さざるやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は法空を觀ずる時先づ是の念を作す、我れ應に法の諸相皆空なりと觀ずべし證を作すべからず、我れ學せんが爲の故に諸法空を觀ず、證せんが爲の故に諸法空を觀ぜず、今は是れ學時なり證を爲す時に非ずと。善現、是の菩薩摩訶薩はまだ定位に入らずんば[四]心を所緣に繫するも已に定に入れる時は心を境に繫せず。善現、是の菩薩摩訶薩は此の時中に於て(c)布施波羅蜜多より退せず漏盡を證せず淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多より退せず漏盡を證せず。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)菩薩摩訶薩行。(c)無上正等菩提。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は是の如き微妙の大智を成就し善く法空及び一切種の菩提分法に住して是の如き念を作せばなり、今時に應に學すべし證を爲す時に非ずと。善現、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時應に是の念を作すべし、(d)我れ布施波羅蜜多に於て今時に應に學すべく證を作すべからず我れ淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に於て今時に應に學すべく證を作すべからず。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一

【三】善現空の故に證せざるの義を知るも空に入るも何證せざる所以を問ふに對して、佛深入せんが爲に證せずと答ふ。

【四】心を所緣に繫する。心空緣に繫すれば柔軟にして空より出づる能はざるなり。

(c)「不退布施波羅蜜多不證漏盡不退淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多不證漏盡」右の文中六波羅蜜の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(c)にて略し以下諸法のみ略出す。

(d)「我於布施波羅蜜多今時應學不應作證我於淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多今時應學不應作證」右も(c)の場合と同じくして以下略す。

初分善學品第五十三之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩は云何が空三摩地を[二]習近し、云何が空三摩地に入り、云何が無相三摩地を習近し云何が無相三摩地に入り、云何が無願三摩地を習近し云何が無願三摩地に入り、云何が四念住を習近し云何が四念住を修し、云何が四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を習近し云何が四正斷乃至八聖道支を修し、云何が佛の十力を習近し云何が佛の十力を修し、云何が四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法を習近し云何が四無所畏乃至十八佛不共法を修するやと。佛言はく、善現、深般若波羅蜜多を行ずる諸の菩薩摩訶薩は(b)應に色空を觀ずべく應に受想行識空を觀ずべし。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)三乘菩薩十地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。應に有漏法空を觀ずべく應に無漏法空を觀ずべし。應に世間法空を觀ずべく應に出世間法空を觀ずべし。應に有爲・法空を觀ずべく應に無爲法空を觀ずべし。應に過去法空を觀ずべく應に未來現在・法空を觀ずべし。應に善法空を觀ずべく應に不善無記法空を觀ずべし。應に欲界法空を觀ずべく應に色無色界法空を觀ずべし。善現、是の菩薩摩訶薩は是の觀を作す時心をして亂れしめず、若し心亂れざれば則ち法を見ず、若し法を見ざれば則ち

【一】般若を行ぜん爲に三三摩地三十七道品等を學することを明す。

【二】習近等。習近は初因方便を、入りは後果を得るを云ふなり。

(b)「應觀色空應觀受想行識空」右の「色乃至識」の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下諸法のみ略出す。

薩の當に作佛すべき時に於て亦た今の佛の如く現前に我れに大菩提の記を授けたまふが如くせしむ。故に我れ今彼れの與に記を授くるなりと。具壽阿難佛の所說を聞きて歡喜踊躍し復た佛に白して言さく、今此の天女は久しく無上正等菩提の爲に衆の德本を植ゑ、今成熟するを得て佛に授記せられたりと。佛、阿難に告げたまはく、是の如し是の如し、今此の天女は久しく無上正等菩提の爲に衆の德本を植ゑ今既に成熟し我れ爲に授記せりと。

土より一佛土に至り生生の處に於て常に佛を離れず、轉輪王の一臺觀より一臺觀に至り歡娛愛樂し乃至命終まで足地を履まざるが如く金花菩薩も亦復た是の如し、一佛國より一佛國に往き乃至無上正等菩提まで生生の中に於て常に佛を離れず正法を聽受して菩薩行を修すと。爾の時阿難竊に是の念を作さく、金花菩薩當に作佛すべき時亦た應に甚深般若波羅蜜多を宣說すべし。彼の會の菩薩摩訶薩衆其の數の多少も應に今の佛の菩薩の衆會の如くなるべしと。佛其の念を知らしめし阿難に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所念の如し、金花菩薩の當に作佛すべき時亦た衆會の爲に是の如き甚深般若波羅蜜多を宣說す、彼の會の菩薩摩訶薩衆の其の數の多少も亦た今の佛の菩薩の衆會の如し。阿難當に知るべし、是の金花菩薩摩訶薩の當に作佛すべき時彼の佛の世界の出家弟子其の量甚だ多くして稱數す可からず、謂ゆる若しは百若しは千若しは百千若しは倶胝若しは百倶胝若しは千倶胝若しは百千倶胝若しは那庾多若しは百那庾若しは千那痩多若しは百千那庾多の大苾芻衆なりと數ふ可からず、但だ無數無量無邊百千倶胝那庾多の大苾芻衆と總說す可きのみ。阿難當に知るべし、是の金花菩薩摩訶薩の當に作佛すべき時は其の土には此の般若波羅蜜多中の所說の如き衆多の[八]過患有ること無しと。[九]爾の時具壽阿難復た佛に白して言さく、世尊、今此の天女は先に何の佛に於て已に無上正等覺の心を發し諸の善根を種ゑ廻向發願して今佛に遇ひて、恭敬供養することを得て不退轉の記を受くることを得たるやと。佛、阿難に告げたまはく、今此の天女は[一〇]然燈佛に於て已に無上正等覺の心を發し諸の善根を種ゑ廻向發願せしが故に今我れに遇ひて恭敬供養して不退轉の記を受くることを得たり。阿難當に知るべし、我れ過去然燈佛の所に於て五莖の花を以て彼の佛に散じ奉り廻向發願せしに然燈如來應正等覺、我が根の熟せるを知ろしめして我れに記を授けたまへり。天女爾の時佛の、我れに大菩提の記を授けたまふを聞きて歡喜踊躍し卽ち金花を以て佛の上に散じ奉りて便ち無上正等覺の心を發し諸の善根を種ゑ廻向發願し我れをして來世に此の善

【八】過患。前述の穢土勝劣三惡飢饉等を云ふ。
【九】殑伽天の受記因緣を明す。
【一〇】然燈佛(Dīpaṃkara)。釋迦如來因位の時此佛の出世に遇ひ記別を受け給へりと云ふ。

初分殑伽天品第五十二

[一]爾の時會中に一天女有り[二]殑伽天と名づく、座より立ち偏へに[三]左肩を覆ひ右膝を地に著け合掌して佛に向ひ白して言さく、世尊、我れ當に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し求むる所の佛土、今の如來應正等覺の諸の大衆の爲に、此の般若波羅蜜多甚深の經中に於て說きたまふ所の如き土相一切具足すべしと。時に殑伽天是の語を作し已て即ち種種の金花銀花水陸の生花諸の莊嚴具を取り及び金色の天衣一雙を持ち恭敬し至誠もて佛の上に散ず。佛の神力の故に上虛空に踊り婉轉して右に旋り佛の頂上に於て變じて四柱四角の寶臺と成る綺飾莊嚴し甚だ愛樂す可し。是に於て天女此の寶臺を持ち諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有り。爾の時如來、彼の天女の志願深廣なるを知ろしめして即便ち微笑したまふ。諸佛の法は爾の微笑の時に於て種種の光有りて口より出づ。今の佛も亦た爾なり。其の面門より種種の光を放ち青黃赤白紅碧紫綠遍ねく十方無量無邊無數の世界を照らし還て此の土に來りて大神變を現じ佛を遶ること[四]三匝して佛頂の中に入る。爾の時阿難斯の事を覩已て坐より起ち右膝を地に著け合掌し佛に向ひて白して言さく、世尊、何の因何の緣ありて此の微笑を現じたまふや、諸佛の微笑は因緣無きに非ずと。[五]佛、阿難に告げたまはく、今此の天女は未來世に於て當に作佛することを得べし。劫を星喩と名づけ、佛を金花如來應正等覺明行圓滿善逝世間解無上丈夫調御士天人師佛[六]薄伽梵と號づく。阿難當に知るべし。今此の天女は卽ち是れ最後に受くる所の女身なり、此の身を捨て已らば便ち男身を受け盡未來際復た女と作らず、此より沒し已て東方[七]不動如來應正等覺の甚だ愛樂す可き佛の世界の中に生じ、彼の佛の所に於て勤めて梵行を修せん。此の女は彼の界にても亦た金花と號づけ諸の菩薩摩訶薩行を修す。阿難、此の金花菩薩摩訶薩は彼れより沒し已て復た地方に生じ、一佛

【一】殑伽天の發願受記するを說く。
【二】殑伽天。殑伽女なり、子を愛念して共に殑河に沒し、死して梵天に生れたりと云ふ。
【三】左肩等。共に恭敬承事の相なり。
【四】三匝。佛に對して恭敬仰望の至誠を表示する敬禮なり。
【五】轉女成男作佛を明す。
【六】薄伽梵 Bhagavan 具德の義なり。
【七】不動。阿閦 Akṣovyn

て[二九]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、爾の時我が身の光明量り無く壽命量り無く諸の弟子衆の數分限無からしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し如來應正等覺所居の佛土の周圓量り有るを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ云何が所居の佛土の周圓量り無きを得んと。既に思惟し已て[三〇]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證せしめ、十方各殑伽沙の如き數の大千世界合して一土と爲り我れ其の中に住して説法し無量無數無邊の有情を敎化すべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の生死長遠にして諸の有情界の其の數無邊なるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、生死の邊際は猶ほ虚空の如く諸の有情界も亦復是の如し、眞實に諸の有情類は生死に流轉し或は涅槃を得ること無しと雖も而かも諸の有情、妄執して生死に輪廻する有りて苦無邊を受くと爲す。我れ當に云何が方便して拔濟すべきと。既に思惟し已て[三一]是の願を爲して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證せしめ諸の有情の爲に無上法を說きて皆生死の大苦より解脫せしめ亦た生死解脫を證知し都て所有無く皆畢竟空ならしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

【三〇】是の願。（三十）佛土周圓無量の願。

【三一】是の願。（三十一）生死解脫の願。

佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き增上慢の者無きを得、一切の有情の增上慢を離れしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の諸法に執著し謂ゆる(a)色に執著し受想行識に執著し、(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)因緣性、無間緣所緣緣增上緣性。(a)無明乃至老死。(a)我、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四念住乃至八聖道支。(d)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極善地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)菩薩摩訶薩行、無上正等菩提に執著せるを見ば、善現、菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を拔濟して執著を離れしむべきと。既に思惟し已て[二八]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類に是の如き等の種種の執著無からしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し如來應正等覺有りて光明量有り壽命量有り諸の弟子衆の數分限有るを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が光明量り無く壽命量り無く諸の弟子衆の數分限無きをことを得べきと。既に思惟し已

(a)「執著色執著受想行識」右の文中「色乃至識」の所に次下の諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す。

【二八】是の願。（二十八）遠離執著の願。

【二九】是の願。（二十九）光明壽命弟子數無量の願。

を得たりと謂ひ、未だ[23]慈悲[24]念息[25]緣起界[26]差別觀を得ずして慈悲念息緣起界差別觀を得たりと謂ひ、未だ止觀地を得ずして止觀地を得たりと謂ひ、未だ種性地第八地見地薄地離欲地已辦地を得ずして種性地第八地見地薄地離欲地已辦地を得たりと謂ひ、未だ獨覺菩提を得ずして獨覺菩提を得たりと謂ひ、未だ布施波羅蜜多を得ずして布施波羅蜜多を得たりと謂ひ、未だ淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を得ずして淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を得たりと謂ひ、未だ內空(わ)乃至無性自性空を證せずして內空(わ)乃至無性自性空を證せりと謂ひ、未だ眞如(か)乃至不思議界を證せずして眞如(か)乃至不思議界を證せりと謂ひ、未だ苦聖諦(よ)乃至道聖諦を證せずして苦聖諦(よ)乃至道聖諦を證せりと謂ひ、未だ四念住(た)乃至八聖道支を證せずして四念住(た)乃至八聖道支を證せりと謂ひ、未だ四靜慮(れ)乃至四無色定を得ずして四靜慮(れ)乃至四無色定を得たりと謂ひ、未だ八解脫(そ)乃至十遍處を得ずして八解脫(そ)乃至十遍處を得たりと謂ひ、未だ空解脫門(つ)乃至無願解脫門を得ずして空解脫門(つ)乃至無願解脫門を得たりと謂ひ、未だ極喜地(ね)乃至法雲地を得ずして極喜地(ね)乃至法雲地を得たりと謂ひ、未だ五眼・六神通を得ずして五眼・六神通を得たりと謂ひ、未が三摩地門・陀羅尼門を得ずして三摩地門・陀羅尼門を得たりと謂ひ、未だ佛の十力(な)乃至十八佛不共法を得ずして佛の十力(な)乃至十八佛不共法を得たりと謂ひ、未だ無忘失法・恒住捨性を得ずして無忘失法・恒住捨性を得たりと謂ひ、未だ一切智(ら)乃至一切相智を得ずして一切智(ら)乃至一切相智を得たりと謂ひ、未だ佛土を嚴淨せずして佛土を嚴淨せりと謂ひ、未だ有情を成熟せずして有情を成熟せりと謂ひ、未だ世間の工巧伎藝を解せずして世間の工巧伎藝を解せりと謂ひ、未だ菩薩摩訶薩行を修せずして菩薩摩訶薩行を修せりと謂ひ、未だ無上正等菩提を得ずして無上正等菩提を得たりと謂へるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を拔濟し其れをして增上慢の結を遠離せしむべきと。既に思惟し已て[27]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し

【二三】慈悲。貪恚＝感情の矛盾甚しきものに對者に慈悲を觀ず、彼の拔苦與樂を考ふ。
【二四】念息。入出息を念ずるよく掉擧を治す。
【二五】緣起。愚痴を治するには緣起の關係を學ぶ。
【二六】界差別觀。諸法の界別を觀ず。他の法門では昏沈を治するに念佛觀を以てすとするものに當る。
(わ)六度の場合の如く分說すべきも今本文の如く略說す以下同じ。
【二七】是の願。(二十七)遠離增上慢結の願。

趣くを樂ふ者有り、或は獨覺乘に趣くを樂ふ者有り、或は無上乘に趣くを樂ふ者有るを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し其れをして聲聞獨覺乘に趣くを樂ふ意を棄捨せしめ、唯だ無上大乘のみに趣くを樂はしむべきと。既に思惟し已て〔二〇〕是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類は唯だ無上正等菩提のみを求め聲聞獨覺乘の果を樂はず乃至二乘の名有ること無く唯だ大乘の種種の功德のみを聞かしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の增上慢を起して未だ眞實に斷生命を離るる能はずして我れ眞實に斷生命を離ると謂ひ、未だ眞實に不與取を離れ欲邪行を離るる能はずして我れ眞實に不與取を離れ欲邪行を離ると謂ひ、未だ眞實に虛誑語を離るる能はずして我れ眞實に虛誑語を離ると謂ひ、未だ眞實に麁惡語を離れ離間語を離れ雜穢語を離るる能はずして我れ眞實に麁惡語を離れ離間語を離れ雜穢語を離ると謂ひ、未だ眞實に貪欲より離るる能はずして我れ眞實に貪欲より離ると謂ひ、未だ眞實に瞋恚より離れ及び邪見を離るる能はずして我れ眞實に瞋恚より離れ及び邪見を離ると謂ひ、未だ初靜慮を得ずして初靜慮を得たりと謂ひ、未だ第二第三第四靜慮を得ずして第二第三第四靜慮を得たりと謂ひ、未だ空無邊處定を得ずして空無邊處定を得たりと謂ひ未だ識無邊處無所有處非想非非想處定を得ずして識無邊處無所有處非想非非想處定を得たりと謂ひ、未だ慈無量を得ずして慈無量を得たりと謂ひ、未だ悲喜捨無量を得ずして悲喜捨無量を得たりと謂ひ、未だ〔二一〕神境智證通を得ずして神境智證通を得たりと謂ひ、未だ天眼天耳他心宿住隨念智證通を得ずして天眼天耳他心宿住隨念智證通を得たりと謂ひ、未だ〔二二〕不淨觀を得ずして不淨觀

【二〇】是の願。（二十六）樂無上大乘の願。

【二一】神境智證通。五通の一、能く他境に往來知見するもの、天眼よく遠く定界を見、天耳よく聞き、他心よく察し、宿住よく過去を追憶するを宿住隨念智證通と云ふ。
【二二】不淨觀。五停心觀の一。貪欲意志の貪愛深きものに財色の不淨を觀ず。

佛土の中の諸の有情類[一六]三十二大士夫相八十隨好を具し圓滿莊嚴し有情之を見て淨妙喜を生ぜしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し有情類の諸の善根を離るるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を拔濟して善根を具せしむべきと。既に思惟し已て[一七]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類一切勝妙の善根を成就し此の善根に由りて能く種種上妙の供具を辦じ諸佛を供養し斯の福力に乘じ所生の處に隨ひて復た能く諸佛世尊を供養せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の[一八]身心の病、身病に四有り、一には風病、二には熱病、三には痰病、四には風等の種種の雜病、心病にも亦た四有り、一には貪病、二には瞋病、三には癡病、四には慢病等の諸の煩惱病を具するを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き身心の病苦ある諸の有情類を拔濟すべきと。既に思惟し已て[一九]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類身心清淨にして諸の病苦無く乃至風病熱病痰病風等の難病の名を聞かず亦復た貪病瞋病癡病慢等の煩惱の病名をも聞かさらしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の種種の意樂、或は聲聞乘に

【一六】三十二大士夫相。頂の肉髻相から足下の千輻輪相まで大人らしき特色三十二を備ふとする。この形體に隨ふ美しさに八十種を數へて隨形好と云ふ。

【一七】是の願。（二十四）善根具足成就の願。

【一八】身心の病。地水火風四大所造の身には風と火熱と地水に因る痰と雜病とによりて四病を、心に思欲の病が貪、情感の病が瞋、知能の病が癡とし生存欲から來る慢等の病とす。この身病各百を算して四百四病、心病を累加して八萬四千煩惱とす。

【一九】是の願。（二十五）無身心病の願。

速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類身に光明を具して外照を假らさらしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の所居の土晝有り夜有り月半月有り時節歲數轉變して恒に非ざるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し所居の土をして晝夜等の諸の變易の事無からしむべきと。既に思惟し已て[一二]是の願を作して言はく、我當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中晝夜及び月半月時節歲數無きを得乃至晝夜等の名有ること無からしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の壽量短促なるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟して是の如き壽量の短促を離れしむべきと。既に思惟し已て[一三]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類の壽量長遠にして劫數知り難からしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の衆の[一四]相好無きを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟して相好を得せしむべきと。既に思惟し已て[一五]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が

【一二】是の願。(二十一)無晝夜時節變易の願。

【一三】是の願。(二十二)壽命無量の願。

【一四】相好。相貌調ひ恰好整へるを云ふ。相は體で好は之に伴ふ振合なり。

【一五】是の願。(二十三)相好具足の願。

情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類是の如き四生の差別無く諸の有情類皆同じく[七]化生するを得せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の五神通無し所作の事に於て自在を得ざるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し皆五神通の慧を獲得せしむべきと。既に思惟し已て[八]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類五神通の慧皆自在なることを得せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の[九]段食を受用するに身に種種の大小の便利有りて膿血臭穢の深く厭捨す可きを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き段食を受用する諸の有情類を拔濟し其の身中をして諸の便穢無からしむべきと。既に思惟し已て[一〇]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類皆同じく妙法喜食を受用し其の身香潔にして諸の便穢無からしむべしと。善現、此の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の身光明無く諸の所作有るには外照を須求するを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟して是の如き光明無き身を離れしむべきと。既に思惟し已て[一一]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し

【七】化生。化生は性別愛著なければ皆等しく、得んことを願ふなり。

【八】是の願。(十八)得五神通慧の願。

【九】段食(Piṇḍa)。四食の一、摶食或は團食と云ひ、吾人常用の食物の稱なり。分段して摶み食ふによりて名づく。

【一〇】是の願。(十九)無種々大小便穢の願。

【一一】是の願。(二十)光明具足身の願。

言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中の諸の有情類は主宰無く諸の所作有るも皆自在を得ることを得せしむべし、唯だ如來應正等覺有りて法統を以て攝するを名づけて法王と爲すのみ。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の諸趣の差別を見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し善惡諸趣の差別を無からしむべきと。既に思惟し已て[三]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中善惡諸趣の差別無く乃至地獄傍生鬼界阿素洛人天の名字有ること無く、一切の有情皆同じく一類にして等しく[四]一業を修することを得せしむべし、謂ゆる皆和合して布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、內空(わ)乃至無性自性空に安住し、眞如(か)乃至不思議界に安住し、四念住(え)乃至八聖道支を修行し、苦聖諦(ろ)乃至道聖諦に安住し、四靜慮(た)乃至四無色定を修行し、八解脫(れ)乃至十遍處を修行し、空解脫門(つ)乃至無願解脫門を修行し、五眼・六神通を修行し、三摩地門・陀羅尼門を修行し、佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を修行し、無忘失法・恒住捨性を修行し、一切智(な)乃至一切相智を修行し、菩薩摩訶薩行を修行し、無上正等菩提を修行せしめんと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の[五]四生の差別、一には卵生、二には胎生、三には濕生、四には化生有るを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し是の如き四生の差別を無からしむべきと。既に思惟し已て[六]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有

【三】是の願。(十六)無諸趣差別並六道名字の願。

【四】一業。六趣なければ衆生皆同一聖業なるを云ふ。(わ)六度の如く分說すべきも今略を簡び本文の如く略す。

【五】四生。有情を發生によりて四種とす。卵生は卵子にて生れる今云ふ有性のもの。胎生は赤子にて生れる、獸類等。濕生は濕氣中に生れる、謂ふる分裂生殖。化生は變化して生成する、無機より有機となるものを云ふ。

【六】是の願。(十七)無四生差別の願。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の下中上の家族差別有るを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し是の如き下中上品の家族差別を無からしむべきと。既に思惟し已て[一八]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し我が佛土の中是の如き下中上品の家族差別無きを得、一切の有情皆同じく上品たらしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の端正醜陋の形色差別を見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟して是の如き形色差別無からしむべきと。既に思惟し已て[一九]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き形色差別ある諸の有情類無きを得、一切の有情皆眞金色端嚴殊妙にして衆の見んと樂ふ所の第一圓滿淨色を成就せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

卷の第三百三十一

初分願行品第五十一之二

[一]復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の主宰に繫屬し諸の所作有るも自在を得ざるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟して自在なることを得せしむべきと。既に思惟し已つて[二]是の願を作して

【一八】是の願。(十三)無上中下家族差別の願。

【一九】是の願。(十四)無形色差別の願。

【一】菩薩の願行列擧の續き。

【二】是の願。(十五)無主宰得自在の願。

ならしむべきと。既に思惟し已て[一四]是の願を作す、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し我が佛土の中是の如き多罪少福の諸の有情類無きを得、金沙地に布き處處に皆吠瑠璃等の衆妙珍奇有り有情受用して染著無からしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し、諸の有情の凡そ攝受する所、多く戀著を生じ諸の惡事を起すを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き惡しく攝受せらるゝ諸の有情類を拔濟し其れをして永く戀著の惡業を離れしむべきと。既に思惟し已て[一五]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き惡しく攝受せらるゝ諸の有情類無きを得、一切の有情色等の境に於て都て攝受無く戀著を生ぜざらしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の四色類の貴賤差別、[一六]一に刹帝利、二に婆羅門、三に吠舍、四に戌達羅有るを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し是の如き四種色類の貴賤差別無からしむべきと。既に思惟し已て[一七]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し我が佛土の中是の如き四種色類の貴賤差別無きを得、一切の有情同一色類にして皆尊貴なる人趣の攝する所とならしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

【一四】是の願。(十)金沙布地の願。

【一五】是の願。(十一)遠離戀著惡業の願。

【一六】刹帝利等。刹帝利(Kṣatriya)、王種。婆羅門(Brāhmaṇa)、淨行者。吠舍(Vaiśya)商賈。戌達羅(Śūdra)、農民或は奴。

【一七】是の願。(十二)無四種色類貴賤差別の願。

羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の三惡趣、一には地獄、二には傍生、三には鬼界に墮するを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を拔濟し其れをして永く三惡趣の苦を離れしむべきと。既に思惟し已て〔一二〕是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中地獄傍生鬼界無きを得亦た是の如き三惡趣の名無く、一切の有情皆善趣攝ならしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し、諸の有情の惡業障に由りて所居の大地高下不平・堆阜溝坑・穢草株杌・毒刺荊棘・不淨充滿せるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を拔濟し其れをして永く諸の惡業障を滅し、所居の處地の平なること掌の如く諸の穢草株杌等の事無からしむべきと。既に思惟し已て〔一三〕是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き諸の雜穢業無きを得、所感の大地有情の居處其の地平坦にして園林池沼諸の妙香華間雜莊嚴して甚だ愛樂す可からしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し、諸の有情の福德薄きが故に所居の大地諸の珍寶無く唯だ種種の土石瓦礫のみ有るを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き多罪少福の諸の有情類を拔濟して所居の處をして珍寶を豐饒

【一二】是の願。（八）離三惡趣苦の願。

【一三】是の願。（九）無雜穢業國土平坦の願。

世間定を修得せんをやと見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已つて是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を救濟し其れをして[七]諸蓋散動を遠離せしむべきと。既に思惟し已つて[八]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず靜慮波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き蓋散動を具する諸の有情類無きを得、一切の有情自在に靜慮無量無色定等に遊戲せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の靜慮波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて般若波羅蜜多を修行し諸の有情の愚癡惡慧にして世出世の正見に於て倶に失ひ善惡業及び業果を撥無し、斷に執し常に執し一に執し異に執し倶不倶等種種の邪法を見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を救濟し其れをして惡見邪執を遠離せしむべきと。既に思惟し已て[九]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず般若波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き惡慧邪執の諸の有情類無きを得、一切の有情正見種種の妙慧を成就して三明を具足せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の般若波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて具に六種波羅蜜多を修し諸の有情の[一〇]三聚差別、一に邪定聚、二に正定聚、三に不定聚を見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已て是の思惟を作す、我れ當に云何が方便して諸の有情類を拔濟し邪定及び不定聚を離れしむべきと。既に思惟し已て[一一]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず六種波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中邪定及び不定聚の諸の有情類無きを得亦た是の如き二聚の名聲無く、一切の有情皆正定聚ならしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の六種波

【七】蓋。煩惱の異名なり。行者の心を覆ひて善心を開發せざらしむるものゝ義。
【八】是の願。(五)靜定成就遠離諸蓋散動の願。
【九】是の願。(六)正慧成就の願。
【一〇】三聚。人の性質により三類聚に分ち稱、(一)邪定聚、畢竟證悟することなきもの。(二)正定聚、必ず證悟するに定まるもの。(三)不定聚、前二者の中間に在つて緣あれば證悟し、緣無ければ證悟せざるもの。
【一一】是の願。(七)必得正定聚の願。

速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて安忍波羅蜜多を修行し、諸の有情の更に相忿恚毀罵陵辱し刀杖瓦石拳杵塊等もて互に相殘害し乃至命を斷ずるも一心に捨てざるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已つて是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を救濟し其れをして是の如き諸惡を遠離せしむべきと。既に思惟し已つて[五]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず安忍波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き煩惱惡業の諸の有情類無きを得、一切有情展轉して相視ること父の如く母の如く兄の如く弟の如く姉の如く妹の如く男の如く女の如く友の如く親の如く慈心相向ひ互に饒益を爲さしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の安忍波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて精進波羅蜜多を修行し、諸の有情を懈怠懶惰にして精進を勤めず三乘を棄捨し亦た人天の善業を修する能はずんば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已つて是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を救濟し其れをして懶惰懈怠を遠離せしむべきと。既に思惟し已つて[六]是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず精進波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き懶惰懈怠の諸の有情類無きを得、一切の有情精進勇猛に勤めて善趣及び三乘の因を修し天人の中に生じて速に解脱を證せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の精進波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて靜慮波羅蜜多を修行し諸の有情の貪欲瞋恚惛沈睡眠掉擧惡作疑蓋に覆はれ失念し放逸にして四靜慮及び四無量四無色定に於てすら尚ほ修する能はず況んや能く出

【五】是の願。（三）忍辱成就慈悲具足の願。

【六】是の願。（四）精進成就解脱具足の願。

初分願行品第五十一之一

〔一〕爾の時佛、具壽善現に告げて言はく、善現、菩薩摩訶薩有りて布施波羅蜜多を修行し諸の有情の飢渇に逼られ衣服弊壞し臥具乏少なるを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已つて是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を救濟して慳貪を離れ乏少なる所無からしむべきと。既に思惟し已つて〔二〕是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず布施波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し我が佛土の中是の如き資具乏少の諸の有情類無きを得ること四大王衆天三十三天夜摩天覩史多天樂變化天他化自在天の種種上妙の樂具を受用するが如く我が佛土の中の衆生も亦た爾なり種種上妙の樂具を受用せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の布施波羅蜜多に由りて速に圓滿するを得て無上正等菩提に隣近す。

復た次に善現、菩薩摩訶薩有りて淨戒波羅蜜多を修行し、諸の有情の煩惱熾盛にして更に〔三〕相殺害し、不與取を行じ、欲邪行を作し、虚誑詞を造り、麁惡說を現じ、離間搆を發し、雜穢言を設け、種種の貪恚邪見を發起し、此の因緣に由りて短壽多病に顏容憔悴して威德有ること無く、資財乏尠(せん)にして下賤の家に生じ、醜陋形殘身儀臭穢にして諸の所說有るも人信受せず、言詞麁礦にして親友乖離し、凡そ陳說する所咸く皆鄙俚に慳貪嫉妬惡見熾然として正法を誹謗し賢聖を毀辱(きにく)するを見ば、善現、是の菩薩摩訶薩は此の事を見已つて是の思惟を作す、我れ當に云何が是の如き諸の有情類を救濟し其れをして諸の惡業果を遠離せしむべきと。既に思惟し已つて〔四〕是の願を作して言はく、我れ當に精勤して身命を顧ず淨戒波羅蜜多を修行して有情を成熟し佛土を嚴淨し、速に圓滿して疾く無上正等菩提を證し、我が佛土の中是の如き衆の惡業果の諸の有情類無きを得、一切の有情皆十善を行じ長壽等の勝妙の果報を受けしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の淨戒波羅蜜多に由りて

〔一〕佛菩薩の六波羅蜜修行に伴ふ選擇の願行を明す。

〔二〕是の願。(一)布施成就衣食資生充足の願。

〔三〕十惡業を事とす。

〔四〕是の願。(二)淨戒成就諸善善報具足の願。

念を作すのみ、我れ無上正等菩提に於て定めて當に證得するを得べしと。舍利子、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ、甚深の法を聞きて其の心驚かず怖かず畏れず。無上正等菩提を得るに於ても亦た怖畏せず、決定して自ら我れ當に所求の無上正等菩提を證得すべしと知ると。

は當に大菩提に廻向すと爲すや不やと。[二五]時に具壽善現、舍利子に語つて言はく、[二六]慈氏菩薩摩訶薩久しく已に不退轉の記を受得せり、唯だ一生を隔つるのみにて定めて當に作佛すべし。善能く一切の難問に酬答す。現に此の會に在り、宜しく之を請問すべし。[二七]補處慈尊定めて應に爲に答ふべしと。

[二八]時に慈氏菩薩、舍利子に語つて言はく、何等の名を慈氏と謂ひ、能く答ふるや、色と爲す耶、受想行識と爲す耶、色空と爲す耶、受想行識空と爲す耶、且つ色答ふること能はず受想行識も亦た答ふること能はず、色空答ふること能はず受想行識空も亦た答ふること能はず、何を以ての故に、舍利子、我れ都て法の能く答ふる有るを見ず、法の答ふる所有り答ふる處答ふる時及び此れに由りて答ふる亦た皆見ず。我れ都て法の能く記する有るを見ず、法の記する所有り記する處記する時及び此れに由りて記する亦た皆見ず。一切法の本性皆空にして都て所有無く二無く別無く畢竟推徴するも得可からざるを以ての故にと。時に舍利子復た慈氏菩薩摩訶薩に問うて言はく、仁者の所說の法は所證の如しと爲すや不やと。慈氏菩薩摩訶薩言はく、我が所說の法は[二九]所證の如きに非ず。何を以ての故に、舍利子、我が所證の法は說く可からざるが故なりと。時に舍利子是の念言を作さく、慈氏菩薩の智慧深廣にして一切種の布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修し久しく已に圓滿し無所得を以て方便と爲し所問の事に於て能く是の如く答ふと。[三〇]爾の時佛、舍利子に告げて言はく、舍利子、意に於て云何、汝是の法に由りて阿羅漢果を得ば此の法を見て是れ說く可しと爲すや不やと。舍利子言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、舍利子、諸の菩薩摩訶薩の深般若波羅蜜多を行じて證する所の諸法も亦復た是の如し。舍利子、是の菩薩摩訶薩は是の念を作さず、我れ此の法に由りて當に受記を得べく我れ此の法に由りて現に受記を得我れ此の法に由りて已に受記を得たりと。是の念を作さず、我れ此の法に由りて當に無上正等菩提を證すべしと。舍利子、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて猶豫を生じて我れ無上正等菩提に於て得、得ずと爲さず、但だ是の

【二五】善現舍利子の難問の決を慈氏に求めしむ。
【二六】慈氏。補處の彌勒菩薩。
【二七】補處。前佛既に滅して後、成佛して其の處を補ふを補處と云ふ。慈尊(彌勒)は卽ち釋迦如來に於ける補處の菩薩なり。
【二八】慈氏質問に直答せずして空を說く。
【二九】所證の如きに非ず。涅槃も空にして證すべきなく證せりとせざるなり。
【三〇】佛舍利子の慈氏を讃ずるも未だ通ぜざるあれば阿羅漢果に就て敎ふ。

故に、舍利子、晝と夢中と差別無きが故なり。舍利子、若し菩薩摩訶薩晝般若波羅蜜多を行ぜば既に甚深般若波羅蜜多を修習すと名づく。是の菩薩摩訶薩は夢に般若波羅蜜多を行ずるも亦た甚深般若波羅蜜多三三摩地を修習すと名づく、深般若波羅蜜多に於て能く増益を爲すも亦た應に是の如くなるべしと。時に舍利子、善現に問うて言はく、諸の菩薩摩訶薩の夢中の作業は増益或は損減有りと爲すや不や。佛は有爲虛妄不實は夢の所作の如しと說きたまふ。云何が彼の業能く増減有らん。所以は何ん、夢中に於ける所作の諸業は能く増益有り或は能く損減するに非ず、要らず覺時に至りて夢中の所作を憶想分別して乃ち増減有るなりと。善現答へて言はく、諸の晝日他命を斷じ已て夜夢の中に於て憶想分別し深く自ら慶快なる有り或は復た人夢に他命を斷じ覺位に在りと謂ひて大歡喜を生ずる有らば是の如き二業は意に於て云何と。[二二]舍利子言はく、所緣の事無くば若しは思若しは業倶に生ずるを得ず、要らず所緣有りて思業方に起る。夢中の思業は何に緣りて生ずるやと。善現答へて言はく、是の如し是の如し、若しは夢にも若しは覺にも所緣の事無くば思業生ぜず、要らず所緣有りて思業方に起る。何を以ての故に、舍利子、若しは夢若しは覺要らず見聞覺知の法の中に於て覺慧有りて轉じ斯れに由りて染を起し或は復た淨を起す、若し見聞覺知の諸法無くば覺慧轉ずる無く亦た染淨無し、此れに由るが故に若しは夢も若しは覺も所緣の事有りて思業方に起る、所緣の事無くば思業生ぜざるなりと。[二三]時に舍利子、善現に問うて言はく、佛は思業皆自性を離ると說きたまふ、云何が所緣有りて起ると言ふ可けんと。[二四]善現答へて言はく、諸の思業及び所緣の事の自性は皆空なりと雖も而かも自心に由りて取相分別するが故に思業は所緣有りて生ず若し所緣無くば思業起らずと說くと。

　爾の時具壽舍利子、復た具壽善現に問うて言はく、若し菩薩摩訶薩夢中に布施淨戒安忍精進靜慮般若を修行し此の善根を持て諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有らば是の菩薩摩訶薩

【二二】思業所緣ありて起るを說く。
【二三】舍利弗佛說を引きて善現に質疑す。
【二四】諸法空なるも凡夫取相分別するの故に有緣業生ず、取相せざれば生ぜざるなり。此點に於て晝夜夢中異無きを示し、夢中の三三昧地も利益ありとなすなり。

て言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時云何が相を壞せず亦た相想を壞せざるやと。善現答へて言はく、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行ずる時是の念を作さず、我れ當に相を壞し及び相想を壞すべしと。亦た是の念を作さず我れ當に無相を壞し及び無相想を壞すべしと。一切種に於て分別無きが故に、世尊、是の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じ能く是の如く諸の分別を離ると雖も而かも佛の十力四無所畏四無礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法等の無量の勝功德未だ圓滿せざるが故に未だ無上正等菩提を證せず。

世尊、是の菩薩摩訶薩は微妙善巧方便を成就し、此の善巧方便力に由るが故に[一八]一切法に於て取らず壞せず。何を以ての故に、世尊、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相空なるを知るが故なり。世尊、是の菩薩摩訶薩は一切法自相空の中に住し、諸の有情を度せんが爲に三三摩地に入る。大悲願力に牽逼せらるが故に。此の[一九]三定を用て有情を成熟すと。佛言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如しと。[二〇]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩は云何が此の三三摩地に入りて有情を成熟するやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は空三摩地に安住し諸の有情の多く我に執する者を見ては方便力を以て敎へて空三摩地に安住せしむ。善現、是の菩薩摩訶薩は無相三摩地に安住し諸の有情の多く相を行ずる者を見ては方便力を以て敎へて無相三摩地に安住せしむ。善現、是の菩薩摩訶薩は無願三摩地に安住し諸の有情の多く願樂する者を見ては方便力を以て敎へて無願三摩地に安住せしむ。善現、是の菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜多を行せば是の如く此の三三摩地に入りて有情を成熟すと。

[二一]爾の時具壽舍利子、具壽善現に問うて言はく、善現、若し菩薩摩訶薩夢中に此の三三摩地に入らは深般若波羅蜜多に於て增益有りや不やと。善現答へて言はく、舍利子、若し菩薩摩訶薩の晝時に此の三三摩地入り深般若波羅蜜多に於て增益有る者は彼れ夢中に入るも亦た增益有り。何を以ての

【一八】一切法に於て取らず壞せず。一切法の自相空なれば取相壞相せざるにて、有無の二邊を離れて中道を行ずるなり。

【一九】三定。空、無相、無願の三三昧を云ふ。

【二〇】菩薩よく三三摩地に入りて有情を成熟するを明す。

【二一】夢中所行の三三摩地の利益を明す。

如し善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、即ち眞如是れ心なるや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、眞如を離れて心有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、[一〇]不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、即ち心是れ眞如なるや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、心を離れて眞如有りや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、眞如眞如を見るや不やと。善現答へて言はく、[一一]不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、若し菩薩摩訶薩、能く是の如く行ぜば是れ深般若波羅蜜多を行ずるや不やと。善現答へて言はく、[一二]若し菩薩摩訶薩能く是の如く行ぜば是れ深般若波羅蜜多を行ずるなりと。[一三]佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、若し菩薩摩訶薩能く是の如く行ぜば何處を行ずと爲すやと。善現答へて言はく、若し菩薩摩訶薩能く是の如く行ぜば都て行處無し。所以は何ん、世尊、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ぜば心現行無く現行處無ければなり。何を以ての故に、世尊、眞如の中に住せば都て現行現行處無きが故なりと。[一四]佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時は行何處に在りと爲すやと。善現答へて言はく、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時は行[一五]勝義諦に在り、此の中現行及び現行處倶に所有無く能取所取得可からざるが故にと。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時、勝義諦を行ずる中は取相せずと雖も而かも[一六]相を行ずるや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時勝義諦を行ずる中に[一七]壞相を爲すや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ずる時勝義諦の中壞相想を行ずるや不やと。善現答へ

【一〇】不なり。眞如は不二、心は二相とせば眞如を離る。而して一切法皆眞如なれば眞如を離れて心無しとなすなり。

【一一】不なり。眞如は無二無分別無所知なれば見ずとなすなり。

【一二】若し等。明かに小乘の淺薄、大乘の深法を觀るを云ふなり。

【一三】大乘未得忍菩薩の大乘觀に於て高心を發するを破して無處所行なりとす。

【一四】無處所行とするが故に斷滅に墮するを救はんとして何處の行たるかを明かにするなり。

【一五】勝義諦。聖智所見の眞實の理なり。

【一六】相を行ず。行に取相分別するなり。

【一七】壞相を爲す。無相は別相を壞去して達すとするも實は然らず、相本來無なり、相宛然たり、顛倒を除くのみ、相壞するに非ざるなり。

後た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は初發心より般若波羅蜜多を修行し十地を圓滿して無上正等菩提を證得すと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は何等の十地を修學し圓滿して無上正等菩提を證得するやと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩は[六]極喜地乃至法雲地を修行し其れをして圓滿せしむれば無上正等菩提を證得す、亦た[七]淨觀地種性地第八地見地薄地離欲地已辦地獨覺地菩薩地如來地を學し其れをして圓滿せしむれば無上正等菩提を證得す。善現、諸の菩薩摩訶薩此の十地に於て精勤修學して圓滿するを得る時初心を用て無上正等菩提を證得するに非ず亦た初心を離れて無上正等菩提を證得せず、後心を用て無上正等菩提を證得するに非ず後心を離れて無上正等菩提を證得せず而かも諸の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を證得するなりと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き緣起は甚深甚妙なり謂ゆる諸の菩薩摩訶薩は初心を用て無上正等菩提を證得するに非ず初心を離れて無上正等菩提を證得するに非ず、後心を用て無上正等菩提を證得するに非ず後心を離れて無上正等菩提を證得するに非ず而かも諸の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を證得すと。

佛善現に告げたまはく、意に於て云何、若し心已に滅せば更に生ず可きや不やと。善現答へて言はく、[八]不なり世尊不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、若し心已に生ぜば[九]滅法有りや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊是の如し善逝と、佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、滅法有らば心當に滅すべきに非ざるや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、心爲れ心眞如の如きに住するや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の如し善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、心如眞如爲れ如實際に住するや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊、不なり善逝と。佛、善現に告げたまはく、意に於て云何、眞如實際爲れ甚深なりや不やと。善現答へて言はく、是の如し世尊、是の

【六】極喜地等。極喜地乃至法雲地は大乘菩薩十地なり。
【七】淨觀地等。淨觀地乃至如來地は三乘共十地なり。
【八】不なり。諸法空なるも情見を以て生滅有るなり、心滅し已りて更に生ずれば滅は滅に非ずして常見に墮するを云ふなり。
【九】滅法。生滅は相待なれば生法これ滅法なり。

く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も亦た增無く減無し。(d)四念住乃至八聖道支。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。極喜地乃至法雲地。(d)五眼・六神通。(d)三摩地門・陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。善現、諸の菩薩摩訶薩は無增無減方便に依止して般若波羅蜜多を修行し此れに由つて爲に諸の功德を門集せば便ち無上正等菩提を證すと。

[三]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩、無增無減方便に依止して般若波羅蜜多を修行し此れに由つて爲に一切の功德を門集せば便ち無上正等菩提を證すとは是の菩薩摩訶薩[四]初心を用て無上正等菩提を證得すと爲すや、後心を用て無上正等菩提を證得すと爲すや。世尊、是の菩薩摩訶薩若し初心を用て無上正等菩提を證得せば初心起る時後心未だ起らずして和合の義無く、若し後心を用て無上正等菩提を證得せば後心起る時前心已に滅して和合の義無し。是の如く前後心心所法進退推徵して和合の義無くんば云何が善根を積集し得可けん。若し諸の善根積集す可からずんば如何が菩薩能く無上正等菩提を證せんやと。佛言はく、善現、吾れ當に汝が爲に略して一喩を說き、智有らん者をして所說の義に於て解し得可きことを易からしむべし。善現、意に於て云何、[五]然燈の時の如し、初焰能く炷を焦くと爲すや、後焰能く炷を焦くと爲すやと。世尊、我が意の解する如くば初焰能く炷を焦くに非ず亦た初焰能く炷を焦くを離れず、後焰能く炷を焦くに非ず亦た後焰能く炷を焦くを離れずと。善現、意に於て云何、炷焦くと爲すや不やと。世尊、世間に現見せるは其の炷實に焦くと。佛言はく、善現、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。初心を用て無上正等菩提を證得するに非ず亦た初心を離れて無上正等菩提を證得せず、後心を用て無上正等菩提を證得するに非ず亦た後心を離れて無上正等菩提を證得せず而かも諸の菩薩摩訶薩は無上正等菩提を證得す。

【三】佛般若相應功德成就の疑難を辨明す。

【四】初心を用て等。諸法眞如不增不減に合するは佛のみ、菩薩心煩惱あれば如實に行ぜず成佛し難し。第一心より最後心迄相續和合せざれば善根積集せず成道なきを疑問するなり。

【五】然燈等。燈は無上正等菩提、焰は初地相應智慧乃至金剛三昧相應智慧、炷は無明煩惱にそれぞれ喩ふるなり。

波羅蜜多に於て若しは增し若しは減ずと。但だ是の念のみを作す、唯だ名想のみ有り謂ゆる般若波羅蜜多と爲すと。但だ是の念のみを作す、唯だ名想のみ有り謂ゆる靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多なりと。(b)善現、是の菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行する時此の布施を持つて倶に作意を行じ及び此れに依りて心及び善根を起して諸の有情と平等に共に無上正等菩提に廻向する有らば佛の無上正等菩提の如く微妙甚深にして廻向を起さん。(b)淨戒波羅蜜多。(b)安忍波羅蜜多。(b)精進波羅蜜多。(b)靜慮波羅蜜多。(b)般若波羅蜜多。此の廻向巧方便力に由りて無上正等菩提を證得すと。

二 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何をか無上正等菩提と謂ふやと。佛言はく、善現、諸法眞如是れを無上正等菩提と謂ふと。具壽善現復た言さく、世尊、何をか諸法眞如と謂ひ而かも諸法眞如是れを無上正等菩提と謂ふと說くやと。佛言はく、(c)善現、諸の色眞如是れを無上正等菩提と謂ひ受想行識眞如是れを無上正等菩提と謂ふ。(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(に)至意界。(c)色界乃(う)至法界。(c)眼識界乃(る)至意識界。(c)眼觸乃(の)至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃(ぬ)至識界。(c)因緣性・無間緣所緣緣增上緣性。(c)無明乃(を)至老死。(c)布施波羅蜜多乃(こ)至般若波羅蜜多。(c)內空乃(わ)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(c)四靜慮乃(た)至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)極喜地乃(く)至法雲地。(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切智乃(な)至一切相智。善現、生死眞如是れを無上正等菩提と謂ひ、涅槃眞如是れを無上正等菩提と謂ふ。善現、諸法眞如は增無く減無きが故に諸佛の無上正等菩提も亦た增無く減無し。

善現、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を離れずして常に諸法眞如に安住するを樂ひ都て法の增有り減有るを見ず。此の因緣に由りて不可說の義は增無く減無し。(d)布施波羅蜜多も亦た增無く減無

(b)「善現是菩薩摩訶薩修行布施波羅蜜多時……如佛無上正等菩提微妙甚深而起廻向」右の「布施波羅蜜多」及び「布施」の所に六度の夫々を代入せば他は皆同文なり故に之を略す。

【二】無上正等菩提これ諸法眞如なりと說く。

(c)「善現諸色眞如是謂無上正等菩提受想行識眞如是謂無上正等菩提」右の文中「諸色乃至識」の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符擬(c)にて略し以下諸法のみ略出す。

(d)「布施波羅蜜多亦無增無減淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多亦無增無減」右を略すに(a)の場合の如くして爲す。

能く畢竟空を宣說する者無ければなりと。具壽善現復た佛にして言さく、世尊、不可說の義は增減有りや不やと。佛言はく、善現、不可說の義は增無く減無し。具壽善現復言さく、(c)世尊、若し不可說の義增無く減無くんば則ち布施波羅蜜多も亦た應に增無く減無かるべし淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も亦た應に增無く減無かるべし。(c)四念住乃至八聖道支。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。

(d)世尊、若し布施波羅蜜多增無く減無く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も亦た增無く減無くんば云何が菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行して無上正等菩提を證得するやと。(d)四念住乃至八聖道支。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼・六神通。(d)三摩地門・陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。

卷の第三百三十

初分巧方便品第五十之三

【一】佛言はく、是の如し是の如し、不可說の義增無く減無くんば(a)布施波羅蜜多も亦た增無く減無く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多も亦た增無く減無し。(a)四念住乃至八聖道支。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。善現、諸の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修行して般若波羅蜜多方便善巧に安住せば是の念を作さず、我れ般若波羅蜜多に於て若しは增し若しは減すと。是の念を作さず我れ靜慮精進安忍淨戒布施

(c)「世尊若不可說義無增無減者則布施波羅蜜多亦應無增無減淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多亦應無增無減」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下所出の諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(c)にて略し以下諸法のみ略出す。

(d)「世尊若布施波羅蜜多無增無減……………修行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多證得無上正等菩提」右も(c)の場合の如くして略す。

【一】法增減なきも無上正等菩提を得べきを明す。

(a)「布施波羅蜜多亦無增無減淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多亦無增無減」右も前卷(d)の場合の如くして以下略す。

特伽羅意生儒童作者受者知者見者。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼・六神通。(b)三摩地門・陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。如來は常に異生地は空、聲聞獨覺菩薩如來地も亦た空なりと說きたまふ。如來は常に有色法無色法は空、有見法無見法有對法無對法有漏法無漏法有爲法無爲法も亦た空なりと說きたまふ。如來は常に過去未來現在法は空、善不善無記法、欲界色界無色界繫法、學無學非學非無學法、見所斷修所斷非所斷法も亦た空なりと說きたまふと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、我れ常に此の諸法皆空なりと說くと。

〔三〕具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、一切法空なれば卽ち是れ無盡にして亦た是れ無數亦た是れ無量亦た是れ無邊なり。世尊、諸法空の中、盡得可からず數得可からず量得可からず邊得可からず。此の因緣に由りて無盡無數無量無邊文義無別なりと。佛言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。無盡無數無量無邊文義無別にして皆共に諸法空を顯了するが故に、善現、一切法は空にして皆說く可からず。如來は方便して爲に無盡と說き或は無數と說き或は無量と說き、或は無邊と說き、或は爲に空と說き或は無相と說き或は無願と說き或は無作と說き或は無生と說き或は無滅と說き或は離染と說き或は寂滅と說き或は涅槃と說き或は眞如と說き或は法界と說き或は法性と說き或は實際と說く。是の如き等の義は皆是れ如來方便して演說せるなりと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、如來は甚だ奇なり。方便善巧して、諸法の實相は宣說す可からざるに而かも有情の爲に方便して顯示したまふ。世尊、我れ佛の所說の義を解する如くんば一切の法性は皆說く可からずと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、一切の法性は皆說く可からず。所以は何ん、一切の法性は皆畢竟空にして

〔三〕佛一切法空を顯了するの故に無盡乃至無邊の文義無別なりと說く。

別所作は空無所有虚妄不實なりと知る。所以は何ん、善現、諸の菩薩摩訶薩は善く内空を學び[い]乃至無性自性空を學べばなり。善現、是の菩薩摩訶薩は空に安住し已つて如如に分別所作の空無所有虚妄不實なるを觀察せば、是の如く是の如く即ち甚深般若波羅蜜多を遠離せず。善現、是の菩薩摩訶薩、如如に甚深般若波羅蜜多を離れずんば是の如く是く福を獲ること無數無量無邊なりと。

二　具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、無數と無量と無邊と何の差別が有ると。佛言はく、善現、無數と言ふは數得可からざるなり、數は有爲界中に在る可からず數は無爲界中に在る可からず。無量と言ふは量得可からざるなり。量は過去法中に在る可からず量は未來法中に在る可からず量は現在法中に在る可からず。無邊と言ふは邊得可からざるなり。彼の邊際を測度す可からざるが故にと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、頗る因緣有るが故に色も亦た無數無量無邊受想行識も亦た無數無量無邊なりや不やと。佛言はく、善現、因緣有るが故に色も亦た無數無量無邊受想行識も亦た無數無量無邊なりと。世尊、何の因緣の故に色も亦た無數無量無邊受想行識も亦た無數無量無邊なりやと。佛言はく、善現、色空の故に亦た無數無量無邊受想行識空の故に亦た無數無量無邊なりと。

爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、但た色のみ空、受想行識のみ空なりと爲すや、一切法も亦た是れ空なりと爲す耶と。佛言はく、善現、我れ先に一切法も亦た是れ空なりと說かず耶と。善現答へて言はく、佛已に一切法皆是れ空なりと說きたまふと雖も而かも諸の有情は知見覺せざるが故に我れ今復た是の問ひを作す。世尊、(b)如來は常に色は空、受想行識も亦た空なりと說きたまふ。(b)眼處乃至[ろ]意處。(b)色處乃至[は]法處。(q)眼界乃至[に]意界。(q)色界乃至[ほ]法界。(b)眼識界乃至[へ]意識界。(b)眼觸乃至[と]意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至[ち]意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至[り]識界。(b)因緣性、無間緣所緣緣增上緣性。(b)無明乃至[ぬ]老死。(b)我、有情命者生者養者士夫補

【二】善現無數、無量、無邊に就いてその差別を問ふ。

(b)「如來常說色空受想行識亦空」右の文中「色乃至識」の所に次下所出の諸法を入るれば他は同文なり故に今之を符號(b)にて略し以下諸法のみ略出す。

と爲せばなりと。般若波羅蜜多を遠離して起す所の廻向は當に知るべし最勝の廻向と名づけずと。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば常に應に甚深般若波羅蜜多を離れずして修行する所を以て普ねく一切の爲に無上正等菩提に廻向すべし。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離して設ひ殑伽沙數の大劫を經て普ねく過去未來現在一切の如來應正等覺及び諸の弟子の功德善根を緣じて和合し隨喜し普ねく一切の爲に無上正等菩提に廻向せば、善現、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝、其の福は無數無量無邊なりと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多の所說に依りて住し一晝夜を經て普ねく過去未來現在一切の如來應正等覺及び諸の弟子の功德善根を緣じて和合し隨喜し普ねく一切の爲に無上正等菩提に廻向せば獲る所の功德は甚だ彼れよりも多し。何を以ての故に、善現、一切の隨喜廻向功德善根は皆甚深般若波羅蜜多を以て上首と爲せばなり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば常に應に甚深般若波羅蜜多を離れず諸の善根に於て和合し隨喜し普ねく一切の爲に無上正等菩提に廻向すべしと。

爾の時[九]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛の所說の如く、分別所作は皆實有に非ず、何の因緣を以て是の諸の菩薩摩訶薩等は[一〇]福を獲ること無數無量無邊なるや。世尊、分別所作は眞實正見を發起すること能はず、正性離生に趣入すること能はず、預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を得ること能はず亦た諸佛の無上正等菩提を得ること能はずと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。分別所作は眞實正見を發起すること能はず、正性離生に趣入すること能はず、預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を得ること能はず亦た諸佛の無上正等菩提を得ること能はず。善現、諸の菩薩摩訶薩は深般若波羅蜜多を行じて一切種の分

【九】佛般若の功德廣大に就ての疑難を辨明す。
【一〇】福を獲ること等。般若に相應せば分別所作の妄法を脫し福德果報なかるべく、若しあらば解脫すべからざるべしと問ふなり。

(a)復た次に善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を遠離して設ひ殑伽沙數の大劫を經て布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行せば、善現、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現、答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝、其の福無數無量無邊なりと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多の所說に依りて住し一晝夜を經て布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行せば獲る所の功德は甚だ彼れよりも多し。何を以ての故に、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を離れずして佛の無上正等菩提に於て退轉有りとせば是の處有ること無ければなり。若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離して佛の無上正等菩提に於て退轉有りとせば斯れ是の處有ればなり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を證せんと欲せば常に應に甚深般若波羅蜜多を離れざるべし。

(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)一切三摩地門・一切陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)預流果乃至阿羅漢果。

[八]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離して設ひ殑伽沙數の大劫を經て種種の財施法施を修行し空閑處に住して先に修行せし所を繫念思惟し普ねく一切の爲に無上正等菩提に廻向せば善現、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝。其の福は無數無量無邊なりと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多の所說に依りて住し一晝夜を經て種種の財施法施を修行し空閑處に住して先に修行せし所を繫念思惟し普ねく一切の爲に無上正等菩提に廻向せば獲る所の功德は甚だ彼れよりも多し。何を以ての故に、善現、般若波羅蜜多に依りて起す所の廻向は當に知るべし是れを最勝の廻向

(a)「復次善現若菩薩摩訶薩遠離般若波羅蜜多……………是故善現若菩薩摩訶薩欲證無上正等菩提常應不離甚深般若波羅蜜多」右の文中「布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多」の語のある所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なり故に今之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」の三は「修行布施波羅蜜多」等とある所を「修行」の代りに「安住」の語を當つるものとす。

【八】般若波羅蜜廻向には雜毒なき正廻向なるを以て最上上首と爲すを明す。

此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝、其の福は無數無量無邊なりと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多に依り一晝夜を經て說の如く學して獲る所の功德は甚だ彼れよりも多し。何を以ての故に、善現、諸の菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多を行ぜば聲聞及び獨覺地に超過し速に菩薩の正性離生に入り復た能く諸の菩薩行を修行して疾く無上正等菩提を證すればなり。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離し設ひ殑伽沙數の大劫を經て布施淨戒安忍精進靜慮般若を精勤修學せば、善現、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝、其の福は無數無量無邊なりと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多の所說に依りて住し一晝夜を經て布施淨戒安忍精進靜慮般若を精勤修學せば獲る所の功德は甚だ彼れよりも多し。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は是れ諸の[六]菩薩摩訶薩の母なればなり。所以は何ん、甚深般若波羅蜜多は能く菩薩摩訶薩衆を生じ、一切の菩薩摩訶薩衆は般若波羅蜜多に依止して速に能く一切の佛法を圓滿すればなり。

[七]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離して設ひ殑伽沙數の大劫を經て法を以て一切有情に布施せば、善現、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝、其の福は無數無量無邊なりと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多の所說に依りて住し一晝夜を經て法を以て一切の有情に布施せば獲る所の功德は甚だ彼れよりも多し。何を以ての故に、善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離せば則ち爲れ一切智智を遠離す、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を離れずんば則ち爲れ一切智智を離れざればなり。是の故に善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を證せんと欲せば常に應に甚深般若波羅蜜多を離れざるべし。

【六】菩薩摩訶薩の母、般若は佛母、菩薩は佛子なれば、般若を菩薩の母なりとなすなり。

【七】般若法施の功德を說く。

る是の念を作す、彼れ何んが當に來りて共に會し此に於て歡娛戲樂すべきと。善現、意に於て云何、其の人晝夜に幾の欲念生ずるやと。世尊、是の人晝夜に欲念甚だ多しと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜多に依りて一念心を起して深般若波羅蜜多所說の如くにして學し[三]超ゆる所の生死流轉の劫數と耽欲人の一晝夜を經て起す所の欲念と其の數量等し。善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多所說の理趣に隨依して思惟し修學し隨ひて能く無上正等菩提を障礙する所有る過失する解脫す。是の故に菩薩は深般若波羅蜜多に依りて精勤修學し速に無上正等菩提を證す。善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多所說の如くにして住せんに一晝夜を經て獲る所の功德、若し此の功德形量有らば殑伽沙等の三千大千の諸佛世界も容受すること能はず。假使ひ殑伽沙の如き三千大千佛の世界の諸餘の功德を此の功德に比するに百分の一にも及ばず千分の一にも及ばず百千分の一にも及ばず百俱胝分の一にも及ばず千俱胝分の一にも及ばず百千俱胝分の一にも及ばず百那庾多分の一にも及ばず千那庾多分の一にも及ばず百千那庾多分の一にも及ばず是の如く廣說し數分算分計分喩分乃至[四]鄔波尼殺曇分の亦た一にも及ばざるなり。復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離して設ひ殑伽沙數の大劫を經て佛法僧寶に布施し供養せば、善現、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて福を得ること多きや不やと。善現、答へて言はく、甚だ多し世尊、甚だ多し善逝。其の福は無數無量無邊なりと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩深般若波羅蜜多に依りて一晝夜を經て說の如く學して獲る所の功德は甚だ彼れよりも多し。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は是れ諸の菩薩摩訶薩の乘なればなり。諸の菩薩摩訶薩は此の乘に乘じて疾く無上正等菩提に至る。

[五]復た次に善現、若し菩薩摩訶薩般若波羅蜜多を遠離して設ひ殑伽沙數の大劫を經て預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩及び諸の如來應正等覺を恭敬供養せんに、善現、意に於て云何、是の菩薩摩訶薩は

【三】超ゆる所の等。劫數無量なるを心念無量によりて內觀せしむなり。

【四】鄔波尼殺曇分（Upanisad）。近少、微細、因などと譯す。極微の數量なり。

【五】更に離般若の功德と般若相應の功德とを比較し、般若を遠離すべからざるを明す。

般若波羅蜜多。(h)內空乃至無性自性空。(h)眞如乃至不思議界。(h)四念住乃至八聖道支。(h)苦聖諦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定。(h)八解脫乃至十遍處。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)極喜地乃至法雲地。(h)五眼・六神通。(h)三摩地門・陀羅尼門。(h)佛の十力乃至十八佛不共法。(h)無忘失法・恒住捨性。(h)預流果乃至阿羅漢果。(h)獨覺菩提。(h)一切智乃至一切相智。(h)一切の菩薩摩訶薩行。(h)諸佛の無上正等菩提。佛は甚奇微妙の方便を以て不退轉地の菩薩摩訶薩の爲に一切の若しは世間若しは出世間若しは共若しは不共若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲法を遮遣して涅槃を顯示したまふ。

卷の第三百二十九

初分巧方便品第五十之二

一 復た次に善現、諸の菩薩摩訶薩は應に是の如き諸の甚深處に於て深般若波羅蜜多相應の理趣に依りて審諦に思惟し稱量し觀察して應に是の念を作すべし。我れ今應に甚深般若波羅蜜多の所說の如くして住すべし、我れ今應に甚深般若波羅蜜多の所說の如くして學すべしと。善現、若し菩薩摩訶薩能く是の如き諸の甚深處に於て深般若波羅蜜多相應の理趣に依りて審諦に思惟し稱量し觀察し深般若波羅蜜多所說の如くにして住し深般若波羅蜜多所說の如くにして學せば是の菩薩摩訶薩は能く是の如く精勤修學するに由り深般若波羅蜜多に依りて一念心を起すすら尙ほ能く 二 無數無量無邊の功德を攝取し無量劫の生死流轉を超えて疾く無上正等菩提を證す。況んや能く無間に常に般若波羅蜜多を修し恒に無上正等菩提の作意に住せんをや。善現、耽欲人と端正女と更に相愛染し共に爲に契を期するが如し。彼の女限礙ありて期するに赴くを獲ず此の人の欲心熾盛にして流注せば、善現、意に於て云何、其の人の欲念何處に於て轉ずるやと。世尊、是の人の欲念は女の處に於て轉じ謂ゆ

【一】菩薩の諸法實相を行ずる果報福德を讚歎す。

【二】無數無量無邊の功德。無數は相性に墮せざるを、無量は三世不可得、無邊は十方不可得を云ひ、廣大なる功德に喩ふるなり。

苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)四念住乃至八聖道支。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)極喜地乃至法雲地。(f)五眼・六神通。(f)三摩地門・陀羅尼門。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法・恒住捨性。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、(g)世尊、甚だ奇なり。[五]微妙方便して不退轉地の菩薩摩訶薩の爲に諸の色を[六]遮遣して涅槃を顯示し受想行識を遮遣して涅槃を顯示したまふ。(g)眼處乃至意處。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至意界。(g)色界乃至法界。(g)眼識界乃至意識界。(g)眼觸乃至意觸。(g)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃至識界。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(g)內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)四念住乃至八聖道支。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)極喜地乃至法雲地。(g)五眼・六神通。(g)三摩地門・陀羅尼門。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)無忘失法・恒住捨性。(g)預流果乃至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切智乃至一切相智。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。世尊、甚だ奇なり。微妙方便して不退轉地の菩薩摩訶薩の爲に一切の若しは世間若しは出世間若しは共若しは不共若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲法を遮遣して涅槃を顯示したまふと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、(h)佛は甚奇微妙の方便を以て不退轉地の菩薩摩訶薩の爲に諸の色を遮遣して涅槃を顯示し受想行識を遮遣して涅槃を顯示す。(h)眼處乃至意處。(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至意界。(h)色界乃至法界。(h)眼識界乃至意識界。(h)眼觸乃至意觸。(h)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(h)地界乃至識界。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(h)布施波羅蜜多乃至

(g)「世尊甚奇微妙方便爲不退轉地菩薩摩訶薩遮遣諸色顯示涅槃遮遣受想行識顯示涅槃」右も(f)の場合と同じく以下略出す。

【五】微妙方便して等。法を離れて涅槃に處し、涅槃に著せず、世間に住せざるを云ふ。

【六】遮遣。法を遮止し遣去して存立せしめざるを云ふ。止觀一切に否定して領納す。なり。

(h)「佛以甚奇微妙方便爲不退轉地菩薩摩訶薩遮遣諸色顯示涅槃遮遣受想行識顯示涅槃」右も(g)の場合の如くして略出す。

佛言はく、(d)善現、色眞如甚深なるが故に色も亦た甚深、受想行識眞如甚深なるが故に受想行識も亦た甚深なり。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼・六神通。(d)三摩地門・陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

時に具壽善現、佛に白して言さく、(e)世尊、云何が色眞如甚深、云何が受想行識眞如甚深なりや。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)極喜地乃至法雲地。(e)五眼・六神通。(e)三摩地門・陀羅尼門。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法・恒住捨性。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

佛言はく、(f)善現、[四]色眞如は色に即するに非ず色を離るるに非ず是の故に甚深なり、受想行識眞如は受想行識に即するに非ず受想行識を離るるに非ず是の故に甚深なり。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎

(d)「善現色眞如甚深故色亦甚深受想行識眞如甚深故受想行識亦甚深」右も全く(c)の場合と同じく略す。

(e)「世尊云何色眞如甚深受想行識眞如甚深」右も(d)の場合と同じくして略す。

(f)「善現色眞如非卽色非離色是故甚深受想行識眞如非卽受想行識非離受想行識是故甚深」右も(e)の場合と同じくして略す。

【四】 色眞如等。色眞如は色の實相なり、正觀せば定實の別法あるに非ざれば色に即するに非ず色を離るるに非ず是の故に甚深なりと說くなり。

は謂ゆる空無相無願無作無生無滅寂靜涅槃眞如法界法性實際なり。是の如き等の法を甚深處を名づく。善現、是の如き所説の甚深處を名づけて皆涅槃を顯はす甚深處と爲すと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、但だ涅槃のみを甚深處と名づくと爲すや諸餘の法も亦た甚深と名づくと爲すやと。佛言はく、善現、餘の一切法も亦た甚深と名づく。(b)善現、色も亦た甚深と名づけ受想行識も亦た甚深と名づく。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ず所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)極喜地乃至法雲地。(b)五眼・六神通。(b)三摩地門・陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切の菩薩摩訶薩行。善現、諸佛の無上正等菩提も亦た甚深と名づくと。時に具壽善現佛に白して言さく、(c)世尊、云何が色も亦た甚深と名づけ云何が受想行識も亦た甚深と名づくるや。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ず所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)極喜地乃至法雲地。(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

(b)「善現色亦名甚深受想行識亦名甚深」右も(n)の如く「色乃至識」の所に次下の諸法を代入して略し以下その諸法のみ略出す。

(c)「世尊云何色亦名甚深云何受想行識亦名甚深」右も(b)と同じく略す。

初分巧方便品第五十之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の不退轉位の菩薩摩訶薩は廣大の勝功德聚を成就せり世尊、是の不退轉位の菩薩摩訶薩は無量の勝功德聚を成就せり。世尊、是の不退轉位の菩薩摩訶薩は無邊の勝功德聚を成就せり。世尊、是の不退轉位の菩薩摩訶薩は無數不可思議の勝功德を成就せりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。是の不退轉位の菩薩摩訶薩は廣大無量無邊不可數難思議の勝功德聚を成就せり。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は已に廣大無量無邊不可數難思議を得るも聲聞及び獨覺智と共ならず。是の菩薩摩訶薩は此の智の中に住して殊勝の[二]四無礙解を引發す。此の殊勝の四無礙解に由り世間の天人阿素洛等能く問難して此の菩薩の智慧辯才をして窮盡に至らしむる者無しと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、能く殑伽沙の如き劫に不退轉位の菩薩摩訶薩の諸の行狀相を說き、此の所說に由りて諸の行狀相は不退轉位の菩薩摩訶薩を顯し種種殊勝の功德を成就したまふ。唯だ願はくは如來應正等覺復た菩薩の爲に甚深處を說き諸の菩薩をして其の中に安住せしめ、(a)能く布施波羅蜜多を修して速に圓滿せしめ能く淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修して速に圓滿せしめ、(a)內空乃至無性自性空、(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支、(a)苦聖諦乃至道聖諦、(a)四靜慮乃至四無色定、(a)八解脫乃至十遍處、(a)空解脫門乃至無願解脫門、(a)極喜地乃至法雲地、(a)五眼・六神通、(a)三摩地門・陀羅尼門、(a)佛の十力乃至十八佛不共法、(a)無忘失法・恒住捨性、能く一切智を修して速に圓滿せしめ能く道相智一切相智を修して速に圓滿せしめたまはんことをと。[三]佛言はく、善現、善哉善哉、汝今乃ち能く諸の菩薩の爲に甚深處を問ひ諸の菩薩をして其の中に安住して功德を修行し速に圓滿せしむ。善現、甚深處と

【一】不退轉位の菩薩の廣大功德を明す。

【二】四無礙解。無礙自在なる菩薩の力用の四、即ち法無礙（總ての敎法に於て通達無礙なること）、義無礙（敎法の義理に通達無礙なること）、辭無礙（諸方の言辭に於て通達無礙なること）、樂說無礙（總ての敎法を知り、機類に順應してその願ふ所を說示するに無礙自在なること）を云ふ。

(a)「能修布施波羅蜜多令速圓滿能修淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多令速圓滿」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の六度の所に以下の諸法を入るれば他は皆同文なり故に今之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す但し「內空眞如苦聖諦」の三は「能修」の所を「能住」と改むるものとす。

【三】佛甚深處を明す。

を惜まざるなり。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。[二八]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば諸の如來應正等覺所說の正法を聞きて惑無く疑無く聞き已て終に忘失せずして乃ち無上正等菩提に至る。所以は何ん、是の諸の菩薩は已に善く[二九]陀羅尼を證得せるが故なりと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩は已に何等の陀羅尼を得しが故に諸の如來應正等覺の所說の契經を聞きて皆忘失せず惑無く疑無きやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は已に[三〇]字藏陀羅尼、[三一]海印陀羅尼、[三二]蓮華衆藏陀羅尼等を得しが故に諸の如來應正等覺の所說の契經を聞きて皆忘失せず惑無く疑無しと。爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩は但だ如來應正等覺の所說の正法のみを聞きて惑無く疑無く聞き已て受持し能く忘失せず乃ち無上正等菩提に至るや、聲聞獨覺菩薩天龍[三三]藥叉阿素洛揭路茶緊捺洛莫呼洛伽人非人等の所說の正法を聞きて亦た能く彼れに於て惑無く疑無く聞き已て受持し終に忘失せず乃ち大菩提を證得すと爲す耶と。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は普ねく一切有情の類の所有る言音文字義理を聞きて悉く解了し惑無く疑無く未來際を窮むるまで忘失有ること無し。所以は何ん、已に字藏陀羅尼等を得。所說を住持して忘れさらしむるが故なり。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是を不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

【二八】菩薩善く陀羅尼を證得するの故に諸の佛說を了解し、忘失疑惑せざるを說く。

【二九】陀羅尼 (Dhāraṇī)。總持或は能持能遮などと譯す、惡善法を持して散ぜしめず、惡法を持して起らしめざる力用なり。法、義、咒、忍の四陀羅尼あり。

【三〇】字藏。文字教籍によろ陀羅尼。

【三一】海印。大海に炳現する如く三昧中に能持し示現する陀羅尼。

【三二】蓮華衆藏。淨法圓具の表現總持するもの。

【三三】藥叉等。保護神なり八部衆に屬する Yakṣa, Amanuṣa, Gandharva, Kiṃnara, Mahoraga なり。

去の如來應正等覺久しく已に彼に大菩提の記を授けたまへりと。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は不退轉地の諸の行狀相を具足し成就すればなり。若し菩薩摩訶薩、是の如き諸の行狀相を成就せば當に知をべし已に大菩提の記を受け必ず已に不退轉地に安住すと。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

[二六] 復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば深般若波羅蜜多を行ずる時[二七]正法を護持して身命を惜まず常に是の念を作す、我れ寧ろ財寶親屬及び自らの身命を棄捨せんも終に諸佛の正法を棄捨せず。所以は何ん、財寶親屬及び自らの身命は生生恒に甚だ得易しと爲す有るも諸佛の正法は百千倶胝那庾多劫に乃ち一たび遇ふことを得、遇ひ已て長夜に大利樂を獲ればなりと。善現、是の菩薩摩訶薩は正法を護る時是の如き念を作す、我れ一佛二佛乃至百千諸佛の正法を護ることを爲さずして普ねく十方三世諸佛の正法を護持して虧損せざらしむ爲しと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて諸佛の正法と爲し、是の菩摩薩訶薩云何が護持して身命を惜しまざるやと。佛言はく、善現、一切の如來應正等覺の諸の善薩の爲に說く所の法空、是の如きを名づけて諸佛の正法と爲す。愚癡類有り誹謗毀訾して言はく、此れ法に非ず毘奈耶に非ず天人師の所說の聖敎に非ず此の法を修行するも菩提を得ず涅槃寂靜の安樂を證せずと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の法を護持して身命を惜まず恒に是の念を作す、如來所說の一切法空は是れ諸の有情の所歸依の處なり菩薩修學せば速に無上正等菩提を證し諸の有情の生老病死憂悲苦惱を拔き畢竟安樂の涅槃を得せしむるが故に應に護持して身命を惜まざるべしと。又た是の念を作す、我れ亦た未來の佛數に墮在せん、佛は已に我れに大菩提の記を授けたまへり、此の因緣に由り諸佛の正法は卽ち是れ我が法なり、我れ應に護持して身命を惜まざるべし、我れ未來世に作佛するを得ん時も亦た當に此の諸法空を說くべきが故にと。善現、是の菩薩摩訶薩は此の義利を見て如來の所說の正法を護持して身命

【二六】不退轉位の菩薩の正法護持を强說す。
【二七】正法を護持して身命を惜まず。身命は生生恒に得易けれど正法は無量劫中得難きものなれはかく云ふなり。

菩提の記を佛くるに堪えず、亦た未だ無生法忍を證得せず、汝今に未だ不退轉地の諸の行狀相有らず、如來は汝に無上大菩提の記を授くべからず、要らず不退轉地の諸の行狀相を具足する有らば是の菩薩摩訶薩は乃ち佛に無上大菩提の記を授與せらるるを蒙る可しと。善現、是の不退轉位の菩薩摩訶薩は彼の語を聞き已つて心變異無く驚かず怖かず退せず沒せずんば、善現、是の菩薩摩訶薩は應に自ら我れ過去の諸の如來の所に於て必ず已に大菩提の記を受得せりと證知すべし。所以は何ん、菩薩は是の如き勝法を成就し定めて諸佛に菩提の記を授けらるるを蒙ればなり。我れ已に是の如き勝法を成就せり云何が諸佛我れに記を授けざらん。故に我れ過去に諸佛の所に於て必ず已に大菩提の記を受得せりとの善現、是の菩薩摩訶薩は設ひ惡魔或は魔の使者有りて佛の形像を作して來り菩薩に聲聞地の記を授け或は菩薩に獨覺地の記を授け菩薩に謂つて言はく、咄なる哉男子、何ぞ無上正等菩提を用て生死に輪廻して久しく大苦を受くるや、宜しく自ら速に[二五]無餘涅槃を證し永く生死を離れて畢竟安樂なるべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は彼の語を聞き已て是の如き念を作さん、此れ定めて惡魔或は魔の使者詐りて佛の像を現じ我が心を擾亂し我れに聲聞獨覺地の記を授け無上正等菩提を退せしむるなり。所以は何ん、定めて諸佛は諸の菩薩に聲聞及び獨覺地に趣向して無上正等菩提を棄捨せよと教ふる無ければなりと。善現、是の菩薩摩訶薩は設ひ惡魔或は魔の使者有り詐りて佛の緣を現じ菩薩に語りて言はく、汝が受持する所の大乘經典は佛の所說に非ず亦た如來の弟子の所說にも非ず、是れ諸の惡魔或は諸の外道汝を誑惑せんが爲に是の如き說を作すなり。汝今受持讀誦すべからずと。善現、是の菩薩摩訶薩は彼の語を聞き已て便ち是の念を作さん、此れ定めて惡魔或は魔の眷屬我れをして無上菩提を厭捨せしめんが故に大乘甚深經典は佛の所說に非ず亦た如來の弟子の所說にも非ずと說くなり。所以は何ん、此の經典を離れて能く無上正等菩提を證すとせば必ず是の處無ければなりと。善現、是の菩薩摩訶薩は當に知るべし已に不退轉地に住し、過

【二五】無餘涅槃。身智共に灰滅する涅槃なり。これ小乘の涅槃なり。

るも遮礙すること能はざればなり。善現、是の不退轉位の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。自他に安住して其の心動ぜず分別する所無く世間の天人阿素洛等皆轉ずること能はず。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は其の心堅固にして諸の世間天人魔梵阿素洛等を超え已に菩薩の[二一]正性離生に入りて不退地に住し、已に菩薩の殊勝神通を得、有情を成熟し佛土を嚴淨し一佛國より一佛國に至りて諸佛世尊を供養恭敬尊重讃嘆して正法を聽聞し諸の佛所に於て諸の善根を植ゑ菩薩所學の法義を請問すればなり。善現、是の菩薩摩訶薩は自他に安住し[二二]魔事有りて起らば卽ち能く覺知し終に魔事に隨順せずして轉ず。善巧力を以て諸の魔事を集め實際中に置き方便して除滅し、自地法に於て惑無く疑無し。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法は皆[二三]實際に入ると知り實際は一に非ず多に非ずと通達し實際中に於て分別する所無く、實際に於て惑無く疑無きを以て自地法に於ても亦猶豫無ければなり。善現、是の菩薩摩訶薩は設ひ轉じて生を受くるも亦た實際に於て復た退轉して聲聞或は獨覺地に趣向する無し。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空なりと知り此の空中に於て法の若しは生若しは滅若しは染若しは淨なる有るを見ざればなり。善現、是の菩薩摩訶薩は乃至[二四]身を轉ずるも亦た我れ當に無上正等菩提を得べきや當に得べからずと爲すやと疑はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は諸法皆自相空なる卽ち是れ無上正等菩提なりと通達すればなり。善現、是の菩薩摩訶薩は自地に安住して他緣に隨はざれば自地法に於て能く壞する者無し。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は動無く退轉無き智を成就し一切の惡緣も傾動すること能はざればなり。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

　復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば設ひ惡魔有りて佛の形像を作し其の所に來至して是の如き言を作さん、汝今應に阿羅漢果を求め永く諸漏を盡くして般涅槃を證すべし、汝未だ大

【二一】正性離生に入りて不退地に住し。深智慧に入り、不退を了知して著せず疑はざるなり。

【二二】魔事。惡魔の誘惑障礙を指す。

【二三】實際。眞如法性の異名なり。眞如法性は諸の際極なればかく名づく。

【二四】身を轉ずる等。身を轉ずるも自ら成佛を疑はず、二乘に向ふ事なしと云ふなり。

慮般若波羅蜜多を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に內空に住し常に外空乃[七]至無性自性空に住す。善現、是の菩薩摩訶薩は眞如に住し常に法界乃[八]至不思議界に住す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に四念住を修し常に四正斷乃[九]至八聖道支を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に苦聖諦に住し常に集滅道聖諦に住す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に四靜慮を修し常に四無量四無色定を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に八解脫を修し常に八勝處九次第定十遍處を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に空解脫門を修し常に無相無願解脫門を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に五眼を修し常に六神通を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に三摩地門を修し常に陀羅尼門を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に佛の十力を修し常に四無所畏乃[一〇]至十八佛不共法を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に一切智を修し常に道相智一切相智を修す。善現、是の菩薩摩訶薩は常に自他に於て疑惑を起さず是の念を作さず、我れは是れ退轉せず我れは退轉せさるに非ずと。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は少法も無上正等菩提に於て退轉有りと說く可きを見ず亦た少法も無上正等菩提に於て退轉無しと說く可きを見ざればなり。善現、是の菩薩摩訶薩は自他の法に於て惑無く疑無し。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は自地の法に於て已に善く了知し善く通達せるが故なり。善現、預流者の預流果に住し自果法に於て惑無く疑無く、一來不還阿羅漢獨覺の各自果に住し自果法に於て亦た惑無く疑無きが如く是の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。自ら住する所の不退轉地に於て攝する所の諸法は現に知り現に見て惑無く疑無し。善現、是の不退轉地の菩薩摩訶薩は此の地の中に住して佛土を嚴淨し有情を成熟し諸の功德を修し、魔事有りて起らば卽ち能く覺知して魔事の勢力に隨はずして轉じ善能く種種の魔事を摧滅し修する所の功德を障礙せさらしむ。善現、譬へば[二〇]無間業を造作する者の如し。彼の無間心恒常に隨逐し乃ち命終に至るまで亦た捨つる能はず。何を以ての故に、善現彼れ能く無間業纏を等起し勢力を增上し恒常に隨轉し乃至命盡くるも亦た能く伏せず、設ひ餘心有

【二〇】無間業。無間地獄に墮つべき業にて、五逆罪を云ふ。

乃至見者の若しは有若し無差別相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は世間の是の如き等の事を觀察し論說するを樂はず、但だ般若波羅蜜多を觀察し論說するを樂ふ。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は衆相を遠離し能く無上大菩提を證するが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は常に一切智智相應の作意を遠離せず布施波羅蜜多を修行して慳貪事を離れ淨戒波羅蜜多を修行して破戒事を離れ、安忍波羅蜜多を修行して忿諍事を離れ、精進波羅蜜多を修行して懈怠事を離れ、靜慮波羅蜜多を修行して散亂事を離れ、般若波羅蜜多を修行して愚癡事を離る。善現、是の菩薩摩訶薩は一切法空に住すと雖も而かも正法を愛樂して非法を樂はず、不可得空に住すと雖も而かも常に不壞法性を稱讃し有情を饒益す。眞如法界に住すと雖も而かも善友を愛し惡友を樂はず、善友と言ふは謂ゆる諸の如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆なり。若し諸の聲聞獨覺等能善く有情を敎化し安立して無上正等菩提に趣かしめばまた善友と名づく。善現、是の菩薩摩訶薩は聽法せんが爲の故に常に見佛を樂ひ、若し如來應正等覺の餘の世界に在して現に正法を說きたまふを聞かば卽ち願力を以て彼の界に往生し恭敬供養して正法を聽受す。善現、是の菩薩摩訶薩は若しは晝若しは夜常に念佛の作意を遠離せず常に聞法の作意を遠離せず、此の因緣に由り諸の國土に隨ひて諸の如來應正等覺有りて現に正法を說きたまはば卽ち願力に乘じ彼れに往きて生を受け、或は神通に乘じて往きて法を聽く。是の因緣に由りて此の諸の菩薩生生の處には常に佛を離れず恒に正法を聞きて間無く斷無し。善現、是の菩薩摩訶薩は常に諸の有情を利樂せんが爲の故に能く現に靜慮無色の諸の甚深定を起すと雖も而かも巧方便して欲界心を起し諸の有情に十善業道を敎へ、亦た願力に隨ひて現に欲界有佛の國土に生ず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば常に布施波羅蜜多を修し、常に淨戒安忍精進靜

ぜられて生ずる所の諸受を觀察し論說するを樂はず、地界を觀察し論說するを樂はず、水火風空識界を觀察し論說するを樂はず、無明を觀察し論說するを樂はず、行識名色六處觸受愛取有生老死を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は蘊處界緣性緣起に於て畢竟理を空じ已り善く思惟し善く通達せるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は五事を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は善く法空に住し小法も勝有り劣り貴賤相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は賊事を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は自相空に住し少法を得る有り失ふ有り與奪相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は軍事を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は本性空に住し諸法の多有り少有り聚散相を見ざるが故に。善現、是の菩薩摩訶薩は鬪事を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は善く眞如に住し少法も强有り弱有り愛恚相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は男女を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は諸法空に住し少法も好有り醜有り愛憎相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は聚落を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩ば法の實性に住し少法も增有り減有り集散相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は城邑を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は虛空界に住し諸法の勝有り負有り好惡相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は國土を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は實際に安住し諸法の屬不屬此彼の相有るを見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は諸相を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は無相に安住し諸法の增有り減有り差別相を見ざるが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は是の我有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者を觀察し論說するを樂はず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は畢竟空に住し都て我

遠離し唯だ無上正等菩提のみを求め畢竟諸の有情類を利樂す。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば諸の世間の文章伎藝に於て善巧を得と雖も而かも愛著せず。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法皆畢竟空なりと達し、畢竟空中世間の所有る文章伎藝皆得可からず、又た諸の世間の文章伎藝は皆穢語を雜へ邪命に攝せらるればなり、是の故に菩薩は知りて而かも爲さず。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の世俗外道の書論に於ても亦善く知ると雖も而かも樂著せず。何を以ての故に善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の性相皆空なりと了し、此の空の中に於ては一切の書論皆得可からず、又た諸の世俗外道の書論の所說の理事は多く增減有り、菩薩道に於て隨順を爲すに非ず皆是れ戲論雜穢語を攝すればなり。是の故に菩薩は知りて而かも樂はず、善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

[一八]復た次に善現、諸の不退轉位の菩薩摩訶薩は復た所餘の諸の行狀相有り、吾れ當に汝が爲に分別し解說すべし。汝應に諦に聽き極めて善く思惟すべしと。善現請ふて言さく、唯然、願はくは說きたまはんことを。我れ等今專意樂聞したてまつらんと。佛言はく、善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば深般若波羅蜜多を行じ諸法皆無所有なりと通達して常に大菩提心を遠離せず、[一九]色蘊を觀察し論說するを樂はず受想行識蘊を觀察し論說するを樂はず、眼處を觀察し論說するを樂はず耳鼻舌身意處を觀察し論說するを樂はず、色處を觀察し論說するを樂はず聲香味觸法處を觀察し論說するを樂はず、眼界を觀察し論說するを樂はず耳鼻舌身意界を觀察し論說するを樂はず、色界を觀察し論說するを樂はず聲香味觸法界を觀察し論說するを樂はず、眼識界を觀察し論說するを樂はず、耳鼻舌身意識界を觀察し論說するを樂はず、眼觸を觀察し論說するを樂はず耳鼻舌身意觸を觀察し論說するを樂はず、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受を觀察し論說するを樂はず耳鼻舌身意觸に緣

【一八】佛更に不退轉位の菩薩の諸餘の行狀相に就いて說く。

【一九】色蘊等。五蘊等の決定相を分別し說明するを喜ばざるを云ふ。

くは我れ恒に隨ひて密に守護を爲し乃ち無上正等菩提に至らんことを。[一二]五執金剛藥叉神衆も亦た隨ひて守護し時として暫くも捨つる無く人非人等をして皆損害する能はざらしめ、諸天魔梵及び餘の世間も亦た能く法を以て發す所の無上正等覺の心を破壞すること有ること無し。此の因緣に由りて是の諸の菩薩は乃ち無上正等菩提に至り身意泰然として恒に擾亂無し。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば世間五常常に缺減無し、所謂眼根耳根鼻根舌根身根なり。出世五根も亦た缺減無し、所謂信根精進根念根定根慧根なり。善根、是の菩薩摩訶薩は身支圓滿にして相好莊嚴し、心の諸の功德念念增進して乃ち無上正等菩提に至る。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。[一三]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば恒に上士と爲り下士と爲らずと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が此の菩薩摩訶薩は恒に上士と爲り下士と爲らずと說きたまふやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は一切の煩惱復た現前せず、剎那剎那に功德增進して乃ち無上正等菩提に至り、一切時に於て心散亂無し。故に我れ此の菩薩摩訶薩は恒に上士と爲り下士と爲らずと說く。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば無上菩提の作意を成就し常に大菩提心を遠離せず、[一四]淨命の爲の故に呪術醫藥占卜諸の[一五]邪命の事を行ぜず、亦た名利の爲に諸の鬼神を呪し男女に著せしめて其の凶吉を問はず、亦た男女大小[一六]傍生鬼等を呪禁し希有の事を現ぜず、亦た壽量の長短財位男女の諸の惡事を占相せず、亦た寒熱豐儉吉凶好惡惑亂の有情を懸記せず、亦た合和湯藥[一七]左道療疾結好貴人を呪禁せず、尙ほ男女の歡笑し與に語るを觀視するすら染心せず況んや餘の事有らんをや。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法の自相皆空なりと知り自相空中相有るを見ず、相を見ざるが故に種種邪命呪術醫藥占相を

【一二】五執金剛藥叉神衆。執金剛藥叉神主に隨ふ眷屬神なり。

【一三】不退の菩薩恒に上士たるを說く。

【一四】淨命。四種の邪命法を離れて清淨に活命するを云ふ、卽ち十八正道中の正命なり。正業の相續なり。

【一五】邪命。比丘乞食を以て如法に自活せず、不如法の事をなして生活するを云ふ。邪命に下口食、仰口食、方口食、維口食の四あり。耕耘觀相、媾媒、呪醫とす。龍樹は身三口四の七惡と飲酒とを八邪命とし、優婆塞戒經には人と肉と酒と毒とトとを賣るを五邪命とせり。

【一六】傍生。畜類等の動物。

【一七】左道。迷信的邪道なり。

饒益せんと欲するが爲の故に現に家に處居し方便善巧して現に五欲の樂具を攝受すと雖も而かも其の中に於て染著を生ぜず、皆諸の有情に濟給せんが爲の故に、謂ゆる諸の有情の食を須つには食を與へ飲を須つには飲を與へ衣を須つには衣を與へ臥具を須つには臥具を與へ醫藥を須つには醫藥を與へ室宅を須つには室宅を與へ資財を須つには資財を與へ諸の有情の求むる所に隨ひて皆與へて其の意願をして皆滿足せしむ。善現、是の菩薩摩訶薩は自ら布施波羅蜜多を行じ亦た他を勸めて布施波羅蜜多を行ぜしめ恒に樂ふて布施波羅蜜多を行ずる法を稱揚し、歡喜して布施波羅蜜多を行ずる者を讃歎し乃至(九)自ら般若波羅蜜多を行じ亦た他を勸めて般若波羅蜜多を行ぜしめ恒に樂ふて般若波羅蜜多を行ずる法を稱揚し、歡喜して般若波羅蜜多を行ずる者を讃歎す。善現、是の菩薩摩訶薩は現に家に處居し神通力或は大願力を以て珍財の贍部洲に滿てるを攝受し持て以て佛法僧寶に供養し及び貧乏の諸の有情類に施し、神通力或は大願力を以て珍財の四大洲に滿てるを攝受し持て以て佛法僧寶に供養し及び貧乏の諸の有情類に施し、神通力或は大願力を以て珍財の小千界に滿てるを攝受し持て以て佛法僧寶に供養し及び貧乏の諸の有情類に施し、神通力或は大願力を以て珍財の中千界に滿てるを攝受し持て以て佛法僧寶に供養し及び貧乏の諸の有情類に施し、神通力或は大願力を以て珍財の三千大千世界に充滿せるを攝受し持て以て佛法僧寶に供養し、及び貧乏の諸の有情に施す。善現、是の菩薩摩訶薩は現に家に處居すと雖も而かも常に梵行を修し終に諸の妙欲を用ふる境を受けず現に種種の珍財を攝受すと雖も而かも其の中に於て染著を起さず、又た諸の欲樂の具及び珍財を攝受する時に於て終に諸の有情類を逼迫して憂苦を生ぜしめず、善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

一〇 復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば(一一)執金剛藥叉神主有りて恒に左右に隨ひて密に守護を爲し常に是の念を作さん、此の菩薩摩訶薩は久しからずして當に無上菩提を證すべし。願は

(九) 布施波羅蜜多につき自行勸他稱揚歡喜するを六度の名につき述ぶるも今略して本文の如くす。

【一〇】 天神の護法降魔を說く。

【一一】 執金剛藥叉神主。梵名、伐新羅陀羅(Vajradhara)、或は持金剛、金剛力士等と譯す。佛法守護の善神。

果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を證せず。善現、是の菩薩摩訶薩は諸の有情を利樂せんと欲するが爲の故に、受くべき所の身を攝受せんと欲するに隨ひて卽ち所願に隨ひて皆能く攝受す。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば[七]無上正等菩提の作意を成就して常に大菩提心を遠離せず、(a)色を貴重せず受想行識を貴重せず。(a)眼處乃至(な)意處。(a)色處乃至(ら)法處。(a)眼界乃至(む)意界。(a)色界乃至(う)法界。(a)眼識界乃至(ゐ)意識界。(a)眼觸乃至(の)意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至(お)意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至(く)識界。(a)緣性緣起。(a)諸相隨好。(a)有色無色法。(a)有見無見法。(a)有對無對法、有漏無漏法。(a)有爲無爲法。(a)世間出世間法。(a)我、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者。(a)徒衆。(a)眷屬。(a)布施波羅蜜多乃至(や)般若波羅蜜多。(a)十善業道。(a)四靜慮乃至(ま)四無色定。(a)四念住乃至(け)八聖道支。(a)八解脫乃至(ふ)十遍處。(a)空解脫門乃至(こ)無願解脫門。(a)極喜地乃至(え)法雲地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至(き)十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(a)苦聖諦乃至(て)道聖諦。(a)內空乃至(あ)無性自性空。(a)眞如乃至(さ)不思議界。(a)極喜地…

(a)聲聞・獨覺・菩薩・如來。(a)預流果(め)乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切智乃至(ゆ)一切相智。(a)阿耨多羅三藐三菩提。(a)嚴淨佛土、成熟有情。多く諸佛を見るを貴重せず諸の善根を種うるを貴重せず。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は一切法と虛空と等しく自性自相皆畢竟空にして都て所有無しと達し、法の能生所生生時生處を貴重するを生ず可き有るを見ざればなり。此れに由るが故に生皆不可得なり。何を以ての故に、善現、是の一切法と虛空と等しく性相皆空にして生義無きが故なり。善現、是の菩薩摩訶薩は無上菩提の作意を成就して常に大菩提心を遠離せず、[八]身の四威儀・往來入出・擧足下足に心散無く、行住坐臥進止威儀、所作の事業皆正念に住す。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。[九]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば諸の有情を

【七】無上菩提等。ただ無上菩提を目的として他を貴重せざるを云ふ。(a)「不貴重色不貴重受想行識」右も(d)の場合の如くして略す。

【八】四威儀。行住坐臥の四を云ふ。

【九】不退の菩薩は我欲を受くる爲に非ずして衆生攝受の爲に五欲の樂具を攝受するを明す。

ひて能く起し、初解脫を起さんと欲せば即ち意に隨ひて能く起し第二解脫乃至第八解脫を起さんと欲せば亦た意に隨ひて能く起し、初勝處を起さんと欲せば即ち意に隨ひて能く起し第二勝處乃至第八勝處を起さんと欲せば亦た意に隨ひて能く起し、初靜慮定に入らんと欲せば即ち意に隨ひて能く入り第二靜慮定乃至滅受想定に入らんと欲せば亦た意に隨ひて能く入り、初遍處を起さんと欲せば卽ち意に隨ひて能く起し第二遍處乃至十遍處を起さんと欲せば亦た意に隨ひて能く起し、空解脫門を起さんと欲せば即ち意に隨ひて能く起し無相無願解脫門を起さんと欲せば亦た意に隨ひて能く起し、五神通を引發せんも欲せば即ち意に隨ひて能く引發す。[六]善現、是の菩薩摩訶薩は初靜慮に入ると雖も而かも初靜慮果を受けず、第二第三第四靜慮に入ると雖も而かも第二第三第四靜慮果を受けず、慈無量に入ると雖も而かも慈無量果を受けず悲喜捨無量に入ると雖も而かも悲喜捨無量果を受けず、空無邊處定に入ると雖も而かも空無邊處定果を受けず識無邊處無所有處非想非非想處定に入ると雖も而かも識無邊處無所有處非想非非想處定果を受けず。四念住を起すと雖も而かも四念住果を受けず、四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を起すと雖も而かも四正斷乃至八聖道支を受けず、初解脫を起すと雖も而かも初解脫果を受けず第二解脫乃至第八解脫を起すと雖も而かも第二解脫乃至第八解脫果を受けず、初勝處を起すと雖も而かも初勝處果を受けず第二勝處乃至第八勝處を起すと雖も而かも第二勝處乃至第八勝處果を受けず、初靜慮定に入ると雖も而かも初靜慮定果を受けず第二靜慮乃至滅受想定に入ると雖も而かも第二靜慮乃至滅受想定果を受けず、初遍處を起すと雖も而かも初遍處果を受けず第二遍處乃至第十遍處を起すと雖も而かも第二遍處乃至第十遍處果を受けず、空解脫門を起すと雖も而かも空解脫門果を受けず無相無願解脫門を起すと雖も而かも無相無願解脫門果を受けず、五神通を引發すと雖も而かも五神通果を受けず。善現、此の因緣に由りて是の菩薩摩訶薩は靜慮無量等至及び餘の功德勢力に隨はずして生じ亦た預流果或は一來果或は不還

【六】不退の菩薩は化他自在にして定道法を行ずるも其の目的が諸の有情利樂にあれば定果長壽天福、道果預流乃至獨覺を證せざるなり。

空なるを以て大虛空の如き大功德の鎧を擐、速に無上正等菩提に趣き諸の有情の爲に應ずる如く說法し其れをして生死の大苦より解脫して預流果を得一來果を得不還果を得阿羅漢果を得獨覺菩提を得或は無上正等菩提を得せしむべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は初發心より已に此の法を聞き其の心堅固にして動ぜず轉ぜず。此の堅固なる不動轉の心に依りて恒に正しく布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し此の六種分に隨ひて成就するに由りて已に菩薩の正性離生に入る。復た正しく布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し此れに由りて不退轉位に入るを得。是の故に惡魔種種の矯詐方便を設くと雖も而かも菩薩の發す所の大菩提の心を退すること能はず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。[四]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩は退轉せざるが爲の故に不退轉と名づくるや退轉するが爲の故に不退轉と名づくる耶と。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は退轉せざるを以ての故に不退轉と名づけ亦た退轉するを以ての故に不轉退と名づくと。世尊、是の菩薩摩訶薩は云何が退轉せざるを以ての故に不退轉と名づけ、云何が亦た退轉するを以ての故に不退轉と名づくるやと。善現、是の菩薩摩訶薩は聲聞及び獨覺地に超過し復た彼の二地の中に退墮せず、斯れに由るが故に退轉せざるが故に不退轉と名づくと說く。是の菩薩摩訶薩は聲聞及び獨覺地を遠離し彼の二地に於て決定して退捨す。斯れに由るが故に退轉するを以ての故に不退轉と名づくと說く。[五]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば初靜慮に入らんと欲せば卽ち意に隨ひて能く入り、第二第三第四靜慮に入らんと欲せば亦た意に隨ひて能く入り、慈無量に入らんと欲せば卽ち意に隨ひて能く入り悲喜捨無量に入らんと欲せば亦た意に隨ひて能く入り、空無邊處定に入らんと欲せば卽ち意に隨ひて能く入り識無邊處無所有處非想非非想處定に入らんと欲せば亦た意に隨ひて能く入り、四念住を起さんと欲せば卽ち意に隨ひて能く起し四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支を起さんと欲せば亦た意に隨

【四】退轉不退轉の義を明す。

【五】欲界法を行じ衆生を度するも禪定に出入自在なるを云ふなり。

八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)極喜地乃至法雲地。(d)五眼、六神通。(d)三摩地門、陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切智乃至一切相智。善現、是の菩薩摩訶薩は異生想に於て退轉するが故に不退轉と名づけ、聲聞想獨覺想菩薩想如來想に於て退轉するが故に不退轉と名づく。所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩は自相空を以て一切法を觀じ已に菩薩の正性離生に入り乃至少法も得可く得可からざるを見ざるが故に造作する所無し。造作無きが故に畢竟生ぜず。畢竟生ぜざるが故に無生法忍と名づく。是の如き無生法忍を得るに由るが故に不退轉の菩薩摩訶薩と名づく。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

二 復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば設ひ惡魔有りて來り其の所に到りて惱壞せんが爲の故に菩薩に語つて言はく、無上菩提と虛空と等しく自性自相皆畢竟空にして都て所有無し、諸法の自性自相も亦た然なり。虛空と等しく自性自相畢竟空なれば中に一法として能證と名づく可き無く一法として所證證時證處と名づく可き無く及び此れに由りて證するも亦た得可からず。既に一切法の性相皆空にして虛空と等し。汝等云何が唐に勤苦を受け求めて無上正等菩提を證するや。汝先きに聞きし所の、諸の菩薩應に無上正等菩提を證すべしとは皆是れ魔說なり眞の佛語に非ず、汝等應に大菩提の願を捨つべし。長夜に唐に一切有情を利樂せんが爲に自ら勤苦を受くる勿れ。種種の難行苦行を行じ菩提を求めんと欲すと雖も終に得ること能はずと。善現、是の菩薩摩訶薩は彼の語を聞く時能く審に觀察す、此の惡魔事は我が發す所の無上正等覺の心を退壞せんと欲するなり、我れ今彼の說を信受すべからず。一切法と虛空と等しく自性自相皆畢竟空なりと雖も而かも諸の有情は生死して長夜に 三 知らず見ず解せず覺らず顚倒し放逸にして諸の劇苦を受く。我れ當に性相皆

【二】不退轉の菩薩の行相を明し、菩薩心堅固にして惡魔に障礙されざるを說く。

【三】知らず等。若し衆生自相空を知らば實相に契ひ惡苦無きも、知らざれば顚倒知見せず、故に說法度生するべきなり。

不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば常に般若波羅蜜多を行じて恒に是の念を作さん、若し菩薩摩訶薩魔事なりと覺知せば魔事に隨はず、惡友なりと覺知せば惡友の語に隨はず、境界なりと覺知せば境界の轉ずるに隨はずと。是の菩薩摩訶薩は決定して布施波羅蜜多を退せず決定して淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を退せず(e)乃至決定して阿耨多羅三藐三菩提を退せず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば諸の如來應正等覺の所說の法要を聞かば深心に歡喜し恭敬して信受し善く義趣を解し其の心堅固なること猶ほ金剛の若く動轉す可からず引奪す可からず、常に勸めて布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修學し亦た有情に勸めて布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を精勤修學せしむ。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、諸の不退轉位の菩薩摩訶薩は何に於て退轉するが故に不退轉と名づくる耶と。佛言はく、(d)善現、是の菩薩摩訶薩は色想に於て退轉するが故に不退轉と名づけ受想行識想に於て退轉するが故に不退轉と名づく。(d)眼處乃至(な)意處。(d)色處乃至(ら)法處。(d)眼界乃至(む)意界。(d)色界乃至(う)法界。(d)眼識界乃至(ゐ)意識界。(d)眼觸乃至(の)意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至(お)意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至(く)識界。(d)無明乃至(や)老死。(d)貪、瞋癡諸惡見。

卷の第三百二十七

初分不退轉品第四十九之三

(d)布施波羅蜜多乃至(ま)般若波羅蜜多。(d)内空乃至(け)無性自性空。(d)眞如乃至(ふ)不思議界。(d)四念住乃至(こ)至

(e) 六波羅蜜より乃至阿耨多羅三藐三菩提までは先の(b)の場合と全同なる故之を全部省略せり。

(d)「善現是菩薩摩訶薩於色想退轉故名不退轉於受想行識想退轉故名不退轉」右も(a)の場合に準じて以下諸法のみ略出す。

【一】 不退轉菩薩の行相狀續く。

(d) 前卷と同意。

摩訶薩の三摩地門、陀羅尼門を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の無忘失法、恒住捨性を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざる若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の順逆に十二支緣起を觀ずるを修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の佛土を嚴淨し有情を成熟し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の諸の菩薩の殊勝の神通を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の圓滿壽量を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩法輪を轉ずるを學し正法を護持し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の一切智(な)乃至一切相智を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けんと。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉に菩薩摩訶薩ならば常に般若波羅蜜多を行じて恒に是の念を作さん、若し菩薩摩訶薩諸佛の敎の如く精勤して修學せば常に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多所攝の妙行を遠離せず、常に布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多相應の作意を遠離せず、常に一切智智相應の作意を遠離せず、常に方便を以て諸の有情に勤めて布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を精勤修學せしめんと。是の菩薩摩訶薩は(b)決定して布施波羅蜜多を退せず決定して淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を退せず。(b)內空(わ)乃至無性自性空。(b)眞如(か)乃至不思議界。(b)四念住(え)乃至八聖道支。(b)苦聖諦(る)乃至道聖諦。(b)四靜慮(た)乃至四無色定。(b)八解脫(れ)乃至十遍處。(b)空解脫門(こ)乃至無願解脫門。(b)極喜地(く)乃至法雲地。(b)五眼、六神通。(b)三摩地門、陀羅尼門。(b)佛の十力(ね)乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智(な)乃至一切相智。決定して阿耨多羅三藐三菩提を退せず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを

(b)「決定不退布施波羅蜜多決定不退淨戒……般若波羅蜜多」「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下の諸法を代入せば他は同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

我が爲に障道法を說き我れをして此の障道の法を知らしむ。決定して預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を證する能はず、況んや一切智智を證得せんをやと。善現、時に彼の惡魔是の菩薩の心退屈せず怖き無く疑ひ無きを知り卽ち是の處に於て化して無量の苾芻の形像を作し菩薩に語つて言はく、此の諸の苾芻は皆過去に於て無上正等菩提を希求し無量劫を經て種種の難行苦行を修行し而かも得ること能はず今皆退きて阿羅漢果に住せり、諸漏已に盡きて苦邊際に至れり。云何が汝等能く無上正等菩提を證せんやと。善現、是の菩薩摩訶薩は此れを見聞し已つて卽ち是の念を作す。定めて是れは惡魔化して此の如き苾芻の形像を作して我が心を擾亂し、滯礙相似の道法を說くに因る。必ず菩薩摩訶薩衆は般若波羅蜜多を修行して圓滿位に至る無くんば無上正等菩提を得ずして聲聞或は獨覺地に退墮せんと。爾の時菩薩復た是の念を作す、菩薩摩訶薩の布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず[二四]是の處無けん。菩薩摩訶薩の內空(わ)乃至無性自性空に住するを學し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の眞如(か)乃至不思議界に住するを學し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の四念住(よ)乃至八聖道支を修行し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の苦聖諦(た)乃至道聖諦に住するを學し無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の四靜慮(れ)乃至四無色定を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の八解脫(そ)乃至十遍處を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の空解脫門(つ)乃至無願解脫門を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の極喜地(ね)乃至法雲地を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩摩訶薩の五眼、六神通を修し圓滿位に至りて無上正等菩提を得ざるが若き必ず是の處無けん。菩薩

【二四】是の處無けん。般若等を修行して無上菩提を得ざることなしと云ふなり。

(わ)內空以下は六度の如く分說せずして本文の如く略說す。

土を嚴淨し有情を成熟し、亦た殑伽沙等の佛所に於て諸の菩薩の殊勝の神通を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て圓滿壽量を修して法輪を轉ずるを學し正法を護持し、亦た殑伽沙等の佛所に於て一切智乃至一切相智を修す。是の諸の菩薩摩訶薩衆は亦た殑伽沙の如き佛に親近し承事し諸の佛所に於て菩薩摩訶薩道を請問し謂ゆる是の言を作さん、云何が菩薩摩訶薩は大乘に安住するや。云何が菩薩摩訶薩は布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行するや。云何が菩薩摩訶薩は內空乃至無性自性空に住するを學するや。云何が菩薩摩訶薩は眞如乃至不思議界に住するを學するや。云何が菩薩摩訶薩は四念住乃至八聖道支を修するや。云何が菩薩摩訶薩は苦聖諦乃至道聖諦に住するを學するや。云何が菩薩摩訶薩は四靜慮乃至四無色定を修するや。云何が菩薩摩訶薩は八解脫乃至十遍處を修するや。云何が菩薩摩訶薩は空解脫門乃至無願解脫門を修するや。云何が菩薩摩訶薩は極喜地乃至法雲地を修するや。云何が菩薩摩訶薩は五眼、六神通を修するや。云何が菩薩摩訶薩は三摩地門、陀羅尼門を修するや。云何が菩薩摩訶薩は佛の十力乃至十八佛不共法を修するや。云何が菩薩摩訶薩は無忘失法、恒住捨性を修するや。云何が菩薩摩訶薩は順逆に十二支緣起を觀ずるを修するや。云何が菩薩摩訶薩は佛土を嚴淨し有情を成熟するや。云何が菩薩摩訶薩は諸の菩薩の殊勝神通を修するや。云何が菩薩摩訶薩は圓滿壽量を修するや。云何が菩薩摩訶薩は大法輪を轉ずるを學するや。云何が菩薩摩訶薩は正法を護持して久住するを得せしむるや。云何が菩薩摩訶薩は一切智乃至一切相智を修するやと。殑伽沙等の諸佛世尊は請問せらるゝが如く次第に爲に說きたまふ。是の諸の菩薩摩訶薩衆は佛の敎誨の如く安住し修學し無量劫を經て熾然として精進するも尙ほ一切智智を得る能はず、況んや今汝等が修する所學する所能く無上正等菩提を證せんをやと。善現、是の菩薩摩訶薩は其の言を聞くと雖も而かも心異る無く驚かず恐れず疑無く惑無く倍復た歡喜して是の念言を作さん、今此の苾芻は多く我れを益し方便して

(わ) 以下も六度の場合の如くすべきを今本文の如く略說す。

果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を得べし。汝此の道に由り此の行に由るが故に速に一切の生老病死を盡くさん。何んぞ久しく生死の苦を受くるを用ひんや。現在の苦身すら尙ほ厭捨すべしと爲す。況んや更に當來の苦身を受くるを求めんをや。宜しく自ら審思して先に信ずる所を捨つべしと。善現、是の菩薩摩訶薩は彼の語を聞く時其の心動ぜず亦た驚疑せず但だ是の念を作す、今此の苾芻我れを益すること少からず能く我が爲に相似の道法を說き我れをして此の道の預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提を證する能はざるを識知せしむ。況んや當に能く諸佛の無上正等菩提を證すべきをやと。是の菩薩摩訶薩此の念を作し已つて深く歡喜を生じ復た是の念を作さん、今此の苾芻は甚だ我れを益せんが爲に方便して我が爲に滯礙法を說き、我れをして滯礙法を了知し已つて三乘道に於て自在に修學せしむと。善現、爾の時惡魔是の菩薩の深心に歡喜せるを知りて復た是の言を作さん、善男子、汝諸の菩薩摩訶薩の長時に勤めて無益行を行ぜるを見んと欲するや不や、謂ゆる諸の菩薩摩訶薩衆〔二三〕殑伽沙數の如き大劫を經無量種上妙の衣服飮食臥具醫藥資財花香等の物を以て殑伽沙等の諸佛世尊を供養恭敬尊重讚歎し、復た殑伽沙等の佛所に於て布施波羅蜜多を修行し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行し、亦た殑伽沙等の佛所に於て內空（わ）乃至無性自性空に住するを學し、亦た殑伽沙等の佛所に於て眞如（か）乃至不思議界に住するを學し、亦た殑伽沙等の佛所に於て四念住（よ）乃至八聖道支を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て苦聖諦（た）乃至道聖諦に住するを學し、亦た殑伽沙等の佛所に於て四靜慮（れ）乃至四無色定を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て八解脫（そ）乃至十遍處を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て空解脫門（つ）乃至無願解脫門を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て極喜地（ね）乃至法雲地を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て五眼、六神通を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て佛の十力（な）乃至十八佛不共法を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て無忘失法、恒住捨性を修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て順逆に十二支緣起を觀ずるを修し、亦た殑伽沙等の佛所に於て佛

【二三】殑伽沙數の等。ガンジス河の沙數程の大劫、非常に長き時間。

（わ）內空以下も六度の如く分說すべきを今略を簡びて本文の如く略說す。

聞獨覺外道諸の惡魔等其の心を破壞折伏し無上正等菩提に於て退屈を生ぜしむる能はず。善現、是の菩薩摩訶薩は決定して已に不退轉地に住し、所有る事業を皆自ら思惟す。但だ他を信じて便ち作を起すのみに非ず、乃至如來應正等覺の所有る言敎する尙ほ信行せず、況んや聲聞獨覺外道惡魔等の語を信じて所作有らんをや。是の諸の菩薩諸の爲す所有るは但だ他を信じて行ずとせば終に是の處(ことわり)無し。何を以ての故に、善現、是の菩薩摩訶薩は法の信行す可き者有るを見ず。所以は何ん、(a)善現、是の菩薩摩訶薩は色を見ず受想行識の信行す可き者を見ず亦た色眞如を見ず受想行識眞如の信行す可き者を見ざればなり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)無明乃至老死。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)三摩地門、陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切智乃至一切相智。(a)異生地、聲聞地獨覺地菩薩地如來地。(a)諸佛の無上正等菩提。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば設ひ惡魔有りて苾芻の像を作し其の所に來詣して是の如き言を說かん、汝等が所行は是れ生死の法なり此れに由りて一切智智を得るに非ず、汝等今應に[一九]盡苦の道を修し速に衆苦を盡くして般涅槃を證すべしと。是の時惡魔卽ち菩薩の爲に生死に墮する[二〇]相似の道法を說く、所謂[二一]骨想或は[二二]青淤想或は膿想或は膖脹想或は蟲食想或は異赤想或は慈或は悲或は喜或は捨或は初靜慮或は乃至第四靜慮或は空無邊處或は乃至非想非非想處なり。菩薩に告げて言く、此れは是れ眞の道眞の行なり。汝此の道此の行を用ひなば當に預流果或は一來

(a)「善現是菩薩摩訶薩不見色不見受想行識可信行者亦不見色眞如不見受想行識眞如可信行者」右の文中「色乃至識」のある所に次下の諸法を入るれば他は皆同文なる故之を符號(a)にて略し以下諸法のみ略出す。

【一九】盡苦の道。生死解脫を證する道を云ふ。

【二〇】相似の道法。聖道に似て而も非なる道法にて三界を出離し難きものなり。

【二一】骨想。九想觀白骨觀の如く骸骨髑髏の悽然なるを想ふ。

【二二】青淤想。水氣で青ぶくれになるを想ふ。

を棄捨せば我れ當に汝に眞實の佛法を教へ汝をして修學して速に無上正等菩提を證せしむべし。汝先に聞きし所は眞の佛語に非ず。[一八]是の文頌は虚妄の撰集なり。我が說く所は是れ眞の佛語なりと。善現、若し菩薩摩訶薩是の如き語を聞きて心動じ驚疑せば當に知るべし未だ諸佛に不退轉の記を授けらるるを得ず、彼れは無上正等菩提に於て猶ほ未だ決定せずと。善現、若し菩薩訶摩薩是の如き語を聞きて其の心動ぜず亦た驚疑せず但だ無作無相無生の法性に隨ひて住せるのみならば、善現、是の菩薩摩訶薩は諸の所作有るも他語を信ぜず他教に隨はずして布施波羅蜜多を修し他教に隨はずして淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修し、他教に隨はずして(わ)內空乃至無性自性空に住し、他教に隨はずして眞如乃至不思議界に住し、他教に隨はずして四念住乃至八聖道支を修し、他教に隨はずして苦聖諦乃至道聖諦に住し、他教に隨はずして四靜慮乃至四無色定を修し、他教に隨はずして八勝處乃至十遍處を修し、他教に隨はずして空解脫門乃至無願解脫門を修し、他教に隨はずして極喜地乃至法雲地を修し、他教に隨はずして五眼、六神通を修し、他教に隨はずして三摩地門、陀羅尼門を修し、他教に隨はずして佛の十力乃至十八佛不共法を修し、他教に隨はずして順逆に十二支緣起を觀ずるを修し、他教に隨はずして苦を知り集を斷じ滅を證し、道を修し、他教に隨はずして預流果乃至阿羅漢果を證する智を起し、他教に隨はずして獨覺菩提を證する智を起し、他教に隨はずして菩薩の正性離生位に入る智を起し、他教に隨はずして佛土を嚴淨し、有情を成熟し、他教に隨はずして菩薩の神通を起し、他教に隨はずして一切智乃至一切相智を修し、他教に隨はずして一切の煩惱の相續する習氣を斷じ、他教に隨はずして無忘失法、恒住捨性を修し、他教に隨はずして圓滿壽量を攝受し、他教に隨はずして法輪を轉じ、他教に隨はずして正法を護り、他教に隨はずして無上正等菩提に趣く。善現、漏盡の阿羅漢の諸の所作有るも他語を信ぜず現に法性を證し惑無く疑無く一切の惡魔の傾動すること能はざるが如く、是の如く不退轉の菩薩摩訶薩は一切の聲

【一八】是の文頌等。般若は外道虚妄の撰集なりと云ふなり。

(わ) 六度の如く分說すべきを今略を簡びて本文の如く略說す以下亦然り。

ば設ひ惡魔有りて現前に[一六]八大地獄を化作し復た一一の大地獄の中に於て多く百の菩薩多く千の菩薩多く百千の菩薩多く倶胝の菩薩多く百倶胝の菩薩多く千倶胝の菩薩多く百千倶胝の菩薩多く百千倶胝那庾多の菩薩を化作し皆猛焰を被らせ交徹して燒然し各辛酸楚毒の大苦を受く、是の化を作し已つて不退轉の諸の菩薩に語つて言はく、此の諸の菩薩皆如來應正等覺の不退轉の記を受くるが故に是の如き大地獄の中に生じ恒に斯の如き種種の劇苦を受く。汝等菩薩の旣に如來應正等の不退轉の記を受けしも亦た當に此の大地獄の中に墮して諸の劇苦を受くべし。佛は汝等に大地獄の中にて極苦を受くる記を授け無上正等菩提不退轉の記を授くるに非ず、是の故に汝等應に速に大菩提心を棄捨して大地獄の苦を免脫することを得、天上に生じ或は人中に生じて諸の富樂を受く可しと。善現、爾の時不退轉の菩薩摩訶薩は此の事を見聞するも其の心動ぜず亦た驚疑せず但だ是の念を作すのみ、不退轉の記を受けし菩薩摩訶薩、若し地獄傍生鬼界阿素洛の中に墮すとせば終に[一七]是の處無し。何を以ての故に、不退轉位の菩薩は定めて不善業無きが故に、亦た善業の苦果を招ねく無きが故に、如來は必ず虛誑語無きが故に、諸佛の所說は皆一切有情を利樂せんが爲に大慈悲の流出せる所なるが故に、見聞せる所の者は定めて是れ惡魔の所作所說なりと。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩訶摩薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば設ひ惡魔有りて沙門の像を作して其の所に來至し、是の如き言を唱へて言はん、汝先に聞きし所の、應に布施波羅蜜多を修して究竟圓滿すべし、應に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修して究竟圓滿すべし、當に無上正等菩提を證すべしと、是の如し聞きし所は皆僞れ邪說なり應に疾く棄捨すべし。又た汝先に聞きし應に過去未來現在一切の如來應正等覺及び諸の弟子の初發心より乃至法住まで其の中の所有る功德善根に皆隨喜を生じ一切合集して諸の有情と無上正等菩提に廻向せよと、是の如く聞きし所も亦た僞れ邪說なり應に疾く棄捨すべし。若し汝聞きし所の邪法

【一六】八大地獄。提婆伴黨大妄語の罪によりて八寒地獄に墮つることを傳へ、後八寒と八熱との十六大獄說となり三百六十小地獄說話生ず。

【一七】是の處無し。實相の故に小罪も無し、況して三惡道に墮すること無しと云ふなり。

白して言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩は云何してか身心清淨なるを得るやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩如如に善根漸漸に增長せば是の如く是の如く身心の諂曲善根力に由りて除遣せらるるが故に未來際を窮むるまで畢竟起らざるなり。此れに由りて身心淸淨なるを得。復た次に善現、是の菩薩摩訶薩如如に善根漸漸に增上せば是の如く是の如く身語意業善根力に由りて磨瑩せらるるが故に一切の濁穢邪曲を遠離し、此れに由りて身心淸淨なるを得。身心淨なるが故に聲聞及び獨覺地を超過し菩薩位に住し堅固にして動ぜず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば、[一二]利養を重んぜず名譽に徇はず諸の飮食衣服臥具房舍資財に於て皆貪染せず[一三]十二杜多の功德を受く雖も而かも其の中に於て都て恃む所無し。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば常に布施波羅蜜多を修し慳貪の心畢竟起らず、常に淨戒波羅蜜多を修し犯戒の心畢竟起らず、常に安忍波羅蜜多を修し忿恚の心畢竟起らず、常に精進波羅蜜多を修し懈怠の心畢起らず、常に靜慮波羅蜜多を修し散亂の心畢竟起らず、常に般若波羅蜜多を修し愚癡の心畢竟起らず、此れに由りて嫉妬諂誑憍逸覆惱等の心も亦た永く起らず、善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば覺慧堅固にして能く深く悟入し正法を聽聞して恭敬信受し聽聞する所の世出世の法に隨ひて皆能く方便して[一四]般若波羅蜜多甚深の理趣に會入す。諸の造作す".所の事業も亦た般若波羅蜜多を以て法性に會入し一事として法性を出づる者を見ず。設ひ法性と相應せざるもの有るも亦た能く方便して般若波羅蜜多甚深の理趣に會入し、此れに由りて法性より出づる者を見ず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。[一五]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩なら

【一二】利養を重んぜず。佛道を貴ぶの故に利益供養を事とせざるなり。

【一三】十二杜多。阿蘭若乃至但坐不臥の十二法。杜多(Dhū-ta)とは修治、棄除などと譯し、煩惱の塵を棄除し生活を淸淨にして佛道修業をなすを云ふ。

【一四】般若甚深の等。自心妙するが故に三乘外道世法も般若の理趣に歸せざる無きを云ふなり。

【一五】不退の菩薩は惡魔の誘惑に驚動せざるを明す。

[一]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩訶摩薩ならば[二]柔潤にして愛す可く樂ふ可き身語意業を成就し諸の有情に於て心[三]罣礙無し。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と名づくと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩訶摩薩ならば恒常に慈悲喜捨を成就し等しく相應の身語意業を起す、善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば決定して[四]五蓋と共居せず所謂貪欲・瞋恚・[五]惛沈・睡眠・[六]掉擧の惡作疑蓋なり。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩訶摩薩ならば一切の隨眠皆已に摧伏し一切の結縛隨煩惱纒皆永く起り現れず得可からず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば入出往來に心迷謬せず恒時に[七]正念正知に安住し進止威儀行住坐臥擧足下足も亦復た是の如く諸所に遊履するも必ず其の地を觀、安庠として繫念し直視して行き運動語言甞て卒暴無し。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば諸の受用する所の臥具衣服皆常に香潔にして諸の臭穢無く亦た垢膩蟣虱等の蟲無く心清華を樂ひ身疾病無し。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩訶摩薩ならば身心清淨にして常人の如く[八]身中恒に八萬の戶蟲の侵食する所と爲るに非ず。所以は何ん、是の諸の菩薩の善根增上して[九]世間に出過し受くる所の身形內外清淨なればなり。故に蟲類の其の身を侵食する無し。如如に善根漸漸に增益せば是の如く是の如く身心淨に轉ず。此の因緣に由りて是の諸の菩薩身心堅固なること猶ほ金剛の若く[一〇]違緣の侵惱する所と爲らず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。[一一]時に具壽善現、佛に

【一】不退菩薩の行狀相の續き。
【二】柔潤にして等。慈悲心の故に意柔潤、意柔潤の故に身語業成就するなり。
【三】罣礙。罣は網、礙は障り。煩惱妄想を云ふ。
【四】五蓋と共居せず。五蓋は貪欲、瞋恚、惛沈、睡眠、掉擧の稱、蓋とは蓋覆纒綿して心神昏く定慧發らざるを云ふ。五蓋と共居せずとは即ち五欲を呵して五蓋を棄除するなり。
【五】惛沈。心をして盲昧沈鬱ならしむる煩惱。
【六】掉擧。心をして高擧せしめ安靜せしめざる煩惱。
【七】正念正知に安住し。定により衆生を守り常に衆生を惱害せざるを念ずるなり。
【八】身中恒に等。寄生虫に依りて疾病醜陋を來さざるを云ふ。
【九】世間に出過し。諸法實相相應の善根力の故なればなり。
【一〇】違緣。水火盜難等吾が心に違ふ境緣即ち逆境を云ふ。
【一一】菩薩の身心清淨の所以を明す。

を以て常に樂ふて一切有情に布施して恒に是の念を作す、云何が當に諸の有情類の正法を求むる願をして皆滿足することを得せしむべき。復た是の如き法施の善根を持ちて諸の有情と同じく共に諸佛の無上正等菩提に廻向せんと。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

【三】復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば佛の所説の甚深の法門に於て終に疑惑猶豫を生ぜずと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何に縁りて不退轉の菩薩摩訶薩は佛の所説の甚深の法門に於て終に疑惑猶豫を生ぜざるやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は都て法の疑惑し猶豫す可き有るを見ざるなり。謂ゆる(c)色有るを見ず亦た受想行識の中に於て疑惑猶豫を生ず可き有るを見ず。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)五眼、六神通。(c)三摩地門、陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切智乃至一切相智。(c)異生地有るを見ず亦た聲聞地獨覺地菩薩地如來地の中に於て疑惑猶豫を生ず可き有るを見ず、阿耨多羅三藐三菩提の中に於て疑惑猶豫を生ず可き有るを見ず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

卷の第三百二十六

初分不退轉品第四十九之二

【三】如來所説の甚深法に疑惑猶豫無きを説く。

(c)「不見有色亦不見有受想行識可於中生疑惑猶豫」右も「色乃至識」の所に次下所出の諸法を代入して略すること(b)の場合の如し。

取を離れしめ恒に正しく不與取を離る法を稱揚し、歡喜して不與取を離る者を讃歎し、自ら欲邪行を離れ亦た他に勸めて欲邪行を離れしめ恒に正しく欲邪行を離る法を稱揚し歡喜し欲邪行を離る者を讃歎し、自ら虚誑語を離れ亦た他に勸めて虚誑語を離れしめ恒に正しく虚誑語を離る法を稱揚し、歡喜して虚誑語を離る者を讃歎し、自ら麁惡語を離れ亦た他に勸めて麁惡語を離れしめ恒に正しく麁惡語を離る法を稱揚し、歡喜して麁惡語を離る者を讃歎し、自ら離間語を離れ亦た他に勸めて離間語を離れしめ恒に正しく離間語を離る法を稱揚し、歡喜して離間語を離る者を讃歎し、自ら雜穢語を離れ亦た他に勸めて雜穢語を離れしめ恒に正しく雜穢語を離る法を稱揚し、歡喜して雜穢語を離る者を讃歎し、自ら貪欲を離れ亦た他に勸めて貪欲を離れしめ恒に正しく貪欲を離る法を稱揚し、歡喜して貪欲を離る者を讃歎し、自ら瞋恚を離れ亦た他に勸めて瞋恚を離れしめ恒に正しく瞋恚を離る法を稱揚し、歡喜して瞋恚を離る者を讃歎し、自ら邪見を離れ亦た他に勸めて邪見を離れしめ恒に正しく邪見を離る法を稱揚し、歡喜して邪見を離る者を讃歎す。是の菩薩摩訶薩は乃至夢中にも亦た十惡業道を現起せず、況んや覺時に在らんをや。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩訶摩薩と爲すと。[二]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば普ねく一切有情を饒益せんが爲に恒に布施波羅蜜多を修し普ねく一切有情を饒益せんが爲に恒に淨戒波羅蜜多を修し普ねく一切有情を饒益せんが爲に恒に安忍波羅蜜多を修し普ねく一切有情を饒益せんが爲に恒に精進波羅蜜多を修し普ねく一切有情を饒益せんが爲に恒に靜慮波羅蜜多を修し普ねく一切有情を饒益せんが爲に恒に般若波羅蜜多を修す。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。

[三]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩訶摩薩ならば諸の受持し思惟し讀誦し究竟し通利する所の淸淨の敎法の所謂契經・應頌・記莂・諷誦・自說・緣起・本事・本生・方廣・希法・譬喩・論議、是の如き法

【二】不退の菩薩所修の六波羅蜜多を說く。

【三】不退の菩薩は十二部經の法施を修すべきを說く。

觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)三摩地門、陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切智乃至一切相智。(b)異生地、聲聞地獨覺地菩薩地如來地。(b)阿耨多羅三藐三菩提。

復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば終に樂ふて外道沙門婆羅門等の形相言說を觀ぜず。彼の諸の沙門婆羅門等の所知の法に於て實に知り實に見或は能く正見法門を施設すとせば必ず[4]是の處無し。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と名づくと。復た次の善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば佛の善き說法[5]毘奈耶に於て深く信解を生じて終に疑惑無く戒禁取無く惡見に墮せず、世俗の諸の吉祥事に執して以て淸淨と爲さず、終に諸餘の天神を禮敬せず、諸の世間外道の事ふる所の如く亦た終に種種の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明を以て天神及び諸の外道を供養せず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば地獄傍生鬼界阿素洛の中に生ぜず、亦た[6]卑賤種族の謂ゆる[7]旃荼羅[8]補羯娑等に生ぜず、亦た終に[9]扇搋半擇無形二形及び女人の身を受けず、亦た復た盲聾瘖瘂攣躄癲癇矬陋等の身を受けず、亦た終に無暇の時處に生ぜず。善現、若し是の如き諸の行狀相を成就せば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。[10]復た次に善現、若し不退轉位の菩薩摩訶薩ならば當に樂ふて十善業道を受け行じ自ら生命を害するを離れ亦た他に勸めて生命を害するを離れしめ恒に正しく生命を害するを離るる法を稱揚し、歡喜して生命を害するを離るる者を讃歎し、自ら不與取を離れ亦た他に勸めて不與

【四】是の處無し。外道には實智なければ施設とせず、若し實智正見あらば外道に非ざるなり。

【五】毘奈耶（Vinaya）。離行、調伏、滅などと譯す。三藏中の律を云ふ。

【六】卑賤種族等。卑賤種族に生ぜざるは憍慢の根本を打破せる爲なり。

【七】旃荼羅（Caṇḍala）。屠者、殺者などと譯す。

【八】補羯娑（Pulkasa）。糞穢を除く賤人。

【九】扇搋半擇、譯して黃門といふ、男根不具の者をいふ。

【一〇】不退の菩薩十善業道を修するを說く。

初分不退轉品第四十九之一

（一）爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、不退轉の菩薩摩訶薩は何の行有り何の狀有り何の相有るや。我れ等云何が是れを不退轉の菩薩摩訶薩と知るやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩、能く如實に諸の異生地、諸の聲聞地、諸の獨覺地、諸の如來地、是の如き諸地、諸法眞如の中に於ては變異無く分別無く皆二無く二分無しと知らば是の菩薩摩訶薩は如實に諸法眞如に悟入すと雖も而かも諸法眞如に於て分別する所無し。無所得を以て方便と爲すが故に。是の菩薩摩訶薩既に如實に諸法眞如に悟入し已らば眞如と一切法と二無く別無しと聞くと雖も而かも疑滯無し。何を以ての故に、眞如と一切法とは一異俱不俱なりと說く可からざるが故なり。是の菩薩摩訶薩は終に爾を輕んじて語言を發せず、語言を發する所皆義利を引く。若し義利無くんば終に發言せず。是の菩薩摩訶薩は他の好惡長短を觀視せず平等に憐愍して爲に法を說く。善現、不退轉の菩薩摩訶薩は是の如き等の諸の行狀相有りて應ず。是の如き諸の行狀相を以て是れを不退轉の菩薩摩訶薩なりと知ると。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、復た何の行何の狀何の相を以て是れを不退轉の菩薩摩訶薩と知るやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩能く一切法（二）行無く狀無く相無しと觀ぜば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し一切法行無く狀無く相無くんば是の菩薩摩訶薩は何の法に於て退轉するが故に不退轉と名づくるやと。佛言はく、(b)善現、是の菩薩摩訶薩は（三）色に於て退轉するが故に不退轉と名づけ受想行識に於て退轉するが故に不退轉と名づく。何を以ての故に、善現、色の自性無所有受想行識の自性も亦た無所有なればなり、是の菩薩摩訶薩、中に於て住せざるが故に退轉すと名づく。

(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼

【一】不退の菩薩の行、狀、相を說く。

【二】行無く。行狀相に執著するを以て一切無と觀るを不退轉の行狀なりと說く。(b)「善現是菩薩摩訶薩於色退轉故名不退轉……………受想行識自性亦無所有是菩薩摩訶薩於中不住故名退轉」右も(a)の場合と同じくして略す。

【三】色に於て退轉等。色の空を觀て著心を轉ずる故に佛道に轉ぜずと云ふなり。

氣。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)圓滿壽量。(a)轉法輪。善現、正法住攝受す可からざるが故なり。若し正法住攝受す可からずんば則ち正法住に非ずと。是の菩薩住品を說く時萬二千の菩薩摩訶薩、無生法忍を得たり。

乃至四無色定を攝受せず、布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多を攝受せず、內空乃至無性自性空を攝受せず、眞如乃至不思議界を攝受せず、四念住乃至八聖道支を攝受せず、苦聖諦乃至道聖諦を攝受せず、八解脫乃至十遍處を攝受せず、空解脫門乃至無願解脫門を攝受せず、極喜地乃至法雲地を攝受せず、五眼・六神通を攝受せず、三摩地門・陀羅尼門を攝受せず、佛の十力乃至十八佛不共法を攝受せず、十二支緣起の順逆觀を攝受せず、苦を知り集を斷じ滅を證し道を修するを攝受せず、預流果乃至阿羅漢果を攝受せず、獨覺菩提を攝受せず、菩薩の正性離生位に入るを攝受せず、佛土を嚴淨し、有情を成熟するを攝受せず、菩薩の神通を攝受せず、一切智乃至一切相智を攝受せず、一切の煩惱の相續する習氣を斷ずるを攝受せず、無忘失法・恒住捨性を攝受せず、圓滿壽量を攝受せず、轉法輪を攝受せず、正法住を攝受せざればなり。何を以ての故に、(a)善現、色は攝受す可からざるが故なり。若し色攝受す可からずんば則ち色に非ず、受想行識は攝受す可からざるが故なり。若し受想行識攝受す可からずんば則ち受想行識に非ず。

(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)[六]離害生命離不與取欲邪行。(a)離虛誑語、離麁惡語離間語雜穢語。(a)離貪欲、離瞋恚邪見。(a)初靜慮、第二第三第四靜慮。(a)慈無量、悲喜捨無量。(a)空無邊處、識無邊處無所有處非想非非想處。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)極喜地乃至法雲地。(a)五眼・六神通。(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)十二緣起の順逆觀。(a)知共斷集證滅修道。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)入菩薩正性離生位。(a)嚴淨佛土、成熟有情。(a)菩薩神通。(a)一切智乃至一切相智。(a)斷一切煩惱相續習

(a)「善現色不可攝受故若色不可攝受則非色受想行識不可攝受故若受想行識不可攝受則非受想行識」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同文なり故に今之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ掲ぐ。

【六】離害生命、離不與取、離欲邪行、離虛誑語、離麁惡語、離離間語、離雜穢語、離貪欲、離瞋恚、離邪見は不殺不盜等の十善なり、攝受すべからざる故に、十善も執すべき實有ならぬは勿論なり。

きを得、眼界乃至意界に於て障礙無きを得、色界乃至法界に於て障礙無きを得、眼識界乃至意識界に於て障礙無きを得、眼觸乃至意觸に於て障礙無きを得、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受に於て障礙無きを得、地界乃至識界に於て障礙無きを得、無明乃至老死に於て障礙無きを得、害生命不與取欲邪行、虛誑語麁惡語離間語雜穢語貪欲瞋恚邪見を離るるに於て障礙無きを得、四靜慮乃至四無色定に於て障礙無きを得、布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多に於て障礙無きを得、內空乃至無性自性空に於て障礙無きを得、眞如乃至不思議界に於て障礙無きを得、四念住乃至八聖道支に於て障礙無きを得、苦聖諦乃至道聖諦に於て障礙無きを得、八解脫乃至十遍處に於て障礙無きを得、空解脫門乃至無願解脫門に於て障礙無きを得、極喜地、乃至法雲地に於て障礙無きを得、五眼・六神通に於て障礙無きを得、三摩地門・陀羅尼門に於て障礙無きを得、佛の十力乃至十八佛不共法に於て障礙無きを得、順逆に十二支緣起を觀ずるに於て障礙無きを得、苦を知り集を斷じ滅を證し道を修するに於て障礙無きを得、預流果乃至阿羅漢果に於て障礙無きを得、獨覺菩提に於て障礙無きを得、菩薩の正性離生位に入るに於て障礙無きを得、佛土を嚴淨し、有情を成熟するに於て障礙無きを得、菩薩の神通を起すに於て障礙無きを得、一切智乃至一切相智に於て障礙無きを得、一切の煩惱の相續する習氣を斷ずるに於て障礙無きを得、無忘失法、恒住捨性に於て障礙無きを得、圓滿壽量に於て障礙無きを得、轉法輪に於て障礙無きを得、正法住に於て障礙無きを得。所以は何ん。善現、是の菩薩摩訶薩は前際より來色を攝受せず受想行識を攝受せず、眼處（ろ）乃至意處を攝受せず、色處乃至法處を攝受せず、眼界乃至意界を攝受せず、色界乃至法界を攝受せず、眼識界乃至意識界を攝受せず、眼觸乃至意觸を攝受せず、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受を攝受せず、地界乃至識界を攝受せず、無明乃至老死を攝受せず、害生命、不與取欲邪行、虛誑語麁惡語離間語雜穢語貪欲瞋恚邪見を離るるを攝受せず、四靜慮

（ろ）五蘊の如く分說すべきも今本文の如く以下略出す。

て一切智乃至一切相智を起す者を讃歎すべし。
善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら一切の煩惱の相續する[二三]習氣を斷じ亦た他に勸めて一切の煩惱の相續する習氣を斷ぜしめ恒に正しく一切の煩惱の相續する習氣を斷ずる法を稱揚し、歡喜して一切の煩惱の相續する習氣を斷ずる者を讃歎すべし。

卷の第三百二十五

初分菩薩住品第四十八之二

[一]善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら無忘失法・恒住捨性を起し亦た他に勸めて無忘失法・恒住捨性を起さしめ恒に正しく無忘失法・恒住捨性を起す法を稱揚し、歡喜して無忘失法・恒住捨性を起す者を讃歎すべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら[二]圓滿壽量を攝受し亦た他に勸めて圓滿壽量を攝受せしめ恒に正しく圓滿壽量を攝取する法を稱揚し、歡喜して圓滿壽量を攝受する者を讃歎すべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら[三]法輪を轉じ亦た他に勸めて法輪を轉ぜしめ恒に正しく法輪を轉ずる法を稱揚し、歡喜して法輪を轉ずる者を讃歎すべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら[四]正法を攝護して住せしめ亦た他に勸めて正法を攝護して住せしめ恒に正しく正法を攝護して住せしむる法を稱揚し、歡喜して正法を攝護して住せしむる者を讃歎すべし。
善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば無所得を以て方便と爲し應に是の如く住すべし。善現、菩薩摩訶薩は應に是の如く甚深般若波羅蜜多方便善巧を學すべし。若し是の如く學せば乃ち能く安住する所の法に安住す。若し是の如く學し是の如く安住せば卽ち[五]色に於て障礙無きを得受想行識に於て障礙無きを得、眼處乃至意處に於て障礙無きを得、色處乃至法處に於て障礙無

【二三】習氣。煩惱の體を指して正使といふに對して煩惱が慣習的氣分として殘るものを習氣と云ふ。

【一】菩薩の菩提に住する行を說く續き。

【二】圓滿壽量。菩薩の願成を壽量に就て示せるなり。

【三】法輪を轉ず。釋尊所說の正法を廣く法輪と云ひ、この正法を開說布敎するを法輪を轉ずとなすなり。

【四】正法を攝護して住せしむ。如來の正しき法寶を護持住在せしむ。法滅盡難に備ふる護法の尊重なり。

【五】色に於て障礙無し。色の實相は無礙なり、本來不受なれば色の色ょすべきものなく、これ色に於て障礙無しとなすなり。

(ろ) 五蘊の如く分說すべきも今本文の如く以下略說す。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を證せんと欲せば應に自ら預流果乃至阿羅漢果を[一]證する智を起し而かも實際を證せずして預流果乃至阿羅漢果を得、亦た他を勸めて預流果乃至阿羅漢果を證する智を起さしめ及び實際を證して預流果乃至阿羅漢果を得せしめ恒に正しく預流果乃至阿羅漢果を證する智を起し及び實際を證して預流果乃至阿羅漢果を證する法を稱揚し、歡喜して預流果乃至阿羅漢果を證する智を起し及び實際を證して預流果乃至阿羅漢果を得る者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら獨覺菩提を證する智を起し而かも實際を證せずして獨覺菩提を得、亦た他に勸めて獨覺菩提を證する智を起さしめ及び實際を證して獨覺菩提を得、恒に正しく獨覺菩提を證する智を起し及び實際を證して獨覺菩提を得る法を稱揚し、歡喜して獨覺菩提を證する智を起し及び實際を證して獨覺菩提を得る者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら菩薩の正性離生位に入り亦た他に勸めて菩薩の正性離生位に入らしめ恒に正しく菩薩の正性離生位に入る法を稱揚し、歡喜して菩薩の正性離位に入る者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら佛土を嚴淨し有情を成熟し、亦た他に勸めて佛土を嚴淨し、有情を成熟せしめ、恒に正しく佛土を嚴淨し有情を成熟する法を稱揚し、歡喜して佛土を嚴淨し有情を成熟する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら菩薩神通を起し亦た他に敎へて菩薩神通を起さしめ恒に正しく菩薩神通を起す法を稱揚し、歡喜して菩薩神通を起す者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら一切智乃至[二]一切相智を起し亦た他に敎へて一切智乃至一切相智を起さしめ恒に正しく一切智乃至一切相智を起す法を稱揚し、歡喜し

[一] 證する智を起し而かも實際を證せず。聖果の斷惑あり智見あるものその果地に住せず小果に入らざるなり。

を稱揚し、歡喜して空解脫乃至無願解脫門を修する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら極喜地、(く)離垢地發光地焰慧地極難勝地現前地遠行地不動地善慧地法雲地を圓滿し亦た他を勸めて極喜地乃(く)至法雲地を圓滿せしめ恒に正しく極喜地乃至法雲地を圓滿する法を稱揚し、歡喜して極喜地乃至法雲地を圓滿する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら五眼、六神道を圓滿し亦た他を勸めて五眼、六神道を圓滿せしめ恒に正しく五眼、六神道を圓滿する法を稱揚し、歡喜して五眼、六神道を圓滿する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら三摩地門、陀羅尼門を圓滿し亦た他に勸めて三摩地門、陀羅尼門を圓滿せしめ恒に正しく三摩地門、陀羅尼門を圓滿する法を稱揚し、歡喜して三摩地門、陀羅尼門を圓滿する者を讃歎すべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら佛の十力乃(七)至十八佛不共法を圓滿し亦た他に勸めて佛の十力乃至十八佛不共法を圓滿せしめ恒に正しく佛の十力乃至十八佛不共法を圓滿する法を稱揚し、歡喜して佛の十力乃至十八佛不共法を圓滿する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら[九]順逆に十二支緣起を觀じ亦た他に勸めて順逆に十二支緣起を觀ぜしめ恒に正しく順逆に十二支緣起を觀ずる法を稱揚し、歡喜して順逆に十二支緣起を觀ずる者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に[一〇]自ら苦を知り集を斷じ滅を證し道を修し亦た他に勸めて苦を知り集を斷じ滅を證し道を修せしめ恒に正しく苦を知り集を斷じ滅を證し道を修する法を稱揚し、歡喜して苦を知り集を斷じ滅を證し道を修する者を讃歎すべし。

（く）以下十地を略する時は符號（く）を傍付し極喜地乃至法雲地とすること五蘊等の如し。

【九】順逆に十二支緣起を觀じ。十二因緣の順逆二觀を云ふ。即ち無明、行、識乃至老死と觀ずるを順觀となし、老死より有乃至無明と觀ずるを逆觀となす、逆觀は即ち果より因を探るなり。

【一〇】自ら苦を知り。四諦に就て自行化他し、その法を尙び行者を讃することを說く。痛苦の自覺が斷惑の根本なり。

蜜多を圓滿する者を讃歎すべし。應に自ら淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿し亦た他に勸めて淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿せしめ恒に正しく淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿する法を稱揚し、歡喜して淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら內空乃(わ)至無性自性空に住し亦た他に勸めて內空乃至無性自性空に住せしめ恒に正しく內空乃至無性自性空に住する法を稱揚し、歡喜して內空乃至無性自性空に住する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら眞如乃(か)至不思議界に住し亦た他に勸めて眞如乃至不思議界に住せしめ恒に正しく眞如乃至不思議界に住する法を稱揚し、歡喜して眞如乃至不思議界に住する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら四念住乃(よ)至八聖道支に住し亦た他に勸めて四念住乃至八聖道支に住せしめ恒に正しく四念住乃至八聖道支を修する法を稱揚し、歡喜して四念住乃至八聖道支を修する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら苦聖諦乃(た)至道聖諦に住し亦た他に勸めて苦聖諦乃至道聖諦に住せしめ恒に正しく苦聖諦乃至道聖諦に住する法を稱揚し、歡喜して苦聖諦乃至道聖諦に住する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら八解脫乃(れ)至十遍處を修し亦た他に勸めて八解脫乃至十遍處を修せしめ恒に正しく八解脫乃至十遍處を修する法を稱揚し、歡喜して八解脫乃至十遍處を修する者を讃歎すべし。

善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら空解脫乃(そ)至無願解脫門を修し亦た他を勸めて空解脫乃至無願解脫門を修せしめ、恒に正しく自ら空解脫門乃至無願解脫門を修する法

(わ)　六度の如く內空以下も分說すべきを今略を簡び本文の如く略す。

讃歎すべし。應に自ら[四]麁惡語、[五]離間語、[六]雜穢語を離れ亦た他に勸めて麁惡語離間語雜穢語を離れしめ恒に正しく麁惡語離間語雜穢語を離るる法を稱揚し、歡喜して麁惡語離間語雜穢語を離るる者を讃歎すべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら貪欲を離れ亦た他に勸めて貪欲を離れしめ恒に正しく貪欲を離るる法を稱揚し、歡喜して貪欲を離るる者を讃歎すべし。應に自ら瞋恚邪見を離れ亦た他に勸めて瞋恚邪見を離れしめ恒に正しく瞋恚邪見を離るる法を稱揚し、歡喜して瞋恚邪見を離るる者を讃歎すべし。[七]善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら初靜慮を修し亦た他に勸めて初靜慮を修せしめ恒に正しく初靜慮を修する法を稱揚し、歡喜して初靜慮を修する者を讃歎すべし。應に自ら第二第三第四靜慮を修し亦た他を勸めて第二第三第四靜慮を修せしめ恒に正しく第二第三第四靜慮を修する法を稱揚し、歡喜して第二第三第四靜慮を修する者を讃歎すべし。善現若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら慈無量を修し亦た他に勸めて慈無量を修せしめ恒に正しく慈無量を修する法を稱揚し、歡喜して慈無量を修する者を讃歎すべし。應に自ら悲喜捨無量を修し亦た他を勸めて悲喜捨無量を修せしめ恒に正しく悲喜捨無量を修する法を稱揚し、歡喜して悲喜捨無量を修する者を讃歎すべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら空無邊處定を修し亦た他に勸めて空無邊處定を修せしめ恒に正しく空無邊處定を修する法を稱揚し、歡喜して空無邊處定を修する者を讃歎すべし。應に自ら識無邊處無所有處非想非非想處定を修し亦た他に勸めて識無邊處無所有處非想非非想處定を修せしめ恒に正しく識無邊處無所有處非想非非想處定を修する法を稱揚し、歡喜して識無邊處無所有處非想非非想處定を修する者を讃歎すべし。

[八]善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら布施波羅蜜多を圓滿し亦た他に勸めて布施波羅蜜多を圓滿せしめ恒に正しく布施波羅蜜多を圓滿するを法を稱揚し、歡喜して布施波羅

【四】麁惡語。惡口なり。十惡業の一、惡を以て他を誹謗するを言語なり。
【五】離間語。兩舌なり。十惡業の一。甲乙二人の親和を離間する言語なり。
【六】雜穢語。綺語なり。十惡業の一、一切婬意を含む不正の言詞なり。
【七】四靜慮、四無量、四無色の離欲法を陀く。
【八】次に菩薩の無上菩提を得るに圓滿すべき六波羅蜜多等を明す。

に於て無礙心を起すべく、有礙心を起すべからず。當に一切有情に於て無礙心を以て與に語るべし、有礙心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て父母の如く兄弟の如く姉妹の如く男女の如く親族の如き心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て朋友心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て親教師の如く軌範師の如く弟子の如く同學の如き心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て預流一來不還阿羅漢の如き心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て獨覺の如き心を起すべし、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て菩薩摩訶薩の如き心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て如來應正等覺の如き心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て供養恭敬尊重讃歎すべき心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て救濟憐愍覆護すべき心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て畢竟空無所有不可得の心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。當に一切有情に於て空無相無願心を起すべく、亦た此の心を以て共れと語るべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば無所得を以て方便と爲し當に此に於て住すべし。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら生命を害するを離れ亦た他に勸めて生命を害するを離れしめ、恒に正しく生命を害するを離るる法を稱揚し、歡喜して生命を害するを離るる者を讃歎すべし。應に自ら[三]不與取の欲邪行を離れ亦た他に勸めて不與取の欲邪行を離れしめ、恒に正しく不與取の欲邪行を離るる法を稱揚し、歡喜して不與取の欲邪行を離るる者を讃歎すべし。善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば應に自ら虚誑語を離れ亦た他に勸めて虚誑語を離れしめ恒に正しく虚誑語を離るる法を稱揚し、歡喜して虚誑語を離るる者を

【三】不與取。偸盗なり。他の與へざるを取るが故にかく云ふ。

初分菩薩住品第四十八之一

[1]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば當に何に於て住すべく、云何が住すべきやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提を得んと欲せば當に一切有情に於て[2]平等心に住すべく、不平等心に住すべからず。當に一切有情に於て平等心を起すべく、不平等心を起すべからず。當に一切有情に於て平等心を以て與に語るべく、不平等心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て大慈心を起すべく、瞋恚心を起すべからず。當に一切有情に於て大慈心を以て與に語るべく、瞋恚心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て大悲心を起すべく、惱害心を起すべからず。當に一切有情に於て大悲心を以て與に語るべく、惱害心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て大喜心を起すべく、嫉妬心を起すべからず。當に一切有情に於て大喜心を以て與に語るべく、嫉妬心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て大捨心を起すべく、偏黨心を起すべからず。當に一切有情に於て大捨心を以て與に語るべし、偏黨心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て恭敬心を起すべく、憍慢心を起すべからず。當に一切有情に於て恭敬心を以て與に語るべく、憍慢心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て質直心を起すべく、諂詐心を起すべからず。當に一切有情に於て質直心を以て與に語るべく、諂詐心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て調柔心を起すべく、剛彊心を起すべからず。當に一切有情に於て調柔心を以て與に語るべく、剛彊心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て利益心を起すべく、不利益心を起すべからず。當に一切有情に於て利益心を以て與に語るべく、不利益心を以て與に語るべからず。當に一切有情に於て安樂心を起すべく、不安樂心を起すべからず。當に一切有情に於て安樂心を以て與に語るべく、不安樂心を以て與に語るべからず。當に一切有情

【一】佛無上菩提を得ん爲めの行を說く。

【二】平等心。空慧眼による平等心を云ふなり。

菩薩は是れ聲聞乘、是の如き菩薩は是れ獨覺乘、是の如き菩薩は是れ正等覺乘なり。是の如きを三と爲し、是の如きを一と爲すと。舍利子、若し菩薩摩訶薩、一切法に於て都て所得無く、一切法眞如に於ても亦た善能く信解して都て所得無く、諸の菩薩に於ても亦た所得無く、佛の無上正等菩提に於ても亦た所得無くんば、當に知るべし、是れを眞の菩薩摩訶薩と爲すと。舍利子、若し菩薩摩訶薩、是の如き諸法の眞如不可得相を說くを聞きて其の心驚かず恐れず怖かず疑はず悔いず退せず沒せずんば是の菩薩摩訶薩は疾く無上正等菩提を得るなり。

[四]爾の時佛、具壽善現に告げて言はく、善現、善哉善哉、汝今能く諸の菩薩摩訶薩の爲に善く法要を說く。汝の所說は皆是れ如來威神の加被にして汝の自力に非ず。善現、若し菩薩摩訶薩、法の眞如不可得相に於て深く信解を生じて一切法の差別相無きを知り、是の如き諸法の眞如不可得相を說くを聞き其の心驚かず恐れず怖かず疑はず悔いず退せず沒せずんば是の菩薩摩訶薩は疾く無上正等菩提を得と。爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩此の法を成就せば疾く阿耨多羅三藐三菩提を得るやと。佛言はく、舍利子、是の如し是の如し、若し菩薩摩訶薩、此の法を成就せば疾く無上正等菩提を得て聲聞及び獨覺地に墮ちずと。

【四】佛善現の佛力の加被によりて無上菩提道を說けるを讃す。

爾の時具壽善現、舍利子に語つて言はく、若し一切法諦の故に住の故に都て所有無く皆得可からずんば何等の法無上正等菩提に於て退屈有る可きやと。[一]時に舍利子、善現に語つて言はく、仁者の所說の如くんば無生法忍中都て法有ること無く亦た菩薩の無上正等菩提に於て退屈有りと說く可き無し。若し爾れば何が故ぞ佛は、三種の菩薩乘に住する補特伽羅を說きたまふや。但だ一をのみ說くべきならん。又た仁の說の如くんば三乘の菩薩の差別無かるべく但だ一正等覺乘のみ有るべしと。[二]時に具壽滿慈子、舍利子に語つて言はく、應に善現に問ふべし。一菩薩乘有るを許すと爲すや不や。然かも後難かる可し、三乘は差別を建立する無かるべく但だ一正等覺乘のみ有るべしと。時に舍利子、善現に問ふて言はく、一菩薩乘有るを許すと爲すや不やと。[三]爾の時善現、舍利子に語つて言はく、舍利子、意に於て云何、一切法眞如の中に三種の菩薩乘に住する補特伽羅の差別相有りと爲すや不や、謂ゆる無上正等菩提に於て定めて退屈有り、定めて退屈無く及び不定なる耶と。舍利子言はく、不なり善現と。舍利子、意に於て云何、一切法眞如の中三乘の菩薩異り有りと爲すや不や、謂ゆる聲聞乘の菩薩、獨覺乘の菩薩、正等覺乘の菩薩なる耶と。舍利子言はく、不なり善現と。舍利子、意に於て云何、一切法眞如の中實に一定して退屈無き菩薩乘有りと爲すや不やと。舍利子言はく、不なり善現と。舍利子、意に於て云何、一切法眞如の中實に一正等覺乘の諸の菩薩有りと爲すや不やと。舍利子言はく、不なり善現と。舍利子、意に於て云何、諸法の眞如は一有り二有り三相有りや不やと。舍利子言はく、不なり善現と。舍利子、意に於て云何、一切法眞如の中一法或は一菩薩有りて得可しと爲すや不やと。舍利子言はく、不なり善現と。爾の時善現、舍利子に語つて言はく、若し一切法諦の故に住の故に都て所有無く皆得可からずんば、云何が舍利子、是の念言を作す可けん。是の如き菩薩は佛の無上正等菩提に於て定めて退屈有り、是の如き菩薩は佛の無上正等菩提に於て定めて退屈無し、是の如き菩薩は佛の無上正等菩提に於て不決定なりと說く。是の如き

【一】舍利子三乘不可得を說く。

【二】舍利子一乘なるべしと說けるを更に一乘も無しと說く。

【三】善現眞如相の四句を以て三乘を破す。

言さく、(d)舍利子、意に於て云何。色は無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、[一]不なり善現と。舍利子、意に於て云何、受想行識は無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、[二]不なり善現と。舍利子、意に於て云何、色を離れて法有り無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、[三]不なり善現と。舍利子、意に於て云何、受想行識を離れて法有り無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、不なり善現と。舍利子、意に於て云何、色眞如は無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、[三]不なり善現と。舍利子、意に於て云何、受想行識眞如は無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、不なり善現と。舍利子、意に於て云何、色眞如を離れて法有り無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、[四]不なり善現と。舍利子、意に於て云何、受想行識眞如を離れて法有り無上正等菩提に於て退屈有りや不やと。舍利子言はく、不なり善現と。

(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死。

卷の第三百二十四

初分眞如品第四十七之七

(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼、六神通。(d)三摩地門、陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(d)一切智乃至一切相智。

(d)「舍利子於意云何色於無上正等菩提有退屈不…………舍利子於意云何離受想行識眞如有法於無上正等菩提有退屈不舍利子言不也善現」右も「色乃至識」の所に次下の諸法を入れて略すること(c)の場合の如し。

【一】不なり。色等の法畢竟空なれば退屈無しと云ふなり。

【二】不なり。色等を離れて法無ければ無上菩提に於て退屈なしと云ふなり。

【三】不なり。色等の眞如も無二相無分別の故に退屈なしと云ふなり。

【四】不なり。色等を破し已れば眞如も亦空なり、退屈なければ不と云ふなり。

(d) 前卷と同意。

提は極めて信解し易く甚だ證得し易し。諸の菩薩摩訶薩、中に於て信解し難く及び證得し難しと謂ふべからず。所以は何ん。

(c)世尊、色は色の自性空、受想行識は受想行識の自性空なればなり。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼、六神通。(c)三摩地門、陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切智乃至一切相智。

世尊、若し菩薩摩訶薩、是の如き自性空に於て深く信解を生じ無倒に證知せば便ち無上正等菩提を得。此の緣に由るが故に我れ無上正等菩提は信解し難きに非ず證得し難きに非ずと說くと。

八時に舍利子、善現に謂つて言はく、具壽善現、是の因緣に由りて諸佛の無上正等菩提は極めて信解し難く甚だ證得し難し。所以は何ん、諸の菩薩摩訶薩、一切法を觀ずるに都て所有無く皆虛空の如し。譬へば虛空の是の念を作さざるが如し、我れ當に信解して速に無上正等菩提を信解すべしと。諸の菩薩摩訶薩も亦た是の如く九是の念を作さざるべし。我れ當に信解して速に無上正等菩提を證すべしと。何を以ての故に、善現、諸法は皆空と虛空と等しければなり。諸の菩薩摩訶薩は要ず一切法と虛空と等しと信解し及び能く證知して乃ち無上正等菩提を得。善現、若し菩薩摩訶薩、一切法は皆虛空と等しと信解し便ち無上正等菩提に於て信解を生じ易く證得し易くば則ち殑伽沙等の菩薩摩訶薩有りて大功德の鎧を擐て無上正等菩提を發趣するに其の中間に於て退屈有る可からず。故に知りぬ無上正等菩提は極めて信解し難く甚だ證得し難しと。一〇爾の時具壽善現、尊者舍利子に白して

(c)「世尊色色自性空受想行識受想行識自性空」右も(b)の場合の如くして略す。

【八】舍利子善現の說を反駁して無上菩提の難解難得を說く。

【九】是の念。發菩提心なり。空ならば發菩提心なきも、發菩提心あるは空ならずと云ふなり。

【一〇】善現舍利子に諸法退屈無きを說く。

く甚だ證得し易し。所以は何ん、若し能く、法の能證無く法の所證無く證處有ること無く證時有ること無く亦た此れに由りて所證有ること無しと信解せば則ち能く諸佛の無上正等菩提を信解すればなり。若し法の能證無く法の所證無く證處有ること無く證時有ること無く亦た此れに由りて證する所有ること無しと證知する有らば、則ち能く所求の無上正等菩提を證得すればなり。何を以ての故に、世尊、一切法は皆畢竟空なるを以て畢竟空中都て法の能證と名づく可く所證と名づく可く證處と名づく可く證時と名づく可く此れに由りて證する所有りと名づく可き有ること無ければなり。所以は何ん、諸法は皆空にして若しは增若しは減都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の修する所の布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の住する所の內空乃[二]至無性自性空は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の住する所の眞如乃[三]至不思議界は都て所有無く得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の修する所の四念住乃[四]至八聖道支は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の住する所の苦集滅道聖諦は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の修する所の四靜慮四無量四無色定は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の修する所の八解脫乃[五]至十遍處は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の修する所の空無相無願解脫門は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の學する所の五眼六神通は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の學する所の三摩地門陀羅尼門は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の學する所の佛の十力乃[六]至十八佛不共法は都て所有無く皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の學する所の一切智道相智一切相智は都て所有無し皆得可からず。世尊、諸の菩薩摩訶薩の觀する所の諸法の若しは有色若しは無色若しは有見若しは無見若しは有對若しは無對若しは有漏若しは無漏若しは有爲若しは無爲は都て所有無く皆得可からざればなり。世尊、是の因緣を以て我れ佛の所說の義趣を思惟するに諸佛の無上正等菩

共法に於て皆相を取るが故に。修行する所の一切智乃至一切相智に於て皆相を取るが故なり。世尊、此の因緣に由りて是の菩薩乘の諸の善男子善女人等は皆無上正等菩提に於て或は得、得ず。世尊、此の因緣に由りて若し菩薩摩訶薩無上正等菩提を證せんと欲せば決定して般若波羅蜜多方便善巧を遠離すべからず。(b)世尊、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多方便善巧に安住し無所得を用て方便と爲し無相倶行心を以て應に布施波羅蜜多を修すべく應に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修すべし。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼、六神通。(b)三摩地門、陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)一切智乃至一切相智。世尊、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多方便善巧に安住し、無所得を用て方便と爲し無相倶行心を以て是の如き一切の佛法に安住せば必ず無上正等菩提を得と。

六 爾の時欲色界の諸の天子、佛に白して言さく、世尊、諸佛の無上正等菩提は極めて信解し難く甚だ證得し難し。所以は何ん、諸の菩薩摩訶薩は一切法の自相共相に於て皆應に證知して方に能く求むる所の無上正等菩提を獲得すべく而かも諸の菩薩の知る所の法相都て所有無く皆得可からざればなりと。爾の時佛、諸の天子に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸佛の無上正等菩提は極めて信解し難く甚だ得可きこと難し。天子當に知るべし、我れも亦た一切の法相を現覺し無上正等菩提を證得せるも而かも都て勝義法相の說く可きを得ず。名づけて此れは是れ能證、此れは是れ所證、此れは是れ證處、此れは是れ證時と爲し、及び此れに由りて證すと爲すと說くべし。何を以ての故に、諸の天子、一切法畢竟淨なるを以ての故なり、有爲無爲畢竟空なるが故なり。

七 爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛の所說の如く諸佛の無上正等菩提は極めて信解し難く甚だ證得し難し。我れ佛の所說の義を思惟せる如くんば諸佛の無上正等菩提は極めて信解し易

(b)「世尊是菩薩摩訶薩安住般若波羅蜜多方便善巧…………應修布施波羅蜜多應修淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下所出の諸法を入るれば他は皆同じ故に今之を符號(b)にて略し以下諸法のみ略出す但し內空眞如苦聖諦の三は「應修」とあるを「應住」と改むるものとす。

【六】無上菩提の難解難得の所以を明す。

【七】善現無上菩提の信解證得の易きを明す。

意處都て得可からず、若しは色處[ほ]乃至法處得可からず、若しは眼界[へ]乃至意界都て得可からず、若しは色界[と]乃至意界都て得可からず、若しは眼識界[ち]乃至意識界都て得可からず、若しは眼觸[り]乃至意觸都て得可からず、若しは眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受[ぬ]乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受都て得可からず、若しは地界[る]乃至識界都て得可からず、若しは無明[を]乃至老死都て得可からず、若しは布施波羅蜜多[わ]乃至般若波羅蜜多都て得可からず、若しは內空[か]乃至無性自性空都て得可からず、若しは眞如[よ]乃至不思議界都て得可からず、若しは四念住[た]乃至八聖道支都て得可からず、若しは苦聖諦[れ]乃至道聖諦都て得可からず、若しは四靜慮[そ]乃至四無色定都て得可からず、若しは八解脫[つ]乃至十遍處都て得可からず、若しは空解脫門[ね]乃至無願解脫門都て得可からず、若しは五眼、六神通都て得可からず、若は三摩地門、陀羅尼門都て得可からず、若しは佛の十力[な]乃至十八佛不共法都て得可からず、若しは預流果[ら]乃至阿羅漢果都て得可からず、若しは獨覺菩提都て得可からず、若しは一切智[む]乃至一切相智都て得可からず。

世尊、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて般若波羅蜜多方便善巧を遠離して無上正等菩提を求めば當に知るべし彼れ求むる所の無上正等菩提に於て或は得、得ずと。何を以ての故に、世尊、是の菩薩乘の諸の善男子善女人等は般若波羅蜜多方便善巧を遠離し、修行する所の布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に於て皆相を取るが故に。安住する所の內空[う]乃至無性自性空に於て皆相を取るが故に。安住する所の眞如[ゐ]乃至不思議界に於て皆相を取るが故に。安住する所の苦集滅道聖諦に於て皆相を取るが故に。修行する所の四念住[の]乃至八聖道支に於て皆相を取るが故に。修行する所の四靜慮[お]乃至四無色定に於て皆相を取るが故に。修行する所の八解脫[く]乃至十遍處に於て皆相を取るが故に。修行する所の空無相無願に於て皆相を取るが故に。修行する所の五眼六神通に於て皆相を取るが故に。修行する所の三摩地門陀羅尼門に於て皆相を取るが故に。修行する所の佛の十力[や]乃至十八佛不

巧力無きが故に種種修する所の善根を以て無上正等菩提に廻向すと雖も而かも聲聞或は獨覺地に住すればなり。

【四】舍利子、諸の菩薩有りて初發心より常に一切智智の心を遠離せずして布施淨戒安忍精進靜慮を勤修し般若波羅蜜多方便善巧を離れず、過去未來現在一切の如來應正等覺の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊を念ずと雖も而かも相を取らず、一切の空無相無願解脫門を修すと雖も亦た相を取らず、自他の種種の功德善根を念じ諸の有情と同じく共に無上正等菩提に廻向すと雖も亦た相を取らず。舍利子、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は聲聞及び獨覺地に住せず直に無上正等菩提に趣くと。何を以ての故に、舍利子、是の菩薩摩訶薩は初發心より乃ち究竟に至るまで常に能く一切智智の心を遠離せず、布施を修すと雖も而かも相を取らず淨戒安忍精進靜慮般若を修すと雖も亦た相を取らず、過去未來現在一切の如來應正等覺の所有る戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊を念ずと雖も亦た相を取らず、一切の菩薩道の空無相無願解脫門を修すと雖も亦た相を取らず。(a)舍利子、是の菩薩摩訶薩は方便善巧有るが故に離相心(りさうしん)を以て布施波羅蜜多を修行し離相心を以て淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行す。(a)內空(を)乃至無性自性空。(a)眞如(わ)乃至不思議界。(a)四念住(か)乃至八聖道支。(a)苦聖諦(よ)乃至道聖諦。(a)四靜慮(た)乃至四無色定。(a)八解脫(れ)乃至十遍處。(a)空解脫門(つ)乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)三摩地門、陀羅尼門。(a)佛の十力(ね)乃至十八佛不共法。(a)一切智(な)乃至一切相智。

【五】時に舍利子、佛に白して言さく、世尊、我れ佛の所說の義を解する如くんば、若し菩薩摩訶薩初發心より乃ち究竟に至るまで般若波羅蜜多を攝受して方便善巧力を離れずんば是の菩薩摩訶薩は必ず無上正等菩提に近づく。何を以ての故に、世尊、是の菩薩摩訶薩は初發心より乃ち究竟に至るまで都て少法も得可べき有るを見ざればなり。謂ゆる若しは能證若しは所證若しは證處若しは證時若しは此れに由りて證する都て得可からず、若しは色若しは受想行識都て得可からず、若しは眼處(ろ)乃至

【四】菩薩一切智智の心を遠離せず、不取著相及び方便力の故に能く無上菩提を得るを說く。

(a)「舍利子是菩薩摩訶薩有方便善巧故以離相心修行布施波羅蜜多以離相心修行淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故之を符號(a)にて略し以下の諸法のみ略出す但し「內空眞如」及び「苦聖諦」の三は「修行」の代りに「安住」の語を用ふるものとす。

【五】舍利子佛所說の義を復說す。

(ろ)五蘊の場合の如く分說すべきを略を簡びて今本文の如く略說す以下一切智迄然り。

羅三藐三菩提を得。舍利子、譬へば[二]鳥有り其の身長大にして百踰繕那或は復た二百乃至五百踰繕那量にして翅有ること無きが如し。是の鳥三十三天より身を投じて下贍部洲に趣き其の中道に於て便ち是の念を作さく、我れ[三]還つて三十三天に上らんと欲すと。舍利子、汝が意に於て云何、是の鳥能く三十三天に還るや不やと。舍利子言さく、不なり世尊と。佛言はく、舍利子、是の鳥中道にして或は是の願を作さん、贍部洲に至り當に我が身をして損する無し惱み無からしめんと。舍利子、汝が意に於て云何、是の鳥の願ふ所遂げ得可きや不やと。舍利子の言さく、不なり世尊、是の鳥此の贍部洲に至る時其の身決定して損する有り惱み有り或は命終を致し或は死の苦に近づかん。何を以ての故に、世尊、是の鳥身大なるに遠きより而かも墮ち翅有ること無きが故なりと。佛言はく、舍利子、是の如し是の如し、汝が所說の如し、舍利子、諸の菩薩有るも亦復た是の如し。殑伽沙數の大劫を經て布施淨戒安忍精進靜慮を勤修し亦た空無相無願解脫門を修し廣大の事を作し廣大の心を發し、無量無所攝受の微妙無上正等菩提を證せんと欲すと雖も而かも般若波羅蜜多無く方便善巧力を遠離するが故に便ち聲聞或は獨覺地に墮つ。何を以ての故に、舍利子、是の諸の菩薩は一切智智の心を遠離し、多劫を經て布施淨戒安忍精進靜慮を勤修し亦た空無相無願解脫門を修すと雖も而かも般若波羅蜜多無く亦た方便善巧力無きが故に遂に聲聞或は獨覺地に墮つればなり。舍利子、是の諸の菩薩は過去未來現在一切の如來應正等覺の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊を念じ恭敬供養し隨順して修行すると雖も而かも其の中に於て相を執取するが故に是の諸の如來應正等覺の戒蘊定蘊慧蘊解脫蘊解脫智見蘊の眞實功德を正解する能はず。舍利子、是の菩薩は佛の功德を正解する能はざるが故に菩薩道の空無相無願解脫門の聲を聞くと雖も而かも此の聲に依りて其の相を執取し相を執取し已つて無上正等菩提に廻向す。此の諸の菩薩は是の如く廻向するも無上正等菩提を得ずして聲聞或は獨覺地に住す。何を以ての故に、舍利子、是の諸の菩薩は般若波羅蜜多を遠離し及び方便善

【二】鳥有り等。鳥は菩薩、身長大は世々五度功德を集むる事、翅無しは般若及び方便力の無きを喩ふるなり。
【三】還つて三十三天に上らんと欲す。作佛心を喩ふるなり。

る時是の如き念を作さく、此れは是れ布施此れは是れ財物此れは是れ受者、我れ能く施を行ずと。淨戒を修する時是の如き念を作す、此れは是れ淨戒此れは是れ罪業此れは護る所の境、我れ能く持戒すと。安忍を修する時是の如き念を作す、此れは是れ安忍此れは是れ忍障此れは所忍の境、我れ能く安忍すと。精進を修する時是の如き念を作す、此れは是れ精進此れは是れ懈怠此れは是れ所爲、我れ能く精進すと。靜慮を修する時是の如き念を作す、此れは是れ靜慮此れは是れ散動此れは是れ所爲、我れ能く修定すと。彼れ般若波羅蜜多を離れ及び方便善巧力を離るゝが故に別異の想に依りて布施淨戒安忍精進靜慮の別異の行を行ず。別異の想別異の行に由るが故に菩薩の正性離生位に入るを得ず。菩薩の正性離生位に入るを得ざるに由るが故に預流果を得漸次に乃ち阿羅漢果に至る。舍利子、此の諸の菩薩は菩薩道の空無相無願解脫門有りと雖も而かも般若波羅蜜多及び方便善巧力を遠離するが故に[六]實際に於て證を作し聲聞果を取ると。

卷の第三百二十三

初分眞如品第四十七之六

[一]爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に諸の菩薩有りて空無相無願解脫門を修するも般若波羅蜜多を攝受せず方便善巧力無くば便ち實際を證するも聲聞果或は獨覺菩提を取り、諸の菩薩有りて空無相無願解脫門を修し般若波羅蜜多を攝受し方便善巧力有らば實際を證せずして無上正等菩提に趣くやと。佛言はく、舍利子、若し諸の菩薩、一切智智の心を遠離して空無相無願解脫門を修せば是の諸の菩薩は般若波羅蜜多を攝受せず方便善巧力無きが故に便ち實際を證するも聲聞果或は獨覺菩提を取る。若し諸の菩薩、一切智智の心を離れずして空無相無願解脫門を修せば是の諸の菩薩は般若波羅蜜多を攝受し方便善巧力有るが故に能く菩薩の正性離生位に入りて阿耨多

【六】實際に於て證を作し。有爲を受けずして無漏無爲に入り證せりとなすをいふ。

【一】菩薩無量劫の修行をなすと雖も般若及び方便力無ければ二乘に墮して無上菩提を得ざるを鳥の譬喩を以て明す。

(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(b)三摩地門・陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切智乃至一切相智。

佛言はく、舍利子、是の如し是の如し、汝が所說の如し。諸法の眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界は皆最も甚深なり。(c)舍利子、此の中色得可からず色眞如も亦た得可からず。何を以ての故に、此の中色すら尚ほ得可からず、況んや色眞如の得可き有らんをや。此の中受想行識得可からず、受想行識眞如も亦た得可からず。何を以ての故に、此の中受想行識すら尚ほ得可からず、況んや受想行識眞如の得可き有らんをや。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切智乃至一切相智。

此の眞如相を說く時衆中の萬二千の苾芻は諸漏永く盡き心解脫を得阿羅漢を成じ、五百の苾芻尼は遠塵離苦し諸法の中に於て淨法眼を生じ、五千の菩薩摩訶薩は無生法忍を得、六萬の菩薩は諸漏永く盡き心解脫を得阿羅漢を成ず。

〔四〕爾の時佛、舍利子に告げて言はく、此の六萬の菩薩は已に過去に於て五百の諸佛を親近して供養し、一一の佛所にて弘誓願を發し正信にして出家し、布施淨戒安忍精進靜慮を修すと雖も而かも〔五〕般若波羅蜜多を攝受せず亦た方便善巧力を攝受せざるが故に別異の想を起し別異の行を行じ布施を修す

(c)「舍利子此中色不可得……何以故此中受想行識尙不可得況有受想行識眞如可得」右も(b)の場合の如くして略す。

〔四〕菩薩の般若眞如相を聞き小果羅漢を得る所以は、五百佛に親近供養し五度を行ずるも般若方便無き故なるを明す。

〔五〕般若波羅蜜多を攝受せず等。般若無き故に有想に陷り、別法異想を見、全體度生の力とならずして自證自度となるなり。

(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)我、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切智乃至一切相智。天子當に知るべし。上座善現は有爲に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、有爲眞如に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、有爲を離れざるが故に如來に隨ひて生じ、有爲眞如を離れざるが故に如來に隨ひて生ずと。天子當に知るべし、上座善現は無爲に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、無爲眞如に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、無爲を離れざるが故に如來に隨ひて生じ、無爲眞如を離れざるが故に如來に隨ひて生ずと。何を以ての故に、諸の天子、是の一切法は都て所有無く諸の隨生者若しは所隨生は此れに由りて隨生し及び隨生する處皆得可からざればなりと。

[二] 爾の時具壽舍利子、佛に白して言さく、世尊、諸法の眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界は皆最も甚深なり。(b)世尊、此の中[三]色得可からず、色眞如も亦た得可からず。何を以ての故に、此の中色すら尙ほ得可からず、況んや色眞如の得可き有らんをや。此の中受想行識得可からず、受想行識眞如も亦た得可からず。何を以ての故に、此の中受想行識すら尙ほ得可からず、況んや受想行識眞如の得可き有らんをや。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。

【二】 舍利弗實相の諸法諸法如不可得なるを說くを印可して法益を明す。
(b)「世尊此中色不可得……………況有受想行識眞如可得」右も(a)の如くして略す。
【三】 色得べからず等。眼所見等を色法とし、此法の實相虛ならざるを色眞如として、共に不可得なるを云ふ。

所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼・六神通。(e)三摩地門・陀羅尼門。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切智乃至一切相智。諸の天子、菩薩摩訶薩は是の如き一切法の眞如平等を現證するが故に說いて如來應正等覺と名づく。上座善現は此の眞如に於て能く深く信解す。此れに由るが故に上座善現は如來に隨ひて生ずと說く。

卷の第三百二十二

初分眞如品第四十七之五

[一]是の如き眞如相を正說する時、此に於て三千大千世界六種に變動し東に踊き西に沒し、西に踊き東に沒し、南に踊き北に沒し、北に踊き南に沒し、中に踊き邊に沒し、邊に踊き中に沒す。時に欲色界の諸の天子復た天上の多揭羅香・多摩羅香・栴檀香末を以ち及び天上の嗢鉢羅華・鉢特摩華・拘某陀華・奔荼利華・美妙香華・美妙音華・大美妙音華を以て世尊及び善現の上に奉散して佛に白して言さく、甚だ奇なり世尊、未曾有なり、上座善現は眞如に由るが故に如來に隨ひて生ずと。爾の時善現、欲色界の諸の天子に告げて言はく、(a)天子當に知るべし、上座善現は色に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、色眞如に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、色を離れざるが故に如來に隨ひて生じ、色眞如を離れざるが故に如來に隨ひて生ず、受想行識に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、受想行識眞如に由らざるが故に如來に隨ひて生じ、受想行識を離れざるが故に如來に隨ひて生じ、受想行識眞如を離れざるが故に如來に隨ひて生ずと。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。

【一】眞如相を說くが故に天地六種に震動し諸天散華し更に隨生の生とすべきものなきを明す。

(a)「天子當知上座善現不由色故隨如來生…………不離受想行識眞如故隨如來生」右も前卷(e)の場合の如くして略す。

如は同一眞如にして二無く別無く造無く作無し。是の如き眞如は常眞如相にして時として眞如相に非ざること無し。常眞如相にして時として眞如相に非ざる無きを以ての故に二無く別無し。上座善現の眞如も亦た爾なり。此れに由るが故に上座善現を如來に隨ひて生ずと說く。復た次に如來の眞如は一切處に於て憶念無く分別無し。上座善現の眞如も亦た爾なり。一切處に於て憶念無く分別無し。此れに由るが故に上座善現を如來に隨ひて生ずと說く。復た次に如來の眞如は別無く異無く不可得なり。上座善現の眞如も亦た爾なり別無く異無く不可得なり。此れに由るが故に上座善現は如來に隨ひて生ずと說く。復た次に如來の眞如は一切法の眞如を離れず、[八]一切法の眞如は如來の眞如を離れず。是の如き眞如は常眞如相にして時として[九]眞如相に非ざること無し。上座善現の眞如も亦た爾なり。此れに由るが故に上座善現を如來に隨ひて生ずと說く。隨て生ずと說くと雖も而かも隨て生ずる所無し。善現の眞如は佛に異らざるが故に。[一〇]復た次に如來の眞如は過去に非ず未來に非ず現在に非ず、一切法の眞如も亦た過去に非ず未來に非ず現在に非ず、上座善現の眞如も亦た爾なり。此れに由るが故に上座善現は如來に隨ひて生ずと說く。

復た次に、過去眞如平等なるが故に如來眞如平等、如來眞如平等なるが故に過去眞如平等なり。未來眞如平等なるが故に如來眞如平等、如來眞如平等なるが故に未來眞如平等なり。現在眞如平等なるが故に如來眞如平等、如來眞如平等なるが故に現在眞如平等なり。若しは過去未來現在眞如平等、若しは如來眞如平等は同一眞如平等にして二無く別無し。(e)復た次に色眞如平等なるが故に如來眞如平等・如來眞如平等なるが故に色眞如平等なり、受想行識眞如平等なるが故に如來眞如平等、如來眞如平等なるが故に受想行識眞如平等なり。是の如く若しは色眞如平等、若しは受想行識眞如平等、若しは如來眞如平等は同一眞如平等にして二無く別無し。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる

【八】 一切法の眞如は等。一切法を正觀するもの如來なれば、一切法は因緣、如來は果報にして遠離せざるなり。

【九】 眞如相に非ざること無し。如來の故に常にして非眞如相の時なきなり。

【一〇】 眞如相は過現未の三世を超越するを明す。

(e)「復次色眞如平等故如來眞如平等……如是若色眞如平等若受想行識眞如平等若如來眞如平等同一眞如平等無二無別」

右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入して略すこと(d)の場合に同じ。

世尊、此の深妙の法は都て[五]足迹無し。何を以ての故に、(d)世尊、色の足迹得可からざるが故に受想行識の足迹得可からざるが故なり。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)三摩地門・陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切智乃至一切相智。

[六]時に欲色界の諸の天子復た佛に白して言さく、世尊、上座善現は如來に隨ひて佛の眞弟子を生ず。所以は何ん、上座善現の諸の所說の法は一切皆空と相應するが故なりと。[七]爾の時善現、欲色界の諸の天子に告げて言はく、汝諸の天子、我れを善現は如來に隨ひて佛の眞弟子を生ずと說く。云何が善現は如來に隨ひて生ずるや。謂ゆる如來の眞如に隨ひて生ずるが故なり。所以は何ん、如來の眞如は無來無去なればなり。上座善現の眞如も亦た爾なり無來無去なり。此れに由るが故に上座善現は如來に隨ひて生ずと說く。復た次に如來の眞如は卽ち一切法の眞如、一切法の眞如は卽ち如來の眞如なり。是の如き眞如は眞如性無く亦た不眞如性無し。上座善現の眞如も亦た爾なり。此れに由るが故に上座善現は如來に隨ひて生ずと說く。復た次に如來の眞如は常住を相と爲す。上座善現の眞如も亦た爾なり常住を相と爲す。此れに由るが故に上座善現は如來に隨ひて生ずと說く。復た次に如來の眞如は無變異無分別にして遍ねく諸法轉ず、上座善現の眞如も亦た爾なり無變異無分別にして遍ねく諸法轉ず。此れに由るが故に上座善現は如來に隨ひて生ずと說く。復た次に如來の眞如は罣礙せらるゝ無く一切法の眞如も亦た罣礙せらるゝ無し。若しは如來の眞如、若しは一切法の眞

【五】足迹無し。無住處なり、一切處不可得なればなり。(d)「世尊色足迹不可得故受想行識不可得故」右の文中「色乃至識」の所に次下の諸法を入れ略すること(c)の場合の如し。

【六】諸天善現を讃し、その能く畢竟空を事とし佛法に隨順するを明す。

【七】善現如來に隨順すとなす所以を具說す。卽ち一切法の眞如、如來の眞如、善現の眞如共に無二無別なりと說けり。

(c) 一切智乃至一切相智。

世尊、此の深妙の法は[二]無礙を以て相と爲す。何を以ての故に、世尊、虛空[三]平等性なるが故に、眞如平等性なるが故に、法界平等性なるが故に、法性平等性なるが故に、不虛妄性平等性なるが故に、不變異性平等性なるが故に、平等性平等性なるが故に、離生性平等性なるが故に、法定平等性なるが故に、法住平等性なるが故に、實際平等性なるが故に、虛空界平等性なるが故に、不思議界平等性なるが故に、空無相無願平等性なるが故に、無造無作平等性なるが故に、無染無淨平等性なるが故なり。

世尊、此の深妙の法は[四]無生無滅なり。何を以ての故に、世尊、色無生無滅なるが故に受想行識無生無滅なるが故に、世尊、眼處乃至意處無生無滅なるが故に、世尊、色處乃至法處無生無滅なるが故に、世尊、眼界乃至意界無生無滅なるが故に、世尊、色界乃至法界無生無滅なるが故に、世尊、眼識界乃至意識界無生無滅なるが故に、世尊、眼觸乃至意觸無生無滅なるが故に、世尊、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受無生無滅なるが故に、世尊、地界乃至識界無生無滅なるが故に、世尊、無明乃至老死無生無滅なるが故に、世尊、布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多無生無滅なるが故に、世尊、內空乃至無性自性空無生無滅なるが故に、世尊、眞如乃至不思議界無生無滅なるが故に、世尊、苦聖諦乃至道聖諦無生無滅なるが故に、世尊、四念住乃至八聖道支無生無滅なるが故に、世尊、四靜慮乃至四無色定無生無滅なるが故に、世尊、八解脫乃至十遍處無生無滅なるが故に、世尊、空解脫門乃至無願解脫門無生無滅なるが故に、世尊、五眼・六神通無生無滅なるが故に、世尊、三摩地門・陀羅尼門無生無滅なるが故に、世尊、佛の十力乃至十八佛不共法無生無滅なるが故に、世尊、預流果乃至阿羅漢果無生無滅なるが故に、世尊、獨覺菩提無生無滅なるが故に、世尊、一切智乃至一切相智無生無滅なるが故なり。

【二】無礙。般若能く一切諸法に自在に通達して礙り無きを云ふ。
【三】平等性。眞如なり。眞理の性は一切諸法に周遍して平等なればなり。
【四】無生無滅。一切法性は眞實空にして生滅無きを云ふ。(ろ) 眼處以下も五蘊の如く分說すべきを今簡を旨とし本文の如く略說す。

至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。

卷の第三百二十一

初分眞如品第四十七之四

(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切智乃至一切相智。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、此の深妙の法は一切法に隨順す。此の深妙の法は何等の一切法に隨順するや。(b)世尊、此の深妙の法は般若波羅蜜多に隨順し亦た靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多に隨順す。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(b)三摩地門・陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)一切智乃至一切相智。

世尊、此の深妙の法は都て礙有ること無し。此の深妙の法は何に於て礙無きや。(c)世尊、此の深妙の法は色に於て礙無く受想行識に於て礙無し。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。

(a) 前卷と同意。

【一】般若は一切法に隨順し無礙にして無生無滅無足迹なるを明す。

(b)「世尊此深妙法隨順般若波羅蜜多亦隨順靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同文なり故に之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ出す。

(c)「世尊此深妙法於色無礙於受想行識無礙」右も(b)の場合の如く略す但し六度はこの場合五蘊なり。

布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多は是れ我是れ我所、內空乃(わ)至無性自性空は是れ我是れ我所、眞如乃(か)至不思議界は是れ我是れ我所、四念住乃(そ)至八聖道支は是れ我是れ我所、苦聖諦乃(る)至道聖諦は是れ我是れ我所、四靜慮乃(た)至四無色定は是れ我是れ我所、八解脫乃(れ)至十遍處は是れ我是れ我所、空解脫門乃(つ)至無願解脫門は是れ我是れ我所、五眼・六神通は是れ我是れ我所、三摩地門・陀羅尼門は是れ我是れ我所、佛の十力乃(ね)至十八佛不共法は是れ我是れ我所、預流果乃(ら)至阿羅漢果は是れ我是れ我所、獨覺菩提は是れ我是れ我所、一切智乃(な)至一切相智は是れ我是れ我所なりと。

(a)諸の天子、若し菩薩色を攝取せんが爲の故に行じ色を棄捨せんが爲の故に行じ受想行識を攝取せんが爲の故に行じ、受想行識を棄捨せんが爲の故に行ぜば是の菩薩は般若波羅蜜多を修する能はず亦た靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修する能はず、是の菩薩は內空を證する能はず亦た外空乃(わ)至無性自性空を證する能はず、是の菩薩は眞如を證する能はず亦た法界乃(か)至不思議界を證する能はず、是の菩薩は四念住を修する能はず亦た四正斷乃(そ)至八聖道支を修する能はず、是の菩薩は苦聖諦を證する能はず亦た集滅道聖諦を證する能はず、是の菩薩は四靜慮を修する能はず亦た四無量四無色定を修する能はず、是の菩薩は八解脫を修する 能はず 亦た八勝處九次第定十遍處を修する 能はず、是の菩薩は空解脫門を修する能はず亦た無相無願解脫門を修する能はず、是の菩薩は五眼を修する能ばず亦た六神通を修する能はず、是の菩薩は三摩地門を修する能はず亦た陀羅尼門を修する能はず、是の菩薩は佛の十力を修する能はず亦た四無所畏乃(ね)至十八佛不共法を修する能はず、是の菩薩は一切智を修する能はず亦た道相智一切相智を修する能はざるなり。

(a)眼處乃(ろ)至意處。(a)色處乃(は)至法處。(a)眼界乃(む)至意界。(a)色界乃(う)至法界。(a)眼識界乃(る)至意識界。(a)眼觸乃(の)至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃(お)至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃(こ)至識界。(a)無明乃(を)至老死。(a)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(a)內空乃(わ)至無性自性空。(a)眞如乃(か)

【一】菩薩受捨あれば一切諸法を修證し得ざるを說く。
(a)「諸天子若菩薩爲攝取色故爲棄捨色故………是菩薩不能修一切智亦不能修道相智一切相智」右の文中初めの「色乃至識」のある所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じ語を反覆するのみなる故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

眼・六神通は是れ我是れ我所、三摩地門・陀羅尼門は是れ我是れ我所、佛の十力乃至十八佛不共法は是れ我是れ我所、預流果乃至阿羅漢果は是れ我是れ我所、獨覺菩提は是れ我是れ我所、一切智乃至一切相智は是れ我是れ我所なりと。

爾の時佛、諸の天子に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、(e)諸の天子、此の深妙の法は色を攝取せんが爲の故に說かず色を棄捨せんが爲の故に說かず受想行識を攝取せんが爲の故に說かず受想行識を攝取せんが爲の故に說かず。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼・六神通。(e)三摩地門・陀羅尼門。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切の佛法。

卷の第三百二十

初分眞如品第四十七之三

諸の天子、然かも世間の有情は多く攝取行を行じて我我所の執を起す、謂ゆる色は是れ我是れ我所、受想行識は是れ我是れ我所、眼處乃至意處は是れ我是れ我所、色處乃至法處は是れ我是れ我所、眼界乃至意界は是れ我是れ我所、色界乃至法界は是れ我是れ我所、眼識界乃至意識界は是れ我是れ我處、眼觸乃至意觸は是れ我是れ我所、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は是れ我是れ我所、地界乃至識界は是れ我是れ我所、無明乃至老死は是れ我是れ我所、

(e)「諸天子此深妙法不爲攝取色故說……………不爲棄捨受想行識故說」右も(d)の場合に同じく略す。

(ろ) 眼處以下も五蘊の場合の如く分說すべきを今略を備び本文の如くす。

聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切の佛法。

[五]時に欲色界の諸の天子、佛に白して言さく、世尊、此の所說の法は甚深微妙にして諸の世間卒かに能く信受するに非ず。(d)世尊、此の深妙の法は[六]色を攝取せんが爲の故に說かず色を棄捨せんが爲の故に說かず受想行識を攝取せんが爲の故に說かず受想行識を棄捨せんが爲の故に說かず。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)三摩地門・陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切の佛法。

[七]世尊、諸の世間の有情は多く[八]攝取行を行じて我我所の執を起す。謂ゆる色は是れ我是れ我所・受想行識は是れ我是れ我所、眼處乃至意處は是れ我是れ我所、色處乃至法處は是れ我是れ我所、眼界乃至意界は是れ我是れ我所、色界乃至法界は是れ我是れ我所、眼識界乃至意識界は是れ我是れ我所、眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受は是れ我是れ我所、地界乃至識界は是れ我是れ我所、無明乃至老死は是れ我是れ我所、布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多は是れ我是れ我所、內空乃至無性自性空は是れ我是れ我所、眞如乃至不思議界は是れ我是れ我所、四念住乃至八聖道支は是れ我是れ我所、苦聖諦乃至道聖諦は是れ我是れ我所、四靜慮乃至四無色定は是れ我是れ我所、八解脫乃至十遍處は是れ我是れ我所、空解脫門乃至無願解脫門は是れ我是れ我所、五

【五】般若の甚深なるは智者のみ能く解見する所にして一般世間有情は難見難解なりとす。
(d)「世尊此深妙法不爲攝取色故說…………不爲棄捨受想行識故說」右の文中「色乃至識」の所に次下の諸法を入るれば他は皆同じ故に之を符號(d)にて略しその諸法のみ略出す。
【六】色を攝取せんが爲等。受捨生滅あるは般若功德を修する能はざるを云ふ。
【七】有情我我所に執するの故に般若を得ざるを明す。
【八】攝取行。取著爲作なり。(ろ)眼處以下も五蘊の場合の如く分說すべきを簡を旨とし略說す。

に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(b)三摩地門、陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切智乃至一切相智。(b)諸佛の無上正等菩提。

諸の天子、我れ此の義を觀じ心恒に寂に趣き說法するを樂はざりしなり。所以は何ん、此の法甚深にして見難く覺り難く尋思す可からず、尋思の境を過ぎ微妙冲寂にして聰敏なる智者の能く知る所なるも諸の世間は卒に能く信受するに非ず。[二]謂ゆる深般若波羅蜜多は卽ち是れ如來應正等覺所證の無上正等菩提なればなり。諸の天子、是の如く無上正等菩提は[三]能證無く所證に非ず、證處無く證時無し。諸の天子、[四]此の法は深妙にして不二現行す諸の世間の能く比度する所に非ず。(c)諸の天子、虛空甚深なるが故に此の法甚深なり。眞如甚深なるが故に此の法甚深なり。法界甚深なるが故に此の法甚深なり。法性甚深なるが故に此の法甚深なり。不虛妄性甚深なるが故に此の法甚深なり。不變異性甚深なるが故に此の法甚深なり。平等性甚深なるが故に此の法甚深なり。離生性甚深なるが故に此の法甚深なり。法定甚深なるが故に此の法甚深なり。法住甚深なるが故に此の法甚深なり。實際甚深なるが故に此の法甚深なり。虛空界甚深なるが故に此の法甚深なり、不思議界甚深なるが故に此の法甚深なり。(c)無量無邊・無來無去・無生無滅・無染無淨・無知無得・無造無作。(c)我・有情・命者・生者・養者・士夫・補特伽羅・意生・儒童・作者・受者・知者・見者。(c)色乃至識。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦

【二】般若の甚深にして難見難解なるはあだかも成道の佛智の甚深難見なるが如しと喩ふるなり。
【三】能證等。成佛に人者時處などの分別無きを云ふなり。
【四】成佛の甚深卽諸法の甚深にして無二なるを云ふ。
(c)「諸天子虛空甚深故此法甚深……………不思議界甚深故此法甚深」右の文中「虛空眞如」等各につき同文を反覆すること本文の如し故に以下之を符號(c)にて略し只だ諸法のみ出す。

內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)四念住乃至八聖道支。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)五眼・六神通。(g)三摩地門・陀羅尼門。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)預流果乃至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切智乃至一切相智。(g)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百一十九

初分眞如品第四十七之二

爾の時世尊、欲色界の諸の天子に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し。(a)諸の天子、色は卽ち是れ一切智智、一切智智は卽ち是れ色、受想行識は卽ち是れ一切智智、一切智智は卽ち是れ受想行識なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切智乃至一切相智。(a)諸佛の無上正等菩提。

所以は何ん、(b)諸の天子、若しは色眞如若しは一切智智眞如若しは一切法眞如は皆一眞如にして二無く別無く亦た窮盡無く、若しは受想行識眞如若しは一切智智眞如若しは一切法眞如は一眞如にして二無く別無く亦た窮盡無ければなり。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸

【一】眞如一來の甚深を說く。

(a)「諸天子色卽是一切智智一切智智卽是色受想行識卽是一切智智一切智智卽是受想行識」右も前卷(g)の場合と同じく略す。

(b)「諸天子若色眞如若一切智智眞如若一切法眞如皆一眞如無二無別亦無窮盡若受想行識眞如若一切智智眞如若一切法眞如皆一眞如無二無別立無窮盡」右も(a)の場合と同じく略す。

初分眞如品第四十七之一

[一]爾の時欲色界の諸の天子各天上の多揭羅香[二]・多摩羅香[三]・栴檀香[四]末を持ち、復た天上の嗢鉢羅花・鉢特摩花・拘某陀花・奔荼利花・美妙香花・美妙音花・大美妙音花を持ちて遙に佛の上に散じ、佛所に來詣して雙足を頂禮し却て一面に住し白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は最も爲れ甚深にして見難く覺り難く尋思す可からず、尋思の境を超へ微妙冲寂にして聰敏なる知者は能く知る所なるも諸の世間は卒に能く信受するに非ず。即ち佛無上正等菩提、一切の如來應正等覺は此の般若波羅蜜多甚深の經の中に於て皆是の說を作す。(f)色は即ち是れ一切智智、一切智智は即ち是れ色、受想行識は即ち是れ一切智智、一切智智は即ち是れ受想行識なり。(f)眼處乃(ろ)至意處。(f)色處乃(は)至法處。(f)眼界乃(に)至意界。(f)色界乃(ほ)至法界。(f)眼識界乃(へ)至意識界。(f)眼觸乃(と)至意觸。(f)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃(ち)至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃(り)至識界。(f)無明乃(ぬ)至老死。(f)布施波羅蜜多乃(る)至般若波羅蜜多。(f)內空乃(を)至無性自性空。(f)眞如乃(わ)至不思議界。(f)四念住乃(か)至八聖道支。(f)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(f)四靜慮乃(た)至四無色定。(f)八解脫乃(れ)至十遍處。(f)空解脫門乃(そ)至無願解脫門。(f)五眼・六神通、(f)三摩地門・陀羅尼門。(f)佛の十力乃(つ)至十八佛不共法。(f)預流果乃(ね)至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切智乃(な)至一切相智。(f)諸佛の無上正等菩提。

所以は何ん、(g)若しは色眞如若しは一切智智眞如若しは一切法眞如は皆一眞如にして二無く別無く亦な窮盡無く、若しは受想行識眞如若しは一切智智眞如若しは一切法眞如は皆一眞如にして二無く別無く亦た窮盡無ければなり。(g)眼處乃(ろ)至意處。(g)色處乃(は)至法處。(g)眼界乃(に)至意界。(g)色界乃(ほ)至法界。(g)眼識界乃(へ)至意識界。(g)眼觸乃(と)至意觸。(g)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃(ち)至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(g)地界乃(り)至識界。(g)無明乃(ぬ)至老死。(g)布施波羅蜜多乃(る)至般若波羅蜜多。(g)

【一】般若の離見離解にして此法取著を離るゝを明す。

【二】多揭羅(Tagaraka)。香名なり。正しくは藥羅と云ひ、即ち零陵香也。

【三】多摩羅(Tamāla)。香草の名なり。藿葉香と云ふ。

【四】栴檀。具名栴檀娜(Candana)。香木の名。譯して與樂と云ふ、けだし療病藥なればなり。

(f)「色即是一切智智一切智智即是色受想行識即是一切智智一切智智即是受想行識」右も(e)の場合の如く略す。

(g)「若色眞如……………若受想行識眞如若一切智智眞如若一切法眞如皆一眞如無二無別亦無窮盡」右も(f)の場合の如く略す。

識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)空解脫門乃至無解脫門。(e)五眼・六神通。(e)三摩地門・陀羅尼門。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切智乃至一切相智。

所以は何ん、善現、是の菩薩摩訶薩の隨順し趣向して一切智智に臨入する所、[一]能作無く能壞無く[二]從來する所無く[三]所去の處無く亦た住する所無く無方無域・無數無量・無往無來なり。善現、是の如く一切智智は既に數量往來の得可き無く亦た能く證する無し。(c)善現、是の如く一切智智は色を以て證す可からず受想行識を以て證す可からず。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至意界。(c)色界乃至法界。(c)眼識界乃至意識界。(c)眼觸乃至意觸。(c)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四念住乃至八聖道支。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切智乃至一切相智。

何を以ての故に、(d)善現、[四]色は即ち是れ一切智智、受想行識は即ち是れ一切智智なればなり。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に縁ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に縁ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四念住乃至八聖道支。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)三摩地門・陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切智乃至一切相智。

所以は何ん、(e)善現、若しは色眞如若しは一切智智眞如若しは一切法眞如皆一眞如にして二無く別無く、若しは受想行識眞如若しは一切智智眞如若しは一切法眞如は皆一眞如にして二無く別無ければなり。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意

【一】能作無く能壞無く。色等の有爲作を超越し虛妄とするの故にかく云ふ。而して能作無ければ自ら能壞無きなり。

【二】從來する所無く。六度より果して來るともせざるなり。

【三】所去の處無く。別に佛法中に向て出入すとすべきものなし。

(c)「善現如是一切智智不可以色證不可以受想行識證」右も(b)の如く略す。

(d)「善現色卽是一切智智受想行識卽是一切智智」右も(c)の如く略す。

【四】色は即ち是れ一切智智。般若は一法も行ぜず得ざるが故に一色一香中道ならざるなく一切智智ならざるなきを云ふなり。

(e)「善現若色眞如…………若受想行識眞如若一切智智眞如若一切法眞如皆一眞如無二無別」右も(d)の場合の如く略す。

卷の第三百一十八

初分趣智品第四十六之三

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛の所說の如く、若し菩薩摩訶薩、相續して隨順し趣向して空無相無願虛空無所有無生無滅無染無淨眞如法界法性不虛妄性不變異性平等性離生性法定法住實際虛空界不思議界無造作幻夢響像光影陽焰變化事尋香城に臨入し深般若波羅蜜多を行ぜば是れを菩薩摩訶薩相續して隨順し趣向して一切智智に臨入し深般若波羅蜜多を行ずとは、(a)世尊、是の菩薩摩訶薩色を行ずと爲すや不や受想行識を行ずと爲すや不や。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至意界。(a)色界乃至法界。(a)眼識界乃至意識界。(a)眼觸乃至意觸。(a)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)四念住乃至八聖道支。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)三摩地門・陀羅尼門。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)一切智乃至一切相智。

佛言はく、(b)善現、是の菩薩摩訶薩は色を行ぜず受想行識を行ぜず。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至意界。(b)色界乃至法界。(b)眼識界乃至意識界。(b)眼觸乃至意觸。(b)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死。(b)布施波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)四念住乃至八聖道支。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(b)三摩地門・陀羅尼門。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)一切智乃至一切相智。

(a)「世尊是菩薩摩訶薩爲行色不爲行受想行識不」右を符號(い)にて略す「色乃至識」の所に次下の諸法を入るれば皆同じ文なる故。

(b)「善現是菩薩摩訶薩不行色不行受想行識」右も(a)の如く略す。

所と爲らず、瞋心の牽引する所と爲らず、癡心の牽引する所と爲らず、慢心の牽引する所と爲らず、種種の餘の雜染心の牽引する所と爲らず。善現、諸の不退轉の菩薩摩訶薩有りて、深般若波羅蜜多を行ぜば布施波羅蜜多を離れず淨戒波羅蜜多を離れず安忍波羅蜜多を離れず精進波羅蜜多を離れず靜慮波羅蜜多を離れず般若波羅蜜多を離れず。善現、諸の有ゆる不退轉の菩薩摩訶薩は是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞き其の心驚かず恐れず怖かず沈まず沒せず亦た退捨せず、深般若波羅蜜多に於て歡喜して樂聞し受持讀誦し究竟通利し繫念思惟し說の如く修行して曾て厭倦無し。善現當に知るべし、是の如き不退轉の菩薩摩訶薩は先世に已に甚深般若波羅蜜多の所有る義趣を聞きて受持讀誦し理の如く思惟せりと。何を以ての故に、善現、此の不退轉の菩薩摩訶薩は是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて其の心驚かず恐れず怖かず沈まず沒せず亦た退捨せず、深般若波羅蜜多に於て歡喜して樂聞し受持讀誦し究竟通利し繫念思惟し說の如く修行し厭倦無きに由るが故なり。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて其の心驚かず恐れず怖かず沈まず沒せず亦た退捨せずんば是の菩薩摩訶薩は云何が甚深般若波羅蜜多を修行するやと。[八]佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は相續して隨順し趣向して一切智智に臨入し應に是の如く深般若波羅蜜多を行ずることを作すべしと。世尊、是の菩薩摩訶薩は云何が相續して隨順に趣向して一切智智に臨入し深般若波羅蜜多を行ずるやと。(h)善現、若し菩薩摩訶薩相續して隨順し趣向して空に臨入し深般若波羅蜜多を行ぜば是れを菩薩摩訶薩相續して隨順し趣向して一切智智に臨入し深般若波羅蜜多を行ずと爲す。(h)無相。(h)無願。(h)虛空。(h)無所有。(h)無生無滅。(h)無染無淨。(h)眞如。(h)法界。(h)法性。(h)不虛妄性。(h)不變異性。(h)平等性。(h)離生性。(h)法定。(h)法住。(h)實際。(h)虛空界。(h)不思議界。(h)無造作。(h)幻。(h)夢。(h)響。(h)像。(h)光影。(h)陽焰。(h)變化事。(h)尋香城。

【八】菩薩未だ一切智智を得ざるも畢竟空に隨順する心を以て般若を行ずるを云ひ、而して空の如く畢竟無相無願虛空等も亦然りとなすなり。(h)「善現ォ菩薩摩訶薩相續隨順趣向臨入空行深般若波羅蜜多是爲菩薩摩訶薩相續隨順趣向臨入一切智智行深般若波羅蜜多」右の文中「臨入空」の「空」の代りに次下の諸法を挿入せば他語は皆同じ故に今之を符號(h)にて略し以下その諸法のみ出す。

を驗知すべし、若し菩薩摩訶薩、深般若波羅蜜多に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。善現、應に甚深靜慮波羅蜜多に依りて不退轉の菩薩摩訶薩を驗知すべし。若し菩薩摩訶薩、深靜慮波羅蜜多に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。善現、應に甚深精進波羅蜜多に依りて不退轉の菩薩摩訶薩を驗知すべし。若し菩薩摩訶薩、深精進波羅蜜多に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。善現、應に甚深安忍波羅蜜多に依りて不退轉の菩薩摩訶薩を驗知すべし。若し菩薩摩訶薩、深安忍波羅蜜多に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。善現、應に甚深淨戒波羅蜜多に依りて不退轉の菩薩摩訶薩を驗知すべし。若し菩薩摩訶薩、深淨戒波羅蜜多に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。善現、應に甚深布施波羅蜜多に依りて不退轉の菩薩摩訶薩を驗知すべし。若し菩薩摩訶薩、深布施波羅蜜多に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。(g)善現、應に內空に依りて不退轉の菩薩摩訶薩を驗知すべし。若し菩薩摩訶薩內空に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。善現、應に外空乃至無性自性空に依りて不退轉の菩薩摩訶薩を驗知すべし。若し菩薩摩訶薩外空乃至無性自性空に於て執著を生ぜずんば當に知るべし是れを不退轉の菩薩摩訶薩と爲すと。(g)眞如乃至不思議界。(g)四念住乃至八聖道支。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)五眼・六神通。(g)三摩地門・陀羅尼門。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)一切智乃至一切相智。

六 善現、諸の不退轉の菩薩摩訶薩有りて、深般若波羅蜜多を行ぜば七他語及び他の敎勅を觀じて以て眞要と爲さず。善現、諸の不退轉の菩薩摩訶薩有りて、深般若波羅蜜多を行ぜば但だ他を信じて所作有るに非ず。善現、諸の不退轉の菩薩摩訶薩有りて、深般若波羅蜜多を行ぜば貪心の牽引する

(g)「善現應依內空驗知不退轉菩薩摩訶薩……………應依外空內外空……………當知是爲不退轉菩薩摩訶薩」右の文中內空乃至無性自性空」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じ故に今之を符號(g)にて略し以下諸法のみ略出す。

【六】不退轉の菩薩般若に習熟せる相を明す。

【七】他語等。他語とは在家欲樂の不淨語、出家外道の邪見語をいひ、共に諸法實相に反するものなり。他の敎勅とは有爲の不實相を云ふ。

るなり。世尊、若し無攝受を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなり。世尊、若し[三]除遣を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなりと。佛言はく、善現、何の除遣を修するを般若波羅蜜多を修すと爲すやと。[四]善現答へて言はく、(e)世尊、除遣色を修する是れ般若波羅蜜多を修するなり。除遣受想行識を修する是れ般若波羅蜜多を修するなり。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至意界。(e)色界乃至法界。(e)眼識界乃至意識界。(e)眼觸乃至意觸。(e)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死。(e)我、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)四念住乃至八聖道支。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)五眼・六神通。(e)三摩地門・陀羅尼門。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(e)一切智乃至一切相智。

佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。(f)善現、除遣色を修する是れ般若波羅蜜多を修するなり、除遣受想行識を修する是れ般若波羅蜜多を修するなり。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至意界。(f)色界乃至法界。(f)眼識界乃至意識界。(f)眼觸乃至意觸。(f)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死。(f)我、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)四念住乃至八聖道支。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(f)三摩地門・陀羅尼門。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提(b)一切智乃至一切相智。

[五]爾の時佛、具壽善現に告げて言はく、善現、應に甚深般若波羅蜜多に依りて不退轉の菩薩摩訶薩

【三】除遣を修す。所觀に於て一切法常無く散壞すとなすを云ふ。

【四】除遣は染淨一切法なるを明す。(e)「世尊修除遣色是修般若波羅蜜多修除遣受想行識是修般若波羅蜜多」右の文中「色乃至識」の所に大下の諸法を入るれば他は皆同文なり故に之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す。(f)「善現修除遣色是修般若波羅蜜多修除遣受想行識是修般若波羅蜜多」右も(e)と同じく略す。

【五】般若行者の不退を知るは執著せざるにあるを說く。

しと謂はば聲聞獨覺の二地に墮ちず。世尊、若し菩薩摩訶薩の能く是の如き堅固の甲冑を擐て我れ當に一切有情を度して皆般涅槃を證得せしむべしと謂はば是の菩薩摩訶薩は無處無容にして當に二地の謂ゆる聲聞地及び獨覺地に墮つべし。所以は何ん、世尊、是の菩薩摩訶薩は有情を安立分限せずして是の如き堅固なる甲冑を擐ればなりと。佛言はく、善現、汝何の義を觀じて是の說を作すや、若し菩薩摩訶薩能く是の如き堅固なる甲冑を擐て深般若波羅蜜多を行ぜば聲聞獨覺の二地に墮ちずと。善現答へて言はく、世尊、是の菩薩摩訶薩は少分の有情を度脫せんが爲に而かも甲冑を擐るに非ず、亦た少分の智を求めんが爲に而かも甲冑を擐るに非ざるに由る。所以は何ん、世尊、是の菩薩摩訶薩は普ねく一切有情を救拔して般涅槃せしめんが爲に而かも甲冑を擐るなり。是の菩薩摩訶薩は但だ一切智智を求得せんが爲にのみ而かも甲冑を擐ればなり。此の因緣に由りて聲聞及び獨覺地に墮ちずと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、是の菩薩摩訶薩は少分の有情を度脫せんが爲に而かも甲冑を擐るに非ず亦た少分の智を求めんが爲に而かも甲冑を擐るに非ず。是の菩薩摩訶薩は然かも一切有情を救拔して般涅槃せしめんが爲に而かも甲冑を擐るなり。是の菩薩摩訶薩は但だ一切智智を求得せんが爲にのみ而かも甲冑を擐るなり。此の因緣に由りて是の菩薩摩訶薩は聲聞及び獨覺地に墮ちずと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は最も爲れ甚深なり。能く修する者無く修する所の法無く亦た修する處無く亦た此れに由りて修習を得る無し。所以は何ん、世尊此の般若波羅蜜多甚深の義の中には少分實法も能く修する者及び修する所の法若しは修習する處若しは此れに由りて修すと名づけ得可き有るに非ざればなり。世尊、若し虛空を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなり。世尊、若し[二]一切法を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなり。世尊、若し不實法を修せば是れ般若波羅蜜多を修するなり。世尊、若し無所有を修せば是れ般若波羅蜜多を修す

【二】一切法を修す。般若諸法を解して實に契ふを以て眞に一切を修することゝなるなり。

を作すと雖も而かも都て有情施設を見ずと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、是の菩薩摩訶薩は能く難事を爲す。謂ゆる是の如き堅固の甲冑を擐る、我れ當に一切有情を度脫して皆究竟涅槃を證得せしむべしと。有情に於て是の如き事を作すと雖も而かも都て有情施設を見ざるなり。復た次に(d)善現、是の菩薩摩訶薩の擐る所の甲冑は色に屬せず、何を以ての故に、色は畢竟無所有にして菩薩に非ず甲冑に非ざるが故に彼の甲冑は色に屬せずと說く。是の菩薩摩訶薩の擐る所の甲冑は受想行識に屬せず。何を以ての故に、受想行識は畢竟無所有にして菩薩に非ず甲冑に非ざるが故に彼の甲冑は受想行識に屬せずと說く。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至意界。(d)色界乃至法界。(d)眼識界乃至意識界。(d)眼觸乃至意觸。(d)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受乃至意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死。(d)我、有情命者生者養者士夫補特伽羅意生儒童作者受者知者見者。

卷の第三百一十七

初分趣智品第四十六之二

(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)四念住乃至八聖道支。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)五眼・六神通。(d)三摩地門・陀羅尼門。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切法。

〔一〕善現、是の菩薩摩訶薩甚深般若波羅蜜多を行ずるに能く是の如き堅固なる甲冑を擐て我れ當に一切有情を度して皆究竟涅槃を證得せしむべしと謂ふと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩の能く是の如き堅固なる甲冑を擐て我れ當に一切有情を度して皆般涅槃を證得せしむべ

(d)「善現是菩薩摩訶薩所擐甲冑不屬色…………受想行識畢竟無所有非菩薩非甲冑故說彼甲冑不屬受想行識」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同文なり故に今之を符號(d)にて略し以下諸法を略出するのみとす。

(d) 前卷と同意。

【一】 菩薩甲冑を擐る所以を明す。

初分趣智品第四十六之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、誰れか是の如き甚深般若波羅蜜多に於て能く信解を生ずるやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩久しく無上正等菩提に於て發意し趣求し精勤し修行し、已に曾て百千倶胝那庾多の佛を供養し諸佛の所に於て弘誓願を發し善根淳熟して無量の善友に攝受せらるるが故に乃ち是の如き甚深般若波羅蜜多に於て能く信解を生ずと。

具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩の能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て信解を生ずる者は何の性何の相何の狀何の貌あるやと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は貪瞋癡の性を調伏するを性と爲し、貪瞋癡の相を遠離するを相と爲し、貪瞋癡の狀を遠離するを狀と爲し、貪瞋癡の貌を遠離するを貌と爲す。復た次に善現、是の菩薩摩訶薩は貪無貪瞋無瞋癡無癡の性を調伏するを性と爲し、貪無貪瞋無瞋癡無癡の相を遠離するを相と爲し、貪無貪瞋無瞋癡無癡の狀を遠離するを狀と爲し、貪無貪瞋無瞋癡無癡の貌を遠離するを貌と爲す。善現、[二]若し菩薩摩訶薩是の如き性相狀貌を成就せば乃ち是の如き甚深般若波羅蜜多に於て能く信解を生ずと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩是の如き甚深般若波羅蜜多を信解せば當に何所にか趣くべきと。佛言はく、善現、是の菩薩摩訶薩は當に[三]一切智智に趣くべしと。具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩一切智智に趣かば能く一切有情の與に[四]歸趣する所と爲ると。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、若し菩薩摩訶薩能く此の甚深般若波羅蜜多を信解せば則ち能く一切智智に趣向す。若し能く一切智智に趣向せば是れ則ち能く一切有情の與に歸趣する所と爲るなりと。善現復た言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩は能く難事を爲す。謂ゆる是の如き堅固の甲冑を擐る、我れ當に一切有情を度脫して皆究竟涅槃を證得せしむべしと。有情に於て是の如き事

【一】甚深般若を信解するは久行純熟の三毒斷離せるものなるを明す。

【二】般若行者の無著心を以て一切智智に趣くを明す。

【三】一切智智に趣く。般若を修すれば諸法に障礙なし、然るに一切智智無障解脫の故にかく云ふなり。

【四】歸趣。般若を解する菩薩は無生の大悲を有すれば衆生の所歸趣となるなり。

眞如の中には趣非趣畢竟得可からざるが故なり。(a)法界。(a)法性。(a)不虛妄性。(a)不變異性。(a)平等性。(a)離生性。(a)法定。(a)法住。(a)實際。(a)虛空界。(a)不思議界。(a)不動。

(c)善現、一切法は皆色を以て趣と爲す。彼れ是の趣に於て超越す可からず。何を以ての故に、色すら尙ほ畢竟不可得なり、況んや趣非趣有らんをや。善現、一切法は皆受想行識を以て趣と爲す。彼れ是の趣に於て超越す可からず。何を以ての故に、受想行識すら尙ほ畢竟不可得なり。況んや趣非趣有らんをや。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界耳鼻舌身意界。(c)色界聲香味觸法界。(c)眼識界耳鼻舌身意識界。(c)眼觸耳鼻舌身意觸。(c)眼觸に緣ぜられて生ずる所の諸受耳鼻舌身意觸に緣ぜられて生ずる所の諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)四念住乃至八聖道支。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)空解脫門乃至無願解脫門、(c)五眼・六神通。(c)三摩地門・陀羅尼門。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提、獨覺。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)一切の菩薩摩訶薩。(c)諸佛の無上正等菩提。一切の如來應正等覺。(c)一切智乃至一切相智。是の如く善現、菩薩摩訶薩は世間の與に所趣と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと。

入るゝものとして符號(b)にて他の文を略し以下その諸法のみ出す。

(a)前揭(a)の場合に等しき故同符號にて略し以下亦た諸法のみ出す。

(c)「善現一切法皆以色爲趣……受想行識尙畢竟不可得況有趣非趣」

右は同文を「色」並に「受想行識」につき繰へすのみ故に以下はかく分說せず只だ「色乃至識」に相應すべき諸法を略出するに止め他は符號(c)を以て表はす。

以下左の如き法相を略す時は夫々の符號にて略す。

(む)眼界耳鼻舌身意界。

(う)色界聲香味觸法界。

(ゐ)眼識界耳鼻舌身意識界。

(の)眼觸耳鼻舌身意觸。

(お)眼觸爲緣所生諸受耳鼻舌身意觸爲緣所生諸受。

解脱門。(e)菩薩の十地。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法・恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(e)預流果乃至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。善現、是れを菩薩摩訶薩世間の與に所趣と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。

卷の第三百一十六

初分眞善友品第四十五之四

[一]所以は何ん、善現、[二]一切法は皆空を以て趣と爲せばなり。彼れ[三]是の趣に於て超越す可からず。何を以ての故に、空中趣非趣得可からさるが故なり。[四]善現、一切法は皆無相を以て趣と爲す。彼れ是の趣に於て超越す可からず。何を以ての故に、無相中趣非趣得可からさるが故なり。(a)善現、一切法は皆無願を以て趣と爲す。彼れ是の趣に於て超越す可からず。何を以ての故に、無願中趣非趣得可からざるが故なり。(a)無記無作。(a)無生無滅。(a)無染無淨。(a)無所有。(a)幻。(a)夢。(a)響。(a)像。(a)光影。(a)陽焰。(a)變化事。(a)尋香城。(a)無量無邊。(a)不與不取。(a)不擧不下。(a)無去無來。(a)無增無減。(a)不入不出。(a)不集不散。(a)不合不離。

(b)善現、一切法は皆我を以て趣と爲す。彼れ是の趣に於て超越す可からず。(b)何を以ての故に、我すら尚ほ畢竟無所有なり、況んや趣非趣の得可き有らんをや。(b)有情。(b)命者。(b)生者。(b)養者。(b)士夫。(b)補特伽羅。(b)意生。(b)儒童。(b)作者。(b)使作者。(b)受者。(b)使受者。(b)起者。(b)使起者。(b)知者。(b)見者。(b)常。(b)樂。(b)我。(b)淨。(b)無常。(b)苦。(b)無我。(b)不淨。(b)貪事。(b)瞋事。(b)癡事。(b)見所作事。

(a)善現、一切法は皆眞如を以て趣と爲す。彼れ是の趣に於て超越す可からず。何を以ての故に、

【一】所趣の義說の續き。
【二】一切法は皆空を以て趣と爲す。趣の爲に發心するは一切法趣空ならざるなきが故なり。
【三】是の趣に於て超越すべからず。是の空を超越するなきも空は偏無にあらず、不可得なるを云ふなり。
【四】以下空の如く無相無願等も亦然るを明せり。
(a)「善現一切法皆以無願爲趣彼於是趣不可超越何以故無願中趣非趣不可得故」右の文中「無願」の所に次下所出の諸法を挿入せば他は皆同文なり故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ出す。
(b)「善現一切法皆以我爲趣……況有趣非趣可得」右も「我」の所に次下の諸法を

乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。善現、是れを菩薩摩訶薩世間の與に將師と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。

[八]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の與に所趣と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩無上正等菩提を希求して(d)有情の爲に[九]色の虛空を以て所趣と爲し受想行識も亦た虛空を以て所趣と爲すを宣說し開示せんと欲し、(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。(e)諸の有情の爲に[一〇]色の非趣非不趣を宣說し開示す。何を以ての故に、色性空にして空中趣無く不趣無きを以ての故なり、受想行識も亦た非趣非不趣なり。何を以ての故に、受想行識性空にして空中趣無く不趣無きを以ての故なり。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。(e)舌界乃至諸受。(e)身界乃至諸受。(e)意界乃至諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多。(e)淨戒波羅蜜多。(e)安忍波羅蜜多。(e)精進波羅蜜多。(e)靜慮波羅蜜多。(e)般若波羅蜜多。(e)方便善巧波羅蜜多。(e)願波羅蜜多。(e)力波羅蜜多。(e)智波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願

【八】所趣となる義を明す。

(d)「欲爲有情宣說開示色以虛空爲所趣受想行識亦以虛空爲所趣」右も(c)の如くして略し以下法相のみ略出す。

【九】色虛空を以て所趣と爲す。諸相の究竟相は空にして色等終に空に歸するを云ふ。

(e)「爲諸有情宣說開示色非趣非不趣……何以故以受想行識性空空中無趣無不趣故」右も(d)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【一〇】色の非趣非不趣。色等皆和合假名にして實ならざれば趣不趣に依て空なり有なるに非ざるなり。

の黒暗を重ぬるを破らんが爲の故に、有情の無知瞖目を療して清朗ならしめんが爲の故に、一切愚冥の有情の與に照明と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩の與に光明と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。

〔四〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の與に燈炬と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は有情の爲に六種波羅蜜多及び〔五〕四攝事相應の經典の直實義趣を宣說せんと欲し方便教導し勸めて修學せしめ無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩世間の與に燈炬と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。〔六〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の與に導師と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するや。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩、邪道に趣向する有情をして四種の行ずべからざる處を行ずるを離れしめんと欲し、一道を說いて歸正せしめんが爲の故に、雜染者清淨を得んが爲の故に、愁惱者を歡悅を得んが爲の故に、憂苦者喜樂を得んが爲の故に、非理の有情理の如き法を證せんが爲の故に、流轉の有情般涅槃を得んが爲の故に、無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩世間の與に導師と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。〔七〕具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩世間の與に將師と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は無上正等菩提を希求して(c)有情の爲に色の無生無滅無染無淨受想行識の無生無滅無染無淨を宣說し開示せんと欲す。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力

〔四〕燈炬となる義を明す。

〔五〕四攝事。布施攝、愛語攝、利行攝、同事攝の四法を云ふ。

〔六〕導師となる義を明す。

〔七〕將師となる義を明す。

(c)「欲爲有情宣說開示色無生無滅無染無淨受想行識無生無滅無染無淨」右も(b)の場合の如くして略し以下諸法を略示するのみとす。

摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

善現、是れを菩薩摩訶薩の難事と爲す。謂ゆる一切法皆寂滅相なりと觀ずと雖も而かも心沈沒せずして是の念言を作す、我れ是の法に於て等覺を現じ已つて無上正等菩提を證得し、諸の有情の爲に是の如き寂滅微妙の法を宣說し開示せんと、菩薩摩訶薩、世間の究竟道と作らんと欲するが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。[二]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の與に洲渚と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、譬へば巨海大小の河中に高く顯れて居る可く周廻の水斷ずるを說いて洲渚と名づくるが如く、是の如く善現、(b)色の前後際斷じ受想行識の前後際斷じ、(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至諸受。(b)耳界乃(ほ)至諸受。(b)鼻界乃(へ)至諸受。(b)舌界乃(と)至諸受。(b)身界乃(ち)至諸受。(b)意界乃(り)至諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。諸佛の無上正等菩提の前際後際斷ず。善現、此の前際後際斷ずるに由るが故に一切法斷ず。善現、此の一切法の前後際斷ずれば即ち是れ寂滅、即ち是れ微妙、即ち是れ如實なり。謂ゆる空無所得道、斷愛盡無餘、離染永滅涅槃なり。善現、菩薩摩訶薩の求めて無上正等菩提を證し有情の爲に是の如き寂滅微妙の法を宣說し開示せんと欲する、善現、是れを菩薩摩訶薩、世間の與に洲渚と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。[三]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の與に光明と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩、長夜無明の𪇕卵に覆はるる有情

【二】洲渚となる義を明す。

(b)「色前後際斷受想行識前後際斷」右も(a)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【三】光明となる義を明す。

すべき。所以は何ん、(c)世尊、色究竟中是の如き分別有るに非ざればなり、謂ゆる此れは是れ色なりと。亦た受想行識究竟中是の如き分別有るに非ざればなり、謂ゆる此れは是れ受想行識なりと。(c)眼處[ろ]乃至意處。(c)色處[は]乃至法處。(c)眼界[に]乃至諸受。(c)耳界[ほ]乃至諸受。(c)鼻界[へ]乃至諸受。(c)舌界[と]乃至諸受。(c)身界[ち]乃至諸受。(c)意界[り]乃至諸受。(c)地界[ぬ]乃至識界。(c)無明[る]乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多[を]乃至般若波羅蜜多。(c)內空[わ]乃至無性自性空。(c)眞如[か]乃至不思議界。(c)苦聖諦[よ]乃至道聖諦。(c)四靜慮[た]乃至四無色定。(c)八解脫[れ]乃至十遍處。(c)四念住[そ]乃至八聖道支。(c)空解脫門[つ]乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力[ね]乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智[な]乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果[ら]乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百一十五

初分眞善友品第四十五之三

[一]佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。(a)善現、色究竟中是の如き分別無し、謂ゆる此れは是れ色なりと、受想行識究竟中亦た是の如き分別無し謂ゆる此れは是れ受想行識なりと。(a)眼處[ろ]乃至意處。(a)色處[は]乃至法處。(a)眼界[に]乃至諸受。(a)耳界[ほ]乃至諸受。(a)鼻界[へ]乃至諸受。(a)舌界[と]乃至諸受。(a)身界[ち]乃至諸受。(a)意界[り]乃至諸受。(a)地界[ぬ]乃至識界。(a)無明[る]乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多[を]乃至般若波羅蜜多。(a)內空[わ]乃至無性自性空。(a)眞如[か]乃至不思議界。(a)苦聖諦[よ]乃至道聖諦。(a)四靜慮[た]乃至四無色定。(a)八解脫[れ]乃至十遍處。(a)四念住[そ]乃至八聖道支。(a)空解脫門[つ]乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力[ね]乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智[な]乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果[ら]乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩

(c)「世尊非色究竟中有如是分別謂此是色亦非受想行識究竟中有如是分別謂此是受想行識」右も(b)の場合の如くして略し以下諸法のみ略示す。

【一】前卷に續きて究竟道となる等の義を說明す。(a)「善現色究竟中無如是分別謂此是色受想行識究竟中亦無如是分別謂此是受想行識」以下右も前卷(c)の如く諸法のみ略出す。

無滅なり。受想行識無滅なれば即ち受想行識不和合なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。善現、菩薩摩訶薩は有情の爲に一切法皆是の如く不和合相有りと說かんと欲し無上正等菩提を發趣すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の[二〇]究竟道と作らんと欲するが故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は無上正等菩提を發趣し有情の爲に是の如き法を說かんと欲す、(b)色究竟は即ち色に非ず受想行識究竟は即ち受想行識に非ず。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)流預果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、此の諸法の究竟相の如く一切の法相も亦た是の如しと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し一切の法相究竟相の如くならば云何が菩薩摩訶薩は一切法に於て應に[二一]等覺を現

【二〇】究竟道。諸法實相なり。

(b)「色究竟即非色受想行識究竟即非受想行識」右も(a)の場合の如くして略し以下諸法を略示す。

【二一】等覺。佛の悟りを云ふ、諸佛の覺悟は正直平等一如なればかく云ふなり。

爲に無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩、世間をして利益を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間をして安樂を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は憂苦愁惱を拔き有情を涅槃安隱の彼岸に置かんが爲に無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩、世間をして安樂を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は諸の世間を救拔せんと欲するが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は有情の生死の衆の苦を拔かんが爲に無上正等菩提を發趣し、菩提を得る時乃ち能く如實に斷苦の法を說く、有情聞き已つて三乘敎に依り漸次に修行して解脫を得。善現、是れを菩薩摩訶薩、諸の世間を救拔せんと欲するが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の與に歸依と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は一切の生法老法病法死法愁法歎法苦法憂法惱法の有情をして生老病死愁歎苦憂惱より解脫して[一八]無餘依般涅槃界に住せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩世間の與に歸依と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間の與に舍宅と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は有情の爲に一切法の皆和合せざるを說かんと欲して無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩、世間の與に舍宅と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。[一九]善現復た言さく、世尊、云何が一切法は皆和合せざるやと。佛言はく、(a)善現、色不和合なれば卽ち色相屬せず、色相屬せざれば卽ち色無生なり、色無生なれば卽ち色無滅なり、色無滅なれば卽ち色不和合なり。受想行識不和合なれば卽ち受想行識相屬せず、受想行識相屬せざれば卽ち受想行識無生なり。受想行識無生なれば卽ち受想行識

なる。

【一三】世間の與に導師と作る。衆生を引接導化するを云ふ。

【一四】世間の與に將帥と作る。一切法生滅染淨無きを說くなり。

【一五】世間の與に所趣と作る。所趣は所歸に同じ、一切法虛空を以て所趣となすなり。

【一六】次下前述の世間の義利乃至所趣に就いて一々說明を加ふ。

【一七】五趣の怖畏。五趣とは天、人、餓鬼、畜生、地獄の五道をいひ、衆生業因によりて趣き住むとなす。

【一八】無餘依般涅槃界。煩惱障を斷じ、五蘊假和合の身體も凡て滅して、灰身滅智したる所に現はるゝ涅槃の世界なり。

【一九】一切法不和合の理を細說す。

(a)「善現色不和合卽色不相屬………受想行識無滅卽受想行識不和合」

右の文中「色乃至識」の所に次下所出の諸法を入るれば他は皆同文なる故に之を符號(a)にて略し以下諸法を略出するのみとす。

響の如く像の如く光影の如く陽炎の如く變化事の如く尋香城の如く自性皆空なりと知ると雖も而かも[三]世間の義利を得んが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[四]世間をして利益を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[五]世間をして安樂を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、諸の[六]世間を救拔せんと欲するが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[七]世間の與に歸依と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[八]世間の與に舍宅と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[九]世間の究竟道と作らんと欲するが故に無上正等菩提を發趣し、[一〇]世間の與に洲渚を作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[一一]世間の與に光明と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[一二]世間の與に燈炬と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[一三]世間の與に導師と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[一四]世間の與に將師と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣し、[一五]世間の與に所趣と作らんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと。[一六]具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は世間をして義利を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は一切有情を衆の苦惱事より解脱せしめんと欲するが爲に布施を修行して無上正等菩提を發趣す。一切有情を衆の苦惱事より解脱せしめんと欲するが爲に淨戒を修行して無上正等菩提を發趣す。一切有情を衆の苦惱事より解脱せしめんと欲するが爲に安忍を修行して無上正等菩提を發趣す。一切有情を衆の苦惱事より解脱せしめんと欲するが爲に精進を修行して無上正等菩提を發趣す。一切有情を衆の苦惱事より解脱せしめんと欲するが故に靜慮を修行して無上正等菩提を發趣す。一切有情を衆の苦惱事より解脱せしめんと欲するが爲に般若を修行して無上正等菩提を發趣す。善現、是れを菩薩摩訶薩世間をして義利を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣すと爲すと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩、世間をして利益を得せしめんが爲の故に無上正等菩提を發趣するやと。佛言はく、善現、菩薩摩訶薩は[一七]五趣の怖畏を拔き有情を涅槃無畏の彼岸に置かんが

【三】世間の義利を得。衆生をして苦惱事より解脱せしむるなり。
【四】世間をして利益を得せしむ。菩薩五趣の怖畏を拔き有情を涅槃無畏の彼岸に置くなり。
【五】世間をして安樂を得せしむ。苦惱を拔き有情を涅槃安穩の彼岸に置くなり。
【六】世間を救拔す。諸佛の説法能く罪惡因緣の促迫を救護するを云ふなり。
【七】世間の與に歸依と作る。有情をして無上菩提無所住無餘依涅槃界に住せしむる歸依處を與ふるなり。
【八】世間の與に舍宅と作る。一切法皆不和合相を説き、火宅を離れ安住の屋舍となる義を説く。
【九】世間の究竟道と作る。有情の爲に寂滅微妙の法を説くなり。
【一〇】世間の與に洲渚と作る。四流に沒する衆生を八正の船もて涅槃の洲に著せしむるを云ふ。
【一一】世間の與に光明と作る。有情の愚冥を照破するを云ふ。
【一二】世間の與に燈炬と作る。衆生の無上善提を得る指針と

乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

(d)善男子、汝色に於て而かも貪愛を生ずること勿れ亦た受想行識に於て而かも貪愛を生ずること勿れ。所以は何ん、色受想行識は貪愛す可きに非ざるを以てなり。何を以ての故に、[四]一切法自性空なるを以ての故に、(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百一十四

初分眞善友品第四十五之二

[一]爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は能く[二]難事を爲す。一切法自性空の中に於て無上正等菩提を希求し、無上正等菩提を證せんと欲すと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、諸の菩薩摩訶薩は能く難事を爲す。一切法自性空の中に於て無上正等菩提を希求し、無上正等菩提を證せんと欲す。善現、諸の菩薩摩訶薩は、一切法は幻の如く夢の如く

(d)「善男子汝勿於色而生貪愛亦勿於受想行識而生貪愛所以者何以色受想行識非可貪愛何以故以一切法自性空故」以下諸法の場合の如くして略し右も(c)の場合の如く略出す。

【四】一切法自性空。諸法本來空なれば不取著以て無上菩提を發すべきを敎ふるなり。

【一】菩薩の性空を知り無上菩提心を發すことの甚難希有なるを明す。

【二】難事。煩惱未だ斷ぜず、大悲未だ具せず、不退未だ得ずして性空に住し化他道心を得るは甚だ難きを云ふなり。

初分眞善友品第四十五之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、[二]初業の菩薩摩訶薩應に云何が般若波羅蜜多を學すべく、應に云何が靜慮波羅蜜多を學すべく、應に云何が精進波羅蜜多を學すべく、應に云何が安忍波羅蜜多を學すべく、應に云何が淨戒波羅蜜多を學すべく、應に云何が布施波羅蜜多を學すべきやと。佛言はく、善現、初業の菩薩摩訶薩若し般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修學せんと欲せば應に先づ能善く般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を宣說する眞善知識に親近し供養恭敬すべし。謂ゆる般若波羅蜜多甚深の經を說く時[三]是の如き言を作さん、來れ善男子、汝布施する時應に是の念を作すべし。修する所の布施普ねく一切有情に施し同じく共に無上正等菩提に廻向せよと。汝戒を持つ時應に是の念を作すべし。修する所の淨戒普ねく一切有情に施し同じく共に無上正等菩提に廻向せよと。汝忍を修する時應に是の念を作すべし。修する所の安忍普ねく一切有情に施し同じく共に無上正等菩提に廻向せよと。汝精進を修する時應に是の念を作すべし、修する所の精進普ねく一切有情に施し同じく共に無上正等菩提に廻向せよと。汝定を修する時應に是の念を作すべし。修する所の靜慮普ねく一切有情に施し同じく共に無上正等菩提に廻向せよと。汝慧を修する時應に是の念を作すべし。修する所の般若普ねく一切有情に施し同じく共に無上正等菩提に廻向せよと。(c)善男子、汝色を以て無上正等菩提を取るべからず亦た受想行識を以て無上正等菩提を取るべからず。所以は何ん、若し色を取らされば便ち無上正等菩提を得、受想行識を取らされば便ち無上正等菩提を得ればなり。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦

【一】佛善知識の教化を說く。

【二】初業等。新發意なるも般若の氣味を得て施等の功德に著せざるなり。

【三】是の如き言を作さん。無上菩提に廻向して取相すべからざるを云ふなり。

(c)「善男子汝不應以色而取無上正等菩提亦不應以受想行識而取無上正等菩提所以者何若不取色便得無上正等菩提不取受想行識便得無上正等菩提」右の文中「色乃至識」の所に次下所出の諸法を入るれば他は皆同文なり故に今之を符號(c)にて略し以下諸法のみ略出す。

非ざるが故なり。精進波羅蜜多中是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ精進波羅蜜多相に非ざるが故なり。靜慮波羅蜜多中是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ靜慮波羅蜜多相に非ざるが故なり。般若波羅蜜多中是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ般若波羅蜜多相に非ざるが故なり。善現、此の菩薩乘の補特伽羅は此岸彼岸の相を了知するが故に便ち能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受し聲聞乃び獨覺地に墮ちずして疾く無上正等菩提を證す。(b)復た能く方便善巧を攝受し聲聞及び獨覺地に墮ちずして疾く無上正等菩提を證す。(b)內空[わ]乃至無性自性空。(b)眞如[か]乃至不思議界。(b)苦聖諦[よ]乃至道聖諦。(b)四靜慮[た]乃至四無色定。(b)八解脫[れ]乃至十遍處。(b)四念住[そ]乃至八聖道支、(b)空解脫門[つ]乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力[ね]乃至十八佛不共法。(b)無忘失法恒住捨性。(b)一切智[な]乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門一切三摩地門。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。是の如く善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は能く甚深般若波羅蜜多を攝受し亦た能く方便善巧を攝受するを以ての故に聲聞及び獨覺地に墮ちずして疾く無上正等菩提を證するなりと。

(b)「復能攝受方便善巧不墮聲聞及獨覺疾證無上正等菩提」右の文中「方便善巧」の所に以下の諸法を入るれば他は皆同文なり故に今之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

有りて淨戒波羅蜜多を修行し、方便善巧有りて安忍波羅蜜多を修行し、方便善巧有りて精進波羅蜜多を修行し、方便善巧有りて靜慮波羅蜜多を修行し、方便善巧有りて般若波羅蜜多を修行せば、善現、此の菩薩乘の補特伽羅は布施を修する時是の念を作さず、我れ能く施を行ず、彼れ我が施す所を受く、我れ是の如き物を施すと。淨戒を修する時是の念を作さず、我れ能く戒を持つ、戒は是れ我が持つ所、我れ是の戒を成就すと。安忍を修する時是の念を作さず、我れ能く忍を修す、彼れは是れ我が忍ぶ所、我れ是の忍を成就すと。精進を修する時是の念を作さず、我れ能く精進す、我れ此の精進を爲す、我れ精進を具足すと。靜慮を修する時是の念を作さず、我れ能く定を修す、我れ此の修定を爲す、我れ是の定を成就すと。般若を修する時是の念を作さず、我れ能く慧を修す、我れ此の修慧を爲す、我れ是の慧を成就すと。復た次に善現、此の菩薩乘の補特伽羅は布施を修する時布施有りと執せず、此の布施に由りて執せず、布施は爲れ我所なりと執せず亦た憍慢せず。淨戒を修する時淨戒有りと執せず、此の淨戒に由りて執せず、淨戒は爲れ我所なりと執せず亦た憍慢せず。安忍を修する時安忍有りと執せず、此の安忍に由りて執せず、安忍は爲れ我所なりと執せず亦た憍慢せず。精進を修する時精進有りと執せず、此の精進に由りて執せず、精進は爲れ我所なりと執せず亦た憍慢せず。靜慮を修する時靜慮有りと執せず、此の靜慮に由りて執せず、靜慮は爲れ我所なりと執せず亦た憍慢せず。般若を修する時般若有りと執せず、此の般若に由りて執せず、般若は爲れ我所なりと執せず亦た憍慢せず。所以は何ん、布施波羅蜜多中是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ布施波羅蜜多相に非ざるが故なり。淨戒波羅蜜多中是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ淨戒波羅蜜多相に非ざるが故なり。安忍波羅蜜多中是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ安忍波羅蜜多相に

安忍に由りて執せず、安忍は爲れ我所なりと執せず。精進を修する時精進有りと執せず、此の精進に由りて執せず、精進は爲れ我所なりと執せず。靜慮を修する時靜慮有りと執せず、此の靜慮に由りて執せず、靜慮は爲れ我所なりと執せず、般若を修する時般若有りと執せず、此の般若に由りて執せず、般若は爲れ我所なりと執せず。所以は何ん、布施波羅蜜多中是の如く分別して此の執を起す可き無ければなり。何を以ての故に、[三]此彼岸を遠離する是れ布施波羅蜜多相なるが故なり。淨戒波羅蜜多中是の如く分別して此の執を起す可き無ければなり。何を以ての故に、此彼岸を遠離する是れ淨戒波羅蜜多相なるが故なり。安忍波羅蜜多中是の如く分別して此の執を起す可き無ければなり。何を以ての故に、此彼岸を遠離する是れ安忍波羅蜜多相なるが故なり。精進波羅蜜多中是の如く分別して此の執を起す可き無ければなり。何を以ての故に、此彼岸を遠離する是れ精進波羅蜜多相なるが故なり。靜慮波羅蜜多中是の如く分別して此の執を起す可き無ければなり。何を以ての故に、此彼岸を遠離する是れ靜慮波羅蜜多相なるが故なり。般若波羅蜜多中是の如く分別して此の執を起す可き無ければなり。何を以ての故に、此彼岸を遠離する是れ般若波羅蜜多相なるが故なり。善現、此の菩薩乘の諸の善男子善女人等は此岸彼岸の相を了知するが故に(a)便ち能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受して聲聞及び獨覺地に墮ちずして疾く無上正等菩提を證す。(a)内空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脱乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脱門乃至無願解脱門。(a)菩薩の十地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門一切三摩地門。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

[四]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩乘に住する補特伽羅は方便善巧有るやと。佛言はく、善現、若し菩薩乘の補特伽羅初發心より方便善巧有りて布施波羅蜜多を修行し、方便善巧

【三】此彼岸を遠離す。内我我所の執なく、外一切法空を觀じて取相せざるなり。

(a)「便能攝受布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多不墮聲聞及獨覺地疾證無上正等菩提」右の文中「便」の代りに「復」を用ひ而して「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下の諸法を挿入せば他は皆同文なり故に今之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【四】方便善巧の故に無上菩提を證得するを説く。

はず、一切陀羅尼門・一切三摩地門を攝受する能はず、一切の菩薩摩訶薩行を攝受する能はず、諸佛の無上正等菩提を攝受する能はざるなり。善現、是の因縁に由りて此の菩薩乘の補特伽羅は聲聞地或は獨覺地に墮して無上正等菩提を證せざるなり。是の如く善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は甚深般若波羅蜜多を攝受せず亦た方便善巧を攝受せざるに由るが故に聲聞及び獨覺地に退墮して無上正等菩提を證せざるなりと。

[二]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩乘に住する諸の善男子善女人等能く甚深般若波羅蜜多を攝受し亦た能く方便善巧を攝受するを以ての故に聲聞及び獨覺地に墮せずして疾く無上正等菩提を證するやと。佛言はく、善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて初發心より我我所の執を離れて布施波羅蜜多を修行し、我我所の執を離れて淨戒波羅蜜多を修行し、我我所の執を離れて安忍波羅蜜多を修行し、我我所の執を離れて精進波羅蜜多を修行し、我我所の執を離れて靜慮波羅蜜多を修行し、我我所の勢を離れて般若波羅蜜多を修行せば、善現、此の善男子善女人等は布施を修する時是の念を作さず、我れ能く施を行ず、彼れ我が施す所を受く、我れ是の如き物を施すと。淨戒を修する時是の念を作さず、我れ能く戒を持つ、戒は是れ我が持つ所、我れ是の戒を成就すと。安忍を修する時是の念を作さず、我れ能く忍を修す、彼れは是れ我が忍ぶ所、我れ是の忍を成就すと。精進を修する時是の念を作さず、我れ能く精進す、我れ此の精進を爲す、我れ精進を具足すと。靜慮を修する時是の念を作さず、我れ能く定を修す、我れ此の修定を爲す、我れ是の定を成就すと。般若を修する時是の念を作さず、我れ能く慧を修す、我れ此の修慧を爲す、我れ是の慧を成就すと。復た次に善現、此の菩薩乘の諸の善男子善女人等は布施を修する時布施有りと執せず、此の布施に由りて執せず、布施は爲れ我所なりと執せず、淨戒を修する時淨戒有りと執せず、此の淨戒に由りて執せず、淨戒は爲れ我所なりと執せず。安忍を修する時安忍有りと執せず、此の

【二】二乘の小果に退墮せず無上菩提の證果を得る行者に就いて明す。

我所なりと執して憍慢を生ず。精進を修する時是の精進有りと執し、此の精進に由りて執し、精進は爲れ我所なりと執して憍慢を生ず。靜慮を修する時是の靜慮有りと執し、此の靜慮に由りて執し、靜慮は爲れ我所なりと執して憍慢を生ず。般若を修する時是の般若有りと執し、此の般若に由りて執し、般若は爲れ我所なりと執して憍慢を生ず。所以は何ん、布施波羅蜜多の中には是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ布施波羅蜜多相に非ざるが故なり。淨戒波羅蜜多の中には是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ淨戒波羅蜜多相に非ざるが故なり。安忍波羅蜜多の中には是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ安忍波羅蜜多相に非ざるが故なり。精進波羅蜜多の中には是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ精進波羅蜜多相に非ざるが故なり。靜慮波羅蜜多の中には是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ靜慮波羅蜜多相に非ざるが故なり。般若波羅蜜多の中には是の如き分別無く亦た彼の分別する所の如くならざればなり。何を以ての故に、此彼岸に至るは是れ般若波羅蜜多相に非ざるが故なり。善現、此の菩薩乘の補特伽羅は此岸彼岸の相を知らざるが故に、布施波羅蜜多を攝受する能はず淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受する能はず方便善巧を攝受する能はず、內空を攝受する能はず外空乃至無性自性空を攝受する能はず、眞如(か)乃至不思議界を攝受する能はず、苦聖諦乃至道聖諦を攝受する能はず、四靜慮乃至四無色定を攝受する能はず、八解脫乃至十遍處を攝受する能はず、四念住乃至八聖道支を攝受する能はず、空解脫門乃至無願解脫門を攝受する能はず、菩薩の十地を攝受する能はず、五眼・六神通を攝受する能はず、佛の十力乃至十八佛不共法を攝受する能はず、無忘失法・恒住捨性を攝受する能はず、一切智乃至一切相智を攝受する能

(か) 眞如以下も十八空の如く分說すべきを今簡の旨とし本文の如く略說す。

門、一切三摩地門を攝受する能はず、一切の菩薩摩訶薩行を攝受する能はず、諸佛の無上正等菩提を攝受する能はざるなり。善現、是の因緣に由りて此の菩薩乘の諸の善男子善女人等は聲聞地或は獨覺地に墮して無上正等菩提を證せざるなりと。

卷の第三百十三

初分衆喩品第四十四之三

[一]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩乘に住する補特伽羅は方便善巧無きやと。佛言はく、善現、若し菩薩乘の補特伽羅、初發心より方便善巧無くして布施波羅蜜多を修行し、方便善行無くして淨戒波羅蜜多を修行し、方便善巧無くして安忍波羅蜜多を修行し、方便善巧無くして精進波羅蜜多を修行し、方便善巧無くして靜慮波羅蜜多を修行し、方便善巧無くして般若波羅蜜多を修行せば、善現、此の菩薩乘の補特伽羅は布施を修する時是の如き念を作す、我れ能く施を行じ、彼れ我が施す所を受く、我れ是の如き物を施すと。淨戒を修する時是の如き念を作す、我れ能く戒を持つ、戒は是れ我が持つ所、我れ是の戒を成就すと。安忍を修する時是の如き念を作す、我れ能く忍を修す、彼れは是れ我が忍ぶ所、我れ是の忍を成就すと。精進を修する時是の如き念を作す、我れ能く精進す、我れ此の精進を爲す、我れ精進を具足すと。靜慮を修する時、是の如き念を作す、我れ能く定を修す、我れ此の修定を爲す、我れ是の定を成就すと。般若を修する時是の如き念を作す、我れ能く慧を修す、我れ此の修慧を爲す、我れ是の慧を成就すと。復た次に善現、此の菩薩乘の補特伽羅は布施を修する時是の布施有りと執し、此の布施に由りて執し、布施は爲れ我所なりと執して憍慢を生ず。淨戒を修する時是の淨戒有りと執し、此の淨戒に由りて執し、淨戒は爲れ我所なりと執して憍慢を生ず。安忍を修する時是の安忍有りと執し、此の安忍に由りて執し、安忍は爲れ

【一】方便なく內我外空に取著する行者は般若方便乃至一切相智に護られざるを明す。

等は布施を修する時、是の布施有りと執し、此の布施に由りて執し、布施は爲れ我所なりと執す。淨戒を修する時是の淨戒有りと執し、此の淨戒に由りて執し、淨戒は爲れ我所なりと執す。安忍を修する時、是の安忍有りと執し、此の安忍に由りて執し、安忍は爲れ我所なりと執す。精進を修する時、是の精進有りと執し、此の精進に由りて執し、精進は爲れ我所なりと執す。靜慮を修する時、是の靜慮有りと執し、此の靜慮に由りて執し、靜慮は爲れ我所なりと執す。般若を修する時、是の般若有りと執し、此の般若に由りて執し、般若は爲れ我所なりと執す。所以は何ん、布施波羅蜜多の中には是の如き分別無ければなり。何を以ての故に、此れを遠離せる彼岸是れ布施波羅蜜多相なるが故なり。淨戒波羅蜜多の中には是の如き分別無ければなり。何を以ての故に、此れを遠離せる彼岸是れ淨戒波羅蜜多相なるが故なり。安忍波羅蜜多の中には是の如き分別無ければなり。何を以ての故に、此れを遠離せる彼岸是れ安忍波羅蜜多相なるが故なり。精進波羅蜜多の中には是の如き分別無ければなり。何を以ての故に、此れを遠離せる彼岸是れ精進波羅蜜多相なるが故なり。靜慮波羅蜜多の中には是の如き分別無ければなり。何を以ての故に、此れを遠離せる彼岸是れ靜慮波羅蜜多相なるが故なり。般若波羅蜜多の中には是の如き分別無ければなり。何を以ての故に、此れを遠離せる彼岸是れ般若波羅蜜多相なるが故なり。善現、此の菩薩乘の諸の善男子善女人等は[一九]此岸彼岸の相を知らざるが故に布施波羅蜜多を攝受する能はず淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を攝受する能はず。內空(わ)乃至無性自性空を攝受する能はず、眞如(か)乃至不思議界を攝受する能はず、苦聖諦(よ)乃至道聖諦を攝受する能はず、四靜慮(た)乃至四無色定を攝受する能はず、八解脫(れ)乃至十遍處を攝受する能はず、四念住(そ)乃至八聖道支を攝受する能はず、空解脫門(つ)乃至無願解脫門を攝受する能はず、菩薩の十地を攝受する能はず、五眼・六神通を攝受する能はず、佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を攝受する能はず、無忘失法、恒住捨性を攝受する能はず、一切智(な)乃至一切相智を攝受する能はず、一切陀羅尼

【一九】此岸彼岸の相を知らず内に我我所の執あり、外一切法空を觀ぜず取相するなり。

(わ) 六度の如く內空以下も分說すべきを今簡を旨とし以下本文の如く略說す。

攝受し、復た能く無忘失法・恒住捨性を攝受し、復た能く一切智乃至[三]一切相智を攝受し、復た能く一切陀羅尼門・一切三摩地門を攝受し、復た能く一切の菩薩摩訶薩行を攝受し、復た能く諸佛の無上正等菩提を攝受せば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は終に中道にして衰耗退敗せず聲聞地及び獨覺地を超へて有情を成熟し佛土を嚴淨し無上正等菩提を證得すと。何を以ての故に、能く甚深般若波羅蜜多乃至諸佛の無上正等菩提を攝受し善巧方便有るを以ての故なりと。

[一七]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は甚深般若波羅蜜多を攝受せず亦た方便善巧を攝受せざるに由るが故に聲聞及び獨覺地に退墮するやと。佛言はく、善現、善哉善哉、汝菩薩乘に住する諸の善男子善女人等を利樂せんが爲に如來に是の如き要事を問へり。汝今諦かに聽け、當に汝が爲に說くべし、善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて初發心より[一八]我我所の執に住して布施波羅蜜多を修行し、我我所の執に住して淨戒波羅蜜多を修行し、我我所の執に住して安忍波羅蜜多を修行し、我我所の執に住して精進波羅蜜多を修行し、我我所の執に住して靜慮波羅蜜多を修行し、我我所の執に住して般若波羅蜜多を修行せば、善現、此の善男子善女人等は布施を修する時是の如き念を作す。我れ能く施を行ず、彼れは我が施す所を受く、我れ是の如き物を施すと。淨戒を修する時是の如き念を作す、我れ能く戒を持つ、戒は是れ我が持つ所、我れ是の戒を成就すと。安忍を修する時是の如き念を作す、我れ能く忍を修す、彼れは是れ我が忍ぶ所、我れ是の忍を成就すと。精進を修する時是の如き念を作す、我れ能く精進す、我れ此の精進を爲す、我れ精進を具足すと。靜慮を修する時是の如き念を作す、我れ能く定を修す、我れ此の修定を爲す、我れ是の定を成就すと。般若を修する時是の如き念を作す、我れ能く慧を修す、我れ此の修慧を爲す、我れ是の慧を成就すと。復た次に善現、此の菩薩乘の諸の善男子善女人

【一七】佛更に二乘の小果に退墮ずる所以を明す。

【一八】我我所の執。我は主體、人權、我所は從屬境界、物權。これを事例にすれば布施に於て我れは是れ施主なり、是れ我が施なりなどと執著するを云ふ。

上正等菩提に於て信有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り、捨有り精進有るも若し甚深般若波羅蜜多の方便善巧を攝受せず若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受せず、若し內空乃(わ)至無性自性空を攝受せず、若し眞如(か)乃至不思議界を攝受せず、若し苦聖諦(よ)乃至道聖諦を攝受せず、若し四靜慮(た)乃至四無色定を攝受せず、若し八解脫(れ)乃至十遍處を攝受せず、若し四念住(そ)乃至八聖道支を攝受せず、若し空解脫門(つ)乃至無願解脫門を攝受せず、若し菩薩の十地を攝受せず、若し五眼・六神通を攝受せず、若し佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を攝受せず、若し無忘失法・恒住捨性を攝受せず、若し一切智(な)乃至一切相智を攝受せず、若し一切陀羅尼門・一切三摩地門を攝受せず、若し一切の菩薩摩訶薩行を攝受せず、若し諸佛の無上正等菩提を攝受せずんば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は中道にして衰敗して無上正等菩提を證せず退きて聲聞或は獨覺地に入ると。何を以ての故に、甚深般若波羅蜜多乃至諸佛の無上正等菩提を攝せず善巧方便無きを以ての故なり。善現、譬へば人有り百二十にして老耄衰朽し又た衆病の所謂風病熱病淡病或は三雜病を加ふが如し。是の老病人床座より起ちて他處に往かんと欲するも自ら能はず、兩健人有り各一腋を扶け徐ろに起たしめんと策(はか)り之に告げて言はく、所難有ること莫れ意に隨ひて往かんと欲す、我れ等二人終に相棄てず必ず趣く所に達し安隱無損ならんと。是の如く善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて若し無上正等菩提に於て信有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り、捨有り精進有り、復た能く甚深般若波羅蜜多の方便善巧を攝受し復た能く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受し、復た能く內空(わ)乃至無性自性空を攝受し、復た能く眞如(か)乃至不思議界を攝受し、復た能く苦聖諦(よ)乃至道聖諦を攝受し、復た能く四靜慮(た)乃至四無色定を攝受し、復た能く、八解脫(れ)乃至十遍處を攝受し、復た能く四念住(そ)乃至八聖道支を攝受し、復た能く空解脫門(つ)乃至無願解脫門を攝受し、復た能く菩薩の十地を攝受し、復た能く五眼・六神通を攝受し、復た能く佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を

(わ) 內空以下も六度の場合の如く分說すべきも今簡を旨とし本文の如く略說す。

(わ) 內空以下も六度の場合の如く分說すべきを今簡を主とし本文の如く略す。

攝受せず、若し一切の菩薩摩訶薩行を攝受せず、若し諸佛の無上正等菩提を攝受せずんば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は中道にして衰敗して身命及び大財寶を喪失すと。身命を喪ふとは謂ゆる聲聞或は獨覺地に墮するなり。財寶を失ふとは謂ゆる無上正等菩提を失ふなり。善現、譬へば商人巧便智有りて先に海岸に在りて船を裝治し已り、水に牽入するに方りて穿穴無きを知りて後財物を持ち上に置きて去ると、善現、當に知るべし、是の船必ず壞沒せず人物安隱にして所至の處に達するが如し。是の如く善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて若し無上正等菩提に於て信有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り、捨有り精進有り、復た能く甚深般若波羅蜜多の方便善巧を攝受し復た能く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受し、復た能く內空(わ)乃至無性自性空を攝受し、復た能く眞如(か)乃至不思議界を攝受し、復た能く苦聖諦(よ)乃至道聖諦を攝受し、復た能く四靜慮(た)乃至四無色定を攝受し、復た能く八解脫(れ)乃至十遍處を攝受し、復た能く四念住(そ)乃至八聖道支を攝受し、復た能く空解脫門(つ)乃至無願解脫門を攝受し、復た能く菩薩の十地を攝受し、復た能く五眼・六神通を攝受し、復た能く佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を攝受し、復た能く無忘失法・恒住捨性を攝受し、復た能く一切智(な)乃至一切相智を攝受し、復た能く一切陀羅尼門・一切三摩地門を攝受し、復た能く一切の菩薩摩訶薩行を攝受し、復た能く諸佛の無上正等菩提を攝受せば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は終に中道にして衰耗退敗せず、聲聞地及び獨覺地を超へて有情を成熟し佛土を嚴淨し無上正等菩提を證得すと。善現譬へば人有り年百二十にして老耄衰朽し又た衆病の所謂風病熱病痰病或は[一四]三雜病を加ふるが如し。善現、意に於て云何、是の[一五]老病人頗し床座より能く自ら起つや不やと。善現、答へて言はく、不なり世尊と。佛言はく、善現、是の人設ひ扶け有りて起立せしむるも亦た力めて[一六]一俱盧舍二俱盧舍三俱盧舍を行く無し。所以は何ん、老病甚しきが故なり。是の如く善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて設ひ無

(わ) 內空以下も六度の如く分說すべきを今本文の如く略說す。

【一四】三雜病。三雜染なり、心地を染汚して不淨ならしむるもの三、卽ち煩惱雜染、業雜染、生雜染を云ふなり。

【一五】老病人等。信等功德ある菩薩六十二邪見等を斷ぜざるを老年とし、百八煩惱等を斷ぜざるを病ありとなす。床座とは三界を喩ふるなり。

【一六】俱盧舍（Krośa）牛又は鼓の聲の聞き得る最大距離にして五百弓又は五里といふ。

提に於て住有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り、捨有り精進有り復た能く甚深般若波羅蜜多の方便善巧を攝受し復た能く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受し、復た能く內空乃至無性自性空を攝受し、復た能く眞如乃至不思議界を攝受し、復た能く苦聖諦乃至道聖諦を攝受し、復た能く四靜慮乃至四無色定を攝受し、復た能く八解脫乃至十遍處を攝受し、復た能く四念住乃至八聖道支を攝受し、復た能く空解脫門乃至無願解脫門を攝受し、復た能く菩薩の十地を攝受し、復た能く五眼・六神通を攝受し、復た能く佛の十力乃至十八佛不共法を攝受し、復た能く無忘失法・恒住捨性を攝受し、復た能く一切智乃至一切相智を攝受し、復た能く一切陀羅尼門・一切三摩地門を攝受し、復た能く一切の菩薩摩訶薩行を攝受し、復た能く諸佛の無上正等菩提を攝受せば、善現、當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は終に中道にして衰耗退敗せず聲聞地及び獨覺地を超へて有情を成熟し佛土を嚴淨し無上正等菩提を證得すと。善現、商人有りて巧便智無からんに船海岸に在りて〔一〇〕未だ裝沽を具せざるも卽ち〔一一〕財物を持ちて其の上に安置し、水中に推著して速に便ち進發せば、善現當に知るべし、是の船中道にして壞沒し〔一二〕人船財物各異處に散ずと。是の如く商人巧便智無くんば〔一三〕身命及び大財寶を喪失するが如く、是の如く善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて設ひ無上正等菩提に於て信有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り捨有り精進有るも若し甚深般若波羅蜜多の方便善巧を攝受せず若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受せず、若し內空乃至無性自性空を攝受せず、若し眞如乃至不思議界を攝受せず、若し苦聖諦乃至道聖諦を攝受せず、若し四靜慮乃至四無色定を攝受せず、若し八解脫乃至十遍處を攝受せず、若し四念住乃至八聖道支を攝受せず、若し空解脫門乃至無願解脫門を攝受せず、若し菩薩の十地を攝受せず、若し五眼・六神通を攝受せず、若し佛の十力乃至十八佛不共法を攝受せず、若し無忘失法・恒住捨性を攝受せず、若し一切智乃至一切相智を攝受せず、若し一切陀羅尼門・一切三摩地門を

（わ）內空以下も六度の場合の如く分說すべきを今簡を旨とし本文の如く以下略說す。

【一〇】未だ裝沽を具せず。菩薩の方便無きを喩ふるなり。

【一一】財物。信、忍などの功德を指せり。

【一二】人船財物各異處に散ず。本願に反して人天二乘等に墮するなり。

【一三】身命及び大財寶を喪失す。身命を喪失すとは聲聞獨覺地に墮するを云ひ、大財寶を喪失すとは無上正等菩提を失ふに喩ふるなり。

（わ）內空以下前の（わ）の所に說けるが如し。

た能く菩薩の十地を攝受し、復た能く五眼・六神通を攝受し、復た能く佛の十力乃至十八佛不共法を攝受し、復た能く一切智乃至一切相智を攝受し、復た能く一切陀羅尼門・一切三摩地門を攝受し、復た能く一切の菩薩摩訶薩行を攝受し、復た能く諸佛の無上正等菩提を攝受せば、善現、當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は終に中道にして衰耗退敗せず、聲聞地及び獨覺地を超へて有情を成熟し佛土を嚴淨して無上正等菩提を證得すと。善現、譬へば男子或は諸の女人[七]坯瓶を執受して河に詣り水を取るが如し。若しは池若しは井若しは泉若しは渠ならんも當に知るべし此の瓶久しからずして爛壞すと。何を以ての故に、是の瓶未熟にして水を盛るに堪へず終に[八]地に歸するが故なり。是の如く善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて設ひ無上正等菩提に於て信有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り、捨有り精進有るも若し甚深般若波羅蜜多の方便善巧を攝受せず若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受せず、若し內空[わ]乃至無性自性空を攝受せず、若し眞如乃至不思議界を攝受せず、若し苦聖諦乃至道聖諦を攝受せず若し四靜慮乃至四無色定を攝受せず、若し八解脫乃至十遍處を攝受せず、若し四念住乃至八聖道支を攝受せず、若し空解脫門乃至無願解脫門を攝受せず、若し菩薩の十地を攝受せず、若し五眼・六神通を攝受せず、若し佛の十力乃至十八佛不共法を攝受せず、若し無忘失法・恒住捨性を攝受せず、若し一切智乃至一切相智を攝受せず、若し一切陀羅尼門・一切三摩地門を攝受せず、若し一切の菩薩摩訶薩行を攝受せず、若し諸佛の無上正等菩提を攝受せずんば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は中道にして衰敗して無上正等菩提を證せず退きて聲聞或は獨覺地に入ると。善現、譬へば男子或は諸の女人の[九]燒熟瓶を持ち河に詣りて水を取るが如し、若しは池若しは井若しは泉若しは渠ならんも當に知るべし此の瓶終に爛壞せずと。何を以ての故に、是の瓶善く熟して水を盛るに堪任し極めて堅牢なるが故なり。是の如く善現、菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて若し無上正等菩

【七】坏瓶等。坏瓶は火にかけざる土器の瓶にて菩薩道に喩へ、火は般若方便、水は六度功德に喩ふるなり。

【八】地に歸する。爛壞してもとの土となるを云ふ。

（わ）內空以下も六度の場合の如く分說すべきも今簡を取りて本文の如く略す。

【九】燒熟瓶。火にかけたる陶瓶を云ひ、淨菩薩道に喩ふるなり。

の以て依附と僞るを書寫し受持讀誦し思惟修習せば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は終に中道にして退きて聲聞或は獨覺地に入らず、定めて無上正等菩提を證すと。善現、人の險惡の曠野を度らんと欲するに資糧器具を攝受せざる無くんば安樂國土に達到する能はずして其の中道に於て苦に遭ふて命を失ふが如く、是の如く善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、設ひ無上正等菩提に於て〔六〕信有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り、捨有り精進有るも若し甚深般若波羅蜜多を攝受せず若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受せず、若し內空乃至無性自性空を攝受せず、若し眞如乃至不思議界を攝受せず、若し苦聖諦乃至道聖諦を攝受せず、若し四靜慮乃至四無色定を攝受せず、若し八解脫乃至十遍處を攝受せず、若し四念住乃至八聖道支を攝受せず、若し空解脫門乃至無願解脫門を攝受せず、若し菩薩の十地を攝受せず、若し五眼・六神通を攝受せず、若し佛の十力乃至十八佛不共法を攝受せず、若し無忘失法・恒住捨性を攝受せず、若し一切智乃至一切相智を攝受せず、若し一切陀羅尼門、一切三摩地門を攝受せず、若し一切の菩薩摩訶薩行を攝受せず、若し諸佛の無上正等菩提を攝受せずんば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は中道にして衰敗して無上正等菩提を證せず、退きて聲聞或は獨覺地に入ると。善現、人の險惡の曠野を度らんと欲するに若し能く資糧器具を攝受せば必ず當に安樂國土に達到し終に中道にして共に遭ふて命を捨てざるが如く、是の如く善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し無上正等菩提に於て信有り忍有り、淨心有り深心有り、樂欲有り勝解有り、捨有り精進有り、復た能く甚深般若波羅蜜多を攝受し復た能く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を攝受し、復た能く內空乃至無性自性空を攝受し、復た能く眞如乃至不思議界を攝受し、復た能く苦聖諦乃至道聖諦を攝受し、復た能く四靜慮乃至四無色定を攝受し、復た能く八解脫乃至十遍處を攝受し、復た能く四念住乃至八聖道支を攝受し、復た能く空解脫門乃至無願解脫門を攝受し、復

【六】信等。信は罪福因果を信じ六度を以て成佛すると信ず。忍は忍許安住するなり。淨心は清淨にして濁らざるなり。深心は淨心淺からざるなり。樂欲は一心に餘事を捨てゝ無上道を得んと欲するなり。勝解は無上道の大事たるを了知するなり、捨は欲解定りて賊と惡を捨つるを云ふ。精進は捨によりて勇猛なるを云ふなり。

(わ) 內空以下も六度の如く分說すべきを今便宜上本文の如く略說す。

(わ) 內空以下も六度の場合の如く分說ずべきを今便宜上本文の如く略說す。

は或は二處二地の隨一謂ゆる聞聲地或は獨覺地に墮するなり。

復[三]た次に善現、大海に泛びて乘る所の船[四]破るゝに其の中の諸人若し木を取らず器物を取らず浮囊を取らず板片を取らず死屍の依附と爲る者を取らざれば定めて溺死して彼岸に至らずと知る。善現、大海に泛ぶに其の船破ると雖も而かも中の諸人若し能く木器物浮囊板片死屍の以て依附と爲るを取る有らば當に知るべし是の類は終に沒死せずして安隱に大海の彼岸に至り、損する無く害する無く諸の妙樂を受くることを得るが如し、是の如く善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、大乘に於て少分の信敬愛樂を成就するも(c)若し甚深般若波羅蜜多の以て依附と爲るを書寫し受持讀誦し思惟修習せず若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の以て依附と爲るを書寫し受持讀誦し思惟修習せず、(c)內空乃至無性自性空、(c)眞如乃至不思議界、(c)苦聖諦乃至道聖諦、(c)四靜慮乃至四無色定、(c)八解脫乃至十遍處、(c)四念住乃至八聖道支、(c)空解脫門乃至無願解脫門、(c)菩薩の十地、(c)五眼・六神通、(c)佛の十力乃至十八佛不共法、(c)無忘失法・恒住捨性、(c)一切智乃至一切相智、(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門、(c)一切の菩薩摩訶薩行、若し諸佛の無上正等菩提の以て依附と爲るを書寫し受持讀誦し思惟修習せずんば、善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は中道にして衰敗して無上正等菩提を證せず、退[五]きて聲聞或は獨覺地に入ると善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等の大乘に於て信敬愛樂を成就し圓滿する有りて(d)若し能く甚深般若波羅蜜多の以て依附と爲るを書寫し受持讀誦し思惟修習し若し能く靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の以て依附と爲るを書寫し受持讀誦し思惟修習し、(d)內空乃至無性自性空、(d)眞如乃至不思議界、(d)苦聖諦乃至道聖諦、(d)四靜慮乃至四無色定、(d)八解脫乃至十遍處、(d)四念住乃至八聖道支、(d)空解脫門乃至無願解脫門、(d)菩薩の十地、(d)五眼・六神通、(d)佛の十力乃至十八佛不共法、(d)無忘失法・恒住捨性、(d)一切智乃至一切相智、(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門、(d)一切の菩薩摩訶薩行、若し能く諸佛の無上正等菩提

【三】船、瓶、老年等の譬喩を以て般若の護持を要すを明す。

【四】船、浮囊。船は行者の身に、浮囊は般若方便に喩ふ。

(c)「若不書寫受持讀誦思惟修習甚深般若波羅蜜多以爲依附不不書寫受持讀誦思惟修習靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多以爲依附」右も(b)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【五】聲聞獨覺の小果に止まりて進み得ざるを云ふなり。

(d)「若能書寫受持讀誦思惟修習甚深般若波羅蜜多以爲依附若能書寫受持讀誦思惟修習靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右も(c)に準じて略し以下諸法のみ略出す。

巻の第三百一十二

初分衆喩品第四十四之二

[一]復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等若し甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し思惟修習し他の爲に演說せず、(a)若し甚深般若波羅蜜多を以て他の有情を攝せず、若し靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を以て他の有情を攝せず、(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦、(a)四靜慮乃至四無色定、(a)八解脫乃至十遍處、(a)四念住乃至八聖道支、(a)空解脫門乃至無願解脫門、(a)菩薩の十地、(a)五眼・六神通、(a)佛の十力乃至十八佛不共法、(a)無忘失法・恒住捨性、(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果法乃至阿羅漢果法。(a)獨覺菩提法。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等(b)若し隨順して甚深般若波羅蜜多を修行せず若し隨順して靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修行せず(b)內空乃至無性自性空、(b)眞如乃至不思議界、(b)苦聖諦乃至道聖諦、(b)四靜慮乃至四無色定、(b)八解脫乃至十遍處、(b)四念住乃至八聖道支、(b)空解脫門乃至無願解脫門、(b)菩薩の十地。(b)五眼・六神通、(b)佛の十力乃至十八佛不共法、(b)無忘失法、恒住捨性、(b)一切智乃至一切相智、(b)一切陀羅尼門、(b)一切三摩地門、(b)預流果法乃至阿羅漢果法、(b)獨覺菩提法、(b)一切の菩薩摩訶薩行、若し隨順して諸佛の無上正等菩提を修行せずんば。

善現當に知るべし、是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は此の因緣に由りて或は二處二地の隨一[二]、謂ゆる聲聞地或は獨覺地に墮す。所以は何ん、是の善男子善女人等は甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し思惟修習する能はず亦た甚深般若波羅蜜多を以て他の有情を攝する能はず復た隨順して甚深般若波羅蜜多を修行すること能はざればなり。此の因緣に由りて是の善男子善女人等

【一】般若を行持せざるものに就て述ぶ。
(a)「若不以甚深般若波羅蜜多攝他有情若不以靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多攝他有情」右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」の所に次下所出の諸法を入るれば他は皆同文なり(a)は今之を略す符號として用ふ以下その諸法を略出するに止む。
(b)「若不隨順修行甚深般若波羅蜜多若不隨順修行靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多」右も(a)の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【二】隨一。孰れかの一。

する者無きも若し所聞を離るれば尋で便ち退失せん。何を以ての故に、善現、是の菩薩乘の補特伽羅は先世に於て般若波羅蜜多を聞くを得、復た甚深の義趣を請問すと雖も而かも說の如く隨順し修行せざるに由るが故なり。今生に於て若し善友の慇懃に勸勵するに遇はば便ち樂ふて甚深般若波羅蜜多を聽受し、若し善友の慇懃に勸勵する無くんば便ち此の經に於て聽受するを樂はず。彼れ般若波羅蜜多に於て或る時は樂聞し或る時は樂はず、或る時は堅固に或る時は退失し其の心轉動進退して恒に非ざること（六）堵羅綿の風に隨ひて飄颺するが如し。善現當に知るべし、是の如き補特伽羅は大乘に發趣して時を經る未だ久しからず、未だ多く眞善知識に親近せず、未だ曾て諸佛世尊を供養せず、未だ曾て甚深般若波羅蜜多を受持讀誦し書寫思惟し演說せずと。善現當に知るべし、是の如き補特伽羅は未だ曾て甚深般若波羅蜜多を修學せず未だ曾て靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修學せず、未だ曾て內空（わ）乃至無性自性空を修學せず、未だ曾て眞如（わ）乃至不思議界を修學せず、未だ曾て苦聖諦（わ）乃至道聖諦を修學せず、未だ曾て四靜慮（わ）乃至四無色定を修學せず、未だ曾て八解脫（わ）乃至十遍處を修學せず、未だ曾て四念住（わ）乃至八聖道支を修學せず、未だ曾て空解脫門（わ）乃至無願解脫門を修學せず、未だ曾て菩薩の十地を修學せず、未だ曾て五眼、六神通を修學せず、未だ曾て佛の十力（わ）乃至十八佛不共法を修學せず、未だ曾て一切智（わ）乃至一切相智を修學せず、未だ曾て一切陀羅尼門、一切三摩地門を修學せず、未だ曾て預流果法（わ）乃至阿羅漢果法を修學せず、未だ曾て一切の菩薩摩訶薩行を修學せず、未だ曾て諸佛の無上正等菩提を修學せずと。善現當に知るべし、是の如き補特伽羅は新に大乘に趣くも大乘法に於て少分の信敬愛樂を成就し未だ甚深般若波羅蜜多を書寫し受持し讀誦し思惟し修習し他の爲に演說すること能はずと。

【六】堵羅綿（Tūla）。揚華、野蠶繭綿などと譯さる。

（わ）內空以下も六波羅蜜多の場合の如く分說すべきを便宜上本文の如く略す。

習するに懈倦有ること無し。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は先きに他方無量の佛所より是の如き甚深般若波羅蜜多を説くを聞きて深く信解を生じ、復た能く書寫し讀誦し受持し思惟し修習して懈倦有ること無く、彼れ是の如き善根力に乘ずるが故に彼處より沒して此の間に來生すればなり。復た次に善現、亦た菩薩摩訶薩有りて[二]覩史多天衆同文より沒して人中に來生せば當に知るべし、彼れも亦た是の如き殊勝の功徳を成就すと。所以は何ん、是の菩薩摩訶薩は先世に已に覩史多天の彌勒菩薩の所に於て般若波羅蜜多甚深の義趣を請問すればなり。彼れ是の如き善根力に乘ずるが故に彼處より沒して此の間に來生し是の如き、甚深般若波羅蜜多を説くを聞きて深く信解を生じ復た能く書寫し讀誦し受持し思惟し修習し懈倦有ること無し。

[三](c)復た次に善現、菩薩乘の補特伽羅有りて先世に於て般若波羅蜜多を聞くを得たりと雖も而かも甚深の義趣を請問せざるは今人中に生じて是の如き甚深般若波羅蜜多を説くを聞きて其の心迷悶し猶豫し怯弱し或は異解を生ず。(c)靜慮波羅蜜多。(c)精進波羅蜜多。(c)安忍波羅蜜多。(c)淨戒波羅蜜多。(c)布施波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦集滅道聖諦。(c)四靜慮。(c)四無量。(c)四無色定。(c)八解脫八勝處。(c)九次第定。(c)十遍處。(c)四念住。(c)四正斷。(c)四神足。(c)五根。(c)五力。(c)七等覺支。(c)八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼。(c)六神通。(c)佛の十力。(c)四無所畏。(c)四無礙解。(c)大慈大悲大喜大捨。(c)十八佛不共法。(c)無忘失法。(c)恒住捨性。(c)一切智。(c)道相智。(c)一切相智。(c)一切陀羅尼門。(c)一切三摩地門。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

[四]復た次に善現、菩薩乘の[五]補特伽羅有りて先世に於て般若波羅蜜多を聞き亦た曾て甚深の義趣を請問するを得たりと雖も而かも一日二日三四五日を經て隨順修行する能はざるは、今人中に生じて是の如き甚深般若波羅蜜多を説くを聞き、設ひ一日乃至五日を經るも其の心堅固にして能く壞

【二】覩史多天（Jusita）。兜率天なり。

【三】中機即ち般若を聞きて其義を問ふも行ふ能はざるもの、及び下機即ち聞くも義を問はざるもの、に就いて明す。(c)「復次善現有菩薩乘補特伽羅雖於先世得聞般若波羅蜜多……其心迷悶猶豫怯弱或生異解」右の文中「般若波羅蜜多」とある所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同文なり故に之を符號(c)にて略し以下その諸法のみ出す但し「甚深般若波羅蜜多」とあるは其の儘とす。

【四】中機の行人聞解する所を明せり、此人信解あり暫く堅固なるも後信樂する能はざるなり。

【五】補特伽羅（Pudgala）。人又は衆生と譯す。

初分衆喩品第四十四之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩、是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて深く信解を生じ復た能く書寫し讀誦し思惟し修習せば是の菩薩摩訶薩は何處より沒して此の間に來生するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩、是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて深く信解を生じ怯れず弱らず忌まず憚らず疑はず惑はず歡喜愛樂して甚深般若波羅蜜多の所有る義趣を繫念思惟若しは行若しは立若しは坐若しは臥曾て暫くも捨つる無く、常に法師に隨ひて恭敬し請問すること新生犢の其の母を離れざるが如くんば、善現、是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多甚深の義趣を求めんが爲に終ひに般若法師を遠離せず、乃至未だ般若波羅蜜多甚深の經典に在りて受持讀誦し思惟修習し究竟通利するを得ざるまでは常に法師に隨ひて未だ曾て暫くも捨てざるなり。善現、當に知るべし、是の菩薩摩訶薩は人趣より沒して人中に來生すと。何を以ての故に、善現、此の菩薩乘の諸の善男子善女人等は先世に樂ふて甚深般若波羅蜜多を聞き、聞き已つて受持讀誦し思惟精進し修習し復た能く書寫し衆寶もて莊飾し又た種種上妙の花鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明を以て供養恭敬尊重讃歎し、此の善根に由りて人趣より沒し還りて人中に生じ、是の般若波羅蜜多を聞きて深く信解を生じ復た能く書寫し讀誦し受持し思惟し修習するなりと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、頗し菩薩摩訶薩有りて是の如き殊勝の功德を成就し他方の諸佛に供養承事せば彼處より沒して此の間に來生し、是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて深く信解を生じ復た能く書寫し讀誦し受持し思惟し修習するに懈倦無きや不やと。佛言はく、是の如し是の如し、菩薩摩訶薩有りて是の如き殊勝の功德を成就し他方の諸佛に供養承事せば彼處より沒して此の間に來生し是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて深く信解を生じ、復た能く書寫し讀誦し受持し思惟し修

【一】甚深般若を信解する者の宿善を明す。これに上中下の三種あり、最初に上種即ち前世に於て此人界若くは他佛界に般若を聞き受持し修行せしものを說く。

薩摩訶薩の忍の少分なるが故なりと。

爾の時佛、諸の天子に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、諸の隨信行若しは隨法行等八預流一來不還阿羅漢獨覺の所有る智斷は皆是れ已に無生法忍を得たる菩薩摩訶薩の忍の少分なり。天子當に知るべし。若し善男子善女人等、暫くも是の如き甚深般若波羅蜜多を聽き、聞き已つて書寫し讀誦し受持し思惟し修習せば、是の善男子善女人等は速に生死より出でて涅槃を證得し、餘の聲聞獨覺を欣求する諸の善男子善女人等の般若波羅蜜多を遠離して餘の經典を學し若しは一劫、若しは一劫の餘を經るに勝らん。何を以ての故に、諸天子、此の般若波羅蜜多甚深の經中に於て一切微妙の勝法を廣說すればなり。諸の隨信行若しは隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺菩薩摩訶薩は皆應に此れに於て精勤修學すべく、一切の如來應正等覺は皆此れに依りて學して無上正等菩提を已に證し當に證すべく現に證せりと。時に諸の天子俱に聲を發して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ大波羅蜜多なり。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ不可思議波羅蜜多なり。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ不可稱量波羅蜜多なり。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無數量波羅蜜多なり。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無等等波羅蜜多なり。世尊、諸の隨信行若しは隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に於て精勤修學し速に生死より出でて涅槃を證得し、一切の菩薩摩訶薩は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に於て精勤修學して速に無上正等菩提を證す。世尊、諸の聲聞獨覺菩薩は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に依り精勤修學して各究竟を得と雖も而かも是の般若波羅蜜多は不增不減なりと。時に欲色界の諸の天子衆是の語を說き已つて佛足を頂禮し[六]右に遶ること三匝し佛を辭して宮に還り會を去ること遠からず、忽然として現ぜず。

【六】右遶三匝。所尊を恭敬する爲の儀禮にして、仰望の至誠を表示せるものなり。

きを見ず。我れも亦た法の能く取し能く著する有るを見ず、亦た是の法に由りて取有り著有るを見ず、見ざるが故に取せず、取せざるが故に著せず。是の故に善現、(b)菩薩摩訶薩は亦た色に取著すべからず受想行識に取著すべからず。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至諸受。(b)耳界(ほ)乃至諸受。(b)鼻界乃(へ)至諸受。(b)舌界乃(と)至諸受。(b)身界乃(ち)至諸受。(b)意界乃(り)至諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

菩薩摩訶薩は亦た一切の如來應正等覺の所有る佛性如來性自然法性一切智智性に取著すべからずと。[二]爾の時欲色界の諸の天子、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は最も僞れ甚深にして見難く覺り難く尋思す可からず、尋思の境を超ゆ。寂靜微妙にして審諦沈密聰叡の智者は乃ち能く了知せん。世尊、若し諸の有情能く深く是の如き般若波羅蜜多を信解せば當に知るべし已に曾て過去無量の諸佛を供養し、諸佛の所に於て弘誓願を發し多く善根を種ゑ已に無量の諸の善知識の攝受する所と爲りて乃ち能く甚深般若波羅蜜多を信解するなりと。世尊、假使ひ三千大千世界の諸の有情類一切皆[三]隨信行隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺を成ずるも彼の成就する所の若しは[四]智若しは斷は、人有りて一日此の甚深般若波羅蜜多に於て忍樂思惟し稱量觀察するに如かず。是の人此の甚深般若波羅蜜多に於て成就する所の忍は彼の智斷に勝ること無量無邊なり。何を以ての故に、世尊、諸の隨信行の所有る智斷は皆是れ已に[五]無生法忍を得たる菩薩摩訶薩の忍の少分なるが故なり。世尊、諸の隨法行第八預流一來不還阿羅漢獨覺の所有る智斷は皆是れ已に無生法忍を得たる菩

(b)「菩薩摩訶薩亦不應取著色不應取著受想行識」右も(a)の如くして略し以下諸法を略出するのみ。

【二】諸天子般若及び行者を讃歎す。

【三】隨信行隨法行。入道者の鈍を隨信とし、他に隨聞して信順するもの、利を隨法とし、自ら法を見て解すとするなり。

【四】智若しは斷。智は十智、斷は有殘即ち學人の斷と、無殘即ち無學の斷との稱なり。

【五】無生法忍。無生法忍なれば諸賢聖の智斷劣らざるが如し、彼等の如かざるは分別あり方便大悲なければなり。故に菩薩の無生法忍尙賢聖の智斷を含受して勝るとす。

(e)意界乃(り)至諸受。(e)地界乃(ぬ)至識界(e)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多(e)内空乃(わ)至無性自性空。(e)眞如乃(か)至不思議界。(e)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(e)四靜慮乃(た)至四無色定。(e)八解脱乃(れ)至十遍處。(e)四念住乃(そ)至八聖道支。(e)空解脱門乃(つ)至無願解脱門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃(な)至一切相智。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百一十一

初分辨事品第四十三之二

[一]佛言はく、善現、善哉善哉、是の如し是の如し、汝が所說の如し。(a)善現、我れも亦た色の取す可く著す可きを見ず受想行識の取す可く著す可きを見ず。我れも亦た法の能く取し能く著す有るを見ず、亦た是の法に由りて取有り著有るを見ず。見ざるに由るが故に取せず、取せざるが故に著せず。(a)眼處乃(ろ)至意處。(a)色處乃(は)至法處。(a)眼界乃(に)至諸受。(a)耳界乃(ほ)至諸受。(a)鼻界乃(へ)至諸受。(a)舌界乃(と)至諸受。(a)身界乃(ち)至諸受。(a)意界乃(り)至諸受。(a)地界乃(ぬ)至識界。(a)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(a)内空乃(わ)至無性自性空。(a)眞如乃(か)至不思議界。(a)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(a)四靜慮乃(た)至四無色定。(a)八解脱乃(れ)至十遍處。(a)四念住乃(そ)至八聖道支。(a)空解脱門乃(つ)至無願解脱門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃(な)至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

善現、我れも亦た一切の如來應正等覺の所有る佛性如來性自然法性一切智智性の取す可く著す可

【一】 前卷に續說す。(a)「善現我亦不見色可取可著不見受想行識可取可著……由不見故不取不取故不著」右も前卷(e)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

て能く事を成辦し、受想行識に取著せざるが故に世間に出現して能く事を成辦す。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、(d)世尊、云何が甚深般若波羅蜜多は世間に出現して色に取著せず受想行識に取著せざるや。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

佛言はく、(e)善現、意に於て云何、汝頗し色の取す可く著す可きを見るや不や、頗し受想行識の取す可く著す可きを見るや不や。汝頗し法の能く取し能く著する有るを見るや不や。頗し是の法に由りて取有り著有りと見るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊と。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。(e)舌界乃至諸受。(e)身界乃至諸受。

(d)「世尊云何甚深般若波羅蜜多出現世間不取著色不取著受想行識」右も(c)の場合の如くして略し以下諸法を略出するのみとす。

(e)「善現於意云何汝頗見色可取可著不頗見受想行識可取可著不……善現答言不也世尊」右も(d)の場合の如くして略し以下諸法を略するに止む但し眼處以下全部「善現答言」の四字は之を無きものとす。

初分辨事品第四十三之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は大事の爲の故に世間に出現し、甚深般若波羅蜜多は不可思議事の爲の故に世間に出現し、甚深般若波羅蜜多は不可稱量事の爲の故に世間に出現し、甚深般若波羅蜜多は無數量事の爲の故に世間に出現し、甚深般若波羅蜜多は無等等事の爲の故に世間に出現すと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。甚深般若波羅蜜多は大事の爲の故に世間に出現し不可思議事の爲の故に世間に出現し不可稱量事の爲の故に世間に出現し無數量事の爲の故に世間に出現し無等等事の爲の故に世間に出現す。何を以ての故に、(b)善現、甚深波若波羅蜜多は能く布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を成辦するが故なり。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

善現、刹帝利灌頂[二]大王の威德自在にして一切を降伏し諸の國事を以て大臣に付囑するに端拱無爲安隱快樂なるが如く、善現、如來も亦た爾なり。大法王と爲り聲聞法若しは獨覺法若しは菩薩法若しは諸佛法を以て皆悉く甚深般若波羅蜜多に付囑し、此の般若波羅蜜多に由りて皆能く一切の事業を[三]成辦す。是の故に善現、甚深般若波羅蜜多は大事の爲の故に世間に出現し不可思議事の爲の故に世間に出現し不可稱量事の爲の故に世間に出現し無數量事の爲の故に世間に出現し無等等事の爲の故に世間に出現す。[四]所以は何ん、(c)善現、甚深般若波羅蜜多は色に取著せざるが故に世間に出現し

【一】般若甚深なる所以は能く六度乃至一切法を包含し成辦するに依るを明す。
(b)「善現甚深般若波羅蜜多能成辦布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」
右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を各挿入せば他は皆同文を繰返へすのみなる故之を符號(b)にて略し以下その諸法を略出するのみとす。
【二】大王等。大王は如來、諸の國事は衆生救濟、大臣は般若に譬へしものなり。
【三】成辦。諸法般若に包含され和合し隨喜方便廻向せらるゝが故に佛道に至るを云ふなり。
【四】般若取著せざるが故に能く含受し成辦するを說く。
(c)「善現甚深般若波羅蜜多不取著色故出現世間能成辦事不取著受想行識故出現世間能成辦事」
右の中「色乃至識」の代りに次下の諸法を各入るれば他は皆同文なる故之を符號(c)にて略し以下その諸法を略出するのみとす。

善現、此の因縁に由りて一切法も亦た不可思議不可稱量無數量無等等なり。善現、不可思議とは但だ不可思議の增語有るのみ。不可稱量とは但だ不可稱量の增語有るのみ。無數量とは但だ無數量增の語有るのみ。無等等とは但だ無等等の增語有るのみ。善現、此の因縁に由りて一切の如來應正等覺の所有る佛法如來法自然法一切智智法は皆不可思議不可稱量無數量無等等なり。善現、不可思議とは虛空の如く思議す可からざるが故なり。不可稱量とは虛空の如く稱量す可からざるが故なり。無數量とは虛空の如く數量無きが故なり。無等等とは虛空の如く等等無きが故なり。善現、此の因縁に由りて一切の如來應正等覺の所有る佛法如來法自然法一切智智法は皆不可思議不可稱量無數量無等等なり。善現、一切の如來應正等覺の所有る佛法如來法自然法一切智智法は聲聞獨覺世間天人阿素洛等皆悉く思議稱量數量等等すること能はず。善現、此の因縁に由りて一切の如來應正等覺の所有る佛法如來法自然法一切智智法は皆不可思議不可稱量無數量無等等なり。[二]佛是の如き不可思議不可稱量無數量無等等の法を說きたまふ時衆中に五百の苾芻有りて諸漏を受けず心解脫を得、復た二千の苾芻尼有りて亦た諸漏を受けず心解脫を得、復た六萬の鄔波索迦有りて諸法の中に於て[三]遠塵離垢して淨法眼生じ、復た三萬七千の鄔波斯迦有りて亦た諸法の中に於て遠塵離垢して淨法眼生ず。復た二萬の菩薩摩訶薩有りて[四]無生法忍を得、[五]賢劫の中に於て受記作佛せり。

【二】般若を聞くの利益を明す。
【三】遠塵離垢。在家鈍根、淺慧なれば漏盡するを得ず、信根を增益し塵垢を遠離するのみなり。
【四】無生法忍。不生不滅の眞如實相を忍知して決定安住するをいふ。初地或は七八九地に於て得べき悟なり。
【五】賢劫。小乘には五佛出世の時をいひ、大乘は現在千佛出世の時を云ふ。

卷の第三百一十

初分不思議等品第四十二之三

(a)善現、意に於て云何の色の不可思議不可稱量無數量無等等無自性中、色得可きや不や、受想行識の不可思議不可稱量無數量無等等無自性中、受想行識得可きや不や。(a)眼處乃(ろ)至意處。(a)色處乃(は)至法處。(a)眼界乃(に)至諸受。(a)耳界乃(ほ)至諸受。(a)鼻界乃(へ)至諸受。(a)舌界乃(と)至諸受。(a)身界乃(ち)至諸受。(a)意界乃(り)至諸受。(a)地界乃(ぬ)至識界。(a)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(a)內空乃(わ)至無性自性空。(a)眞如乃(か)至不思議界。(a)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(a)四靜慮乃(た)至四無色定。(a)八解脫乃(れ)至十遍處。(a)四念住乃(そ)至八聖道支。(a)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃(な)至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

善現答へて言はく、不なり世尊と。佛言はく、善現、是の如し是の如し。此の因緣に由りて一切法は皆不可思議不可稱量無數量無等等なるを以ての故に一切の如來應正等覺の所有る佛法如來法自然法一切智智法も亦た不可思議不可稱量無數量無等等なり。善現、一切の如來應正等覺の所有る佛法如來法自然法一切智智法は皆思議す可からず思議滅せるが故に。稱量す可からず稱量滅せるが故に。數量無し數量滅せるが故に。等等無し等等滅せるが故に。善現、此の因緣に由りて一切法も亦た不可思議不可稱量無數量無等等なり。善現、一切の如來應正等覺の所有る佛法如來法自然法一切智智法は皆思議す可からず思議を過ぐるが故に。稱量す可からず稱量を過ぐるが故に。數量無し數量を過ぐるが故に。等等無し等等を過ぐるが故に。

【一】不思議義の續說前に同じ。(a)「善現於意云何色不可思議不可稱量無數量無等等無自性中色可得不受想行識不可思議不可稱量無數量無等等無自性中受想行識可得不」右も前卷(d)の如くして略し以下諸法のみ略出す。

三摩地門。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、(c)世尊、何の因緣の故に色は平等不平等性を施設思議稱量數量す可からざるや、受想行識も亦た平等不平等性を施設思議稱量數量す可からざるや。(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(e)眼界乃(に)至諸受。(e)耳界乃(ほ)至諸受。(c)鼻界乃(へ)至諸受。(c)舌界乃(と)至諸受。(c)身界乃(ち)至諸受。(c)意界乃(り)至諸受。(c)地界乃(ぬ)至識界。(c)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(c)內空乃(わ)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(c)四靜慮乃(た)至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃(な)至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

佛言はく、(d)善現、色の自性は不可議不可稱量無數量無等等無自性なるが故に色は平等不平等性を施設思議稱量數量す可からず。受想行識の自性も亦た不可思議不可稱量無數量無等等無自性なるが故に受想行識も亦た平等不平等性を施設思議稱量數量す可からず。(d)眼處乃(ろ)至意處。(d)色處乃(は)至法處。(d)眼界乃(に)至諸受。(d)耳界乃(ほ)至諸受。(d)鼻界乃(へ)至諸受。(d)舌界乃(と)至諸受。(d)身界乃(ち)至諸受。(d)意界乃(り)至諸受。(d)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(d)內空乃(わ)至無性自性空。(d)眞如乃(か)至不思議界。(d)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(d)四靜慮乃(た)至四無色定。(d)八解脫乃(れ)至十遍處。(d)四念住乃(そ)至八聖道支。(d)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃(な)至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

(c)「世尊何因緣故色不可施設思議稱量數量平等不平等性受想行識亦不可施設思議稱量數量平等不平等性」右も(b)の如くして略し以下諸法を略出するのみ。

(d)「善現色自性不可思議不可稱量無數量無等等無自性故……受想行識亦不可施設思議稱量數量平等不平等性」右も(c)の如くして略し以下諸法のみ略出す。

法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百九

初分不思議等品第四十二之二

具壽善現、佛に白して言さく、(a)世尊、何の因緣の故に色は不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性、受想行識も亦た不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性なるや。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

佛言はく(b)、善現、色は平等不平等性を施設思議稱量數量す可からざるが故に、受想行識も亦た平等不平等性を施設思議稱量數量す可からざるが故なり。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切

【一】不可思議義を續說す。
(a)「世尊何因緣故色不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性受想行識亦不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性」右も前卷(f)に準じて略し以下諸法のみ略出す。
(b)「善現色不可施設思議稱量數量平等不平等性故受想行識亦不可施設思議稱量數量平等不平等性故」右も(a)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

現、一切の如來應正等覺の所有る佛性如來性自然法性一切智智性は與に等しき者無し。況んや能く過ぐる有らんをや。甚深般若波羅蜜多は此の無等等事の爲の故に而かも世に現ずと。

（七）具壽善現、復た佛に白して言さく、世尊、但だ如來應正等覺の所有る佛性如來性自然法性一切智智性のみ不可思議不可稱量無數量無等等なりと爲すや、更らに餘の法有りと爲す耶と。佛言はく、善現、但だ如來應正等覺の所有る佛性如來性自然法性一切智智性のみ不可思議不可稱量無數量無等等なるに非ず。(e)善現、色も亦た不可思議不可稱量無數量無等等、受想行識も亦た不可思議不可稱量無數量無等等なり。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。(e)舌界乃至諸受。(e)身界乃至諸受。(e)意界乃至諸受(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)預流果乃至阿羅漢東。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。善現、一切法も亦た不可思議不可稱量無數量無等等なり。善現、一切法の眞法性の中に於ては心及び心所皆不可得なり。

復た次に(f)善現、色は不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性、受想行識も亦た不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性なり。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至諸受。(f)耳界乃至諸受。(f)鼻界乃至諸受。(f)舌界乃至諸受。(f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)菩薩の十地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共

【七】佛性等四性の妙勝なるものの不可思議なるのみならず一切法も皆不可得なるが故に不可思議なるを說く。

(e)「善現色亦不可思議不可稱量無數量無等等受想行識亦不可思議不可稱量無數量等等」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を各挿入せば他は皆同じ故に之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(f)「善現色不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性受想行識亦不可施設不可思議不可稱量無數量無等等性」右も(e)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

初分不思議等品第四十二之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は[二]大事の爲の故に而かも世に現ず。世尊、甚深般若波羅蜜多は[三]不可思議事の爲の故に而かも世に現ず。世尊、甚深般若波羅蜜多は[四]不可稱量事の爲の故に而かも世に現ず。世尊、甚深般若波羅蜜多は無數量事の爲の故に而かも世に現ず。世尊、甚深般若波羅蜜多は無等等事の爲の故に而かも世に現ずと。佛言はく、善現、是の如し是の如し。汝が所說の如し。甚深般若波羅蜜多は大事の爲の故に而かも世に現じ、甚深般若波羅蜜多は不可思議事の爲の故に而かも世に現じ、甚深般若波羅蜜多は不可稱量事の爲の故に而かも世に現じ、甚深般若波羅蜜多は無數量事の爲の故に而かも世に現じ、甚深般若波羅蜜多は無等等事の爲の故に而かも世に現ずと。世尊、云何が甚深般若波羅蜜多は大事の爲の故に而かも世に現ずるやと。善現、一切の如來應正等覺は普く一切有情を救拔し時として暫くも捨つる無きを以て大事と爲す。甚深般若波羅蜜多は此の大事の爲の故に而かも世に現ずと。世尊、云何が甚深般若波羅蜜多は不可思議事の爲の故に而かも世に現ずるやと。善現、一切の如來應正等覺の所有る[六]佛性如來性自然法性一切智智性は皆是れ不可思議事なり。甚深般若波羅蜜多は此の不可思議事の爲の故に而かも世に現ずと。世尊、云何が甚深般若波羅蜜多は不可稱量事の爲の故に而かも世に現ずるやと。善現、一切の如來應正等覺の所有る佛性如來性自然法性一切智智性は有情類而かも能く稱量する無し。甚深般若波羅蜜多は此の不可稱量事の爲の故に而かも世に現ず。世尊、云何が甚深般若波羅蜜多は無數量事の爲の故に而かも世に現ずるやと。善現、一切の如來應正等覺の所有る佛性如來性自然法性一切智智性は如實に其の數量を知ること有ること無し。甚深般若波羅蜜多は此の無數量事の爲の故に而かも世に現ずと。世尊、云何が甚深般若波羅蜜多は無等等事の爲の故に而かも世に現ずるやと。善

【一】般若大事等のために世に現ずるを說く。
【二】大事、眞に生くる實相を正觀するが第一に重要なるを云ふ。よく衆生の大苦を救ひ無上菩提を與ふるものなり。
【三】不可思議事。各相分別を離るる現實相なるを云ふ。
【四】不可稱量事。名相を離るゝが故に言說計量の及ばざるを云ふ。
【五】無等等事。最上、絕對なるを云ふ。
【六】佛性等。佛性、如來性、自然法性、一切智智性の四法は般若相應の佛の妙勝なれば不可思議事となす。

(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の[四]純無相無願相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の純無相無願相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(d)能く諸佛に色の世間純無相無願相、受想行識の世間純無相無願相を示す。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)内空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨智菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。[五]復た次に善現、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛に世間相を示すとは謂ゆる此世間想、他世間想を起らさらしむるなり。所以は何ん、實に法の此世、他世想を起す可き無きを以ての故に。

【四】純無相無願相。無相無願三昧に就て示す。

(d)「能示諸佛色世間純無相無願相受想行識世間純無相無願相」

右も(c)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【五】斷見者は但此世間想を說き常見者は此世の我心他世に入るとして他世間想を說けど般若は二邊を離るゝが故にこの想を起らざらしむるを云ふ。

づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の[二]無性自性空相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の無性自性空相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(b)能く諸佛に色の世間無性自性空相、受想行識の世間無性自性空相を示す。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至諸受。(b)耳界乃(ほ)至諸受。(b)鼻界乃(へ)至諸受。(b)舌界乃(と)至諸受。(b)身界乃(ち)至諸受。(b)意界乃(り)至諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の[三]純空相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の純空相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(c)能く諸佛に色の世間純空相、愛想行識の世間純空相を示す。(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(に)至諸受。(c)耳界乃(ほ)至諸受。(c)鼻界乃(へ)至諸受。(c)舌界乃(と)至諸受。(c)身界乃(ち)至諸受。(c)意界乃(り)至諸受。(c)地界乃(ぬ)至識界。(c)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(c)內空乃(わ)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(c)四靜慮乃(た)至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)菩薩の十地。

【二】無性自性空相。無性自性共に不可得なるを云ふ。
(b)「能示諸佛世間無性自性空相受想行識世間無性自性空相」右も(a)の場合の如くして略し以下諸法を略出するのみとす。

【三】純空相。十八空は相待空なるが待なく因なき空相を純空相と云ひ、三解脫三昧の第一を出すなり。
(c)「能示諸佛色世間純空相受想行識世間純空相」右も(b)の場合の如くして略し以下諸法を略出するのみとす。

至般若波羅蜜多。(h)内空乃至無性自性空。(h)眞如乃至不思議界。(h)苦聖諦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定。(h)八解脫乃至十遍處。(h)四念住乃至八聖道支。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)菩薩の十地。(h)五眼、六神通。(h)佛の十力乃至十八佛不共法。(h)無忘失法、恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。(h)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(h)預流果乃至阿羅漢果。(h)獨覺菩提。(h)一切の菩薩摩訶薩行。(h)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

卷の第三百八

初分佛母品第四十一之四

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の自性空相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の自性空相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(a)能く諸佛に色の世間自性空相、受想行識の世間自性空相を示す。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多(a)内空乃至無性自性空(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦、(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名

【一】自性空相。諸法各自に不變不改の性ありとするも、本來不可得なるを云ふなり。

(a)「能示諸佛色世間自性空相受想行識世間自性空相」右も前卷(h)の場合の如く以下諸法を略出するのみとす。

諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の[八]畢竟空相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の畢竟空相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(g)能く諸佛に色の世間畢竟空相受想行識の世間畢竟空相を示す。(g)眼處乃(ろ)至意處。(g)色處乃(は)至法處。(g)眼界乃(に)至諸受。(g)耳界乃(ほ)至諸受。(g)鼻界乃(へ)至諸受。(g)舌界乃(と)至諸受。(g)身界乃(ち)至諸受。(g)意界乃(り)至諸受。(g)地界乃(ぬ)至識界。(g)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(g)內空乃(わ)至無性自性空。(g)眞如乃(か)至不思議界。(g)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(g)四靜慮乃(た)至四無色定。(g)八解脫乃(れ)至十遍處。(g)四念住乃(そ)至八聖道支。(g)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(g)菩薩の十地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃(な)至一切相智。(g)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(g)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の[九]無性空相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何般若波羅蜜多に能く諸佛に世間の無性空相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(h)能く諸佛に色の世間無性空相、受相行識の世間無性空相を示す。(h)眼處乃(ろ)至意處。(h)色處乃(は)至法處。(h)眼界乃(に)至諸受。(h)耳界乃(ほ)至諸受。(h)鼻界乃(へ)至諸受。(h)舌界乃(と)至諸受。(h)身界乃(ち)至諸受。(h)意界乃(り)至諸受。(h)地界乃(ぬ)至識界。(h)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(h)布施波羅蜜多乃(を)

【八】畢竟空相。一切法有爲無爲畢竟空なる相を云ふ。

(g)「能示諸佛色世間畢竟空相受想行識世間竟畢空相」以下右も(f)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【九】無性空相。一切諸法に實體なき相を云ふなり。

(h)「能示諸佛色世間無性空相受想行識世間無性空相」以下右も(g)の場合の如くして略し以下法相のみ略出す。

を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の遠離相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(e)能く諸佛に色の世間遠離相、受想行識の世間遠離相を示す。(e)眼處乃(ろ)至意處。(e)色處乃(は)至法處。(e)眼界乃(に)至諸受。(e)耳界乃(ほ)至諸受。(e)鼻界乃(へ)至諸受。(e)舌界乃(と)至諸受。(e)身界乃(ち)至諸受。(e)意界乃(り)至諸受。(e)地界乃(ぬ)至識界。(e)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(e)內空乃(わ)至無性自性空。(e)眞如乃(か)至不思議界。(e)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(e)四靜慮乃(た)至四無色定。(e)八解脫乃(れ)至十遍處。(e)四念住乃(そ)至八聖道支。(e)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃(な)至一切相智。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の[七]寂靜相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の寂靜相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(f)能く諸佛に色の世間寂靜相、受想行識の世間寂靜相を示す。(f)眼處乃(ろ)至意處。(f)色處乃(は)至法處。(f)眼界乃(に)至諸受。(f)耳界乃(ほ)至諸受。(f)鼻界乃(へ)至諸受。(f)舌界乃(と)至諸受。(f)身界乃(ち)至諸受。(f)意界乃(り)至諸受。(f)地界乃(ぬ)至識界。(f)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(f)內空乃(わ)至無性自性空。(f)眞如乃(か)至不思議界。(f)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(f)四靜慮乃(た)至四無色定。(f)八解脫乃(れ)至十遍處。(f)四念住乃(そ)至八聖道支。(f)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(f)菩薩の十地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃(な)至一切相智。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)

(e)「能示諸佛色世間遠離相受想行識世間遠離相」右も(d)の場合の如く以下諸法のみを略出す。

【七】寂靜相。煩惱を離れ苦患を絶てる涅槃の相なり。

(f)「能示諸佛世間寂靜相受想行識世間寂靜相」右も(e)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

内空乃(も)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(c)四靜慮乃(た)至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃(な)至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の[五]不可思議相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の不可思議相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(d)能く諸佛に色の世間不可思議相、受想行識の世間不可思議相を示す。(d)眼處乃(ろ)至意處。(d)色處乃(は)至法處。(d)眼界乃(に)至諸受。(d)耳界乃(ほ)至諸受。(d)鼻界乃(へ)至諸受。(d)舌界乃(と)至諸受。(d)身界乃(ち)至諸受。(d)意界乃(り)至諸受。(d)地界乃(ぬ)至識界。(d)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(d)內空乃(わ)至無性自性空。(d)眞如乃(か)至不思議界。(d)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(d)四靜慮乃(た)至四無色定。(d)八解脫乃(れ)至十遍處。(d)四念住乃(そ)至八聖道支。(d)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃(な)至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多の諸佛に世間の[六]遠離相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相

【五】不可思議相。心相取著すべきものなき空相を云ふなり。(d)「能示諸佛色世間不可思議相受想行識世間不可思議相」右も(c)の場合と同方法によりて以下諸法のみ略出することとす。

【六】遠離相。諸法諸煩惱を脫離するを云ふ。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛の爲に[二]世間空を顯はす、故に佛母は能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛の爲に世間空を顯はすやと。善現、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛の爲に(b)色世間空を顯はし、受想行識世間空を顯はす。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至諸受。(b)耳界乃(ほ)至諸受。(b)鼻界乃(へ)至諸受。(b)舌界乃(と)至諸受。(b)身界乃(ち)至諸受。(b)意界乃(り)至諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(む)至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(ゐ)至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃(う)至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多は能く如來應正等覺をして諸の[三]世間をして世間空を受け世間空を想し世間空を思し世間空を了せしめしむ。善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

[四]復た次に甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の空相を示すを諸佛の母能く諸佛に世間の實相を示すと名づくと。世尊、云何が般若波羅蜜多は能く諸佛に世間の空相を示すやと。善現、甚深般若波羅蜜多は(c)能く諸佛に色の世間空相、受想行識の世間空相を示し、(c)眼處乃(ろ)至意處、(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(に)至諸受。(c)耳界乃(ほ)至諸受。(c)鼻界乃(へ)至諸受。(c)舌界乃(と)至諸受。(c)身界乃(ち)至諸受。(c)意界乃(り)至諸受。(c)地界乃(ぬ)至識界。(c)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(c)

【二】世間空。五陰乃至一切相智の空を云ふ。

(b)「顯色世間空顯受想行識世間空」右も(a)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【三】世間等。世間―空受―空想―空思―空了卽ち般若は世間の實相を示す。

【四】大下般若諸佛を生ずるを明す。

(c)「能示諸佛色世間空相受想行識世間空相」右も(b)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

(d)意界乃(り)至諸受。(d)地界乃(ぬ)至識界。(d)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(d)內空乃(わ)至無性自性空。(d)眞如乃(か)至不思議界。(d)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(d)四靜慮乃(た)至四無色定。(d)八解脫乃(れ)至十遍處。(d)四念住乃(そ)至八聖道支。(d)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃(な)至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)頂流果乃(ら)至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

卷の第三百七

初分佛母品第四十一之三

[一]佛言はく、善現、甚深般若波羅蜜多は(a)色に緣らずして識を生ずるに由りて是れを色を見ざるが故に名づけて色相を示すと爲し受想行識に緣らずして識を生ず、是れを受想行識を見ざるが故に名づけて受想行識相を示すと爲す。(a)眼處乃(ろ)至意處。(a)色處乃(は)至法處。(a)眼界乃(に)至諸受。(a)耳界乃(ほ)至諸受。(a)鼻界乃(へ)至諸受。(a)舌界乃(と)至諸受。(a)身界乃(ち)至諸受。(a)意界乃(り)至諸受。(a)地界乃(ぬ)至識界。(a)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(a)內空乃(わ)至無性自性空。(a)眞如乃(か)至不思議界。(a)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(a)四靜慮乃(た)至四無色定。(a)八解脫乃(れ)至十遍處。(a)四念住乃(そ)至八聖道支。(a)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃(な)至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き義に由りて甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づく。

【一】前卷の問に答へて識なければ色の苦惱聚相も亦無なり、色無相はこれ色を示すとの意なり。(a)「由不緣色而生於識是爲不見色故名示色相……是爲不見受想行識故名示受想行識相」右も前卷(d)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

[七五]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、一切の法性は生無く起無く知無く見無し。如何が甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生ず是れ諸佛の母なり、亦た能く如實に世間相を示すと說く可きやと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、一切の法性は生無く起無く知無く見無し、世俗に依りて、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生ず是れ諸佛の母なり亦た能く如實に世間相を示すと說くと。世尊、云何が諸法は生無く起無く知無く見無きやと。善現、[七六]一切法は空無所有なるを以て皆不自在虛誑不堅なり。故に一切法は生無く起無く知無く見無し。復た次に善現、[七七]一切の法性は依止する所無く繫屬する所無し。是の因緣に由りて生無く起無く知無く見無し。善現、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生じ能く世間相を示すと雖も而かも生ずる所無く示す所無し。(c)善現、甚深般若波羅蜜多は色を見ざるが故に色相を示すと名づけ受想行識を見ざるが故に受想行識相を示すと名づく。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

[七八]善現、是の如きの義に由り甚深般若波羅蜜多の能く諸佛に世間の實相を示すを諸佛の母なりと名づくと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は(d)云何が色を見ざるが故に色相を示すと名づけ受想行識を見ざるが故に受想行識相を示すと名づくるや。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌果乃至諸受。(d)身界乃至諸受。

【七五】一切法性生起知見なきに何ぞ般若獨り能く知見するやと問ひ佛之に答ふるなり。

【七六】一切法は空無所有等。一切法性に生滅知見無きは空無所有なればなり。此に云ふ不自在虛誑不堅は一面を云ひ無我を說けるものなり。

【七七】實相は依止されず繫縛されず、三界を超出するなり、故に一切法性生起知見なきなり。

(c)「善現甚深般若波羅蜜多不見色故名示色相不見受想行識故名示受想行識相」右も(b)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【七八】一往般若佛母の義を結び重ねて不見の故に示相と云ふ矛盾の實義を解說す。(d)「云何不見色故名示色相不見受想行識故名示受想行識相」右も(cの場合の如く以下略す。

[七一]爾の時佛、具壽善現に告げて言はく、善現常に知るべし。甚深般若波羅蜜多は是れ諸佛の母なり。甚深般若波羅蜜多は能く世間諸法の實相を示す。是の故に如來應正等覺は法に依りて住し、依住する所の法を供養恭敬尊重讃歎し攝受護持す。此の法は卽ち是れ甚深般若波羅蜜多なりと。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生じ、能く諸佛の與に所依の處と作り、能く世間諸法の實相を示せばなり。善現、一切の如來應正等覺は是れ[七二]恩を知る者能く恩を報ずる者なり。善現、若し問ひ有りて言はん、誰れか是れ恩を知り能く恩を報ずる者ぞと。應に正しく答へて言ふべし、[七三]佛は是れ恩を知り能く恩を報ずる者なりと。何を以ての故に、善現、一切世間に恩を知り恩を報ずるは佛に過ぐる無きが故なりと。世尊、云何が如來應正等覺は恩を知り恩を報じたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は是の如き乘に乘じ是の如き道を行じて無上正等菩提に來至す。菩提を得已つて一切時に於て是の乘是の道を供養恭敬尊重讃歎し攝受護持し曾て暫くも此の乘此の道を廢する無し。當に知るべし卽ち是れ甚深般若波羅蜜多なりと。善現、是れを如來應正等覺は恩を知り恩を報ずと名づくと。復た次に善現、一切の如來應正等覺は皆甚深般若波羅蜜多に依らざる無く、諸の有相及び無相の法に於て皆等覺を現じて實の作用無し。能作者所有無きを以ての故に。一切の如來應正等覺は皆甚深般若波羅蜜多に依らざる無く、諸の有相及び無相の法に於て皆等覺を現じて成辦する所無し。諸の形質得可からざるを以ての故に。善現、諸の如來應正等覺は是の如き甚深般若波羅蜜多に依りて能く等覺を現じて[七四]相無相の法皆作用無く成辦す所無きを知り、一切時に於て供養恭敬尊重讃歎し攝受護持して間斷有ること無し。故に眞實に恩を知り恩を報ずと名づく。復た次に善現、一切の如來應正等覺は皆甚深般若波羅蜜多に依らざる無く、一切法に於て無作無成無生の智轉じ、復た能く此の無轉の因緣を知る。是の故に應に知るべし、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生じ亦た能く如實に世間相を示すと。

【六〇】無相　善憶念…無忘失法相…無相
【六一】無相　無取著…恆住捨性相…無相
【六二】現等覺…一切智相…無相
【六三】善通達…道相智相…無相
【六四】無相　現別覺…一切相智相…無相
【六五】遍攝持…一切陀羅尼門相…無相
【六六】遍攝受…一切三摩地門相…無相
【六七】善受教…聲聞果相…無相
【六八】無相　自開悟…獨覺菩提相…無相
【六九】趣大果…一切菩薩摩訶薩行相…無相
【七〇】無與等…諸佛無上正等菩提相…無相
【七一】般若は佛母にして能く世間相を示し、諸佛の依止供養する所なるを說く。
【七二】他の恩をなすを知るが故に能く恩を報じ般若を尊重するなり。
【七三】佛は知恩報恩者なり、なされたるを知るが故に喜び働きよく捧げ施して盡きざるなり。
【七四】相無相の法等。一切法無作無成辦を知るは般若の恩なり。

と爲す。[四七]最も寂靜なるは是れ無相解脫門相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[四八]衆苦を厭ふは是れ無願解脫門相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[四九]大覺に趣くは是れ菩薩の十地相なりと。如來は如實に覺して無相と爲す。[五〇]能く觀照するは是れ五眼相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五一]塞滯無きは是れ六神通相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五二]善く決定するは是れ佛の十力相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五三]善く安立するは是れ四無所畏相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五四]斷絕無きは是れ四無礙解相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五五]利樂を與ふは是れ大慈相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五六]衰苦を拔くは是れ大悲相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五七]善事を慶ぶは是れ大喜相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五八]諠雜を棄つるは是れ大捨相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[五九]奪ふ可からざるは是れ十八佛不共法相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六〇]善く憶念するは是れ無忘失法相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六一]取著無きは是れ恒住捨性相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六二]現等覺は是れ一切智相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六三]善く通達するは是れ道相智相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六四]現別覺は是れ一切相智相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六五]遍ねく攝持するは是れ一切陀羅尼門相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六六]遍ねく攝受するは是れ一切三摩地門相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六七]善く教を受くるは是れ聲聞果相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六八]自ら開悟するは是れ獨覺菩提相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[六九]大果に趣くは是れ一切の菩薩摩訶薩行相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。[七〇]與に等しき無きは是れ諸佛の無上正等菩提相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。天子當に知るべし、一切の如來應正等覺は是の如き等の一切の法相に於て皆能く如實に覺して無相と爲す。是の因緣に由りて我れ諸佛は無礙智無與等を得たる者なりと說くと。

【四〇】無諠雜…四無色定相…無相
【四一】無繫縛…八解脫相…無相
【四二】能制伏…八勝處相…無相
【四三】不散亂…九次第定相…無相
【四四】無邊際…十遍處相…無相
【四五】能出離…三十七菩提分法相…無相
【四六】極遠離…空解脫門相…無相
【四七】最寂靜…無相解脫門相…無相
【四八】厭衆苦…無願解脫門相…無相
【四九】趣大覺…菩薩十地相…無相
【五〇】能觀照…五眼相…無相
【五一】無塞滯…六神通相…無相
【五二】善決定…佛十力相…無相
【五三】善安立…四無所畏相…無相
【五四】無斷絕…四無礙解相…無相
【五五】與利樂…大慈相…無相
【五六】拔衰苦…大悲相…無相
【五七】慶善事…大喜相…無相
【五八】棄諠雜…大捨相…無相
【五九】不可奪…十八佛不共法相…無相

〔一九〕爾の時世尊、諸の天子に告げたまはく、是の如し是の如し、汝が所說の如し、天子當に知るべし、一切の法相を如來は如實に覺して無相と爲す、所謂〔二〇〕變礙は是れ色相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二一〕領納は是れ受相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二二〕取像は是れ想相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二三〕造作は是れ行相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二四〕了別は是れ識相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二五〕苦惱聚は是れ蘊相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二六〕生長門は是れ處相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二七〕害毒多きは是れ界相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二八〕和合して起るは是れ緣起相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔二九〕能く惠捨するは是れ布施波羅蜜多相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三〇〕熱惱無きは是れ淨戒波羅蜜多相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三一〕忿恚せざるは是れ安忍波羅蜜多相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三二〕伏す可からざるは是れ精進波羅蜜多相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三三〕攝持の心は是れ靜慮波羅蜜多相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三四〕罣礙無きは是れ般若波羅蜜多相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三五〕無所有は是れ內空等の相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三六〕不顚倒は是れ眞如等の相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三七〕不虛妄は是れ四聖諦相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔三八〕擾惱無きは是れ四靜慮相なりと。如來は如實に覺して無相と爲す。〔三九〕限礙無きは是れ四無量相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔四〇〕諍雜無きは是れ四無色定相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔四一〕繋縛無きは是れ八解脫相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔四二〕能く制伏するは是れ八勝處相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔四三〕散亂せざるは是れ九次第定相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔四四〕無邊際は是れ十遍處相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔四五〕能く出離するは是れ三十七菩提分法相なりと、如來は如實に覺して無相と爲す。〔四六〕極めて遠離するは是れ空解脫門相なりと、如來は如實に覺して無相

〔一九〕佛諸天に告げて一切諸法無相を說き給ふ。
〔二〇〕變礙…色相…無相
〔二一〕領納…受相…無相
〔二二〕取緣…想相…無相
〔二三〕造作…行相…無相
〔二四〕了別…識相…無相
〔二五〕苦惱聚…蘊相…無相
〔二六〕生長門…處相…無相
〔二七〕害毒…界相…無相
〔二八〕和合起…緣起相…無相
〔二九〕能惠捨…布施波羅蜜多相…無相
〔三〇〕無熱惱…淨戒波羅蜜多相…無相
〔三一〕不忿恚…安忍波羅蜜多相…無相
〔三二〕不可伏…精進波羅蜜多相…無相
〔三三〕攝持心…靜慮波羅蜜多相…無相
〔三四〕無罣礙…般若波羅蜜多相…無相
〔三五〕無所有…內空等相…無相
〔三六〕不顚倒…眞如等相…無相
〔三七〕不虛妄…四聖諦相…無相
〔三八〕無擾惱…四靜慮相…無相
〔三九〕無限礙…四無量相…無相

所作に非ず、有漏に非ず無漏に非ず、世間に非ず出世間に非ず、有爲に非ず無爲に非ず、繫屬する所無く宣說す可からずと。天子當に知るべし、甚深般若波羅蜜多は衆相を遠離し甚深般若波羅蜜多は何を以て相と爲すやの問ひを致すべからずと。佛、諸の天子に告げたまはく、汝が意に於て云何、如し問有りて言はん、虛空は何の相なるやと、是の如き問ひを發せば正問と爲すや不やと。諸の天子言さく、不なり世尊、何を以ての故に、虛空は無體無相無爲にして問ふべからざるが故なりと。佛、天子に告げたまはく、甚深般若波羅蜜多も亦復た是の如し、問ひを爲すべからず。然かも[一七]諸の法相は佛有るも佛無きも法界法爾たり。佛は此の相に於て實の如く現に覺するが故に如來と名づくと。[一八]時に諸の天子復た佛に白して言さく、如來の覺りたまふ所の是の如き諸相は極めて爲れ甚深にして見難く覺り難し、如來は現に是の如き相を覺するが故に一切法に於て無礙智轉ず。一切の如來應正等覺は是の如き相に住して甚深般若波羅蜜多を分別開示し諸の有情の爲に諸法の相を集め方便開示し般若波羅蜜多に於て無礙智を得せしめたまふ。希有なり世尊、甚深般若波羅蜜多は是れ諸の如來應正等覺の常に所行の處なり。一切の如來應正等覺は是の處に行ずるが故に無上正等菩提を證得し、諸の有情の爲に一切の法相を分別し開示したまふ。所謂(b)色相を分別開示し受想行識相を分別開示し、(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受、(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

【一七】佛最上なるが故に是の相を作すに非ずして無佛にても此の法爾なり、如來實相の活現を完了すべし。

【一八】佛能く諸法の實相に住して通達無礙にして諸法の別相を說くなり。

(b)「分別開示色相分別開示受想行識相」右も(a)の場合の如くにして略し以下諸法のみ略出す。

以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無自性を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無性自性を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無所依止を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は非斷非常を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は非一非異を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無來無去を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多ば虛空を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は是の如き等の無量の諸相有りと。天子當に知るべし、是の如き諸相を一切の如來應正等覺は[一五]世俗に依りて說き勝義に依らずと。天子當に知るべし、甚深般若波羅蜜多の是の如き諸相は世間の天人阿素洛等皆壞する能はず。何を以ての故に、世間の天人阿素洛等も亦た是の相なるが故なり。天子當に知るべし、諸相は諸相を破壞すること能はず、諸相は諸相を了知すること能はず、諸相は無相を破壞すること能はず、諸相は無相を了知すること能はず、無相は諸相を破壞すること能はず、無相は諸相を了知すること能はず、無相は無相を破壞すること能はず、無相は無相を了知すること能はずと。何を以ての故に、若しは相若しは無相若しは相無相は皆無所有にして能破能知、所破所知及び破知者得可からざるが故なり。

天子當に知るべし是の如く諸相は(a)色の所作に非ず受想行識の所作に非ず、(a)眼處[ろ]乃至意處。(a)色處[は]乃至法處。(a)眼界[に]乃至諸受。(a)耳界[ほ]乃至諸受。(a)鼻界[へ]乃至諸受。(a)舌界[と]乃至諸受。(a)身界[ち]乃至諸受。(a)意界[り]乃至諸受。(a)地界[ぬ]乃至識界。(a)無明[る]乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多[を]乃至般若波羅蜜多。(a)內空[わ]乃至無性自性空。(a)眞如[か]乃至不思議界。(a)苦聖諦[よ]乃至道聖諦。(a)四靜慮[た]乃至四無色定。(a)八解脫[れ]乃至十遍處。(a)四念住[そ]乃至八聖道支。(a)空解脫門[つ]乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力[ね]乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智[な]乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果[ら]乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

天子當に知るべし、是の如き諸相は天の所作に非ず非天の所作に非ず、人の所作に非ず[一六]非人の

【一五】世俗に依りて說き勝義に依らず。空ならば何も說くべからず、然るに諸相を說くは如何との疑あるを以てこの義を示さんが爲に第一義眞諦によらずして俗諦に於て示すと云ひ、二諦觀を出す。

(a)「非色所作非受想行識所作」右も前卷(b)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【一六】非人。諸天等を指すなり。

無く別無し是れ一眞如なり。是の如き眞如は別異無きが故に壞無く盡無く分別す可からず。[二]善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて一切法の眞如究竟を證し乃ち無上正等菩提を得。此れに由るが故に甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生じ是れ諸佛の母にして能く諸佛に世間實相を示すと說く。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く一切法の眞如不虛妄不變異を覺す。實の如く眞如相を覺するに由るが故に說いて如來應正等覺と名づくと。時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多所證の一切法の眞如不虛妄不變異は極めて爲れ甚深にして見難く覺り難し。世尊、一切の如來應正等覺は皆一切法の眞如不虛妄不變異を用ひて諸佛の無上正等菩提を顯示し分別す。世尊、一切法の眞如は甚深にして誰れか能く信解せん。唯だ不退位の菩薩摩訶薩及び[三]正見を具足せる漏盡の阿羅漢有りて佛の此の甚深眞如を說きたまふを聞きて能く信解を生ずるのみ。如來は彼の爲に自ら證する所の眞如の相に依りて顯示し分別したまふと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。所以は何ん、善現、眞如は無盡なり。是の故に甚深なりと。世尊、何が故に眞如は無盡なるやと。善現、一切法は皆無盡なるを以ての故に眞如は無盡なり。善現、一切の如來應正等覺は眞如を證するが故に無上正等菩提を獲得し諸の有情の爲に一切法の眞如相を顯示し分別す。此れに由るが故に眞實說者と名づくと。

[四]爾の時三千大千世界の所有る欲界色界の天子、各種種天の妙華香を以て遙に散じて供養し、佛所に來至して雙足を頂禮し却つて一面に住し合掌恭敬して倶に佛に白して言さく、世尊、說きたまふ所の甚深般若波羅蜜多は何を以て相と爲すやと、爾の時佛、諸の天子に告げて言はく、天子當に知るべし。甚深般若波羅蜜多は空を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無相を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無願を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無作を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無生無滅を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無染無淨を以て相と爲し、甚深般若波羅蜜多は無性を

【二】般若の佛母にして諸佛に世間相を示す所以を明す。

【三】正見を具足せる漏盡の阿羅漢。正見を具足すとは佛を信じて三乘道に在るをいふ、漏盡は三乘の極果に至り聖智を以て煩惱を斷盡するを云ふ。

【四】佛諸天の問に答へて般若の空無相の理を說く。

如は卽ち五根眞如、五根眞如は卽ち五力眞如、五力眞如は卽ち七等覺支眞如、七等覺支眞如は卽ち八聖道支眞如、八聖道支眞如は卽ち四靜慮眞如、四靜慮眞如は卽ち四無色定眞如、四無色定眞如は卽ち八解脫眞如、八解脫眞如は卽ち八勝處眞如、八勝處眞如は卽ち九次第定眞如、九次第定眞如は卽ち十遍處眞如、十遍處眞如は卽ち三解脫門眞如、三解脫門眞如は卽ち菩薩の十地眞如、菩薩の十地眞如は卽ち五眼眞如、五眼眞如は卽ち六神通眞如、六神通眞如は卽ち一切陀羅尼門眞如、一切陀羅尼門眞如は卽ち一切三摩地門眞如、一切三摩地門眞如は卽ち佛の十力眞如、佛の十力眞如は卽ち四無所畏眞如、四無所畏眞如は卽ち四無礙解眞如、四無礙解眞如は卽ち大慈大悲大喜大捨眞如、大慈大悲大喜大捨眞如は卽ち十八佛不共法眞如、十八佛不共法眞如は卽ち無忘失法眞如、無忘失法眞如は卽ち恒住捨性眞如、恒住捨性眞如は卽ち一切智眞如、一切智眞如は卽ち道相智眞如、道相智眞如は卽ち一切相智眞如、一切相智眞如は卽ち善法眞如、善法眞如は卽ち不善法眞如、不善法眞如は卽ち無記法眞如、無記法眞如は卽ち世間法眞如、世間法眞如は卽ち出世間法眞如、出世間法眞如は卽ち有漏法眞如、有漏法眞如は卽ち無漏法眞如、無漏法眞如は卽ち有罪法眞如、有罪法眞如は卽ち無罪法眞如、無罪法眞如は卽ち雜染法眞如、雜染法眞如は卽ち清淨法眞如、清淨法眞如は卽ち過去法眞如、過去法眞如は卽ち未來法眞如、未來法眞如は卽ち現在法眞如、現在法眞如は卽ち欲界法眞如、欲界法眞如は卽ち色界法眞如、色界法眞如は卽ち無色界法眞如、無色界法眞如は卽ち有爲法眞如、有爲法眞如は卽ち無爲法眞如、無爲法眞如は卽ち預流果眞如、預流果眞如は卽ち一來果眞如、一來果眞如は卽ち不還果眞如、不還果眞如は卽ち阿羅漢果眞如、阿羅漢果眞如は卽ち獨覺菩提眞如、獨覺菩提眞如は卽ち一切の菩薩摩訶薩行眞如、一切の菩薩摩訶薩行眞如は卽ち諸佛の無上正等菩提眞如、諸佛の無上正等菩提眞如は卽ち一切の如來應正等覺眞如、一切の如來應正等覺眞如は卽ち一切の有情眞如なり。善現、若しは一切の如來應正等覺眞如、若しは一切有情眞如、若しは一切法眞如は二

妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて如來の死後非有なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて如來の死後亦有亦非有なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて如來の死後非有非非有なりと執し(二四)此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとす。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く他の諸の有情類の心心所法の若しは出若しは沒若しは屈若しは伸を知る。

卷の第三百六

初分佛母品第四十一之二

(一)復た次に善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く色を知り實の如く受想行識を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く色を知り實の如く受想行識を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く色は(二)眞如の如く(三)法界の如く(四)法性(五)不虛妄(六)不變異(七)無分別(八)無相狀(九)無作用(一〇)無戲論(一一)無所得の如しと知り、實の如く受想行識は眞如の如く法界の如く法性不虛妄不變異無分別無相狀無作用無戲論無所得の如しと知る。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く他の諸の有情類の出沒屈伸する心心所法も亦た眞如の如く法界の如く法性不虛妄不變異無分別無相狀無作用無戲論無所得の如しと知る。善現、諸の有情類の出沒屈伸する心心所法の眞如は即ち五蘊眞如なり。五蘊眞如は即ち十二處眞如、十二處眞如は即ち十八界眞如、十八界眞如は即ち六界眞如、六界眞如は即ち十二緣起眞如、十二緣起眞如は即ち一切法眞如、一切法眞如は即ち六波羅蜜多眞如、六波羅蜜多眞如は即ち內空乃至無性自性空眞如、內空乃至無性自性空眞如は即ち眞如乃至不思議界眞如、眞如乃至不思議界眞如は即ち苦集滅道聖諦眞如、苦集滅道聖諦眞如は即ち四念住眞如、四念住眞如は即ち四正斷眞如、四正斷眞如は即ち四神足眞如、四神足眞

これを眞實として一定せんとするものなり。

【一】佛知の正見世間を說く。

【二】眞如。ものそのままに實相なるを云ふ。眞實如常不變を固執するは般若の意にあらず。

【三】法界。實相たり緣起たる活現の世界にして單に萬有の羅列を總擧するにあらず。

【四】法性。いきる力からと云ふべく實性の固定とするは當らず。

【五】不虛妄。空無相と云ふも虛妄にあらず、實相現起して息まず。

【六】不變異。單に死せる凝然不變にあらず、變滅異動すとする斷滅論の所見と反するを云ふ。

【七】無分別。認識分別の概念を實在とするに反して總合進動に正觀するを云ふ。

【八】無相狀。相伏性能の固執されざるを云ふ。

【九】無作用。無能の凝固でなく無相なるが故に能く無量の方便現在する大用なり。

【一〇】無戲論。論理的遊戲なき正知見なり。

【一一】無所得。偏執、所得なき實相々應なり。

善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る無色不可見心を知る。[二三]復た次に善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く他の諸の有情類の心心所法の若しは[二四]出若しは沒若しは屈若しは伸を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く他の諸の有情類の心心所法の若しは出若しは沒若しは屈若しは伸を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く他の諸の有情類の出沒屈伸する[二五]心心所法の皆色受想行識に依りて生ずるを知る。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く他の諸の有情類の心心所法の若しは出若しは沒若しは屈若しは伸を知る。謂ゆる諸の如來應正等覺は實の如く他の諸の有情類の出沒屈伸する心心所法を知る。或は色に供り或は受想行識に依りて[二六]我及び世間は[二七]常なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて我及び世間は[二八]無常なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて我及び世間は亦[二九]常亦無常なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし。或は色に依り或は受想行識に依りて我及び世間は[三〇]非常非無常なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし。或は色に依り或は受想行識に依りて我及び世間は[三一]有邊なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて我及び世間は[三一]無邊なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて我及び世間は亦[三一]有邊亦無邊なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて我及び世間は[三一]非有邊非無邊なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて[三二]命者は卽ち身なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて命者は身に異ると執し、此れは是れ實諦にして餘は皆癡妄なりとし、或は色に依り或は受想行識に依りて[三三]如來の死後有なりと執し此れは是れ諦實にして餘は皆癡

も主として有情主觀體に云ふ。

【二七】常。常一の實體我あり福德により果報あり行道により解脫すとするを云ふ。

【二八】無常。所作皆現前の名利浮動の相狀あるのみにて主觀にも客觀にも常在するものなしとするを云ふ。

【二九】常亦無常。我に微細常住なるものと生存中活動して死する時滅するものとありとなす。

【三〇】非常非無常。俱に罪福因果を充分に說明し難き爲に兩非論をなすなり。

【三一】有邊等。三世間中主として五陰國土の二世間に就て邊無邊の四見を明せるなり。有邊は宇宙有限論、無邊は無限論、有邊亦無邊は兩立論、非有邊非無邊は兩非論なり。

【三二】命者は卽ち身なり等。肉體及精神の同異二種の邪見を明すなり、身滅すれば心を滅すと爲す故に命者は卽ち身なりと執すと云ふなり、他は之に反するなり。

【三三】如來の死後有なり等。如來、靈魂、絕對者の死後有無に就て四種の邪見を明せるなり。

【三四】以上列ぬる、我四句、世間四句、命身同異、如來四句は佛敎には十四無記として一定せしめず、然るに外道は

に善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る〔一五〕大心を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る大心を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る大心の無去無來・無生無滅・無住無異・無大無小なるを知る。何を以ての故に、心の自性無所有なるが故に非去非來・非生非滅・非住非異・非大非小なればなり。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る大心を知る。〔一六〕復た次に善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る〔一七〕無量心を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る無量心を知たまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る無量心の住に非ず不住に非ず去に非ず不去に非ざるを知る。何を以ての故に、無量心性は〔一八〕無漏無依なればなり。如何が住不住有り、去不去有りと說く可けんや。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る無量心を知る。

〔一九〕復た次に善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る〔二〇〕無見無對心を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る無見無對心を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る無見無對心の皆無心相なるを知る。何を以ての故に、一切心の自相空なるを以ての故なり。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る無見無對心を知る。

〔二一〕復た次に善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る無色不可見心を知る。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る無色不可見心を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る無色不可見心を知る。諸佛の五眼も皆見ること能はず。何を以ての故に、一切心の自性空なるを以ての故なり、

【一五】大心。全法性に合する心。生滅大小去來を絕する心。
【一六】佛般若に依り有情の無量心を知り給ふを說く。
【一七】無量心。略心、小心に對して廣心大心を云ひ、略廣小大に比して無量と云ふ、無量とは畢竟取相なきの謂なり。
【一八】無漏無依。無漏とは煩惱を離れたる法を云ひ、無依は無著に同じ。
【一九】佛般若に依りて無見無對心を知り給ふを說く。
【二〇】無見無對心、通常の見有對に對する內的專注の心、無念無相を云ふ。
【二一】佛般若に依りて有情の無色不可見心を知り給ふを說く。
【二二】更に佛の如實に心法を知り給ふを明す。
【二三】佛般若に依りて有情の心心所法の出沒屈伸を知り給ふを說く。
【二四】出沒屈伸。邪見煩惱に沒在すると、怖れて出離すると、邪見に屈曲すると、正道に正進するとなり。
【二五】心心所法。六識八識心とか六類心所とかの分別を越え、一切心相皆緣起たり五蘊の構成相に過ぎざるを知る。
【二六】我及び世間。有情と世間即ち主觀體と宇宙とを指す

[一〇] 復た次に善現、一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の有貪心離貪心・有瞋心離瞋心・有癡心離癡心を知ると、世尊、云何が如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の有貪心離貪心・有瞋心離瞋心・有癡心離癡心を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の貪瞋癡心如實性は貪瞋癡心有るに非ず、貪瞋癡心を離るゝに非ずと知る。何を以ての故に、如實性中の心心所法すら尙ほ得可からず、況んや有貪瞋癡心、離貪瞋癡心有らんをや。善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の離貪瞋癡心の如實性は貪瞋癡心有るに非ず貪瞋癡心を離るゝに非ずと知る。何を以ての故に、如實性中心心所法すら尙ほ得可からず、況んや有貪瞋癡心・離貪瞋癡心有らんをや。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依り實の如く彼の諸の有情類の有貪心離貪心・有瞋心離瞋心・有癡心離癡心を知る。

復た次に善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の有貪瞋癡心は有貪瞋癡心に非ず離貪瞋癡心に非ずと知る。何を以ての故に、是の如き二心は和合せざるが故なり。善現一切の如來應正等覺は是の如く彼の諸の有情類の離貪瞋癡心は有貪瞋癡心に非ず、離貪瞋癡心に非ざるを知る。何を以ての故に、是の如き二心は和合せざるが故なり。善現、是の如き如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の有貪心離貪心・有瞋心離瞋心・有癡心離癡心を知る。[一一] 復た次に善現、一切の如來應正等は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る[一二]廣心を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る廣心を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の所有る廣心の無廣無狹・無增無減・無去無來なるを知る。[一三]心性離の故に、非廣非狹・非增非減・非去非來なり。何を以ての故に、心の自性所有無きが故なり、誰れか廣く誰れか狹く誰れか增し誰れか減じ誰れか去り誰れか來らん。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて實の如く彼の諸の有情類の所有る廣心を知る。[一四] 復た次

[一〇] 佛般若に依りて諸有情類の有、離貪瞋癡心の實相を知るを說く。
[一一] 佛般若に依りて有情の廣心を知り給ふを說く。
[一二] 廣心。略小心に反して全法性に廣普する心、般若に在りては廣狹增減を絕する心。
[一三] 心性離の故に。心法廣狹增減の相を離るゝを云ふ。
[一四] 佛般若に依りて有情の大心を知り給ふを說く。

至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)内空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脱乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脱門乃至無願解脱門。(c)菩薩の十地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

[八]復た次に善現、一切有情の施設言説若しは有色若しは無色、若しは有想若しは無想、若しは非有想非無想、若しは此の世界若しは餘の十方一切世界の是の諸の有情若しは略心し若しは散心するに一切の如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依りて皆實の如し知ると。世尊、云何が如來應正等覺は實の如く彼の諸の有情類の略心散心を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は法性に由るが故に實の如く彼の諸の有情類の略心散心を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は法性に由るが故に實の如く彼の諸の有情類の略心散心を知りたまふやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く法性中法性すら尚ほ得可からず況んや略心散心有らんをやと知る。善現、是の如く如來應正等覺は法性に由るが故に實の如く彼の諸の有情類の略心散心を知る、復た次に善現、一切の如來應正等覺は[九]盡に由るが故に[九]「染を離る」が故に[九]滅の故に[九]斷の故に[九]寂靜の故に[九]遠離の故に實の如く彼の諸の有情類の略心散心を知ると。世尊、云何が如來應正等覺は盡に由るが故に染を離る」が故に滅の故に斷の故に寂靜の故に遠離の故に實の如く彼の諸の有情類の略心を知るやと。善現、一切の如來應正等覺は實の如く、盡離染滅斷寂靜遠離中盡等の性すら尚ほ得可からず、況んや略心散心有らんをやと知る。善現、是の如く如來應正等覺は甚深般若波羅蜜多に依り、盡等に由りて實の如く彼の諸の有情類の略心散心を知る。

【八】佛般若實相の智慧に因りて諸の有情類の略心散心を知るを説く。略心は疎略單一の心、散心は散亂浮動の心なり。

【九】盡等。盡とは無常を觀ずる慧、染を離るは世間一切の汚染を離脱する、滅とは結使を滅するなり、斷は無漏道斷、寂靜は涅槃寂滅、遠離は迷悟差別を離るを云ふ。

五蘊の實相を說くと。世尊、云何が諸佛の甚深般若波羅蜜多は世間五蘊の實相を說示するやと。善現、諸佛の般若波羅蜜多は俱に【四】五蘊は成有り壞有り生有り滅有り染有り淨有り增有り減有り入有り出有りと說示せず、俱に五蘊は過去有り未來有り現在有り善有り不善有り【五】無記有り欲界【六】繫有り色界繫有り無色界繫有りと說示せず。所以は何ん、善現、諸の空法は成有り壞有るに非ず、無相法は成有り壞有るに非ず、無願法は成有り壞有るに非ず、無作法は成有り壞有るに非ず、無生滅法は成有り壞有るに非ず、無體法は成有り壞有るに非ず。善現、諸佛の般若波羅蜜多は是の如く五蘊の實相を說示す。此の五蘊相は卽ち是れ世間なり。是の故に世間も亦た成壞生滅等の相無し。

【七】復た次に善現、一切の如來應正等覺は皆般若波羅蜜多に依りて普ねく能く諸の有情類の無量無數の心行差別を證知す。然かも此の般若波羅蜜多甚深の理の中には有情無く有情施設の得可き無し。(b)色無く色施設の得可き無く、受想行識無く受想行識施設の得可き無し。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至諸受。(b)耳界乃(ほ)至諸受。(b)鼻界乃(へ)至諸受。(b)舌界乃(と)至諸受。(b)身界乃(ち)至諸受。(b)意界乃(り)至諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。善現、諸佛般若波羅蜜多は是の如く世間の實相を說示す。善現、然かも此の(c)般若波羅蜜多甚深の理の中には色を示現せず受想行識を示現せず。何を以ての故に、善現、是の如き般若波羅蜜多甚深の理の中には甚深般若波羅蜜多すら尙ほ所有無く得可からず、況んや色受想行識の得可く示現する有らんをや。(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(に)至諸受。(c)耳界乃(ほ)至諸受。(c)鼻界乃(へ)

【四】五蘊は成有り等。五蘊を示すは破壞生滅などの相を示すに非ず空無相にして破なく生なきを明すにてこれ世間五蘊の實相を說示するなり。

【五】無記。三性の一、善にも非ず惡にも非ざる性質のものを云ふ。

【六】繫。繫縛の義にて煩惱を云ふ。

【七】世間五蘊の實相を說示するに心法知り難き故に細說す。

(b)「無色無色施設可得無受想行識無受想行識施設可得」右の文中「色乃至識」のある所に次下に出す諸法を入るれば他は同じ故に之を符號(b)にて略し以下諸法のみ略出す。

(c)「如是」の二字を「般若波羅蜜多甚深理中不示現色不示現受想行識……況有色受想行識可得示現」に加へ右を(b)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

生ずるを得るが故なり。一切の獨覺獨覺菩提は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に由りて生ずるを得るが故なり。一切の菩薩摩訶薩及び諸の菩薩摩訶薩行は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に由りて生ずるを得るが故なり。一切の如來應正等覺諸佛の無上正等菩提は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に由りて生ずるを得るが故なり。善現、一切の如來應正等覺の已に無上正等菩提を得、今無上正等菩提を得當に無上正等菩提を得べきも皆是の如き甚深般若波羅蜜多に因る。此の因緣に由りて甚深般若波羅蜜多は諸の如來に於て大恩德有り、是の故に諸佛は常に佛眼を以て甚深般若波羅蜜多を觀視し護念す。善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し能く甚深般若波羅蜜多を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せば一切の如來應正等覺は常に佛眼を以て觀視し護念し其れをして身心常に安樂を得、修する所の善業諸の留難無からしむ。善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等若し能く此の甚深般若波羅蜜多に於て聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說せば、十方世界の一切の如來應正等覺皆共に護念して無上正等菩提に於て不退轉を得せしむと。[三]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊の說の如く甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生じ、甚深般若波羅蜜多は能く世間諸法の實相を示す。世尊、云何が甚深般若波羅蜜多は能く諸佛を生じ、云何が甚深般若波羅蜜多は能く世間諸法の實相を示し、云何が諸佛は甚深般若波羅蜜多より生じ、云何が諸佛は世間相を說くやと。佛言はく、善現、甚深般若波羅蜜多は能く一切の如來應正等覺の所有る五眼六神通、若しは佛の十力[七]乃至十八佛不共法、若しは無忘失法恒住捨性、若しは一切智乃至[八]一切相智を生ず。善現、是の如き等の無量無邊の諸佛の功德は皆甚深般若波羅蜜多より生ず。是の如き諸佛の功德を得るに由るが故に名づけて佛と爲す。甚深般若波羅蜜多は能く是の如き諸佛の功德を生ず、此れに由るが故に能く諸佛を生ずと說き亦た諸佛は甚深般若波羅蜜多より生ずと說く。善現、甚深般若波羅蜜多は能く世間諸法の實相を示すとは謂ゆる能く世間五蘊の實相を示すなり。一切の如來應正等覺も亦た世間

【三】善現、佛に對して、般若の能く佛を生じ又能く世間諸法の實相を示す所以を問ひ、佛その義を說く。

初分佛母品第四十一之一

[一]佛言はく、善現、譬へば女人の諸の子を生育するが如し、若しは五若しは十二十三十四十五十或は百或は千ならんに其の母病を得。諸の子各各勤めて醫療を求め是の念言を作さく、云何が我が母當に病無く具壽安樂に身衆苦無く心愁憂を離るゝを得べきと。諸の子爾の時各方便を作し安樂具を求め母の身を覆護し、蚊虻蛇蝎寒熱飢渴等の觸の侵惱する所と爲る勿れと。又た種種上妙の樂具を以て恭敬供養して是の言を作さく、我が母慈悲して我れ等を生育し、種種世間の事務を教示したまへり。我れ等豈に母恩に報ひざるを得んやと。善現、如來應正等覺も亦復た是の如し、常に[二]佛眼を以て甚深般若波羅蜜多を觀視し護念せり。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は能く我れ等一切の佛法を生じ能く世間諸法の實相を示せばなり。十方世界一切の如來應正等覺の說法者と現ぜるも亦た佛眼を以て常に甚深般若波羅蜜多を觀じ護念せり何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多は能く諸佛の一切の功德を生じ能く世間諸法の實相を示せばなり。此の因緣に由りて我れ等諸佛は常に佛眼を以て甚深般若波羅蜜多を觀視し護念し彼の恩に報ひんが爲に暫くも捨つべからさるなり。何を以ての故に、善現、(a)一切の如來應正等覺、般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に由りて生ずるを得るが故なり。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼六神通。(a)佛の十乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。

一切の預流預流果一來一來果不還不還果阿羅漢阿羅漢果は皆是の如き甚深般若波羅蜜多に由りて

【一】般若を以て諸佛諸法の母となし、佛は般若に對する報恩の爲に般若の行者を守護することを說く。

【二】佛眼を以て…護念せり。諸佛寂滅に住するも無緣の慈悲を以て般若を重んじ行者を守護するなり。

(a)「一切如來應正等覺般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多皆由如是般若波羅蜜多而得生故」右の文中「如來應正等覺般若乃至布施波羅蜜多」の所に亦下に出す諸法を各挿入せば他は皆同文なる故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

復た能く般若乃至布施波羅蜜多を圓滿し復た能く內空乃至無性自性空を圓滿し復た能く眞如乃至不思議界を圓滿し復た能く苦聖諦乃至道聖諦を圓滿し復た能く四靜慮乃至四無色定を圓滿し復た能く八解脫乃至十遍處を圓滿し復た能く四念住乃至八聖道支を圓滿し復た能く空解脫門乃至無願解脫門を圓滿し復た能く菩薩の十地を圓滿し復た能く五眼六神通を圓滿し復た能く佛の十力乃至十八佛不共法を圓滿し復た能く無忘失法恒住捨性を圓滿し復た能く一切智乃至一切相智を圓滿し復た能く一切陀羅尼門一切三摩地門を圓滿し復た能く一切の菩薩摩訶薩行を圓滿し復た能く諸佛の無上正等菩提を圓滿せば、善現、當に知るべし皆是れ佛の威神力是の如き諸の善男子善女人等を加祐して其れをして是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時魔事起らさらしめ、復た般若乃至布施波羅蜜多を圓滿せしめ復た內空乃至無性自性空を圓滿せしめ復た眞如乃至不思議界を圓滿せしめ復た苦聖諦乃至道聖諦を圓滿せしめ復た四靜慮乃至四無色定を圓滿せしめ復た八解脫乃至十遍處を圓滿せしめ復た四念住乃至八聖道支を圓滿せしめ復た空解脫門乃至無願解脫門を圓滿せしめ復た菩薩の十地を圓滿せしめ復た五眼六神通を圓滿せしめ復た佛の十力乃至十八佛不共法を圓滿せしめ復た無忘失法恒住捨性を圓滿せしめ復た一切智乃至一切相智を圓滿せしめ復た一切陀羅尼門・一切三摩地門を圓滿せしめ復た一切の菩薩摩訶薩行を圓滿せしめ復た諸佛の無上正等菩提を圓滿せしむるなりと。

復た次に善現、十方世界の一切の如來應正等覺は諸の有情の爲に說法者と現じ亦た神力を以て是の如き諸の善男子善女人等を加祐し其れをして是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時諸の魔事無からしむ。善現、十方世界の不退轉位の一切の菩薩摩訶薩衆も亦た神力を以て是の如き諸の善男子善女人等を加祐し其れをして是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時諸の魔事無からしむと。

の吠瑠璃等の種種の珍寶は多く留難有りて諸の薄福人は求むるも得る能はざるが如く菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は福德少きが故に聽聞等の時諸の留難多く樂欲有りと雖も而かも成ずること能はず。所以は何ん、愚癡者有りて魔の使ふ所と爲り菩薩乘に住する諸の善男子善女人等の是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說せん時爲に留難を作す。

〔二三〕世尊、彼の愚癡者は覺慧薄劣にして自ら甚深般若波羅蜜多を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說せず、復た他の甚深般若波羅蜜多を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說するを障ふを樂ふ。世尊、彼の愚癡者は大法を樂はず、自ら般若波羅蜜多甚深の經典に於て聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說するを樂はず、他に於て是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時復た障礙を爲すと。

佛言はく、善現、是の如し是の如し、愚癡の人有りて魔の所使と爲り未だ善根を種ゑず福慧薄劣にして未だ佛所に於て弘誓願を發さず、未だ善友の攝受する所と爲らず、自ら般若波羅蜜多甚深の經典に於て聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說すること能はざるは新に大乘を學する諸の善男子善女人等の是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し施習思惟し他の爲に演說せん時爲に留難を作す。善現、當來世に於て善男子善女人等有りて覺慧薄劣に善根微少なるは諸の如來の廣大の功德に於て心欣樂せず、自ら般若波羅蜜多甚深の經典に於て聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說すること能はず復た樂ふて他の甚深般若波羅蜜多を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說するを障ふ。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說する時は多く魔事有り。〔二四〕善現、若し善男子善女人等、是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說せん時諸の魔事無く、

【二三】愚癡者魔の使する所となり般若所修の障礙を爲す。

【二四】佛威神力を加祐するの故に魔事起らざるを說く。

復た次に善現、諸の惡魔有り化して菩薩摩訶薩の像を作すこと若しは百若しは千乃至無量にして或は布施波羅蜜多を行じ或は淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ず、菩薩之を見て深く愛著を生じ斯れに由りて一切智智を損減し甚深般若波羅蜜多を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

所以は何ん、(a)善現、甚深般若波羅蜜多の中に於ては色所有無く受想行識所有無し。若し是の處に於て色所有無く受想行識所有無くんば則ち是の處に於ては佛所有無く菩薩聲聞及び諸の獨覺も亦た所有無ければなり。何を以ての故に、一切法の自性空なるを以ての故なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

[二〇]復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、是の如き般若波羅蜜多甚深の經を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說する時多く留難違害の事有りて起り少福者をして事成就せざらしむ。[二一]贍部洲に諸の珍寶の謂ゆる[二二]吠瑠璃螺貝璧玉珊瑚石藏末尼眞珠帝青大青金銀等の寶有るに多く盜賊違害の留難有りて諸の薄福人は求むるも得る能はさるが如く甚深般若波羅蜜多無價の寶珠も亦復た是の如し。諸の少福者聽聞等の時多く諸の惡魔爲に留難を作すと。

具壽善現、即ち佛に白して言さく、是の如し世尊、是の如し善逝、甚深般若波羅蜜多は、贍部洲

(a)「善現於甚深般若波羅蜜多中色無所有受想行識無所有……何以故以一切法自性空故」

右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じ故に今之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【二〇】般若無上法の故に諸惡魔の留難多きを說く。

【二一】贍部洲。閻浮提 Jambudvipa 印度のことなれども大乘經には須彌四洲の南洲として、この世界の如く考へらる。

【二二】吠瑠璃。鞞稠利夜とも云ふ、瑠璃珠なり。

に聞き便ち甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說せず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多說聽等の時は諸の魔事多くして留難を爲す菩薩應に覺して當に之を遠離すべしと。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等をか名づけて魔事の留難と爲し菩薩當に覺して之を遠離すべきやと。佛言はく、善現、甚深般若波羅蜜多說聽等の時多く相似の般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の魔事有りて留難す、菩薩應に覺して之を遠離すべし。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多說聽等の時多く相似の內空(わ)乃至無性自性空の魔事有りて留難す菩薩應に覺して當に之を遠離すべし。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多說聽等の時多く相似の眞如乃至不思議界の魔事有りて留難す。菩薩應に覺して當に之を遠離すべし。

復た次に善現、甚深般若波羅蜜多說聽等の時諸の惡魔有りて苾芻の像を作し菩薩の所に至りて二乘相應の法を宣說す。謂ゆる四聖諦四靜慮四無量四無色定八解脫乃(れ)至十遍處四念住乃(そ)至八聖道支三解脫門六神通等なり。是の法を說き已つて菩薩に謂つて言はく、大士當に知るべし、且(しばら)く此の法に依りて精勤修學せば預流果若しは一來果若しは不還果若しは阿羅漢果若しは獨覺菩提を取りて一切の生老病死を遠離すと。何ぞ無上正等菩提を用ひんやと。是れを般若の魔事留難と爲す、菩薩應に覺して當に之を遠離すべし。

復た次に善現、諸の惡魔有りて苾芻の像を作し威儀庠序形貌端嚴にして菩薩之を見て深く愛著を(一九)生じ斯れに由りて一切智智を損減し甚深般若波羅蜜多を聽聞書寫し受持讀誦し修習思惟し演說するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

【一九】菩薩之を見て深く愛著を生じ等。小菩薩佛身を見得ざるものが偶々魔に惑はされて變化の好相を見て眞實道に遠ざかるを云ふ。

しむるを欲せざるならん、設ひ固より隨ひ往くも何ぞ必ず法を聞けんやと。此の因緣に由りて其れに隨ひて去らず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は多くの施主有りて數相追隨し、聽法者來りて般若を說かんことを請ふも彼れ多くは礙無暇を緣ず、卽ち聽者に說かば嫌を起し後說くも受けず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

〔一五〕復た次に善現、諸の惡魔有りて〔一六〕苾芻の像を作し菩薩の所至り方便して破壞し般若波羅蜜多甚深の經典に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說することを得ざらしむと。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、云何が惡魔苾芻の像を作し菩薩の所に至り方便して破壞し般若波羅蜜多甚深の經典に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說することを得ざらしむるやと。佛言はく、善現、諸の惡魔有りて苾芻の像を作し菩薩の所に至り方便して破壞し其れをして甚深般若波羅蜜多を毀厭せしめ、謂ゆる是の言を作す、汝が習誦する所の〔一七〕無相經典は眞の般若波羅蜜多に非ず、我が習誦す所の有相經典は是れ眞の般若波羅蜜多なりと。是の語を作す時諸の菩薩の未だ受記を得ざる有りて便ち般若波羅蜜多に於て而かも疑惑を生じ、疑惑に由るが故に便ち般若波羅蜜多に於て毀厭を生ず、毀厭に由るが故に遂に甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說することを闕く、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、諸の惡魔有りて苾芻の像を作し菩薩の所に至り菩薩に謂つて言はく、〔一八〕若し諸の菩薩此の般若波羅蜜多を行ぜば唯實際を證し預流果若しは一來果若しは不還果若しは阿羅漢果若しは獨覺菩提を得るも終に無上佛果を得る能はず、何に緣りてか此に於て唐設劬勞するやと。菩薩旣

〔一五〕惡魔變化し來り方便して妨礙するを說く。
〔一六〕苾芻。比丘（Bhikṣu）乞士と譯し、無產、離家の生活するものなり。
〔一七〕無相經典。緣起、空無相を說く經。
〔一八〕般若を行ずれば四果は證し得るも佛果を得ずとて小果に導かんとの誘惑なり。

るを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は他方の身命を危くする處に適かんと欲するも能説法者は身命を失ふを恐れ共に往くを欲せず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は他方の[一]儉食水處に適かんと欲するも能聽法者は彼の艱辛を慮り隨ひ往くを欲せず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は他方の儉食水處に適かんと欲するも能說法者は彼の艱辛を慮りて共に往かず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は他方の豐樂の所に適かんと欲し、能聽法者其れに隨ひて去らんと欲する時說法者方便して誡めて言はく、汝利の爲に我れに隨ひて往かんと欲すと雖も而かも汝彼れに至らば豈に必ず心を遂げんや、宜しく善く[二]審思して後憂悔すること勿るべしと。時に聽法者聞き已つて念言すらく、是れ彼れ我れをして去らしむる相を欲せざるならん設ひ固より隨ひ往くも豈に必ず法を聞けんやと。此の因緣に由り其れに隨ひて去らず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は他方に往かんと欲するに經る所の道路曠野險難にして多く[三]賊の怖れ[四]旃荼羅の怖れ獵師惡獸毒蛇等の怖れ有り、能聽法者其れに隨ひて往かんと欲する時、說法者方便して誡めて言はく、汝今何が故に無事に我れに隨ひて是の如き諸の險難處を經んと欲するや、善く審思し後悔ひを致すこと勿る可しと。時に聽法者聞き已つて念言すらく、此れ我れをして隨ひ往か

【一】儉食水處。食料少き生活場處。

【二】審思して等。利養の得失にとらはれず、後悔なきを期すべしとなり。

【三】賊の怖れ乃至毒蛇等の怖れ。遠方に到る途中の曠野を過ぐる中の諸怖を云ふ。

【四】旃荼羅（Caṇḍāla）。屠者、殺者などと譯す、印度四姓中に於て屠殺守獄等を專業とする最下級の賤民種族なり。

薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は衆雜はるを樂はざるも能說法者は衆に處して雜はるを樂ひ兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は聽者をして[一]我が所作に於て悉く皆隨助せしめんと欲するも能聽法者は其の欲に隨はず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は說者の諸の所作の事に於て悉く皆隨助せんと欲するも能說法者は其の欲に隨はず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は財利の爲の故に他の爲に甚深般若波羅蜜多を說かんと欲し、復た彼れをして書寫し受持し讀誦し修習せしめんと欲するも能聽法者は其の爲す所を知り從ひ受くるを欲せず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は財利の爲の故に請ふて他に甚深般若波羅蜜多を說かんと欲し、復た方便して書寫し受持し讀誦し修習せんと欲するも能說法者は其の爲す所を知りて請ひに隨はず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は他方の身命を危くする處に適かんと欲するも能聽法者は身命を失ふを恐れ隨ひ往くを欲せず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習す

【一】一切の行住に於て能說法者の意に隨はしめんとすれど、能聽法者は法門を求むるのみにてこの衆事を行ひ得ざれば一致せずとなす。

復た次に善現、若し般若波羅蜜多甚深の經を書寫し受持し讀誦し修習し思惟し演說すること有らん時、或は人有り來りて人趣の種種の勝事を讚說し、四大王衆天三十三天夜摩天覩史多天樂變化天他化自在天の諸の勝妙の事を讚說し、梵衆天梵輔天梵會天大梵天の說の勝妙の事を讚說し、光天少光天無量光天極光淨天の諸の勝妙の事を讚說し、淨天少淨天無量淨天遍淨天の諸の勝妙の事を讚說し、廣天少廣天無量廣天廣果天の諸の勝妙の事を讚說し、無繁天無熱天善現天善見天色究竟天の諸の勝妙の事を讚說し、空無邊處識無邊處無所有處非想非非想處の諸の勝妙の事を讚說し、因りて復た告げて言はく、欲界に於て諸の欲樂を受け色界中に於て靜慮の樂を受け無色界に在りて寂定の樂を受くと雖も而かも[七]彼れ皆是れ無常苦空無我不淨變壞の法、[八]盡法謝法離法滅法なり。汝此の身に於て何ぞ精進して預流果若しは一來果若しは不還果若しは阿羅漢果若しは獨覺菩提を取りて般涅槃し畢竟安樂せざるや。何ぞ久しく生死輪廻に處し無事に他の爲に諸の苦惱を受け無上正等菩提を求趣するを用ひんやと。彼れ此の言に由りて書寫し受持し讀誦し修習し思惟し演說する所の般若波羅蜜多甚深の經事に於て究竟するを得ずんば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は一身にして累無く無礙自在なるも能聽法者は多く[九]人衆を將ひ纒擾繫縛し兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は一身にして累無く無礙自在なるも能說法者は多く人衆を將ひ纒擾繫縛し兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は衆雜はるを樂はざるも能聽法者は衆に處して雜はるを樂ひ兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩

【七】彼れ皆是れ。諸天樂も變盡を免れざれば速に預流等を得よとて、小果を期するなり。

【八】盡法等、無常にして滅盡謝離すべき賴みなきものと云ふ。

【九】人衆等。眷屬多く事緣繁きを云ふ。

と爲すと。

復た次に善現、能說法者は甚深般若波羅蜜多を恭敬し書寫し受持し讀誦し修習せしめんと欲するも能聽法者は甚深般若波羅蜜多を恭敬し書寫し受持し讀誦し修習するを欲せず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は甚深般若波羅蜜多を恭敬し書寫し受持し讀誦し修習するを得んと欲するも能說法者は甚深般若波羅蜜多を恭敬し書寫し受持し讀誦し修習するを欲せず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は已に貪欲瞋恚、[三]惛沈睡眠、[四]掉擧惡作、[五]疑蓋を離るるも能聽法者は未だ貪欲瞋恚惛沈睡眠掉擧惡作疑蓋を離れず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は已に貪欲瞋恚惛沈睡眠掉擧惡作疑蓋を離るるも能說法者は未だ貪欲瞋恚惛沈睡眠掉擧惡作疑蓋を離れず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れ菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、若し般若波羅蜜多甚深の經を書寫し受持し讀誦し修習し思惟し演說すること有らん時、或は人有り來りて三惡趣種種の苦事を說き因りて復た告げに言はく、汝是の身に於て應に勤め精進し速に[六]苦際を盡くして般涅槃すべし。何ぞ生死の大海に稽留して百千種の忍び難き苦事を受け無上正等菩提を求趣するやと。彼れ此の言に由りて書寫し受持し讀誦し修習し思惟し演說する所の般若波羅蜜多甚深の經事に於て究竟するを得ずんば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

【三】惛沈。暗く沈める憂鬱性、悲觀者、なきむし。
【四】掉擧。心浮き擧りて靜止せざる煩惱（飛び上り、浮調子）を云ふ。
【五】疑蓋。蓋は障なり、疑惑は心性を蓋うて悟道を妨ぐるが故に疑蓋と云ふ。
【六】苦際を盡くして般涅槃す。三惡趣を畏れて之を解脫するなり、卽ち大乘を棄てて小果を期するを云ふ。

復た次に善現、能說法者は已に六波羅蜜多を成就せるも能聽法者は未だ六波羅蜜多を成就せず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は已に六波羅蜜多を成就せるも能說法者は未だ六波羅蜜多を成就せず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

卷の第三百四

初分魔事品第四十之二

[一]復た次に善現、能說法者は六波羅蜜多に於て方便善巧有るも能聽法者は六波羅蜜多に於て方便善巧無く兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は六波羅蜜多に於て方便善巧有るも能說法者は六波羅蜜多に於て方便善巧無く、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は已に陀羅尼[二]を得るも能聽法者は未だ陀羅尼を得ず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを得ず當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は已に陀羅尼を得るも能說法者は未だ陀羅尼を得ず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず當に知るべし是れを菩薩の魔事

【一】前卷と同く說聽和合せざれば魔事たるを明す。

【二】陀羅尼(Dhāraṇī)。總持、能持、能遮などと譯さる。種々の善法を集め持ちて散失せしめざるを云ふ。

るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は能說法者に衣服飮食臥具醫藥及び餘の資財を供養せんと欲するも能說法者受用するを樂はず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は能聽法者に衣服飮食臥具醫藥及び餘の資財を供給せんと欲求するも能聽法者受用するを樂はず兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は開智[四二]を成就し廣說するを樂はざるも能聽法者は演智を成就し略說するを樂はず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は開智を成就し唯だ略說するを樂ふのみなるも能說法者は演智を成就し唯だ廣說のみを樂ひ、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は專ら廣く[四三]十二分教次第法義の所謂契經、應頌、記莂、諷頌、自說、因緣、譬喩、本事、本生、方廣、希法、論義を知らんと樂ふも能聽法者は廣く十二分教次第法義の所謂契經乃至論義を知るを樂はず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は專ら廣く十二分教次第法義の所謂契經乃至論義を知らんと樂ふも能說法者は廣く十二分教次第法義の所謂契經乃至論義を知るを樂ばず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

三、十二の二は衣服に屬す。

【四一】更に兩者不和合の相を廣說す。

【四二】開智。略說開示にて廣說を樂はざるもの、演智に廣說布演して略說を樂はざるものなり。

【四三】十二分教次第法義。一切經を其の說法の樣式に依りて十二種に分けしもの、卽ち契經乃至論義の十二種の經文を云ふ。同經は修多羅、祇夜、弊夜迦蘭、伽他、優陀那、尼陀那、阿波陀那、一曰多迦、闍多迦、毘弗略、阿部多達磨、優波提舍と次第列擧せるものなり。

は常坐不臥、十一には隨得敷具、十二には但三衣を受行するも、能聽法者は十二杜多の功德を受けず、謂ゆる阿練若處に住せず乃至但三衣を受けず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は十二杜多の功德の謂ゆる阿練若處に住し乃至但三衣を受くるを受行するも能說法者は十二杜多の功德を受けず謂ゆる阿練若處に住せず乃至但三衣を受けざるなり、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は信有り戒有り善意樂有り他の爲に甚深般若波羅蜜多を說かんと欲し方便勸勵して書寫し受持し讀誦し修習するも能聽法者は信無く戒無く善意樂無く聽受を樂はず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は信有り戒有り善意樂有りて甚深般若波羅蜜多を聽聞し書寫し受持し讀誦し修習するを求欲するも能說法者は信無く戒無く善意樂無く爲に說くを欲せず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は心慳悋無く一切能く捨つるも能聽法者は心慳悋有りて棄捨する能はず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は心慳悋無く一切能く捨つるも能說法者は心慳悋有りて棄捨する能はず、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知

一、一阿練若處。空閑處又は遠離處を譯す、人家を遠離して空閑の處に住するなり。
二、常乞食。自ら行て食を乞ひ、敢て他の請待及び僧中の食を受けざるなり。
三、糞掃衣。人の委棄せる糞掃に均しき者を縫納して衣となすなり。
三、一受食。午前中但一度の正食を作して更に二度以上の正食を作さざるなり。
五、一坐食。一受食に同じ、但し前者は小食を許すも此れは小食をも作さざるなり。
六、隨得食。又節量食と云ふ、一と丸めの食を鉢中に受けて便ち止め多く受けざるなり。
七、塚間住。墳墓の所に住するなり。
八、露地住。露天の地に住するなり。
九、樹下住。樹下に住するなり。
十、常坐不臥。常に趺坐して橫臥せざるなり。
十一、隨得敷具。草地あるに隨て住するなり。
十二、但三衣。ただ僧伽梨、鬱多羅、安陀會の三衣のみを着して餘の長衣を用ひざるなり。
以上の內一、七、八、九、十、十一の六は住處に屬し、二、四、五、六の四種は食事に屬し、

〔三八〕復た次に善現、能聽法者は甚深般若波羅蜜多を受樂聽聞し書寫し受持し讀誦し修習するも能說法者樂に著し懈怠にして爲に說くを欲せずんば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は心樂に著せず亦た懈怠ならず、他の爲に甚深般若波羅蜜多を說くを樂ひ方便して勸勵し書寫し受持し讀誦し修習するも能聽法者懈怠にして樂に著し聽受するを欲せずんば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能聽法者は甚深般若波羅蜜多を愛樂聽聞し書寫し受持し讀誦し修習するも能說法者他方に適かんと欲し爲に說くを獲ずんば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は他の爲に甚深般若波羅蜜多を說かんと樂ひ方便して勸勵し書寫し受持し讀誦し修習するも能聽法者他方に適かんと欲し聽受するを獲ずんば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

〔三九〕復た次に善現、能說法者は大惡を具し名利衣服飮食臥具醫藥供養の資財を愛重せんと欲するも能聽法者は少欲喜足にして遠離行を修し勇猛正勤して念定慧を具し利養恭敬名譽を厭怖し、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は少欲喜足にして遠離行を修し勇猛正勤して念定慧を具し利養恭敬名譽を厭怖するも、能聽法者は大惡を具し名利衣服飮食臥具醫藥供養の資財を愛重せんと欲し、兩ながら和合せざれば甚深般若波羅蜜多を說聽し書寫し受持し讀誦し修習するを獲ず、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、能說法者は十二〔四〇〕杜多の功德、一には住阿練若處、二には常乞食、三には糞掃衣、四には一受食、五には一坐食、六には隨得食、七には塚間住、八には露地住、九には樹下住、十に

【三八】能聽法者能說法者の一致せざる相を明す。

【三九】能說法者は利養を愛重するも能聽法者の心五欲五蓋を離るれば是れ菩薩の魔事となす。

【四〇】杜多Dhūto 衣服飮食住處の三種の貪著を抖擻ふ行法を云ふ。

妻子の念を起し若しは兄弟姉妹の念を起し若しは親戚朋侶の念を起さば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、是の如き般若波羅蜜多甚深の經を書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時、若しは惡賊惡獸の念を起し若しは惡人惡鬼の念を起し若しは衆會遊戲の念を起し若しは婬女歡娛の念を起し若しは[三六]報恩報怨の念を起し若しは諸餘無量の異念を起さば皆是れ惡魔の引發する所にして般若波羅蜜多を障ふと爲す、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、是の如き般若波羅蜜多甚深の經を書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時、大名譽恭敬供養の所謂衣服飮食臥具醫藥資財を得ん、是の善男子善女人等是の事に愛著して所作の業を廢せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、是の如き般若波羅蜜多甚深の經を書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時、諸の惡魔有りて種種世俗の書論、或は復た二乘相應の經典を執持し詐りて親友と現じ菩薩に投與し、此の中世俗の勝事を廣說す、或は復た諸の[三七]蘊界處諦實緣起三十七種菩提分法三解脫四靜慮等を廣說す、是の經典の義趣は深奥なり。應に勤め修學し、習ふ所の經を捨つべしと言はん。是の菩薩乘の諸の善男子善女人等は善巧方便して惡魔の與ふる所の世俗の書論或は二乘經に愛著すべからず。所以は何ん、世俗の書論二乘經典は一切智智を引發する能はず、無上正等菩提の巧方便に趣くに非ざるが故なり。善現、我れ此の般若波羅蜜多甚深の經の中にて、菩薩摩訶薩道の善巧方便を廣說す、若し此の中に於て精勤修學せば速に無上正等菩提を證せん。若し菩薩乘の諸の善男子善女人等、般若波羅蜜多甚深の經典を棄捨し惡魔の世俗の書論或は二乘經を受學せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

【三六】報恩報怨。復讐の念の斥くべきは勿論、報恩の念も亦異念たり、執せば魔事たり。

【三七】蘊界處諦實緣起。五蘊十八界十二處四諦と十二緣起とは明かなるも、實は何を指すか、毘崩伽等は根を列ぬるも、實と云ふは當らず、勝論の實句の如き實(陀驃)なきも實有、實我を云ふものを指すとも云ひ得るも、次卷の用例にて諦實は眞實の意、今は四諦のことなるべし。

尼門・一切三摩地門。(ろ)預流果(ろ)乃至阿羅漢果。(ろ)獨覺菩提。(ろ)一切の菩薩摩訶薩行。(ろ)諸佛の無上正等菩提。

是の故に文字有りて能く般若波羅蜜多を書くと執すべからず。

世尊、若し菩薩乘の諸の善男子善女人等、是の如き執を作し、此の般若波羅蜜多甚深の經中に於て無文字是れ色、無文字是れ受想行識、無文字是れ眼處(ろ)乃至意處、無文字是れ色處(ろ)乃至法處、無文字是れ眼界(ろ)乃至諸受、無文字是れ耳界(ろ)乃至諸受。無文字是れ鼻界(ろ)乃至諸受、無文字是れ舌界(ろ)乃至諸受、無文字是れ身界(ろ)乃至諸受、無文字是れ意界(ろ)乃至諸受、無文字是れ地界(ろ)乃至識界、無文字是れ無明(ろ)乃至老死愁歎苦憂惱、無文字是れ布施波羅蜜多(ろ)乃至般若波羅蜜多、無文字是れ內空(ろ)乃至無性自性空、無文字是れ眞如(ろ)乃至不思議界、無文字是れ苦聖諦(ろ)乃至道聖諦、無文字是れ四靜慮(ろ)乃至四無色定、無文字是れ八解脫(ろ)乃至十遍處、無文字是れ四念住(ろ)乃至八聖道支、無文字是れ空解脫門(ろ)乃至無願解脫門、無文字是れ菩薩の十地、無文字是れ五眼・六神通、無文字是れ佛の十力(ろ)乃至十八佛不共法、無文字是れ無忘失法・恒住捨性、無文字是れ一切智(ろ)乃至一切相智、無文字是れ一切陀羅尼門・一切三摩地門、無文字是れ預流果(ろ)乃至阿羅漢果、無文字是れ獨覺菩提、無文字是れ一切の菩薩摩訶薩行、無文字是れ諸佛の無上正等菩提なりとせば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、故が所說の如しと。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等。是の如き般若波羅蜜多甚深の經を書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時、[三五]若しは國土の念を起し若しは城邑の念を起し若しは王都の念を起し若しは方處の念を起さば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、是の如き般若波羅蜜多甚深の經を書寫し受持讀誦し修習思惟し演說する時、若しは親教軌範の念を起し若しは同學善友の念を起し若しは父母

(ろ)　五蘊の如く別說すべきも今便宜上(ろ)以下合說し諸法を略出するのみとす。

【三五】　若しは國土の念を起し等。國の貧富安否などの念を云ふ。城邑、王都、方處の念これに例す。

[三三]善現、若し菩薩乘の諸の善男子善女人等、是の如き念を作さん、無性は是れ色、無性は是れ受想行識、無性は是れ眼處乃(ろ)至意處、無性は是れ色處乃(は)至法處、無性は是れ眼界乃(に)至諸受、無性は是れ耳界乃(ほ)至諸受、無性は是れ鼻界乃(へ)至諸受、無性は是れ舌界乃(と)至諸受、無性は是れ身界乃(ち)至諸受、無性は是れ意界乃(り)至諸受、無性は是れ地界乃(ぬ)至識界、無性は是れ無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱、無性は是れ布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多、無性は是れ內空乃(わ)至無性自性空、無性は是れ眞如乃(か)至不思議界、無性は是れ苦聖諦乃(る)至道聖諦、無性は是れ四靜慮乃(た)至四無色定、無性は是れ八解脫乃(れ)至十遍處、無性は是れ四念住乃(そ)至八聖道支、無性は是れ空解脫門乃(つ)至無願解脫門、無性は是れ菩薩の十地、無性は是れ五眼、六神通、無性は是れ佛の十力乃(ね)至十八佛不共法、無性は是れ無忘失法、恒住捨性、無性は是れ一切智乃(な)至一切相智、無性は是れ一切陀羅尼門、一切三摩地門、無性は是れ預流果乃(ら)至阿羅漢果、無性は是れ獨覺菩提、無性は是れ一切の菩薩摩訶薩行、無性は是れ諸佛の無上正等菩提なりと、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

[三四]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し菩薩乘の諸の善男子善女人等、是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫して是の如き念を作さん、我れ文字を以て般若波羅蜜多を書くと。彼れ文字もて能く般若波羅蜜多を書くと執せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。何を以ての故に、世尊、此の般若波羅蜜多甚深の經中に於ては(b)色は文字無く受想行識は文字無し。(b)眼處乃(ろ)至意處。(b)色處乃(は)至法處。(b)眼界乃(に)至諸受。(b)耳界乃(ほ)至諸受。(b)鼻界乃(へ)至諸受。(b)舌界乃(と)至諸受。(b)身界乃(ち)至諸受。(b)意界乃(り)至諸受。(b)地界乃(ぬ)至識界。(b)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(b)內空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃(な)至一切相智。(b)一切陀羅

【三三】無性を執するも魔事なるを明す。
(ろ) 五蘊の如く分說すべきを(ろ)の如く以下合說し且つ其れを略出す。

【三四】文字に般若を求むるも無文字を執するも倶に邊執の魔事なるを說く。
(b)「色無文字受想行識無文字」右も(a)の如く略し以下諸法のみ略出す。

二九何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多の中樂說相無きが故に、甚深般若波羅蜜多は思議し難きが故に、甚深般若波羅蜜多は思慮無きが故に、甚深般若波羅蜜多は生滅無きが故に、甚深般若波羅蜜多は染淨無きが故に、甚深般若波羅蜜多は定亂無きが故に、甚深般若波羅蜜多は名言を離るるが故に、甚深般若波羅蜜多は說く可からざるが故に、甚深般若波羅蜜多は得可からざるが故なり。所以は何ん、善現、甚深般若波羅蜜多の中には前に說く所の如く諸法は皆無所有にして都べて得可からざればなり。菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時、三〇是の如き諸法もて其の心を擾亂して究竟せざらしめば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は書寫す可きや不やと。佛言はく善現、甚深般若波羅蜜多は三一書寫す可からず。何を以ての故に、善現、此の般若波羅蜜多甚深の經中(a)色の自性は無所有にして得可からず受想行識の自性は無所有にして得可からず。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受、(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)内空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

善現、諸法の自性皆無所有にして得可からざるが故に卽ち是れ無性なり。是の如き三二無性は卽ち是れ般若波羅蜜多なり。無性法もて能く無法を書くに非ず、是の故に般若波羅蜜多は書寫す可からず。

【二九】般若無相にして樂說、思議を超越するを示す。

【三〇】是の如き諸法。色聲戒定、六度などの法を云ふ。

【三一】寫不寫を超越す、單に寫經を尊しとするは深般若に應ぜず。(a)「色自性無所有不可得受想行識自性無所有不可得」右の「色乃至識」の所に次下に出す諸法を各挿入せば他は同じ文を繰返へすのみ故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【三二】無性。一切諸法に實體無きを云ふ。般若空なれば無性となすなり。

と。

復た次に善現、貧人有りて[二五]無價の寶を得て棄て而かも求めて[二六]迦遮末尼を取るが如し、汝が意に於て云何、是の人智有りや不やと。善現答へて言はく、是の人無智なりと。佛言はく、善現、當來世に於て菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて大般若波羅蜜多甚深の經典を棄て求めて二乘相應の經典を學し中に於て一切智智を求めんと欲するも亦復た是の如し。意に於て云何、是の善男子善女人等は是れ黠慧なりや不やと。善現答へて言はく、是れ愚癡の類なりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

[二七]復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、大般若波羅蜜多甚深の經を書く時衆辯競ひ起り種種差別の法門を樂說し書寫する所の甚深般若波羅蜜多をして究竟することを得ざらしめば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。[二八]所謂布施乃至般若を樂說し、欲界色界無色界を樂說し、受持讀誦宣說を樂說し、看病餘の福業を修するを樂說し、色を樂說し受想行識を樂說し、眼處乃至意處を樂說し、色處乃至法處を樂說し、眼界乃至諸受を樂說し、耳界乃至諸受を樂說し、鼻界乃至諸受を樂說し、舌界乃至諸受を樂說し、身界乃至諸受を樂說し、意界乃至諸受を樂說し、地界乃至識界を樂說し、無明乃至老死愁歎苦憂惱を樂說し、布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多を樂說し、內空乃至無性自性空を樂說し、眞如乃至不思議界を樂說し、苦聖諦乃至道聖諦を樂說し、四靜慮乃至四無色定を樂說し、八解脫乃至十遍處を樂說し、四念住乃至八聖道支を樂說し、空解脫門乃至無願解脫門を樂說し、菩薩の十地を樂說し、五眼、六神通を樂說し、佛の十力乃至十八佛不共法を樂說し、無忘失法、恒住捨性を樂說し、一切智乃至一切相智を樂說し、一切陀羅尼門、一切三摩地門を樂說し、預流果乃至阿羅漢果を樂說し、一切の菩薩摩訶薩行を樂說し、諸佛の阿耨多羅三藐三菩提を樂說するものなり。

【二五】無價の寶。價値量り知るべからざる無上寶を云ふ。
【二六】迦遮末尼(Kācamaṇi)。水精を云ふ。
【二七】般若書寫讀誦修業の魔事を明す。
【二八】所謂等。滔々數千萬言望洋の歎を深くする類の辯說書寫皆魔事なるを明す。
(ろ) 五蘊の如く分說せず以下皆(ろ)の如く略說す。

不やと。善現答へて言はく、是の人智無し、是れ愚癡の類なりと。佛言はく、善現、當來世に於て諸の善男子善女人等有りて無上正等菩提を求めてと欲し是の如き甚深般若波羅蜜多を棄捨し、求めて二乘相應の經典を學するも亦復た是の如し。意に於て云何、是の善男子善女人等は能く無上佛菩提を得るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊と。佛言はく、善現、意に於て云何、是の善男子善女人等は是れ[三二]黠慧なるや不やと。善現答へて言はく、是れ愚癡の類なりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、人求めて[三三]轉輪聖王を見、見已つて識らずして捨て餘處に至りて凡小王を見、其の形相を取りて是の如き念を作さんが如し。轉輪聖王の形相威德と此れと何ぞ異らんと。汝が意に於て云何、是の人智有りや不やと。善現答へて言はく、是の人無智なりと。佛言はく、善現、當來世に於て菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて無上正等菩提を求めんと欲して是の如き甚深般若波羅蜜多を棄捨し求めて、二乘相應の經典を學するも亦復た是の如し。意に於て云何、是の善男子善女人等は能く大菩提を證得すと爲すや不やと。善現、答へて言はく、不なり世尊と。佛言はく、善現、意に於て云何、是の善男子善女人等は是れ黠慧なるや不やと。善現答へて言はく、是れ愚癡の類なりと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、飢人有りて百味の食を得て棄て而かも求めて[三四]兩月穀飯を噉ふが如し。汝が意に於て云何、是の人智有りや不やと。善現答へて言はく、是の人無智なりと。佛言はく、善現、當來世に於て菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて大般若波羅蜜多甚深の經典を棄て求めて二乘相應の經典を學し中に於て一切智智を求めんと欲するも亦復た是の如し。意に於て云何、是の善男子善女人等は是の如し。意に於て云何、是の善男子善女人等は是れ黠慧なりや不やと。善現答へて言はく、是れ愚癡の類なりと。佛言はく、是の如し是の如し、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲す

【三二】黠慧。愚癡の對、智慧聰明なるを云ふ。

【三三】轉輪聖王は王中の王四天下を總領し梵輪自轉して無爲にして治る大王なり。

【三四】兩月穀。二ケ月程にて早熟する米の一種にて不味なるもの。

猶ほ抜葉の如く一切智智を引發する能はずと名づく。甚深般若波羅蜜多は定めて能く一切智智を引發する大勢力有ること猶ほ樹根の如し。是の善男子善女人等、般若波羅蜜多甚深の經典を棄捨し求めて餘經を學せば定めて一切智智を得ること能はず。何を以つての故に、[17]善現、是の如き般若波羅蜜多甚深の經典は一切の菩薩摩訶薩の世間出世間の功德法を出生するが故なり。善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修學せば則ち一切の世間出世間法を修學すと爲す。

復た次に善現、譬へば[18]餓狗其の主の食を捨て返つて僕使に從ひて之を求覓(もと)むるが如し。當來世に於て菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて一切の佛法の根本甚深般若波羅蜜多を棄捨し求めて[19]二乘相應の經典を學するも亦復た是の如し、當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、譬へば人有りて香象を求めんと欲し、此の象を得已りて捨て而かも跡を求むるが如し。汝が意に於て云何、是の人智有りや不やと。善現答へて言はく、是の人無智なりと。佛言はく、善現、當來世に於て菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて一切の佛法の根本甚深般若波羅蜜多を棄捨し求めて二乘相應の經典を學するも亦復た是の如し。當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、譬へば人有りて大海を見んと欲するが如し。既に海岸に至り返つて[20]牛跡を觀て是の念言を作さん、大海中の水の淺深多少豈に此れに及ばん耶と。汝が意に於て云何、是の人智有りや不やと。善現答へて言はく、是の人無智なりと。佛言はく、善現、當來世に於て菩薩乘の諸の善男子善女人等有りて一切の佛法の根本甚深般若波羅蜜多を棄捨し求めて二乘相應の經典を學するも亦復た是の如し。當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。復た次に善現、工匠或は彼の弟子有りて[21]大殿の天帝釋殊勝殿の量の如きを造らんと欲し、彼れ殿を見已つて返つて日月宮殿を揆模するが如し。意に於て云何、是の如き工匠或は彼の弟子能く大殿の量の天帝釋殊勝殿の如きを造るや不やと。善現答へて言はく、不なり世尊と。佛言はく、善現、汝が意に於て云何、是の人智有りや

【一七】 般若の根本なることを說く。

【一八】 餓狗等。餓狗が主を捨てて從者に就くの誤れる喩を以て、世間出世間法を成就せんとせば從なる二乘に據らずして主たる般若に求むべしとなすなり。

【一九】 二乘相應の經典。前に二乘相識の法と云へると同じ、但相應の經典とは Samyukta sūtra にて五部の根本たる相應部 Samyutta Nikāya に、漢譯雜阿含經に當る。瑜伽の事契經の中にも特に之を引きて代表とする點に參考すれば意味更に深きも今は一般の意に當るべし。

【二〇】 牛跡。牛の足跡に溜る小水を云ふ。

【二一】 大殿等。帝釋殿の廣大量は日月宮に越ゆる百千萬倍の比にあらざれば、今取て喩とす。

字を記說すべからず。

　復た次に善現、若し善男子善女人等、般若波羅蜜多甚深の經を說くを聞く時是の如き念を生ぜん、此の中我れ等の生處城邑聚落を說かず、何んぞ爲れを聽くを用ひんと。心淸淨ならず便ち座より起ち棄捨して去らば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

　時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に此の般若波羅蜜多甚深の經中に於て彼の菩薩の生處城邑聚落を記說せざるやと。佛言はく、善現、若し未だ彼の菩薩の名字を記せずんば其の生處差別を說くべからず。

　復た次に善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を說くを聞き心淸淨ならずして捨て去る者は彼の起す所の淸淨ならざる心に隨ひて此の經を厭捨し[一二]步多少を擧ぐるも便ち爾の劫數の功德を減じ爾所の劫の菩提を障ふる罪を獲。彼の罪を受け已つて更らに爾所の時發勤精進して無上正等菩提を求趣して方に本に復す可し。是の故に菩薩若し速に無上菩提を證せんと欲せば甚深般若波羅蜜多を厭捨すべからず。

[一三]復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、般若波羅蜜多甚深の經典を棄捨し求めて[一四]餘經を學せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。何を以ての故に、善現、是の善男子善女人等は一切智智の根本甚深般若波羅蜜多を棄捨して枝葉の諸の餘の經典に攀づとも終に大菩提を得る能はざるが故なりと。

　時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等の餘經猶ほ枝葉の如くにして一切智智を引發せざるやと。佛言はく、善現、若し[一五]二乘相識の法を說かん謂ゆる[一六]四念住四正斷四神足五根五力七等覺支八聖道支及び空無相無願解脫門等の所有る諸經なり。若し善男子善女人等中に於て修學せば預流果を得一來果を得不還果を得阿羅漢果を得獨覺菩提を得るも無上正等菩提を得ず。是れを餘經は

【一二】步多少を擧ぐるも等。般若の厭捨し去る步數の多少にしたがひ、一步に一劫の罪を償はざるべからざるなり。

【一三】般若を捨てて餘の小乘を取るの魔事なるを明す。

【一四】餘經。小乘經典を云ふ。

【一五】二乘相識の法。上に餘經下に二乘相應の經典と云ふと同じく聲聞、獨覺が聞思する小乘法門なり。

【一六】四念住等。小乘所說の內容なり、この法般若にも說けど小乘には方便なく自の解脫のみを期する法門なり。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を受持讀誦し思惟修習し說聽する時欻有の事起りて究竟せさらしめば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を受持讀誦し思惟修習し說聽する時忽ち是の念を作さん、我れ此の經に於て滋味を得ず、何ぞ勤苦を用ひんと、便ち棄捨し去らば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

[九]時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に是の善男子善女人等は此の深經に於て滋味を得ずして便ち棄捨し去るやと。佛言はく、善現、是の善男子善女人等は過去世に於て未だ久しく般若乃至布施波羅蜜多を修行せず、是の故に此の甚深波羅蜜多に於て滋味を得ずして便ち棄捨し去るなりと。

復た次に善現、若し善男子善女人等、是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて便ち是の念を作さん、我れ等此れに於て受記を得ず何んぞ爲れを聽くを用ひんと。心淸淨ならず便ち座より起ち棄捨して去らば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に此の般若波羅蜜多甚深の經中に於て彼れに記を授けずして捨て去らしむるやと。佛言はく、善現、菩薩未だ[一〇]正性離生に入らずんば彼れに大菩提の記を授くべからず。

復た次に善現、若し善男子善女人等、是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて便ち是の念を作さん、此の中我れ等の[一一]名字を說かず何ぞ爲れを聽くを用ひんと。心淸淨ならず便ち座より起ち棄捨して去らば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

時に具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何の因緣の故に此の般若波羅蜜多甚深の經中に於て彼の菩薩の名字を記說せざるやと。佛言はく、善現、菩薩未だ大菩提の記を受けずんば法爾として名

【九】般若に於て滋味を得ざるの因緣を明す。

【一〇】正性離生。無漏智を生じて煩惱を斷じ、永く凡夫の生を離るるを云ふ。

【一一】名字を說かず。總じて成佛すと云へども一々の菩薩に就いてその名字を別記せざるを云ふ。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時互ひに相輕蔑せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時身心擾亂せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時[六]心異解を生じ文句倒錯せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時[七]欻有の事起りて究竟せざらしめば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時忽ち是の念を爲さん我れ[八]此の經に於て滋味を得ず、何ぞ書寫を用ひんと。便ち棄捨し去らば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を受持讀誦し思惟修習し說聽する時頻申欠呿せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を受持讀誦し思惟修習し說聽する時忽然戲笑せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を受持讀誦し思惟修習し說聽する時互ひに相輕蔑せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を受持讀誦し思惟修習し說聽する時身心擾亂せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を受持讀誦し思惟修習し說聽する時心異解を生じ文句倒錯せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

【六】心異解等。心散りて間違ふ。

【七】欻有の事。欻は疾の意、突發事を云ふ。

【八】此の經に於て滋味を得ず。般若經は空相を說くもの故無味乾燥なりと云ふなり。

初分魔事品第四十之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、佛は已に、無上正等菩提を證せんが爲に六種波羅蜜多を修行し有情を成熟し佛國を嚴淨する諸の善男子善女人等の所有る功德を讃說したまへり。世尊、云何が是の善男子善女人等の無上正等菩提を證せんが爲に諸行を修する時魔事を留難するやと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩、法を樂說するに要ず[二]辯卽生せざれば當に知るべし是れを菩薩の[三]魔事と爲すと。世尊、何が故に是の菩薩摩訶薩、法を樂說するに辯要ず卽生せざれば是れを魔事と爲すやと。善現、是の菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修行する時修する所の般若波羅蜜多圓滿すること得難く修する所の靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多圓滿する事得難し。此の緣に由るが故に是の菩薩摩訶薩法を樂說するに要ず辯卽生せざれば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩、勝行を樂修するに[四]辯乃ち卒に生ぜば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。世尊、何が故に是の菩薩摩訶薩、勝行を樂修するに辯乃ち卒に生ぜば、是れを魔事と爲すやと。善現、是の菩薩摩訶薩、布施波羅蜜多を修行し、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修行するに巧便無きが故に辯乃ち卒に生ず、此の緣に由るが故に是の菩薩摩訶薩、勝行を樂修するに辯乃ち卒に生ぜば當に知るべし、是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時[五]頻申欠呿せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

復た次に善現、般若波羅蜜多甚深の經を書寫する時忽然戲笑せば當に知るべし是れを菩薩の魔事と爲すと。

【一】般若の樂說書寫憶念などの際に起る魔事を明す。

【二】辯卽生。速かに說法を初むるを云ふ。

【三】魔事。魔(māra)は殺者、障、惡者などと譯され、善法を障へて修道の妨をなすものを云ふ。

【四】辯乃ち卒に生ぜば等。濫說するは說に著し憍慢に基き法を輕んずるに至るの故に魔事とするなり。

【五】頻申欠呿。度度あくびする、倦怠なり。

に如來應正等覺有して是の如き甚深般若波羅蜜多無上の法を宣說したまふ處に生ぜんことを願ふ。彼れ是の如き甚深般若波羅蜜多無上の法を聞き已つて復た能く彼の佛土の中の無量百千俱胝那庾多の諸の有情類を安立して無上正等覺の心を發さしめ諸の菩薩摩訶薩行を修して示現勸導讃勵慶喜し無上正等菩提に於て不退轉を得せしむと。

時に舍利子復た佛に白して言さく、甚だ奇なり世尊、希有なり善逝、佛は過去未來現在の諸の所有る法に於て證知せざる無く、一切法の眞如法界及び法性等に於て證知せざる無く、諸の法敎に於て證知せざる無く、[二九]諸の有情の心行差別に於て證知せざる無く、過去の佛菩薩聲聞及び佛土等に於て證知せざる無く、未來の佛菩薩聲聞及び佛土等に於て證知せざる無く、現在の佛菩薩聲聞及び佛土等に於て證知せざる無く、十方界一切の如來應正等覺及び所說の法、菩薩聲聞佛土等の事に於て證知せざる無し。世尊、若し菩薩摩訶薩、六波羅蜜多に於て勇猛精進して恒に求めて息まずんば彼れ此の六波羅蜜多に於て得る時得ざる時有りと爲すや不やと。佛言はく、舍利子、彼の善男子善女人等、恒に此の六波羅蜜多に於て勇猛精進し欣求して息まずんば一切時に得て得ざる時無し。何を以ての故に、舍利子、彼の善男子善女人等、恒に此の六波羅蜜多に於て勇猛精進し欣求して息まずんば諸佛菩薩常に護念したまふが故なり。舍利子言はく、世尊、彼の善男子善女人等、若し、[三〇]六波羅蜜多相應の經を得ざる時、如何が彼れ此の六波羅蜜多を得たりと說く可きと。佛言はく、舍利子、彼の善男子善女人等、恒に此の六波羅蜜多に於て勇猛に信求して身命を顧ざるも時に此の相應の經を得ざること有りとせば是の處り有ること無し。何を以ての故に、舍利子、彼の善男子善女人等は無上正等菩提を求めんが爲に諸の有情類を示現勸導讃勵慶喜し、此の六波羅蜜多相應の經典に於て受持讀誦し思惟修學し、此の善根に由りて所生の處に隨ひて常に此の六波維蜜多相應の[三一]契經を得て受持讀誦し勇猛精進して敎の如く修行し有情を成熟し佛土を嚴淨し速に無上正等菩提を證すればなりと。

【二九】諸の有情の心行差別。機の心所行業果報因緣などを云ふ。

【三〇】六波羅蜜多相應の經。般若經を指す。

【三一】契經。修多羅（Sūtra）の意譯、經典といふに同じ。

を說くを聞きて[24]心に廣大の妙法の喜樂を得亦た能く[25]無量の衆生を勝善法に安立して無上正等菩提に趣むかしむ。

[26]舍利子、是の善男子善女人等は今我が前に於て弘誓願を發す。我れ當に無量百千俱胝那庾多の諸の有情類を安立して無上正等覺の心を發こさしめ、諸の菩薩摩訶薩行を修し示現勸導讃勵慶喜し、無上正等菩提に於て乃至不退轉の記を受くることを得せしむべしと。

舍利子、我れ彼の願に於て深く[27]隨喜を生ず。何を以ての故に、舍利子、我れ是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等の發す所の弘願を觀ずるに心語相應すればなり。彼の善男子善女人等は當來世に於て定めて能く無量百千俱胝那庾多の諸の有情類を安立して無上正等覺の心を發こさしめ、諸の菩薩摩訶薩行を修して示現勸導讃勵慶喜し無上正等菩提に於て乃至不退轉の記を受くることを得せしむ。舍利子、是の善男子善女人等は亦た過去無量の佛前に於て弘誓願を發す、我れ當に無量百千俱胝那庾多の諸の有情類を安立して無上正等覺の心を發こさしめ諸の菩薩摩訶薩行を修し示現勸導讃勵慶喜し無上正等菩提に於て乃至不退轉の記を受くることを得せしむべしと。舍利子、過去の諸佛も亦た彼の願に於て深く隨喜を生ず。何を以ての故に、舍利子、過去の諸佛も亦た是の如き菩薩乘に住する諸の善男子善女人等の發す所の弘願を觀ずるに心語相應すればなり。彼の善男子善女人等は當來世に於て定めて能く無量百千俱胝那庾多の諸の有情類を安立して無上正等覺の心を發こさしめ、諸の菩薩摩訶薩行を修して示現勸導讃勵慶喜し無上正等菩提に於て乃至不退轉の記を受くることを得せしむ。舍利子、是の善男子善女人等の信解は廣大にして能く妙色聲香味觸に依りて、[28]廣大の施を修す。此の施を修し已つて復た能く廣大の善根を種殖す。此の善根に因りて復た能く廣大の果報を攝受す。是の如き廣大の果報を攝受し專ら一切有情を利樂せんが爲に諸の有情に於て能く內外一切の所有を捨つ。彼れ是の如く種うる所の善根を廻らして、他方諸の佛國土の現

【二四】心に廣大の妙法の喜樂を得。久しく佛法を愛樂し信慧力多ければ、般若を聞きて喜樂するなり。

【二五】無量の衆生を勝善法に安立し等。無量の衆生を敎化するを云ふ。

【二六】諸佛行者の弘誓願を發すを知見し給ふを明す。

【二七】隨喜。共鳴し贊助するなり。

【二八】廣大の施を修す。慳悋なき大心を以て內外一切を施捨するを云ふ。

と雖も而かも少しく甚深般若波羅蜜多を聞くことを得ば深く信解を生じ其の心驚かず恐れず怖かず亦た憂悔無く、復た能く書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に廣說す。舍利子、彼の善男子善女人等の此の般若波羅蜜多を聞きて其の心驚かず恐れず怖かず亦た憂悔無く深く信解を生じて書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說するは甚だ爲れ希有なり。何を以ての故に、舍利子、是の善男子善女人等は已に曾て無量の如來應正等覺及び諸の菩薩摩訶薩衆に親近し供養恭敬尊重讚歎して是の如き甚深般若波羅蜜多相應の義趣を請問すればなり。(d)舍利子、是の善男子善女人等は久しからずして定めて當に布施波羅蜜多を圓滿すべし、久しからずして定めて當に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を圓滿すべし。(d)內空乃至[わ]無性自性空。(d)眞如乃至[か]不思議界。(d)苦聖諦乃至[る]道聖諦。(d)四靜慮乃至[た]四無色定。(d)八解脫乃至[れ]十遍處。(d)四念住乃至[そ]八聖道支。(d)空解脫門乃至[つ]無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至[ね]十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至[な]一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)阿耨多羅三藐三菩提。

復た次に舍利子、彼の善男子善女人等は一切の如來に護念せらるゝが故に、無量の善友に攝受せらるゝが故に、殊勝の善根に住持せらるゝが故に、多くの衆生を饒益せんと欲するが爲の故に求めて無上正等菩提に趣く。何を以ての故に、舍利子、我れ常に彼の諸の善男子善女人等の爲に〔三〕一切智智相應の法を說き、過去の如來應正等覺も亦た常に彼の諸の善男子善女人等の爲に一切智智相應の法を說く。此の因緣に由りて彼の善男子善女人等は後生に復た能く求めて無上正等菩提に趣き、亦た能く他の爲に應ずるが如く法を說きて無上正等菩提に趣かしむ。舍利子、彼の善男子善女人等は身心安定し諸の惡魔王及び彼の眷屬すら尙ほ、求めて無上正等覺に趣く心を壞すること能はず、何に況んや其の餘を樂うて惡を行ずる者、般若波羅蜜多を毀謗し能く其の心を沮みて無上正等覺を求趣せしめさらんをや。舍利子、是の如き大乘の諸の善男子善女人等は我が此の甚深般若波羅蜜多

(d)「舍利子是善男子善女人等不久定當圓滿布施波羅蜜多不久定當圓滿淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を各入るれば他は皆同じき故之を符號(d)にて略し以下その諸法のみ略出す。

〔三〕一切智智相應の法。大乘成佛の敎法を云ふ。

復た種種上妙の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寳幢幡蓋伎樂燈明を以て甚深般若波羅蜜多を供養恭敬尊重讃歎せば我れ定めて彼の諸の善男子善女人等に說かん、〔二〇〕此の善根に由りて畢竟諸の嶮惡趣に墮ちずして天人の中に生じ常に妙樂を受け、斯の勢力に由りて六種波羅蜜多を增益し、此れに因りて復た能く諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し、後隨所に應に三乘法に依り漸次に修習して般涅槃すべしと。何を以ての故に、舍利子、我れ佛眼を以て觀見して、是の善男子善女人等の獲る所の功德を證知し稱譽讃歎すれば、東西南北四維上下無量無數無邊世界の一切の如來應正等覺の安隱に住持し現に說法したまふ者も亦た佛眼を以て觀見して是の善男子善女人等の獲る所の功德を證知し稱譽讃歎すと。

〔二一〕爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は佛滅度し已つて後時後分後の五百歲に東北方に於て廣く流布する耶と。佛言はく、舍利子、是の如し是の如し、甚深般若波羅蜜多は我れ滅度し已つて後時後分後の五百歲に東北方に於て當に廣く流布すべし。舍利子、我れ滅度し已つて後時後分後の五百歲に彼の東北方の諸の善男子善女人等、若し此の甚深波若波羅蜜多を聞くことを得ば深く信解を生じ書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せん。當に知るべし彼の善男子善女人等は久しく無上正等覺の心を發し、久しく菩薩摩訶薩行を修し、多く諸佛を供養し、多く諸の善友に事へ、種うる所の善根皆已に成熟し斯の福力に由りて是の如き甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て深く信解を生じ復た能く書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に廣說せんと。

〔二二〕時に舍利子、復た佛に白して言さく、世尊、佛滅度し已つて後時後分後の五百歲に東北方に於て當に幾許の菩薩乘に住する諸の善男子善女人等有りて是の如き甚深般若波羅蜜多を聞きて深く信解を生じ復た能く書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に廣說することを得るやと。佛言はく、舍利子、我れ滅度し已つて後時後分後の五百歲に東北方に於て無量の菩薩乘に住する諸の善男子善女人有り

【二〇】此の善根。衆生に利鈍の二根あり、般若を受持憶念修行するは利根の人にて、般若を書寫し恭敬し讃歎するの人は鈍根なり。

【二一】般若の東北方流布を說く。

【二二】般若を信解するもの少きもその奇特なるを示す。現地流通を勸め殊勝を稱讃するものと見ることを得。

如き勝善根に由るが故に畢竟諸の嶮惡趣に墮せず常に天人の中に生じて富貴の妙樂を受け斯の勢力に由りて六種波羅蜜多を增益し速に圓滿せしむ。此れに因りて復た能く諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し後隨所に應に三乘法に依りて漸次に修習して出離に趣くべし。

[一二]舍利子、甚深般若波羅蜜多は我が滅度の後東南方より轉じて南方に至り漸く當に興盛すべし。彼方に……(以下甲ニ同ジ)

[一三]舍利子、甚深般若波羅蜜多は我が滅度の後復た南方より西南方に至りて當に漸く興盛すべし。彼方に……(以下甲ニ同ジ)

[一四]舍利子、甚深般若波羅蜜多は我が滅度の後西南方より西北に至り當に漸く興盛すべし。彼方に………(以下甲ニ同ジ)

[一五]舍利子、甚深般若波羅蜜多は我が滅度の後西北方より轉じて北方に至りて當に漸く興盛すべし。彼方に……(以下甲ニ同ジ)

[一六]舍利子、甚深般若波羅蜜多は我が滅度の後復た北方より東北方に至りて當に漸く興盛すべし。彼方に……(以下甲ニ同ジ)

舍利子、我れ滅度し已つて[一七]後時後分後の五百歳に甚深般若波羅蜜多は東北方に於て大に佛事を作さん。何を以ての故に、舍利子、一切の如來應正等覺の尊重する所の法は卽ち是れ般若波羅蜜多なればなり、是の如き般若波羅蜜多は一切の如來應正等覺の共に護念する所なり。舍利子、佛の得たまへる所の法[一八]毘奈耶無上正法は[一九]滅沒相有るに非ず、諸佛の得たまへる所の法毘奈耶無上の正法は卽ち是れ般若波羅蜜多なり。舍利子、彼の東北方の諸の善男子善女人等、若し能く此の甚深般若波羅蜜多に於て信解し受持讀誦し修習思惟し廣說せば我れ常に是の善男子善女人等を護念して惱害無からしめん。舍利子、彼の東北方の諸の善男子善女人等若し能く甚深般若波羅蜜多を書寫し、

【一二】東南方より南方へ。
【一三】南方より西南方へ。
【一四】西南方より西北方へ。
【一五】西北方より北方へ。
【一六】北方より東北方へ。
【一七】六方次第流通が滅後の年數を語るも、亦これ滅後五百年の教迹を反映し、第六百年現に東北方とする雪山中北、大乘流通を暗示するものとも讀むことを得。
【一八】毘奈耶(Vinaya)律と譯す。
【一九】滅沒相。佛在世中は興隆して法滅の相無けれども、五百歳後正法漸滅に至るなり。

菩提に至るまで常に一切智乃至[三]一切相智を修するを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に一切陀羅尼門・一切三摩地門を修するを遠離せず。舍利子是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に方便善巧して諸の有情をして預流果を得せしめ而かも自ら證せざるを遠離せず、常に方便善巧し諸の有情をして一來不還阿羅漢果を得せしめ而かも自ら證せざるを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に方便善巧して諸の有情をして獨覺菩提を得せしめ而かも自ら證せざるを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に菩薩の自在神通に遊戯し一佛國より一佛國に至り諸佛世尊及び諸の菩薩摩訶薩衆を供養恭敬尊重讃歎するを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に佛土を嚴淨し有情を成熟するを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に神通に自在にして諸の佛土に遊び諸佛に勸請し妙法輪を轉じて無量衆を度すを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に一切の菩薩摩訶薩行を遠離せず。舍利子、此の因緣に由りて菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は此の般若波羅蜜多に於て應に勤めて書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に廣說すべしと。

[一〇]爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、甚深般若波羅蜜多は佛滅度の後何れの方にか興盛せんと。佛言はく、(甲)舍利子、甚深般若波羅蜜多は我が滅度の後東南方に至り當に漸く興盛すべし。彼方當に菩薩乘に住する[一一]苾芻苾芻尼鄔波索迦鄔波斯迦國王大臣長者居士有りて能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て深く信解を生じ書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說し、復た種種上妙の華鬘塗散等の香衣服瓔珞寶幢幡蓋伎樂燈明を以て是の如き般若波羅蜜多を供養恭敬尊重讃歎すべし。彼れ是の

【一〇】 佛滅後に於ける般若の流通得益を明す。先づ最初に此經の東南方流布を說く。甲「舍利子甚深般若波羅蜜多我滅度後至東南方當漸興盛彼方當有住菩薩乘苾芻苾芻尼鄔波索迦鄔波斯迦國王大臣長者居士…………漸次修習而趣出離」右の文中「至東南方當漸興盛」に相應する所に次下に出す諸方を代入せば他は皆同文なる故之を符號(甲)にて略し以下その諸方並に異れる所のみ出すことゝす。

【一一】 苾芻等。Bhikṣu, bhikṣuṇī upāsaka upāsikā乞士、乞女近事男、近事女と譯す、出家在家男女の四衆なり。

受持讀誦し修習思惟し廣說せば恒に十方無量無數無邊世界の一切の如來應正等覺現說法者に佛眼もて觀見識知護念せられ、諸の惡魔をして燒惱すること能はさらしめ、修する所の善業は速に成辨することを得ん。舍利子、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し能く此の甚深般若波羅蜜多に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せば當に知るべし是の善男子善女人等は已に無上正等菩提に近づき諸の惡魔怨留難すること能はざらんと。

復次に舍利子、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等若し能く甚深般若波羅蜜多を書寫し種種に莊嚴し受持讀誦せば當に知るべし是の善男子善女人等は此の般若波羅蜜多に於て深く信解を生ぜんと。若し復た此の甚深般若波羅蜜多に於て諸の華香寶幢幡蓋衣服瓔珞伎樂燈明を以て供養恭敬尊重讃歎せば當に知るべし是の善男子善女人等は常に如來應正等覺の佛眼もて觀見識知護念せられ、是の因緣に由りて定めて當に大財大勝利大果大異熟を獲得すべしと。舍利子、是の善男子善女人等は能く甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し供養恭敬尊重讃歎するを以て、此の善根に由りて乃ち不退轉地を獲得するに至るまで其の中間に於て常に佛を離れず恒に正法を聞きて惡趣に墮ちず。(b)舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に布施波羅蜜多を遠離せず常に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を遠離せず。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に五眼を修するを遠離せず常に六神通を修するを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に佛の十力乃至十八佛不共法を修するを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等菩提に至るまで常に無忘失法・恒住捨性を修するを遠離せず。舍利子、是の善男子善女人等は此の善根に由りて乃ち無上正等

(b)「舍利子是善男子善女人等由此善根乃至無上正等菩提常不遠離布施波羅蜜多常不遠離淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を各入るれば他は皆同じき故之を符號(b)にて略し以下其の諸法のみ略出す。

(ね)　五眼六神通の如く二分して書く可きも今便宜上本文の如く略す以下三摩地門まで同じ。

利子、諸佛世尊は皆共に般若波羅蜜多を修行する諸の菩薩衆の所作の善業を護念し、彼の惡魔をして留難すること能はざらしむればなり。舍利子、若し菩薩摩訶薩、能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せば法爾[八]として應に十方世界無量無數無邊の如來應正等覺現說法者の護念する所と爲るべし。若し諸佛に護念せらるゝを蒙る者は法爾として惡魔留難すること能はず。舍利子、若し善男子善女人等、能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せんには應に是の念を作すべし。我が今甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し廣く他の爲に說けるは皆是れ十方無量無數無邊の如來應正等覺現說法者の神力の護念なりと。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、若し善男子善女人等、能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說するは一切皆是れ十方世界の諸佛如來の神力の護念にして彼の作す所の殊勝の善業をして一切の惡魔に留難すること能はざらしむと。佛言はく、舍利子、是の如し是の如し、汝が所說の如し、舍利子、若し善男子善女人等、能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せば當に知るべし皆是れ一切の如來應正等覺の神力の護念なりと。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、若し善男子善女人等、能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せば十方世界無量無數無邊の如來應正等覺現說法者皆共に是の善男子善女人等の甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說するを識知し、此の因緣に由りて歡喜護念したまはん、世尊、若し善男子善女人等能く是の如き甚深般若波羅蜜多に於て書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說せば是の善男子善女人等は恒に十方無量無數無邊世界の一切の如來應正等覺現說法者に[九]佛眼もて觀見せられ此の因緣に由りて慈悲護念せられんと。佛言はく、舍利子、是の如し是の如し、汝が所說の如し、舍利子、若し善男子善女人等甚深般若波羅蜜多を書寫し

【八】法爾。自然といふに同じ。他の造作を假らず、法の持ち前として自ら然るを云ふ。

【九】佛眼もて觀見す。佛眼所攝の天眼もて能く三世無量の衆生を見るなり。眞理正覺より考察するもこの類なり。

思惟し他の爲に說く者をして留難の事起りて究竟せざらしむること勿きが故なり。善現、是の善男子善女人等、若し一月或は二或は三或は四或は五或は六或は七乃至一歲、是の如き甚深般若波羅蜜多を書寫し能く究竟せんと欲する者は應に勤め精進し繫念書寫し[五]爾所の時を經て究竟するを得せしむべし。善現、是の善男子善女人等、若し一月或は二或は三或は四或は五或は六或は七乃至一歲、此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し修習し思惟し他の爲に宣說し能く究竟せんと欲する者は應に勤め精進し繫念受持し乃至宣說し爾所の時を經て究竟するを得せしむべし。何を以ての故に、善現、甚深般若波羅蜜多無價の寶珠は留難多きが故なりと。

[六]爾の時善現、復た佛に白して言さく、甚だ奇なり世尊、希有なり善逝、甚深般若波羅蜜多無價の寶珠は諸の留難多くして書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に說く者有らば惡魔彼れに於て留難を作さんと欲し書寫し乃至演說せざらしむと。佛言はく、善現、惡魔は此の甚深般若波羅蜜多に於て留難せんと欲し、書寫し受持讀誦し修習思惟し他の爲に演說せざらしむと雖も而かも彼れの力能く留難す可き無く是の菩薩摩訶薩は般若等の事を書寫し受持すと。

[七]爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、是れ唯の神力もて彼の惡魔をして、諸の菩薩摩訶薩の甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說するに留難すること能はざらしむるやと。佛言はく、舍利子、是れ佛の神力もて彼の惡魔をして、諸の菩薩摩訶薩の甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說するに留難すること能はざらしむ。又た舍利子、亦た是れ十方一切世界の諸佛の神力もて彼の惡魔をして、諸の菩薩摩訶薩の甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し廣說するに留難すること能はざらしむ。又た舍利子、諸佛世尊は皆共に般若波羅蜜多を修行する諸の菩薩を護念するが故に彼の惡魔をして一切の菩薩摩訶薩衆に留難すること能はざらしめ、甚深般若波羅蜜多を書寫し受持讀誦し修習思惟し廣く他の爲に說かざらしむ。何を以ての故に、舍

【五】爾所。若干と云ふ如し。

【六】留難超克を說く。

【七】佛力能く惡魔をして一切の菩薩衆を留難すること能はざらしむるを說く。

初分難聞功德品第三十九之六

[一]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二]清淨聚なりと。佛言はく、是の如し、(a)善現、色清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

是の故に般若波羅蜜多を清淨聚と名づくと。

[三]具壽善現復た佛に白して言さく、甚た奇なり世尊、希有なり善逝、是の如き般若波羅蜜多は極めて甚深にして諸の[四]留難多きを以て而かも今留難生ぜずと廣說すと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、甚深般若波羅蜜多は諸の留難多し。佛の神力の故に今廣說すと雖も留難生ぜず。是の故に大乘の諸の善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於て若し書寫せんと欲せば應に疾く書寫すべく若し讀誦せんと欲せば應に疾く讀誦すべく若し受持せんと欲せば應に廣く受持すべく若し修習せんと欲せば應に疾く修習すべく若し思惟せんと欲せば應に疾く思惟すべく若し宣說せんと欲せば應に疾く宣說すべし。何を以ての故に善現、甚深般若波羅蜜多は諸の留難多きも書寫し讀誦し受持し修習し

【一】般若清淨聚を明す。
【二】清淨聚。空にして著せざれば邪過なく清淨なり。
(a)「善現色清淨故般若波羅蜜多清淨受想行識清淨故般若波羅蜜多清淨」右も前卷(f)の場合の如く以下諸法のみ略出す。
【三】諸の留難に妨げられざる樣速に修行すべきを明す。
【四】留難。般若を壞障する邪魔を云ふ。

の無上正等菩提。

是の故に般若波羅蜜多は極めて甚深なりと名づくと。

【六】具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ【七】大寶聚なりと。佛言はく、是の如し、能く有情に功德の寶を與ふが故に。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり。能く有情に十善業道四靜慮四無量四無色定五神通の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり。能く有情に布施(一)乃至般若波羅蜜多の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に內空(二)乃至無性自性空の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に眞如(三)乃至不思議界諸聖諦の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に八解脫(四)乃至十遍處の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に四念住(五)乃至八聖道支の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に空(六)乃至無願解脫門の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に菩薩の十地の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に五眼六神通の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に佛の十力(七)乃至十八佛不共法の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に無忘失法恒住捨性の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に一切智(八)乃至一切相智の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に一切陀羅尼門一切三摩地門の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に預流(九)乃至阿羅漢果の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に獨覺菩提の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に一切の菩薩摩訶薩行の寶を與ふ。善現、是の如き般若波羅蜜多は大珍寶聚なり能く有情に諸佛の無上正等菩提轉法輪の寶を與ふ。是の故に般若波羅蜜多を大寶聚と名づくと。

【六】般若大寶聚を明す。
【七】大寶聚。聖果は煩惱を滅し諸願を滿足せしむればかく云ふ。

多を修し已に久しく善根を種ゑ已に多佛を供養し已に多く善友に事へしを知るべきやと。佛言はく、(c)善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、[三]色を思惟し分別せず受想行識を思惟し分別せず、[四]色相を思惟し分別せず受想行識相を思惟し分別せず、[五]色性を思惟し分別せず受想行識性を思惟し分別せず。何を以ての故に、色乃至識不可思議なるが故に。善現、此れに齊りて應に是の菩薩摩訶薩の已に久しく六波羅蜜多を修し已に久しく善根を種ゑ已に多佛を供養し已に多く善友に事へしを知るべし。(e)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(ほ)至法處。(e)眼界乃(に)至諸受。(e)耳界乃(ほ)至諸受。(e)鼻界乃(へ)至諸受。(e)舌界乃(と)至諸受。(e)身界乃(ち)至諸受。(e)意界乃(り)至諸受。(e)地界乃(ぬ)至識界。(e)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(e)欲界・色界・無色界。(e)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(e)內空乃(わ)至無性自性空。(e)眞如乃(か)至不思議界。(e)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(e)四靜慮乃(た)至四無色定。(e)八解脫乃(れ)至十遍處。(e)四念住乃(そ)至八聖道支。(e)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(e)無忘失法・恒住捨性。(e)一切智乃(な)至一切相智。(e)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(e)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は極めて爲れ甚深なりと。佛言はく、是の如し(f)善現、色甚深なるが故に般若波羅蜜多甚深なり受想行識甚深なるが故に般若波羅蜜多甚深なり。(f)眼處乃(ろ)至意處。(f)色處乃(ほ)至法處。(f)眼界乃(に)至諸受。(f)耳界乃(ほ)至諸受。(f)鼻界乃(へ)至諸受。(f)舌界乃(と)至諸受。(f)身界乃(ち)至諸受。(f)意界乃(り)至諸受。(f)地界乃(ぬ)至識界。(f)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(f)內空乃(わ)至無性自性空。(f)眞如乃(か)至不思議界。(f)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(f)四靜慮乃(た)至四無色定。(f)八解脫乃(れ)至十遍處。(f)四念住乃(そ)至八聖道支。(f)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(f)菩薩の十地。(f)五眼・六神通。(f)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(f)無忘失法・恒住捨性。(f)一切智乃(な)至一切相智。(f)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(f)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛

(e)「善現若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時不思惟分別色不思惟分別受想行識…………善現齊此應知是菩薩摩訶薩已久修六波羅蜜多已久種善根已供養多佛已事多善友」右も(d)の場合の如く「色乃至識」の所に次下に出す各諸法を入るれば他は皆同じ故に之を符號(e)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【三】色を思惟し分別せず等。色の四大若は四大所造色等を思惟分別せざるなり。

【四】色相。可見可聞好醜長短等を云ふ。

【五】色性。色の常性、四大の堅濕軟動等の性を云ふ。

(f)「善現色甚深故般若波羅蜜多甚深受想行識甚深故般若波羅蜜多甚深」右も(e)の場合の如く以下略出す。

性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

(d)善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、色に於て不思議想を起さず受想行識に於て不思議想を起さずんば是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に圓滿することを得。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。

卷の第三百一

初分難聞功德品第三十九之五

(d)布施波羅蜜多經乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

【一】爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多の理趣甚深にして誰れか能く信解せんと。佛言はく、善現、若し菩薩摩訶薩已に久しく六波羅蜜多を修し已に久しく善根を植ゑ已に多佛を供養し已に多くの善友に事へし是の菩薩摩訶薩は能く此の甚深般若波羅蜜多を信解すと。具壽善現復佛に白して言さく、世尊、何に齊【二】りてか應に是の菩薩摩訶薩の已に久しく六波羅蜜

(d)「善現若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時於色不起不思議想於受想行識不起不思議想是菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多速得圓滿」右も(c)の場合の如く以下諸法のみ略出す。

(d)　前卷と同意。

【一】　甚深般若の理趣を信解する者を明す。

【二】　何に齊り。規定する限際を云ふ、何にかぎりてと訓ずるも同じ。

解脫門。(a)菩薩の十地。五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時是れ法を見ず非法を見ず有漏を見ず無漏を見ず有爲を見ず無爲を見ずんば是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に圓滿することを得。善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時過去を見ず未來を見ず現在を見ず善を見ず不善を見ず無記を見ず欲界を見ず色界を見ず無色界を見ずんば是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に圓滿することを得。(b)善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時布施波羅蜜多を見ず淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を見ずんば是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に圓滿することを得。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(q)四念住乃至八聖道支。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)五眼・六神通。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)一切智乃至一切相智。何を以ての故に、善現、一切法は性相無きを以ての故に、作用無きが故に、轉ず可からざるが故に、[二六]虛妄誑詐性にして[二七]堅實ならず自在ならざるが故に、[二八]覺受無きが故に、我有情命者生者廣說し乃至知見者を離るるが故なりと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、[二九]如來の所說は不可思議なりと。佛言はく是の如し是の如し、如來の所說は不可思議なり。(c)善現、色不可思議なるが故に如來の所說不可思議なり。受想行識不可思議なるが故に如來の所說不可思議なり。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自

(b)「善現若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時不見布施波羅蜜多……是菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多速得圓滿」右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」に相應する所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【二六】虛妄誑詐性。諸法有相の眞實ならざるを云ふ。

【二七】堅實ならず自在ならず。一切法の無常無實なるを云ふ。

【二八】覺受。苦樂を受くる衆生を云ふ。

【二九】如來の所說は不可思議なり。五蘊六度諸法不可思議なれば所說の般若不可思議なり。故に佛は不可思議相にも住すべからざるを說く。

(c)「善現色不可思議受想行識不可思議故如來所說不可思議」右の文中「色乃至識」に相應する所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(c)にて略し以下その諸法のみ略出す。

を修せしめ、自ら十遍處を修し亦た彼れをして十遍處を修せしめ、自ら三解脫門を修し亦た彼れをして三解脫門を修せしめ、自ら菩薩の十地を修し亦た彼れをして菩薩の十地を修せしめ、自ら五眼を修し亦た彼れをして五眼を修せしめ、自ら六神通を修し亦た彼れをして六神通を修せしめ、自ら一切陀羅尼門を修し亦た彼れをして一切陀羅尼門を修せしめ、自ら一切三摩地門を修し亦た彼れをして一切三摩地門を修せしめ、自ら佛の十力を修し亦た彼れをして佛の十力を修せしめ、自ら四無礙解を修し亦た彼れをして四無礙解を修せしめ、自ら大慈大悲大喜大捨を修し亦た彼れをして大慈大悲大喜大捨を修せしめ、自ら十八佛不共法を修し亦た彼れをして十八佛不共法を修せしめ、自ら一切智を修し亦た彼れをして一切智を修せしめ、自ら道相智一切相智を修し亦た彼れをして道相智一切相智を修せしめ、自ら無忘失法恒住捨性を修し他をして無忘失法恒住捨性を修せしめ、自ら一切の煩惱の習氣を斷じ亦た彼れをして一切の煩惱の習氣を斷ぜしめ、自ら無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度し亦た彼れをして無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度せしむと。

[二三] 具壽善現復た佛に白して言さく、甚だ奇なり世尊、希有なり善逝。是の諸の菩薩摩訶薩衆は是の如き[二四] 大功德聚を成就して一切の有情を饒益せんと欲するが爲に般若波羅蜜多を修行し求めて無上正等菩提を證す。世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行し速に圓滿することを得るやと。佛言はく、(a)善現、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、[二五] 色の若しは增若しは減を見ず受想行識の若しは增若しは減を見ずんば是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して速に圓滿することを得。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願

【二三】 般若圓滿を明す。

【二四】 大功德聚を成就し。前述の自行敎他の德を云ふなり。

(a)「善現若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時不見色若增若減……是菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多速得圓滿」右の文中「色乃至識」の所に大下に出す諸法を入るれば他は皆同じ故に之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【二五】 色の若しは增若しは減を見ず等。緣生畢竟空なれば諸法に生滅增減を見ざるなり。

若波羅蜜多巧方便力に依止し有情をして預流果を證せしむと雖も而かも自ら證せず、有情をして一來不還阿羅漢果を證せしむと雖も而かも自ら證せず、有情をして獨覺菩提を證せしむと雖も而かも自ら證せず。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は自ら布施乃至般若波羅蜜多を修し亦た無量百千倶胝那庾多の菩薩摩訶薩に勸めて布施乃至般若波羅蜜多を修せしめ、自ら不退轉地に住し亦た彼れを勸めて不退轉地に住せしめ、自ら佛土を嚴淨し亦た彼れを勸めて佛土を嚴淨せしめ、自ら有情を成熟し亦た彼れを勸めて有情を成熟せしめ、自ら菩薩神通を起し亦た彼れを勸めて菩薩神通を起さしめ、自ら陀羅尼門を修し亦た彼れを勸めて陀羅尼門を修せしめ、自ら三摩地門を修し亦た彼れを勸めて三摩地門を修せしめ、自ら無礙辯を具し亦た彼れを勸めて無礙辯を具せしめ、自ら妙色身[二]を具し亦た彼れを勸めて妙色身を具せしめ、自ら諸の相好を具し亦た彼れを勸めて諸の相好を具せしめ、自ら童眞行[三]を具し亦た彼れを勸めて童眞行を具せしめ、自ら四念住を修し亦た彼れをして四念住を修せしめ、自ら四正斷を修し亦た彼れをして四正斷を修せしめ、自ら四神足を修し亦た彼をして四神足を修せしめ、自ら五根を修し亦た彼れをして五根を修せしめ、自ら五力を修し亦た彼れをして五力を修せしめ、自ら等覺支を修し亦た彼れをして七等覺支を修せしめ、自ら八聖道支を修し亦た彼れをして八聖道支を七修せしめ、自ら內空に住し亦た彼れをして內空に住せしめ、自ら外空乃至無性自性空に住し亦た彼れをして外空乃至無性自性空に住せしめ、自ら眞如に住し亦た彼れをして眞如に住せしめ、自ら法界乃至不思議に住し亦た彼れをして法界乃至不思議界に住せしめ、自ら苦聖諦に住し亦た彼れをして苦聖諦に住せしめ、自ら集滅道聖諦に住し亦た彼れをして集滅道聖諦に住せしめ、自ら四靜慮を修し亦た彼れをして四靜慮を修せしめ、自ら四無量を修し亦た彼れをして四無量を修せしめ、自ら四無色定を修し亦た彼れをして四無色定を修せしめ、自ら八解脫を修し亦た彼れをして八解脫を修せしめ、自ら八勝處を修し亦た彼れをして八勝處を修せしめ、自ら九次第定を修し亦た彼れをして九次第定

【二】妙色身を具し。物質差別を執せざるが故に、よくその分その力を完うして妙色具足するを云ふ。
【三】童眞行(Kumārabhūta)。初發心より婬欲を斷じて菩薩道を行ずるを云ふなり。

世尊、此の會中に諸の天子衆の過去に佛此の法を說きたまひしを見し者有り、皆歡喜を生じ咸く共に議して言はく、昔諸の菩薩は般若波羅蜜多を說くを聞きて便ち受記を得たり。今諸の菩薩既に此の甚深般若波羅蜜多を說くを聞けるも久しからずして定めて當に菩提の記を受くべしと。世尊、譬へば[一四]女人懷孕漸く久しく其の身轉た重く動止安からず、飲食睡眠悉く皆減少し多語を喜ばず常の所作を厭ひ、苦痛を受くるが故に衆事頓みに息む。異母人有り是の相を見已つて即ち此の女の久しからずして產生するを知らんが如し。世尊、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。宿善根を種ゑ多く佛を供養し、久しく善友に事へ善根成熟せるが故に今此の甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て受持讀誦し理の如く思惟し深く信解を生じ力に隨ひて修習せば世尊、當に知るべし是の菩薩摩訶薩は此の因緣に由りて久しからずして阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得んと。爾の時佛、舍利子を讚めて言はく、善哉善哉、汝善能く是の如き甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て菩薩の譬喩を說くは當に知るべし皆是れ佛の威神力なりと。

[一五]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、一切の如來應正等覺は甚奇希有なり。善能く諸の菩薩摩訶薩に付囑し、善能く諸の菩薩摩訶薩を攝受したまふと。佛言はく、是の如し是の如し、何を以ての故に、[一六]善現、諸の菩薩摩訶薩は求めて無上正等菩提に趣き多くの有情に利樂を得しめんが爲の故に、諸の天人を憐愍し饒益せんが故に、是の菩薩摩訶薩は菩薩道を行ずる時、無量百千俱胝那庾多の諸の有情類を饒益せんと欲するが爲の故に四攝事を以て之を攝受す。何等をか四と爲す。一には[一七]布施、二には[一八]愛語、三には[一九]利行、四には[二〇]同事なり。亦た彼れを安立し勸めて十善業道を修習せしむ。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は自ら四靜慮を行じ亦た他をして四靜慮を行ぜしめ、自ら四無量を行じ亦た他をして四無量を行ぜしめ、自ら四無色定を行じ亦た他をして四無色定を行ぜしめ、自ら六波羅蜜多を行じ亦た他をして六波羅蜜多を行ぜしむ。善現、是の諸の菩薩摩訶薩は般

【一四】女人懷孕等。女人は行者、孕は無上道、其身轉た重くなどの產相は般若の習行を喩へしものなり。

【一五】佛意よく菩薩事を付囑するを明す。

【一六】佛善付の因緣を明す。

【一七】布施。財施と法施。色心の正しき取扱。

【一八】愛語。隨意愛語と他の愛する所を說くとを云ふ。

【一九】利行。二世の利を與へ說法救濟し過患を退治する。

【二〇】同事。他の所行に同じて善に導くを云ふ。つき合ひと各自の分擔責任を完うするとなり。

是の菩薩摩訶薩は已に甚深般若波羅蜜多無上菩提の前相を見聞し恭敬供養するが故なりと。爾の時佛、舍利子に告げて言はく、是の如し是の如し、汝が所説の如し、汝佛力を承けて當に復た之を説くべしと。

時舍利子復た佛に白して言さく、世尊、譬へば人有り〔一〇〕大海を觀んと欲し漸次に往趣して多時を經て〔一一〕山林を見ず便ち是の念を作さん、今此の相を觀るに大海遠きに非ず。所以は何ん、夫れ海岸に近き地は必ず漸下し定めて山林無ければなりと。彼の人爾の時未だ海を見ずと雖も而かも近相を見て歡喜踊躍するが如し。世尊、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。若し此の甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て受持讀誦し理の如く思惟し深く信解を生ぜば是の菩薩摩訶薩、未だ佛現前に授記して、汝來世に於て爾所の劫を經、若しは百劫を經、若しは千劫を經、若しは百千劫を經、乃至若しは百千倶胝那庾多劫を經て當に無上正等菩提を得べしといふを得ずと雖も而かも應に自ら受記すること遠きに非ずと知るべし。何を以ての故に、受の菩薩摩訶薩は已に甚深般若波羅蜜多無上菩提の前相を見聞し恭敬供養し受持讀誦し理の如く思惟するを得しが故なり。世尊、譬へば春時に花果樹等の〔一二〕陳葉已に落ち枝條滋潤せば衆人見已つて咸く是の言を作さん、〔一三〕新花果葉當に出づること久しからざるべし。所以は何ん、此の諸樹等の新花果落の先相現ずるが故にと。贍部洲の人男女大小、此の相を見已つて歡喜踊躍し皆是の言を作さん、我れ等久しからずして當に此の花果の茂盛するを見得べしと。世尊、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し、若し此の甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て受持讀誦し理の如く思惟し深く信解を生ぜば當に知るべし宿世の善根成熟し多く佛を供養し、多く善友に事へ久しからずして當に大菩提の記を受くべしと。世尊、是の菩薩摩訶薩は應に是の念を作すべし。我れ先に定めて勝善根力有りて能く無上正等菩提を引くが故に今甚深般若波羅蜜多を見聞し恭敬供養し、讀誦し受持し深く信解を生じ理の如く思惟し力に隨ひて修習するなりと。

〔一〇〕大海。無上菩提卽ち佛果に喩へしなり。
〔一一〕山林。般若經などを喩へしなり。
〔一二〕陳葉已に落ち。煩惱邪見などの滅するを喩へしなり。
〔一三〕新花果葉。新花は不退位、果は無上道、葉は般若經などを喩ふるなり。

一爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、我れ今菩薩譬喩を樂說せんと。佛言はく、舍利子汝が意に隨ひて說けと。舍利子言さく、世尊、大乘に住する者の善男子善女人等、二夢中に般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修行し道場に坐して無上覺を證するが如き、當に知るべし是の善男子善女人等すら尙ほ無上正等菩提に近づく。何に況んや菩薩摩訶薩、無上正等菩提を求めんが爲に三覺時に般若靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多を修行して速に無上正覺を成ぜざらんをやと。世尊、是の菩薩摩訶薩は久しからずして當に菩提樹下に坐し無上正等菩提を證得し妙法輪を轉じて無量の衆を度すべし。世尊、若し善男子善女人等、是の如き甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て受持讀誦し敎の如く修行せば四當に知るべし是の善男子善女人等は久しく大乘を學して善根成熟し多く諸佛を供養し多く諸の善友に事へ衆の德本を植ゑて能く是の事を成ずるなり。五世尊、若し善男子善女人等、是の如き甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て信解し受持し讀誦し修習し理の如く思惟し他の爲に演說せば是の善男子善女人等は或は已に大菩提の記を受くることを得或は近く當に大菩提の記を受くべし。世尊、是の善男子善女人等は不退位に住せる菩薩摩訶薩の如く疾く無上正等菩提を得、此れに由りて甚深般若波羅蜜多を聞くことを得て能く深く信解し受持讀誦し理の如く思惟し敎に隨ひて修行し他の爲に演說せん。

世尊、譬へば人有り六曠野を遊涉して險路を經過し七百踰繕那或は二或は三或は四五百ならんに諸の城邑王都の前相を見る。謂ゆる放牧人園林田等なり。八諸の相を見已つて便ち是の念を作さん、城邑王都此を去ること遠きに非ずと。是の念を作し已り身意泰然として九惡獸惡賊飢渴を畏れず。世尊、諸の菩薩摩訶薩も亦復た是の如し。若し此の甚深般若波羅蜜多を聞くを得て受持讀誦し理の如く思惟し深く信解を生せば應に知るべし久しからずして當に受記を得べく或は已に受くるを得て速に無上正等菩提を證ずべしと。是の菩薩摩訶薩は聲聞獨覺地に墮つる畏れ無し。何を以ての故に、

【一】新學の信受の例を舉げて勸進す。

【二】夢中に等。眞心の充分ならざる夢の如き輕微なる行者すら無上正等菩提に近しとの意なり。

【三】覺時に等。前述の如き夢中に於てすら無上正等菩提に近し、況んや實心の充分なる覺時の發心に於てをやと云へるなり。

【四】當に知るべし。宿因深廣なるを知るべしとす。新學未熟よりもその因緣深廣なるを祝福して信念を高むるなり。

【五】進んで當果已に受記し若くは近く受記すべしと知るべきを說くなり。

【六】曠野を等。曠野、險路は世間に喩ふるなり。

【七】百喩繕那等。長距離を舉ぐるは欲界、色界、無色界、聲聞辟支佛道などに喩ふるなり。

【八】諸の相。城邑に近き相なれば世間を脫して般若を信ずるに喩ふるなり。放牧人は能化の人、園林田は佛陀定慧の樂、城は佛果、邑は無生法忍、王都は柔順忍に喩へしなり。

【九】惡獸等。惡獸は貪瞋煩惱、惡賊は六十二邪見、飢渴は眞慧と定解脫とを得ざるを喩へしなり。

ず恐れず怖かず亦た疑惑無し。聞き已つて信解し受持讀誦し理の如く思惟し他の爲に演説せんと。時に天帝釋、舍利子に問ふて言はく、大德、若し新學の大乘の菩薩の前に在りて是の如き甚深般若波羅蜜多を説かば何の過失か有らんと。舍利子言はく、憍尸迦、若し[五]新學の大乘の菩薩の前に在りて是の如き甚深般若波羅蜜多を説かば、彼れ聞きて驚惶し恐怖し疑惑して信解する能はず或は毀謗を生じ、斯れに由りて造作增長し能く惡趣に墮する業を感じ三惡趣に沒して久しく生死に處し無上正等菩提を得ること難からん。是の故に彼の新學の菩薩の前に在りて甚深般若波羅蜜多を説くべからずと。

[六]爾の時天帝釋復た具壽舍利子に問ふて言はく、大德、頗し未だ[七]受記せざる菩薩摩訶薩、是の如き甚深般若波羅蜜多を説くを聞きて驚かず恐れず怖かざる者有りや不やと。舍利子言はく、有り、憍尸迦、是の菩薩摩訶薩は久しからずして當に大菩提の記を受くべし。憍尸迦、若し菩薩摩訶薩、是の如き甚深般若波羅蜜多を説くを聞きて其の心驚かず恐れず怖かずんば當に知るべし是の菩薩摩訶薩は已に無上大菩提の記を受けたりと。[八]設ひ未だ受けざる者も一佛或は二佛の所を過ぎずして定めて當に大菩提の記を受くることを得べしと。爾の時佛、舍利子に告げて言はく、是の如し、是の如し、汝が所説の如し、舍利子、若し菩薩摩訶薩、久しく大乘を學し、久しく大願を發し、久しく六種波羅蜜多を修し、久しく諸佛を供養し、久しく諸の善友に事へ是の如き甚深般若波羅蜜多を説くを聞かば其の心驚かず恐れず怖かず、聞き已つて信解し、受持讀誦し理の如く思惟し他の爲に演説し或は所説の如く力に隨ひて修行せんと。

卷の第三百

初分難聞功德品第三十九之四

【五】新學の菩薩聞かは信ぜず却て造罪受苦するを説く。

【六】未だ受記せざる菩薩摩訶薩にして般若に驚懼せず信受する類を種々の譬喩を以て説き明す。

【七】受記。受莂ともいふ。佛より當來必當作佛の記別を受くるを云ふ。

【八】設ひ未だ受けざる者も等。受記せざるも驚懼せざる者は殆んど一二佛を經て受記するものに限るなり。

(h)舌界乃(と)至諸受。(h)身界乃(ち)至諸受。(h)意界乃(り)至諸受。(h)地界乃(ぬ)至識界。(h)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(h)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(h)內空乃(わ)至無性自性空。(h)眞如乃(か)至不思議界。(h)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(h)四靜慮乃(た)至四無色定。(h)八解脫乃(れ)至十遍處。(h)四念住乃(そ)至八聖道支。(h)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(h)菩薩の十地。(h)五眼・六神通。(h)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(h)無忘失法・恒住捨性。(h)一切智乃(な)至一切相智。(h)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(h)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(h)獨覺菩提。(h)一切の菩薩摩訶薩行。(h)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(i)舍利子、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、色の無量性を行ぜざる、是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識の無量性を行ぜざる、是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。何を以ての故に、舍利子、色の無量性は則ち色に非ず受想行識の無量性は則ち受想行識に非ざるが故なり。(i)眼處乃(ろ)至意處。(i)色處乃(は)至法處。(i)眼界乃(に)至諸受。(i)耳界乃(ほ)至諸受。(i)鼻界乃(へ)至諸受。(i)舌界乃(と)至諸受。(i)身界乃(ち)至諸受。(i)意界乃(り)至諸受。(i)地界乃(ぬ)至識界。(i)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(i)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(i)內空乃(わ)至無性自性空。(i)眞如乃(か)至不思議界。(i)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(i)四靜慮乃(た)至四無色定。(i)八解脫乃(れ)至十遍處。(i)四念住乃(そ)至八聖道支。(i)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(i)菩薩の十地。(i)五眼・六神通。(i)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(i)無忘失法・恒住捨性。(i)一切智乃(な)至一切相智。(i)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(i)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(i)獨覺菩提。(i)一切の菩薩摩訶薩行。(i)諸佛の無上正等菩提。

[二]爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は既に最も[三]甚深にして測り難く無量にして信解す可きこと難し。彼の新學の大乘の菩薩の前に在りて說くべからず、彼れに此の甚深般若波羅蜜多を聞かしむる勿れ、其の心驚惶恐怖疑惑して信解する能はざるなり。但だ應に彼の[四]不退轉位の菩薩の前に在りてのみ說くべし。彼れは是の如き甚深般若波羅蜜多を聞くも心驚惶せ

(i)「舍利子若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時不行色無量性是行般若波羅蜜多……舍利子色無量性則非色受想行識無量性則非受想行識」右も(h)の場合の如くして以下諸法のみ略出す。

【二】深般若は始行學人に說くべからざるを明す。

【三】甚深。此處に甚深とは取相せざる般若を指して云ふなり。

【四】不退轉位。久行の菩薩、轉せざる信念成就者にして緣起空に即するもの。

漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

【四】爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を行ずるやと。佛言はく、(g)舍利子、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、【五】色の甚深性を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識の甚深性を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。何を以ての故に舍利子、【六】色の甚深性は則ち色に非ず、受想行識の甚深性は則ち受想行識に非ざるが故なり。(g)眼處乃至意處。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至諸受。(g)耳界乃至諸受。(g)鼻界乃至諸受。(g)舌界乃至諸受。(g)身界乃至諸受。(g)意界乃至諸受。(g)地界乃至識界。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(g)内空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)四念住乃至八聖道支。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)菩薩の十地。(g)五眼・六神通。

卷の第二百九十九

初分難聞功德品第三十九之三

(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)無忘失法・恒住捨性。(g)一切智乃至一切相智。(g)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(g)預流果乃至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(h)舍利子、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、色の【一】難測量性を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識の難測量性を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。何を以ての故に、舍利子、色の難測量性は則ち色に非ず、受想行識の難測量性は則ち受想行識に非ざるが故なり。(h)眼處乃至意處。(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至諸受。(h)耳界乃至諸受。(h)鼻界乃至諸受。

【四】久行菩薩の深般若行を明す。

(g)「舍利子若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時不行色甚深性是行般若波羅蜜多……舍利子色甚深性則非色受想行識甚深性則非受想行識故」右も(f)の場合の如く略し以下諸法のみ略出す。

【五】色の甚深性を行ぜざる。久行の菩薩には特に甚深とすべきものなしとすれば、甚深を行ぜずとなすなり。

【六】色の甚深性は則ち色に非ず。色の深淺量無量等の相を以て分別せらるゝは眞の色には非ざるなり。

(g)前卷と同意。

(h)「舍利子若菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時不行色難測量性是行般若波羅蜜多……舍利子色難測量性則非色受想行識難測量性則非受想行識故」右も(g)の場合の如くして略し以下諸法のみ略出す。

【一】難測量性を行ぜざる。測量し難しと驚歎すること無きを云ふ。

解脫門乃(つ)至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼・六神通。(d)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(d)無忘失法・恒住捨性。(d)一切智乃(な)至一切相智。(d)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(d)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は測量す可きこと難しと。佛言はく、是の如し。(e)舍利子、[三]色眞如測量し難きが故に般若波羅蜜多測量す可きこと難し、受想行識眞如測量し難きが故に般若波羅蜜多測量す可きこと難し。(e)眼處乃(ろ)至意處。(e)色處乃(は)至法處。(e)眼界乃(に)至諸受。(e)耳界乃(ほ)至諸受。(e)鼻界乃(へ)至諸受。(e)舌界乃(と)至諸受。(e)身界乃(ち)至諸受。(e)意界乃(り)至諸受。(e)地界乃(ぬ)至識界。(e)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(e)內空乃(わ)至無性自性空。(e)眞如乃(か)至不思議界。(e)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(e)四靜慮乃(た)至四無色定。(e)八解脫乃(れ)至十遍處。(e)四念住乃(そ)至八聖道支。(e)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼・六神通。(e)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(e)無忘失法・恒住捨性。(e)一切智乃(な)至一切相智。(e)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(e)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は最も爲れ無量なりと。佛言はく、是の如し、(f)舍利子、色眞如無量なるが故に般若波羅蜜多無量なり、受想行識眞如無量なるが故に般若波羅蜜多無量なり。(f)眼處乃(ろ)至意處。(f)色處乃(は)至法處。(f)眼界乃(に)至諸受。(f)耳界乃(ほ)至諸受。(f)鼻界乃(へ)至諸受。(f)舌界乃(と)至諸受。(f)身界乃(ち)至諸受。(f)意界乃(り)至諸受。(f)地界乃(ぬ)至識界。(f)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(f)內空乃(わ)至無性自性空。(f)眞如乃(か)至不思議界。(f)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(f)四靜慮乃(た)至四無色定。(f)八解脫乃(れ)至十遍處。(f)四念住乃(そ)至八聖道支。(f)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(f)菩薩の十地・(f)五眼・六神通。(f)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(f)無忘失法・恒住捨性。(f)一切智乃(な)至一切相智。(f)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(f)預流果乃(ら)至阿羅

(e)「舍利子色眞如難測量故般若波羅蜜多難可測量受想行識眞如難測量故般若波羅蜜多難可測量」
右も(d)の場合の如くして以下諸法のみ略出す。

【三】色眞如。色を有量とするは肉眼分別心の見る所、色の實相は一微塵も全宇宙を該ね不可說不可量なり。

(f)「舍利子色眞如無量故般若波羅蜜多無量受想行識眞如無量故般若波羅蜜多無量」
右も(e)の場合の如く略し以下諸法のみ略出す。

復た次に(c)憍尸迦、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、若し色に於て住するに非ず住せざるに非ず習するに非ず習せざるに非ざる、是れを色に住習すと爲す。若し受想行識に於て住するに非ず住せざるに非ず習するに非ず習せざるに非ざる、是れを受想行識に住習すと爲す。何を以ての故に、憍尸迦、是の菩薩摩訶薩は色乃至識を觀ずるに前後中際不可得なるが故なり。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)内空乃至無性自性空。

卷の第二百九十八

初分難聞功德品第三十九之二

(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脱乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脱門乃至無願解脱門。(c)菩薩の十地。(c)五眼・六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法・恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

爾の時舍利子、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は最も爲れ甚深なりと。佛言はく、是の如し、(d)舍利子、色眞如甚深なるが故に般若波羅蜜多甚深なり、受想行識眞如甚深なるが故に般若波羅蜜多甚深なり。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)内空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脱乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空

(c) 一「憍尸迦菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時若於色非住非不住非習非不習……憍尸迦是菩薩摩訶薩觀色乃至識前後中際不可得故」右も(b)の場合の如くして以下諸法のみ略出す。

【八】色乃至識を觀ずる等。念々滅して住せず、三世一切の色不可得なれば習住すべき無きなり。

(c) 前卷と同意。

【一】般若甚深の故に不退の菩薩のみに說かるべきを明す。

(d)「舍利色眞如甚深故般若波羅蜜多甚深受想行識眞如甚深故般若波羅蜜多甚深」右も(c)の場合の如くして以下諸法のみ略出す。

【二】色眞如甚深等。色差別を以て未だ深とせざるも如實の故に甚深にて、般若の慧眼これを觀る故に甚深なり。

[六]爾の時天帝釋、佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行する時、(a)云何が色に住し云何が受想行識に住するや、云何が色を習し云何が受想行識を習するや。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼・六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法・恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、善哉善哉、汝今、佛の神力を承けて能く如來に是の如き深義を問へり。諦かに聽け諦かに聽きて善く之を思念せよ。當に汝が爲に說くべし。(b)憍尸迦、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、若し[七]色に於て住せず習せざる、是れを色に住習すと爲す、若し受想行識に於て住せず習せざる、是れを受想行識に住習すと爲す。何を以ての故に、憍尸迦、住習する所の色乃至識不可得なるを以ての故なり。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼・六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法・恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門・一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

【六】般若行者の住不住に就いて明す。(a)「云何住色云何住受想行識云何習色云何習受想行識」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(b)「憍尸迦菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時若於色不住不習……憍尸迦以所住習色乃至識不可得故」右も(a)の場合の如くして以下諸法のみ略出す。

【七】色に於て等。色相に取著せざれば法を正しく觀るが故に般若に合するを云ふなり。

男子善女人等、五眼六神通、或は佛の十力乃至十八佛不共法、或は無忘失法恒住捨性、或は一切智乃至一切相智、或は一切陀羅尼門一切三摩地門に於て未だ久しく信解せず久しく修習せずして般若波羅蜜多を說くを聞き信解すること能はず、或は毀謗を生ずるは未だ希有なりと爲さず。若し善男子善女人等、諸の菩薩摩訶薩行、或は佛の無上正等菩提に於て未だ久しく信解せず久しく修習せずして般若波羅蜜多を說くを聞き信解すること能はず或は毀謗を生ずるは未だ希有なりと爲さず。大德、我れ今甚深般若波羅蜜多を敬禮す、般若波羅蜜多を敬禮するは卽ち爲れ[四]一切智智を敬禮するなりと。

　爾の時佛、天帝釋に告げて言はく、憍尸迦、是の如し是の如し、汝が所說の如し、般若波羅蜜多を敬禮するは卽ち爲れ一切智智を敬禮するなり。何を以ての故に、憍尸迦、諸佛世尊の一切智智は皆般若波羅蜜多より生ずるを得るが故なり。憍尸迦、若し善男子善女人等諸佛の一切智智に住せんと欲せば當に般若波羅蜜多に住すべし。一切智道相智一切相智を起さんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。一切の煩惱の[五]習氣を斷ぜんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。無上正等菩提を證し妙法輪を轉じて無量の衆を度せんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。若し善男子善女人等、方便善巧して有情を預流果或は一來果或は不還果或は阿羅漢果或は獨覺菩提に安立せしめんと欲し或は自ら學せんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。若し善男子善女人等、方便善巧して有情を佛の無上正等菩提に安立せしめんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。若し善男子善女人等、方便善巧して有情を諸の菩薩摩訶薩行に安立して退轉せざらしめんと欲し或は自ら行ぜんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。若し菩薩摩訶薩、衆魔を伏し諸の外道を摧かんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべし。若し菩薩摩訶薩、善く諸の苾芻僧を攝受せんと欲せば當に般若波羅蜜多を學すべしと。

【四】一切智智。三顚倒を離れ、一切智所見の實相を諸法に修行し成就せる佛智を云ふ。一切智道相智一切相智卽ち空假中智圓滿せるなり。

【五】習氣。煩惱の體を正使と稱するに對して煩惱が慣習的氣分として殘るものを習氣と云ふなり。

だ曾て、云何が應に布施波羅蜜多を行ずべきか、云何が應に淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を行ずべきか、云何が應に內空(わ)乃至無性自性空に住すべきか、云何が應に眞如(か)乃至不思議界に住すべきか、云何が應に苦聖諦(よ)乃至道聖諦に住すべきか、云何が應に四靜慮(た)乃至四無色定を修すべきか、云何が應に八解脫(れ)乃至十遍處を修すべきか、云何が應に四念住(そ)乃至八聖道支を修すべきか、云何が應に空解脫門(つ)乃至無願解脫門を修すべきか、云何が應に五眼、六神通を修すべきか、云何が應に佛の十力(ね)乃至十八佛不共法を修すべきか、云何が應に無忘失法、恒住捨性を修すべきか、云何が應に一切智(な)乃至一切相智を修すべきか、云何が應に一切陀羅尼門、一切三摩地門を修すべきか、云何が應に一切の菩薩摩訶薩行を修すべきか、云何が應に諸佛の無上正等菩提を修すべきかを請問せざるが故に今甚深般若波羅蜜多を說くを聞きて毀訾誹謗し信ぜず樂はず心淸淨ならざるなりと。

爾の時天帝釋舍利子に謂つて言はく、大德、是の如き般若波羅蜜多の義趣は甚深にして極めて信解し難し。若し善男子善女人等、布施(ら)乃至般若波羅蜜多に於て未だ久しく信解せず久しく修行せずして般若波羅蜜多を說くを聞き信解すること能はず、或は毀謗を生ずるは未だ希有なりと爲さず、若し善男子善女人等內空(む)乃至無性自性空に於て未だ久しく信解せず久しく安住せずして般若波羅蜜多を說くを聞き信解すること能はず或は毀謗を生ずるは未だ希有なりと爲さず。若し善男子善女人等眞如(う)乃至不思議界に於て未だ久しく信解せず久しく安住せずして般若波羅蜜多を說くを聞き信解すること能はず或は毀謗を生ずるは未だ希有なりと爲さず。若し善男子善女人等、四聖諦に於て未だ久しく信解せず久しく安住せずして般若波羅蜜多を說くを聞き信解すること能はず、或は毀謗を生ずるは未だ希有なりと爲さず。若し善男子善女人等、四靜慮(ゐ)乃至四無色定、或は八解脫(の)乃至十遍處、或は四念住(お)乃至八聖道支、或は空無相無願解脫門、或は菩薩の十地に於て未だ久しく信解せず久しく修習せずして般若波羅蜜多を說くを聞き或は毀謗を生ずるは未だ希有なりと爲さず。若し善

(わ)　六度の場合の如く分說すべきを今本文の如く合して略す以下同じ。

初分難聞功德品第三十九之一

[一]時に天帝釋是の念言を作さく、若し善男子善女人等曾て過去無量の如來應正等覺に於て親近供養し弘誓願を發し、諸の善根を種ゑ多く[二]善知識に攝受せらるゝすら今乃ち是の如き般若波羅蜜多の功德名字を聞くを得。況んや能く書寫し讀誦し受持し理の如く思惟し他の爲に演說し、或は能く力に隨つて說の如く修行せんをや、當に知るべし是の人は已に過去無量の佛所に於て親近承事し供養恭敬尊重讃歎し、衆の德本を植ゑ、曾て般若波羅蜜多を聞き聞き已つて受持し思惟し讀誦し他の爲に演說し敎の如く行じ、或は此の經に於て能く問ひ能く答へ、斯の福力に由りて今是の事を辦ずと。若し善男子善女人等已に曾て無量の如來應正等覺を供養せる功德純淨にして此の般若波羅蜜多を聞きて其の心驚かず恐れず怖かず、聞き已つて信樂し說の如く修行せば當に知るべし是の人[三]多倶胝劫、已に曾て布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修習せるが故に今生に於て能く此の事を成ずと。

爾の時具壽舍利子、佛に白して言さく、世尊、若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多甚深の義趣を聞きて其の心驚かず恐れず怖かず、聞き已つて書寫し讀誦し受持し理の如く思惟し他の爲に演說し、或は復た力に隨ひて敎の如く修行せば當に知るべし是の人は不退位の諸の菩薩摩訶薩の如しと。何を以ての故に、世尊、是の如き般若波羅蜜多の義趣は甚深にして極めて信解し難ければなり。若し先世に於て久しく布施淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多を修習せずんば豈に暫くも聞きて卽ち能く信解するを得んや。世尊、若し善男子善女人等、般若波羅蜜多を說くを聞きて毀呰し誹謗せば當に知るべし是の人は先世にも此の甚深般若波羅蜜多に於て亦た曾て毀謗せりと。何を以ての故に、世尊、是の善男子善女人等は是の如き甚深般若波羅蜜多を說くを聞くも宿習力に由りて信ぜず樂はず心淸淨ならざればなり。世尊、是の善男子善女人等は未だ曾て諸佛菩薩及び弟子衆に親近せず、未

【一】般若を聞持するとせざるとの福罪を辨じてその體すべき所以を說く。
【二】善知識に攝受せらる。現世に於て好師同學等に遇ふを云ふ。
【三】倶胝劫。倶胝(Koti)は億、劫(Kalpa)は長時又は大時などゝ譯さる。共に想像を越えた長時間を云ふ。

し、諸佛の無上正等菩提の事不可得なるが故にと。

世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ如來波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、能く如實に一切法を說くが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[八]自然波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法に於て自在を得るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[九]正等覺波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法に於て能く正等に一切相を覺するが故にと。

【八】自然。自然とは佛をいふ。後身自然に作佛し、佛自在力を成ずるもの般若なればなり。

【九】正等覺。一切法に於てよく一切法の平等差別の相を完全に覺了するを云ふ。中道妙觀、五眼具足、一切相智に同じ。

屈伏に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二]四無所畏波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、道相智退役無きを得るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三]四無礙解波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切相智滯礙無きを得るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[四]大慈波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切有情を安樂ならしむるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ大悲波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切有情を利益するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ大喜波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切有情を捨てざるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ大捨波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の有情に於て心平等なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ十八佛不共法波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の聲聞獨覺法に超過するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無忘失法波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、無忘失の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ恒住捨性波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、恒住捨性の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ一切陀羅尼門波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の總持の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ一切三摩地門波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の等持の事不可得なるが故にと。

世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[五]一切智波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切智の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[六]道相智波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如き道相智の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[七]一切相智波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切相智の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ一切菩薩摩訶薩行波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の菩薩摩訶薩行の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ諸佛無上正等菩提波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如

【二】四無所畏。道相智即ち衆生が涅槃を得る道を明かにする法眼增益して沒せざるが故に無畏と云ふ。

【三】四無礙解。四無礙のみならず一切實相に合して無礙なるを云ふ。

【四】大慈等。四無量心に就て列ぬ。

【五】一切智。一切智は因分略說總相の智として諸法空平等とするも空の空とすべきも得べからず。

【六】道相智。諸道實相に即して重々差別を知る假法の智を云ふもその智相も亦不可得。

【七】一切相智。果分廣說別相なる如來の妙智を云ふも、これ亦分別の有とすべきにあらず。

精進懈怠不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ靜慮波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、靜慮散亂不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三六]般若波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、善慧惡慧不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ方便善巧波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、方便善巧無方便善巧不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ願波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、願不願の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ力波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、力無力の事不可得なるが故にと、世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ智波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、智無智の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三七]菩薩十地波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、十地十障不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三八]四靜慮波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、四靜慮の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三九]四無量波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、四無量の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ四無色定波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、四無色定の事不可得なるが故にと。

世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ五眼波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、五眼境の事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ六神通波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、六神通の事不可得なるが故にと。

卷の第二百九十七

初分波羅蜜多品第三十八之二

世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一]佛十力波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法の難

【三六】般若。善現般若が無明を破し智慧を與ふるを讃するに對し、佛は般若の常住に就て善慧も惡慧も不可得なりとす。

【三七】菩薩十地。極喜地離垢地發光地焰慧地極難勝地現前地遠行地不動地善慧地法雲地と云ひ施戒忍進定慧方便願力智の十度を滿足し十種無明を除くと云ふも施設に過ぎず、實に十地の證するなく十障の斷ずべきものなきを云ふ。

【三八】四靜慮等。尋伺喜樂を捨する、物欲を離れ知情意の專一なる初禪乃至第四禪を云ふもその事も亦不可得なり。

【三九】四無量。慈悲喜捨の廣大無邊、その事も亦不可得。

【一】佛十力。般若を行じて菩薩の十力を得後に佛の十力を得るも是を以て佛十力と云ふに非ず、本來一切法難屈伏の故にかく云ふなり。

言はく、是の如し、身受心法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ四正斷波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、善不善法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ四神是波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、四神是性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ五根波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、五根の自性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ五力波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、五力の自性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ七等覺支波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如く、七等覺支性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ八聖道支波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、八聖道支性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ空解脫門波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、空離行相不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無相解脫門波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、寂靜行相不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無願解脫門波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、無願行相不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ八解脫波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、八解脫性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ八勝處波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、八勝處性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ九次第定波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、九次第定性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ十遍處波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し十遍處性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ布施波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、布施慳悋不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ淨戒波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、持戒犯戒不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ安忍波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、忍辱瞋恚不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ精進波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、

が故にと。世尊是の如き般若波羅蜜多は是れ無性空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、無性空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ自性空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、自性空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無性自性空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、無性自性空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ眞如波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、眞如性不可得なりと知るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ法界波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の法界の不可得に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ法性波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の法性の不可得に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ不虛妄性波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、不虛妄性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ不變異性波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、不變異性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ平等性波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、平等性の不可得に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ離生性波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、離生性不可得なりと知るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ法定波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、法定不可得なりと了達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ法住波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、法住不可得なりと了達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ實際波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、實際性不可得なりと了するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是は虛空界波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、虛空界不可得なりと了するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ不思議界波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、不思議界不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ四聖諦波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、四聖諦不可得なりと了するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三五]四念住波羅蜜多なりと。佛

【三五】四念住波羅蜜。身受心法の四法緣處本來不可得なるを云ふ。四正斷以下般若迄皆同意なり。

世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ内空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、内法不可得なりと了達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ外空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、外法不可得なりと了達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ内外空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、内外法不可得なりと知るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ空空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、空空法不可得なりと了するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ大空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、大空の法不可得なりと了するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ勝義空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、勝義空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ有爲空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の有爲法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無爲空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の無爲法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ畢竟空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、畢竟空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無際空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、無際空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ散空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の散空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無變異空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、無變異空の法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ本性空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、有爲無爲法不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ自相空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法の離自相に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ共相空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法の離共相に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ一切法空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、内外法不可得なりと知るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ不可得空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の法性不可得なる

事不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無瞋恚波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如く、一切の瞋恚の事を破壞するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無愚癡波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の無知黑闇の事を滅するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無煩惱波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、分別を離るゝが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二七]離有情波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の有情の無所有に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二八]無斷壞波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法無等起なるを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二九]無二邊波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、二邊を離るゝが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三〇]無雜壞波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法は雜壞無しと知るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三一]無取著波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、聲聞獨覺地に超過するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三二]無分別波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の分別不可得なるが故にと。

世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三三]無分量波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸法の分限不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ如虛空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法の無滯礙に達するが故にと。[三四]世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無常波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、能く永く一切法を壞滅するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ苦波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、能く永く一切法を驅遣するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無我波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法に於て執著無きが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法の無所得に達するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無相波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法の無生相を證するが故にと。

【二五】極寂靜。無所得、見空の故に寂靜なり。

【二六】無貪欲。貪欲本來不可得なれば無貪欲といふにて欲を離れたるには非ざるなり、無瞋恚等又同じ。

【二七】離有情。人畜等有情個在の實在なきが故に。

【二八】無斷壞。一切法無等起なれば自然に斷ず、斷ずべき斷なし。

【二九】無二邊。苦樂有無、常無常等、無量の二邊本來無なるを云ふ。

【三〇】無雜壞。一切法定異相なく不離なり、一切法の實相これ般若なれば無雜壞といふ。

【三一】無取著。一切法を取らざるが故に二乘解脫の淨法を超過して取らざるなり。

【三二】無分別。分別すべき妄想本來無なるを云ふ。

【三三】無分量。法不可得なれば諸法の分限も不可得なるを云ふ。

【三四】以下の諸波羅蜜に於て諸出世間淨法を說く。

故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一七]無失壞波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法は失壞無きを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一八]如夢波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法は夢に見る所の如く得可からざるを以ての如にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ如響波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、能所の聞說不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ如影像波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸法皆光鏡の如く現ずる所不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ如焰幻波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法は流れの如く變相不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ如變化事波羅蜜多なりと。佛言はく是の如し、諸法は皆變化する所の如きが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ如尋香城波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸法は皆尋香城の如きが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一九]無染淨波羅蜜多なりと。佛言はく是の如し、諸の染淨の因不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二〇]無所得波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸法の依處不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二一]無戲論波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の戲論の事を破壞するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ無慢執波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の慢執の事を破壞するが故にと、世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二二]無動轉波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、法界に住するが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二三]離染著波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法虛妄ならずと覺るが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二四]無等起波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法に於て分別無きが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二五]極寂靜波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の法相に於て所得無きが故にと。

世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二六]無貪欲波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の貪欲の

【一三】不生滅。諸法生なく滅なきを云ふ。

【一四】無作。生空にして作者なく、法鈍にして作相なきを云ふ。

【一五】無知。分別を離れ知者知相所知なきを云ふ。

【一六】無移轉。空慧眼より見れば生死不可得にして後世到る處なきを云ふ。

【一七】無失壞。實相を離るれば諸法皆失壞す、般若に依て失壞せざるなり。

【一八】如夢。空十喩によりて如夢如響等を擧ぐ。

【一九】無染淨。無染とは妄解の一切法を離るゝを云ひ、無淨とは煩惱なきを淨といひ、煩惱虛誑の故に淨の淨とすべきものなきを云ふなり。

【二〇】無所得。法の性相所依執すべきなきを云ふ。

【二一】無戲論。論のために論する論理遊戲を離るゝなり。

【二二】無動轉。法性に住すれば議論に動かされず、煩惱に覆はれず、心沮喪有惱せざるを云ふ。

【二三】離染著。實相に相應するを云ふ。

【二四】無等起。一切法に分別なければ惑なく業なく後世生起せず、無分別に安住するを云ふ。

初分波羅蜜多品第三十八之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[二]無邊波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、猶ほ虛空の如く無邊際なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[三]平等波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の法性平等なるを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[四]遠離波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、畢竟空なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[五]難屈伏波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切の法性不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[六]無足迹波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、名體無きが故にと。世尊、是の如き波羅蜜多は是れ[七]虛空波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、入息出息不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多に是れ[八]不可說波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、此の中尋伺不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[九]無名波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、受想行識不可得なるが故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一〇]無行波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法は去來無きを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一一]不可奪波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法取る可からざるを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一二]盡波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法畢竟盡くるを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一三]不生滅波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、一切法は生滅無きを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一四]無作波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の作者不可得なるを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一五]無知波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、諸の知者不可得なるを以ての故にと。世尊、是の如き般若波羅蜜多は是れ[一六]無轉波羅蜜多なりと。佛言はく、是の如し、死生者不可得なるを以ての

【一】善現無邊波羅蜜多以下一百三十波羅蜜多の義を讃ず。
【二】無邊。常無常などの邊を離れ、邊際なく虛空の如きを云ふ。
【三】平等。法忍を得て諸法平等を觀る。
【四】遠離。諸煩惱諸法を離る。
【五】難屈伏。定實の法相を取著せざるが故に難者破壞する能はず。
【六】無足迹。涅槃の名色を離るゝを云ふ。
【七】虛空。入息出息不可得なるを云ふ。
【八】不可說。法空寂にして覺觀尋伺なければ言說なきを云ふ。
【九】無名。名は色に對する心法なり、般若を慧とせば名に屬するも色を離れて受想等不可得なれば無名とす。
【一〇】無行。一切法去來なきを云ふ。
【一一】不可奪。取なきが故に奪ふべからず。
【一二】盡。三世不盡にして盡不可得なるを畢竟盡とし又盡波羅蜜と云ふなり。

の如き大般若波羅蜜多の中には轉法輪の事は畢竟不可得なり。一切法皆永く生ぜざるを以ての故に、所以は何ん、空無相無願法の中には能轉及び能還の事有る可きに非ざればなり。世尊、若し能く是の如く[二三]宣說開示し分別顯了して悟入し易からしめば是れを善淨と名づく。般若波羅蜜多を宣說するに此の中には都て說者受者無し。[二四]既に說者及び受者無きが故に諸の能證者も亦た不可得なり。證者無きが故に亦た能く涅槃を得る者有ること無し。此の般若波羅蜜多に於ては善く法を說く中にも亦た福田無し。施受施物皆性空なるが故に。

【二三】宣說開示。般若の門を開き道非道を說示す。
【二四】說者及び受者無きが故に等。實相空にして無說なれば受者なし、無受なれば得果し證する者なし、無證なれば涅槃を得る者なく、無滅なれば福田もなきなり。

互に相慶慰し聲を同くして唱へて言はく、我れ等今贍部洲に於て佛の[15]第二の妙法輪を轉じたまふを見ると。此の中の無量百千の天子、般若波羅蜜多を說くを聞きて俱時に[16]無生法忍を證得せり。

爾の時佛、具壽善現に告げて言はく、[17]是の如き法輪は第一轉に非ず第二轉に非ず。所以は何ん、善現、是の如き般若波羅蜜多は一切法に於て[18]轉ずることを爲さざるが故に還ることを爲さざるが故に世に出現すればなり。何を以ての故に、[19]無性自性空を以ての故なりと。具壽善現、佛に白して言さく、世尊、何等の法を以て無性自性空の故に是の如き般若波羅蜜多は一切法に於て轉ずることを爲さざるが故に還ることを爲さざるが故に世に出現するやと。

[20]佛言はく、(p)善現、般若波羅蜜多の般若波羅蜜多性空なるを以ての故に、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多の靜慮乃至布施波羅蜜多性空なるが故に。(p)內空乃至無性自性空。(p)眞如乃至不思議界。(p)苦聖諦乃至道聖諦。(p)四靜慮乃至四無色定。(p)八解脫乃至十遍處。(p)四念住乃至八聖道支。(p)空解脫門乃至無願解脫門。(p)菩薩の十地。(p)佛の十乃至十八佛不共法。(p)無忘失法、恒住捨性。(p)一切智乃至一切相智。(p)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(p)預流果乃至阿羅漢果。(p)獨覺菩提。(p)一切の菩薩摩訶薩行。(p)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き等の法無性自性空なるを以ての故に是の如き般若波羅蜜多は一切法に於て轉ずることを爲さざるが故に還ることを爲さざるが故に世に出現すと。

[21]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多は是れ[22]大波羅蜜多なり。一切法の自性空に達するが故に。一切法の自性皆空に達すと雖も而かも諸の菩薩摩訶薩は此の般若波羅蜜多に因りて無上正等菩提を證得し、妙法輪を轉じて無量の衆を度す。菩提を證すと雖も而かも證する所無し。證不證の法不可得なるが故に。法輪を轉ずと雖も而かも轉ずる所無し、轉法還法不可得なるが故に。有情を度すと雖も而かも度する所無し、見不見の法不可得なるが故に。世尊、是

【一五】鹿野苑の初轉法輪に對して、此の般若の說法に無量諸天無生法忍を得たるを第二の轉法輪と云ふなり。
【一六】無生法忍。生滅を遠離せる眞如實相の理體に安住して動轉せず、眞生を精進するを云ふ。
【一七】是の如き法輪は等。轉法輪も果報涅槃も畢竟空なるが故に定實法輪の思想を破す。
【一八】轉ずることを爲さざるが故に等。世間の生法を轉とし、滅法を還とす。無起無作の故に轉ずることを爲さず還ずることを爲さずとす。
【一九】無性自性空。一切諸法は實體なりくして皆空なるを云ふ。
【二〇】佛自相空を以て答ふ。(p)「善現以般若波羅蜜多般若波羅蜜多性空故靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多靜慮乃至布施波羅蜜多性空」右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故之を符號(p)にて略し以下その諸法のみ略出す。
【二一】善現一切法不可得を明す。
【二二】大波羅蜜多。般若最勝なるを稱す。

波羅蜜多を修行する時、是の如き想無く是の如き分別無く是の如く得る無く是の如き戲論無し、我れ般若波羅蜜多を行じ、我れ般若波羅蜜多を修すと。是の菩薩摩訶薩は能く如實に般若波羅蜜多を修行し、亦た能く諸佛に親近し禮事し、一佛國より一佛國に至りて諸佛世尊を供養恭敬尊重讃歎し、諸の佛國に遊びて有情を成熟し佛土を嚴淨し、諸の菩薩摩訶薩行を修して速に無上正等菩提を證す

善現、是の如き般若波羅蜜多は一切法に於て不向不背・不引不賓・不取不捨・不生不滅・不染不淨・不常不斷・不一不異・不來不去・不入不出・不增不減なり。善現、是の如き般若波羅蜜多は過去に非ず未來に非ず現在に非ず。善現、是の如き般若波羅蜜多は欲界を超えず欲界に住せず、色界を超えず色界に住せず、無色界を超えず無色界に住せず。

善現、是の如き般若波羅蜜多は布施波羅蜜多に於て與へず捨てず、淨戒安忍精進靜慮般若巧願力智波羅蜜多に於て與へず捨てず。(o)內空乃至無性自性空。(o)眞如乃至不思議界。(o)苦聖諦乃至道聖諦。(o)四靜慮乃至四無色定。(o)八解脫乃至十遍處。(o)四念住乃至八聖道支。(o)空解脫門乃至無願解脫門。(o)菩薩の十地。(o)五眼、六神通。(o)佛の十力乃至十八佛不共法。(o)無忘失法、恒住捨性。(o)一切智乃至一切相智。(o)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(o)預流果乃至阿羅漢果。(o)獨覺菩提。(o)一切の菩薩摩訶薩行。(o)諸佛の無上正等菩提。

善現、是の如き般若波羅蜜多は聲聞法を與へず異生法を捨てず、獨覺法を與へず聲聞法を捨てず、諸佛法を與へず獨覺法を捨てず、無爲法を與へず有爲法を捨てず。所以は何ん、善現、[九]若しは佛出世するも若しは出世せざるも是の如き諸法は常に變易無ければなり。法性法界法定法住を一切の如來等覺は現觀し、既に自ら等覺し自ら現觀し已つて諸の有情の爲に宣說開示し分別顯了して同じく悟入せしめて諸の忘想分別顚倒を離ると。[一〇]爾の時無量百千の天子、虛空の中に住し歡喜踊躍して天の所有る[一一]嗢鉢羅華・[一二]鉢特摩華・[一三]拘母陀華・[一四]奔茶利華・微妙の香華及び諸の香末を以て佛の上に散じ、

【八】是の如き想無く等。般若の相を取らず著せず分別せず、定相得べからざれば法愛なく、戲論を斷ずるを云ふ。

(o)「善現如是般若波羅蜜多於布施波羅蜜多不與不捨於淨戒安忍精進靜慮般若巧願力智波羅蜜多不與不捨」右の文中「布施乃至般若巧願力智波羅蜜多」の代りに次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故之を符號(o)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【九】若しは等。有佛無佛法相常然を明す。特に常無常を分別せば實相に異り錯謬に陷る。

【一〇】諸天讃歎して第二の轉法輪となし、無相に轉還無きを明す。

【一一】嗢鉢羅華(utpala)靑蓮華なり。

【一二】鉢特摩華(Padma)赤蓮華なり。

【一三】拘母陀華(Kumuda)黃蓮華なり。

【一四】奔茶利華(Puṇḍarika)白蓮華なり。

四無量・四無色定を廣說開示し、四念住・四正斷・四神足・五根・五力・七等覺支・八聖道支・三解脫門・八解脫・八勝處・九次第定・十遍處・四聖諦・佛法僧寶を廣說開示し、布施・淨戒・安忍・精進・靜慮・般若・巧願力智波羅蜜多・菩薩の十地・一切の菩薩摩訶薩行・[5]內空・外空・內外空・空空・大空・勝義空・有爲空・無爲空・畢竟空・無際空・散空・無變異空・本性空・自相空・共相空・一切法空・不可得空・無性空・自性空・無性自性空・眞如・法界・法性・不虛妄性・不變異性・平等性・離生性・法定・法住・實際・虛空界・不思議界を廣說開示し、五眼・六神通・佛の十力・四無所畏・四無礙解・大慈・大悲・大喜・大捨・十八佛不共法・無忘失法・恒住捨性・一切智・道相智・一切相智・一切陀羅尼門・一切三摩地門、是の如き無量の大法珍寶を廣說開示すればなり。無數の有情、中に於て修學して刹帝利大族・婆羅門大族・長者大族・居士大族に生じ、無數の有情、中に於て修學して四大王衆天乃至他化自在天に生じ、無數の有情、中に於て修學して梵衆天乃至色究竟天に生じ、無數の有情、中に於て修學して空無邊處天乃至非想非非想處天に生じ、無數の有情、中に於て修學して預流果一來果不還果阿羅漢果を得、無數の有情、中に於て修學して獨覺菩提を得、無數の有情、中に於て修學して菩薩の正性離生に入るを得、無數の有情、中に於て修學して無上正等菩提を證得す。善現、此の因緣に由りて是の如き般若波羅蜜多を大寶藏と名づく。善現、是の如き般若波羅蜜多大寶藏の中には少法も生有り滅有り染有り淨有り取有り捨有りと說かず、所以は何ん、少法も生ず可く滅す可く染す可く淨む可く取る可く捨つ可き無きを以てなり。善現、是の如き般若波羅蜜多大寶藏の中には法の是れ善是れ非善是れ世間是れ出世間是れ有漏是れ無漏是れ有罪是れ無罪是れ雜染是れ清淨是れ有爲是れ無爲有りと說かず。善現、此の因緣に由りて是の如き般若波羅蜜多を[6]無所得大法寶藏と名づく。善現、是の如き般若波羅蜜多大寶藏の中には少法も是れ能く染汚すと說かず。所以は何ん、少法も染汚す可き無きを以ての故に。善現、此の因緣に由りて是の如き般若波羅蜜多を[7]無染汚大法寶藏と名づく。善現、若し菩薩摩訶薩、般若

【五】內空等、二十空を列ぬ。

【六】無所得大法寶藏。大寶藏波羅蜜中、法の所得無きが故にかく名づく。

【七】無染汚大法寶藏。染汚不可得なれば大寶藏波羅蜜の能く染汚するもの有る無きの故にかく名づく。

三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天・梵衆天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天、是の諸の天衆倶に來りて此の法師の所に集會し般若波羅蜜多を聽受す。是の善男子善女人等は無量の大集會の中に於て甚深般若波羅蜜多を讀誦し宣說するに由りて便ち無量無數無邊不可思議不可稱量の殊勝功德を獲んと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し、若し善男子善女人等、此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し理の如く思惟し他の爲に演說せば、是の善男子善女人等は六根患ひ無く支體具足し身衰朽せず亦た夭壽無く、常に無量百千の天神に恭敬圍遶隨逐護念せられん。是の善男子善女人等は[三]黑白月の各第八日第十四日第十五日に於て、是の如き般若波羅蜜多を讀誦し宣說す、是の時四大王衆天乃至色究竟天倶に來りて此の法師の所に集會して般若波羅蜜多を聽受す。是の善男子善女人等は無量の大集會の中に於て甚深般若波羅蜜多を讀誦し宣說するに由りて便ち無量無數無邊不可思議不可稱量の殊勝功德を獲るなり。

[四]何を以ての故に、善現、是の如き般若波羅蜜多は是れ大寶藏なればなり。*此の般若波羅蜜多大寶藏に由るが故に能く無量無邊の有情の地獄傍生鬼界人天等の貧窮に趣く大苦を脫し、能く無量無邊の有情に刹帝利大族・婆羅門大族・長者大族・居士大族の富貴快樂を與へ、能く無量無邊の有情に四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天の富貴快樂を與へ、能く無量無邊の有情に梵衆天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天の富貴快樂を與へ、能く無量無邊の有情に空無邊處天・識無邊處天・無所有處天・非想非非想處天の富貴快樂を與へ、能く無量無邊の有情に預流果・一來果・不還果・阿羅漢果・獨覺菩提の富貴安樂を與へ、能く無量無邊の有情に無上正等菩提の富貴安樂を與ふ。所以は何ん、是の如き般若波羅蜜多大寶藏の中には十善業道・四靜慮・

【三】黑白月等、滿月より減じ行くは黑月、無月より滿月に向ふは白月。
【四】般若の大寶藏なる所以を明す。
*般若に拔苦與樂の慈悲利益あることを示す。

受想行識不生不滅不染不淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、色は畢竟空なるが故に不生不滅不淨、受想行識は畢竟空なるが故に不生不滅不染不淨なり。此れに由りて般若波羅蜜多清淨なり。(ロ)眼處乃至意處。(ロ)色處乃至法處。(ロ)眼界乃至諸受。(ロ)耳界乃至諸受。(ロ)鼻界乃至諸受。(ロ)舌界乃至諸受(ロ)身界乃至諸受。(ロ)意異乃至諸受。(ロ)地界乃至識界。(ロ)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(ロ)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(ロ)內空乃至無性自性空。(ロ)眞如乃至不思議界。(ロ)苦聖諦乃至道聖諦。(ロ)四靜慮乃至四無色定。(ロ)八解脫乃至十遍處。(ロ)四念住乃至八聖道支。(ロ)空解脫門乃至無願解脫門。(ロ)菩薩の十地。

卷の第二百九十六

初分說般若相品第三十七之五

(ロ)五眼、六神通。(ロ)佛の十力乃至十八佛不共法。(ロ)無忘失法、恒住捨性。(ロ)一切智乃至一切相智。(ロ)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(ロ)預流果乃至阿羅漢果。(ロ)獨覺菩提。(ロ)一切の菩薩摩訶薩行。(ロ)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、虛空不生不滅不染不淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が虛空不生不滅不染不淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、虛空は畢竟空なるが故に不生不滅不染不淨なり。此れに由りて般若波羅蜜多清淨なりと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、若し善男子善女人等此の般若波羅蜜多に於て受持讀誦し理の如く思惟し他の爲に演說せば是の善男子善女人等は六根患ひ無く支體具足し身衰朽せず、亦た夭壽無し、常に無量百千の天神に恭敬圍遶隨逐護念せられん。是の善男子善女人等、黑白月の各第八日第十四日第十五日に於て是の如き般若波羅蜜多を讀誦し宣說せば是の時四大王衆天・三十

(ロ)前卷と同意。

【一】般若受持の別益を明す。

【二】支體具足し。四肢五體六根不具敗壞傷損せざるを云ふ。

(l)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(l)預流果乃(い)至阿羅漢果。(l)獨覺菩提。(l)一切の菩薩摩訶薩行。(l)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、虛空不可說なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が虛空不可說なるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、虛空は說く可き事無きが故に不可說なり。此れに由りて般若波羅蜜多清淨なり。

復た次に(m)善現、色不可得なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識不可得なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が色不可得なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識不可得なるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、色は得可き事無きが故に不可得、受想行識は得可き事無きが故に不可得なり。此れに由りて般若波羅蜜多清淨なり、(m)眼處乃(ろ)至意處。(m)色處乃(は)至法處。(m)眼界乃(に)至諸受。(m)耳界乃(ほ)至諸受。(m)鼻界乃(へ)至諸受。(m)舌界乃(と)至諸受。(m)身界乃(ち)至諸受。(m)意界乃(り)至諸受。(m)地界乃(ぬ)至識界。(m)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(m)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(m)內空乃(わ)至無性自性空。(m)眞如乃(か)至不思議界。(m)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(m)四靜慮乃(た)至四無色定。(m)八解脫乃(れ)至十遍處。(m)四念住乃(そ)至八聖道支。(m)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(m)菩薩の十地。(m)五眼、六神通。(m)の佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(m)無忘失法、恒住捨性。(m)一切智乃(な)至一切相智。(m)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(m)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(m)獨覺菩提。(m)一切の菩薩摩訶薩行。(m)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、虛空不可得なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が虛空不可得なるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、虛空は得可き事無きが故に不可得なり。此れに由りて般若波羅蜜多清淨なり。

復た次に(n)善現、色不生不滅不染不淨なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識不生不滅不淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が色不生不滅不染不淨なるが故に般若波羅蜜多清淨、

【一】虛空は等。空無作にして一切の音聲を離るゝが如し、第一義畢竟空は言說を離る。

(m)「復次」の代りに「佛言」の二字を「善現色不可得故般若波羅蜜多清淨……由此般若波羅蜜多清淨」に加へ(l)の場合に準じ以下諸法のみ略出す。

(n)「復次」の代りに「佛言」の語を以てし「善現色不生不滅不染不淨故般若波羅蜜多清淨……由此般若波羅蜜多清淨」と共にこれを符號(n)にて略し以下(m)の場合に準じ諸法のみ略出す。

憂惱。(k)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(k)內空乃至無性自性空。(k)眞如乃至不思議界。(k)苦聖諦乃至道聖諦。(k)四靜慮乃至四無色定。(k)八解脫乃至十遍處。(k)四念住乃至八聖道支。(k)空解脫門乃至無願解脫門。(k)菩薩の十地。(k)五眼、六神通。(k)佛の十力乃至十八佛不共法。(k)無忘失法、恒住捨性。(k)一切智乃至一切相智。(k)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(k)預流果乃至阿羅漢果。(k)獨覺菩提。(k)一切の菩薩摩訶薩行。(k)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、虛空は唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が虛空は唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、虛空に依りて二事の響現ずるが如く唯だ假設のみ有り、唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨なり。

復た次に(l)善現、色不可說なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識不可說なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が色不可說なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識不可說なるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、色は說く可き事無きが故に不可說、受想行識は說く可き事無きが故に不可說なり。此れに由りて般若波羅蜜多清淨なり。(l)眼處乃至意處。(l)色處乃至法處。(l)眼界乃至諸受。(l)耳界乃至諸受。(l)鼻界乃至諸受。(l)舌界乃至諸受。(l)身界乃至諸受。(l)意界乃至諸受。(l)地界乃至識界。(l)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(l)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(l)內空乃至無性自性空。(l)眞如乃至不思議界。(l)苦聖諦乃至道聖諦。(l)四靜慮乃至四無色定。(l)八解脫乃至十遍處。(l)四念住乃至八聖道支。(l)空解脫門乃至無願解脫門。(l)菩薩の十地。

卷の第二百九十五

初分說般若相品第三十七之四

(l)五眼、六神通。(l)佛の十力乃至十八佛不共法。(l)無忘失法、恒住捨性。(l)一切智乃至一切相智。

(l)「復次」の代りに「佛言」の二字を「善現色不可說故般若波羅蜜多清淨……由此般若波羅蜜多清淨」の上に加へ之を符號(l)にて略す只だ「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同文なる故以下其の諸法のみ略出す。

(l) 前卷と同意。

(j)眼處乃(ろ)至意處。(j)色處乃(ほ)至法處。(j)眼界乃(に)至諸受。(j)耳界乃(ほ)至諸受。(j)鼻界乃(へ)至諸受。(j)舌界乃(と)至諸受。(j)身界乃(ち)至諸受。(j)意界乃(り)至諸受。(j)地界乃(ぬ)至識界。(j)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(j)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(j)內空乃(わ)至無性自性空。(j)眞如乃(か)至不思議界。(j)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(j)四靜慮乃(た)至四無色定。

卷の第二百九十四

初分說般若相品第三十七之三

(j)八解脫乃(れ)至十遍處。(j)四念住乃(そ)至八聖道支。(j)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(j)菩薩の十地。(j)五眼、六神道。(j)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(j)無忘失法、恒住捨性。(j)一切智乃(な)至一切相智。(j)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(j)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(j)獨覺菩提。(j)一切の菩薩摩訶薩行。(j)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、虛空染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が虛空染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、虛空は取る可からざるが故に染汚無し。虛空染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨なり。

復た次に(k)善現、色は唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識は唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が色は唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識は唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、虛空に依りて[一]二事の響現するが如く色乃至識も亦復た是の如く唯だ假設のみ有り、色乃至識は唯だ假設のみなるが故に般若波羅蜜多清淨なり。(k)眼處乃(ろ)至意處。(k)色處乃(ほ)至法處。(k)眼界乃(に)至諸受。(k)耳界乃(ほ)至諸受。(k)鼻界乃(へ)至諸受。(k)舌界乃(と)至諸受。(k)身界乃(ち)至諸受。(k)意界乃(り)至諸受。(k)地界乃(ぬ)至識界。(k)無明乃(る)至老死愁歎苦

(j) 前卷と同意。

(k) 「復次」の代りに「佛言」の二字を「善現色唯假設故般若波羅蜜多清淨……色乃至識唯假設故般若波羅蜜多清淨」に加へ之を符號(k)にて略し文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同文なり故に今はその諸法のみ略出す。

【一】 二事の響。山谷の響と口中の聲倶に空より發す。聲を實とし響を虛するも、二聲倶に不實なり。

一切の菩薩摩訶薩行。(h)諸佛の無上正等菩提。

[一]爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は云何が清淨なりやと、(i)佛言はく、善現、色清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が色清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なりやと。善現、色は生無く滅無く染無く淨無きが故に清淨なり。色清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なり。受想行識は生無く滅無く染無く淨無きが故に清淨なり。受想行識清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。(i)眼處乃(ろ)至意處。(i)色處乃(は)至法處。(i)眼界乃(に)至諸受。(i)耳界乃(ほ)至諸受。(i)鼻界乃(へ)至諸受。(i)舌界乃(と)至諸受。(i)身界乃(ち)至諸受。(i)意界乃(り)至諸受。(i)地界乃(ぬ)至識界。(i)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(i)布施波羅蜜多乃(わ)至般若波羅蜜多。(i)內空乃(わ)至無性自性空。(i)眞如乃(か)至不思議界。(i)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(i)四靜慮乃(た)至四無色定。(i)八解脫乃(れ)至十遍處。(i)四念住乃(そ)至八聖道支。(i)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(i)菩薩の十地。(i)五眼、六神通。(i)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(i)無忘失法、恒住捨性。(i)一切智乃(な)至一切相智。(i)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(i)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(i)獨覺菩提。(i)一切の菩薩摩訶薩行。(i)諸佛の無上正等菩提。

復た次に善現、虛空清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が虛空清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なるやと。善現、虛空は生無く滅無く染無く淨無きが故に清淨なり。虛空清淨なるが故に般若波羅蜜多清淨なり。

復た次に善現、(j)色染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨なりと。世尊、云何が色染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨、受想行識染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨なりやと。善現、色[四]取る可からざるが故に染汚無し。色染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨なり。受想行識取る可からざるが故に染汚無し。受想行識染汚無きが故に般若波羅蜜多清淨なりと。

【一】般若波羅蜜多清淨の義を明す。
(i)「佛言善現色淸淨故般若波羅蜜多淸淨……受想行識無生無滅無染無淨故淸淨受想行識淸淨故般若波羅蜜多淸淨」右も(h)の場合に準じ以下法相のみ略出す。
【二】色清淨等。因果相似能所一如の故に色淸淨なれば般若も淸淨なりとす。
【三】生無く滅無く染無く淨無し。業因緣を失はずして諸法生相の定實なるものを得ざるを生無く滅無くといひ、常に汚染せざるを染無く淨無しと云ふ。
(j)「復次」の代りに「佛言」の二字を「善現無染汚故般若波羅蜜多淸淨……受想行識不可取故無染汚受想行識無染汚故般若波羅蜜多淸淨」に加へ之を符號(j)にて略し只だ「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入れ代ふれば他は皆同文と知るべし。
【四】取る可からざるが故に染汚無し。無形無色にて取る可からざれば汚し得ざるにて般若も邪見汚す能はず、惡事壞する能はざるなり。

法處。(g)眼界乃(に)至諸受。(g)耳界乃(ほ)至諸受。(g)鼻界乃(へ)至諸受。(g)舌界乃(と)至諸受。(g)身界乃(ち)至諸受。(g)意界乃(り)至諸受。(g)地界乃(ぬ)至識界。(g)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(g)內空乃(わ)至無性自性空。(g)眞如乃(か)至不思議界。(g)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(g)四靜慮乃(た)至四無色定。(g)八解脫乃(れ)至十遍處。(g)四念住乃(そ)至八聖道支。(g)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(g)菩薩の十地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃(な)至一切相智。(g)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(g)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、彌勒菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を得ん時は何等の法を證し復た何の法を說くやと。佛言はく、善現、彌勒菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を得ん時は(h)色畢竟淨法なるを證し色畢竟淨法なりと說く、受想行識畢竟淨法なるを證し受想行識畢竟淨法なりと說く。(h)眼處乃(ろ)至意處。(h)色處乃(は)至法處。(h)眼界乃(に)至諸受。(h)耳界乃(ほ)至諸受。(h)鼻界乃(へ)至諸受。(h)舌界乃(と)至諸受。(h)身界乃(ち)至諸受。(h)意界乃(り)至諸受。(h)地界乃(ぬ)至識界。(h)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。

卷の第二百九十三

初分說般若相品第三十七之二

(h)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(h)內空乃(わ)至無性自性空。(h)眞如乃(か)至不思議界。(h)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(h)四靜慮乃(た)至四無色定。(h)八解脫乃(れ)至十遍處。(h)四念住乃(そ)至八聖道支。(h)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(h)菩薩の十地。(h)五眼、六神通。(h)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(h)無忘失法、恒住捨性。(h)一切智乃(な)至一切相智。(h)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(h)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(h)獨覺菩提。(h)

(h)「證色畢竟淨法說色畢竟淨法證受想行識畢竟淨法說受想行識畢竟淨法」右も(g)の場合に準じ以下法相のみ略出す。

(h) 前卷と同意。

初分説般若相品第三十七之一

[一]爾の時佛神力の故に此の三千大千世界に於ける所有る[二]四大王衆天・三十三天・夜摩天・覩史多天・樂變化天・他化自在天・梵衆天・梵輔天・梵會天・大梵天・光天・少光天・無量光天・極光淨天・淨天・少淨天・無量淨天・遍淨天・廣天・少廣天・無量廣天・廣果天・無繁天・無熱天・善現天・善見天・色究竟天、是の如き諸天各天の妙栴檀の香末を以て遙に佛の上に散じ、佛所に來詣して雙足を頂禮し却つて一面に住す。時に四天王天の主帝釋、[三]索訶界の主大梵天王・極光淨天・遍淨天・廣果天及び淨居天等、善く佛の神力を憶念せるに由るが故に十方面に於て各千佛の般若波羅蜜多を宣説するを見る、義品名字皆此れに同じ。般若波羅蜜多を請説する苾芻の上首を皆善現と名づけ、般若波羅蜜多を問難する天衆の上首を皆帝釋と名づく。爾の時世尊、具壽善現に告げて言はく、彌勒菩薩摩訶薩の當に阿耨多羅三藐三菩提を得べき時も亦た[四]此の處に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣説せん、此の[五]賢劫中當來の諸佛も亦た此の處に於て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣説せんと。

爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、彌勒菩薩摩訶薩の阿耨多羅三藐三菩提を得ん時は當に[六]何の法諸行の相狀を以て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣説すべきやと。佛言はく、(g)善現、彌勒菩薩摩訶薩、阿耨多羅三藐三菩提を得ん時は當に色の常に非ず無常に非ず樂に非ず苦に非ず我に非ず無我に非ず淨に非ず不淨に非ず寂靜に非ず不寂靜に非ず遠離に非ず不遠離に非ず縛に非ず解に非ず有に非ず空に非ず過去に非ず未來に非ず現在に非ざるを以て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣説すべく、當に受想行識の常に非ず無常に非ず樂に非ず苦に非ず我に非ず無我に非ず淨に非ず不淨に非ず寂靜に非ず不寂靜に非ず遠離に非ず不遠離に非ず縛に非ず解に非ず有に非ず空に非ず過去に非ず未來に非ず現在に非ざるを以て是の如き甚深般若波羅蜜多を宣説すべし。(g)眼處乃至[七]意處。(g)色處乃至[八]

【一】諸天佛の神力に依て十方に千佛を見るを明し、未來彌勒會上の説法を示す。

【二】四大王衆天より他化自在天までは欲界六天、梵衆等の四天は初禪、光天等は二禪淨天等は三禪廣天等は四禪、無繁等は五淨居天、梵衆以下總べて色界梵世天に屬す。

【三】索訶界、娑婆世界堪忍土なり。

【四】此の處。耆闍崛山を云ふ。

【五】賢劫。小乘には五佛出世を説くも、大乘には現在の千佛次第して出世する時を云ふ。

【六】何の法、諸行の相狀。色等の非常、非無常等の畢竟淨法、色等の無相。

(g)「善現彌勒菩薩摩訶薩得阿耨多羅三藐三菩提時當以色非常………當以受想行識非常………宣説甚深般若波羅蜜多」右も(f)の場合の如く「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故に之を符號(g)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。

巻の第二百九十二

初分著不著相品第三十六之六

(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)菩薩の十地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

憍尸迦、是の如く菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して諸法の幻の如く夢の如く響の如く像の如く陽焰の如く光影の如く變化事の如く尋香城の如しと知ると雖も而かも是の菩薩摩訶薩は執して是れ幻なり是れ夢なり是れ響なり是れ像なり是れ陽焰なり是れ光影なり是れ變化事なり是れ尋香城なりとせず、亦た執して幻に由り夢に由り響に由り像に由り陽焰に由り光影に由り變化事に由り尋香城に由らず、亦た執して幻に屬し夢に屬し響に屬し像に屬し陽焰に屬し光影に屬し變化事に屬し尋香城に屬せず、亦た執して幻に依り夢に依り響に依り像に依り陽焰に依り光影に依り變化事に依り尋香城に依らざるなり。

(f) 前卷と同意。

く、憍尸迦、若し般若波羅蜜多を修行する諸の菩薩を守護せんと欲する者も亦復た是の如し、唐設ひ劬勞するも都て益する所無し。憍尸迦、意に於て云何、能く一切の如來應正等覺及び佛の所作の變化事を守護すること有りや不やと。天帝釋言はく、不なり大德と。善現言はく、憍尸迦、若し般若波羅蜜多を修行する諸の菩薩を守護せんと欲する者も亦復た是の如し。唐設ひ劬勞するも都て益する所無し。憍尸迦、意に於て云何、能く眞如乃至[二]不思議界を守護すること有りや不やと。天帝釋言はく、不なり大德と。善現言はく、憍尸迦、若し般若波羅蜜多を修行する諸の菩薩を守護せんと欲する者も亦復た是の如し、唐設ひ劬勞するも都て益する所無しと。

二

爾の時天帝釋、具壽善現に問うて言はく、大德、云何が菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して諸法の幻の如く夢の如く響の如く像の如く陽焰の如く光影の如く變化事の如く尋香城の如しと知ると雖も而かも是の菩薩摩訶薩は執して是れ幻なり是れ夢なり是れ響なり是れ像なり是れ陽焰なり是れ光影なり是れ變化事なり是れ尋香城なりとせず、亦た執して幻に由り夢に由り響に由り像に由り陽焰に由り光影に由り變化事に由り尋香城に由らず、亦た執して幻に屬し夢に屬し響に屬し像に屬し陽焰に屬し光影に屬し變化事に屬し尋香城に屬せず、亦た執して幻に依り夢に依り響に依り像に依り陽焰に依り光影に依り變化事に依り尋香城に依らざるやと。善現答へて言はく、(f)憍尸迦、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修行して執して是れ色なり是れ受想行識なりとせず、亦た執して色に由り受想行識に由らず、亦た執して色に屬し受想行識に屬せず、亦た執して色に依り受想行識に依らずんば是の菩薩摩訶薩は般若波羅蜜多を修行して諸法は幻の如く乃至尋香城の如しと知ると雖も而かも執して是れ幻なり乃至是れ尋香城なりとせず、亦た執して幻に由り乃至尋香城に由らず、亦た執して幻に屬し乃至尋香城に屬せず、亦た執して幻に依り乃至尋香城に依らざるなり。(f)眼處乃[二]至意處。(f)色處乃[三]至法處。(f)眼界乃[三]至諸受。(f)耳界乃[三]至諸受。(f)鼻界乃[二]至諸受。(f)舌界乃[三]至諸受。

【二】人の實とせざる夢幻などを以て五陰の實在を認むべからざるを明す。

(f)「憍尸迦若菩薩摩訶薩修行般若波羅蜜多不執是色是受想行識……亦不執依幻乃至依尋香城」右の文中「色乃至識」に相應する所に次下に出す諸法を代入せば他は皆同文なる故之を符號(f)にて略し以下その諸法のみ略出す。

薩、虚空の如き諸の有情類の解脱を成熟せんが爲に苦行を勤修して無上正等菩提を證せんと欲するは甚だ爲れ希有なりと。[七]爾の時會中に一苾芻有りて竊かに是の念を作さく、我れ應に甚深般若波羅蜜多を敬禮すべし。此の中諸法の生滅無しと雖も而かも戒蘊定蘊慧蘊解脱蘊解脱智見蘊有りと[八]施設し得可く、亦た預流果一來果不還果阿羅漢果有りと施設し得可く、亦た獨覺菩提有りと施設し得可く、亦た無上正等菩提有りと施設し得可く、亦た佛法僧寶有りと施設し得可く、亦た妙法輪を轉じて有情類を度すること有りと施設し得可しと。佛其の念を知ろしめして告げて言はく、苾芻、是の如し是の如し、甚深般若波羅蜜多は微妙にして測り難しと。

[九]爾の時天帝釋、具壽善現に問うて言はく、大德、若し菩薩摩訶薩、甚深般若波羅蜜多を學せんと欲せば當に如何が學すべきと。善現答へて言はく、憍尸迦、若し菩薩摩訶薩、甚深般若波羅蜜多を學せんと欲せば當に虚空の如く學すべしと。時に天帝釋復た佛に白して言さく、世尊、若し善男子善女人等、此の所説の甚深般若波羅蜜多に於て受持讀誦し理の如く思惟し他の爲に演説せば我れ當に云何してか守護を爲すべき。唯だ願はくは世尊、哀みを垂れて教を示したまはんことをと。

[一〇]爾の時具壽善現、天帝釋に謂つて言はく、憍尸迦、汝法の守護す可き有るを見るや不やと。天帝釋言はく、不なり大德、法是れ守護す可きを見ずと。善現言はく、憍尸迦、若し善男子善女人等、所説の如き甚深波羅蜜多に住せば即ち爲れ守護なり。若し善男子善女人等所説の如き甚深般若波羅蜜多に住し常に遠離せずんば當に知るべし、一切の人非人等其の便りを伺求して損害を爲さんと欲するも終に得ること能はず。憍尸迦、若し所説の如き甚深般若波羅蜜多に住する諸の菩薩を守護せんと欲せば虚空を守護せんと欲すと爲すに異ること無し。憍尸迦、若し般若波羅蜜多を修行する諸の菩薩を守護せんと欲する者は唐設劬勞すとも都て益する所無けん。憍尸迦、意に於て云何、能く幻夢響像陽焰光影及び變化事尋香城を守護すること有りや不やと。天帝釋言はく、不なり大德と。善現言は

【七】一苾芻畢竟空相を聞きて驚喜讃歎す。

【八】施設、方便假立して現實せしむるを云ふ。

【九】般若行者の學法守護を說く。

【一〇】善現は般若の無相にして護られず、不護の護たるを示し又無量德ありて恩を待たざるを明す。

薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

[五]爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の菩薩摩訶薩能く是の如き大功德の鎧を擐なば我等有情皆應に敬禮すべし。世尊、若し菩薩摩訶薩、諸の有情の爲に功德の鎧を擐勤め精進する者は虛空の爲に功德の鎧を擐て勤精進を發すが如し。世尊、若し菩薩摩訶薩、[六]有情を成熟解脫せしめんと欲するが爲に功德の鎧を擐て勤め精進する者は虛空の解脫を成熟せんが爲に功德の鎧を擐て勤精進を發すが如し。世尊、若し菩薩摩訶薩、一切法の爲に大功德の鎧を擐て勤め精進する者は虛空の爲に大功德の鎧を擐て勤精進を發すが如し。世尊、若し菩薩摩訶薩、有情を拔いて生死より出でしめんが爲に功德の鎧を擐て勤め精進する者は虛空を擧げて高勝處に置かんが爲に大功德の鎧を擐て勤精進を發すが如し。世尊、菩薩摩訶薩は大精進波羅蜜多を得て虛空の如き諸の有情類の爲に速に生死を脫して無上正等菩提を發趣す。世尊、菩薩摩訶薩は不思議無等神力を得、虛空の如き諸の法性海の爲に大功德の鎧を擐て無上正等菩提を發趣す。世尊、菩薩摩訶薩は最極勇健にして虛空の如き諸佛の無上正等菩提の爲に功德の鎧を擐て勤精進を發す。世尊、菩薩摩訶薩の虛空の如き諸の有情類の爲に勤めて苦行を修し無上正等菩提を證せんと欲するは甚だ爲れ希有なり。何を以ての故に、世尊、假使ひ三千大千世界の中に滿てる如來應正等覺、竹麻葦甘蔗等の林の如くならんに若しは一劫を經或は一劫の餘、諸の有情の爲に常に正法を說き、各無量無邊の有情を度し涅槃究竟の安樂に入らしむるも而かも有情界は不增不減なり。所以は何ん、諸の有情は皆所有の性無く遠離せるを以ての故なり。世尊、假使ひ十方各殑伽沙數の如き世界の中に滿てる如來應正等覺、竹麻葦甘蔗等の林の如くならんに若しは一劫を經或は一劫の餘、諸の有情の爲に常に正法を說き、各無量無邊の有情を度し涅槃究竟の安樂に入らしむるも而かも有情界は不增不減なり。所以は何ん、諸の有情は皆所有の性無く遠離せるを以ての故なり。世尊、是の因緣に由りて我れ是の說を作す。菩薩摩訶

【五】菩薩弘誓の鎧を擐て能く難事を爲す故にこれを禮拜せんとするなり。

【六】有情を成熟解脫せしむ。三乘涅槃を得しむるを云ふなり。

佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃(な)至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門、(d)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

〔二〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、甚だ奇なり世尊、是の如き般若波羅蜜多甚深の法性は若しは説くも若しは説かざるも倶に不増不減なりと。佛言はく、是の如し是の如し、汝が所説の如し。是の如き般若波羅蜜多甚深の法性は若しは説くも若しは説かざるも倶に増減無し。善現、假使(たと)ひ如來應正等覺、其の壽住を盡くすまで〔三〕虚空を讃毀するも而かも彼の虚空は増無く減無し。是の如き般若波羅蜜多甚深の法性も亦復た是の如し。若しは讃じ若しは毀(そし)るも不増不減なり。善現、譬へば〔四〕幻士毀讃の時に於て不減不増にして憂ひ無く喜び無きが如く是の如き般若波羅蜜多甚深の法性も亦復た是の如し。若し説くも説かざるも本の如くにして異ること無しと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多を修行するは甚だ爲れ難事なり。謂ゆる此の般若波羅蜜多は若しは修するも修せざるも増無く減無く亦た向背無く、而かも勤めて是の如き般若波羅蜜多を修學し乃ち無上正等菩提に至るまで曾て退轉無きなり。何を以ての故に、世尊、諸の菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多を修行するは虚空を修するが如く都て所有無ければなり。(e)世尊、虚空中色の施設す可き無く受想行識の施設す可き無きが如く、修する所の般若波羅蜜多も亦復た是の如し。(e)眼處乃(ろ)至意處。(e)色處乃(は)至法處。(e)眼界乃(に)至諸受。(e)耳界乃(ほ)至諸受。(e)鼻界乃(へ)至諸受。(e)舌界乃(と)至諸受。(e)身界乃(ち)至諸受。(e)意界乃(り)至諸受。(e)地界乃(ぬ)至識界。(e)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(e)内空乃(わ)至無性自性空。(e)眞如乃(か)至不思議界。(e)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(e)四靜慮乃(た)至四無色定。(e)八解脱乃(れ)至十遍處。(e)四念住乃(そ)至八聖道支。(e)空解脱門乃(つ)至無願解脱門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃(な)至一切相智。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶

【二】般若甚深の法性は説不説によつて増減なきを明す。

【三】虚空。諸法實相の般若を喩へしものなり。

【四】幻士。幻術者、見空人。般若の行者を喩へしものなり。

(e)「世尊如虚空中無色可施設無受想行識可施設所修般若波羅蜜多亦復如是」右も(d)の場合に準じ以下略出す。

若波羅蜜多を學して諸の染著を離れ速に究竟を得せしめたまふと。

復た次に(c)善現、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、若し(三)色の著不著相を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識の著不著相を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。(c)眼處乃(ろ)至意處。(c)色處乃(は)至法處。(c)眼界乃(に)至諸受。(c)耳界乃(ほ)至諸受。(c)鼻界乃(へ)至諸受。(c)舌界乃(と)至諸受、(c)身界乃(ち)至諸受。(c)意界乃(り)至諸受。(c)地界乃(ぬ)至識界。(c)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多(を)乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃(わ)至無性自性空。(c)眞如乃(か)至不思議界。(c)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(c)四靜慮(た)乃至四無色定。(c)八解脫乃(れ)至十遍處。(c)四念住乃(そ)至八聖道支。(c)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(c)菩薩の十地。

卷の第二百九十一

初分著不著相品第三十六之五

(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃(ら)至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃(な)至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

(d)善現、菩薩摩訶薩、是の如く般若波羅蜜多を行ずる時色に於て著不著の(一)想を起さず受想行識に於て著不著の想を起さざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。(d)眼處乃(ろ)至意處。(d)色處乃(は)至法處。(d)眼界乃(に)至諸受。(d)耳界乃(ほ)至諸受。(d)鼻界乃(へ)至諸受。(d)舌界乃(と)至諸受。(d)身界乃(ち)至諸受。(d)意界乃(り)至諸受。(d)地界乃(ぬ)至識界。(d)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(d)內空乃(わ)至無性自性空。(d)眞如乃(か)至不思議界。(d)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(d)四靜慮乃(た)至四無色定。(d)八解脫乃(れ)至十遍處。(d)四念住乃(そ)至八聖道支。(d)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)

(c)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時……不行受想行識著不著相是行般若波羅蜜多」右も(b)の場合に準じ以下略出す。

【三】色の著不著等單に著相の斥くべきのみならず、色の著不著の分別をも離れ、これを行ぜざるが般若を行ずるなり。

(c) 前巻と同意。

(d)「善現菩薩摩訶薩如是行般若波羅蜜多時……是行般若波羅蜜多」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故之を符號(d)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【一】想、相に就て分別する心相。

卷の第二百九十

初分著不著相品第三十六之四

(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(b)善現、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、若し色の圓滿及び不圓滿を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。何を以ての故に、善現、若しは色の圓滿及び不圓滿は倶に色と名づけざればなり、亦た是の如く行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。若し受想行識の圓滿及び不圓滿を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。何を以ての故に、善現、若しは受想行識の圓滿及び不圓滿は倶に受想行識と名づけざればなり、亦た是の如く行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)内空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脱乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脱門乃至無願解脱門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、五神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

〔二〕爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、甚だ奇なり。如來應正等覺は善く大乘の諸の善男子善女人等の爲に種種の著不著相を宣說したまふと。佛言はく、善現、是の如し是の如し、汝が所說の如し。一切の如來應正等覺は善く大乘の諸の善男子善女人等の爲に種種の著不著相を宣說し、般

(a) 前卷と同意。

(b)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時……善現若受想行識圓滿及不圓滿倶不名受想行識亦不如是行是行般若波羅蜜多」右も(a)の場合に準じ以下略出す。

〔一〕 色の圓滿及び不圓滿は等。色の色たるは常若くは無常なるが爲に非ずして、圓滿不圓滿を離れたる實相なり。一切緣起して眼たり之に對して色たるのみ。

〔二〕 著不著相の說法を結歎す。

卷の第二百八十九

初分著不著相品第三十六之三

[一]具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、菩薩摩訶薩は應に云何が般若波羅蜜多を行ずべきやと。佛言はく、(a)善現、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、[二]若し色を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。色の若しは常若しは無常を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識の若しは常若しは無常を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。色の若しは樂若しは苦を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。受想行識の若しは樂若しは苦を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。色の若しは我若しは無我を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識の若しは我若しは無我を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。色の若しは淨若しは不淨を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり、受想行識の若しは淨若しは不淨を行ぜざる是れ般若波羅蜜多を行ずるなり。何を以ての故に、善現、色性すら尙ほ所有無し、況んや色の若しは常若しは無常若しは樂若しは苦若しは我若しは無我若しは淨若しは不淨有らんをや、受想行識性すら尙ほ所有無し、況んや受想行識の若しは常若しは無常若しは樂若しは苦若しは我若しは無我若しは淨若しは不淨有らんをや。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。

【一】善現作者なく所作なくば如何に般若を行じて得べきやを問ひ、佛これに答ふ。
(a)「善現菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時………況有受想行識若常若無常若樂若苦若我若無我若淨若不淨」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同文なる故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。
【二】若し色を行ぜざる等。色を分別し常不常などの差別を見るべからず、此妄見無きを般若を行ずるとす。

に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は思議す可からずと。佛言はく、是の如し、所以は何ん、是の如き般若波羅蜜多は心を以て知る可からざればなり。心相を離るるが故に。(f)是の如き般若波羅蜜多は色を以て知る可からず。色相を離るるが故に、受想行識を以て知る可からず受想行識を離るるが故に。(f)眼處乃(ろ)至意處。(f)色處乃(は)至法處。(f)眼界乃(に)至諸受。(f)耳界乃(ほ)至諸受。(f)鼻界乃(へ)至諸受。(f)舌界乃(と)至諸受。(f)身界乃(ち)至諸受。(f)意界乃(り)至諸受。(f)地界乃(ぬ)至識界。(f)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(f)内空乃(わ)至無性自性空。(f)眞如乃(か)至不思議界。(f)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(f)四靜慮乃(た)至四無色定。(f)八解脱乃(れ)至十遍處。(f)四念住乃(そ)至八聖道支。(f)空解脱門乃(つ)至無願解脱門。(f)菩薩の十地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃(な)至一切相智。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

〔一三〕爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は造作する所無きやと。佛言はく、是の如し、諸の作者得可からざるを以ての故に。(g)善現、色得可からざるが故に作者得可からず、受想行識得可からざるが故に作者得可からず。(g)眼處乃(ろ)至意處。(g)色處乃(は)至法處。(g)眼界乃(に)至諸受。(g)耳界乃(ほ)至諸受。(g)鼻界乃(へ)至諸受。(g)舌界乃(と)至諸受。(g)身界乃(ち)至諸受。(g)意界乃(り)至諸受。(g)地界乃(ぬ)至識界。(g)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(g)内空乃(わ)至無性自性空。(g)眞如乃(か)至不思議界。(g)四靜慮乃(た)至四無色空。(g)八解脱乃(れ)至十遍處。(g)四念住乃(そ)至八聖道支。(g)空解脱門乃(つ)至無願解脱門。(g)菩薩の十地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃(な)至一切相智。(g)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(g)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。善現、諸の作者及び色等の法得可からざるに由るが故に是の如き般若波羅蜜多は造作する所無しと。

(f)「如是般若波羅蜜多不可以色知離色相故不可以受想行識知離受想行識故」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(f)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【一三】善現般若の無作の作行を問ふに對して佛これを明す。

【一四】諸の作者等。一切法不可得にして知者なし、況んや作者有らんやと佛答へ給ふなり。次いで更に所作の得べきもののなきを云ふ。

(g)「善現色不可得故作者不可得受想行識不可得故作者不可得」右も(f)の場合に準じ以下略出す。

執著の相を說けり。善現、復た此に餘の微細の著者有り當に汝が爲に說くべし。汝應に諦に聽き極めて善く思惟せよと。善現白して言さく、唯然願はくは說きたまはんことを、我れ等樂聞せんと。佛言はく、善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、無上正等菩提に趣かんと欲して若し如來應正等覺に於て、[八]相を取りて憶念するは皆是れ執著なり。若し過去未來現在の一切の如來應正等覺の無著の功德に於て初發心より乃ち法住に至るまでの所有る善根相を取りて憶念し、既に憶念し已つて無上正等菩提に廻向する是の如き一切の取相憶念は皆執著と名づく。若し一切の如來弟子及び餘の有情の修する所の善法に於て相を取りて憶念し無上正等菩提に廻向する、是の如き一切も亦た執著と名づく。所以は何ん、一切の如來應正等覺の所有る無著の功德善根は相を取りて憶念すべからざるが故に。佛弟子及び餘の有情の所有る善法に於ては相を取りて憶念すべからざるが故に。諸の取相は皆虛妄なるが故にと。

[九]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は最も爲れ甚深なりと。佛言はく、是の如し[一〇]一切法の本性離るるを以ての故にと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は皆應に禮敬すべしと。佛言はく、是の如し功德多きが故に。然も此の般若波羅蜜多は無造無作にして能く覺る者無しと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、一切の法性は皆覺る可きこと難しと。佛言はく、是の如し一切法は一性にして二に非ざるを以て、善現當に知るべし、諸法は[一一]一性にして卽ち是れ無性なり、諸法は無性にして卽ち是れ一性なり。是の如く諸法は一性にして無性無造無作なり。若し菩薩摩訶薩能く實の如く諸の所有る法の一性にして無性無造無作なるを知らば則ち能く一切の執著を遠離すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、是の如き般若波羅蜜多は覺了すべきこと難しと。佛言はく、[一二]是の如し、此の般若波羅蜜多を能く見る者無く能く聞く者無く能く覺る者無く能く知る者無し。諸相を離るるに由るが故にと。具壽善現復た佛

【八】相を取りて等、初發心から十地究竟の因行圓滿の功德又は妙色莊嚴を考ふる等を云ふ。

【九】善現の言は讃歎なるも佛更に意を明にせん爲に甚深の義を答ふ。

【一〇】一切法…離る等。一切の相を離るるを云ふ。

【一一】一性。畢竟空なり。無性なり。

【一二】是の如し等。善現が難解なるのみならず、一切知見するものなしと云ふなり。

別すべからず。若し內空を行ずる時は我れ能く內空に住すと分別する能はず、若し外空乃至(わ)無性自性空を行ずる時は我れ能く外空乃至無性自性空に住すと分別すべからず。若し眞如を行ずる時は我れ能く眞如に住すと分別すべからず。若し法界乃至(か)不思議界に住する時は我れ能く法界乃至不思議界に住すと分別すべからず。若し苦聖諦を行ずる時は我れ能く苦聖諦に住すと分別すべからず。若し集滅道聖諦を行ずる時は我れ能く集滅道聖諦に住すと分別すべからず。(e)若し四靜慮を行ずる時は我れ能く四靜慮を修すと分別すべからず。若し四無量四無色定を行ずる時我れ能く四無量四無色定を修すと分別すべからず。(e)八解脫乃至(れ)十遍處。(e)四念住乃至(そ)八聖道支。(e)空解脫門乃至(つ)無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至(ね)十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至(な)一切相智。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。若し預流果[六]相似の法を行ずる時は我れ能く預流果相似の法を修すと分別すべからず。若し一來不還阿羅漢果相似の法を行ずる時は我れ能く一來不還阿羅漢果相似の法を修すと分別すべからず。若し獨覺菩提相似の法を行ずる時は我れ能く獨覺菩提相似の法を修すと分別すべからず。若し一切の菩薩摩訶薩行を行ずる時は我れ能く一切の菩薩摩訶薩行を修すと分別すべからず。若し諸佛の無上正等菩提を行ずる時は我れ能く諸佛の無上正等菩提を修すと分別すべからずと。

憍尸迦、諸の菩薩摩訶薩、無上正等菩提に於て應に是の如く他の有情類を示現敎導勸勵讃喜すべし。若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提に於て能く是の如く他の有情を示現敎導勸勵讃喜せば自らに於て損する無く亦た他を損せず。諸の如來の許可すべき所の如く諸の有情を示現敎導勸勵讃喜するが故に。憍尸迦、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し能く是の如く菩薩乘に趣く諸の有情類を示現敎導勸勵讃喜せば便ち能く一切想の著を遠離すと。

[七]爾の時世尊、具壽善現を讃めて言はく、善哉善哉、汝が所說の如し。汝今善能く諸の菩薩の爲に

(e)「若行四靜慮時不應分別我能修四靜慮若行四無量四無色定時不應分別我能修四無量四無色定」右の文中「四靜慮乃至四無色定」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同文なる故之を符號(e)にて略し次下その諸法のみ略出す。

【六】預流果相似の法、世第一法を行じ、無漏聖諦を觀じて入信見道するを云ふ。

【七】佛善現を讃歎し更に餘の微細の著相を說く。

預流果乃至阿羅漢果、(c)獨覺菩提、(c)一切の菩薩摩訶薩行、(c)諸佛の無上正等菩提、諸の菩薩摩訶薩想を起して著し、諸の如來應正等覺想を起して著し、佛に於て種うる所の諸の善根想を起して著し、是の如く種うる所の善根を以て[三]和合して阿耨多羅三藐三菩提に廻向する想を起して著せば、憍尸迦、是れを菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、方便善巧無く有所得を方便と爲して般若波羅蜜多を修行する時の所有の著相と名づく。

憍尸迦、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等は著想に由るが故に無著の般若波羅蜜多を修行し無上正等菩提に廻向する能はず。何を以ての故に、憍尸迦、(d)色の本性は能く[四]廻向す可きに非ず、受想行識の本性は能く廻向す可きに非ざるが故に。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

復た次に憍尸迦、若し菩薩摩訶薩、無上正等菩提に於て他の有情を示現敎導勸勵讃喜せんと欲せば應に[五]實相の如き意を以て示現敎導勸勵讃喜すべし。復た應に是の如く示現敎導勸勵讃喜すべし、謂ゆる布施波羅蜜多を行ずる時我れ能く惠捨すと分別すべからず。若し淨戒波羅蜜多を行ずる時は我れ能く戒を護ると分別すべからず。若し安忍波羅蜜多を行ずる時は我れ能く忍を修すと分別すべからず。若し精進波羅蜜多を行ずる時は我れ能く精進すと分別すべからず。若し靜慮波羅蜜多を行ずる時は我れ能く入定すと分別すべからず。若し般若波羅蜜多を行ずる時は我れ能く慧を習ふと分

【三】和合。在世滅後自他凡聖の一切の善根を合集するを云ふ。

(d)「非色本性可能廻向非受想行識本性可能廻向故」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故之を符號(d)にて略し以下はその諸法のみ略出す。

【四】廻向すべきに非ず。本性決定する有所得に住すれば廻向行はれざるを云ふ。

【五】實相の如き。憶想分別を離れ緣起するそのまゝを云ふ。

復た次に舍利子、[一]菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時無所得を以て方便と爲して是の念を作さざらん、我れ能く施惠を行ず、彼れは受者、此れは施す所の物及び惠施の性なりと。是の念を作さず、我れ能く戒を護る、此れは護る所の戒なりと。是の念を作さず、我れ能く忍を修す、此れは修する所の忍なりと。是の念を作さず、我れ能く精進す、此れ精進する所なりと。是の念を作さず、我れ能く入定す、此れは入る所の定なりと。是の念を作さず、我れ能く慧を修す、此れは修する所の慧なりと。是の念を作さず、我れ能く福を植う、此れは植うる所の福及び所得の果なりと。是の念を作さず、我れ能く菩薩の正性離生に入ると。是の念を作さず、我れ能く有情を成熟すと。是の念を作さず、我れ能く佛土を嚴淨すと。是の念を作さず、我れ能く一切智智を證得すと。是の念を作さず、我れ能く空に住し法の實性を證すと。是の念を作さず、我れ能く諸の菩薩行を修習すと。是の念を作さず、我れ能く具さに諸佛の功德を證すと。舍利子、若し菩薩摩訶薩、方便善巧有りて無所得を以て方便と爲し般若波羅蜜多を行ずる時は是の如き等の一切の分別妄想執著無し。善く內空乃至無性自性空に通達するに由るが故に。舍利子、是れを菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時方便善巧有りて無所得を方便と爲し執著の相無しと名づくと。

[二]爾の時天帝釋、具壽善現に問ふて言はく、大德、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、般若波羅蜜多を修行する時、云何が相に著するやと。善現答へて言はく、憍尸迦、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、般若波羅蜜多を修行する時、方便善巧無く有所得を方便と爲し心想を起して著し、(c)布施波羅蜜多想を起して著し淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多想を起して著し、(c)內空乃至無性自性空、(c)眞如乃至不思議界、(c)苦聖諦乃至道聖諦、(c)四靜慮乃至四無色定、(c)八解脫乃至十遍處、(c)四念住乃至八聖道支、(c)空解脫門乃至無願解脫門、(c)菩薩の十地、(c)五眼、六神通、(c)佛の十力乃至十八佛不共法、(c)無忘失法、恒住捨性、(c)一切智乃至一切相智、(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)

【一】我れ能く施惠を行ず等。布施波羅蜜多に於て施者受者施相を念ずるは有所得の故に般若方便に非ざるなり、持戒安忍等も亦同樣なり。

【二】善現天帝釋の問に對して著相を明して無著の眞般若波羅蜜多を說く。

(c)「起布施波羅蜜多想著起淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多想著」右を符號(c)にて略す但し「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に略出する諸法を挿入せば他は皆同文なり。

卷の第二百八十八

初分著不著相品第三十六之二

復た次に舍利子、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し有所得を以て方便と爲し初發心より(a)布施波羅蜜多に於て行想を起して著し、淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多に於て行想を起して著せん(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。舍利子菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時、若し方便善巧無くして有所得を以て方便と爲し、是の如き等の種種の想を起して著するを名づけて著相と爲す。復た次に舍利子、先きに問ふて言ふ所の、云何が菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時著せざる相なるやとは、舍利子、菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を行ずる時方便善巧有りて(b)色に於て空不空の想を起さず、受想行識に於ても亦た空不空の想を起さず、(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。(b)過去法、未來現在法。

(a)「若」の一字を「於布施波羅蜜多起行想著於淨戒安忍精進靜慮般若波羅蜜多起行想著」に加へ右の文中「布施乃至般若波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(b)「於色不起空不空想於受想行識亦不起空不空想」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(b)にて略し以下諸法のみ略出す。

便善巧無くして般若波羅蜜多を行ずる時は色に於て空なりと謂ひ空想を起して著し、受想行識に於て空なりと謂ひ空想を起して著し、耳鼻舌身意處に於て空なりと謂ひ空想を起して著し、(k)若しは眼處に於て空なりと謂ひ空想を起して著し、(k)色處乃(ほ)至法處、(k)眼界乃(に)至諸受、(k)耳界乃(ほ)至諸受、(k)鼻界乃(へ)至諸受、(k)舌界乃(と)至諸受、(k)身界乃(ち)至諸受、(k)意界乃(り)至諸受、(k)地界乃(ぬ)至識界、(k)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱、(k)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多、(k)內空乃(わ)至無性自性空、(k)眞如乃(か)至不思議界、(k)苦聖諦乃(る)至道聖諦、(k)四靜慮乃(た)至四無色定、(k)八解脫乃(れ)至十遍處、(k)四念住乃(そ)至八聖道支。(k)空解脫門乃(つ)至無願解脫門、(k)菩薩の十地、(k)五眼、六神通、(k)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法、(k)無忘失法、恒住捨性、(k)一切智乃(な)至一切相智、(k)一切陀羅尼門、一切三摩地門、(k)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(k)獨覺菩提、(k)一切の菩薩摩訶薩行、(k)諸佛の無上正等菩提、(k)過去法、未來現在法。

復た次に舍利子、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し方便善巧無くして般若波羅蜜多を行ずる時は色に於て色なりと謂ひ色想を起して著し、受想行識に於て受想行識なりと謂ひ受想行識想を起して著し、(l)若しは眼處に於て眼處なりと謂ひ眼處想を起して著し、耳鼻舌身意處に於て耳鼻舌身意處なりと謂ひ耳鼻舌身意處想を起して著し、(l)色處乃(ほ)至法處。(l)眼界乃(に)至諸受。(l)耳界乃(ほ)至諸受。(l)鼻界乃(へ)至諸受。(l)舌界乃(と)至諸受。(l)身界乃(ち)至諸受。(l)意界乃(り)至諸受。(l)地界乃(ぬ)至識界。(l)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(l)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(l)內空乃(わ)至無性自性空。(l)眞如乃(か)至不思議界。(l)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(l)四靜慮乃(た)至四無色定。(l)八解脫乃(れ)至十遍處。(l)四念住乃(そ)至八聖道支。(l)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(l)菩薩の十地。(l)五眼、六神通。(l)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(l)無忘失法、恒住捨恠。(l)一切智乃(な)至一切相智。(l)一初陀羅尼門、一切三摩地門。(l)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(l)獨覺菩提。(l)一切の菩薩摩訶薩行。(l)諸佛の無上正等菩提。(l)過去法、未來現在法。

(k)「若於眼處謂空起空想著於耳鼻舌身意處謂空起空想著」右の文中「眼處乃至意處」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(k)にて略し以下その諸法のみ略出す。

(l)「若於眼處謂眼處起眼處想著於耳鼻舌身意處謂耳鼻舌身意處起耳鼻舌身意處想著」右も(k)の場合に準じ以下略出す。

初分著不著相品第三十六之一

[一]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、世尊、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し[二]方便善巧無くして此の般若波羅蜜多に於て般若波羅蜜多の想を起さば有所得を以て方便と爲すが故に甚深般若波羅蜜多を棄捨遠離するやと。佛言はく、善現、善哉善哉、是の如し是の如し、汝が所説の如し。彼の善男子善女人等は、此の般若波羅蜜多に於て[三]名に著し相に著す。是の故に此れに於て棄捨遠離すと。具壽善現復た佛に白して言さく、世尊、云何が彼の善男子善女人等は此の般若波羅蜜多に於て名に著し相に著するやと。佛言はく、善現、彼の善男子善女人等は此の般若波羅蜜多に於て名を取り相を取る。名相を取り已つて般若波羅蜜多に耽著して實相般若を證得すること能はず。是の故に彼の類は甚深般若波羅蜜多を棄捨遠離するなり。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等若し方便善巧無くして此の般若波羅蜜多に於て名を取り相を取り、名相を取り已つて此の般若波羅蜜多を恃みて憍慢を生ぜば實相般若を證得すること能はず。斯れに由りて彼の類は甚深般若波羅蜜多を棄捨遠離す。

復た次に善現、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し方便善巧有りて無所得を以て方便と爲し此の般若波羅蜜多に於て名相を取らず、耽著を起さず、憍慢を生ぜずんば便ち能く實相般若を證得するなり。當に知るべし此の類を般若波羅蜜多を棄捨遠離せずと名づくと。具壽善現即ち佛に白して言さく、甚だ奇なり世尊、善く菩薩摩訶薩衆の爲に此の般若波羅蜜多に於て著不著の相を開示し分別したまふと。

[四]爾の時具壽舍利子、具壽善現に問ふて言はく、菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多を行ずる時云何が著及び不著の相と爲すやと。善現答へて言はく、舍利子、菩薩乘に住する諸の善男子善女人等、若し方

【一】世尊善現の問に對して菩薩摩訶薩衆の爲に般若に於て著不著の相を開示し分別し給ふ。

【二】方便善巧無く等。進趣する過程とする假設の扱方と見ざるもの。

【三】名に著し等。名は知識せられる概念、相は概念の性質相狀記號。この名相の假設を實在とするを著しと云ふ。

【四】善現舍利子の問に對して菩薩摩訶薩般若を行ずる時の著不著の相を說く。

薩摩訶薩能く是の如く覺知せば是れは爲れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多にして卽ち畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、畢竟空無際空を以ての故に[五]道相智を成ずればなりと。世尊、若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修行するに此岸に住せず彼岸に住せず中流に住せずんば是れを菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多と爲すやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊、何に緣りて若し菩薩摩訶薩、般若波羅蜜多を修行するに此岸に住せず彼岸に住せず中流に住せずんば是れは爲れ菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多にして卽ち畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、三世の法性平等なるを以ての故に道相智を成ずればなりと。

【五】道相智。法眼を以て度生の爲に差別するを云ふ、今著心を破せんが爲に畢竟空を說く故に、畢竟空卽ち道相智なりとす。

諸佛の無上正等菩提。

世尊、[一]我清淨なるが故に一切智智淸淨なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊何に緣りて我淸淨なるが故に一切智智淸淨是れ畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、我無相無得無念無知なるが故に一切智智無相無得無念無知是れ畢竟淨なりと。世尊、[二]無二淸淨は無得無觀なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊、何に緣りて無二淸淨は無得無觀是れ畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、染淨無きが故に是れ畢竟淨なりと。

爾の時具壽善現復た佛に白して言さく、(j)世尊、我無邊なるが故に色無邊なるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊、何に緣りて我無邊なるが故に色無邊是れ畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、[三]畢竟空無際空なるを以ての故に是れ畢竟淨なりと。世尊、我無邊なるが故に受想行識無邊なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊、何に緣りて我無邊なるが故に受想行識無邊是れ畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、畢竟空無際空を以ての故に是れ畢竟淨なりと。(j)眼處乃(ろ)至意處。(l)色處乃(は)至法處。(j)眼界乃(に)至諸受。(j)耳界乃(ほ)至諸受。(j)鼻界乃(へ)至諸受。(j)舌界乃(と)至諸受。(j)身界乃(ち)至諸受。(j)意界乃(り)至諸受。(j)地界乃(ぬ)至識界。(j)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(j)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(j)內空乃(わ)至無性自性空。(j)眞如乃(か)至不思議界。(j)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(j)四靜慮乃(た)至四無色定。(j)八解脫乃(れ)至十遍處。(j)四念住乃(そ)至八聖道支。(j)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(j)菩薩の十地。(j)五眼、六神通。(j)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(j)無忘失法、恒住捨性。(j)一切智乃(な)至一切相智。(j)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(j)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(j)獨覺菩提。(j)一切の菩薩摩訶薩行。(j)諸佛の無上正等菩提。

爾の時善現復た佛に白して言さく、世尊、若し菩薩摩訶薩能く[四]是の如く覺知せば是れを菩薩摩訶薩の般若波羅蜜多と爲すやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊、何に緣りて若し菩

【一】我淸淨なるが故に一切智智淸淨なり。我無相無得無念無知なるが故に一切智智無相無得無念無知是れ畢竟淨なりと云ふなり。

【二】無二淸淨は等。無垢無淨なるが故に畢竟淨なりと云ふなり。

(j)「世尊我無邊故色無邊……世尊何緣而說我無邊故受想行識無邊是畢竟淨善現以畢竟空無際空故是畢竟淨」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(j)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【三】畢竟空無際空。畢竟空とは畢竟淨に同じ、我無邊と說くを以て衆生無際なり、無際なるが故に又長遠の厭ふべきも執すべきもなし、悠久に卽して悠久を離るゝを無際空とす。

【四】是の如く覺知せば等。畢竟空と知る故に無知なり。無知卽ち般若波羅蜜多たることを間答す。

益無損なりやと。佛言はく、舍利子、法界常住なるが故に般若波羅蜜多は一切智智に於て無益無損なりと。時に舍利子、復た佛に白して言さく、世尊、清淨の般若波羅蜜多は一切法に於て[九]執受する所無きやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が清淨の般若波羅蜜多は一切法に於て執受する所無きやと。佛言はく、舍利子。法界不動なるが故に清淨の般若波羅蜜多は一切法に於て執受する所無しと。

[一〇]爾の時具壽善現、佛に白して言さく、(i)世尊、[一一]我清淨なるが故に色清淨なるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊、何に緣りて我清淨なるが故に色清淨是れ畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、我無所有なるが故に色無所有是れ畢竟淨なりと。世尊・我清淨なるが故に受想行識清淨なるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。世尊、何に緣りて我清淨なるが故に受想行識清淨是れ畢竟淨なりと說きたまふやと。善現、我無所有なるが故に受想行識無所有是れ畢竟淨なりと。

(i)眼處乃至意處。(i)色處乃至法處。(i)眼界乃至諸受。(i)耳界乃至諸受。(i)鼻界乃至諸受。(i)舌界乃至諸受。(i)身界乃至諸受。(i)意界乃至諸受。(i)地界乃至識界。(i)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(i)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(i)內空乃至無性自性空。(i)眞如乃至不思議界。(i)苦聖諦乃至道聖諦。(i)四靜慮乃至四無色定。(i)八解脫乃至十遍處。(i)四念住乃至八聖道支。(i)空解脫門乃至無願解脫門。(i)菩薩の十地。

卷の第二百八十七

初分讚清淨品第三十五之三

(i)五眼、六神通。(i)佛の十力乃至十八佛不共法。(i)無忘失法、恒住捨性。(i)一切智乃至一切相智。(i)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(i)預流果乃至阿羅漢果。(i)獨覺菩提。(i)一切の菩薩摩訶薩行。(i)

【九】執受する所無し。諸觀戲論を滅し言語道斷ずるが故に執受なきなり。

【一〇】善現清淨相を說き佛之を證し給ふ。

(i)「世尊我清淨故色清淨……善現我無所有故受想行識無所有是畢竟淨」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(i)にて略し以下その諸法のみ略出す但し「預流果乃至諸佛無上正等菩提」までは「無所有」の代りに「自相空」の語を以てす。

【一一】我清淨等。本來無所有に於て我有りと取るが爲に色有り、我無所有なれば色も無所有なり、故に畢竟清淨と云ふなり。

(i)前卷と同意。

に生ぜざるやと。佛言はく、色界の自性不可得なるが故に是の如き清淨は色界に生ぜずと。舍利子言さく、是の如き清淨は[四]無色界に生ぜざるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が是の如き清淨は無色界に生ぜざるやと。佛言はく、無色界の自性不可得なるが故に是の如き清淨は無色界に生ぜずと。時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き清淨は本性[五]無知なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が是の如き清淨は本性無知なりやと。佛言はく、[六]一切法の本性鈍なるを以ての故に是の如き清淨は本性無知なりと。(h)舍利子言さく、色性の無知は即ち是れ清淨なるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が色性の無知は即ち是れ清淨なるやと。佛言はく、自相空なるが故に色性の無知は即ち是れ清淨なりと。舍利子言さく、受想行識性の無知は即ち是れ清淨なるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が受想行識性の無知は即ち是れ清淨なるやと。佛言はく、自相空なるが故に受想行識性の無知は即ち是れ清淨なりと。(h)眼處乃至意處。(h)色處乃至法處。(h)眼界乃至諸受。(h)耳界乃至諸受。(h)鼻界乃至諸受。(h)舌界乃至諸受。(h)身界乃至諸受。(h)意界乃至諸受。(h)地界乃至識界。(h)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(h)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(h)內空乃至無性自性空。(h)眞如乃至不思議界。(h)苦聖諦乃至道聖諦。(h)四靜慮乃至四無色定。(h)八解脫乃至十遍處。(h)四念住乃至八聖道支。(h)空解脫門乃至無願解脫門。(h)菩薩の十地。(h)五眼、六神通。(h)佛の十力乃至十八佛不共法。(h)無忘失法、恒住捨性。(h)一切智乃至一切相智。(h)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(h)預流果乃至阿羅漢果。(h)獨覺菩提。(h)一切の菩薩摩訶薩行。(h)諸佛の無上正等菩提。

　時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、般若波羅蜜多は[七]一切智智に於て[八]無益無損なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が般若波羅蜜多は一切智智に於て無

【四】無色界に生ずるは無色有を愛執するによる。無色の自性なくば無色界生なし三界生なきが故に滅なく、生滅流轉なきが故に解脫亦無し。

【五】無知。無差別の空に於て差別の知あることなきを云ふ。

【六】一切法の本性鈍なるを以ての故に。法の分別を離るゝを云ふ。三界凡夫の分別に於て利鈍あり、六識を利とし六境を鈍とす、色等の法は鈍、慧は利なり、布施乃至佛は鈍にて般若は利なり、法實に聞見なきも利人に對して云ふのみなり。

(h)「舍利子言色性無知即是清淨……佛言自相空故受想行識性無知即是淸淨」右の文中「色乃至識」の所に以下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(h)にて略し以下その諸法のみを略出す。

【七】一切智智。佛自證の智を云ふ。

【八】無益無損。前來の問答に於て罪福を云ふも般若の損益增減貪著すべきものなきを云ふ。

不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)預流果乃至阿羅漢果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き清淨は[九]無生無顯なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、何の法畢竟淨なるが故に是の清淨無生無顯なりと說きたまふやと。佛言はく、(g)舍利子、色畢竟淨なるが故に是の清淨無生無顯なりと說き、受想行識畢竟清淨なるが故に是の清淨無生無顯なりと說く。(g)眼處乃至意處。(g)色處乃至法處。(g)眼界乃至諸受。(g)耳界乃至諸受。(g)鼻界乃至諸受。(g)舌界乃至諸受。(g)身界乃至諸受。(g)意界乃至諸受。(g)地界乃至識界。(g)無明乃至老死愁歎苦憂惱。

卷の第二百八十六

初分讚清淨品第三十五之二

(g)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(g)內空乃至無性自性空。(g)眞如乃至不思議界。(g)苦聖諦乃至道聖諦。(g)四靜慮乃至四無色定。(g)八解脫乃至十遍處。(g)四念住乃至八聖道支。(g)空解脫門乃至無願解脫門。(g)菩薩の十地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃至十八佛不共法。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃至一切相智。(g)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(g)預流果乃至阿羅漢果。(g)獨覺菩提。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。

[一]時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き清淨は[二]欲界に生ぜざるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が是の如き清淨は欲界に生ぜざるやと。佛言はく、欲界の自性不可得の故に是の如き清淨は欲界に生ぜずと。舍利子言さく、是の如き清淨は[三]色界に生ぜざるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、云何が是の如き清淨は色界

【九】無生無顯。涅槃の眞理の生滅なきを無生といひ、無顯とは無差別の空には顯不顯無きを云ふ。

(g)「舍利子色畢竟淨故說是清淨無生無顯受想行識畢竟淨故說是清淨無生無顯」右も(f)の場合に準じ以下略出す。

(g) 前卷と同意。

【一】三界自性不可得の故に不生なるを明す。

【二】欲界に生ずるは物の差別を執する(欲有愛)に由る。かゝる差別自性を認めずば欲界生なし。

【三】色界に生ずるは心の知情意を別執する(色有愛)による。かゝる色有の自性を認めず、色界生なし。

(d)無忘失法、恒住捨性。(d)一切智乃至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果乃至阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き清淨は本性光潔なるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、何の法畢竟淨なるが故に是の清淨は本性光潔なりと說きたまふやと。佛言はく、(e)舍利子、色畢竟淨なるが故に是の清淨は本性光潔なりと說き、受想行識畢竟淨なるが故に是の清淨は本性光潔なりと說く。(e)眼處乃至意處。(e)色處乃至法處。(e)眼界乃至諸受。(e)耳界乃至諸受。(e)鼻界乃至諸受。(e)舌界乃至諸受。(e)身界乃至諸受。(e)意界乃至諸受。(e)地界乃至識界。(e)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(e)內空乃至無性自性空。(e)眞如乃至不思議界。(e)苦聖諦乃至道聖諦。(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)預流界乃至阿羅漢果、(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き清淨は[八]無得無觀なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、何の法畢竟淨なるが故に是の清淨無得無觀なりと說きたまふやと。佛言はく(f)舍利子、色畢竟淨なるが故に是の清淨無得無觀なりと說き、受想行識畢竟淨なるが故に是の清淨無得無觀なりと說く。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至諸受。(f)耳界乃至諸受。(f)鼻界乃至諸受。(f)舌界乃至諸受。(f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)菩薩の十地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛

說是清淨本無雜染」右も(c)の場合に準じ以下略出す。

(e)「舍利子色畢竟淨故說是清淨本性光潔受想行識畢竟淨故說是清淨本性光潔」右も(d)の場合に準じ以下略出す。

【八】無得無觀。得とは見道得果、觀は妄惑を觀照すること。この得觀無きを云ふ。(f)「舍利子色畢竟淨故說是清淨無得無觀受想行識畢竟淨故說是清淨無得無觀」右も(e)の場合に準じ以下略出す。

乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き清淨は轉ぜず續かざるやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、何の法畢竟淨なるが故に[六]是の清淨轉ぜず續かずと說きたまふやと。佛言はく、(c)舍利子、色畢竟淨なるが故に是の清淨轉ぜず續かずと說き、受想行識畢竟淨なるが故に是の清淨轉ぜず續かずと說く。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)預流果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、[七]是の如き清淨本雜染無きやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、何の法畢竟淨なるが故に是の清淨本雜染無しと說きたまふやと。佛言はく、(d)舍利子、色畢竟淨なるが故に是の清淨本雜染無しと說き、受想行識畢竟淨なるが故に是の清淨本雜染無しと說く。(d)眼處乃至意處。(d)色處乃至法處。(d)眼界乃至諸受。(d)耳界乃至諸受。(d)鼻界乃至諸受。(d)舌界乃至諸受。(d)身界乃至諸受。(d)意界乃至諸受。(d)地界乃至識界。(d)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(d)內空乃至無性自性空。(d)眞如乃至不思議界。(d)苦聖諦乃至道聖諦。(d)四靜慮乃至四無色定。(d)八解脫乃至十遍處。(d)四念住乃至八聖道支。(d)空解脫門乃至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃至十八佛不共法。

【五】明了。戲論を破り智慧の光明を與へ清淨なるを云ふ。佛は淨明の所見舍利弗に過ぐるを示さんが爲に更に畢竟淨などと云ふなり。

(b)「舍利子般若波羅蜜多畢竟淨故說是清淨極爲明了靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多畢竟淨故說是清淨極爲明了」右の文中「般若乃至布施波羅蜜多」の所に次下に出す諸法を入るれば他は皆同じき故之を符號(b)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【六】是の清淨轉ぜず續かず。空等三昧を以て善法を捨て命盡き無餘涅槃を得しむると云ふ。又皆緣起し空なるが故に甲が乙に轉變するにもあらず、甲と乙と相續するにもあらざるを云ふ。

(c)「舍利子色畢竟淨故說是清淨不轉不續受想行識畢竟淨故說是清淨不轉不續」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他は皆同じき故之を符號(c)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【七】是の如き清淨本雜染無し。百八煩惱も遮覆汚染する能はざるを云ふ。善惡唯波瀾にして本性に差別せず。

(d)「舍利子色畢竟淨故說是清淨本無雜染受想行識畢竟淨故

卷の第二百八十五

初分讚清淨品第三十五之一

[一]爾の時具壽舍利子、佛に白して言さく、世尊、[二]是の如き清淨は最も爲れ甚深なりやと。佛言はく、是の如し[三]畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、何の法畢竟淨なるが故に是の清淨最も爲れ甚深なりと說きたまふやと。佛言はく、(a)舍利子、[四]色畢竟淨なるが故に是の清淨最も爲れ甚深なりと說き、受想行識畢竟淨なるが故に是の清淨最も爲れ甚深なりと說く。(a)眼處乃(ろ)至意處。(a)色處乃(は)至法處。(a)眼界乃(に)至諸受。(a)耳界乃(ほ)至諸受。(a)鼻界乃(へ)至諸受。(a)舌界乃(と)至諸受。(a)身界乃(ち)至諸受。(a)意界乃(り)至諸受。(a)地界乃(ぬ)至識界。(a)無明乃(る)至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃(を)至般若波羅蜜多。(a)内空乃(わ)至無性自性空。(a)眞如乃(か)至不思議界。(a)苦聖諦乃(よ)至道聖諦。(a)四靜慮乃(た)至四無色定。(a)八解脫乃(れ)至十遍處。(a)四念住乃(そ)至八聖道支。(a)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃(な)至一切相智。(a)一切陀羅尼門。一切三摩地門。(a)預流果乃(ら)至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

時に舍利子復た佛に白して言さく、世尊、是の如き清淨は極めて爲れ[五]明了なりやと。佛言はく、是の如し畢竟淨なるが故にと。舍利子言さく、何の法畢竟淨なるが故に是の清淨極めて爲れ明了なりと說きたまふやと。佛言はく、(b)舍利子、般若波羅蜜多畢竟淨なるが故に是の清淨極めて爲れ明了なりと說き、靜慮精進安忍淨戒布施波羅蜜多畢竟淨なるが故に是の清淨極めて爲れ明了なりと說く。(b)内空乃(わ)至無性自性空。(b)眞如乃(か)至不思議界。(b)四靜慮乃(た)至四無色定。(b)八解脫乃(れ)至十遍處。(b)四念住乃(そ)至八聖道支。(b)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力

【一】舍利弗佛と問答して諸法の甚深淨なるを明す。

【二】是の如き清淨。清淨に世間淨と實相淨とあり。世間淨に智淨と緣淨とあつて一切の心々所は緣より生じ智によつて緣を知るとす。實相淨は智と緣とを離れ諸法實相本來清淨とす。今此の實相を信ずれば福大、謗すれば罪大なり、故に讚じて是の如き清淨は最もこれ甚深と云ふなり。

【三】畢竟淨。一切法著する所なく、淨體、諸佛不著清淨なり、舍利弗の所見に過ぐるを示して畢竟清淨と說くなり。

(a)「舍利子色畢竟淨故說是清淨最爲甚深受想行識畢竟淨故說是清淨最爲甚深」右の文中「色乃至識」の所に次下に出す諸法を挿入せば他には皆同じき故之を符號(a)にて略し以下その諸法のみ略出す。

【四】色畢竟淨。色法の觀行斷じて本淨なるを云ふ。

(ろ) 以下關法第六卷なれども第五卷と同じき故符號も其儘茲に用ふ。

に過去未來清淨、過去未來清淨なるが故に現在清淨なり。何を以ての故に、若しは現在清淨若しは過去未來清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。

遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)諸佛の無上正等菩提。

二 復た次に(b)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に諸佛の無上正等菩提清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは諸佛の無上正等菩提清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に諸佛の無上正等菩提清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは諸佛の無上正等菩提清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支、(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。

三 復た次に善現、有爲清淨なるが故に無爲清淨、無爲清淨なるが故に有爲清淨なり。何を以ての故に、若しは有爲清淨若しは無爲清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。

四 復た次に善現、過去清淨なるが故に未來現在清淨、未來現在清淨なるが故に過去清淨なり。何を以ての故に、若しは過去清淨若しは未來現在清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。五 善現、未來清淨なるが故に過去現在清淨、過去現在清淨なるが故に未來清淨なり。何を以ての故に、若しは未來清淨若しは過去現在清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。六 善現、現在清淨なるが故

【二】一切智智清淨…諸佛の無上正等菩提清淨。(b)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若諸佛無上正等菩提清淨無二無二分無別無斷故」右も(a)の場合の如く以下略出す。

【三】有爲清淨…無爲清淨。

【四】過去清淨…未來現在清淨。

【五】未來清淨…過去現在清淨。

【六】現在清淨…過去未來清淨。

故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に獨覺菩提清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは獨覺菩提清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(g)眼處乃至(ろ)意處。(g)色處乃至(に)法處。(g)眼界乃至(に)諸受。(g)耳界乃至(ほ)諸受。(g)鼻界乃至(へ)諸受。(g)舌界乃至(と)諸受。(g)身界乃至(ち)諸受。(g)意界乃至(り)諸受。(g)地界乃至(ぬ)識界。(g)無明乃至(を)老死愁歎苦憂惱。(g)布施波羅蜜多乃至(よ)般若波羅蜜多。(g)内空乃至(わ)無性自性空。(g)眞如乃至(か)不思議界。(g)苦聖諦乃至(る)道聖諦。(g)四靜慮乃至(た)四無色定。(g)八解脱乃至(れ)十遍處。(g)四念住乃至(そ)八聖道支。(g)空解脱門乃至(つ)無願解脱門。(g)菩薩の十地。(g)五眼、六神通。(g)佛の十力乃至(ね)十八佛不共法。(g)無忘失法、恒住捨性。(g)一切智乃至(な)一切相智。(g)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(g)預流果乃至(ら)阿羅漢果。(g)一切の菩薩摩訶薩行。(g)諸佛の無上正等菩提。

卷の第二百八十四

初分難信解品第三十四之一百三

【一】復た次に(a)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切の菩薩摩訶薩行清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは一切の菩薩摩訶薩行清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切の菩薩摩訶薩行清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは一切の菩薩摩訶薩行清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(a)眼處乃至(ろ)意處。(a)色處乃至(に)法處。(a)眼界乃至(に)諸受。(a)耳界乃至(ほ)諸受。(a)鼻界乃至(へ)諸受。(a)舌界乃至(と)諸受。(a)身界乃至(ち)諸受。(a)意界乃至(り)諸受。(a)地界乃至(ぬ)識界。(a)無明乃至(を)老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至(よ)般若波羅蜜多。(a)内空乃至(わ)無性自性空。(a)眞如乃至(か)不思議界。(a)苦聖諦乃至(る)道聖諦。(a)四靜慮乃至(た)四無色定。(a)八解脱乃至(れ)十

【一】一切智智清淨…一切の菩薩摩訶薩行清淨。(a)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若一切菩薩摩訶薩行清淨無二無二分無別無斷故」右も前卷(g)の場合の如く以下略出す。

卷の第二百八十三

初分難信解品第三十四之一百二

(e)四靜慮乃至四無色定。(e)八解脫乃至十遍處。(e)四念住乃至八聖道支。(e)空解脫門乃至無願解脫門。(e)菩薩の十地。(e)五眼、六神通。(e)佛の十力乃至十八佛不共法。(e)無忘失法、恒住捨性。(e)一切智乃至一切相智。(e)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(e)預流果、一來果阿羅漢果。(e)獨覺菩提。(e)一切の菩薩摩訶薩行。(e)諸佛の無上正等菩提。

[一]復た次に(f)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に阿羅漢果清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは阿羅漢果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に阿羅漢果清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは阿羅漢果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(f)眼處乃至意處。(f)色處乃至法處。(f)眼界乃至諸受。(f)耳界乃至諸受。(f)鼻界乃至諸受。(f)舌界乃至諸受。(f)身界乃至諸受。(f)意界乃至諸受。(f)地界乃至識界。(f)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(f)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(f)內空乃至無性自性空。(f)眞如乃至不思議界。(f)苦聖諦乃至道聖諦。(f)四靜慮乃至四無色定。(f)八解脫乃至十遍處。(f)四念住乃至八聖道支。(f)空解脫門乃至無願解脫門。(f)菩薩の十地。(f)五眼、六神通。(f)佛の十力乃至十八佛不共法。(f)無忘失法、恒住捨性。(f)一切智乃至一切相智。(f)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(f)預流果乃至不還果。(f)獨覺菩提。(f)一切の菩薩摩訶薩行。(f)諸佛の無上正等菩提。

[二]復た次に(g)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に獨覺菩提清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは獨覺菩提清淨は二無く二分無く別無く斷無きが

(e)　前卷と同意。

【一】一切智智清淨…阿羅漢果清淨。(f)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若阿羅漢果清淨無二無二分無別無斷故」右も(e)の場合に準じて以下略出す。

【二】一切智智清淨…獨覺菩提清淨。(g)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若獨覺菩提清淨無二無二分無別無斷故」右も(f)の場合の如く以下略出す。

ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは一來果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一來果清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは預流果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(d)眼處乃(ろ)至意處。(d)色處乃(は)至法處。(d)眼界乃(に)至諸受。(d)耳界乃(ほ)至諸受。(d)鼻界乃(へ)至諸受。(d)舌界乃(と)至諸受。(d)身界乃(ち)至諸受。(v)意界乃(り)至諸受。(d)地界乃(ぬ)至識界。(d)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(d)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(d)內空乃(わ)至無性自性空。(d)眞如乃(か)至不思議界。(d)苦聖諦乃(る)至道聖諦。(d)四靜慮乃(た)至四無色定。(d)八解脫乃(れ)至十遍處。(d)四念住乃(そ)至八聖道支。(d)空解脫門乃(つ)至無願解脫門。(d)菩薩の十地。(d)五眼、六神通。(d)佛の十力乃(ね)至十八佛不共法。(d)無志失法、恒住捨性。(d)一切智乃(な)至一切相智。(d)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(d)預流果、不還果阿羅漢果。(d)獨覺菩提。(d)一切の菩薩摩訶薩行。(d)諸佛の無上正等菩提。

〔二〕復た次に(e)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に不還果清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは不還果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に不還果清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは不還果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(e)眼處乃(ろ)至意處。(e)色處乃(は)至法處。(e)眼界乃(に)至諸受。(e)耳界乃(ほ)至諸受。(e)鼻界乃(へ)至諸受。(e)舌界乃(と)至諸受。(e)身界乃(ち)至諸受。(e)意界乃(り)至諸受。(e)地界乃(ぬ)至識界。(e)無明乃(を)至老死愁歎苦憂惱。(e)布施波羅蜜多乃(よ)至般若波羅蜜多。(e)內空乃(わ)至無性自性空。(e)眞如乃(か)至不思議界。(e)苦聖諦乃(る)至道聖諦。

【二】一切智智清淨…不還果清淨。(e)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若不還果清淨無二無二分無別無斷故」右も(d)の場合に準じ以下略出す。

無明乃至諸受。(b)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(b)內空乃至無性自性空。(b)眞如乃至不思議界。(b)苦聖諦乃至道聖諦。(b)四靜慮乃至四無色定。(b)八解脫乃至十遍處。(b)四念住乃至八聖道支。(b)空解脫門乃至無願解脫門。(b)菩薩の十地。(b)五眼、六神通。(b)佛の十力乃至十八佛不共法。(b)無忘失法、恒住捨性。(b)一切智乃至一切相智。(b)一切陀羅尼門。(b)預流果乃至阿羅漢果。(b)獨覺菩提。(b)一切の菩薩摩訶薩行。(b)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(c)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に預流果清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは預流果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に預流果清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは預流果清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(c)眼處乃至意處。(c)色處乃至法處。(c)眼界乃至諸受。(c)耳界乃至諸受。

卷の第二百八十二

初分難信解品第三十四之一百一

(c)鼻界乃至諸受。(c)舌界乃至諸受。(c)身界乃至諸受。(c)意界乃至諸受。(c)地界乃至識界。(c)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(c)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(c)內空乃至無性自性空。(c)眞如乃至不思議界。(c)苦聖諦乃至道聖諦。(c)四靜慮乃至四無色定。(c)八解脫乃至十遍處。(c)四念住乃至八聖道支。(c)空解脫門乃至無願解脫門。(c)菩薩の十地。(c)五眼、六神通。(c)佛の十力乃至十八佛不共法。(c)無忘失法、恒住捨性。(c)一切智乃至一切相智。(c)一切陀羅尼門、一切三摩地門。(c)一來果乃至阿羅漢果。(c)獨覺菩提。(c)一切の菩薩摩訶薩行。(c)諸佛の無上正等菩提。

復た次に(d)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一來果清淨なり。何を以

【四】一切智智清淨…預流果清淨。(c)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若預流果清淨無二無二分無別無斷故」右も(b)の場合に準じ以下略出す。

(c) 前卷と同意。

【一】一切智智清淨…一來果清淨。(d)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若一來果清淨無二無二分無別無斷故」右も(c)の場合に準じ以下略出す。

大般若波羅蜜多經　巻の第二百八十一

初分難信解品第三十四之一百

[一]復た次に(a)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切陀羅尼門清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは一切陀羅尼門清淨は[二]二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切陀羅尼門清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは一切陀羅尼門清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(a)眼處乃至意處。(a)色處乃至法處。(a)眼界乃至諸受。(a)耳界乃至諸受。(a)鼻界乃至諸受。(a)舌界乃至諸受。(a)身界乃至諸受。(a)意界乃至諸受。(a)地界乃至識界。(a)無明乃至老死愁歎苦憂惱。(a)布施波羅蜜多乃至般若波羅蜜多。(a)內空乃至無性自性空。(a)眞如乃至不思議界。(a)苦聖諦乃至道聖諦。(a)四靜慮乃至四無色定。(a)八解脫乃至十遍處。(a)四念住乃至八聖道支。(a)空解脫門乃至無願解脫門。(a)菩薩の十地。(a)五眼、六神通。(a)佛の十力乃至十八佛不共法。(a)無忘失法、恒住捨性。(a)一切智乃至一切相智。(a)一切三摩地門。(a)預流果乃至阿羅漢果。(a)獨覺菩提。(a)一切の菩薩摩訶薩行。(a)諸佛の無上正等菩提。

[三]復た次に(a)善現、一切智智清淨なるが故に色清淨、色清淨なるが故に一切三摩地門清淨なり。何を以ての故に、若しは一切智智清淨若しは色清淨若しは一切三摩地門清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。一切智智清淨なるが故に受想行識清淨、受想行識清淨なるが故に一切三摩地門清淨なり。何を以ての故に若しは一切智智清淨若しは受想行識清淨若しは一切三摩地門清淨は二無く二分無く別無く斷無きが故なり。(b)眼處乃至意處。(b)色處乃至法處。(b)眼界乃至諸受。(b)耳界乃至諸受。(b)鼻界乃至諸受。(b)舌界乃至諸受。(b)身界乃至諸受。(b)意界乃至諸受。(b)地界乃至識界。(b)

【一】一切智智清淨…一切陀羅尼門清淨。(a)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若一切陀羅尼門清淨無二無二分無別無斷故」右も前卷(d)の場合の如く以下略出す。

【二】二無く二分無く等。第百八十二卷以下、この難信解品に述ぶる所、色は有無を超越し、繫縛と解脫とを離れ、淨不淨を越えて畢竟清淨なるを云ふ。

【三】一切智智清淨…一切三摩地門清淨。(b)「善現一切智智清淨故色清淨……若一切智智清淨若受想行識清淨若一切三摩地門清淨無二無二分無別無斷故」右も(a)の場合に準じて以下略出す。

目次

（本　丁）　（通頁）

般若部　三

椎尾辨匡譯

國譯一切經

大東出版社藏版